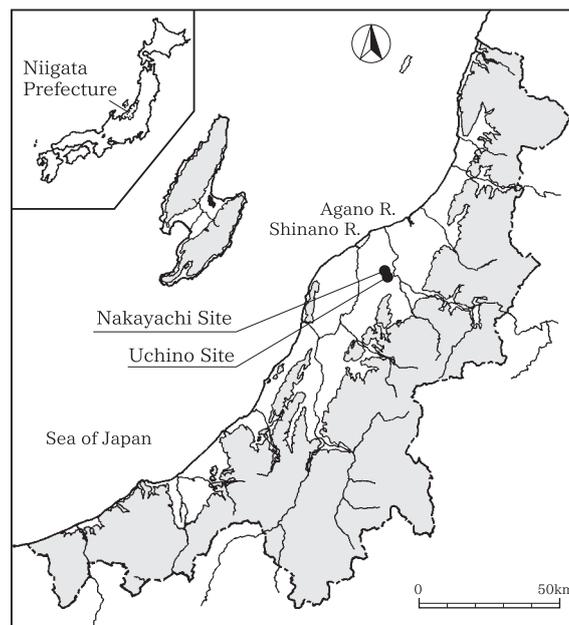


中谷内遺跡Ⅳ 第12・15・16次調査 内野遺跡Ⅱ 第8・9次調査

— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う
中谷内遺跡第3・5・6次、内野遺跡第3・4次発掘調査報告書 —



2015

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区大蔵字無頭 345 番地他に所在する中谷内遺跡（新潟市遺跡番号 200）と同秋葉区七日町字新久免 1310-2 番地他に所在する内野遺跡（新潟市遺跡番号 201）の発掘調査記録である。中谷内遺跡第 12 次調査は平成 21 年度に、第 15 次調査は平成 23 年度に、第 16 次調査（1～4 区）は平成 24 年度に実施した。内野遺跡第 8 次調査は平成 23 年度に、第 9 次調査は平成 24 年度に実施した。
- 2 中谷内遺跡については、旧新津市教育委員会及び新潟市教育委員会刊行の発掘調査報告書〔立木^{ほか}1999、渡邊^{ほか}2002、北村・菊池^{ほか}2004〕に続く 4 冊目の報告書であり、内野遺跡については旧新津市教育委員会刊行の発掘調査報告書〔立木・高野^{ほか}2002〕に続く 2 冊目の報告書であることから、書名を『中谷内遺跡Ⅳ 第 12・15・16 次調査 内野遺跡Ⅱ 第 8・9 次調査』とした。
- 3 調査は県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区造成に伴い、新潟県から新潟市が受託した。調査は新潟市教育委員会（以下、市教委という）が調査主体となり、新潟市文化・観光スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター（以下埋蔵文化財センターという）、平成 23 年 7 月より新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター、平成 26 年 4 月より新潟市文化スポーツ部文化財センター（以下、市文化財センターという）が補助執行した。
- 4 平成 21～24 年度に発掘調査と整理作業、平成 25～26 年度に整理作業、平成 27 年度に報告書を刊行した。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管・管理している。
- 6 本書の編集は遠藤恭雄（市文化財センター主任）・笹澤正史（株式会社吉田建設）が、遺構図版・遺物図版・遺構写真図版・遺物写真図版作成を笹澤・遠藤・澤野慶子（市文化財センター専門非常勤嘱託）が行った。執筆分担は以下の通りである。
第Ⅰ章、第Ⅲ章第 1 節を遠藤、第Ⅱ章、第Ⅲ章第 2 節～第 4 節、第Ⅳ章、第Ⅵ章、第Ⅶ章第 1 節 B・第 2 節を笹澤、第Ⅴ章を（株）火山灰考古学研究所、第Ⅶ章第 1 節 A を相澤央氏（帝京大学）、第Ⅶ章第 3 節を遠藤・笹澤が執筆した。
- 7 第Ⅱ章第 2 節については、『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（渡邊^{ほか}2002）及び『萱免遺跡 第 2 次調査』（立木^{ほか}2009）、『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第 18・19 次調査』（遠藤・澤野^{ほか}2014）から引用・加筆して掲載した。
- 8 本書で用いた遺跡写真は、平成 21 年度中谷内遺跡を遠藤、平成 23 年度中谷内遺跡・内野遺跡を遠藤・澤野、同平成 24 年度を遠藤・笹澤が撮影し、遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影を依頼した。ただし、写真図版 1 は（株）シン技術コンサルが撮影したものを使用した。
- 9 遺構図のトレースと各種図版作成及び本書の編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。
相澤 央・石垣義則・春日真実・細野高伯・新潟県教育庁文化行政課・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県新潟地域振興局新津農業振興部・新津郷土地改良区
（所属・敬称略、五十音順）

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 3 図版2は、「新津町東部耕地整理組合現景図」1940年頃（新津郷土地改良区所蔵）を縮小し、「新潟市発行地形図」2005年と重ね合わせたものである。
- 4 本文中の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 5 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別ごとに付さず、通し番号とした。
- 6 土層の土色および遺物の色調観察は『新版 標準土色帖』（小山・竹原1967）を用いた。
- 7 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。ススの付着等、トーンで範囲を示す必要がある場合については、その都度図版中に提示した。
- 8 土器実測図のうち、全周の1/12以下と遺存率の低いものは、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。
- 9 遺物の注記は中谷内遺跡の略記号「中谷内」、内野遺跡の略記号「内野」とし、出土地点や層位を続けて記した。平成21・23・24年度出土遺物は略記号の前に西暦の後半数字の「09」「11」「12」を付した。
- 10 遺物番号は遺跡ごとに通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 11 遺構・遺物観察表中における（ ）付きの値は、推定値を意味する。
- 12 遺構平面図での切り合い関係のある遺構の上端・下端の表現について、切られている遺構の場合、上端の復元が可能ならば破線、下端は切っている遺構より深度が深ければ実線、浅くても復元が可能であれば破線で示した。
- 13 遺構計測表（別表1・9）では、遺構の重複関係を表現する際に「<」「>」「=」を用いた。>… 切る・<… 切られる・=… 不明を表わす。

目 次

第Ⅰ章 序 章	1
第1節 遺跡概観	1
A 中谷内遺跡	1
B 内野遺跡	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1
A 満日地区ほ場整備事業に伴う発掘調査の経緯	1
B 平成21年度発掘調査に至る経緯	3
C 平成23年度発掘調査に至る経緯	3
D 平成24年度発掘調査に至る経緯	4
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
第1節 遺跡の位置と地理的環境	5
第2節 歴史的環境と周辺の遺跡	7
A 歴史的環境	7
B 周辺の遺跡	8
C 中谷内・内野遺跡周辺の遺跡概観	11
第Ⅲ章 調査の概要	14
第1節 試掘・確認調査	14
A 中谷内遺跡	14
B 内野遺跡	14
第2節 本発掘調査	15
A 調査方法	15
B 調査経過	16
C 調査体制	18
第3節 整理作業	19
A 整理方法	19
B 整理経過	19
C 整理体制	19
第4節 遺構・遺物の記述方法と分類	20
A 遺構の記述方法と分類	20
B 遺物の記述方法と分類	20
第Ⅳ章 中谷内遺跡	24
第1節 概 要	24
第2節 層 序	24
第3節 遺 構	25
A 遺構の概要	25
B 第12次(09)調査遺構各説	25

C	第15次(11)調査遺構各説	27
D	第16次(12)調査遺構各説	34
第4節	遺物	38
A	遺物の概要	38
B	第12次(09)調査遺物各説	38
C	第15次(11)調査遺物各説	40
D	第16次(12)調査遺物各説	44
第V章	自然科学分析	45
第1節	中谷内遺跡の土層とテフラ	45
A	はじめに	45
B	調査分析地点の土層層序	45
C	テフラ検出分析	45
D	考察	46
E	まとめ	46
第2節	中谷内遺跡における植物珪酸体分析(プラント・オパール)	46
A	はじめに	46
B	土層の層序	47
C	分析試料	47
D	分析方法	47
E	分析結果の検討方法と提示	47
F	分析結果	48
第3節	中谷内遺跡における花粉分析	52
A	はじめに	52
B	分析試料	52
C	分析方法	52
D	分析結果	53
第4節	中谷内遺跡における樹種同定	58
A	はじめに	58
B	分析試料	58
C	分析方法	58
D	分析結果	58
第5節	中谷内遺跡における放射性炭素(^{14}C)年代測定	60
A	測定試料と測定方法	60
B	測定値の見かた	60
C	測定結果	61
第VI章	内野遺跡	62
第1節	概要	62
第2節	層序	62
第3節	遺構	62
A	遺構の概要	62
B	第8次(11)調査遺構各説	63
C	第9次(12)調査遺構各説	65

第4節 遺物	67
A 遺物の概要	67
B 第8次(11)調査遺物各説	67
C 第9次(12)調査遺物各説	67
 第VII章 総括	 68
第1節 中谷内遺跡における古代の土器の特徴と時期的な位置付けについて	68
A 中谷内遺跡の墨書土器について	68
B 古代の土器の時期的な位置付け	69
第2節 中谷内遺跡の遺構について	73
第3節 まとめ	74
A 中谷内遺跡について	74
B 内野遺跡について	75
引用・参考文献	76
別表	80
報告書抄録・奥付	巻末

挿図目次

第1図 新津丘陵周辺地形分類図	6	第16図 中谷内遺跡第15次調査SD1・2・4・71・78	
第2図 中谷内遺跡・内野遺跡周辺の遺跡分布図	9	花粉・孢子顕微鏡写真	55
第3図 遺構の平面・断面形態の分類	20	第17図 中谷内遺跡第16次調査3区	
第4図 中谷内・内野遺跡古代土器分類図1	21	花粉・孢子顕微鏡写真	55
第5図 中谷内・内野遺跡古代土器分類図2	22	第18図 中谷内遺跡第16次調査3区	
第6図 中谷内遺跡基本土層柱状模式図	25	花粉ダイヤグラム	57
第7図 中谷内遺跡第16次調査基本土層柱状図	45	第19図 中谷内遺跡樹種顕微鏡写真	59
第8図 中谷内遺跡第12次調査基本土層柱状図	47	第20図 中谷内遺跡第12次調査	
第9図 中谷内遺跡第12次調査植物珪酸体分析結果	48	1・2号株放射性炭素年代測定結果	61
第10図 中谷内遺跡第12次調査		第21図 中谷内遺跡出土墨書土器集成	68
植物珪酸体顕微鏡写真	48	第22図 中谷内遺跡土師器無台碗法量分布図、	
第11図 中谷内遺跡第15次調査植物珪酸体分析結果	49	器高指数・底径指数相関図	70
第12図 中谷内遺跡第15次調査SD1・2・4・71・78、		第23図 中谷内遺跡須恵器無台杯法量分布図、	
SX112植物珪酸体顕微鏡写真	50	器高指数・底径指数相関図	70
第13図 中谷内遺跡第16次調査3区植物珪酸体・		第24図 中谷内遺跡遺構出土古代土器	
炭化物顕微鏡写真	51	食膳具組成図	72
第14図 中谷内遺跡第16次調査3区植物珪酸体		第25図 中谷内遺跡出土古代土器食膳具対比資料	72
分析結果	51		
第15図 中谷内遺跡第15次調査花粉ダイヤグラム	54		

表 目 次

第 1 表	中谷内遺跡調査履歴……………2	第 8 表	中谷内遺跡第 16 次調査 3 区 植物珪酸体分析結果……………51
第 2 表	内野遺跡調査履歴……………2	第 9 表	中谷内遺跡第 15 次調査花粉分析結果……………53
第 3 表	中谷内遺跡・内野遺跡周辺の遺跡一覧表……………10	第 10 表	中谷内遺跡第 16 次調査 3 区花粉分析結果……………57
第 4 表	中谷内遺跡第 16 次調査 3 区 4G-7D7 テフラ検出分析結果……………46	第 11 表	中谷内遺跡樹種同定結果……………59
第 5 表	中谷内遺跡第 12 次調査植物珪酸体分析結果……………48	第 12 表	中谷内遺跡第 12 次調査 放射性炭素年代測定の試料と方法……………60
第 6 表	中谷内遺跡第 15 次調査 植物珪酸体分析結果 1……………49	第 13 表	中谷内遺跡第 12 次調査 放射性炭素年代測定結果……………61
第 7 表	中谷内遺跡第 15 次調査 植物珪酸体分析結果 2……………50	第 14 表	中谷内遺跡出土墨書土器一覧表……………69

別 表 目 次

別表 1	中谷内遺跡遺構計測表……………80	別表 8	中谷内遺跡第 16 次調査遺構出土 古代土器器種構成率……………103
別表 2	中谷内遺跡第 12・15・16 次調査 土器・陶器観察表……………85	別表 9	内野遺跡遺構計測表……………106
別表 3	中谷内遺跡第 12 次調査製鉄関連遺物観察表……………94	別表 10	内野遺跡第 8・9 次調査土器・陶器観察表……………109
別表 4	中谷内遺跡第 12・15 次調査石製品観察表……………94	別表 11	内野遺跡第 8・9 次調査石製品観察表……………109
別表 5	中谷内遺跡第 15 次調査木製品観察表……………94	別表 12	内野遺跡第 8 次調査遺構出土 古代土器器種構成率……………110
別表 6	中谷内遺跡第 12 次調査遺構出土 古代土器器種構成率……………95	別表 13	内野遺跡第 9 次調査遺構出土 古代土器器種構成率……………110
別表 7	中谷内遺跡第 15 次調査遺構出土 古代土器器種構成率……………97		

図 版 目 次

図版 1	遺跡周辺の旧地形図 (1/25,000)	図版 11	中谷内遺跡第 12 次調査 1 区遺構平面部分図 2 (1/100)
図版 2	遺跡周辺の旧地割図 (1/10,000)	図版 12	中谷内遺跡第 12 次調査 1 区遺構平面部分図 3、 2 区遺構平面部分図 1 (1/100)
図版 3	中谷内・内野遺跡の範囲と周辺の遺跡 (1/20,000)	図版 13	中谷内遺跡第 12 次調査 2 区遺構平面部分図 2・ 3 (1/100)
図版 4	満日ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査位置図 (1/12,500)	図版 14	中谷内遺跡第 12 次調査遺構個別図 1 (1/40)
図版 5	中谷内・内野遺跡調査区とグリッド設定図 (1/10,000)	図版 15	中谷内遺跡第 12 次調査遺構個別図 2 (1/40)
図版 6	中谷内遺跡第 12 次・第 15 次・第 16 次調査区、 内野遺跡第 8 次・第 9 次発掘調査区位置図 (1/5,000)	図版 16	中谷内遺跡第 12 次調査遺構個別図 3 (1/40)
図版 7	中谷内遺跡第 2 次・第 6 次・第 9 次・第 12 次・ 第 16 次 3 区発掘調査遺構平面図 (1/800)	図版 17	中谷内遺跡第 15 次調査遺構全体図 (1/500)
図版 8	中谷内遺跡第 12 次調査 1・2 区遺構全体図 (1/500)	図版 18	中谷内遺跡第 15 次調査包含層の小グリッド別 古代土器出土重量分布図 (1/500)
図版 9	中谷内遺跡第 12 次調査包含層の小グリッド別 古代土器出土重量分布図 (1/500)	図版 19	中谷内遺跡第 15 次調査遺構平面部分図 1 (1/100)
図版 10	中谷内遺跡第 12 次調査 1 区遺構平面部分図 1 (1/100)	図版 20	中谷内遺跡第 15 次調査遺構平面部分図 2 (1/100)
		図版 21	中谷内遺跡第 15 次調査遺構平面部分図 3 (1/100)
		図版 22	中谷内遺跡第 15 次調査遺構平面部分図 4 (1/100)
		図版 23	中谷内遺跡第 15 次調査遺構平面部分図 5 (1/100)

- 図版 24 中谷内遺跡第 15 次調査遺構個別図 1 (1/40)
- 図版 25 中谷内遺跡第 15 次調査遺構個別図 2 (1/40)
- 図版 26 中谷内遺跡第 15 次調査遺構個別図 3 (1/40)
- 図版 27 中谷内遺跡第 15 次調査遺構個別図 4 (1/40)
- 図版 28 中谷内遺跡第 15 次調査遺構個別図 5 (1/40)
- 図版 29 中谷内遺跡第 15 次調査遺構個別図 6 (1/40)
- 図版 30 中谷内遺跡第 15 次調査遺構個別図 7 (1/40)
- 図版 31 中谷内遺跡第 15 次調査遺構個別図 8 (1/40)
- 図版 32 中谷内遺跡第 16 次調査 1～3 区遺構全体図 (1/400)
- 図版 33 中谷内遺跡第 16 次調査 1～3 区包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/400)
- 図版 34 中谷内遺跡第 16 次調査 1 区遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 35 中谷内遺跡第 16 次調査 1 区遺構個別図 (1/40)
- 図版 36 中谷内遺跡第 16 次調査 2 区遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 37 中谷内遺跡第 16 次調査 2 区遺構個別図 1 (1/40)
- 図版 38 中谷内遺跡第 16 次調査 2 区遺構個別図 2 (1/40)
- 図版 39 中谷内遺跡第 16 次調査 3 区上層遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 40 中谷内遺跡第 16 次調査 3 区下層遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 41 中谷内遺跡第 16 次調査 3 区遺構個別図 1 (1/40)
- 図版 42 中谷内遺跡第 16 次調査 3 区遺構個別図 2 (1/40)
- 図版 43 中谷内遺跡第 16 次調査 3 区遺構個別図 3 (1/40)
- 図版 44 中谷内遺跡第 16 次調査 3 区遺構個別図 4 (1/40)
- 図版 45 中谷内遺跡第 16 次調査 4 区試掘トレンチ設置図 (1/400)、基本層序断面図 (1/40)
- 図版 46 出土遺物 1 土器 (1) 中谷内遺跡第 12 次調査 1 区 SK12・20、SD7 (1)、2 区 SK114
- 図版 47 出土遺物 2 土器 (2) 中谷内遺跡第 12 次調査 1 区 SD7 (2)・11、2 区 SD53
- 図版 48 出土遺物 3 土器 (3) 中谷内遺跡第 12 次調査 1 区河 1、2 区 Pit110、河 2 (1)
- 図版 49 出土遺物 4 土器 (4) 中谷内遺跡第 12 次調査 2 区河 2 (2)
- 図版 50 出土遺物 5 土器 (5) 中谷内遺跡第 12 次調査 2 区河 2 (3)
- 図版 51 出土遺物 6 土器 (6) 中谷内遺跡第 12 次調査 2 区河 2 (4)
- 図版 52 出土遺物 7 土器 (7) 中谷内遺跡第 12 次調査 2 区河 2 (5)、1 区包含層
- 図版 53 出土遺物 8 土器 (8) 中谷内遺跡第 12 次調査 1・2 区包含層
- 図版 54 出土遺物 9 土器 (9)・石製品 (1)・鉄製品 中谷内遺跡第 12 次調査 1 区 SD7、包含層、表土、2 区河 2、満日確認調査 575T、577T 河
- 図版 55 出土遺物 10 土器 (10) 中谷内遺跡第 15 次調査 SK8・19・103・111、SX5・25
- 図版 56 出土遺物 11 土器 (11) 中谷内遺跡第 15 次調査 SX115、SD1・2・3
- 図版 57 出土遺物 12 土器 (12) 中谷内遺跡第 15 次調査 SD4 (1)
- 図版 58 出土遺物 13 土器 (13) 中谷内遺跡第 15 次調査 SD4 (2)
- 図版 59 出土遺物 14 土器 (14) 中谷内遺跡第 15 次調査 SD4 (3)
- 図版 60 出土遺物 15 土器 (15) 中谷内遺跡第 15 次調査 SD7・9・22・50・51 (1)
- 図版 61 出土遺物 16 土器 (16) 中谷内遺跡第 15 次調査 SD51 (2)・58・64・66・70・71・76・79 (1)
- 図版 62 出土遺物 17 土器 (17) 中谷内遺跡第 15 次調査 SD79 (2)・80・81・93・100・104・105・107
- 図版 63 出土遺物 18 土器 (18) 中谷内遺跡第 15 次調査 SD108、Pit86・90・92・97・102、包含層 (1)
- 図版 64 出土遺物 19 土器 (19) 中谷内遺跡第 15 次調査包含層 (2)
- 図版 65 出土遺物 20 土器 (20) 中谷内遺跡第 15 次調査包含層 (3)
- 図版 66 出土遺物 21 土器 (21)・石製品 (2) 中谷内遺跡第 15 次調査 SD4・107、包含層 (4)
- 図版 67 出土遺物 22 石製品 (3)・木製品 中谷内遺跡第 15 次調査 SD51、Pit77・89、包含層 (5)
- 図版 68 出土遺物 23 土器 (22) 中谷内遺跡第 16 次調査 1 区包含層、2 区河 1、包含層、3 区 SK4、SD3・8・11、Pit9・14
- 図版 69 出土遺物 24 土器 (23) 中谷内遺跡第 16 次調査 3 区 Pit25・32・36、包含層、4 区 A トレンチ表土
- 図版 70 内野遺跡第 8・9 次調査遺構全体図 (1/500)
- 図版 71 内野遺跡第 8・9 次調査包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/500)
- 図版 72 内野遺跡第 8 次調査遺構平面部分図 1 (1/100)
- 図版 73 内野遺跡第 8 次調査遺構平面部分図 2 (1/100)
- 図版 74 内野遺跡第 9 次調査遺構平面部分図 1 (1/100)
- 図版 75 内野遺跡第 9 次調査遺構平面部分図 2 (1/100)
- 図版 76 内野遺跡第 9 次調査遺構平面部分図 3 (1/100)
- 図版 77 内野遺跡第 8・9 次調査遺構個別図 1 (1/40)
- 図版 78 内野遺跡第 8・9 次調査遺構個別図 2 (1/40)
- 図版 79 内野遺跡第 8・9 次調査遺構個別図 3 (1/40)
- 図版 80 内野遺跡第 8・9 次調査遺構個別図 4 (1/40)
- 図版 81 内野遺跡第 8・9 次調査遺構個別図 5 (1/40)
- 図版 82 出土遺物 1 土器・石製品 内野遺跡第 8 次調査 SK99、包含層、第 9 次調査 SD112・118、河 1、包含層、客土 (I 層)

写真図版目次

- 写真図版 1 中谷内遺跡
中谷内遺跡周辺空中写真（北から）
中谷内遺跡周辺空中写真（北から）
- 写真図版 2 中谷内遺跡第 12 次調査
1・2 区空中写真（北から）
1・2 区空中写真（南西から）
- 写真図版 3 中谷内遺跡第 12 次調査
1・2 区空中写真（北西から）
1・2 区空中写真（全景）
- 写真図版 4 中谷内遺跡第 12 次調査
1 区着手前現況（北東から）
1 区着手前現況（南西から）
2 区着手前現況（北西から）
2 区着手前現況（南東から）
1 区基本層序 SA-SA'（南東から）
1 区基本層序 SC-SC'（南東から）
1 区基本層序 SF-SF'（南東から）
1 区基本層序 SG-SG'（南東から）
- 写真図版 5 中谷内遺跡第 12 次調査
1 区基本層序 SH-SH'（南東から）
1 区基本層序 SI-SI'（南東から）
1 区基本層序 SI'-SI''（南東から）
1 区基本層序 SJ-SJ'（南東から）
2 区基本層序 SK-SK'（北東から）
2 区基本層序 SL-SL'（北東から）
2 区基本層序 SO-SO'（北東から）
2 区基本層序 SP-SP'（北東から）
- 写真図版 6 中谷内遺跡第 12 次調査
1 区 SK9 土層断面（南東から）
1 区 SK9 完掘状況（南東から）
1 区 SK12 土層断面（北西から）
1 区 SK12 遺物出土状況（北西から）
1 区 SK12 遺物出土状況（北西から）
1 区 SK12 完掘状況（北西から）
1 区 SK20 土層断面（南東から）
1 区 SK20 完掘状況（南東から）
- 写真図版 7 中谷内遺跡第 12 次調査
2 区 SK101、Pit99・100 完掘状況（北東から）
2 区 SK114、Pit110 土層断面（南から）
2 区 SK114、Pit110 完掘状況（南から）
1 区基本層序 SB-SB'、SD1 完掘状況（南東から）
1 区 SD7 土層断面（南東から）
1 区 SD7 土層断面（北西から）
1 区 SD7 完掘状況（南東から）
1 区 SD8 完掘状況（北東から）
- 写真図版 8 中谷内遺跡第 12 次調査
1 区 SD11 完掘状況（南東から）
1 区 SD53 完掘状況（北東から）
1 区基本層序 SD-SD'、河 1 完掘状況（南東から）
2 区河 2 土層断面（南から）
2 区河 2 土層断面（北東から）
2 区河 2 遺物出土状況（西から）
2 区河 2 完掘状況（南西から）
1 区完掘状況（北東から）
- 写真図版 9 中谷内遺跡第 12 次調査
1 区完掘状況（南西から）
2 区完掘状況（南東から）
- 写真図版 10 中谷内遺跡第 12 次調査
1 区完掘状況（南西から）
1 区完掘状況（北東から）
2 区完掘状況（北西から）
2 区完掘状況（北西から）
2 区完掘状況（北東から）
1 区河 1 付近木（1・2 号株）出土状況（西から）
1 区河 1 付近木（1 号株）出土状況（南から）
1 区河 1 付近木（1 号株）出土状況（北西から）
- 写真図版 11 中谷内遺跡第 15 次調査
空中写真（南から）
空中写真（北西から）
- 写真図版 12 中谷内遺跡第 15 次調査
SD66 付近空中写真（北西から）
SX112 付近空中写真（北西から）
- 写真図版 13 中谷内遺跡第 15 次調査
着手前現況（北東から）
着手前現況（南東から）
基本層序 SA-SA'（南東から）
基本層序 SB-SB'（南東から）
基本層序 SC-SC'（南東から）
基本層序 SD-SD'（南東から）
基本層序 SE-SE'（南東から）
基本層序 SF-SF'（南東から）
- 写真図版 14 中谷内遺跡第 15 次調査
基本層序 SG-SG'（南東から）
基本層序 SH-SH'（南東から）
基本層序 SI-SI'（南東から）
基本層序 SJ-SJ'（南東から）
南東壁土層断面 SA-SA'（北西から）
南東壁土層断面 SB-SB'（北西から）
SK8 土層断面・完掘状況（北東から）
SK19 土層断面（北東から）

- 写真図版 15 中谷内遺跡第 15 次調査
SK19 完掘状況（北東から）
SK20 土層断面（北東から）
SK20 完掘状況（北東から）
SK21 土層断面（北東から）
SK21 完掘状況（北東から）
SD3、Pit28、SK24 土層断面（北西から）
SD3、Pit28、SK24 完掘状況（北西から）
Pit92、SK87、SD80 土層断面・完掘状況（北西から）
- 写真図版 16 中谷内遺跡第 15 次調査
SK103 土層断面・完掘状況（北西から）
SK106 土層断面・完掘状況（北西から）
SK111 土層断面・完掘状況（北西から）
SX5 土層断面・完掘状況（南西から）
SX25 土層断面・完掘状況（南東から）
SX112 土層断面（北西から）
SX112 完掘状況（南東から）
SD113、SX114 土層断面（北西から）
- 写真図版 17 中谷内遺跡第 15 次調査
SD113、SX114 完掘状況（北西から）
SD1 (A) 土層断面（南西から）
SD2 (A) 土層断面（南西から）
SD1 (B)・SD2 (B) 土層断面（南西から）
SD1 (C)・SD2 (C) 土層断面（北西から）
SD1・SD2 完掘状況（南西から）
SD3 土層断面（北西から）
SD3 土層断面・完掘状況（南東から）
- 写真図版 18 中谷内遺跡第 15 次調査
SD4 (A) 土層断面（北から）
SD4 (B) 土層断面（北から）
SD4 (C) 土層断面（北西から）
SD4 遺物出土状況（北から）
SD4 完掘状況（北東から）
SD7 (A)、Pit6 土層断面（北東から）
SD7 (B) 土層断面（北東から）
SD7 完掘状況（北から）
- 写真図版 19 中谷内遺跡第 15 次調査
SD9 土層断面（南から）
SD9 土層断面・完掘状況（南から）
SD15、Pit13・Pit14 土層断面（南東から）
SD15、Pit13・Pit14・Pit16 完掘状況（南東から）
SD22 土層断面・完掘状況（南東から）
SD44 土層断面・完掘状況（南東から）
SD45・SD46 土層断面（南から）
SD45・SD46 完掘状況（南から）
- 写真図版 20 中谷内遺跡第 15 次調査
SD50 (A) 土層断面（北東から）
- SD50 (B) 土層断面（北東から）
SD50 完掘状況（北東から）
SD51 (A) 土層断面（北西から）
SD51 (B) 土層断面（北西から）
SD51 (C) 土層断面・完掘状況（北から）
SD51 完掘状況（南東から）
SD55 土層断面（東から）
- 写真図版 21 中谷内遺跡第 15 次調査
SD55 完掘状況（東から）
SD58 土層断面（東から）
SD58 完掘状況（東から）
SD65 (A) 土層断面（南西から）
SD65 (B) 土層断面・完掘状況（南西から）
SD66 (A) 土層断面（西から）
SD66 (B) 土層断面（西から）
SD66 完掘状況（西から）
- 写真図版 22 中谷内遺跡第 15 次調査
SD66 完掘状況（西から）
SD67 完掘状況（南東から）
SD93 (A)・SD70 (A)・SD71 (A) 土層断面（南から）
SD93 (B)・SD71 (B)・SD70 (B) 土層断面（南東から）
SD95・SD94 土層断面（南東から）
SD94・SD93・SD71・SD70 完掘状況（南東から）
SD94・SD93・SD71・SD70 完掘状況（南東から）
SD95 完掘状況（南東から）
- 写真図版 23 中谷内遺跡第 15 次調査
SD72 (A) 土層断面（南東から）
SD72 (B) 土層断面（南西から）
SD72 完掘状況（南東から）
SD76 (A) 土層断面（南西から）
SD76 (B) 土層断面（南西から）
SD76 完掘状況（南西から）
SD79・SD78 土層断面（南東から）
SD79・SD78 完掘状況（南東から）
- 写真図版 24 中谷内遺跡第 15 次調査
SD82・SD81・SD80 土層断面（南東から）
SD82・SD81・SD80 完掘状況（南東から）
SD100 (A) 土層断面（南東から）
SD100 (B) 土層断面（南東から）
SD100 完掘状況（南東から）
SD104 土層断面（東から）
SD104 完掘状況（東から）
SD105 土層断面（北東から）
- 写真図版 25 中谷内遺跡第 15 次調査
SD105 完掘状況（北東から）

	SD107 (A) 土層断面 (東から)		3 区 SD3 土層断面 (南東から)
	SD107 (B) 土層断面 (南から)		3 区 SD3 完掘状況 (南東から)
	SD107・SD108 完掘状況 (南東から)		3 区 SD5 (A) 土層断面 (北から)
	SD109 (A) 土層断面 (南西から)		3 区 SD5 (B) 土層断面 (北東から)
	SD109 (B) 土層断面・完掘状況 (南西から)		3 区 SD5 (C)・SD6・SD22 土層断面 (南東から)
	SD113、SX114 土層断面 (北西から)		
	SD113、SX114 完掘状況 (北西から)	写真図版 33	中谷内遺跡第 16 次調査
写真図版 26	中谷内遺跡第 16 次調査		3 区 SD5 完掘状況 (北から)
	1 区空中写真 (北西から)		3 区 SD6 土層断面・完掘状況 (南東から)
	1 区完掘状況 (北東から)		3 区 SD8 土層断面 (南から)
写真図版 27	中谷内遺跡第 16 次調査		3 区 SD8 完掘状況 (南から)
	1 区着手前現況 (北東から)		3 区 Pit9、SD11 土層断面 (南東から)
	1 区着手前現況 (南西から)		3 区 SD11 完掘状況 (南東から)
	1 区基本層序 SD-SD' (北西から)		3 区 SD20、Pit18 土層断面 (北から)
	1 区 SD1 土層断面 (北西から)		3 区 SD20 完掘状況 (北から)
	1 区 SK6 土層断面 (南東から)	写真図版 34	中谷内遺跡第 16 次調査
	1 区 SK6 完掘状況 (南東から)		3 区 SD21 土層断面 (北西から)
	1 区 Pit4 土層断面 (北東から)		3 区 SD21 完掘状況 (西から)
	1 区 Pit4 完掘状況 (北東から)		3 区 SD22 土層断面・完掘状況 (南東から)
写真図版 28	中谷内遺跡第 16 次調査		3 区 SD29 土層断面・完掘状況 (南東から)
	2 区完掘状況 (南西から)		3 区 SD42 土層断面 (北西から)
	2 区畝状遺構周辺 (北西から)		3 区 SD42 完掘状況 (北西から)
写真図版 29	中谷内遺跡第 16 次調査		3 区 SB1 完掘状況 (北から)
	2 区着手前現況 (南西から)		3 区完掘状況 (北東から)
	2 区着手前現況 (北東から)	写真図版 35	中谷内遺跡第 16 次調査
	2 区基本層序 SA-SA' (南東から)		4 区完掘状況 (南東から)
	2 区畝状遺構土層断面 (南西から)		4 区着手前現況 (南東から)
	2 区畝状遺構完掘状況 (南西から)		4 区基本層序 SA-SA' (北東から)
	2 区 SD3 土層断面 (南東から)		4 区基本層序 SE-SE' (北東から)
	2 区 SD1・SD2 土層断面 (南東から)		4 区基本層序 SH-SH' (北東から)
	2 区河 1 土層断面 (南東から)	写真図版 36	中谷内遺跡出土土器集合写真
写真図版 30	中谷内遺跡第 16 次調査		中谷内遺跡第 12 次調査出土土器
	3 区 SB1 空中写真 (上層 南東から)		中谷内遺跡第 15 次調査出土土器
	3 区 4G-7C・8C 完掘状況 (下層 北東から)	写真図版 37	中谷内遺跡出土土器 1
写真図版 31	中谷内遺跡第 16 次調査		中谷内遺跡第 12 次調査 1 区 SD7、包含層、
	3 区基本層序 SA-SA' (西から)		2 区 SD53、河 2、満日地区確認調査 577T
	3 区基本層序 SB-SB' (北西から)		河
	3 区基本層序 SC-SC' (北西から)	写真図版 38	中谷内遺跡出土土器 2
	3 区基本層序 SD-SD' (北西から)		中谷内遺跡第 15 次調査 SD1・SD4・SD51、
	3 区 SE23 土層断面 (北から)		包含層
	3 区 SE23 完掘状況 (北から)	写真図版 39	中谷内遺跡出土土器 3
	3 区 SK4、SD11 土層断面・完掘状況 (南東から)		中谷内遺跡第 12 次調査 1 区 SK12・SK20、
	3 区 SK30 土層断面 (南から)		2 区 SK114、1 区 SD7
写真図版 32	中谷内遺跡第 16 次調査	写真図版 40	中谷内遺跡出土土器 4
	3 区 SK30 完掘状況 (南から)		中谷内遺跡第 12 次調査 1 区 SD7・SD11、2
	3 区 SD1 土層断面・完掘状況 (南東から)	写真図版 41	区 SD53、Pit110、1 区河 1、2 区河 2
	3 区 SD2 土層断面・完掘状況 (南東から)		中谷内遺跡出土土器 5
			中谷内遺跡第 12 次調査 2 区河 2

- 写真図版 42 中谷内遺跡出土土器 6
中谷内遺跡第 12 次調査 2 区河 2、1 区包含層
- 写真図版 43 中谷内遺跡出土土器 7・出土石器 1
中谷内遺跡第 12 次調査 1 区包含層、2 区包含層、確認調査 575T、577T 河
中谷内遺跡第 12 次調査 2 区河 2、石製品、製鉄関連遺物
- 写真図版 44 中谷内遺跡出土土器 8
中谷内遺跡第 15 次調査 SK8・SK19・SK103・SK111、SX5・SX25・SX115、SD1・SD2
- 写真図版 45 中谷内遺跡出土土器 9
中谷内遺跡第 15 次調査 SD2・SD3・SD4
- 写真図版 46 中谷内遺跡出土土器 10
中谷内遺跡第 15 次調査 SD4
- 写真図版 47 中谷内遺跡出土土器 11
中谷内遺跡第 15 次調査 SD4・SD7・SD9・SD22・SD50・SD51・SD58・SD64・SD66・SD70・SD71・SD76・SD79
- 写真図版 48 中谷内遺跡出土土器 12
中谷内遺跡第 15 次調査 SD79・SD80・SD81・SD93・SD100・SD104・SD105・SD107・SD108、Pit86・Pit90・Pit92・Pit97・Pit102、包含層
- 写真図版 49 中谷内遺跡出土土器 13
中谷内遺跡第 15 次調査包含層
- 写真図版 50 中谷内遺跡出土土器 14・石製品 2・木製品
中谷内遺跡第 15 次調査包含層
中谷内遺跡第 15 次調査石製品 SD107・SD4・SD51、包含層、木製品 Pit77・Pit89
- 写真図版 51 中谷内遺跡出土土器 15
中谷内遺跡第 16 次調査 1 区包含層、2 区河 1、包含層、3 区 SK4、SD3・SD8・11、Pit9・Pit14・Pit25・Pit32・Pit36、包含層、4 区 A トレンチ表土
中谷内遺跡出土墨書土器
- 写真図版 52 内野遺跡第 8・9 次調査
内野遺跡第 8 次調査空中写真（北西から）
内野遺跡第 9 次調査空中写真（北西から）
- 写真図版 53 内野遺跡第 8・9 次調査
内野遺跡全景空中写真（第 8・9 次調査合成写真）
- 写真図版 54 内野遺跡第 8・9 次調査
内野遺跡第 8 次調査空中写真（南西から）
内野遺跡第 9 次調査空中写真（北から）
- 写真図版 55 内野遺跡第 8 次調査
第 8 次調査地着手前現況（北西から）
第 8 次調査地着手前現況（南東から）
- 基本層序 SA-SA'（北西から）
基本層序 SB-SB'（西から）
基本層序 SC-SC'（北西から）
基本層序 SD-SD'（北西から）
基本層序 SE-SE'（北西から）
SE1 土層断面・完掘状況（北東から）
- 写真図版 56 内野遺跡第 8 次調査
SK9、Pit10 土層断面（南西から）
SK9、Pit10 完掘状況（南西から）
SK19 土層断面・完掘状況、SD22（B）土層断面（南西から）
SK48、Pit26 土層断面（南西から）
SD64、SK63 土層断面（南西から）
SK63 完掘状況（南西から）
SK79 土層断面・完掘状況（南西から）
SK80 土層断面（南西から）
- 写真図版 57 内野遺跡第 8 次調査
SK80 完掘状況（南西から）
SK99 土層断面（南西から）
SK99 完掘状況（南西から）
SX52（B）土層断面・完掘状況（南西から）
SD8（A）土層断面（南東から）
SD8（B）・SD28 土層断面（南西から）
SD8・SD28 完掘状況（南東から）
SD22（A）土層断面（南西から）
- 写真図版 58 内野遺跡第 8 次調査
SD22 完掘状況（南西から）
SD39 土層断面（南から）
SD39 完掘状況（南から）
SD41（A）土層断面（南西から）
SD41（B）土層断面（南西から）
SD41 完掘状況（南西から）
SD57、Pit59 土層断面（南西から）
SD57 完掘状況（南西から）
- 写真図版 59 内野遺跡第 8 次調査
SD64 土層断面・完掘状況（南西から）
SD68 土層断面（南西から）
SD68 完掘状況（南西から）
SD78 土層断面（南から）
SD78 完掘状況（南から）
完掘状況（南東から）
完掘状況（南東から）
完掘状況（北西から）
- 写真図版 60 内野遺跡第 9 次調査
第 9 次調査地着手前現況（南東から）
第 9 次調査地着手前現況（北西から）
基本層序 SF-SF'（北西から）
基本層序 SG-SG'（北西から）
基本層序 SH-SH'（北西から）

- 基本層序 SI-SI' (北西から)
SE113 土層断面 (南西から)
SE113 完掘状況 (南西から)
- 写真図版 61 内野遺跡第 9 次調査
SE124 土層断面 (南西から)
SE124 完掘状況 (南西から)
SK128 土層断面・完掘状況 (北から)
SX125 土層断面 (南西から)
SX125 完掘状況 (南西から)
SD112 土層断面 (北から)
SD112 完掘状況 (北から)
SD115 土層断面 (南から)
- 写真図版 62 内野遺跡第 9 次調査
SD115 完掘状況 (南から)
SD116・SD117 土層断面 (北東から)
SD116・SD117 完掘状況 (北東から)
SD118 土層断面 (北東から)
- SD120 土層断面 (南西から)
SD120 完掘状況 (南西から)
SD122 土層断面 (北から)
SD122 完掘状況 (北から)
- 写真図版 63 内野遺跡第 9 次調査
SD123 土層断面・完掘状況 (北から)
河 1 土層断面 (北東から)
河 1 土層断面・完掘状況 (北から)
河 2 最深部土層断面 (北東から)
河 2 最深部完掘状況 (北西から)
完掘状況 (南東から)
河 1 付近完掘状況 (南西から)
完掘状況 (北西から)
- 写真図版 64 内野遺跡出土土器・石製品
内野遺跡第 8 次調査包含層、石製品 SK99
内野遺跡第 9 次調査 SD112・SD118、河 1、
包含層、客土 (I 層)

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観 (第 1・2 表)

A 中 谷 内 遺 跡

平成 8 年 3 月から 4 月に県営満日地区ほ場整備事業に先立って行われた分布調査において、中谷内地内の用排水路周辺の上げ土から土師器・須恵器が採集されている。同年 10 月から 12 月には、農道整備事業に先立って試掘調査が行われた。調査対象地北側で土師器を主体とする遺物が大量に出土し、遺跡の広がりを確認したことから先の分布調査の結果を踏まえた範囲が「中谷内遺跡」として周知化された。その後、本発掘調査および確認調査が通算 16 回行われている (第 1 表)。

平成 13 年 10 月には満日地区ほ場整備に伴う確認調査 (第 7 次調査) が行われ、遺跡範囲は北東側に拡大し、その範囲がほぼ確定された。

中谷内遺跡範囲内ではこれまでに 3 回の本発掘調査が行われている。平成 9 年 7 月から 9 月にかけて、農道整備事業に伴い、遺跡北側 1911.1m² の本調査 (第 2 次調査) を行った結果、古代の旧河道を中心に京都産緑釉陶器 3 点、墨書土器 47 点など大量の遺物が出土した [立木ほか 1999]。遺構および旧河道から 9 世紀後半から 10 世紀前葉の遺物が良好な状況で出土しており、編年研究のうえで重要な調査例となった。平成 12 年 7 月から 9 月には、排水機場建設に伴って本発掘調査 (第 6 次調査) が行われた [渡邊ほか 2002]。368.0m² を調査した結果、第 2 次調査のものと同様とみられる旧河道が検出され、須恵器大甕と墨書土器がまとまって出土している。平成 15 年 10 月から 12 月には、東北電力の鉄塔建設工事に伴う本調査 (第 9 次調査) が行われ、遺跡北側および南側の 3 か所合計 376.23m² が調査され、古墳時代中期～後期および 9 世紀中葉の遺物が出土している [北村・菊池ほか 2004]。

B 内 野 遺 跡

内野遺跡は、中谷内遺跡同様に平成 8 年 3 月から 4 月に県営満日地区ほ場整備事業に先立って行われた分布調査において、遺物が採集され発見されている。平成 9 年 10 月には市道新町第 7 号七日町線道路改良工事に先立って試掘調査 (第 1 次調査) が行われ、試掘範囲全域で遺構・遺物が確認され、先の分布調査の結果を踏まえた範囲が「内野遺跡」として周知化された。その後、本発掘調査および確認調査が通算 7 回行われている (第 2 表)。

内野遺跡範囲内では、周知化の契機となった市道改良工事に伴い本発掘調査 (第 2 次調査) が実施されている。平成 11 年 5 月から 8 月および平成 12 年 7 月から 9 月の間、遺跡東端部のべ 3186.85m² の本調査を行った結果、古代・中世の遺構・遺物が確認された。出土遺物は 14～15 世紀を主体とするもので、特に井戸から出土した 3 点の鉄鍋が注目される。周辺地域においては同時期の遺跡調査例が少なく重要な調査例である [立木・高野ほか 2002]。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

A 満日地区ほ場整備事業に伴う発掘調査の経緯

平成 7 年度に、新潟市新津地区旧満日村区域における県営ほ場整備事業の計画が旧新津市生涯学習課に知らされた。旧新津市生涯学習課は、旧新津東土地改良区および旧新津市農産業振興課と協議を重ね、平成 7 年度

第2節 発掘調査に至る経緯

第1表 中谷内遺跡調査履歴

通算調査回数	県営ほ場整備事業満日地区に伴う発掘調査回数	調査年次	主な成果	調査種別	調査原因	担当	調査区	調査面積	圃場トレンチ番号	文献
		1996年 (H8) 3.26~4.19	満日地区ほぼ全域で行った分布調査により中谷内遺跡・内野遺跡・無頭遺跡・大下遺跡・久保遺跡などが新たに発見された。	分布調査	満日地区ほ場整備事業	新津市教育委員会 渡邊朋和		4,400,000㎡ (対象面積)		
1次		1996年 (H8) 10.30~11.5, 12.3	対象地北側で遺跡の広がりを確認し、中谷内遺跡を周知化。本調査が必要と判断された。	試掘調査	農道整備事業	新津市教育委員会 渡邊朋和		183.6㎡		
2次		1997年 (H9) 7.8~9.30	古代の旧河道が検出され、京都産緑釉陶器3点、墨書土器47点などが出土している。	本発掘調査	農道整備事業	新津市教育委員会 立木宏明		1911.121㎡		[立木ほか1999]
3次		1998年 (H10) 10.29	遺構・遺物とも検出なし	確認調査	排水機場建設	新津市教育委員会 渡邊朋和		11.9㎡		
4次		1999年 (H11) 11.30	遺構・遺物とも検出なし	確認調査	事業用地開発予定	新津市教育委員会 渡邊朋和		3.0㎡		
5次		2000年 (H12) 5.17	古代の遺構を確認。本調査が必要と判断された。	確認調査	排水機場建設	新津市教育委員会 立木宏明		31.5㎡		
6次		2000年 (H12) 7.17~9.8	2次調査のものと同様とみられる旧河道のほか、古代の遺構・遺物も出土している。	本発掘調査	排水機場建設	新津市教育委員会 渡邊朋和		368.0㎡		[渡邊ほか2002]
7次	1次	2001年 (H13) 10.5~10.30	現況が畑部分を中心とした確認調査。現在の畑部分には水田部分より良好に古代・中世の遺構が保存されていることを確認した。沖ノ羽遺跡より南に新たに遺跡が確認され山王浦遺跡として登録された。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新津市教育委員会 立木宏明		436.8㎡	北158~303T 南208~257T	
8次		2002年 (H14) 10.16~10.24	古代の遺物検出。遺跡範囲は北東側に拡大。	確認調査	鉄塔建設工事	新津市教育委員会 立木宏明		21.6㎡		
9次		2003年 (H15) 9.5~12.19	鉄塔部分、3か所の調査。古代の遺構・遺物を検出。	本発掘調査	鉄塔建設工事	(株) シン技術コンサル 北村 淳	1区~3区	376.23㎡		[北村ほか2004]
10次		2004年 (H16) 6.7~6.9	古代の遺構・遺物を確認。	確認調査	民間事務所兼倉庫建設	新津市教育委員会 立木宏明		105.6㎡		
11次	2次	2007年 (H19) 10.9~10.11	磐越自動車道より北側の追加確認調査。古墳時代の遺物も出土している。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 今井さやか		42.0㎡	北507~514T 北516~522T	
12次	3次	2009年 (H21) 6.17~8.31	用排水路設置部分について2次調査隣接部を調査。古代の旧河道、遺構・遺物も出土している。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤恭雄	1区~2区	399.53㎡		本書
13次	4次	2009年 (H21) 8.20~8.26	農道部分の確認調査。北側で河跡および平安時代の遺物を確認した。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤恭雄		81㎡	北556~578T	本書
14次		2009年 (H21) 8.6	遺構・遺物とも検出なし	確認調査	個人住宅建設	新潟市埋蔵文化財センター 今井さやか		3.0㎡		
15次	5次	2011年 (H23) 7.14~9.30	遺跡中央部を調査。平安時代の溝状遺構、同時期のものとみられる畦畔状遺構が検出された。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市文化財センター 遠藤恭雄		420.5㎡		本書
16次	6次	2012年 (H24) 6.29~11.6	遺跡南東端部及び北側の4カ所を調査。古代の遺構・遺物も検出された。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市文化財センター 遠藤恭雄	1区~4区	487.47㎡		本書

第2表 内野遺跡調査履歴

通算調査回数	県営ほ場整備事業満日地区に伴う発掘調査回数	調査年次	主な成果	調査種別	調査原因	担当	調査面積	圃場トレンチ番号	文献
		1996年 (H8) 3.26~4.19	満日地区ほぼ全域で行った分布調査により中谷内遺跡・内野遺跡・無頭遺跡・大下遺跡・久保遺跡などが新たに発見された。	分布調査	満日地区ほ場整備事業	新津市教育委員会 渡邊朋和	4,400,000㎡ (対象面積)		
1次		1997年 (H9) 10.29	試掘範囲全体が遺跡と認められ、「内野遺跡」を周知化。	試掘調査	市道改良工事	新津市教育委員会 渡邊朋和	64㎡		
2次		1999年 (H11) 5.28~8.31	古代・中世の遺構・遺物を検出。井戸などから中世の鉄鍋3点も出土している。	本発掘調査	市道改良工事	新津市教育委員会 立木宏明	2561.48㎡		[立木・高野ほか2002]
3次		2000年 (H12) 7.14~9.22					625.37㎡		
4次		2000年 (H12) 9.7~9.8	溝状遺構を確認	確認調査	砂利道舗装	新津市教育委員会 渡邊朋和	90㎡		
5次	1次	2001年 (H13) 10.5~10.30	現況が畑部分を中心とした確認調査。現在の畑部分には田部分より良好に古代・中世の遺構が保存されていることを確認した。沖ノ羽遺跡より南に新たに遺跡が確認され山王浦遺跡として登録された。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新津市教育委員会 立木宏明	348.6㎡	北158~303T 南208~257T	
6次	2次	2009年 (H21) 8.20~8.26	農道部分の確認調査。自然堤防上の微高地部を検出、古代の遺物も出土した。部分的に本調査が必要と判断された。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤恭雄	81㎡	北556~578T	
7次		2010年 (H22) 4.27	遺構・遺物とも検出なし	確認調査	農舎建設	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明	3.0㎡		
8次	3次	2011年 (H23) 10.24~12.16	遺跡北側を調査。中世のものと同様の遺構群を検出。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市文化財センター 遠藤恭雄	206.72㎡		本書
9次	4次	2012年 (H24) 6.29~8.17	第8次調査の南東側延長を調査。古代の遺物も出土している。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市文化財センター 遠藤恭雄	286.87㎡		本書

*ほ場トレンチ番号については、磐越自動車道の北側と南側に分けてそれぞれ通し番号としている。

から平成 8 年度にかけて対象面積 440ha の分布調査を実施した。その結果、遺物が多量に採集され、県教委が平成 2 ～ 4 年度に磐越自動車道建設に伴い本発掘調査を実施した沖ノ羽遺跡〔石川ほか 1994、星野ほか 1996、春日 2003〕の範囲とあわせて多くの遺跡の存在が予想された。

平成 11 年度に入り、事業計画が見直され、県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区として約 170ha が対象になり、新潟県新津農地事務所（以下、新津農地という）と協議を行い、全区域を対象とした確認・試掘調査を平成 11 ～ 13 年度に実施した。その結果、ほ場整備事業範囲内に中谷内遺跡、内野遺跡、沖ノ羽遺跡、山王浦遺跡の 4 遺跡が確認された。そのうち、山王浦遺跡については平成 14 年度に本発掘調査を終了している〔立木・澤野ほか 2004b〕。沖ノ羽遺跡については、平成 15 ～ 20 年度にほ場面工事に伴う本発掘調査が行われ、平成 15 ～ 17 年度および 18 年度 1 ～ 4・7 区の調査については報告を完了している〔立木・澤野ほか 2005・2008、速藤・澤野ほか 2014〕。この間、平成 17 年 3 月の市町村合併により調査主体は新潟市教育委員会となり、新潟県新潟地域振興局新津支局農業振興部は平成 20 年度より新潟県新潟地域振興局新津農業振興部に改組されている。

本発掘調査対象範囲の設定は、平成 16 年度に、新津農地・新津東土地改良区・新潟県教育庁文化行政課・旧新津市生涯学習課の 4 者で遺跡の取扱いを巡って協議を重ねた結果、平成 11 年 9 月 10 日付け教文第 578 号で新潟県教育委員会教育長から通知された「発掘調査の要否の判断基準について（通知）」の基準により、保護層（工事の施工に際して埋蔵文化財を保護するために設ける一定の厚さの土層、樹脂等による緩衝層）を確保できない場合には本発掘調査を実施するとしたものである。

B 平成 21 年度発掘調査に至る経緯

平成 21 年度からは、ほ場整備予定区域が満日地区北側の中谷内遺跡に移った。平成 21 年度は中谷内遺跡内の用・排水路管設置部分、346.0m² の本発掘調査を実施することで合意した。新潟県新潟地域振興局新津農業振興部（以下新津農業振興部）から平成 21 年 4 月 20 日付け新振津農第 48 号で文化財保護法第 94 条の第 1 項の通知と合わせて平成 21 年 4 月 20 日付け新振津農第 49 号で本調査の依頼が提出され、新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長へ、平成 21 年 5 月 20 日付け教文第 238 号の 2 で本発掘調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成 21 年 6 月 12 日付け新歴 B 第 20 号の 11 で文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。同調査中に新津農業振興部より、市歴史文化課に地区外用水路敷設工事の協議がなされ、内野遺跡・中谷内遺跡範囲内の延長 1,117m の農道部分を対象とした確認調査が行われた。調査の結果、内野遺跡の延長 215m の範囲について本調査が必要とされた。

C 平成 23 年度発掘調査に至る経緯

平成 23 年度は、中谷内遺跡範囲内の用排水路敷設部分 2m×200m とユニット部分を含む 373m² および内野遺跡範囲内の地区外用水路敷設部分 2.7m×75m、189m² について本発掘調査を行うことで合意した。

中谷内遺跡発掘調査については、新津農業振興部から平成 23 年 5 月 10 日付け新振津農第 97-1 号で文化財保護法第 94 条の第 1 項の通知と合わせて平成 23 年 5 月 10 日付け新振津農第 98 号で本調査の依頼が提出され、新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長へ、平成 23 年 5 月 23 日付け教文第 246 号の 2 で本発掘調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成 23 年 7 月 13 日付け新歴 B 第 28 号の 8 で文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。

内野遺跡発掘調査については、新津農業振興部から平成 23 年 5 月 10 日付け新振津農第 99-1 号で文化財保護法第 94 条の第 1 項の通知と合わせて平成 23 年 5 月 10 日付け新振津農第 100 号で本調査の依頼が提出され、新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長へ、平成 23 年 5 月 23 日付け教文第 245 号の 2 で本発掘調査

を実施するように指示文が出された。それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成 23 年 7 月 13 日付け新歴 B 第 29 号の 8 で文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。

D 平成 24 年度発掘調査に至る経緯

平成 24 年度は、内野遺跡範囲内の地区外用水路敷設部分 2.3m×130m、299m² および中谷内遺跡範囲内の用排水路敷設とユニット設置部分を合わせた 4 か所、610m² について本発掘調査を行うことで合意した。

内野遺跡発掘調査については、新津農業振興部から平成 24 年 4 月 5 日付け新振津農第 10-1 号で文化財保護法第 94 条の第 1 項の通知が提出され、新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長へ平成 24 年 4 月 20 日付け教文第 135 号の 2 で本発掘調査を実施するように指示文が出された。平成 24 年 5 月 10 日付け新振津農第 89 号で新潟地域振興局長から本調査の依頼が提出され、それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成 24 年 6 月 19 日付け新歴 B 第 9 号の 8 で文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。

中谷内遺跡発掘調査については、新津農業振興部から平成 24 年 4 月 5 日付け新振津農第 9-1 号で文化財保護法第 94 条の第 1 項の通知が提出され、新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長へ平成 24 年 4 月 20 日付け教文第 134 号の 2 で本発掘調査を実施するように指示文が出された。平成 24 年 5 月 10 日付け新振津農第 88 号で新潟地域振興局長から本調査の依頼が提出され、それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成 24 年 6 月 18 日付け新歴 B 第 8 号の 8 で文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版1・2）

新潟市は、新潟県の北沿岸部にあり、越後平野を南北に貫流する信濃川・阿賀野川の下流域に位置する。平成17年に周辺13市町村（新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・西川町・巻町・岩室村・味方村・潟東村・月潟村・中之口村）と合併した結果、市域の総面積は726.45km²に拡大し、人口は80万人余りになった。その後、平成19年4月1日には日本海側初の政令指定都市となって現在に至る。

新潟市の地勢を概観すると、北は日本海が広がり、海岸線に沿って砂丘列が南西から北東方向に走る。砂丘列は内陸側から海岸線に向かって新砂丘Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに大別されている〔新潟古砂丘グループ1974〕。東は五頭連峰・飯豊山地、西に弥彦・角田山地、南に新津丘陵が連なり、砂丘列と山地・丘陵の間に市域の大半を占める越後平野と呼ばれる沖積平野が広がる。

越後平野は、面積が2,000km²に達する日本有数の沖積平野で、信濃川と阿賀野川の2大河川が運搬する土砂に埋め立てられて形成された。平野には、砂丘列で行く手を阻まれた河川が蛇行し、内陸に潟湖や後背湿地を多数出現させた。干拓により範囲は縮小したものの、現在も福島潟や鳥屋野潟などの広大な潟湖が存在する。

こうした潟湖の存在は、度重なる水害を誘発し、近世初頭には治水対策のための放水路建設が計画された。その結果、享保6（1721）年に新発田藩が落堀川を開削して以降、放水路の開削と融雪洪水による決壊が繰り返され、堀割は現阿賀野川の本流と化して水位が下がり、干陸化して水害が減少するとともに新田開発が進んだ。

生活の基盤となる沖積微高地や自然堤防は、平野を新たに中小河川が開析することで形成されるが、放水路開削以前は、砂丘・堆砂の発達が顕著であるため、流路の変更や河川の氾濫が頻繁に発生して陸化と湖沼化が繰り返され、安定した地盤が形成されにくかったと考えられる。

中谷内・内野両遺跡がある新潟市秋葉区（旧新津市・小須戸町、以下秋葉区という）満日地区は、越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を境に東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。その他の主な河川は、下新付近で五泉市域を北流してきた早出川が阿賀野川に、七日町付近で阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流して覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は、太平洋戦争後に水害対策のための河川改修が行われ、これにより五泉市千原～秋葉区大関間の蛇行部分が直線化した結果、秋葉区新津地区の市街地を貫流していた本来の流路から分流が東方に作られて現在の能代川・新津川となった。能代川と新津川は下興野付近で再び一つとなり、荻島付近で小阿賀野川に合流する。

秋葉区付近の地形は、丘陵とその縁辺の段丘、沖積地からなる。南南西～北北東に走る新津丘陵は、加茂川を南限とし、標高278mの高立山を最高位として北に行くに従い標高を下げて北端で70～80mとなる。丘陵の周囲には標高10～70mの間に段丘が4段形成されている。沖積平野には、阿賀野川が流路を東遷させてきた結果、新津丘陵北端～小阿賀野川間に自然堤防が形成され、起伏の極少ない沖積微高地が断続的に残存している。

遺跡周辺における現在の景観は、田園・畑地が広がり、地形の起伏はほとんど認められない。この景観は大正末期から昭和20年代にかけて行われた耕地整理事業によって形成されたものである。耕地整理以前の地図（図版2）を見ると微高地の多くは畑として、微高地周辺は水田として利用されている。中谷内・内野両遺跡は、能代川右岸のこうした自然堤防や沖積微高地または微高地縁辺に立地する。



第1図 新津丘陵周辺地形分類図

第2節 歴史的環境と周辺の遺跡

A 歴史的環境

古代以前は文献資料が乏しく不明な点が多いが、新潟市域には微高地や丘陵に幾つかの古墳が存在し、相応の勢力を保持した統率者や有力集団が存在したことが知られる。前期古墳は、秋葉区の新津丘陵支丘陵の通称「金津丘陵」に古津八幡山古墳、西蒲区の井田（矢作）丘陵に菖蒲塚古墳、角田山東麓の丘陵に菖蒲塚・山谷古墳、西区の埋没砂丘に緒立八幡神社古墳がある。中期以降の古墳は、これまで未発見であったが、2013年新潟市歴史博物館に「牡丹山」と注記された円筒埴輪片が所蔵されていたことが確認され、このことを契機にレーダー探査および測量調査が実施された結果、東区で牡丹山諏訪神社古墳が発見〔橋本2014〕された。この発見により、中期段階に至っても越後平野に地域的に結合された有力集団が存在していたことが明らかとなった。

越後の領域については、古墳時代前期（第1段階）は旧越前国（越前・加賀・能登）までであったが、古墳時代中期～後期（第2段階）には後に越後国の領域とされる頸城・古志・魚沼・蒲原4郡を含んだ旧越中国まで拡大し、7世紀中頃～8世紀初頭（第3段階）は旧越後国（淳足・磐舟柵が設置された淳足・磐舟両郡と出羽郡）まで及んで、次第に北上していく様子が伺える〔米沢1965・1980〕。702年には、『続日本紀』大宝2年3月条に、越中国4郡を割いて越後国に編入する」とあるように頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡が越後国に編入され、最終的に和銅5年（712）にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国し、概ね現在の新潟県域にあたる国域が確定した。

古代の秋葉区域は蒲原郡に属する。古代の蒲原郡の郡域は、概ね三条市以北阿賀野川以西の越後平野と推定され、南北朝期に旧沼垂郡を含む領域に拡大するまでは大幅な変更はないと考えられている。10世紀に成立したとされる『和名類聚抄』には、桜井・勇礼・青海・小伏・日置郷の5郷が蒲原郡に存在したことが記されている。桜井・勇礼・青海・小伏の4郷については比定地が概ね確定されており、残る日置郷が秋葉区域に当たると考えられている。郷域は新津丘陵の北端部を中心に阿賀野川以西信濃川以東、概ね現在の秋葉区・五泉市・田上町の範囲と推定される。

蒲原郡には、宝亀11年（780）の「西大寺資財流記帳」（『寧楽遺文』中巻）により、西大寺領として鶉橋庄・槐田庄が存在したことが知られる。その成立時期は、同史料に「越後国水田并墾田地帳景雲三年」とあることから、8世紀中葉と見られる。所在地については式内社名から、鶉橋庄は五泉市橋田、槐田庄は三条市周辺とされている。これらの荘園に秋葉区域が含まれていたかは不明である。

11世紀後半に各地で成立し始めた公領は、金津保が秋葉区域に所在したとされる。金津保の初見は建武3（1336）年11月18日「羽黒義成軍忠状写」で、「同二日、引籠于金津保新津城、对于小国政光以下御敵等、到散々合戦畢」（『新潟県史』資料編4-1935）とあり、北朝方である三浦和田（羽黒）義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光らと戦ったと記されている。この史料により、新津城が金津保にあったことが確認でき、現在の新潟市域が金津保に含まれていたことが理解できる。なお、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれかであろうとされる〔木村1989〕。また、天正5年（1577）「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」（『新潟県史』資料編5-2704）とあり、遊川は田上町湯川と見られること、さらに天文13年（1544）10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」（『新潟県史』資料編4-1495・1496）に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条に当たるとされることから、金津保の領域は、おおよそ秋葉区～田上町北部と新津丘陵の五泉市側までを含む範囲であったと推定できよう。

金津保をめぐる社会情勢については、建仁元年（1203）3月4日の「城四郎長茂并伴類新津四郎已下、於吉野奥被誅畢」（『吾妻鏡』）に、金津保と何らかの関連をもつ人物と見られる新津四郎が、阿賀野川以北に勢力を持ち国衙勢力と対峙する城長茂と行動を共にしていたことが記されており、公領である金津保は国衙勢力と城氏との

間で不安定な状況に置かれていたことが予想される。また、南北朝期には阿賀野川以北の北朝方佐々木加地景綱らと、刈羽・魚沼地域に勢力を置く南朝方の小国氏らとの蒲原津をめぐる攻防が続き、阿賀野川下流域にある金津保は、要衝の一つとして注目されていたようである。後に越後守護となった上杉氏・守護代長尾氏にとっても、その支配に抵抗する阿賀野川以北の国人層や本庄・色部・中条・佐々木加地氏らを統制するために金津保は地理的に極めて重要な拠点であったため、金津保は国衙領として守護の支配下に置かれることとなった。

天正6年(1578)3月、上杉謙信の死去に端を発した家督争い「御館の乱」が養子の景勝・景虎の間でおこる。この乱に景勝方として参戦した新津氏は、以後それまでの金津保の主要勢力であった平賀氏に替わり領主となり、慶長3年(1598)に景勝とともに会津へと国替えさせられるまで、新津氏が金津保を拠点として繁栄することとなる。

中世における現秋葉区域は、国津である蒲原津に近く、越後平野を一望できる新津丘陵が存在するため、交通の要所として重視されてきた。このため、この地の掌握を巡って常に不安定な政治状況に置かれていた。先に金津保の領域と推定した範囲に、新津丘陵を中心に常に中世城館が置かれたのはそのことを示しているのだろう。

近世に入り、越後平野では新発田藩によって新田開発に伴う治水工事が行われるようになり、これに乗じて周辺でも阿賀野川などの治水のために堀割を掘削するなどの普請がなされた。また近世後半期には町人請負による新田開発が盛んになり、潟の干拓が行われた。中谷内・内野遺跡周辺でも新発田藩により新田開発がなされ、古田ノ内大野開などの古田新田の枝郷が作られた。享保3年(1718)の新発田藩「御領分郷村鑑」によれば、「高149石余、田23町部、畑2町余、無民戸」とあり、江戸時代以降は、水田・畑地として利用され続け、無住の地であったことが伺える。

B 周辺の遺跡(第2図、第3表、図版3)

1) 市内の遺跡概観

市内の遺跡数は、平成26年12月31日現在で730か所を超える(第3表)。時代別に遺跡の立地状況を見ると、旧石器時代の遺跡は、丘陵部に限定され当時の生業形態を反映した分布を示す。

縄文時代から弥生時代中期までは、丘陵や段丘及び砂丘(埋没砂丘)に遺跡が立地する 경우가多く、比較的高燥の地が生活の場として選ばれる傾向が見られる。

弥生時代後期以降は、水稻農耕に適した低地に集落を構える傾向が強まったようで、丘陵や段丘の縁辺部、沖積平野の微高地、埋没砂丘などに遺跡が多く残されるようになる。この傾向は、奈良時代以降、平安時代になるとさらに強まり、馬の背状の狭い沖積微高地も生活の場として盛んに利用される。

古代は、遺跡の分布状況から、水田経営に適した沖積平野を日常生活の基盤とし、窯業や製鉄、木器生産といった手工業生産を丘陵に集約させて、生業と手工業生産を分離させた政策がとられたことが見て取れる。

中世は、沖積平野でも安定した地盤を広範囲に確保できる微高地や自然堤防に集落が作られる傾向があり、近世以降にもこうした立地の選定が引き継がれていく。

2) 時代別遺跡概観

以下に第2図の範囲を中心に時代ごとに記述する。

旧石器時代の遺跡 市内では新津丘陵に2か所、角田山麓に1か所の計3遺跡のみ存在が知られる。秋葉区内では、段丘の古津八幡山遺跡〔渡邊・立木ほか2001・2004〕と、丘陵の尾根に立地する草水町2丁目窯跡がある。いずれも遺構は発見されず、ナイフ形石器・石刃などが散発的に出土したのみで、市内の旧石器時代は不明な点が多い。

縄文時代の遺跡 草創期～晩期の遺跡がある。後期までは主に丘陵部に分布する。市内最古の例は、草創期前半の愛宕澤遺跡〔立木・澤野ほか2004a〕である。

中・後期の遺跡は、新津丘陵の平坦面に平遺跡〔川上・遠藤1983〕、原遺跡(中～晩期)、秋葉遺跡(中～後期)



第2図 中谷内遺跡・内野遺跡周辺の遺跡分布図

第2節 歴史的環境と周辺の遺跡

第3表 中谷内遺跡・内野遺跡周辺の遺跡一覧表

Table with 10 columns: No., 名称, 時代, No., 名称, 時代, No., 名称, 時代, No., 名称, 時代, No., 名称, 時代. Contains a comprehensive list of archaeological sites and their historical periods.

などが存在する。また、砂丘に前期前半の砂崩遺跡〔酒井・廣野 2002〕がある。

晩期は、大沢谷内遺跡、鳥屋遺跡〔関ほか 1980〕、緒立遺跡〔金子ほか 1983〕、御井戸遺跡〔前山 1994b〕など、砂丘や沖積地に立地する遺跡が多い。

弥生時代の遺跡 弥生時代全時期をとおして遺跡が存在する。弥生時代前期の遺跡は、砂丘や砂丘間低地に立地する例が多く、代表例に緒立遺跡〔金子ほか 1983〕や旧亀田町の養海山遺跡〔新潟市 2007〕、西郷遺跡〔土橋 2009〕がある。

中期の遺跡も前期と同様に、砂丘や砂丘間低地に石動遺跡〔廣野 1996〕や旧横越町小丸山遺跡〔家田 1987、酒井 2000a〕、山ノ家遺跡〔川上 1993、酒井 2000b〕、旧亀田町西郷遺跡〔土橋ほか 2009〕などが立地する。秋葉区内では平成 15 年度の立会調査で秋葉遺跡から中期前半、塩辛遺跡から中期後半の土器が出土している〔渡邊・立木ほか 2004〕。

後期の遺跡は、所謂「高地性環濠集落」として著名な古津八幡山遺跡〔川上 1994、渡邊 1994〕が新津丘陵の支丘陵となる通称「金津丘陵」に立地する〔川上 1996a、渡邊ほか 1997〕。古津八幡山遺跡は、遺跡の規模から拠点集落と見られ、環濠内に竪穴住居・炉跡・前方後方形周溝墓などが検出されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器が混在して出土しており、当地域の弥生社会を考える上で重要な遺跡である。そのほかの遺跡は、砂丘に六地山遺跡〔寺村 1960、中村 1960〕、石動遺跡〔廣野 1996〕などが立地するが、沖積地での発見例はない。

古墳時代の遺跡 前期は、角田山東麓に前方後方墳である山谷古墳〔甘粕・小野ほか 1993〕・菖蒲塚古墳〔相田・前山 2003・2005〕が造られ、隣接して同時期の集落遺跡である南赤坂遺跡〔前山・相田 2002〕や御井戸 B 遺跡〔前山・相田 2004・2005〕がある。砂丘や沖積地でも緒立 C 遺跡〔渡邊 1994〕や東困遺跡〔朝岡・諫山 2003〕、正尺 C 遺跡〔土橋ほか 2006〕など、多くの遺跡が見つまっている。

先述した古津八幡山遺跡の北西端には、古墳時代前期末～中期初頭に位置付けられ県内最大(墳丘約 60m・円墳)となる古津八幡山古墳があり〔甘粕・川村ほか 1992、渡邊・相田 2013〕、周辺には舟戸遺跡〔川上 1995〕などの集落遺跡が丘陵縁辺や端部に立地する。舟戸遺跡では中期頃の竪穴住居跡が検出され、古墳との関連が注目されている。

近年、沖積微高地から古墳時代の遺跡が見つかるケースが増えており、秋葉区周辺でも沖ノ羽遺跡〔星野ほか 1996、立木・澤野ほか 2008、遠藤・澤野ほか 2014〕・上浦 A 遺跡〔坂上 2003〕・結七島遺跡〔田中・丹下ほか 2004〕から古墳時代前～後期の遺構・遺物が、中田遺跡〔諫山 2009〕から後期の竪穴建物などが検出され、古墳時代以降、沖積平野の開発が本格化していく様相が明らかになりつつある。

古代の遺跡 古代(飛鳥～平安時代)になると低地の開発が一層進み、特に 9 世紀中頃以降、自然堤防や沖積微高地に立地する集落遺跡が著しく増加する。官衙に関連するとみられる遺跡も、市域およびその周辺での場遺跡〔小池・藤塚 1993〕、緒立 C 遺跡〔渡邊 1994〕、四十石遺跡〔渡邊・奈良 2012〕新発田市首根遺跡〔家田 1981・1982、川上 1997b〕、阿賀野市発久遺跡〔川上ほか 1991〕などが 8 世紀以降相次いで成立する。また、奈良時代以前の古代遺跡の様相も判明しつつあり、7 世紀後半の大沢谷内遺跡〔細野・伊比ほか 2012〕は、九九木簡や律令祭祀具が出土し、淳足柵造営期における地方整備の一端を示すものとして重要である。

一方、丘陵は手工業生産の場として利用されるようになり、新津丘陵や角田山麓で製鉄や須恵器・土師器の生産が集中して行われ、金津丘陵製鉄遺跡群や新津丘陵窯跡群と呼称される生産遺跡が残されている。

C 中谷内・内野遺跡周辺の遺跡概観

中谷内・内野遺跡周辺の遺跡について、遺跡の存続期間に合わせて古代以降について概観する。

遺跡周辺で沖積地に立地するおもな集落遺跡は、長沼遺跡〔渡邊 1991〕や萱免遺跡〔立木・八藤後ほか 2009〕、上浦 A 遺跡〔川上 1997a、坂上 2003〕、上浦 B 遺跡〔新潟市 2007〕、沖ノ羽遺跡〔石川ほか 1994、星野ほか 1996、細野ほか 2002、春日 2003、北村・菊池ほか 2004、立木・澤野ほか 2005・2008、遠藤・澤野ほか 2014〕、無頭遺跡〔長澤ほか

2002) などがある。長沼遺跡は、ロクロ成形によらない土師器やかえりのある須恵器杯蓋が定量出土したことから、遅くとも7世紀後半には成立しており、市内の古代の遺跡の中では古く成立した遺跡である。萱免遺跡は、8世紀中葉から9世紀前半に位置付けられ、焼成不良品や焼きゆがみのある新津丘陵産須恵器が多く出土していることから、須恵器生産に関わる集落であった可能性が指摘されている。上浦A遺跡は、7世紀末～10世紀と長期間存続し、円面硯・墨書土器といった文字資料が多く出土している。隣接する上浦B遺跡では、方位を一致させて配置された掘立柱建物群や井戸・畑跡が検出され、奈良三彩の小壺が出土した。遺構・遺物の様相から両遺跡が官衙に関連する可能性があり、注目される。山王浦遺跡は、9世紀後半の掘立柱建物が3棟検出され、これらに井戸や土坑などが付随し、建物小群〔田嶋1983〕を形成している。

沖ノ羽遺跡は、中谷内・内野遺跡に隣接し、推定範囲が100haに及ぶ大遺跡である。これらの遺跡は、無頭遺跡を含め互いに一部接しており、存続期間を考慮すれば、一連の遺跡群と捉えることも可能である。沖ノ羽遺跡では、桁行4間を超える大形の掘立柱建物は見つかっていないが、第15次調査1区〔立木・澤野ほか2008〕や第18次調査3区〔遠藤・澤野ほか2014〕で掘立柱建物が井戸を伴って多数検出された。また、第18次調査での緑釉陶器香炉や瓦塔、「花寺」墨書土器、鉄鉢形土器の出土から、寺院関係の施設の存在も予想され、遺跡が中核的な集落であったと推測されている。

周辺の丘陵に視線を移すと、新津丘陵北東斜面に新津丘陵窯跡群（七本松窯跡〔中川・倉田1956〕・草水町2丁目窯跡・滝谷窯跡〔川上・木村・鈴木1989〕・秋葉2丁目窯跡など）があり、新津丘陵西斜面に金津丘陵製鉄遺跡群（居村遺跡・大入C遺跡〔川上1996a、渡邊ほか1997〕など）がある。須恵器窯跡群は、大沢谷内遺跡〔細野・伊比ほか1012〕の調査成果を考慮すれば7世紀後半には開業された可能性があるが、8世紀後半以降操業が本格化する。この時期は、北陸地方でいわゆる「一郡一窯（群）」〔吉岡ほか1967〕と呼称される土器生産体制が確立する時期に相当し、軌を一にした動向であろう。製鉄遺跡は、9世紀第2四半期以降に操業を開始したとされている。

低湿地や潟湖が大部分を占めていた越後平野の中で、新津丘陵は手工業生産の拠点として重要視されたと考えられ、新津丘陵の製鉄と窯業は、文献史料上は確認できないが、淳足柵や国津である蒲原津との関係のもとに遂行された可能性もあろう。

中世以降は、在地領主層の勢力伸長に伴って、丘陵裾部や沖積平野の微高地に城館が築かれるようになる。新津丘陵周辺では、山上に東島城・金津城〔横山・竹田ほか1987〕、丘陵裾部に程島館・西島館・五本田館・丸田館、自然堤防に新津城跡・大関館・下条館・五泉城などが築かれる。いずれも本格的な調査は行われておらず、実態は不明である。近辺では、西蒲区和納館や阿賀野市堀越館跡で部分的に調査が行われており、堀の一部や多量の貿易陶磁、茶道具などが出土している。また、白河荘内に所在し、おもに11世紀後半～12世紀に機能した有力者の居館跡と目される阿賀野市大坪遺跡〔荒川ほか2006〕も注目される遺跡である。

集落遺跡は、自然堤防や砂丘に立地し、古代遺跡と重複する場合も多い。阿賀野川下流域の砂丘に立地する山木戸遺跡〔諫山2004〕、下前川原遺跡〔遠藤2004〕は、概ね13世紀から15世紀に営まれ、山木戸遺跡では多量の舶載陶磁器が出土していることから、内水面交通に関わる集落であったと想定されている。旧亀田町の砂丘に立地する中の山遺跡〔川上1982〕、荒木前遺跡〔渡邊1991、川上1996b〕、三王山遺跡〔酒井1980〕は、多数の井戸や溝、掘立柱建物跡が検出され、舶載陶磁器や瀬戸・美濃焼などが出土していることから、周辺に在地領主層が存在した可能性も指摘されている。

遺跡周辺では、14～15世紀の集落の一部が調査された江内遺跡〔春日ほか1996〕や、水田区画の単位施設とみられる遺構が検出された細池遺跡（現、細池寺道上遺跡）〔小池ほか1994〕がある。沖ノ羽遺跡でも12～13世紀の集落跡とともに細池遺跡に類似した水田区画とみられる遺構を確認〔石川ほか1994、星野ほか1996、春日2003a〕し、中世の水田経営の一端を示すものであろう。また、県内初となる烏帽子の出土は、経営者の地位を示すものとして貴重である。今回報告する内野遺跡は、既往の調査で、掘立柱建物・井戸・溝などを検出し、おもに14～15世紀に営まれた集落であったことが明らかとなっている〔立木・高野ほか2002〕。この時の調査では、

井戸内から鉄鍋が出土し、祭祀行為等で埋納されたものと評価されている。また、別の井戸底から大型犬の骨の一部も出土しており、中世の食文化を考える上で貴重な資料も得られている。

近世の遺跡は現在の住宅地と重なるケースが多く、度重なる開発にさらされたことや調査不可能な場合があり実態は不明な点が多い。その中で秋葉区新津地区の江内遺跡は、17世紀前半以降の集落の一部が明らかにされ、貴重な調査成果を提示している。また、湊町新潟の「近世新潟町跡」〔佐藤 2008〕の調査では、幾層にも重なる生活面が確認され、継続して土地利用がなされていたことが判明している。肥前系を中心とする各地の陶磁器も多量に出土しており、港町ならではの活発な交易があったことも判明した。部分的な調査ではあるが、17～19世紀の町屋の実態に迫る重要な調査例である。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査（図版4）

A 中谷内遺跡

満日地区ほ場整備事業に伴って、平成11・12年度に事業区域全域の田部分を、平成13年度には畑部分と田部分を対象とした試掘・確認調査を行っている。平成11年度には869.4m²（1.4m×3m×207トレンチ）、平成12年度に659.4m²（1.4m×3m×157トレンチ）を行い、平成13年度には823.2m²（1.4m×3m×196トレンチ）を調査した。その後の協議結果で用・排水路部分および未調査地の調査を行うこととなり、平成14年～16年度、平成18・19年度に確認調査を行い、ほ場整備事業予定地のほぼ全域の調査が終了している。

中谷内遺跡第12・15・16次調査の調査地点は、平成13・19年度の確認調査で見つかった範囲となっている。

第12次調査地点は現水田および農道法面部にあたり、269T・270Tで現地表面（G・L）から-0.3～0.4mで黒色～暗灰色土の古代包含層および相当層、269Tでは-0.8mで小土坑2基が確認されている。

第15次調査地点は現水田部分にあたり、197T・509T～511Tでは現地表面（G・L）から-0.5～0.9mで暗青灰色～暗灰色土の古代包含層、509T・511Tでは-0.6～0.8mで遺構が確認され、遺物包含層および遺構の広がり予想された。

第16次の調査地点で1区とした部分は、現農道法面および水田部分にあたる。193Tでは現地表面（G・L）から-0.55mで暗茶褐色土層の古代包含層が確認されている。2～4区とした部分はいずれも水田部分にあたり、260T・265T・266T・277Tにおいて現地表面（G・L）から-0.3～0.6mで黒色～暗灰褐色土層の古代包含層および相当層が確認され、包含層の広がり予想された。

以上の結果から、保護層が確保されない本発掘調査範囲は、第12次調査（平成21年度）が346.0m²、第15次調査（平成23年度）が373.0m²、第16次調査（平成24年度）が1区96.2m²、2区187.8m²、3区121.5m²、4区204.5m²の合計610m²となった。

B 内野遺跡

満日地区ほ場整備事業において地区外用水路敷設に先立ち、計画対象地の農道部分延長1,117mに20mおきに56箇所のトレンチ（523T～578T）を設定し確認調査を実施した。内野遺跡範囲内にあたる29か所のトレンチ（523T～551T）のうち527T～537Tにおいて現地表面（G・L）から-0.4～0.9mで暗灰色～灰褐色土層の古代・中世の遺物包含層および相当層、530T・533Tでは-0.6～0.8mで溝や小土坑が確認され、遺物包含層および遺構の広がり予想された。

調査の結果、内野遺跡範囲内の延長215mの区間について本調査が必要とされた。保護層が確保されない本発掘調査範囲は、第8次調査（平成23年度）が幅2.7m、延長75m、面積189.0m²、第9次調査が幅2.3m、延長130m、面積299.0m²となった。

第2節 本発掘調査

A 調査方法

1) グリッドの設定 (図版5)

平成17年度より新たに磐越自動車道北側の県営満日地区ほ場整備事業予定範囲に世界測地系(測地成果2000)を用いたグリッド設定を行った。1A-1A杭、X座標:203770.000、Y座標:54590.000、緯度:27°50′04″96025、経度139°07′12″69803を基準点とした。基準点に対し国土地理院の第8系座標軸を用いて100mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。この大グリッドに10mの方眼を組み、これを中グリッドとした。中グリッドも大グリッド同様の表示方法とし、1Aから10Jに分割した。この中グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、大グリッドと中グリッドの間にハイフン(-)を用い「17H-2B12」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

なお、当該地域では、平成23年の東日本大震災による地殻変動に対応するため、三角点位置および水準点標高の改定が行われているが(測地成果2011)、各調査の整合をとるため特に断りがない場合には、測地成果2000による座標値を掲載している。

各発掘調査区の座標は次のとおりである。

中谷内遺跡第12次調査

5G-3A (X座標:203350.000、Y座標:55190.000、緯度:37°49′51″2073、経度:139°07′37″1210)

5G-3A杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分04秒東偏し、磁北は真北に対し7度44分西偏する。

中谷内遺跡第15次調査

8G-4H (X座標:203040.000、Y座標:55260.000、緯度:37°49′41″1371、経度:139°07′39″8985)

8G-4H杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分06秒東偏し、磁北は真北に対し7度40分西偏する。

中谷内遺跡第16次調査

1区 10I-5B (X座標:202830.000、Y座標:55400.000、緯度:37°49′34″2950、経度:139°07′45″5657)

10I-5B杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分09秒東偏し、磁北は真北に対し8度10分西偏する。

2区 5I-7C (X座標:203310.000、Y座標:55410.000、緯度:37°49′49″8619、経度:139°07′46″1069)

5I-7C杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分10秒東偏し、磁北は真北に対し8度10分西偏する。

3区 4G-7D (X座標:203410.000、Y座標:55220.000、緯度:37°49′53″1469、経度:139°07′38″3644)

4G-7D杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分05秒東偏し、磁北は真北に対し8度10分西偏する。

4区 3H-1E (X座標:203570.000、Y座標:55330.000、緯度:37°49′58″3127、経度:139°07′42″9069)

3H-1E杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分08秒東偏し、磁北は真北に対し8度10分西偏する。

内野遺跡第8次調査

9O-7E (X座標:202910.000、Y座標:56030.000、緯度:37°49′36″7514、経度:139°08′11″3502)

9O-8F杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分26秒東偏し、磁北は真

北に対し7度45分西偏する。

内野遺跡第9次調査

10P-4F (X座標: 202840.000、Y座標: 56140.000、緯度: 37° 49' 34" 4566、経度: 139° 08' 15" 8289)

10P-4F 杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分28秒東偏し、磁北は真北に対し8度10分西偏する。

2) 調査方法

① 表土剥ぎ: 遺物包含層上面まで、遺物の出土に注意しながら重機(バックホウ)により除去した。排土は基本的に横置きし、必要に応じて場外に搬出した。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために、表土剥ぎと並行して調査区壁面に沿って土側溝を設置し、2時のポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅20cm、深さ20cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけたV字の溝を掘削した。土側溝により遺構の破壊が考えられたが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘: 重機で掘削後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土は人力で調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真: 実測図は断面図を1/20で作成した。平面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて作成し、あわせて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は35mm版、6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。さらにデジタルカメラでの撮影も行った。

④ 遺物取り上げ: 包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は点数が少ない地点が多く、層位・小グリッド単位ごと一括で取り上げた。

⑤ 自然科学分析: 土壌分析・植物珪酸体分析・花粉分析・樹種同定・放射性炭素年代測定(AMS)の科学分析を行った。

B 調査経過

1) 平成21年度調査(中谷内遺跡第12次調査)の経過

平成21年6月10日に着手前現況写真を撮影し、16日から諸準備を開始した。駐車場、農道の使用等の協議を行い、6月18日に機材・重機・プレハブ・休憩所・トイレなどを搬入・設置し、6月19日に発掘機材の搬入を行った。

6月22日から調査員1名、作業員6名の体制で、1区南西端より重機によって表土を除去する作業を開始し、重機掘削と並行して排水路掘削および法面仕上げを行った。6月26日には1区の表土掘削を終了し、2区に着手した。7月8日には2区の表土掘削作業を終了した。この間、7月6日より作業員を増員し、重機掘削の終了した1区南西側から包含層掘削および遺構検出・遺構の掘削・写真撮影・計測作業を開始した。7月中旬には1区中央部で南東から北西方向に延びる旧流路が検出された。7月17日に満日小学校3年生11名が職場見学授業の一環で来跡した。7月下旬には2区の遺構検出・掘削作業に着手し、南北方向に延びる旧流路付近でまとまって遺物が出土した。

8月5日までにほぼ遺構の精査を終了し、空撮に備えた清掃作業を8月6日～8月11日に行った。ラジコンヘリコプターおよび高所作業車による調査区全体の撮影を8月12日に実施した。

8月20日～26日まで、本調査と並行して県営ほ場整備事業満日地区の地区外用水路敷設に伴う内野遺跡・中谷内遺跡の範囲確認調査を実施した。

8月25日には自然科学分析サンプリングを行った。

8月26日～8月29日まで機材搬出、仮設設備等撤去を行い、8月31日に現地調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、上端面積399.53m²、下端面積316.04m²である。

2) 平成 23 年度調査の経過

a 中谷内遺跡第 15 次調査

平成 23 年 7 月 14 日から諸準備を開始し、15 日に着手前現況写真を撮影した。農道の使用等の協議を行い、7 月 19 日までに仮設建物・設備の設置、重機・発掘機材の搬入、調査範囲の設定などを行った。

7 月 21 日から調査員 1 名、作業員約 6 名の体制で、調査区北東端より重機によって表土を除去する作業を開始し、並行して排水路掘削および法面仕上げを行った。遺物包含層（VII層）が良好な状態で残存しており、調査区北東端部から 30m ほどの地点では土師器・須恵器がまとまって出土した。7 月 27 日までに表土掘削作業が終了した。

7 月 28 日夜半より激しい降雨があり、30 日まで調査掘削範囲を含めた付近一帯が湛水したため重機・機材をいったん撤収した。水が引いた後 8 月 1 日～3 日まで復旧作業を行い、8 月 4 日より重機掘削の終了した調査区北東端から包含層掘削および遺構検出・遺構の掘削・写真撮影・計測作業を開始した。8 月上旬から徐々に作業員を増員し、8 月 29 日から調査員 1 名が加わり、調査員 2 名、作業員約 12 名の体制で調査を進めた。調査区中央から南西寄りで微高地部、南西端で水田に伴うとみられる畦畔と低地部を検出した。この間、先の湛水の影響や遺構・遺物が当初想定よりも多いことなどから、工期に遅れが生じた。

9 月 23 日に自然科学分析サンプリングを行った。

9 月 26 日までにほぼ遺構の精査を終了し、並行して 9 月 26・27 日に清掃作業を行った。ラジコンヘリコプターおよび高所作業車による調査区全体の撮影を 9 月 29 日に実施し、9 月 30 日には現地調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、上端面積 420.5m²、下端面積 343.7m²である。

b 内野遺跡第 8 次調査

平成 23 年度の水田刈り入れ終了後に新津農業振興部側で調査予定地脇水田部に迂回路等を設置し、調査ヤードを確保した後、10 月 24 日に着手前現況写真を撮影し、24 日～28 日に鉄板・機材の搬入、仮設建物・設備の設置を行い、11 月 1 日から調査員 1 名、作業員 7 名体制で表土掘削を開始した。降雨や降雪の影響を避けるため、重機掘削の終了した部分にビニールハウスを設置し、包含層掘削および遺構検出・遺構の掘削・写真撮影・計測作業を行った。調査範囲中央部で遺構が集中し黒褐色の遺物包含層の残存を確認したが、遺物の出土は極めて少量である。

11 月 28・29 日に清掃作業を行い、ラジコンヘリコプターおよび高所作業車による調査区全体の撮影を 11 月 30 日に実施した。12 月 2 日に追加の遺構精査、壁面等の記録を行い、現地の仮設建物・設備・敷鉄板等の撤収に 12 月 6 日～23 日まで要した。現地調査作業は 12 月 16 日に終了している。

最終的な発掘調査面積は、上端面積 206.723m²、下端面積 172.716m²である。

2) 平成 24 年度調査の経過

平成 24 年 7 月 3 日より諸準備を開始し、12 日までに仮設建物・設備の設置、重機・発掘機材の搬入を完了した。調査箇所が内野遺跡と中谷内遺跡 1～4 区の 5 か所、それぞれ離れた地点に位置するため、調査員 2 名体制で、内野遺跡→中谷内遺跡 3 区と、中谷内遺跡 1 区→2 区→4 区とに分かれて調査を行った。

a 内野遺跡第 9 次調査

6 月 29 日に着手前現況写真を撮影し、7 月 10 日から調査員 1 名作業員 6 名で調査範囲北西端より表土掘削を開始した。調査範囲が用水路に隣接するため、表土掘削の進捗に合わせて水路崩落防止の土留工を行った。21 日には表土掘削を終了した。全域で攪乱を受けており、第 8 次調査で確認された黒褐色の遺物包含層の残存は一部しか認められないが、上層の盛土に古代の遺物が含まれる。調査区中央部および南東寄りでほぼ南北に延びる旧流路 2 条を検出した。8 月 1 日に全体撮影に備えた清掃作業を行い、8 月 2 日にラジコンヘリコプターおよび高所作業車による撮影を実施した。8 月 3 日～8 日に遺構の精査・掘削・記録等の追加作業を行ない、調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、上端面積 286.87m²、下端面積 222.98m²である。

b 中谷内遺跡第16次調査

6月29日・7月2日に全調査区の着手前現況写真を撮影し、7月6日から1区の農道碎石の除去作業を開始した。7月9日より調査員1名、作業員6名の体制で調査区南西端から重機によって表土を除去する作業を開始した。7月11日には表土掘削を終了し、遺構検出・掘削作業に入る。北東端部において微高地部および土坑などの遺構が検出された。7月19日には1区の調査と記録作業を終了した。

2区については、1区調査終了後、仮設建物・設備等の2・3区隣接地への移動作業を行い、7月26日より北東端から重機によって表土を除去する作業に着手した。8月3日には表土掘削を終了し、遺構検出・精査作業を開始した。調査区南西寄りで畝状遺構が検出された。8月10日には2区の完掘状況撮影を行い、8月20日までに空撮を残して2区の調査を完了した。この間、8月2日に内野遺跡と並行して1区のラジコンヘリコプターおよび高所作業車による全体撮影を実施した。

3区については、内野遺跡の調査終了後、8月8日から調査に着手した。体制は調査員1名、作業員約6名である。8月21日まで南西端から重機によって表土を除去する作業、22日から遺構検出・掘削作業を開始した。調査範囲中央から南西側微高地部で掘立柱建物などが検出された。微高地部では下層遺構が確認され、南西側20mの区間について2面調査が必要となり、10月初旬の調査終了までに2か月を要した。

4区については、2区の調査終了後、8月20日に調査区の設定を行い、22日に南東端から重機によって表土を除去する作業に着手した。当初幅1.9m、延長89mの路線を調査する予定であったが、表土直下から青灰色シルト層や泥炭層が厚く堆積しており、湿地にあたりと判断されたため、10mおきに2m四方の掘削範囲を設定する調査に切り替えた。AからHまで8か所の調査を8月29日までに終了した。

2～4区については、9月5日・13日の2回に分けてラジコンヘリコプターおよび高所作業車による全体撮影を実施した。

10月6日に現地説明会を開催し、地元の方々を中心に62名に会場いただいた。

11月1日までに仮設建物・設備等の撤収を行い、現地調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、1区上端面積 98.32m²、下端面積 63.14m²、2区上端面積 190.6m²、下端面積 138.42m²、3区上層上端面積 121.29m²、上層下端面積 91.22m²、3区下層は上下端面積とも 46.16m²、4区上端面積 31.1m²、下端面積 17.22m²である。中谷内遺跡第16次調査の合計は、上端面積 774.34m²、下端面積 579.14m²である。

C 調査体制

【平成21年度：中谷内遺跡第12次調査】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課 （課長：倉地一則 課長補佐：頓所洋一 埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行 埋蔵文化財係長兼主任：渡邊朋和）
調査担当	遠藤恭雄（新潟市埋蔵文化財センター 主査）

【平成23年度：中谷内遺跡第15次調査・内野遺跡第8次調査】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課・事務局	新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター（所長：高橋 保 所長補佐：丸山徳幸 主任：渡邊朋和）
調査担当	遠藤恭雄（新潟市埋蔵文化財センター 主査）
調査員	澤野慶子（新潟市文化財センター 囑託）

【平成 24 年度：内野遺跡第 9 次調査・中谷内遺跡第 16 次調査】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター（所長：高橋 保 所長補佐：丸山徳幸 主任：渡邊朋和）
調査担当	遠藤恭雄（新潟市文化財センター 主査）
調査員	笹澤正史（株式会社 吉田建設）

第 3 節 整 理 作 業

A 整 理 方 法

1) 遺 物

遺物量はコンテナ（内寸 54.5×33.6×10.0cm）にして合計約 150 箱である。平安時代の土器が中心であるが、鎌倉・室町時代の土器・石製品・木製品など各種の遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。① 洗浄。② 注記。③ 包含層：グリッド別の種別の重量計測。④ 遺構：遺物の器種別の重量・個体数計測。⑤ 接合。⑥ 報告書掲載遺物の抽出。⑦ 実測図、観察表作成。⑧ トレース図作成。⑨ 版下作成。実測図は整理補助員が原寸で作成し、トレース図と版下作成は、業者に委託してデジタル編集を行った。

2) 遺 構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した 1/20 の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の 1/80 と 1/40 の遺構平面図は測量業者が作成し、デジタルデータとした。

B 整 理 経 過

各年次の発掘調査中に出土遺物の水洗・注記を行った。調査終了後出土遺物の計測・接合・実測作業と、写真・図面整理、測量業者に委託した遺構平断面図の校正作業、図版のレイアウト等を行った。遺物写真の撮影、遺物トレース図作成・遺構・遺物図版データ編集は業者委託した。各年次の調査終了後の整理体制については、第 2 節の調査体制に併せて記した。

遺物の接合・実測・図版類の作成は、平成 24 年度中に終了し、報告書の執筆・編集は主に平成 26 年度に行った。平成 27 年度は報告書の刊行のみ行った。実施年次と主な内容は下表のとおりである。

年 度	内 容
平成 21 年度	中谷内遺跡第 12 次調査 遺構図版・遺構写真図版作成
平成 23 年度	中谷内遺跡第 12 次調査 遺物写真撮影 遺物図版・遺物写真図版作成
平成 24 年度	中谷内遺跡第 15・16 次調査・内野遺跡第 8・9 次調査 遺物写真撮影 遺構図版・遺構写真図版・遺物図版・遺物写真図版作成
平成 26 年度	報告書執筆・全体編集

C 整 理 体 制

【平成 26 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部文化財センター （所長：中野俊一 所長補佐：福地康郎 主任：渡邊朋和 本間敏則 遠藤恭雄）
調査担当	遠藤恭雄（新潟市文化財センター 主任）
支援組織	株式会社吉田建設
調査員	笹澤正史（株式会社吉田建設） 澤野慶子（新潟市文化財センター 囑託）

第4節 遺構・遺物の記述方法と分類

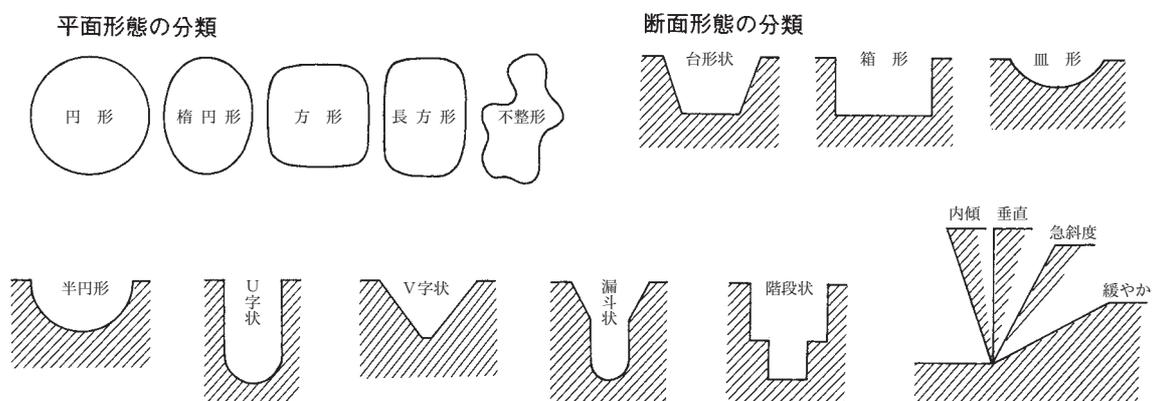
A 遺構の記述方法と分類

1) 遺構の記述方法

遺構番号は、調査年次ごとに遺構の種類にかかわらず通し番号を付した。中谷内遺跡第12次調査及び第16次調査については区ごとに通し番号を付した。遺構名は、略号を用いて井戸=SE、土坑=SK、性格不明遺構=SX、溝=SD、小土坑・柱穴=Pit、掘立柱建物=SB、柱穴列=SA、旧河道=河と表記した。遺構の記述は、調査年次・区ごとに、SE・SK・SX・SD・Pit・SB・河の順とした。また、同じ調査区内に同種の遺構が複数ある場合については、遺構番号の昇順とした。

2) 遺構の分類 (第3図)

遺構の形態分類は、第3図に示したように〔荒川・加藤1999〕に従ったが、一部表現を変えて使用した。



第3図 遺構の平面・断面形態の分類 (荒川・加藤1999を一部改変)

B 遺物の記述方法と分類

1) 遺物の記述方法

遺物の記述は、種別ごとに遺構出土遺物、遺構外出土遺物の順とした。

土器の製作技法に関わる部分は、山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか1989〕を参考にロクロの使用の有無で成形・調整の表現を以下のように記した。

1. ロクロ使用 - 「ロクロナデ」、ロクロ未使用 - 「ナデ」。
2. ロクロ使用 - 「ケズリ」、ロクロ未使用 - 「手持ちヘラケズリ」。
3. ロクロ使用 - 「カキメ」、ロクロ未使用 - 「ハケメ」。
4. ロクロ使用 - 「ロクロミガキ」、ロクロ未使用 - 「ミガキ」。

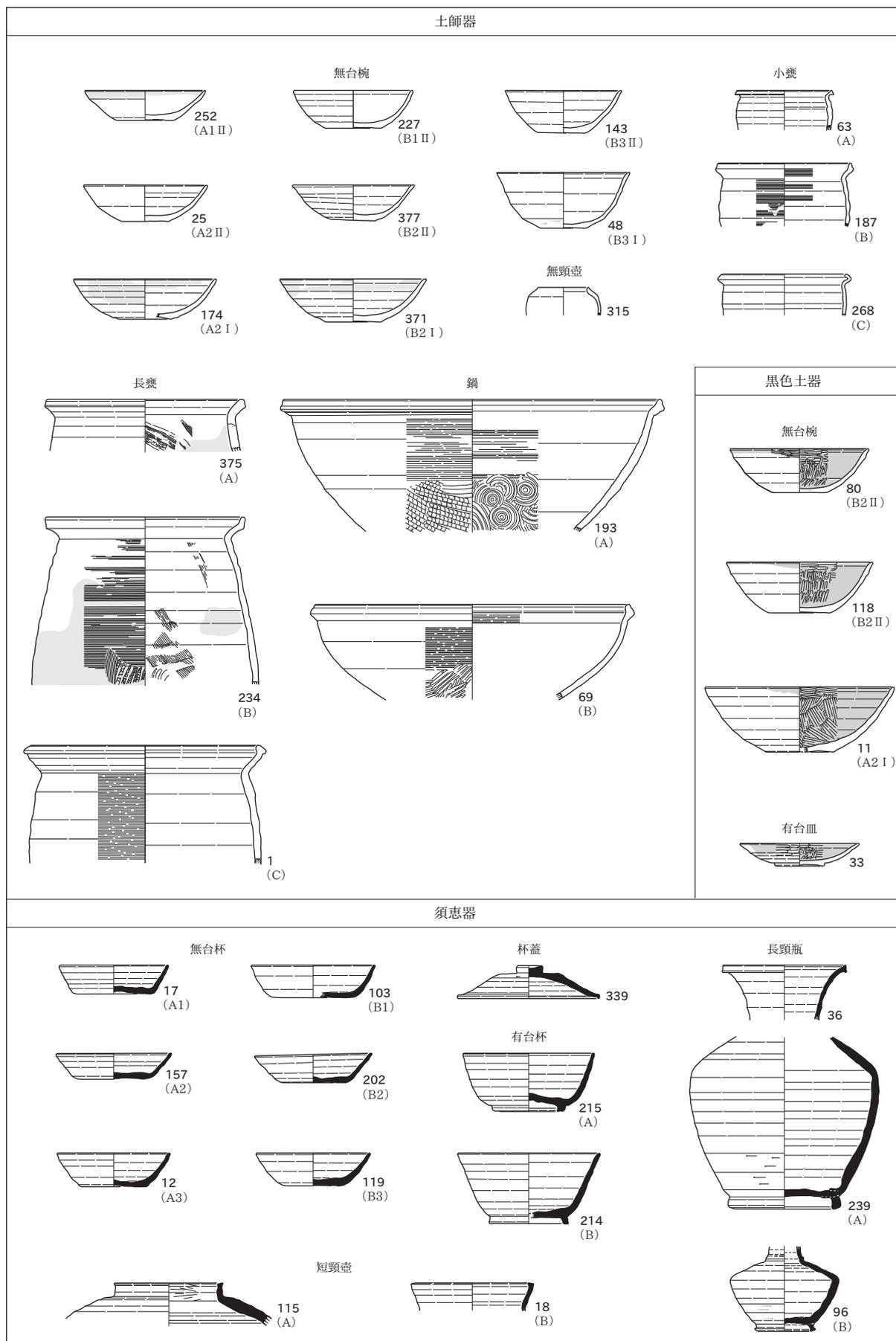
また、ロクロ台からの製品の切り離し方法については、糸によるものを「糸切り」、板状工具によるものを「ヘラ切り」と表現した。なお、タタキ技法により製作された土器は、タタキ板と当て具の痕跡をそのまま記した。

土器の胎土は、肉眼で観察可能な鉱物等のみ示した。須恵器については推定される窯場の産地も併記した。

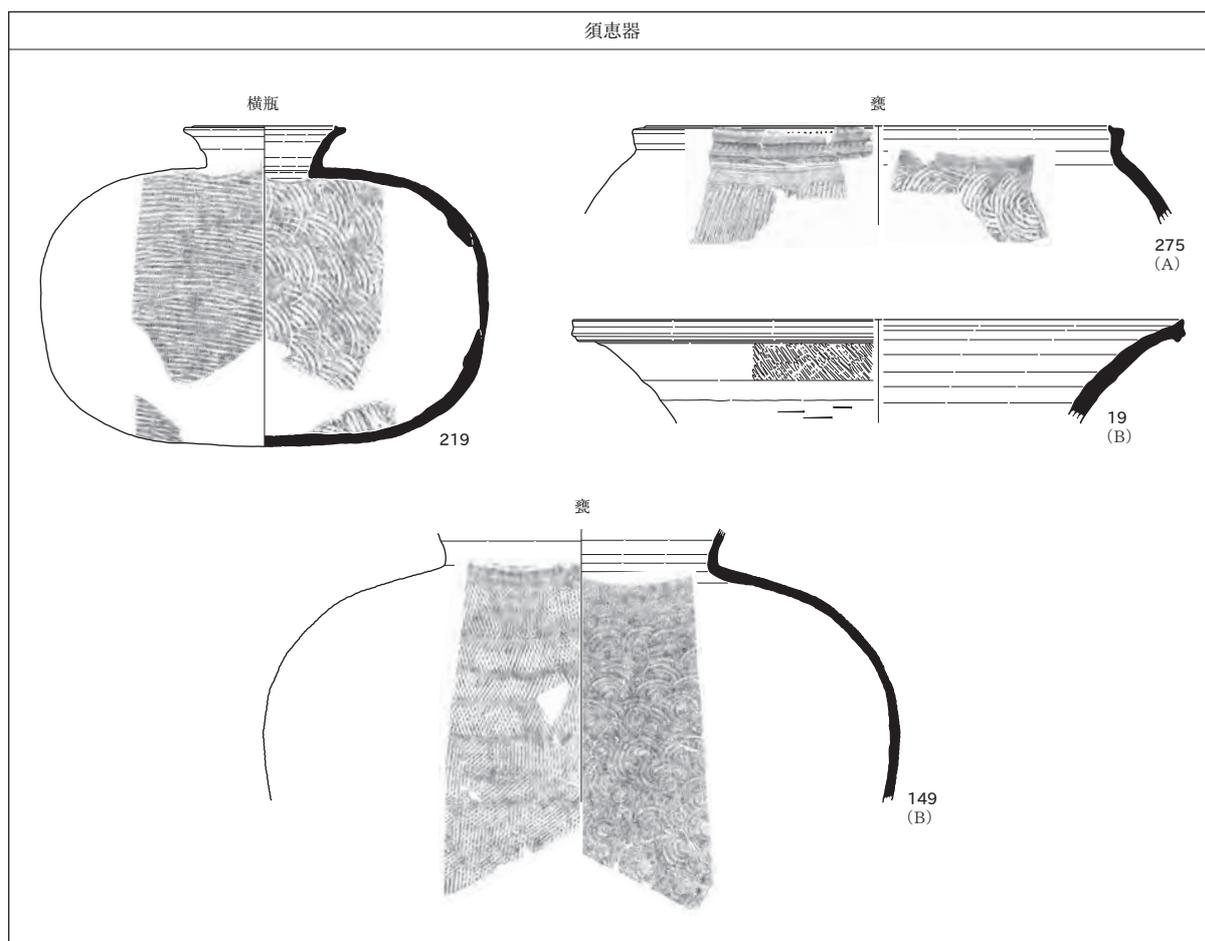
2) 遺物の分類 (第4・5図)

今回の調査で出土した遺物は、中谷内・内野遺跡共に大半が古代の土器であり、他の遺物は非常に少ない。このため、器種分類は古代の土器のみとし、ほかには個別に特徴を記すにとどめた。

古代の土器は、土師器、黒色土器、須恵器があり、施釉陶器はない。器種は、土師器が無台碗・有台碗・無頸壺・長甕・小甕・鍋、黒色土器が無台碗・有台碗・有台皿、須恵器が無台杯・杯蓋・有台杯・長頸瓶・短頸壺・



第4図 中谷内・内野遺跡古代土器分類図1 (S=1/6)



第5図 中谷内・内野遺跡古代土器分類図2 (S=1/6)

横瓶・甕がある。次に、器種ごとに細分した分類を記す。

土師器

無台椀 別表6～8の遺構出土古代土器器種構率表にあるように、遺物全体の出土量に占める割合は高い。ここでは、器形でA・Bに、器高指数値(器高/口径×100)と底径指数値(底径/口径×100)で1～3に、口径値でI・IIに区分し、これらを組み合わせて型式分類した。

無台椀A類 口縁部が内湾または外傾する器形となるもの。器高指数34以下・底径指数41以上を1、器高指数が同じで底径指数40以下を2、口径14cm以上をI、14cm未満をIIとして、A1 I・II、A2 I・IIの2型式2法量に分類した。

無台椀B類 口縁部が外反する器形となるもの。器高指数・底径指数値による区分はA類と同様であるが、B類は底径指数が40以下で器高指数が35を超えるものがあり、これを3としてB1 I・II、B2 I・II、B3 I・IIの3型式2法量に分類した。

無頸壺 1個体のみ出土した。口径5.2cmと小形で、口縁部が立ち上がらない器形となる。周辺の遺跡でも出土が稀な器種である。

小甕 出土量に占める割合は比較的高い。口径・器高共に20cm以下のものを小甕とした。ロクロ成形を基本とし、胴部上半外面をカキメ、下半外面をヘラケズリ調整するものもある。全体の器形が判明するものがないため口縁端部の形状で細分し、口縁帯を持つものをA類、摘み上げるものをB類、内折するものをC類とした。

長甕 出土量に占める割合は比較的高い。口径・器高共に20cmを超えるものを長甕とした。ロクロ成形後底部をタタキ出して丸底化するのを基本とし、胴部上半外面をカキメ、内面をハケメ調整するものもある。小甕同様全体の器形が判明するものがないため口縁端部の形状で細分した。分類基準は、小甕と共通する。

鍋 出土量に占める割合はあまり高くない。図化可能なものはすべて口径 30cm を超え、口径に比べて器高が低いボール状の器形となる。ロクロ成形後底部をタタキ出して丸底化している。胴部上半外面は、カキメ調整されるものが多い。甕類同様に口縁部の形状で細分し、口縁帯を持つものまたは摘み上げ状となるものを A 類、内折するものを B 類とした。

黒色土器

無台椀 細分の方法は、土師器無台椀と同様である。

無台椀 A 類 口縁部が内湾または外傾する器形となるもの。器高指数 35 未満を 1・器高指数 35 以上を 2、口径 17cm 以上を I、口径 17cm 未満を II として、A1 I・II、A2 I・II の 2 型式 2 法量に分類した。

無台椀 B 類 口縁部が外反する器形となるもの。A 類と同一の基準により区分し、B1 I・II、B2 I・II の 2 型式 2 法量に分類した。

高台皿 底部に円盤状高台を貼りつけるいわゆるベタ高台の皿。中谷内遺跡第 12 次調査以外での出土はない。内外面を丁寧にヘラミガキ調整する。

須恵器

無台杯 細分の方法は、土師器無台椀と同様であるが、口径値の大きさに明確な違いが認められないため、法量による区分はしていない。

無台杯 A 類 口縁部が内湾または外傾する器形となるもの。器高指数 30 未満、底径指数 65 以上を 1、器高指数が同じで底径指数 65 未満を 2、器高指数 29 以上・底径指数 60 未満を 3 として A1・A2・A3 の 3 型式に分類した。

無台杯 B 類 口縁部が外反する器形となるもの。器高指数・底径指数値の区分は A 類と同様の基準を用いて B1・B2・B3 の 3 型式に分類した。

杯 蓋 器高指数 45 を超える深身の有台杯とセットになると推定される蓋。摘みや口縁部の形状にバラエティーがあるが、出土量が少ないため細分はしなかった。

有台杯 器高指数値による区分で細分した。

有台杯 A 類 器高指数 46 以下のもの。B 類と器高指数上の明確な違いはないが、形状が異なるためあえて B 類と区分した。

有台杯 B 類 器高指数 47 以上のもの。A 類よりもより深身の印象を与える器形となる。

長頸瓶 口縁部が長く伸びて外反する器形を持つ壺類。全体の器形がわかるものはない。概ね器高が 20cm を超えるものを A 類、15cm 以下のものを B 類とした。胴部下半外面をケズリ調整するものが多い。

短頸壺 口縁部が短く直立する壺類。出土量は少なく全体の器形がわかるものはない。胴部が肩張りとなる A 類、肩が張らず胴長の器形と推定されるものを B 類とした。B 類はいわゆる長胴壺〔北野 1999〕である。

横 瓶 俵状の胴部に短く外反する口縁部が付く器種。出土量は少なく大半が破片である。

甕 口径・器高ともに 35cm を超える大形の器種。短く直立する口縁部を持つものを A 類、大きく外反する口縁部のものを B 類とした。胴部はタタキ成形によって作られている。

第IV章 中谷内遺跡

第1節 概要

第12・15・16次調査は、すべて用水路建設予定地であったため、調査範囲が狭く遺構の形状・大きさを明らかにできなかったものも多い。特に掘立柱建物については、柱穴と想定できる Pit は検出できたが第16次調査3区を除き建物跡と確定するには至らなかった。主な遺構は、井戸、土坑、性格不明遺構、溝、畝状小溝群、小土坑・柱穴、掘立柱建物、柱穴列、旧河道があり、時期が確定できたものはすべて平安時代のものであった。

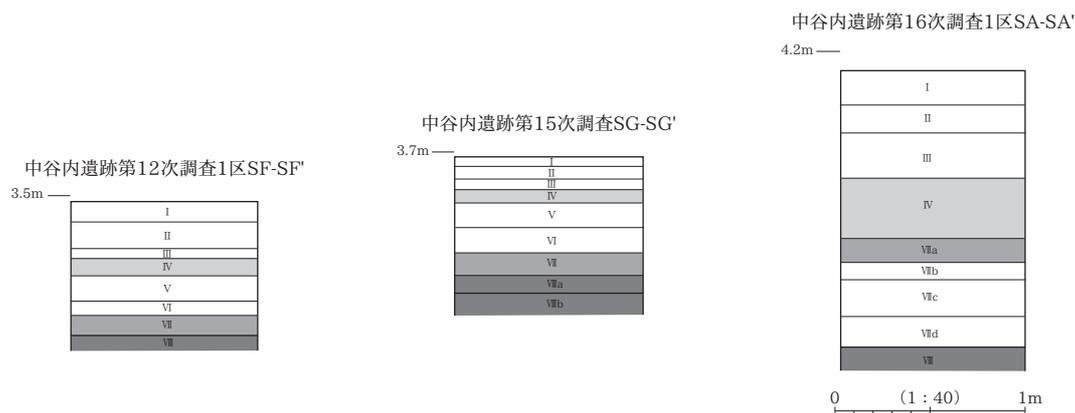
遺物は、古墳時代、平安時代（古代）、鎌倉・室町時代（中世）のものがある。遺物出土総量は、コンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）換算で47箱である。土器は、古墳時代の黒色土器杯を除きすべて平安時代の土師器・須恵器である。そのほかの遺物は、中世以降の陶磁器、石製品、木製品が少量出土したにすぎない。

第2節 層序（第6図、写真図版5）

中谷内遺跡の基本層序は、第2次調査〔立木ほか1999〕及び第9次調査〔北村・菊池ほか2004〕で区分された層序を踏襲し、今回の報告では第12次調査の成果を基準として色調・土質を調査区全体に対応させた。ただし、地点によっては同一層としながらも地質の違いにより色調・土質が異なる部分もある。遺構確認面は標高2.0～3.4mで推移している。以下に基本層序を記す。

- I層 灰オリーブシルト（5Y4/1）粘性ややあり、しまりややあり、畑・水田耕作土。
※ 高所では地点により色調が黄褐色味を帯びる。
- II層 灰色シルト（7.5Y5/1）粘性ややあり、しまりややあり、畑耕作土・水田床土。
※ 低所では地点により色調が青灰色味を帯びる。
- III層 灰色シルト（7.5Y6/1）粘性ややあり、しまりややあり。
※ 高所では地点により色調が黄褐色味を、低所では灰白色味を帯びる。
- IV層 灰色シルト（5Y5/1）粘性ややあり、しまりややあり。黒色の有機質堆積物バンド状に入る。鉄分含む。
※ 低所では色調が灰白～青灰色味を帯びる。
- V層 黄灰色シルト（2.5Y5/1）粘性ややあり、しまりややあり。IV層灰色シルトを斑状に含む。
※ 低所では色調が灰白～青灰色味を帯びる。
- VI層 暗褐色シルト（10YR3/3）粘性あり、しまりややなし。鉄分含む。
※ 低所では粘土化して粘性・しまりとも強い。色調は灰白～青灰色味を帯びる。
- VII層 黄灰色シルト（7.5YR4/1）粘性ややあり、しまりややなし。鉄分含む。古代遺物包含層。
※ 低所ではA～D層に細分され、粘土化して粘性・しまりとも強い。色調は灰白～青灰色味を帯びる。
- VIII層 灰黄色シルト（2.5Y6/2）粘性あり、しまりややなし。鉄分含む。
※ A・B層に細分される。地点によっては粘土化して粘性・しまりとも強く色調が灰白～青灰色味を帯びる。

I～II層は現・旧水田及び畑の耕作土と床土である。遺物の出土はほとんどない。調査範囲全域でIV層に有機質堆積物の黒色バンドがみられ、この層が各地点の層序を整合させるための鍵層となっている。IV層を挟んで上



第6図 中谷内遺跡基本土層柱状模式図

下に洪水堆積層と推測されるシルト層が堆積し、V層シルト層下に古代の遺物を包含する遺物包含層（VII層）が存在する。遺構確認面は、包含層中となるVII b層上面とVIII層上面の2面存在する。現地表面から遺構確認面までの深さは、0.4～1.0m程である。VIII層以下に古代以前の遺物包含層は確認できない。

第3節 遺 構（図版8～45、写真図版1～35）

A 遺構の概要

詳しい遺構の計測値等は別表1に示した。遺構出土土器の詳細は別表2に示している。第12・15・16次調査で検出した遺構総数は294基であり、ほかに古代の旧河道を3条検出した。内訳は、井戸1基、土坑17基、性格不明遺構5基、溝（畝状小溝含む）70条、小土坑・柱穴197基、掘立柱建物2棟、柱穴列2基、旧河道3条である。

B 第12次（09）調査遺構各説

第12次調査では、土坑5基、溝5条、小土坑・柱穴96基、旧河道2条を検出した。

1) 1区遺構各説

a 土 坑

SK9（図版8・10・15、写真図版6）

5F-8H11・16に位置する。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.88m、短軸0.80m、深さ0.16mで、覆土は単層である。遺物の出土はない。

SK12（図版8・10・15、写真図版6）

5F-7H4に位置する。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.63m、短軸0.58m、深さ0.18mで、覆土は2層に分層できる。1層から平安時代の土師器無台椀・長甕（図版46）が一括廃棄されたような状況で出土している。

SK20（図版8・12・15、写真図版6）

5G-1A10に位置する。平面形は円形、断面形は半円形である。確認面で長軸0.48m、短軸0.46m、深さ0.10mで、覆土は単層である。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕（図版46）が出土した。

b 溝

SD1（図版8・10・15、写真図版7）

5F-8G18・19・23・24に位置する。南東から北西方向（N-34°-W）に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅1.30m前後、深さ0.1m前後で、覆土は単層である。土師器が出土している。

SD7 (図版8・10・15、写真図版7)

5F-6H21・22、5F-7H2・3・7・8・12・13に位置する。南東～北西方向(N-32°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅2.60m前後、深さ0.28m前後で、覆土は2層に分層できる。各層から平安時代の土師器、黒色土器、須恵器(図版46・47)、石製品(図版54)、製鉄関連遺物(羽口、鉄滓)が出土している。

SD8 (図版8・10・15、写真図版7)

5F-8H21・22に位置する。南西から北東方向(N-34°-E)に延び、途中で南西方向に屈曲する。遺構の南東側半分が調査区外にあるため、形状・大きさともに詳細は不明である。検出された部分での断面形は台形状で、確認面からの深さは0.22m前後である。覆土は単層である。須恵器小片が出土している。

SD11 (図版8・11・15、写真図版8)

5F-5I8・9に位置する。南東から北西方向(N-63°-W)に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅0.70m前後、深さ0.37m前後で、覆土は2層に分層できる。土師器無台椀・長甕・鍋、須恵器無台杯・杯蓋(図版47)が出土している。

c 小土坑・柱穴

1区では10基検出された。平面形は円形または楕円形で、直径0.30m未満、深さ0.20m未満の小Pitのみである。

d 旧 河 道

河1 (図版8・11・16、写真図版8)

5F-6H5・10、5F-6I1・2・6・7に位置する。東西方向(N-70°-W)に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅2.12m前後、深さ0.48m前後である。覆土は4層に分層でき、主に最下層となる4層から土師器、黒色土器、須恵器(図版48)が出土している。出土土器には、底部に墨書のある須恵器無台杯2点も含まれる。河床から自然流木が出土しており、加速器質量分析(AMS)法により放射性炭素(¹⁴C)年代測定を実施したところ、1号株が補正¹⁴C年代(yBP)で(1360±40y.BP)、2号株が(1340±40y.BP)と測定された。暦年較正年代は、1号株が2σ:AD640～AD690年、1σ:AD650～AD670年、2号株が2σ:AD640～AD720年、AD740～AD770年1σ:AD650～AD680年の暦年代幅を示すが、出土土器の年代観から100～150年ほど古い年代値である。測定資料が自然木であったことが遺物の年代観と暦年代値が大きくかけ離れた原因の一端であろうか。

2) 2区遺構各説

a 土 坑

SK101 (図版8・13・15・16、写真図版7)

5G-1D23に位置する。遺構の南西側半分は調査区外にあり、正確な形状・大きさは不明である。平面形は円形と考えられ、断面形は台形状である。確認面で長軸0.86m、深さ0.42mで、覆土は3層に分層できる。土師器が出土している。河2、Pit99・Pit100と重複し、断面観察による構築順序は、河2→本遺構→Pit99・Pit100である。

SK114 (図版8・12・13・15、写真図版7)

5G-1D22に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸0.54m、短軸0.48m、深さ0.18mで、覆土は単層である。平安時代の土師器鍋(図版46)などが出土している。Pit110と重複し、断面観察による構築順序は、Pit110→本遺構である。

b 溝

SD53 (図版8・12・13・15、写真図版8)

5G-1C14・15・19・20、5G-1D16に位置する。南西から北東方向(N-30°-E)に延び、断面形は皿形となる。確認面で幅2.95m前後、深さ0.10m前後で、覆土は単層である。平安時代の土師器、黒色土器、須恵器(図版47)がまとめて出土している。

c 小土坑・柱穴

Pit110 (図版 8・12・13・15、写真図版 7)

5G-1D22 に位置する。SK114 に南東側を壊されているため、正確な形状と大きさは不明である。断面形は U 字状で、深さは 0.15m である。覆土は単層である。平安時代の土師器鍋 (図版 48) が出土している。

その他の Pit は、2 区東寄りに集中する。1 区同様、平面形は円形または楕円形で、直径 0.30m 未満、深さ 0.20m 未満の小 Pit がほとんどである。

d 旧河道

河 2 (図版 8・13・15・16、写真図版 8)

5G-1D22～24、5G-2D3～5・10、5G-2E1・6・7・11・12 に位置する。南北方向 (N-0°-S) に延び、断面形は概ね台形状となる。右岸側の一部はテラス状となる。確認面で幅 10.2m 前後、深さ 0.41m 前後で、覆土は 4 層に分層できる。遺物の大半は 1・2 層から出土しており、平安時代の土師器、黒色土器、須恵器 (図版 48～52) が多い。須恵器は、底部に墨書のある無台杯を 1 点含む。他に磨石 1 点 (図版 54) が出土している。

C 第 15 次 (11) 調査遺構各説

第 15 次調査では、土坑 9 基、性格不明遺構 5 基、溝 (畝状小溝含む) 40 条、小土坑・柱穴 57 基を検出した。

a 土坑

SK8 (図版 17・20・26、写真図版 14)

8G-1H18・19 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、形状・大きさは不明である。断面形は皿形で、深さは 0.16m である。覆土は 2 層に分層できる。平安時代の土師器無台碗と須恵器無台杯 (図版 55) が出土している。

SK19 (図版 17・20・26、写真図版 14・15)

8G-1H15 に位置する。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.88m、短軸 0.55m、深さ 0.13m で、覆土は単層である。平安時代の土師器小甕と須恵器無台杯 (図版 55) などが出土している。SK20・21 と重複し、断面観察による構築順序は、SK21 → SK20 → 本遺構である。

SK20 (図版 17・20・26、写真図版 15)

8G-1H15 に位置する。形状は平面形が楕円形、断面形は皿形で、確認面で長軸 0.66m、短軸 0.41m、深さ 0.12m である。覆土は単層で、遺物の出土はない。

SK21 (図版 17・20・26、写真図版 15)

8G-1H15 に位置する。調査区外に遺構が一部含まれるため、正確な遺構の形状・大きさは不明であるが、おおよそ平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で短軸 0.59m、深さ 0.11m で、覆土は単層である。土師器が出土している。

SK24 (図版 17・20・26、写真図版 15)

8G-1H14・19 に位置する。遺構の一部を SD3 と Pit28 に壊されているため、正確な遺構の形状・大きさは不明であるが、おおよそ平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.77m、深さ 0.33m で、覆土は 3 層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。

SK87 (図版 17・22・26、写真図版 15)

8G-6F4・9 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は台形状で、長軸 0.49m、深さ 0.35m である。覆土は 5 層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。SD80、Pit92 と重複し、断面観察による構築順序は、SD80・Pit92 → 本遺構である。

SK103 (図版 17・23・27、写真図版 16)

8G-7F1 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は台

形状で、短軸 0.74m、深さ 0.30m である。覆土は 3 層に分層できる。平安時代の土師器無台椀（図版 55）などが出土している。

SK106（図版 17・23・27、写真図版 16）

8G-8E12 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は皿形で、長軸 0.95m、深さ 0.25m である。覆土は 2 層に分層できる。須恵器が出土している。

SK111（図版 17・23・27、写真図版 16）

8G-8E21 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は台形状で、長軸 0.55m、深さ 0.32m である。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期かそれ以降に位置付けられる。覆土は 3 層に分層できる。平安時代の土師器小甕（図版 55）などが出土している。

b 性格不明遺構

SX5（図版 17・19・27、写真図版 16）

7G-8J25、7G-9J4・5・10、7H-9A1・6 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は皿形で、深さは 0.53m である。Ⅴ層上面から掘り込まれているため、中世以降に位置付けられる。覆土は 3 層に分層できる。平安時代の須恵器甕（図版 55）が出土している。遺構の形状や広がり、深さから、旧河道または地形の傾斜部分である可能性がある。

SX25（図版 17・20・24、写真図版 16）

8G-1H25、8G-2H4・5・9 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は皿形で、深さは 0.15m である。覆土は 2 層に分層できる。平安時代の須恵器無台杯・甕（図版 55）などが出土している。遺構の形状と深さ、位置関係から SK8 と同一遺構の可能性があり、溝状遺構とすべきか。

SX112（図版 17・23・25・27、写真図版 16）

8G-9D9・10・13・14・18・19・22・23・24 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は皿形で、深さは 0.22m である。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期かそれ以降に位置付けられる。覆土は 3 層に分層できる。土師器、須恵器が出土している。遺構の形状と深さ、位置関係から SD9 と同一遺構と推測され、水田に関する遺構か地形を反映したものの可能性がある。

SX114（図版 17・23・27、写真図版 16・17）

8G-9D5・9・10 に位置する。SD107 と重複するため、正確な形状・大きさは不明である。また、新旧関係もはっきりしない。断面形は皿形で、短軸 0.62m、深さは 0.06m である。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期かそれ以降に位置付けられる。覆土は単層である。土師器が出土している。

SX115（図版 17）

8G-8D18・19 に位置する。明確な掘り込みがなく、窪地に包含層が落ち込んだ痕跡であった可能性が高い。土師器小甕（図版 56）などが出土している。

c 溝

SD1（図版 17・20・24・28、写真図版 17）

8G-1H25、8G-1I16・21 に位置する。南西から北東方向（N-60° -E）に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.43m 前後、深さ 0.30m 前後である。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期かそれ以降に位置付けられる。覆土は 3 層に分層できる。平安時代の土師器無台椀・小甕・長甕、須恵器無台杯（図版 56）が出土している。SX25、SD4・7 と重複し、断面観察による構築順序は、SX25・SD4・7 → 本遺構である。

SD2（図版 17・20・26・28、写真図版 17）

8G-1H20・25、8G-1I11・12・16・17 に位置する。南西から北東方向（N-55° -E）に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.63m 前後、深さ 0.38m 前後である。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期か

それ以降に位置付けられる。覆土は5層に分層できる。平安時代の土師器無台椀・小甕・長甕・鍋、黒色土器無台椀(図版56)などが出土している。SD4と重複し、断面観察による構築順序は、SD4→本遺構となる。

SD3 (図版17・20・24・26・28、写真図版17)

8G-1H9・13・14・15・19・20に位置する。南東から北西方向(N-44°-W)に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅0.50m前後、深さ0.28m前後で、覆土は2層に分層できる。平安時代の土師器無台椀、須恵器無台杯・甕(図版56)などが出土している。SK24、SD22、Pit28と重複し、断面観察による構築順序は、SK24→本遺構→SD22、Pit28である。

SD4 (図版17・20・24・28、写真図版18)

7G-10I22、8G-1H15・20・25、8G-1I2・6・7・11・12・16・21、8G-2H5・10に位置する。南北方向(N-9°-E)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅2.00m前後、深さ0.25m前後あり、ほかの溝に比べて大形である。覆土は3層に分層できる。平安時代の土師器無台椀・小甕・長甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・長頸瓶・横瓶(図版57～59)、石製品(図版66)などが出土している。多くの遺構と重複するが断面観察で構築順序が判明したのはSD2のみで、本遺構→SD2である。

SD7 (図版17・20・24・28、写真図版18)

7G-10I18・22・23、8G-1I2・3・7・11・12・16・17・21に位置する。南北方向(N-17°-E)に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅0.48m前後、深さ0.22m前後である。覆土は2層に分層できる。平安時代の土師器、須恵器無台杯が多く出土したが、図化できたのは土師器鍋と須恵器無台杯(図版60)のみである。SD4とPit6と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD4、Pit6である。

SD9 (図版17・20・24・28、写真図版19)

8G-1H13・18に位置する。南東から北西方向(N-29°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.44m前後、深さ0.18m前後で、覆土は2層に分層できる。平安時代の須恵器無台杯(図版60)などが出土している。SK8、Pit26と重複し、本遺構→SK8、Pit26である。

SD15 (図版17・20・28、写真図版19)

7G-10I23に位置する。南東から北西方向(N-59°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.25m前後、深さ0.08m前後で、覆土は単層である。土師器が出土している。Pit16と重複するが、新旧関係は不明である。Pit14と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→Pit14である。

SD22 (図版17・20・24、写真図版19)

8G-1H13・14・19に位置する。南東から北西方向(N-40°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.55m前後、深さ0.16m前後で、覆土は2層に分層できる。平安時代の土師器無台椀・小甕(図版60)などが出土している。SD3と重複し、断面観察による構築順序は、SD3→本遺構である。

SD44 (図版17・20・24、写真図版19)

8G-2H4・9に位置する。南東から北西方向(N-40°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.81m前後、深さ0.18m前後で、覆土は2層に分層できる。土師器が出土している。SX25、SD45と重複し、断面観察による構築順序は、SX25、SD45→本遺構である。

SD45 (図版17・20・24・28、写真図版19)

8G-2H9・14に位置する。南北方向(N-21°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.96m前後、深さ0.12m前後で、覆土は単層である。遺物の出土はない。SD44、Pit60と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD44、Pit60である。

SD46 (図版17・20・24・28、写真図版19)

8G-2H8・9・14に位置する。南北方向(N-11°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.34m前後、深さ0.12m前後で、覆土は単層である。土師器が出土している。SD45、Pit61と重複するが、新旧関係は不明。

SD50 (図版 17・20・21・29、写真図版 20)

8G-3H4・5・8・9・14 に位置する。南北方向 (N-20° -E) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 1.40m 前後、深さ 0.45m 前後で、他の溝よりも比較的大きく掘り込みもしっかりしている。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期かそれ以降に位置付けられる。覆土は 3 層に分層できる。平安時代の土師器無台椀、須恵器無台杯・甕 (図版 60) などが出土している。

SD51 (図版 17・21・24・29、写真図版 20)

8G-3G13・14・17・18・19・20・24・25、8G-3H16 に位置する。南東から北西方向 (N-59° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 2.39m 前後、深さ 0.39m 前後で、他の溝よりも比較的大きく掘り込みもしっかりしている。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期かそれ以降に位置付けられる。覆土は 3 層に分層できる。平安時代の土師器無台椀・小甕・長甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・長頸瓶 (図版 60・61)、石製品 (図版 67) などが出土している。遺構の大きさと深さ、位置関係及びⅦ層を掘り込むことから SD50 に接続する可能性がある。

SD55 (図版 17・21・22・29、写真図版 20・21)

8G-4G21・22 に位置する。東西方向 (N-86° -E) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.78m 前後、深さ 0.21m 前後である。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期かそれ以降に位置付けられる。覆土は 4 層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。

SD58 (図版 17・22・25・29、写真図版 21)

8G-5F10、8G-5G1・2・6・7 に位置する。南西から北東方向 (N-65° -E) に延び、断面形が箱形となる。確認面で幅 0.60m 前後、深さ 0.18m 前後である。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期以降に位置付けられる。覆土は 3 層に分層できる。須恵器無台杯 (図版 61) などが出土している。

SD62 (図版 17・22・29)

8G-5G17・18 に位置する。南西から北東方向 (N-25° -E) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.46m 前後、深さ 0.35m 前後である。Ⅶ層上面から掘り込まれているため、古代の新しい時期かそれ以降に位置付けられる。覆土は 4 層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。

SD63 (図版 17・21・29)

8G-3G12・13・17・18 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。南西から北東方向 (N-31° -E) に延び、断面形が台形状となる。深さは 0.28m 前後である。覆土は 2 層に分層できる。遺物の出土はない。

SD64 (図版 17・21・24)

8G-4G4 に位置する。南東から北西方向 (N-42° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.67m 前後、深さ 0.16m 前後で、覆土は 2 層に分層できる。土師器小甕 (図版 61) などが出土している。

SD65 (図版 17・22・29、写真図版 21)

8G-5G11・12・16・17 に位置する。南西から北東方向 (N-50° -E) に延び、断面形が半円形となる。確認面で幅 0.60m 前後、深さ 0.29m 前後で、覆土は 3 層に分層できる。平安時代の土師器・須恵器が出土している。SD72 と重複し、断面観察による構築順序は、SD72 → 本遺構である。遺構の形状と大きさ、位置関係から SD66 と同一遺構の可能性はある。

SD66 (図版 17・22・25・30、写真図版 21・22)

8G-5F19・20・22・23・24・25、8G-6F1・2・3 に位置する。南西から北東方向 (N-60° -E) に延び、断面形が箱形または台形状となる。確認面で幅 0.58m 前後、深さ 0.27m 前後で、覆土は 3 層に分層できる。土師器長甕 (図版 61) などが出土している。SD67 と重複し、断面観察による構築順序は、SD67 → 本遺構である。

SD67 (図版 17・22・25、写真図版 22)

8G-5F19・20・24・25 に位置する。東西方向 (N-75° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 2.44m 前後、深さ 0.21m 前後で、他の溝よりも比較的大きく掘り込みもしっかりしている。覆土は 2 層に分層できる。古墳時代の土師器甕や古代の土師器・須恵器が出土している。SD66・78 と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD66・78 である。

SD70 (図版 17・23・25・30、写真図版 22)

8G-7E9・10・14・15・20、8G-8F1 に位置する。南東から北西方向 (N-23° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 1.40m 前後、深さ 0.40m 前後で、他の溝よりも比較的大きく掘り込みもしっかりしている。覆土は 3 層に分層できる。平安時代の土師器小甕・長甕、須恵器無台杯 (図版 61) などが出土している。SD104 と重複し、断面観察による構築順序は、SD104 →本遺構である。本遺構は、形状と大きさから用水路に関する遺構の可能性はある。

SD71 (図版 17・23・25・30、写真図版 22)

8G-7E14・19・20・25、8G-8E5・10、8G-8F1・6 に位置する。南東から北西方向 (N-24° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.70m 前後、深さ 0.24m 前後で、覆土は 3 層に分層できる。古墳時代の黒色土器杯、平安時代の土師器小甕・長甕・鍋 (図版 61) などが出土している。本遺構は、形状と大きさから用水路の可能性はある。

SD72 (図版 17・22・29、写真図版 23)

8G-5G12・17・18 に位置する。南東から北西方向 (N-36° -W) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.62m 前後、深さ 0.37m 前後で、覆土は 3 層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。SD62・65 と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD65 であるが、SD62 との新旧関係は不明である。

SD76 (図版 17・22・29、写真図版 23)

8G-5G11 に位置する。南西から北東方向 (N-55° -E) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.44m 前後、深さ 0.25m 前後で、覆土は 2 層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。

SD93 (図版 17・23・25・30、写真図版 22)

8G-7E14・19・24・25、8G-8E4・5・10 に位置する。南北方向 (N-20° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.58m 前後、深さ 0.20m 前後で、覆土は 3 層に分層できる。平安時代の土師器無台碗・小甕・長甕、須恵器無台杯 (図版 62) などが出土している。なお、断面観察から SD71 と同時に本遺構が埋没したと推定でき、並列して構築されていることから、SD71 と本遺構は共通の使用目的で掘削されたと考えられる。

SD94 (図版 17・23・25・31、写真図版 22)

8G-7E18・19・24、8G-8E4 に位置する。南北方向 (N-20° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.49m 前後、深さ 0.19m 前後で、覆土は 3 層に分層できる。土師器が出土している。SD93 と重複するが、新旧関係は不明。本遺構は、SD70・71・93 と並行に構築されており、共通の使用目的で掘削されたと考えられる。

SD95 (図版 17・23・25・31、写真図版 22)

8G-7E18・23・24、8G-8E3・4・5・9・10 に位置する。南東から北西方向 (N-28° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 1.50m 前後、深さ 0.14m 前後と深さに対して幅が広い。覆土は 2 層に分層できる。土師器が出土している。本遺構は、SD70・71・93・94 と並行に構築されており、共通した使用目的で掘削されたと考えられる。

SD100 (図版 17・23・30、写真図版 24)

8G-6F16・17・22 に位置する。南東から北西方向 (N-33° -W) に延び、断面形が半円形となる。確認面で幅 0.40m 前後、深さ 0.25m 前後で、覆土は 2 層に分層できる。平安時代の須恵器無台杯 (図版 62) などが出土している。

SD104 (図版 17・23・25・30、写真図版 24)

8G-7E10、8G-7F6 に位置する。東西方向 (N-78° -E) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.81m 前

後、深さ 0.34m 前後で、覆土は 3 層に分層できる。平安時代の須恵器無台杯 (図版 62) などが出土している。SD70 と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD70 である。SD70 と概ね直交することから、共通の使用目的で掘削された可能性がある。

SD105 (図版 17・23・31、写真図版 24・25)

8G-8E11・12・16 に位置する。東西方向 (N-70° -E) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.74m 前後、深さ 0.04m 前後で、覆土は単層である。須恵器甕 (図版 62) などが出土している。本遺構は、SD70・71・93・94・95 と直交することから、共通の使用目的で掘削されたと考えられる。

SD107 (図版 17・23・31、写真図版 25)

8G-8D24・25、8G-9D4・5・9・10 に位置する。南西から北東方向 (N-67° -E) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 1.95m 前後、深さ 0.14m 前後で、覆土は 2 層に分層できる。平安時代の土師器無台椀・長甕 (図版 62)、石製品 (図版 66) が出土している。本遺構は、新旧関係は不明であるが SD108・113 と T 字状に交差し、接し、形状や大きさ・深さが類似しているため、共通の使用目的で掘削された可能性がある。

SD108 (図版 17・23、写真図版 25)

8G-8D19・24・25、8G-9D5、8G-9E1 に位置する。南東から北西方向 (N-35° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.78m 前後、深さ 0.07m 前後で、覆土は 2 層に分層できる。平安時代の土師器小甕・長甕・鍋 (図版 63) などが出土している。

SD109 (図版 17・23・31、写真図版 25)

8G-8D18・23 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。南北方向 (N-17° -E) に延び、断面形が皿形で、深さは 0.05m 前後である。覆土は単層である。遺物の出土はない。

SD113 (図版 17・23・27、写真図版 25)

8G-9D5・10 に位置する。南東から北西方向 (N-41° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.18m 前後、深さ 0.06m 前後で、覆土は単層である。遺物の出土はない。

d 畝状小溝群

概ね同じ大きさの小溝が並行して数条構築されている状況から、まとまりのある遺構と捉えて畝状小溝群とした。

SD78～SD82 (図版 17・22・25・26・30・31、写真図版 23・24)

8G-5F22・23・24、8G-6F2・3・4・8・9・13 に位置する。南東から北西方向 (N-25～32° -W) に延び、概ね 0.30m 間隔で小溝が並行して構築されている。断面形は箱形もしくは台形状で、確認面で幅 0.29～0.54m、深さ 0.15～0.36m である。覆土は 2～3 層に分層できる。SD78 から土師器・須恵器片、SD79 から土師器無台椀・長甕・鍋、須恵器無台杯・長頸瓶 (図版 61・62)、SD80 から須恵器無台杯 (図版 62)、SD81 から土師器小甕・長甕、須恵器無台杯・杯蓋 (図版 62)、SD82 から土師器無台椀・長甕・小甕が出土している。構築状況から、小溝群が畑作に関わる遺構であった可能性が高い。

e 小土坑・柱穴

Pit6 (図版 17・20・28、写真図版 18)

8G-1I12・17 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.44m、短軸 0.27m、深さ 0.25m で、覆土は単層である。土師器が出土している。SD7 と重複し、断面観察による構築順序は、SD7→本遺構である。

Pit13 (図版 17・20・28、写真図版 19)

7G-10I23 に位置する。Pit14 に北側を壊されているため、正確な形状と大きさは不明であるが、概ね平面形が楕円形、断面形が箱形となる。確認面で長軸 0.35m、深さ 0.31m で、覆土は単層である。土師器が出土している。断面観察による構築順序は、本遺構→Pit14 である。

Pit14 (図版 17・20・28、写真図版 19)

7G-10I23 に位置する。平面形は楕円形、断面形は皿形で、確認面で長軸 0.50m、短軸 0.37m、深さ 0.18m で、覆土は単層である。土師器が出土している。断面観察による構築順序は上記のとおりである。

Pit28 (図版 17・20・26、写真図版 15)

8G-1H14 に位置する。SK24、SD3 と重複することもあり、正確な形状と大きさは不明であるが、概ね平面形が円形、断面形が台形状となる。確認面で短軸 0.20m、深さ 0.20m で、覆土は 2 層に分層できる。遺物の出土はない。断面観察による構築順序は、SK24、SD3 →本遺構である。

Pit59 (図版 17・22・25)

8G-4G21 に位置する。SD55 と重複することもあり、正確な形状と大きさは不明である。断面形は台形状である。確認面で深さ 0.14m、覆土は単層である。遺物の出土はない。断面観察による構築順序は、SD55 →本遺構である。

Pit77 (図版 17・22・31)

8G-5F19・20 に位置する。柱根が遺存 (図版 67) しており、建物の柱穴の可能性はある。平面形は不整形、断面形は箱形で、確認面で長軸 0.52m、短軸 0.45m、深さ 0.51m である。覆土は 4 層に分層でき、1 層が柱痕、2～4 層が掘方埋土である。遺物は土師器・須恵器が出土している。

Pit86 (図版 17・22)

8G-6F4 に位置する。SD79 と重複するため、正確な形状と大きさは不明である。断面形は台形状で、深さ 0.20m、覆土は 3 層に分層できる。遺物は、平安時代の須恵器無台杯 (図版 63) などが出土している。SD79 との新旧関係は不明である。

Pit89 (図版 17・22・31)

8G-6F3・8 に位置する。上部を SD81 に壊されているため、正確な形状と大きさは不明であるが、概ね平面形が円形、断面形が台形状で、確認面で長軸 0.38m、短軸 0.36m、深さ 0.37m である。柱根が遺存 (図版 67) しており、建物の柱穴の可能性はある。覆土は 2 層に分層でき、1 層が柱痕、2 層が掘方埋土である。遺物は土師器が出土している。

Pit90 (図版 17・22)

8G-5F23、6F3・4 に位置する。SD79 と重複するため、正確な形状と大きさは不明であるが、概ね平面形が楕円形、断面形が半円形で、確認面で長軸 0.66m、深さ 0.29m である。遺物は、平安時代の須恵器無台杯 (図版 63) などが出土している。SD79 との新旧関係は不明である。

Pit92 (図版 17・22・26、写真図版 15)

8G-6F4 に位置する。SK87 に東側を壊されているため、正確な形状と大きさは不明であるが、概ね断面形は台形状である。確認面で長軸 0.43m、深さ 0.38m で、覆土は 2 層に分層できる。遺物は土師器小甕・鍋 (図版 63) などが出土している。断面観察による遺構の構築順序は、SD79 →本遺構→SK87 である。

Pit97 (図版 17・22)

8G-6F12・13 に位置する。SK87 に東側を壊されているため、正確な形状と大きさは不明であるが、平面形が円形、断面形が U 字状である。確認面で長軸 0.42m、短軸 0.35m、深さ 0.26m で、覆土は 2 層に分層できる。遺物は平安時代の須恵器無台杯 (図版 63) などが出土している。

Pit102 (図版 17・23)

8G-6F21・22 に位置する。Pit101 と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.36m、短軸 0.32m、深さ 0.20m で、覆土は 2 層に分層できる。遺物は平安時代の須恵器無台杯 (図版 63) などが出土している。

その他の Pit は、調査区北半に集中する。平面形が円形または楕円形で、直径 0.40m 未満、深さ 0.20m 前後

の小 Pit であり、確実に柱穴と認定できるものはない。

D 第16次(12)調査遺構各説

第16次調査では、井戸1基、土坑3基、溝(畝状小溝含む)25条、小土坑・柱穴44基、掘立柱建物2棟、柱穴列2基、旧河道1条を検出した。

1) 1区遺構各説

a 土 坑

SK6 (図版32・34・35、写真図版27)

10I-3C1に位置する。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.60m、短軸0.50m、深さ0.08mで、覆土は単層である。遺物は土師器が出土している。

b 溝

SD1 (図版32・34・35、写真図版27)

10I-5A18・23に位置する。南東から北西方向(N-40°-W)に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅1.60m前後、深さ0.36m前後で、VII d層上面から掘り込まれている。VII d層は、遺物包含層のVII a層と連続した堆積であるものの、低地でのみ検出される堆積層である。間にVII b層が介在することから、堆積期間に若干の時間差が存在すると推測される。覆土は3層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。

c 小土坑・柱穴

Pit2 (図版32・34・35)

10I-3C1に位置する。大半が調査区外となるため、正確な形状と大きさは不明であるが、概ね平面形が楕円形、断面形が台形状である。長軸0.30m、深さ0.30mで、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。

Pit4 (図版32・34・35、写真図版27)

10I-3B5に位置する。柱根は遺存していなかったが、断面観察で柱痕と掘方埋土が確認でき、建物の柱穴の可能性はある。形状は平面形が楕円形、断面形が台形状で、確認面で長軸0.34m、短軸0.30m、深さ0.28mである。覆土は3層に分層でき、1・2層が柱痕、3層が掘方埋土である。遺物の出土はない。

その他の Pit は、調査区北隅に集中する。平面形が円または楕円形で、直径0.40m未満、深さ0.20m前後の小 Pit であり、確実に柱穴と認定できるものはない。

d 旧 河 道

河 (図版35)

1区北東側の10I-3B・4Bに位置する。表土上で検出された近現代の遺構で、規模・形状は不明である。覆土は12層に分層できる。土師器が出土している。

2) 2区遺構各説

a 溝

SD1 (図版32・36・37、写真図版29)

5I-4D16・21・22に位置する。南東から北西方向(N-66°-W)に延び、断面形が階段状となる。SD2と重複するため正確な形状と大きさは不明だが、確認面で幅0.60m前後、深さ0.72m前後である。VII a層上面から掘り込まれており、平安時代の遺構の中では新しい時期に位置付けられる。覆土は4層に分層でき、1・2層に粘性の強いシルトが堆積している。遺構が大きいものの遺物の出土はなかった。SD2と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD2である。

SD2 (図版32・36・37、写真図版29)

5I-4D16・17・22に位置する。南東から北西方向(N-64°-W)に延び、断面形が階段状となる。確認面で幅1.00m前後、深さ0.80m前後である。V層上面から掘り込まれており、中世以降に位置付けられよう。覆土は

9層に分層でき、1・2層に強粘性の粘土が堆積している。遺構が大きいものの遺物の出土はなかった。

SD3 (図版 32・36・37、写真図版 29)

5I-6B25・6C21に位置する。南東から北西方向(N-47°-W)に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅0.60m前後、深さ0.26m前後で、掘り込み面はVII b層上面である。覆土は3層に分層できる。遺物の出土はなかった。

b 畝状小溝群

概ね同じ大きさの小溝が並行して数条構築されている状況から、まとまりのある遺構と捉えて畝状小溝群とした。

SD4～SD12 (図版 32・36・37、写真図版 29)

5I-7B8・13・14・18・19・20・24に位置する。南西から北東方向(N-26～60°-E)に延び、0.2～0.4m間隔で小溝が並行して構築されている。断面形は皿形もしくは台形状で、確認面で幅0.20～0.40m、深さ0.02～0.14mである。一部削平を受けたためか、土坑状となるものもある。覆土は1～2層に分層できる。遺物の出土はない。構築状況から、小溝群は畑作に関わる遺構であった可能性が高い。

c 旧河道

河1 (図版 32・36・38、写真図版 29)

5I-7B22・23、5I-8A15・20、5I-8B2・3・6・7・11・12・16に位置する。南東から北西方向(N-58°-W)に延び、断面形が概ね皿形となる。確認面で幅7.40m前後、深さ1.24m前後である。VII a層上面から掘り込まれており、平安時代の遺構の中では新しい時期に位置付けられる。覆土は9層に分層でき、最下層の9層から平安時代の須恵器甕(図版 68)などが出土した。

3) 3区遺構各説

a 井戸

SE23 (図版 32・39・41、写真図版 31)

4G-6D17・22に位置する。VII b層上面で検出しており、3区では新しい時期に位置付けられる。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸0.80m、短軸0.70m、深さ0.30mで、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。SD20と重複するが、新旧関係は不明である。

b 土坑

SK4 (図版 32・39・41、写真図版 31)

4G-7C9に位置する。VII b層上面で検出しており、3区では新しい時期に位置付けられる。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状と大きさは不明であるが、概ね平面形が楕円形、断面形が台形状である。確認面で長軸0.80m、深さ0.32mで、覆土は2層に分層できる。土師器鍋A類(図版 68)などが出土している。SD5・11と重複し、断面観察による遺構の構築順序は、SD5→本遺構→SD11である。

SK30 (図版 32・39・40・41、写真図版 32)

4G-7C10・15、4G-7D6・11に位置する。VII b層上面で検出しており、3区では新しい時期に位置付けられる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸2.20m、短軸1.40m、深さ0.28mで、覆土は2層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。SD8・11、Pit27と重複するが、新旧関係は不明である。

c 溝

SD1 (図版 32・39・42、写真図版 32)

4G-8C3に位置する。VII b層上面で検出しており、3区では新しい時期に位置付けられる。南東から北西方向(N-43°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.50m前後、深さ0.16m前後で、覆土は単層である。土師器・須恵器が出土している。

SD2 (図版 32・39・42、写真図版 32)

4G-7C15に位置する。VII b層上面で検出しており、3区では新しい時期に位置付けられる。概ね東西方向

(N-77° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.40m 前後、深さ 0.10m 前後で、覆土は単層である。土師器が出土している。

SD3 (図版 32・39・40・42・43、写真図版 32)

4G-7D1・2 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。概ね東西方向 (N-68° -W) に延び、断面形が半円形となる。確認面で幅 1.00m 前後、深さ 0.42m 前後で、覆土は 2 層に分層できる。土師器無台椀 (図版 68) などが出土している。

SD5 (図版 32・39・40・41・42、写真図版 32・33)

4G-7C5・10 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。概ね南北方向 (N-15° -W) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.90m 前後、深さ 0.34m 前後で、覆土は 2 層に分層できる。土師器が出土している。SK4、SD6・11・22 と重複し、断面観察による遺構の構築順序は、本遺構 → SK4、SD6・11・22 である。

SD6 (図版 32・39・41、写真図版 33)

4G-7C4・5・10 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。概ね東西方向 (N-76° -W) に延び、断面形が半円形となる。確認面で幅 0.50m 前後、深さ 0.16m 前後で、覆土は単層である。土師器・須恵器が出土している。SD5、Pit12・25 と重複し、いずれの遺構よりも新しい。

SD8 (図版 32・39・40・42・43、写真図版 33)

4G-6C25、4G-7C5、4G-7D1・6 に位置する。Ⅶ B 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。概ね南北方向 (N-15° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.60m 前後、深さ 0.12m 前後で、覆土は単層である。土師器無台椀 (図版 68) などが出土している。SK30、Pit15・24・27 と重複するが、新旧関係は不明である。

SD11 (図版 32・39・41・42、写真図版 33)

4G-7C9・10、4G-7D6・11 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。南東から北西方向 (N-60° -W) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.60m 前後、深さ 0.22m 前後で、覆土は単層である。土師器無台椀 (図版 68) などが出土している。SK4・30、SD5、Pit9・10・56 と重複するが、断面観察により新旧関係が判明したのは SK4 と SD5 及び Pit9 で、いずれの遺構よりも新しい。

SD20 (図版 32・39・42、写真図版 33)

4G-6D17・22、4G-7D2 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。南東から北西方向 (N-29° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 1.70m 前後、深さ 0.14m 前後で、覆土は単層である。遺物の出土はない。Pit18 と重複し、断面観察による遺構の構築順序は、本遺構 → Pit18 である。

SD21 (図版 32・39・42、写真図版 34)

4G-7D1・2 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。概ね東西方向 (N-80° -E) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.40m 前後、深さ 0.10m 前後で、覆土は単層である。土師器が出土している。SD3 と重複し、断面観察による遺構の構築順序は、SD3 → 本遺構である。

SD22 (図版 32・39・41、写真図版 34)

4G-7C5 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。南東から北西方向 (N-60° -W) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.40m 前後、深さ 0.22m 前後で、覆土は単層である。遺物の出土はない。SD5 と重複し、断面観察による遺構の構築順序は、SD5 → 本遺構である。

SD29 (図版 32・39・42、写真図版 34)

4G-8C8 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。南東から北西方向 (N-66° -W) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.20m 前後、深さ 0.14m 前後で、覆土は 2 層に分層できる。遺物の出土はない。Pit28 と重複するが、新旧関係は不明である。

SD42 (図版 40・42、写真図版 34)

4G-7C24・25、4G-8C4 に位置する。検出面はⅧ層上面で、下層遺構になる。南東から北西方向 (N-38° -W) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 0.60m 前後、深さ 0.22m 前後で、覆土は 2 層に分層できる。土師器が出土している。

d 小土坑・柱穴**Pit9** (図版 32・39・42、写真図版 33)

4G-7C10 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。SD11 に北東側を壊されているため、正確な形状と大きさは不明であるが、概ね平面形が楕円形、断面形が半円形である。長軸 0.30m、深さ 0.22m で、覆土は単層である。土師器長甕 (図版 68) などが出土している。

Pit14 (図版 32・39)

4G-7D1・2 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。平面形は楕円形、断面形は台形状である。長軸 0.30m、短軸 0.30m、深さ 0.16m で、覆土は単層である。土師器小甕 (図版 68) などが出土している。

Pit25 (図版 32・39)

4G-7C5・10 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。SD6、Pit12 と重複するため正確な形状と大きさは不明であるが、断面形が半円形で深さ 0.26m である。覆土は単層である。土師器長甕 (図版 69) などが出土している。

Pit32 (図版 32・39・40)

4G-7D6 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。平面形は楕円形、断面形は階段状である。長軸 0.60m、短軸 0.40m、深さ 0.54m で、覆土は 3 層に分層できる。須恵器無台杯 (図版 69) などが出土している。大きさと断面形状から、建物の柱穴の可能性はある。SK30 と重複するが、新旧関係は不明である。

e 掘立柱建物**SB1** (図版 32・39・43、写真図版 34)

4G-7C5・10、4G-7D1・2・6・7 に位置する。Ⅶ b 層上面で検出しており、3 区では新しい時期に位置付けられる。梁行 2 間 (2.14m) × 桁行 2 間 (2.78m) の総柱掘立柱建物と推定され、柱配列は桁行中央の柱がやや外側に張り出すものの、いわゆる「田の字」状配置となる。柱穴は、Pit10・12・15・16・24・26・27 で構成され、南東隅の柱は調査区外であることから検出していない。柱穴の形状・大きさは、平面形が楕円形、断面形が半円形または台形状が多く、規模は直径 0.30 ~ 0.80m、深さ 0.16 ~ 0.40m とばらつきがある。主軸は 1 度西偏し、床面積は 5.95m² である。遺物は、柱穴覆土から土師器・須恵器が出土している。

SB2 (図版 40・43)

4G-8C3・4・8・9 に位置する。検出面はⅧ層上面で、下層の遺構になる。柱間と柱の並びから掘立柱建物跡と捉えたが、調査範囲が限定され、不確定要素が大きい。建物跡であれば、1 間 (1.62m) × 1 間 (1.78m) 以上となる。柱穴は Pit39・47・50 が該当し、平面形が楕円形、断面形が台形状または皿形で、直径 0.40 ~ 0.50m、深さ 0.34 ~ 0.42m である。主軸は 11 度西偏する。遺物は、柱穴覆土から土師器が出土している。

f 柱穴列**SA1** (図版 40・44)

4G-8C3・4・8・12・17 に位置する。検出面はⅧ層上面で、下層遺構になる。柱間と柱の並びから柱穴列と捉えたが、調査範囲が限定されるため、不確定要素が大きく掘立柱建物になる可能性もある。南北方向に 2 間 (5.52m) 分を検出した。Pit34・38・53 が該当し、平面形が楕円形、断面形が台形状または階段状で、直径 0.60m 前後、深さ 0.34 ~ 0.42m である。遺物は、柱穴覆土から土師器が出土している。

SA2 (図版 40・44)

4G-8C3・4・8・13に位置する。検出面はⅧ層上面で、下層の遺構になる。柱間と柱の並びから柱穴列と捉えたが、調査範囲が限定されるため、不確定要素が大きく掘立柱建物になる可能性もある。南北方向に2間(3.88m)分を検出した。Pit35・36・51が該当し、平面形が楕円形、断面形が台形状または階段状で、直径0.40～0.60m、深さ0.22～0.34mである。遺物は、Pit36から土師器無台椀(図版69)が完形で掘方埋土より出土している。

4) 4区遺構各説

10メートル間隔で2m四方のトレンチを8カ所設定して遺跡の有無を確認した。その結果、すべてのトレンチで遺物包含層相当層は検出できたものの、包含層から遺物の出土はなく遺構も見つからなかった(図版45、写真図版35)。

第4節 遺物

A 遺物の概要

今回報告の調査では古代の土器が最も多く出土し、そのほかの時期のものとしては古墳時代の土師器や中世の珠洲焼が少量出土している。時期的にはほぼ平安時代前半期に限定され、集落の存続が短期間であったことを示している。

古代の土器組成を見ても、土師器・須恵器ともに無台の食膳具を主体とし、これに定量の煮炊具と少量の貯蔵具が伴うのみで、文房具類や施釉陶器が含まれないなど、単純な組成となっている。

B 第12次(09)調査遺物各説

1) 遺構出土土器

SK12 (図版 46、写真図版 39)

土師器長甕C類(1)と長甕胴部(2)が図化できた。1は、胴部外面をカキメ調整する。2は、外面を縦位の平行タタキで成形し、内面には平行当て具痕が見られる。

SK20 (図版 46、写真図版 39)

土師器無台椀B1Ⅱ類(3)が図化できた。内外面ともに比較的丁寧なロクロナデで仕上げている。

SK114 (図版 46、写真図版 39)

土師器鍋A類(4)が図化できた。内外面ともに胴部上半を密にカキメ調整する。

SD7 (図版 46・47、写真図版 37・39・40)

土器の出土量が多い。土師器無台椀A1Ⅱ類(5)・長甕(6)・小甕(7～9)・鍋A類(10)、黒色土器無台椀A2Ⅰ類(11)、須恵器無台杯A2類(13・15)・A3類(12)・B2類(14・16・17)・短頸壺B類(18)・甕B類(19)が図化できた。6は内面を縦ハケメ調整し、古手の調整手法が見られる。口縁部残存率法による器種構成率(別表6)は、土師器無台椀29.09%に対し須恵器無台杯38.51%で、食膳具無台器種の中ではやや須恵器無台杯の比率が高い。須恵器無台杯は、12・17・18が阿賀北産、残りは小泊窯跡群産で、小泊窯跡群産が優勢となっている。小泊窯跡群産無台杯は、江ノ下窯〔坂井・鶴間・春日ほか1991〕の製品に類似する。

SD11 (図版 47、写真図版 40)

土師器鍋A類(20)と須恵器無台杯A2類(21)が図化できた。20は、口縁部がシャープさに欠け、全体に厚手であるなど、時期的に新しい特徴を持つ。共伴する須恵器無台杯は、小泊窯跡群産で、カメ畑1号窯またはフスベ窯〔坂井ほか1992〕の製品に類似する。

SD53 (図版 47、写真図版 37・40)

土器の出土量は多いが全体の器形が判明したものは少ない。土師器無台碗 (22～28)・長甕 (29)・小甕 (30)・鍋 A 類 (31)、黒色土器有台皿 (32～34)、須恵器無台杯 B1 類 (35)・長頸瓶 A 類 (36) が図化できた。口縁部残存率法による器種構成率 (別表 6) は、土師器無台碗 60.18% に対し須恵器無台杯 3.79% で、食膳具無台器種の中で土師器無台碗が占める割合が非常に高い。また、土師器無台碗は B2 II 類が主体である。なお、黒色土器有台皿が 3 個体出土している点は、施釉陶器模倣の精製器種ということもあり注目される。

Pit110 (図版 48、写真図版 40)

土師器鍋 A 類 (37) 1 点のみ図化できた。内外面とも胴部上半をカキメ調整し、胴部外面下半をタタキ出しにより丸底化している。

河 1 (図版 48、写真図版 40)

須恵器無台杯 2 点 (38・39) が図化できた。いずれも最下層から出土している。38 は阿賀北産、39 は小泊窯群産で、38 は「山手」、39 は「真カ」と底部外面に墨書されている。

河 2 (図版 48～52、写真図版 37・40・41・42・43)

土器の出土量は非常に多い。土師器無台碗 (40～51)・長甕 (52～55)・小甕 (56～65)・鍋 (66～76)、黒色土器無台碗 (77～81)、須恵器無台杯 (82～92)・有台杯 (93)・長頸瓶 (94～98)・甕 (99) が図化できた。口縁部残存率法による器種構成率 (別表 6) は、土師器無台碗 55.7% に対し須恵器無台杯 11.80% で、SD53 同様食膳具無台器種の中で土師器無台碗が占める割合が非常に高い。異なる部分は、土師器無台碗に B I 類が組成し、B3 類主体となり、黒色土器に無台碗が多い点である。土師器煮炊具は、口縁部が肥厚するものが多い。また、須恵器無台杯は、82 を除きすべて小泊窯跡群産で、83 のように底径指数が大きく古相を呈するものも含む。85・89 のように厚手で口縁部の開きが弱いものも古相を示し、K344 窯 [川村 2005] の製品に類似するが、口径値がやや小さい。

2) 包含層出土土器 (図版 52～53、写真図版 37・42・43)

土師器無台碗 (100・101)・鍋 (102・116・117)、黒色土器無台碗 (118)、須恵器無台杯 (103～111・119・120)・杯蓋 (112)・長頸瓶 (113・114)・短頸壺 (115) が図化できた。土師器・須恵器ともに器種・器形に遺構出土土器との大きな違いは認められないが、105 のように口径 13.5cm を超える須恵器無台杯もあり、時期的により古相を示す土器も存在する。

満日確認調査 (図版 54、写真図版 37・43)

575 トレンチ (121～123) と 577 トレンチ旧河道 (124～132) からまとめて土器が出土している。土師器無台碗 (121・124～128)・小甕 (123)・鍋 (129)、黒色土器無台碗 (122・130)、須恵器無台杯 (131・132) が図化できた。土師器・須恵器ともに器種・器形に本調査出土遺物との大きな違いは認められない。128 は、寺道上遺跡 [渡邊ほか 2001] SK3 の土師器無台碗に類似するが、口縁部の外反度が異なる。

3) 製鉄関連遺物 (図版 54、写真図版 43)

羽口 (137) が 1 点図化できた。SD7 から出土し、残存長 48.0mm、残存幅 52.0mm、重さ 36.5g で、先端部に溶着滓が認められる。

4) 石製品

SD7 (図版 54、写真図版 43)

叩石 (134) が図化できた。残存長 88.0mm、幅 52.0mm、厚さ 48.0mm、重さ 313.0g である。先端に叩打痕があり、部分的に被熱している。石材は安山岩と思われる。

河 2 (図版 54、写真図版 43)

磨石 (135) が図化できた。長さ 42.0mm、幅 47.0mm、厚さ 38.0mm、重さ 97.0g で、石材は不明である。全体に使用によると思われる摩耗痕と部分的に被熱痕が見られる。

5) 包含層 (図版 54、写真図版 43)

叩石 (133) と軽石製石製品 (136) が図化できた。133 は、残存長 90mm、幅 60mm、厚さ 48mm、重さ 330.0g で、石材は角閃石安山岩と思われる。先端には叩打痕がある。136 は、軽石を利用した石製品と思われるが、用途は不明である。

C 第 15 次 (11) 調査遺物各説

1) 遺構出土土器

SK8 (図版 55、写真図版 44)

土師器無台碗 (138・139) と須恵器無台杯 B2 類 (140) が図化できた。138 は B I 類で、139 は底部に持ちちへラケズリ調整される。140 は小泊窯群産で、器高指数 24、底径指数 63 と扁平であるが、口縁部の外反度が強いので K344 号窯以後に位置付けられると考えている。

SK19 (図版 55、写真図版 44)

土師器小甕 A 類 (141) と須恵器無台杯 A2 類 (142) が図化できた。141 は小片で、口径値は推定である。142 は阿賀北産で、器高指数 26、底径指数 56 とやや深身で口縁部が開き椀形に近い器形となる。

SK103 (図版 55、写真図版 44)

土師器無台碗 B3 II 類 (143) が図化できた。器高指数が 35 を超え、深身・椀形器形となる。

SK111 (図版 55、写真図版 44)

土師器小甕 B 類 (144) が図化できた。小片のため、口径値は推定である。

SX5 (図版 55、写真図版 44)

須恵器甕 (145) が図化できた。外面平行タタキ・内面平行当具痕が観察できる。

SX25 (図版 55、写真図版 44)

須恵器無台杯 (146～148) と須恵器甕 (149) が図化できた。無台杯は小泊窯群産、甕は阿賀北産である。146 は B2 類、147 は A2 類で、ともに底径指数 60 以下の椀形に近い器形となり、フスベ窯か江ノ下窯に比定できる。

SX115 (図版 56、写真図版 44)

土師器小甕 B 類 (150・151) が図化できた。ともに口縁端部が摘み上げ状となり、肥厚する。

SD1 (図版 56、写真図版 38・44)

土師器無台碗 B1 II 類 (152)・小甕 (153～155)、須恵器無台杯 A2 類 (156・157) が図化できた。無台碗は、全面口クロミガキされる優品である。小甕は、B 類が目立つ。無台杯は、すべて小泊窯群産である。156 は薄手であるが箱形器形に近いことから、K344 窯よりは古く位置付けられよう。157 は、底径指数が小さく新しい要素が見られるが、厚手で器高指数が小さいことから、概ね 156 と同時期とできよう。

SD2 (図版 56、写真図版 44・45)

破片が多く、全体の器形が判明したものは少ない。土師器無台碗 (158)・長甕 A 類 (160)・鍋 A 類 (161)、黒色土器無台碗 (159)、須恵器無台杯 (162～164) が図化できた。160 は、均一な厚さで成形されている。胴部上半は密にカキメ調整され、胴部下半をタタキ出で丸底化している。須恵器無台杯は、すべて小泊窯群産である。162 は、口径 12cm と小形で薄手であり、フスベ窯または江ノ下窯に比定できる。

SD3 (図版 56、写真図版 45)

破片が多く、全体の器形が判明したものは少ない。土師器無台碗 (165～167)・小甕 (168)、須恵器無台杯 (169・170)・甕 (171) が図化できた。土師器無台碗は、大法量の B I 類がある。須恵器無台杯は、すべて小泊窯群産である。169 は、口径 12.4cm と小形で器高指数に対して底径指数が大きく椀形に近い器形であり、フスベ窯または江ノ下窯に比定できる。

SD4 (図版 57～59、写真図版 38・45～47)

第15次調査で検出した遺構の中では、最も多くの土器が出土した。遺存状況も良好で、全体の器形が判明したものが多し。土師器無台碗(172～179)・長甕(180～184)・小甕(185～189)・鍋(191～193)、黒色土器無台碗(190)、須恵器無台杯(194～212)・杯蓋(213)・有台杯(214～216)・長頸瓶(217・218)・横瓶(219)が図化できた。口縁部残存率法による器種構成率(別表7)は、土師器無台碗22.90%に対し須恵器無台杯49.83%で、食膳具無台器種における土師器無台碗と須恵器無台杯の比率は概ね1:2となっており、須恵器無台杯の割合が非常に高い。土師器煮炊具間の構成比率はほとんど変わらず、各器種がまんべんなく組成する。食膳具無台器種を細別器種別に見ると、土師器無台碗はB2類主体で2法量がある。須恵器無台杯は、A2類8個体、B2類6個体とA・B類が拮抗している。また、深身の有台杯が定量組成する点は、食膳具が無台器種のみで構成されるほかの遺構出土資料と異なる。阿賀北産の202・212以外の須恵器無台杯は、すべて小泊窯跡群産である。小泊窯跡群産須恵器無台杯に小形・薄手で底径指数が小さいという新しい要素を持つもの(204)も含まれるが、多くは口径12.5cmを超えやや厚手の作りであることから、K344窯を下ることはないと考えられる。有台杯が定量伴う点も上記の推定を補強しよう。また、土師器煮炊具の器厚が一定し、口縁端部がシャープに作り出され(180・183～187・192・193)、古い要素を持つ点も須恵器無台杯の時期的な位置付けと矛盾しない。

SD7 (図版 60、写真図版 47)

土師器鍋(221)、須恵器無台杯(220)が図化できた。須恵器無台杯は小泊窯群産で、口径値と器形は古い要素を持つが薄手であり、カメ畑1号窯よりは古くならないと考えられる。

SD9 (図版 60、写真図版 47)

須恵器無台杯(222)が図化できた。阿賀北産で、狼沢2号窯〔中川ほか1973〕の製品に類似する。

SD22 (図版 60、写真図版 47)

土師器無台碗(223・224)・小甕(225)が図化できた。223は、B2 I類で、口縁部の外反度が著しい。225は、A類で、口縁端部の作りがシャープである。

SD50 (図版 60、写真図版 47)

土師器無台碗(226～228)、須恵器無台杯(229)・甕(230)が図化できた。227は、底径指数が大きいB1 II類であり、古相を示す。須恵器は、すべて小泊窯群産である。

SD51 (図版 60・61、写真図版 38・47)

土器の出土量は多く、遺存状況も良好である。土師器無台碗(231～233)・長甕(234)・小甕(235)、黒色土器無台碗(236)、須恵器無台杯(237・238)・長頸瓶(239)が図化できた。口縁部残存率法による器種構成率(別表7)は、土師器無台碗53.43%に対し須恵器無台杯11.41%で、食膳具無台器種における土師器無台碗と須恵器無台杯の比率は概ね4:1となっており、土師器無台碗が須恵器無台杯を凌駕する。土師器煮炊具間の構成比率は鍋が低く、長甕が高いが遺存度が影響しているようである。土師器無台碗はすべてB類で、1 II類(233)、2 II類(232)、3 II類(231)がある。底径指数が40を超えるものが多く古相を呈す。黒色土器無台碗は、内外面にミガキ調整がなされ、底部をロクロケズリするなど丁寧に作られている。239の須恵器長頸瓶は阿賀北産で、長石・石英粒を多量含む。

SD58 (図版 61、写真図版 47)

須恵器無台杯A3類(240)が図化できた。小泊窯群産で、小形薄手の碗形であり、江ノ下窯に比定できる。

SD64 (図版 61、写真図版 47)

土師器小甕(241)が図化できた。ロクロ成形後、外面をロクロケズリする。

SD66 (図版 61、写真図版 47)

土師器長甕(242)が図化できた。口縁端部の形状からA類とできる。

SD70 (図版 61、写真図版 47)

土師器小甕 (243・245)・長甕 (244)、須恵器無台杯 (246) が図化できた。土師器甕類は、口縁端部がシャープに成形される。246 は阿賀北産で、椀形に近い器形と推測され、狼沢 2 号窯前後に位置付けられるか。

SD71 (図版 61、写真図版 47)

土師器小甕 (247)・長甕 (249)・鍋 (250)、黒色土器杯 (248) が図化できた。いずれも小破片であり、全形は不明である。248 は、古墳時代後期の黒色土器無台杯で、今回報告分では唯一の古墳時代の遺物である。

SD76 (図版 61、写真図版 47)

土師器長甕 (251) が図化できた。口縁端部を平坦に面取りする甕で、比較的古相を呈する。

SD79 (図版 61・62、写真図版 47・48)

遺構出土土器の中では比較的出土量が多く、遺存状況も良好である。土師器無台椀 (252)・長甕 (254)・鍋 (255)、須恵器無台杯 (256～259)・長頸瓶 (253) が図化できた。252 は、内湾器形で器高指数が小さく底径指数が大きいので、土師器無台椀としては古い器形である。須恵器無台杯は、すべて小泊窯群産である。256 は、口径値が小さく小形・浅身であり、フスベ窯または江ノ下窯に比定できる。257 と 259 は、口径値が 12.5cm を超えており、256 よりは古いか。258 と 259 は、底面に墨書があるが字体は不明である。

SD80 (図版 62、写真図版 48)

須恵器無台杯 (260・261) が図化できた。ともに小泊窯群産である。260 は、口径値が 12.5cm を超え底径指数もやや大きいので、K344 窯以前に位置付けられると考えられる。

SD81 (図版 62、写真図版 48)

土師器長甕 (262)・小甕 (263)、須恵器無台杯 (264・265)・杯蓋 (266) が図化できた。土師器甕類は、口縁端部が上方に強く引き出される。須恵器はすべて小泊窯群産である。264 は小形で器高指数が低く外反度が高いことからフスベ窯または江ノ下窯に比定できる。266 は、内面が摩耗し墨痕があることから、転用硯であろう。

SD93 (図版 62、写真図版 48)

土師器無台椀 (267)・小甕 (268)・長甕 (269・270)、須恵器無台杯 (271・272) が図化できた。267 は、内外面ミガキ調整され器形も甕を意識したものとなっており、通常の無台椀とは器種が異なる可能性がある。268 は、口縁部が強く内折している。269 は、胴部外面に「×」のヘラ記号がある。須恵器はすべて小泊窯群産である。272 の底面に墨書があるが字体は不明である。

SD100 (図版 62、写真図版 48)

須恵器無台杯 (273) が図化できた。小泊窯群産である。小片のため時期は不明である。

SD104 (図版 62、写真図版 48)

須恵器無台杯 (274) が図化できた。小泊窯群産で、底面に墨書があるが字体は不明である。

SD105 (図版 62、写真図版 48)

須恵器甕 (275) が図化できた。新津丘陵の窯産と推定される。胴部外面に平行タタキ、胴部内面に同心円当具痕がある。

SD107 (図版 62、写真図版 48)

土師器無台椀 (276)・長甕 (277・278) が図化できた。長甕は、口縁端部を上方に強く引き出す。

SD108 (図版 63、写真図版 48)

土師器長甕 (279)・小甕 (280)・鍋 (281) が図化できた。長甕・鍋ともに口縁端部に広い面を持ち、胴部外面をカキメ調整する。

Pit86 (図版 63、写真図版 48)

須恵器無台杯 (282～284) が 3 点図化できた。すべて小泊窯群産で、282 は口径値が 12.5cm を超え、底径指数もやや大きいので、カメ畑 1 号窯以前と考えられる。283・284 は底面に墨書があるが、字体は不明である。

Pit90 (図版 63、写真図版 48)

須恵器無台杯 (285) が 1 点図化できた。小泊窯群産で、底面に墨書があるが、字体は不明である。

Pit92 (図版 63、写真図版 48)

土師器小甕 (286) と鍋 (287) が図化できた。286 は、口縁部内面に炭化物の付着が見られる。

Pit97 (図版 63、写真図版 48)

須恵器無台杯 (288) が 1 点図化できた。小泊窯群産で、底面に墨書があるが、字体は不明である。

Pit102 (図版 63、写真図版 48)

須恵器無台杯 (289) が 1 点図化できた。小泊窯群産である。

2) 包含層出土土器 (図版 63 ~ 66、写真図版 48 ~ 50)

土師器無台椀 (290 ~ 297)・長甕 (298 ~ 307)・小甕 (308 ~ 314)・無頸壺 (315・316)・鍋 (317 ~ 320)、黒色土器無台椀 (321 ~ 325)、須恵器無台杯 (326 ~ 338)・杯蓋 (339 ~ 341)・有台杯 (342 ~ 345)・長頸瓶 (346・347)・横瓶 (348・349)・甕 (350) が図化できた。

土師器無台椀は、B2 II 類が多い。土師器甕類は、口縁端部が肥厚するもの (298 ~ 300・303) や上方に強く摘み上げるもの (302・303・306・310)、シャープに仕上げるもの (308・309・311) が目立つ。土師器無頸壺は、315・316 が同一個体の可能性が高い。口径 5.2cm と小形である。土師器鍋は、319 のように口縁端部が肥厚するものもあるが、多くは薄手で口縁端部を丸く収める (318・320)。

黒色土器無台椀は、内外面ヘラミガキされる優品が多いが、ほとんど小片のため明確な器形は不明である。

須恵器は、産地不明の 335・348・349 を除き、阿賀北産の 326・327・350 以外はすべて小泊窯群産である。326・327 の器形は、小泊窯群産の器形に類似する。小泊窯群産は、底径指数が大きいもの (331・332・334 ~ 336) や口径 12.5cm を超えるものが定量ある。杯蓋と有台杯は、破片であるものの定量出土しており、無台杯の特徴を勘案すれば、古手の様相と捉えられようか。

3) 石製品

SD107 (図版 66、写真図版 50)

磨石 (351) が図化できた。長さ 48.0mm、幅 34.0mm、厚さ 25.0mm、重さ 47.0g で、石材はデイサイトと思われる。

SD4 (図版 66、写真図版 50)

磨石 (352)、台石 (353) が図化できた。352 は長さ 114.0mm、幅 26.0mm、厚さ 29.0mm、重さ 114.0g、353 は長さ 118.0mm、幅 82.0mm、厚さ 55.0mm、重さ 569.5g で、ともに石材はデイサイトと思われる。

SD51 (図版 67、写真図版 50)

台石 (354) が図化できた。残存長 171.0mm、幅 111.0mm、厚さ 74.0mm、重さ 214.0g で、石材は安山岩と思われる。

包含層 (図版 67、写真図版 50)

磨石 (355) と台石 (356) が図化できた。355 は長さ 33.0mm、幅 26.0mm、厚さ 19.5mm、重さ 15.5g で石材はデイサイト、356 は長さ 136.0mm、幅 84.0mm、厚さ 61.0mm、重さ 747.0g で石材は流紋岩と思われる。

4) 木製品

Pit77 (図版 67、写真図版 50)

柱根 (357) が図化できた。残存長 151.0mm、幅 143.0mm、厚さ 188.0mm で、樹種はコナラ属コナラ節である。木取りは芯持材で、側面と底面に加工痕がある。

Pit89 (図版 67、写真図版 50)

柱根 (358) が図化できた。残存長 97.0mm、幅 79.0mm、厚さ 37.0mm で、樹種はクリである。木取りは柁目材で、側面と底面に加工痕がある。

D 第16次(12)調査遺物各説

1) 遺構出土土器

2区河1(図版68、写真図版51)

須恵器無台杯(366)・甕(367)が図化できた。ともに小泊窯群産である。367は、外面格子タタキ、内面同心円当具痕が見られる。

3区SK4・SD5(図版68、写真図版51)

土師器鍋(370)が図化できた。胴部上半をカキメ調整し、下半をタタキ出しで丸底化している。

3区SD3(図版68、写真図版51)

土師器無台椀(371)が図化できた。口径値が15cmを超えB2 I類に分類できる。口縁部の外反度が強く底径指数が小さいことから、やや新しい特徴を持つ。

3区SD8・11(図版68、写真図版51)

土師器無台椀(372)が図化できたが、小片のため細別器種を確定できない。

3区Pit9(図版68、写真図版51)

土師器長甕(373)が図化できた。口縁端部の形状からB類とした。

3区Pit14(図版68、写真図版51)

土師器小甕(374)が図化できたが、底部片のため細別器種を確定できない。

3区Pit25(図版69、写真図版51)

土師器長甕(375)が図化できた。口縁端部の形状からA類とした。胴部内面はハケメ調整される。

3区Pit32(図版69、写真図版51)

須恵器無台杯(376)が図化できた。小片のため細別器種を確定できない。

3区Pit36(図版69、写真図版51)

土師器無台椀(377)が図化できた。B2 II類で、底径指数が小さく口縁部が大きく外反することから、新しい特徴を持つ。

2) 包含層・表土出土土器

1区包含層出土土器(図版68、写真図版51)

土師器無台椀(359)・長甕(360)、須恵器無台杯(361～363)・杯蓋(364)・甕(365)が図化できた。須恵器無台杯は、361・362が小泊窯群産、363が新津丘陵窯産である。口径12cm以下の小形品であり、時期的に新しい特徴を持つ。ほかは小片のため、特徴を明示しえない。

2区包含層出土土器(図版68、写真図版51)

土師器無台椀(368)、須恵器無台杯(369)が図化できた。369は、阿賀北産か新津丘陵産で口径値が12cm以下で椀形であることから、馬上3号窯〔戸根1986〕よりも新しく位置付けられる。

3区包含層出土土器(図版69、写真図版51)

土師器長甕(378・379)・小甕(380)、黒色土器皿(381)、須恵器無台杯(382～385)・杯蓋(386)・長頸瓶(387)が図化できた。378・379は、口縁端部が強く上方へ摘み上げられる。382・383は阿賀北産で、椀形に近く薄手であることから、馬上3号窯よりも新しく位置付けられる。384～387は、小泊窯群産である。387は、高台貼付付近にタタキ痕がある。

4区包含層出土土器(図版69、写真図版51)

珠洲焼甕(388)が図化できた。外面に綾杉状のタタキ痕、内面に無文の当て具痕がある。

第V章 自然科学分析

第1節 中谷内遺跡の土層とテフラ

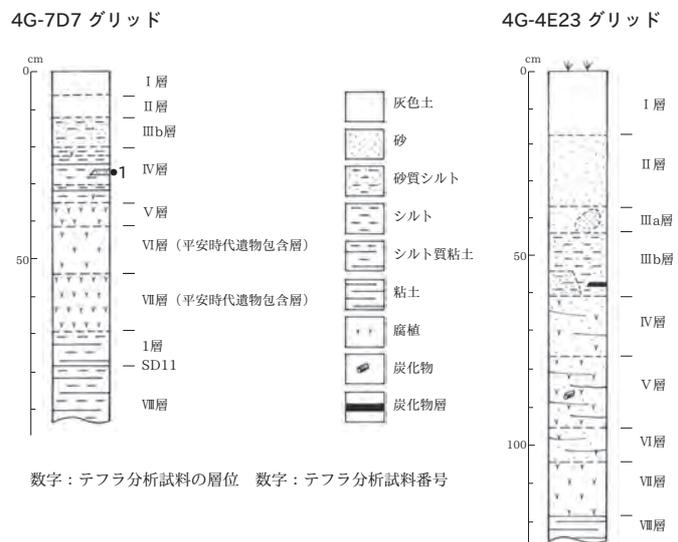
A はじめに

中谷内遺跡の土層の形成環境を明らかにするために、微高地部に位置する第16次調査3区4G-7D7（基本土層断面SB-SB'）と同4G-4E23の2地点において、分析に供する高純度の試料の採取を行って土層の形成年代についてのテフラ分析を実施した。次に2地点の土層層序について記載する。

B 調査分析地点の土層層序

4G-7D7（3区基本土層断面SB-SB'）（第7図）

4G-7D7（3区基本土層断面SB-SB'）では、灰色シルト質粘土層（層厚15cm, VII層）の上位に溝状遺構（SD11）が認められた。その上位には、下位より黄灰色シルト質粘土層（層厚9cm, SD11 1層）、黒灰色泥層（層厚16cm, VII層）、暗灰色泥層（層厚12cm, VI層）、黒灰褐色泥層（層厚6cm, V層）、わずかに色調が暗い灰色シルト層（層厚3cm）、黄白色シルト層（層厚0.6cm）、わずかに色調が暗い灰色シルト層（層厚3cm）、白色凝灰質砂質シルト層（レンズ状, 最大層厚2mm）、わずかに色調が暗い灰色シルト層（層厚2cm）、黄白色シルト層（層厚2cm）、わずかに色調が暗い灰色砂質シルト層（層厚2cm, 以上III b層）、



第7図 中谷内遺跡第16次調査 基本土層柱状図

少し黄色がかった灰色砂質シルト層（層厚6cm, II層）、砂混じり灰色土（層厚6cm, I層）が認められる。

発掘調査では、これらの土層のうち、VII層とVI層が平安時代の遺物包含層と推定されている。

4G-4E23（第7図）

4G-4E23（3区）では、下位より灰色粘土層（層厚7cm以上, VIII層）、暗灰褐色泥層（層厚14cm, VII層）、成層した灰色泥層（層厚9cm, VI層）、炭化物混じりで成層した砂混じり灰色泥層（層厚18cm, V層）、成層した砂混じり灰色泥層（層厚16cm, IV層）、灰色シルト質砂層（層厚7cm）、黒色炭化物の薄層（層厚0.3cm）を挟在する灰色砂混じりシルト層（層厚10cm, 以上III b層）、黄色砂層ブロックを含む灰色砂質土（層厚7cm, III a層）、淘汰が比較的良い灰色砂質土（層厚19cm, II層）、若干色調が暗い灰色土（層厚17cm, I層）が認められる。

C テフラ検出分析

1) 分析試料と分析方法

4G-7D7（3区基本土層断面B-B'）で認められた白色凝灰質砂質シルト層（試料1）について、過去の時空指標として有効な指標テフラか否かを明らかにするためにテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料 7g を秤量。
- 2) 超音波洗浄装置を用いながらていねいに泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。

2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第4表に示す。試料には、無色透明の火山ガラスが少量含まれている。火山ガラスは、繊維束状軽石型のほか、分厚い中間型が認められる。重鉱物としては、角閃石が少量含まれている。

第4表 中谷内遺跡第16次調査 3区 4G-7D7 テフラ検出分析結果

地点名	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			備考
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
4G-7D7 (3区基本土層B-B')	1				*	pm>md	透明	角閃石をごく少量含む。

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, (*): とくに少ない。
最大径の単位は, mm, bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型。

D 考察

今回分析の対象となった白色凝灰質砂質シルト層（試料1）に関しては、915年に十和田火山から噴出した十和田a火山灰（To-a）〔町田ほか1981〕の可能性が考えられた。このテフラは、東北地方のほぼ全域を覆う指標テフラで、新潟市結七島遺跡でもTo-aの可能性のあるテフラ層が検出されている〔植田・遠竹ほか2003〕。

白色凝灰質砂質シルト層（試料1）には、To-aにも含まれている無色透明の繊維束状軽石型や中間型ガラスが少量含まれているものの、白色のスポンジ状軽石型ガラスは認められなかった。また、斜方輝石や単斜輝石は認められず、約5,000年前¹に会津地方の沼沢火山から噴出した沼沢湖テフラ（Nm-N）〔只見川第四紀研究グループ1966a・b、町田・新井1992など〕に含まれているような角閃石が検出され、積極的にTo-aに同定される根拠となる特徴は得られなかった。

To-aは平安時代の非常に有効な指標テフラであることから、引き続き発掘調査現場において注意する必要がある。

E まとめ

第16次調査3区において、微化石分析の対象地点の土層層序を記載するとともに、テフラの可能性のある土層について、テフラ検出分析を実施した。その結果、給源は現段階では不明なもの、無色透明な繊維束状軽石型や中間型の火山ガラスを少量ながら検出できた。

第2節 中谷内遺跡における植物珪酸体分析（プラント・オパール）

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO₂）が蓄積したもので、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネの消長を検討することで水田跡（稲作跡）の検証や探査が可能である〔藤原・杉山1984、杉山2000〕。また、イネ以外の植物についても詳細な検討を行う分析を植物珪酸体分析と呼んで、畑（畠）作物の推定、古植生や古気候の復元、土器胎土の起源、さらに炭化物の起源などを明らかにしている。

古環境や土地利用の復元のための微化石分析に際しては、分析対象地点の土層をていねいに観察し、後世の攪乱をうけていないできるだけ高純度の試料を採取する必要がある。そこで、中谷内遺跡においても、地質調査を実施して土層の層序を記載するとともに、プラント・オパール分析に供する高純度の試料の採取を実施した。

B 土層の層序

分析試料採取地点のうち第12次調査5G-2D4河2の土層を例に基本層序を示した。5G-2D4河2では、谷を埋積した堆積物をよく観察できた(第8図)。その堆積物は、下位より灰色砂質シルト層(層厚2cm, VII層)、炭化物や砂を含む黄灰色シルト層(層厚6cm, 河2 4層)、黄白色シルトブロックや炭化物を含み砂が多い灰色シルト層(層厚18cm, 河2 3層)、砂混じり灰色シルト層(層厚6cm, 河2 2層)、砂混じり暗灰色シルト層(層厚4cm, 河2 1層)からなる。

その上位には、さらに下位より砂混じり暗灰褐色シルト層(層厚11cm, VII層)、暗灰褐色シルト層(層厚9cm, VI層)、若干色調が暗い灰色シルト層(層厚6cm, V層)、灰色砂質シルト層(層厚6cm, IV層, 旧作土)、黄灰色シルト層(層厚5cm)、灰色シルト層(層厚8cm, 以上床土)、亜円礫混じり黄灰色シルト質砂層(層厚13cm, 礫の最大径18mm, 作土, 以上I層)が認められる。

発掘調査では、これらのうちVII層と河2 4層から平安時代初期の遺物が検出されている。

C 分析試料

分析試料は、第12次調査5G-2D4グリッド河2、第15次調査SD1・SD2・SD4・SD71・SD78および発掘調査担当者より送付されたSX112、第16次調査4G-7D7グリッド、4G-4E23グリッドの計19点である。試料採取層位は分析結果の柱状図に示した。

D 分析方法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法〔藤原1976〕を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)。
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μ mのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散。
- 5) 沈底法による20 μ m以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

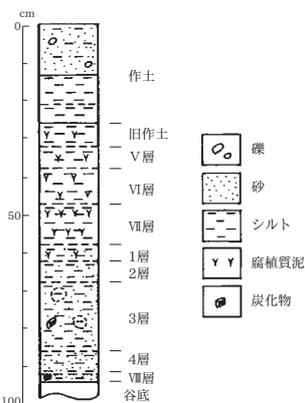
同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10⁻⁵g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山2000〕。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

E 分析結果の検討方法と提示

植物珪酸体(プラント・オパール)分析では、イネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、

5G-2D4グリッド河2



第8図 中谷内遺跡第12次調査基本土層柱状図

タケ亜科の主要な6分類群について同定・定量を行った。なお、チマキザサ節型・ミヤコザサ節型がともに多く検出されたSX112については、おもな分類群の推定生産量を求めて比較を行った。

水田跡（稲作跡）の可否の判断は、水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断しているが〔杉山2000〕、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。なお、畑稲作（陸稲栽培）の場合は、連作障害や地力の低下を避けるための輪作や休閑期間をおく必要があるため、イネの密度は水田跡と比較してかなり低くなり、1,000～2,000個/g程度である場合が多く判断基準が異なる〔杉山2000〕。

分析結果は表と図で示し、主要な分類群と炭化物の灰像を顕微鏡写真で提示した。

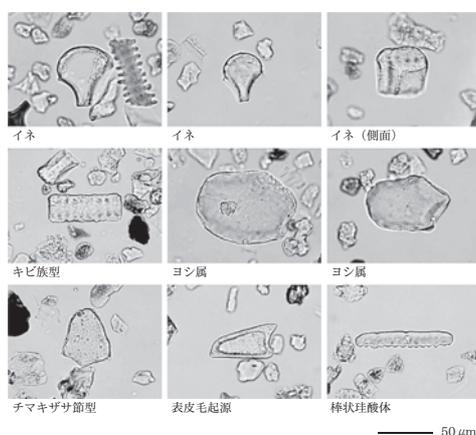
F 分析結果

1) 水田跡（稲作跡）の検討

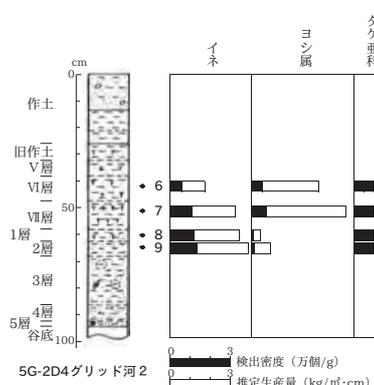
a 第12次調査

5G-2D4グリッド河2（第5表、第9・10図）

VI層（試料6）から河2 2層（試料9）までの層準についてプラント・オパール分析を行った。その結果、これらのすべてからイネが検出された。このうち、VII層（試料7）、河2 1層（試料8）、河2 2層（試料9）では、密度が11,300～13,500個/gとかなり高い値であり、VI層（試料6）でも6,000個/gと高い値である。したがって、これらの各層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。



第10図 中谷内遺跡第12次調査植物珪酸体顕微鏡写真



第9図 中谷内遺跡第12次調査植物珪酸体分析結果

第5表 中谷内遺跡第12次調査 植物珪酸体分析結果

分類群		地点・試料			
		5G-2D4グリッド河2			
学名	6	7	8	9	
イネ	<i>Oryza sativa</i>	60	113	119	135
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	53	75	7	15
タケ亜科	Bambusoideae	15	30	37	8
推定生産量（単位：kg/m ² ・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出					
イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.77	3.32	3.51	3.97
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	3.32	4.75	0.47	0.95
タケ亜科	Bambusoideae	0.07	0.14	0.18	0.04

b 第15次調査

SD1（第6表、第11・12図）

1層（試料1）と2層（試料2）についてプラント・オパール分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。密度は4,700個/gおよび3,500個/gと比較的高い値である。したがって、これらの各層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

SD2（第6表、第11・12図）

2層（試料1）と3層（試料2）についてプラント・オパール分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。密度は3,900個/gおよび3,600個/gと比較的高い値である。したがって、これらの各層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

SD4 (第6表、第11・12図)

1層(試料1)と2層(試料2)についてプラント・オパール分析を行った結果、1層(試料1)からイネが検出された。密度は3,900個/gと比較的高い値である。したがって、当時は遺構周辺で稲作が行われていたと考えられる。

SD71・78 (第6・7表、第11・12図)

SD71・78では、SD71・1層(試料2)と2層(試料3)、SD78 畠状遺構サク部(試料1)とⅧa層(試料2)についてプラント・オパール分析を行った。その結果、両試料からイ

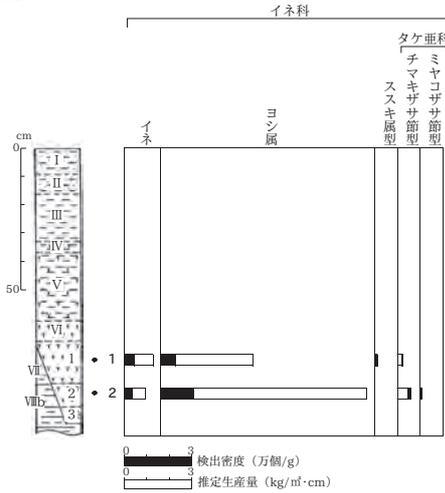
第6表 中谷内遺跡第15次調査 植物珪酸体分析結果1

検出密度 (単位: ×100個/g)		SD1		SD2		SD4		SD71	
分類群	学名	1	2	1	2	1	2	2	3
イネ科	Gramineae								
イネ	<i>Oryza sativa</i>	47	35	39	36	39		61	53
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	67	149	91	65		14	75	46
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7		13				7	
タケ亜科	Bambusoideae								
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	27	64	46	115	45	496	109	165
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>		7	7	14	52	65	27	20
植物珪酸体総数	Total	148	255	196	230	136	575	278	283

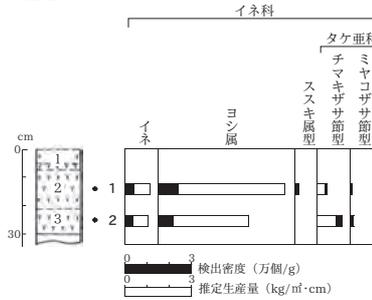
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出									
イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.38	1.03	1.15	1.06	1.14		1.79	1.55
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	4.23	9.40	5.74	4.10		0.91	4.71	2.91
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.08		0.16				0.08	
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.20	0.48	0.34	0.86	0.34	3.72	0.81	1.23
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>		0.02	0.02	0.04	0.15	0.19	0.08	0.06

タケ亜科の比率 (%)									
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	100	96	95	95	69	95	91	95
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>		4	6	5	31	5	9	5
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0	0	0	0	0

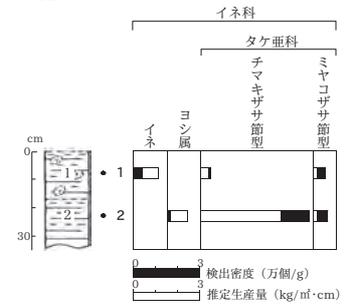
SD1



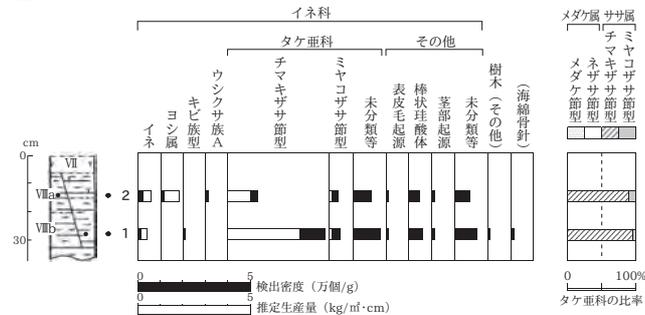
SD2



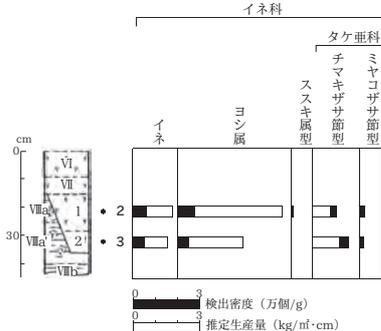
SD4



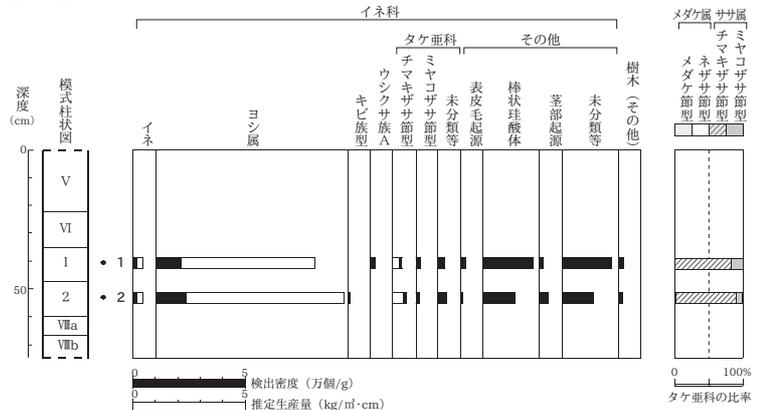
SD78



SD71



SX112



第11図 中谷内遺跡第15次調査 植物珪酸体分析結果

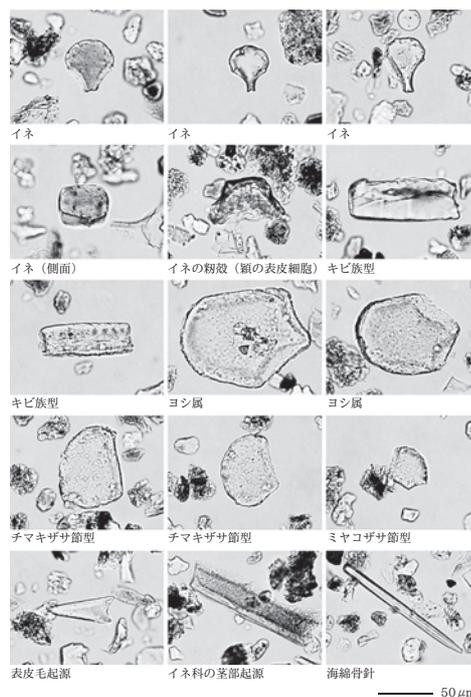
ネが検出された。密度はSD711層 6,100個/g、2層 5,300個/gといずれも高い値である。一方SD78では、密度がサク部（試料1）で1,300個/g、VIII a層（試料2）で2,000個/gといずれも比較的低い値である。同遺構が畝跡であった場合は、5）項で述べたように畑稲作（陸稲栽培）が行われていた可能性が想定される。

SX112（第7表、第12図）

1層（試料1）と2層（試料2）についてプラント・オパール分析を行った。その結果、両試料からイネが検出されたが、密度は1,400個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

第7表 中谷内遺跡第15次調査 植物珪酸体分析結果2

検出密度（単位：×100個/g）		地点・試料		SD78		SX112	
分類群	学名	1	2	1	2	1	2
イネ科	Gramineae						
イネ	<i>Oryza sativa</i>	13	20	14	14		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>		13	115	136		
キビ族型	Panicaceae type	7			7		
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		7		20		
タケ亜科	Bambusoideae						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	446	138	41	64		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	47	39	20	14		
未分類等	Others	120	79	27	36		
その他のイネ科	Others						
表皮毛起源	Husk hair origin	7	7	20	7		
棒状珪酸体	Rodshaped	60	46	224	143		
茎部起源	Stem origin	13	13	14	36		
未分類等	Others	100	66	217	136		
樹木起源	Arboreal						
その他	Others			7	20	14	
(海綿骨針)	Sponge spicules		13				
植物珪酸体総数	Total	820	428	732	607		
おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m ² ・cm）： 試料の仮比重を1.0と仮定して算出							
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.39	0.58	0.4	0.42		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>		0.83	7.27	8.56		
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	3.35	1.03	0.3	0.48		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.14	0.12	0.06	0.04		
タケ亜科の比率（%）							
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	96	90	83	92		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	4	10	17	8		
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0		



第12図 中谷内遺跡第15次調査 SD1・2・4・71・78、SX112 植物珪酸体顕微鏡写真

c 第16次調査

4G-7D7 グリッド（第8表、第13・14図）

IV層（試料2）、VII層（試料5）、SD21 1層（試料6）についてプラント・オパール分析を行った。その結果、IV層（試料2）とVII層（試料5）からイネが検出された。このうち、VII層（試料5）では密度が2,700個/gと比較的低い値で、IV層（試料2）では密度が700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、SX112で述べたような理由が考えられる。

4G-4E23 グリッド（第8表、第13・14図）

VII層（試料3）とVIII層（試料4）についてプラント・オパール分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、VII層（試料3）では密度が2,800個/g、VIII層（試料4）では密度が2,000個/gといずれも比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、SX112で述べたような理由が考えられる。

2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジユズダマ属（ハトムギが含まれる）、オシシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある

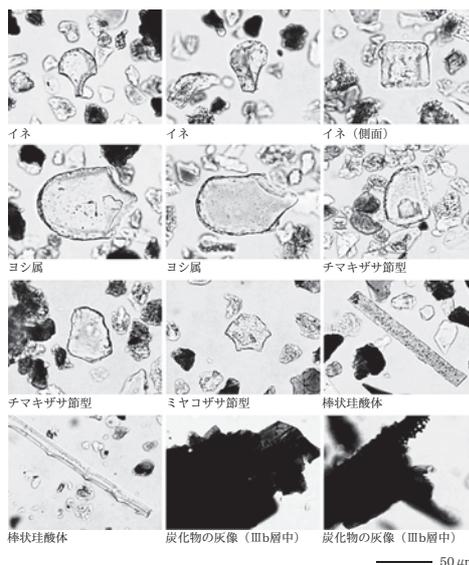
a 第12次調査

5G-2D4 グリッド河2ではイネ以外の分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

第8表 中谷内遺跡第16次調査 3区植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)		4G-7D7グリッド			4G-4E23グリッド	
分類群	学名	2	5	6	3	4
イネ科	Gramineae					
イネ	<i>Oryza sativa</i>	7	27		28	20
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	141	48		127	13
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type				7	
タケ亜科	Bambusoideae					
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	33	14	54	7	39
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>			7		13
植物珪酸体総数	Total	181	89	61	169	85

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出		4G-7D7グリッド		4G-4E23グリッド	
分類群	学名	2	5	3	4
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.20	0.80	0.83	0.58
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	8.87	3.01	8.04	0.83
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type			0.09	
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.25	0.10	0.41	0.30
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>			0.02	0.04



第13図 中谷内遺跡第16次調査 3区植物珪酸体・炭化物顕微鏡写真

b 第15次調査

SD1・2・4・71・78、SX112ではイネ以外の分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

c 第16次調査

4G-7D7グリッド、4G-4E23グリッドではイネ以外の分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

3) 炭化物について (第13図)

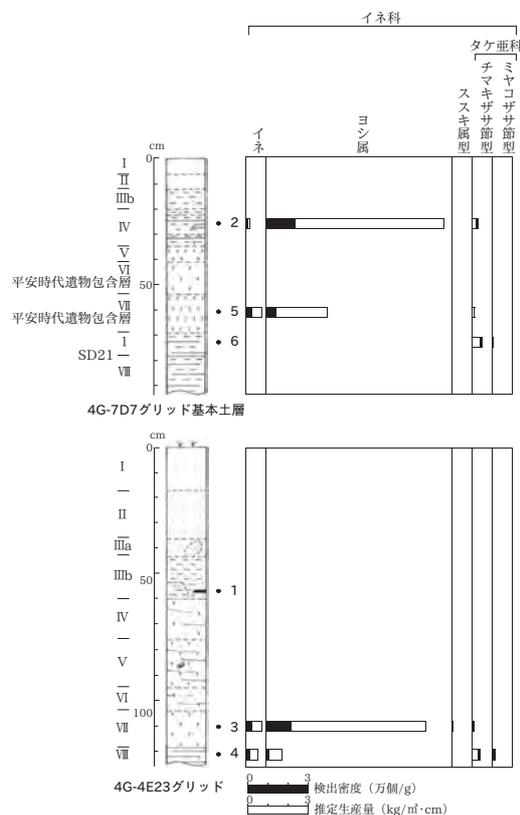
4G-4E23グリッドIII b層から採取された炭化物について灰像分析を行った。その結果、機動細胞や短細胞などが配列する珪化細胞組織およびそれらの単体は認められなかった。このことから、本試料は植物珪酸体を形成しない種類もしくは部位に由来すると考えられるが、給源植物に関する手がかりを得ることはできなかった。

4) 堆積環境の推定

a 第12次調査

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。イネ以外の分類群では、各層準ともタケ亜科が比較的多く検出され、上位層準ではヨシ属も比較的多く検出された。おもな分類群の推定生産量によると、概ねイネが優勢であり、VI層とVII層ではヨシ属も多くなっている。

以上のことから、5G-2D4グリッド河2の各層準の堆積当時は、概ねヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところには竹笹類などが生育していたと考えられる。なお、VI層とVII層ではヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことや、耕作休閑期間中にヨシ属が繁茂していたこと、施肥などの目的でヨシ属が水田内に持ち込まれたことなどが想定される。



第14図 中谷内遺跡第16次調査 3区植物珪酸体分析結果

b 第15次調査

SX112からはヨシ属が多く検出され、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木（その他）なども認められた。おもな分類群の推定生産量によると、ヨシ属が優勢となっている。

以上のことから、各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用してSX112周辺で水田稲作が行われていたと推定される。また、比較的乾燥したところにはササ属（チマキザサ節など）などが分布していたと考えられる。

SD78では、チマキザサ節型が多く検出され、ミヤコザサ節型なども認められた。おもな分類群の推定生産量によると、チマキザサ節型が優勢となっている。

以上のことから、当時は周辺にササ属（チマキザサ節など）が多く生育していたと考えられ、比較的乾燥した堆積環境であったと推定される。このような周辺の植生から、SD78周辺で行われた稲作は畑作の系統（陸稲）であった可能性が考えられる。

c 第16次調査

4G-7D7グリッド、4G-4E23グリッドでは、平安時代遺物包含層のⅦ層で各地点ともイネが比較的多く検出され、稲作が行われていた可能性が比較的高いと判断された。また、Ⅳ層やⅧ層でもイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。

第3節 中谷内遺跡における花粉分析

A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B 分析試料

分析試料は、第15次調査SD1・2・4・71・78、第16次調査4G-7D7グリッド、4G-4E23グリッドで採取された計15点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

C 分析方法

花粉の分離抽出は、中村〔中村1967〕の方法をもとに以下の手順で行った。

- 1) 試料から1cm³を秤量。
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加えて15分間湯煎。
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置。
- 5) 水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 6) 再び水酢酸を加えて水洗処理。
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
- 8) 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉〔島倉1973〕および中村〔中村1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、

中村〔中村 1974・1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

D 分析結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 28、樹木花粉と草本花粉を含むもの 5、草本花粉 25、シダ植物孢子 2 形態の計 60 である。分析結果を第 9 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。次に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒ

第 9 表 中谷内遺跡第 15 次調査 花粉分析結果

学名	分類群	和名	SD1		SD2		SD4		SD71		SD78	
			1	2	1	2	1	2	2	3	1	2
Arboreal pollen	樹木花粉											
<i>Abies</i>	モミ属			1	1							
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複維管束亜属		1	1	11	5	3		4	3	1	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>	マツ属単維管束亜属				1	1						
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ		6	16			1	1	21	14	5	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		2	2	3	2				3		
<i>Salix</i>	ヤナギ属				2		2	1				
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				3	1						
<i>Alnus</i>	ハンノキ属		11	18	20	15	6	18	22	10	4	1
<i>Betula</i>	カバノキ属				5	1	1	1	1			1
<i>Corylus</i>	ハンバミ属								1			
<i>CarPinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ				3	1			1	1		
<i>Castanea crenata</i>	クリ		1	2	3							
<i>Castanopsis</i>	シイ属			2	2					2		
<i>Fagus</i>	ブナ属		1		5	5	1					2
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属		6	7	16	13	1	1	17	4	3	1
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカシ亜属		1						1			1
<i>Ulmus Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ			4	2	1	1					
<i>Rhus</i>	ウルシ属			2								
Celastraceae	ニシキギ科			1								
<i>Acer</i>	カエデ属				1		1					
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ		1	2	2	2	1			2		
<i>Symplocos</i>	ハイノキ属			1								
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属					1						
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉											
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科		5	3	1	2	3	5	5	2	2	
Saxifragaceae	ユキノシタ科			1								
Rosaceae	バラ科				1							
Leguminosae	マメ科				1							
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属				1	2			1		1	
Nonarboreal pollen	草本花粉											
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属			1	2	14						
<i>Alisma</i>	サジオモダカ属				1	1			1			
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属			2	2							
Gramineae	イネ科		130	123	95	134	20	11	121	65	5	6
<i>Oryza type</i>	イネ属型		1	8	6	15			9	10		
Cyperaceae	カヤツリグサ科		33	32	72	58	9	3	98	62	9	3
<i>Aneilema keisak</i>	イボクサ					2						
<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属				2	1						
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節		1	1					1	2		
<i>Rumex</i>	ギンギン属								1	2		
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属			3	2							
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒコ科		7	1	4	2	1	3	5	1	9	3
Caryophyllaceae	ナデシコ科			2	1				1	1		
Cruciferae	アブラナ科			2	6	9		2	6	1	3	1
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科		1		12	11	1		4		1	
Apioidae	セリ亜科		2		7	4			1	1		
Labiatae	シソ科				1	1						
<i>Plantago</i>	オオバコ属				1							
Lactucoideae	タンポポ科		9	10	4	14			2		1	
Asteroidae	キク亜科		4	1	7	17			3	1		
<i>Xanthium</i>	オナモミ属				1							
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属		186	166	81	73	8	7	57	40	10	2
Fern spore	シダ植物孢子											
Monolate type spore	単条溝孢子		124	110	33	49	25	8	42	21	32	15
Trilate type spore	三条溝孢子		16	6	23	15	2	3	4	6	5	3
Arboreal pollen	樹木花粉		30	59	80	48	14	25	69	39	15	4
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉		5	4	4	4	3	5	6	2	3	
Nonarboreal pollen	草本花粉		374	352	303	360	39	26	310	186	38	15
Total pollen	花粉総数		409	415	387	412	56	56	385	227	56	19
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度		2.4 ×10 ³	5.9 ×10 ³	6.3 ×10 ³	5.6 ×10 ³	4.3 ×10 ²	3.6 ×10 ²	2.3 ×10 ⁴	1.4 ×10 ³	3.6 ×10 ²	1.4 ×10 ²
Unknown pollen	未同定花粉		8	6	10	8	5	4	4	4	5	4
Fern spore	シダ植物孢子		140	116	56	64	27	11	46	27	37	18
Helminth eggs	寄生虫卵		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石細胞		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物		(++)	(++)	(++)	(++)	(+)	< (+)	(+)	(+)	(+)	< (+)

第3節 中谷内遺跡における花粉分析

ノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属—アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属—ケヤキ、モチノキ属、ウルシ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、ハイノキ属、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科—イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ニワトコ属—ガマズミ属

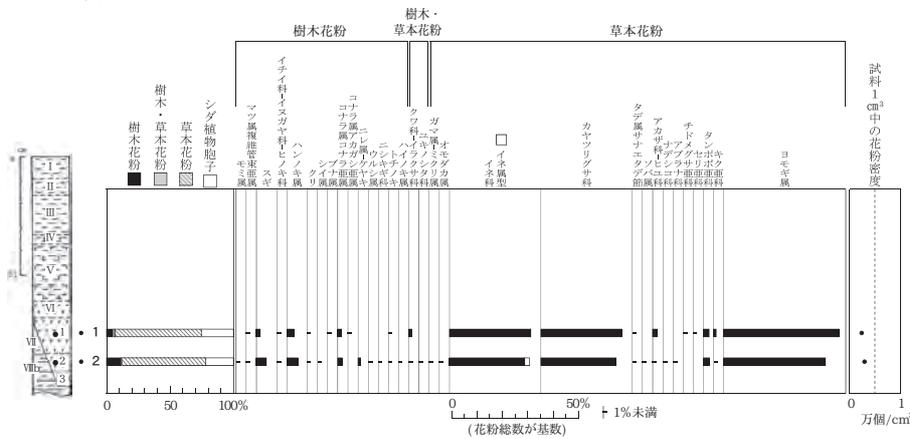
〔草本花粉〕

ガマ属—ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、ヒルガオ、オミナエシ科、ゴキヅル、シソ科、オオバコ属、タンポポ科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属科

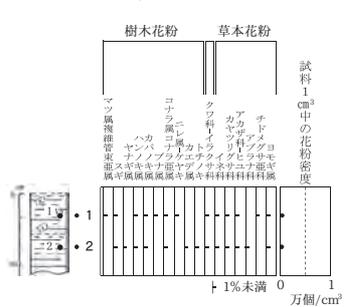
〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

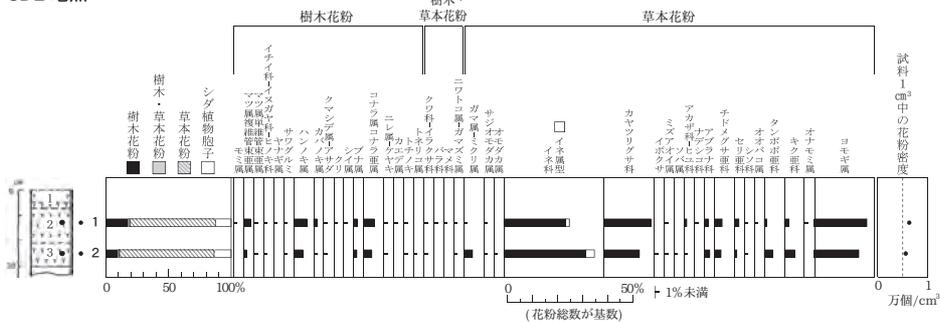
SD1 地点



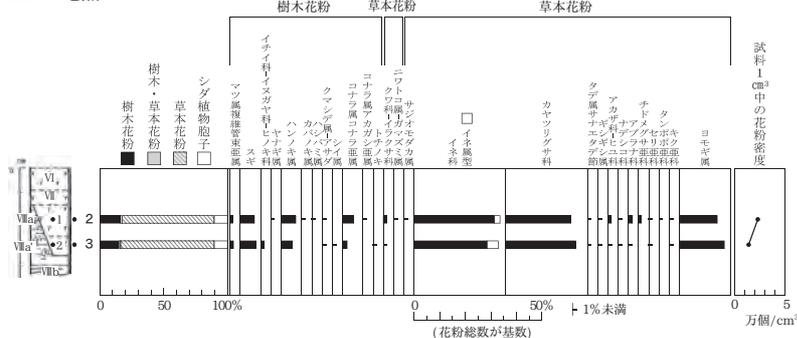
SD4 地点



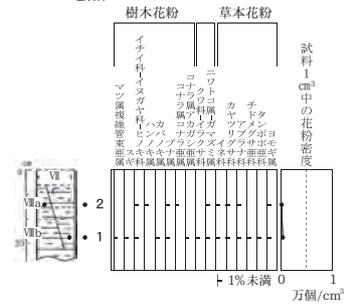
SD2 地点



SD71 地点



SD78 地点



第15図 中谷内遺跡第15次調査 花粉ダイヤグラム

2) 花粉群集の特徴

a 第15次調査

SD1 (第9表、第15・16図)

樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科 (イネ属型を含む)、カヤツリグサ科が優勢で、タンポポ亜科、アカザ科-ヒユ科、ガマ属-ミクリ属、オモダカ属などが伴われる。また、2層ではソバ属が検出された。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ、マツ属複雑維管束亜属などが検出された。

SD2 (第9表、第15・16図)

樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科 (イネ属型を含む)、ヨモギ属、カヤツリグサ科が優勢で、アブラナ科、チドメグサ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、アカザ科-ヒユ科、ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属などが伴われる。また、3層ではソバ属が検出された。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、マツ属複雑維管束亜属、ブナ属などが検出された。

SD4 (第9表、第15・16図)

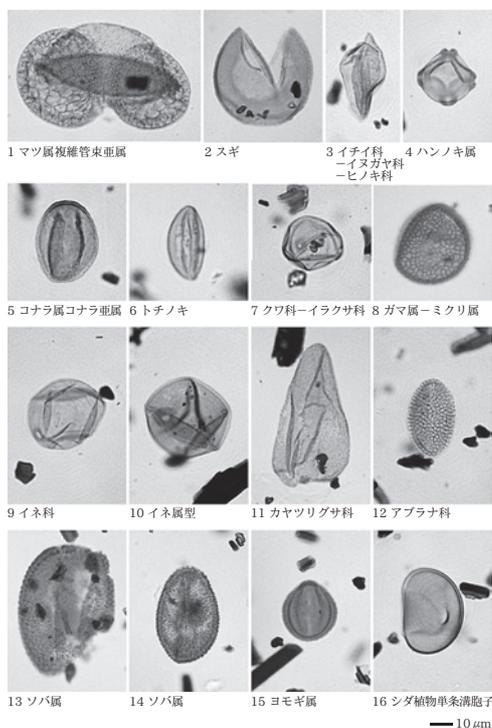
樹木花粉ではマツ属複雑維管束亜属、スギ、ヤナギ属、ハンノキ属、カバノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ、カエデ属、トチノキ、など、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、ヨモギ属科などが検出されたが、いずれも少量である。

SD71 (第9表、第15・16図)

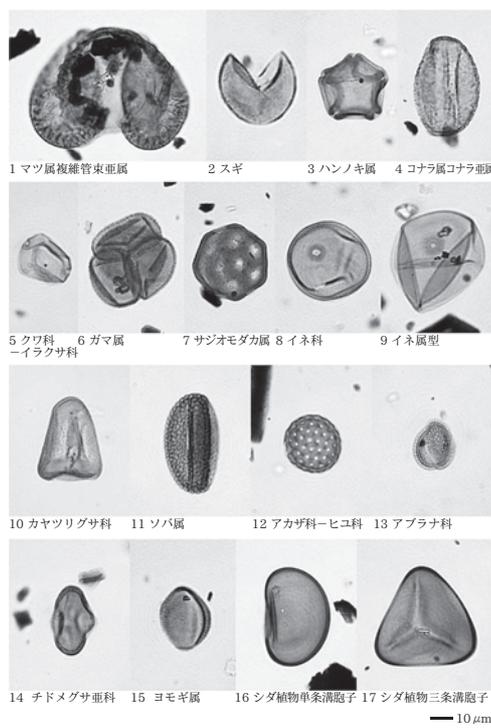
樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科 (イネ属型を含む)、カヤツリグサ科、ヨモギ属が優勢で、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科などが伴われる。樹木花粉では、スギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、マツ属複雑維管束亜属などが検出された。

SD78 (第9表、第15・16図)

樹木花粉ではイチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ブナ属など、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。



第16図 中谷内遺跡第15次調査 SD1・2・4・71・78 花粉・胞子顕微鏡写真



第17図 中谷内遺跡第16次調査 3区 花粉・胞子顕微鏡写真

b 第16次調査

4G-7D7 グリッド (第10表、第17・18図)

下位のSD21 1層(試料6)では、花粉がほとんど検出されなかった。VII層(試料5)では、草本花粉の占める割合が68%と高く、樹木花粉は13%である。草本花粉では、イネ科やヨモギ属が優勢で、チドメグサ亜科、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、タンポポ亜科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属などが検出された。IV層(試料2)では、カヤツリグサ科が増加し、ソバ属、サジオモダカ属などが出現している。なお、チドメグサ亜科は減少している。

4G-4E23 グリッド (第10表、第17・18図)

下位のVIII層(試料4)では、草本花粉の占める割合が44%、樹木花粉が32%、樹木・草本花粉が16%である。草本花粉では、イネ科(イネ属型を含む)、カヤツリグサ科が優勢で、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科、サジオモダカ属などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属、トチノキ、ヤナギ属、マツ属複雑管束亜属などが検出され、樹木花粉と草本花粉を含むクワ科-イラクサ科も比較的多く認められた。VII層(試料3)では、草本花粉の占める割合が71%と高く、イネ科、カヤツリグサ科が増加している。樹木花粉では、スギがやや増加し、ハンノキ属は減少している。また、樹木花粉と草本花粉を含むクワ科-イラクサ科も減少している。

3) 花粉分析から推定される植生と環境

a 第15次調査

SD1

各層準の堆積当時は、イネ科、カヤツリグサ科をはじめ、ガマ属-ミクリ属、オモダカ属なども生育する湿地ないし浅水域の環境であったと考えられ、周辺には水田が分布していたと推定される。また、周囲の比較的乾燥したところにはヨモギ属をはじめタンポポ亜科、アカザ科-ヒユ科などが生育していたと考えられ、2層ではソバの栽培も示唆される。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキなどの落葉広葉樹、およびスギやマツ属(クロマツ・アカマツ)などの針葉樹が分布していたと推定される。

SD2

各層準の堆積当時は、イネ科、カヤツリグサ科をはじめ、ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属なども生育する湿地ないし浅水域の環境であったと考えられ、周辺には水田が分布していたと推定される。また、周囲の比較的乾燥したところにはヨモギ属をはじめアブラナ科、チドメグサ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、アカザ科-ヒユ科などが生育していたと考えられ、2層ではソバの栽培も示唆される。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属、ニレ属-ケヤキなどの落葉広葉樹、およびマツ属(クロマツ・アカマツ)などの針葉樹が分布していたと推定される。

SD4

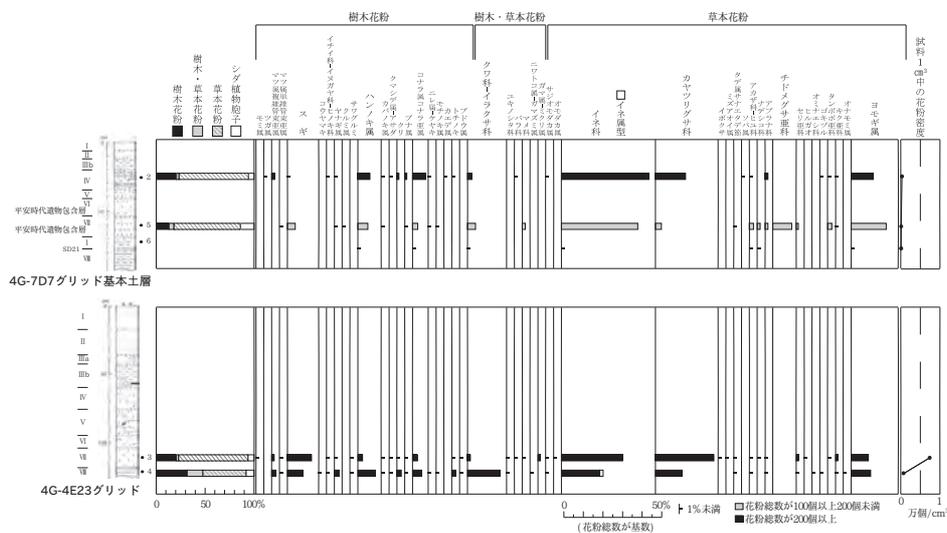
各層準とも花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、周囲にはイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属などの草本類が生育し、周辺にはスギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属などの樹木が生育していた可能性が考えられる。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

SD71

各層準の堆積当時は、イネ科、カヤツリグサ科などが生育する湿地ないし浅水域の環境であったと考えられ、周辺には水田が分布していたと推定される。また、周囲の比較的乾燥したところにはヨモギ属をはじめアカザ科-ヒユ科、アブラナ科などが生育していたと考えられる。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属やコナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹、およびスギやマツ属(クロマツ・アカマツ)などの針葉樹が分布していたと推定される。

第10表 中谷内遺跡第16次調査 3区花粉分析結果

学名	分類群	和名	4G-7D7			4G-4E23	
			2	5	6	3	4
Arboreal pollen	樹木花粉						
<i>Abies</i>		モミ属				1	
<i>Tsuga</i>		ツガ属	1				
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属複雑管束亜属	6			9	9
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxyton</i>		マツ属単純管束亜属				1	1
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	3	8		88	32
<i>Sciadopitys verticillata</i>		コウヤマキ					1
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	3			4	3
<i>Salix</i>		ヤナギ属	3	1		2	10
<i>Juglans</i>		クルミ属		1			
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サログルミ				1	1
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	24	10	2	17	36
<i>Betula</i>		カバノキ属	3	1		1	2
<i>CarPinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ	2			3	1
<i>Castanea crenata</i>		クリ	4			4	9
<i>Fagus</i>		ブナ属	4	1		5	3
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	26	5	4	18	19
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ	3	1			2
<i>Ilex</i>		モチノキ属		1			2
<i>Acer</i>		カエデ属	2				
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ	2			2	8
<i>Vitis</i>		ブドウ属				1	1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉						
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	9	8	2	11	67
Saxifragaceae		ユキノシタ科				1	1
Rosaceae		バラ科	1			3	
Leguminosae		マメ科		3		2	
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属					1
Nonarboreal pollen	草本花粉						
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属-ミクリ属				9	
<i>Alisma</i>		サジオモダカ属	1			2	2
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属				1	
Gramineae		イネ科	174	76	3	223	79
<i>Oryza type</i>		イネ属型					7
Cyperaceae		カヤツリグサ科	60	6		213	55
<i>Aneilema keisak</i>		イボクサ				1	
<i>Monochoria</i>		ミズアオイ属				1	
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節		1		1	1
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	1				
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アザガ科-ヒユ科	1	4	1	3	1
Caryophyllaceae		ナデシコ科		3	1	1	
Cruciferae		アブラナ科	6	3		1	3
Hydrocotyloideae		チドメグサ亜科		19			
Apioidaeae		セリ亜科		2		8	1
<i>Calystegia japonica</i>		ヒルガオ				1	
Valerianaceae		オミナエシ科					1
<i>Actinostemma lobatum</i>		ゴキツル	2				1
Lactucoideae		タンポポ科	2	4		2	
Asteroidaeae		キク亜科	2	1		8	2
<i>Xanthium</i>		オナモミ属					1
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	44	35	3	63	40
Fern spore	シダ植物胞子						
Monolate type spore	単条溝胞子		18	29	12	42	32
Trilate type spore	三条溝胞子		6	3	2	5	4
Arboreal pollen	樹木花粉		86	30	6	157	140
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉		10	11	2	17	69
Nonarboreal pollen	草本花粉		293	154	8	538	194
Total pollen	花粉総数		389	195	16	712	403
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度		3.3×10 ³	1.2×10 ³	9.6×10 ²	7.4×10 ⁴	7.0×10 ³
Unknown pollen	未同定花粉		8	8	0	6	0
Fern spore	シダ植物胞子		24	32	14	47	36
Helminth eggs	寄生虫卵		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石細胞		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物		(+)	(+)	(+)	(+)	(+)



第18図 中谷内遺跡第16次調査 3区花粉ダイアグラム

SD78

各層準とも花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、周囲にはイネ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属などの草本類が生育し、周辺にはブナ属などの樹木が生育していた可能性が考えられる。

b 第16次調査

4G-7D7 グリッド

下位のSD21・1層では、花粉がほとんど検出されなかった。

平安時代遺物包含層のⅦ層では、イネ科、ヨモギ属、チドメグサ亜科をはじめ、アカザ科・ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、タンポポ科などの草本類が生育する日当たりの良い人里の環境が示唆される。アブラナ科には、アブラナ（ナタネ）、ダイコン、ハクサイ、カブなど多くの栽培植物が含まれている。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、スギなどが分布していたと推定される。

Ⅳ層では、カヤツリグサ科などが生育する湿潤な草原域が増加したと考えられ、部分的にソバなどを栽培する畑作が行われていたと推定される。

4G-4E23 グリッド

下位のⅧ層では、イネ科、カヤツリグサ科をはじめサジオモダカ属なども生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺には水田が分布していたと推定される。また、周囲の比較的乾燥したところにはヨモギ属、クワ科・イラクサ科をはじめアブラナ科なども生育していたと考えられる。

森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ヤナギ属、スギ、マツ属（クロマツ・アカマツ）などが分布していたと推定される。Ⅶ層でも、概ね同様の状況であったと考えられるが、周辺ではカヤツリグサ科などが生育する湿潤な草原域が増加したと推定される。

第4節 中谷内遺跡における樹種同定

A はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

B 分析試料

分析試料は、第12次調査1区5F-6Iグリッドから採取された樹木試料2点と第15次調査Pit77およびPit89から出土した柱根2点の計4点である。

C 分析方法

カミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柁目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

D 分析結果

第11表に結果を示し、出現した分類群の顕微鏡写真を第19図に示す。

1) 中谷内遺跡第12次調査1区5F-6Iグリッド 1・2号株（第19図）

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科

横断面：年輪のはじめに大型で厚壁の丸い道管がほぼ単独で1～3列配列する環孔材である。孔圏部外では、

小型でまると厚壁の道管が単独あるいは放射方向に2～3個複合して散在する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では翼状から連合翼状である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。内部にはチロースが著しい。放射組織は同性である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で1～3細胞幅である。

以上の形質により中谷内遺跡第12次調査河道跡から採取された2点の株はいずれもトネリコ属と同定された。

トネリコ属には、トヤチダモ、トネリコ、アオダモ、ヤマトアオダモなどがある。北海道、本州、四国、九州に分布する落葉または常緑の高木で、河川や沢沿いの湿原や水湿のある低地に生育し、ときには湿地林を形成する。トネリコ属の木材は概して強靱で堅硬であり、建築、家具、運道具、器具、旋作、薪炭など広く用いられる。今回の試料は、孔圏部の大道管の径が200μ～250μを示すものが多いことから、トネリコかヤマトアオダモのいずれかと考えられる。

2) 中谷内遺跡第15次調査 Pit77・Pit89 (第19図)

コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質により中谷内遺跡第15次調査 Pit77 の柱根はコナラ属コナラ節と同定された。

コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靱で弾力に富み、建築材などに用いられる。ミズナラなどの冷温帯落葉広葉樹林の主要構成要素や暖温帯性のナラガシワ、二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早

第11表 中谷内遺跡 樹種同定結果

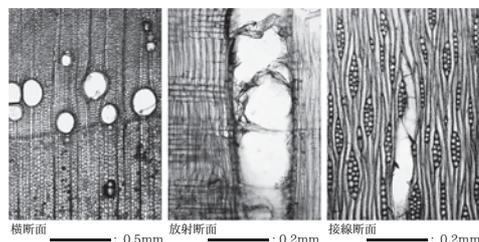
第12次調査

No.	試料	結果(学名/和名)
1	1号株	<i>Fraxinus</i> トネリコ属
2	2号株	<i>Fraxinus</i> トネリコ属

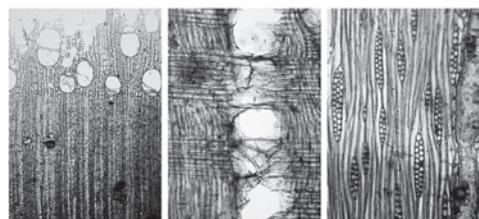
第15次調査

No.	地点	結果(学名/和名)
3	Pit77	<i>Quercus sect. Prinus</i> コナラ属コナラ節
4	Pit89	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ

第12次調査

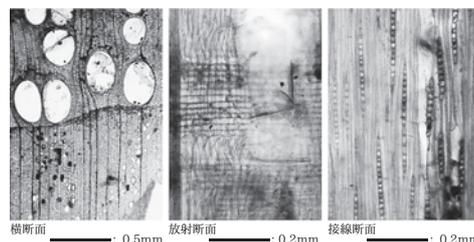


1. 1号株トネリコ属



2. 2号株トネリコ属

第15次調査 Pit77・89



3. Pit89 クリ



4. Pit77 コナラ属コナラ節

第19図 中谷内遺跡樹種顕微鏡写真

材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質により中谷内遺跡第15次調査 Pit89 の柱根はクリと同定された。

クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

温帯に広く分布する落葉高木であり、暖温帯と冷温帯の中間域では純林を形成することもある。乾燥した台地や丘陵地を好み、二次林要素でもある。

第5節 中谷内遺跡における放射性炭素 (^{14}C) 年代測定

A 測定試料と測定方法

第12次調査1区5F-6Iグリッドから検出された樹木株2試料について、酸-アルカリ-酸洗浄ののちに加速器質量分析 (AMS) 法により放射性炭素 (^{14}C) 年代測定を行った。試料の詳細を第12表に示す。年代測定は米国の Beta Analytic Inc. (ベータ社) で実施され、測定には3MV HVEE タンデトロン加速器が使用された (第12・13表)。

第12表 中谷内遺跡第12次調査 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	採取地点	試料の種類	重量	前処理	測定方法
1号株	1区5F-6Iグリッド	樹木片	5.4g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
2号株	1区5F-6Iグリッド	樹木片	7.7g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法

B 測定値の見かた

各用語の意味は次の通りである。

1) 未補正 ^{14}C 年代値 (measured radiocarbon age)

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例によりリビー (Libby) の5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値 (conventional radiocarbon age)

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25 (‰) に標準化することによって得られる年代値である。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

使用したデータセットは、INTCAL04 : Calibration Issue of Radiocarbon, 46 (3), 2004 (海洋性試料については, Marine04) である。また、較正曲線のスムーズ化には下記の理論を用いた。

Talma, A.S. and Vogel, J.C. (1993) A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Radiocarbon, 35 (2), p.317-322.

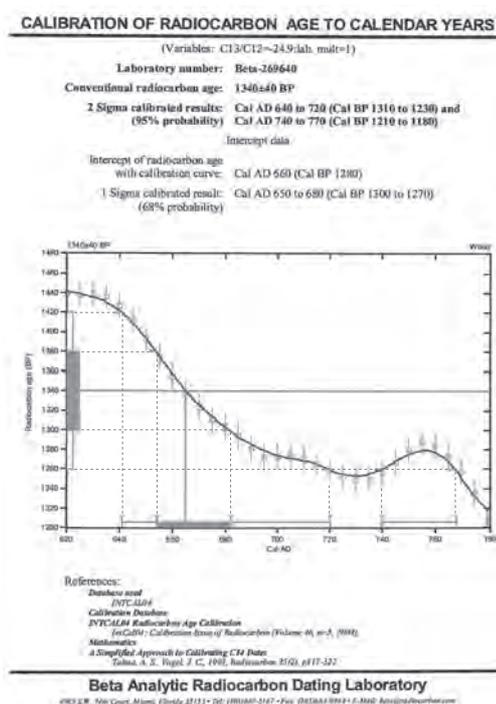
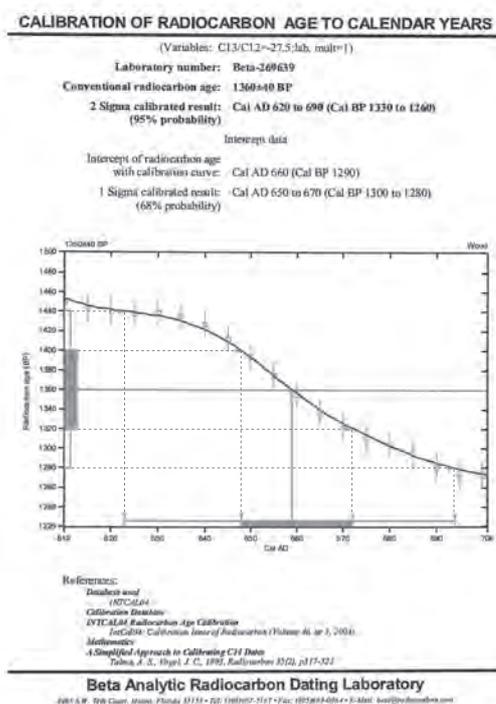
なお、暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68% 確率)・2 σ (95% 確率)は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

C 測定結果

測定結果および暦年較正年代を第 13 表と第 20 図に示す。

第 13 表 中谷内遺跡第 12 次調査 放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 ^{14}C 年代 (yBP)	$\delta^{13}\text{C}$	補正 ^{14}C 年代 (yBP)	暦年較正年代	測定番号
1号株	1400 \pm 40	-27.5	1360 \pm 40	2 σ : AD620~AD690 1 σ : AD650~AD670 交点 : AD660	Beta-269639
2号株	1340 \pm 40	-24.9	1340 \pm 40	2 σ : AD640~AD720, AD740~AD770 1 σ : AD650~AD680 交点 : AD660	Beta-269640



第 20 図 中谷内遺跡第 12 次調査 1・2 号株放射性炭素年代測定結果

第VI章 内野遺跡

第1節 概要

第8・9次調査は、両調査区とも用水路建設予定地であったため調査範囲が狭く遺構の形状・大きさを明らかにできなかったものが多い。また、ともに削平が著しく、遺物包含層をほとんど欠失しており、深さがある遺構以外は痕跡程度のものも少なくない。遺構は、井戸、土坑、性格不明遺構、溝、小土坑・柱穴、旧河道があるが、時期が確定できたものはわずかであった。遺跡の時期幅は、平安時代以降近代までと考えられる。

平安時代（古代）、鎌倉・室町時代（中世）の遺物が出土した。遺物出土総量は、コンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）換算で3箱である。土器は、平安時代の土師器・須恵器が出土した。そのほか中世以降の陶磁器、石製品が少量出土している。

第2節 層序（図版77）

内野遺跡の基本層序は、第8次調査区の成果を基準とした。遺構確認面は標高4.1～4.3mで、ほとんど起伏がなく平坦な地形である。以下に基本層序を記す。

- I a 層 暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）粘性ややあり、しまりあり、盛土。
- I a' 層 黄灰色シルト（2.5Y5/1）粘性ややあり、しまりややあり、表土。
- I a'' 層 暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）粘性ややなし、しまりあり、表土。
- I b 層 黄灰色シルト（2.5Y4/1）粘性強い、しまりややあり、近世以降の水田耕作土。
- I b' 層 灰色シルト（5Y5/1）粘性あり、しまりあり。
- I c 層 褐灰色シルト（10YR5/1）粘性あり、しまり強い、近世以降の水田耕作土。
- II a 層 黒褐色シルト（10YR3/1）粘性ややなし、しまりあり、古代・中世包含層。
- II b 層 暗褐色砂質シルト（10YR3/3）粘性ややなし、しまりあり、III層～II a層漸移層。
- III a 層 黄褐色砂質シルト（2.5Y5/3）粘性ややあり、しまりややなし、遺構確認面。
- III b 層 灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2）粘性なし、しまりあり。
- III c 層 暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）粘性ややあり、しまりあり。
- III d 層 黄灰色砂質シルト（2.5Y5/1）粘性ややなし、しまりややなし。

I層は、盛土、表土、近世以降の水田耕作土からなり、II a層遺物包含層との間にシルト等の堆積層が介在しない。また、II a層遺物包含層は、堆積が薄く古代・中世の遺物が混在して出土している。以上のことを考慮すれば、上記の堆積状況は、隣接する中谷内遺跡より遺跡が高所に立地していることと、度重なる地形改変の経過を反映しているであろう。なお、III層以下に古代以前の遺物包含層は確認できない。

第3節 遺構（図版70～81、写真図版52～63）

A 遺構の概要

詳しい遺構の計測値等は別表9・10に示した。遺構出土土器の詳細は別表11・12に示している。第8・9

次調査で検出した遺構総数は103であり、ほかに近世以降の旧河道を2条検出した。内訳は、井戸3基、土坑8基、性格不明遺構2基、溝17条、小土坑・柱穴73基、旧河道2条である。

B 第8次(11)調査遺構各説

第8次調査では、井戸1基、土坑7基、性格不明遺構1基、溝9条、小土坑・柱穴69基を検出した。

1) 遺構各説

a 井戸

SE1 (図版70・73・78、写真図版55)

9O-9I24に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は台形状で、深さ1.36mである。覆土は4層に分層できる。土師器が出土している。近世以降と推測される水田耕作土のI b層を掘り込んでおり、近世または近代の所産と考えられる。

b 土坑

SK9 (図版70・72・79、写真図版56)

9O-8G6に位置する。平面形は円形、断面形は皿形で、確認面で長軸0.60m、深さ0.23mで、覆土は3層に分層できる。遺物の出土はない。Pit10と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→Pit10である。

SK19 (図版70・72・78、写真図版56)

9O-7F24・25に位置する。平面形は不整形、断面形は皿形で、確認面で長軸1.59m、短軸0.97m、深さ0.25mで、覆土は4層に分層できる。粘土塊が出土している。SD22と重複し、断面観察による構築順序は、SD22→本遺構である。

SK48 (図版70・72・79、写真図版56)

9O-7F24・25、9O-8F4・5に位置する。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.53m、深さ0.14mで、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。Pit26と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→Pit26である。

SK63 (図版70・72・78、写真図版56)

9O-7E15に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸0.63m、深さ0.22mで、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。SD64と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD64である。

SK79 (図版70・72・78、写真図版56)

9O-7E8・9に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は皿形で、深さ0.20mである。覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。SD78と重複し、断面観察による構築順序は、SD78→本遺構である。

SK80 (図版70・72・78、写真図版56・57)

9O-7E2に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は皿形で、深さ0.20mである。覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。Pit91と重複し、断面観察による構築順序は、Pit91→本遺構である。

SK99 (図版70・72・78、写真図版57)

9O-7E10に位置する。平面形は楕円形、断面形は皿形で、確認面で長軸0.93m、短軸0.66m、深さ0.16mで、覆土は2層に分層できる。底面近くから石製品(図版82)が出土している。

c 性格不明遺構

SX52 (図版70・72・77・79、写真図版57)

9O-7F17・18・22・23・24に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は皿形で、深さ0.22mである。覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。

d 溝

SD8 (図版 70・72・79、写真図版 57)

9O-8F5、9O-8G1・6・7に位置する。南東～北西方向(N-41°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.78m前後、深さ0.13m前後で、覆土は2層に分層できる。石製品が出土している。

SD28、Pit29・30と重複し、断面観察による構築順序は、SD28、Pit29・30→本遺構である。

SD22 (図版 70・72・78・79、写真図版 57・58)

9O-7F23・24、9O-8F3・4に位置する。南西～北東方向(N-39°-E)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.39m前後、深さ0.12m前後で、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。

SD28 (図版 70・72・79、写真図版 57)

9O-8G1に位置する。南東～北西方向(N-24°-W)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.20m前後、深さ0.09m前後で、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。SD8と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD8である。

SD39 (図版 70・73・80、写真図版 58)

9O-8G14に位置する。概ね南北方向(N-7°-E)に延び、断面形が半円形となる。確認面で幅0.28m前後、深さ0.13m前後で、覆土は単層である。遺物の出土はない。SD8と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD8である。

SD41 (図版 70・72・80、写真図版 58)

9O-8G8・13に位置する。南西～北東方向(N-23°-E)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.44m前後、深さ0.14m前後で、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。

SD57 (図版 70・72・79、写真図版 58)

9O-7E20、9O-7F11・16に位置する。南西～北東方向(N-26°-E)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.60m前後、深さ0.16m前後で、覆土は単層である。遺物の出土はない。

SD64 (図版 70・72・78、写真図版 59)

9O-7E15に位置する。南西～北東方向(N-43°-E)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.69m前後、深さ0.19m前後で、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。

SD68 (図版 70・72・78、写真図版 59)

9O-7E14・15に位置する。南西～北東方向(N-43°-E)に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅0.46m前後、深さ0.18m前後で、覆土は単層である。遺物の出土はない。

SD78 (図版 70・72・79、写真図版 59)

9O-7E8・9に位置する。南北方向(N-3°-W)に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅0.37m前後、深さ0.10m前後で、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。

e 小土坑・柱穴

Pit10 (図版 70・72・79、写真図版 56)

9O-8G6に位置する。平面形は円形、断面形は半円形で、確認面で長軸0.35m、短軸0.30m、深さ0.13mで、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。SK9と重複し、断面観察による構築順序は、SK9→本遺構である。

Pit26 (図版 70・72・79、写真図版 56)

9O-7F24・25、9O-8F4・5に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸0.39m、短軸0.25m、深さ0.13mで、覆土は2層に分層できる。遺物の出土はない。SK48と重複し、断面観察による構築順序は、SK48→本遺構である。

Pit29 (図版 70・72・79)

9O-8G1に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は皿

形で、深さ 0.07m である。覆土は 2 層に分層できる。遺物の出土はない。SD8 と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD8 である。

Pit30 (図版 70・72・79)

9O-8G1 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は半円形で、深さ 0.10m である。覆土は単層である。遺物の出土はない。SD8 と重複し、断面観察による構築順序は、本遺構→SD8 である。

Pit59 (図版 70・72・79、写真図版 58)

9O-7E15・20、9O-7F11・16 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.41m、短軸 0.30m、深さ 0.16m で、覆土は単層である。遺物の出土はない。SD57 と重複し、断面観察による構築順序は、SD57→本遺構である。

Pit60 (図版 70・72・79)

9O-7F11 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明である。断面形は台形状で、深さ 0.19m である。覆土は単層である。遺物の出土はない。

その他の Pit は、調査区中央付近に集中する。平面形が円形または楕円形で、直径 0.40m 未満、深さ 0.15m 未満の小 Pit が大半を占め、柱穴と認定できる Pit はない。

C 第 9 次 (12) 調査遺構各説

第 9 次調査では、井戸 2 基、土坑 1 基、性格不明遺構 1 基、溝 (畝状小溝含む) 8 条、小土坑・柱穴 4 基、旧河道 2 条を検出した。

1) 遺構各説

a 井戸

SE113 (図版 75・78、写真図版 60)

10P-2E23 に位置する。遺構の 1/3 が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明であるが、概ね平面形が方形、断面形が台形状となり、深さは 0.38m である。覆土は 3 層に分層できる。土師器が出土している。近世以降と推測される河 1 を完全に掘り下げた段階で検出し、中世以前の所産と考えられる。

SE124 (図版 75・78、写真図版 61)

10P-3G22・23、10P-4G2・3 に位置する。遺構の 1/3 以上が調査区外に含まれ正確な形状・大きさは不明であるが、概ね平面形が楕円形、断面形が台形状となり、深さは 0.48m である。覆土は単層である。土師器が出土している。SE113 と覆土が近似しており、近接した時期の所産と考えられる。

b 土坑

SK128 (図版 74・79、写真図版 61)

10P-1A5 に位置する。遺構の大半が調査区外に含まれるため、正確な形状・大きさは不明であるが、概ね平面形が楕円形、断面形が皿形となり、深さは 0.22m である。覆土は単層である。遺物の出土はない。

c 性格不明遺構

SX125 (図版 74・79、写真図版 61)

10P-1B10・15 に位置する。平面形は不整形、断面形は皿形で、確認面で長軸 0.70m、短軸 0.60m、深さ 0.24m で、覆土は 2 層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。

d 溝

SD112 (図版 76・80・81、写真図版 61)

10P-5I10・15 に位置する。概ね南北方向 (N-6°-W) に延び、断面形が台形状となる。確認面で幅 1.20m 前後、深さ 0.24m 前後で、覆土は 5 層に分層できる。平安時代の須恵器横瓶 (図版 82) などが出土している。

SD120 (図版 75・80・81、写真図版 62)

10P-2D15・20、10P-2E11・16・21 に位置する。南北方向 (N-2° -W) に延びる。試掘坑と攪乱で遺構の大半が壊されており、正確な形状は不明であるが、断面形が台形状で深さは 0.34m 前後である。覆土は 3 層に分層できる。土師器片が出土している。

SD122 (図版 76・80、写真図版 62)

10P-5I2・3・8、10P-4I22 に位置する。概ね南北方向 (N-12° -W) に延び、断面形が皿形となる。確認面で幅 0.40m 前後、深さ 0.10m 前後で、覆土は単層である。遺物の出土はない。

SD123 (図版 76・81、写真図版 63)

10P-5J6・11 に位置する。概ね南北方向 (N-2° -W) に延び、東側を攪乱で壊されており、正確な形状は不明であるが、断面形が台形状で深さは 0.12m 前後である。覆土は 2 層に分層できる。遺物の出土はない。

e 畝状小溝群

概ね同じ大きさの小溝が並行して数条構築されている状況から、まとまりのある遺構と捉えて畝状小溝群とした。

SD115～SD118 (図版 75・77・80・81、写真図版 61・62)

10P-4G4・5・9・10・19、10P-4H6・11・12 に位置する。概ね南北方向 (N-5～15° -W) に小溝が並行して構築されている。断面形は箱形もしくは台形状で、確認面で幅 0.40～0.50m、深さ 0.06～0.22m で、覆土は単層が多い。SD118 から平安時代の須恵器無台杯 (図版 82) などが出土している。構築状況から、小溝群が畑作に関わる遺構であった可能性が高い。

f 小土坑・柱穴

Pit121 (図版 75・80)

10P-2D15 に位置する。形状は平面形が楕円形、断面形が U 字状である。確認面で長軸 0.60m、深さ 0.30m で、覆土は 2 層に分層できる。遺物の出土はない。

Pit126 (図版 74・80)

10P-1B15、10P-1C11 に位置する。形状は平面形が楕円形、断面形が台形状で、確認面で長軸 0.60m、短軸 0.50m、深さ 0.26m で、覆土は 3 層に分層できる。土師器・須恵器が出土している。

g 旧 河 道

河 1 (図版 75・78・81、写真図版 63)

10P-2E22、10P-3E3・4 ほかに位置する。南東～北西方向 (N-30° -E) に延び、断面形が台形状となる。攪乱が著しく正確な規模は不明であるがおおよそ幅 14.0m、深さ 0.70m 前後である。覆土は 5 層に分層できる。土師器無台碗、須恵器長頸瓶・甕 (図版 82) などが出土している。覆土上面に直接 I c 層が流れ込んで堆積していることから、近世以降に位置付けられる可能性が高い。

河 2 (図版 76・81、写真図版 63)

10P-5J17・18 ほかに位置する。概ね南北方向 (N-17° -E) に延び、断面形が皿形となる。西側が一段低く落ち込んでいる。幅 7.40m 前後、深さ 0.22m 前後で、覆土は 5 層に分層できる。石製品が出土している。河 1 同様覆土上面に直接 I c 層が流れ込んで堆積していることから、河 1 と同時期の所産である可能性が高い。

第4節 遺物

A 遺物の概要

第8・9次調査では、遺物の出土量が少なく遺存状況も良くないため、出土状況・遺存度から遺構の時期を特定できるような状況にはない。時期的には平安時代の土器が目立ち、中谷内遺跡のものよりもやや古相を示す。

B 第8次(11)調査遺物各説

1) 包含層・表土出土土器・陶磁器 (図版 82、写真図版 64)

第8次調査では、遺構出土遺物は細片が多く、図化可能な土器・陶磁器はない。包含層出土土器・陶磁器は須恵器無台杯(1)、珠洲焼壺(4)・甕(5)が、表土出土土器・陶磁器は須恵器有台杯(2)・甕(3)が図化できた。須恵器は、1・2が新津丘陵産、3が小泊窯群産と推定される。1の口縁部には、スス状の付着物が認められる。珠洲焼は、4がT種壺の肩部片、5が甕胴部片でタタキの条痕からIV期を前後する時期か。

2) 石製品

SK99 (図版 82、写真図版 64)

磨石(23)が図化できた。側面を叩石として使用した後、磨石に転用している。石材は、花崗岩と思われる。

C 第9次(12)調査遺物各説

1) 遺構出土土器

SD112 (図版 82、写真図版 64)

須恵器横瓶(6)が図化できた。小泊窯群産で、外面に平行タタキ、内面に同心円当具痕が見られる。

SD118 (図版 82、写真図版 64)

須恵器無台杯(7)が図化できた。小泊窯群産で、薄手の作りである。

河1 (図版 82、写真図版 64)

土師器無台椀(8)、須恵器長頸瓶(9)・甕(10)が図化できた。すべて小片で全体の器形は不明である。

2) 包含層・表土出土土器 (図版 82、写真図版 64)

土師器小甕(11・12)・長甕(13～15)・鍋(16)、須恵器無台杯(17・19～22)・杯蓋(18)が図化できた。13・14は、全体に薄手で均一な器厚であり、口縁端部の摘み上げが強調されないことから、出土土器の中ではやや古相を示す。須恵器は、すべて小泊窯群産である。17・19は、箱形で厚手であり、土師器長甕同様古相を示す。

第Ⅶ章 総 括

第 1 節 中谷内遺跡における古代の土器の特徴と 時期的な位置付けについて

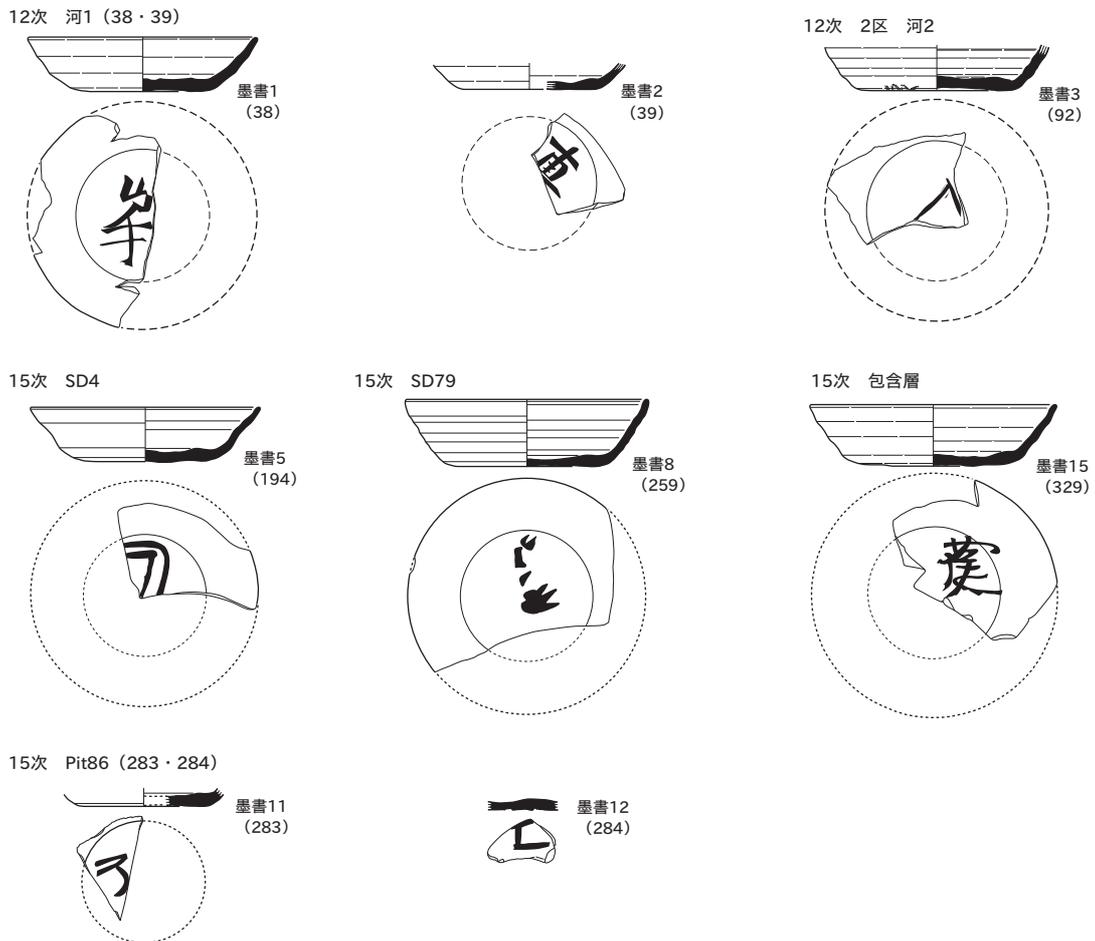
A 中谷内遺跡の墨書土器について

中谷内遺跡の第 12・15 次調査では 16 点の墨書土器が出土した（第 14 表，第 21 図，写真図版 51）。すべて須恵器無台杯の底部外面に記載されている。文字を判読できたもの（推定によるものも含む）は 5 点に止まる。

墨書土器 1 は「山手」と書かれている。「山手」と記す墨書土器は平成 9 年度の調査でも出土しており（No.368〔立木ほか 1999〕）、「山」の 2 画目と 3 画目を連続的に書く点や、「手」の 4 画目を直線的に書く点など、字形も類似している。

墨書土器 2 は文字の下端部が欠けているため読み切ることができないが、「真」と読めそうである。平成 9 年度の発掘調査でも「真」と記された墨書土器が出土している（No.637〔立木ほか 1999〕）。

墨書土器 3 は「久」と読める可能性がある。墨書土器 11 は「万」と判読できる。2 画目と 3 画目の筆順が逆になり一筆書きのように記す字形である。このような字形の「万」は、中谷内遺跡の南に隣接する沖ノ羽遺跡でも出土している。



第 21 図 中谷内遺跡出土墨書土器集成 (S=1/4)

第 14 表 中谷内遺跡出土墨書土器一覧表

墨書 No.	報告 No.	種 別	器 種	部位・方向	釈文	調査 年次	出土位置			産地	備 考
							区	遺構名	グリッド		
1	38	須恵器	無台杯	底外面墨書	山手	12次	1	河1	5F-6I1 5F-6H15、6I6	阿賀北	小泊窯製品に類似
2	39	須恵器	無台杯	底外面墨書	真	12次	1	河1	5F-6I1	小泊	
3	92	須恵器	無台杯	底外面墨書	久	12次	2	河2	5G-2E6	小泊	
4	131	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	13次		河	577T	小泊	満日確認調査
5	194	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		SD4	8G-1I11	小泊	記号か
6	195	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		SD4	8G-1H25	小泊	
7	258	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		SD79	8G-6F4	小泊	
8	259	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		SD79	8G-6F4	小泊	
9	272	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		SD93	8G-7E24	小泊	
10	274	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		SD104	8G-7E10	小泊	
11	283	須恵器	無台杯	底外面墨書	万	15次		Pit86	8G-6F4	小泊	
12	284	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		Pit86	8G-6F4	小泊	
13	285	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		Pit90	8G-6F3	小泊	
14	288	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		Pit97	8G-6F13	小泊	
15	329	須恵器	無台杯	底外面墨書	□〔菴カ〕	15次		—	8G-7E24	小泊	
16	330	須恵器	無台杯	底外面墨書	□	15次		—	8G-5F10	小泊	

墨書土器 15 は、墨痕は鮮明であるが特異な文字であり、読み切ることができない。部首の“草かんむり”の下は「廷」の異体字の「廷」に似ているが、横画が一画多いため、釈文は「□〔菴カ〕」とする。このほか、墨書土器 8 は 2 文字記されているが墨痕が薄いため判読できない。また、墨書土器 5 は記号の可能性がある。

B 古代の土器の時期的な位置付け

今回報告分となる第 12・15 次調査では、幾つかの遺構から古代の土器がまとまって出土した。時期比定の検討資料とした土器は、すべてある程度の埋没期間を見込む必要のある大形の溝や旧河道から出土したものであり、土坑などへの一括廃棄資料などとは同列に扱えない。よって、今回は遺跡単位での編年案を作成するためにはなく、遺跡の存続期間を捉えるための資料として使用した。

古代の土器がまとまって出土した遺構は、第 12 次調査 SD7・53、旧河道 2、第 15 次調査 SD4・SD51 などがある。先述したように、埋没期間が長期に渡った可能性があり、当然複数時期の土器が混在している可能性を考慮しなければならない。このことを前提として、遺構出土土器の時期比定を試みた。

時期比定用に抽出した資料は、ある程度時期幅を絞ることが可能である。それは、遺構外出土土器も含めて器高指数 35 を超えない奈良時代以来の伝統的な浅身の須恵器有台杯がなく、食膳具が小泊窯群産須恵器〔坂井・鶴間・春日 1991〕無台杯と土師器無台碗主体の組成となっているからである。このような食膳具の組成は、春日編年 VI 期以降に見られるものであり、上限を概ね V 期と VI 期の境頃に設定可能である。以上を念頭において、遺構ごとに土器の組成・特徴を検討し、遺跡周辺の基準資料や既往の編年観と対比させて資料の編年・年代的な位置付けを決定した。

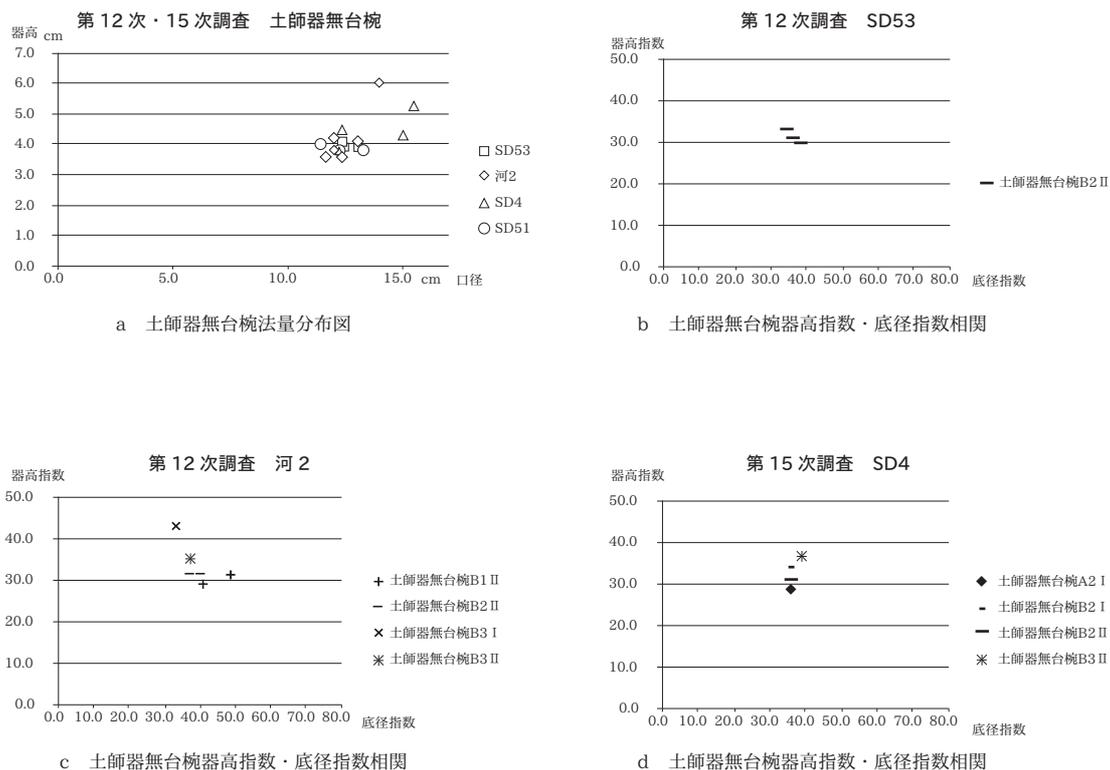
1) 遺構出土土器の組成と特徴

抽出資料の食膳具の組成（別表 6・7）を見ると、須恵器食膳具と土師器・黒色土器食膳具の比率が概ね拮抗している遺構（第 12 次調査 SD7、第 15 次調査 SD4）と、須恵器食膳具と土師器食膳具の比率が概ね 1 : 4 である遺構（第 12 次調査旧河道 2）、土師器食膳具が 9 割近くを占める遺構（第 12 次調査 SD53、第 15 次調査 SD51）の A・B・C 群に分けられる。春日真実氏〔春日 1997・1999 など〕の一連の研究成果によれば、須恵器食膳具と土師器食膳具は漸次前者が比率を減じて推移することが明らかにされており、大まかには A → B → C 群の時間的な変遷が想定できる。ただし、比率の違いが偶然器種の偏在を表しているだけであることも考えられるので、次に遺構ごとの器種組成と形式的な特徴を検討したい。

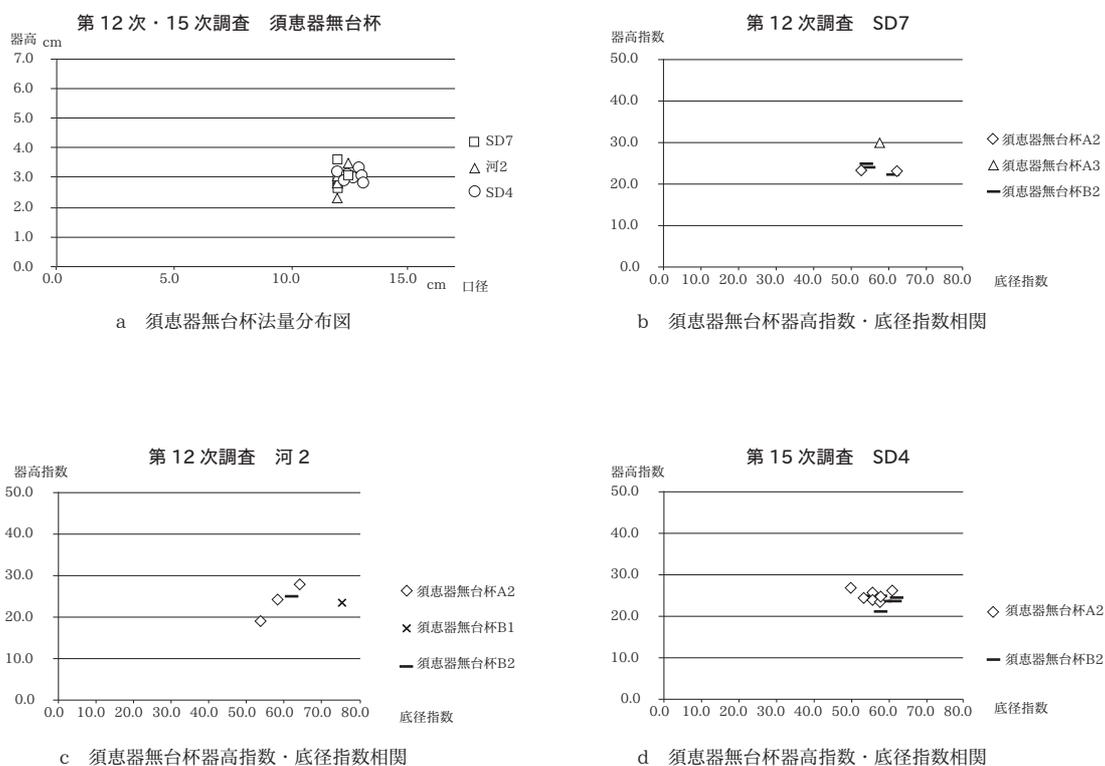
同じ A 群とした第 12 次調査 SD7 出土土器と第 15 次調査 SD4 出土土器の器種組成は、須恵器食膳具有台器種が SD4 に定量存在する点で異なる。

形式的な特徴は、須恵器無台杯の底径指数が小さい 2 類が主体である（第 23 図）点は共通するが、第 12 次調

第1節 中谷内遺跡における古代の土器の特徴と時期的な位置付けについて



第22図 中谷内遺跡 土師器無台椀法量分布図、器高指数・底径指数相関図



第23図 中谷内遺跡 須恵器無台杯法量分布図、器高指数・底径指数相関図

査 SD7 の須恵器無台杯は口径値が 12cm 前後であるのに対し、第 15 次調査 SD4 の須恵器無台杯は口径値が 12.5cm 前後と一回り大きい(第 23 図)。また、阿賀北(五頭山西麓窯跡群)産〔笹澤 1999・2004〕と推測される須恵器無台杯(第 24 図 12・202)は、12 が 3 類(碗形)、202 が 2 類(杯形)と器形が異なる。

以上の点を整理すれば、第 15 次調査 SD4 の須恵器食膳具は、有台器種が組成し、法量的に第 12 次調査 SD7 のものよりも大きく(第 23 図)、阿賀北産無台杯に碗形器形が見られない点で、器種組成・型式的特徴ともに第 12 次調査 SD7 のものよりも古い特徴を持つ。土師器食膳具は、第 12 次調査 SD7 の遺存度が悪いため比較検討が難しいが、第 24 図 5 は、底径指数が大きく底部をヘラケズリ調整しており、SD4 のものよりも古相を示している。須恵器食膳具と土師器食膳具の位置付けに矛盾が生じることとなるが、溝資料である点を考慮し、比較対象として量的に安定している須恵器食膳具の組成・法量から、第 12 次調査 SD7 出土土器よりも第 15 次調査 SD4 出土土器を古く位置付けておく。

B 群は、第 12 次調査旧河道 2 出土土器以外比較対象となるまとまった資料がないため、A 群資料との対比により時期的な位置付けを決める。

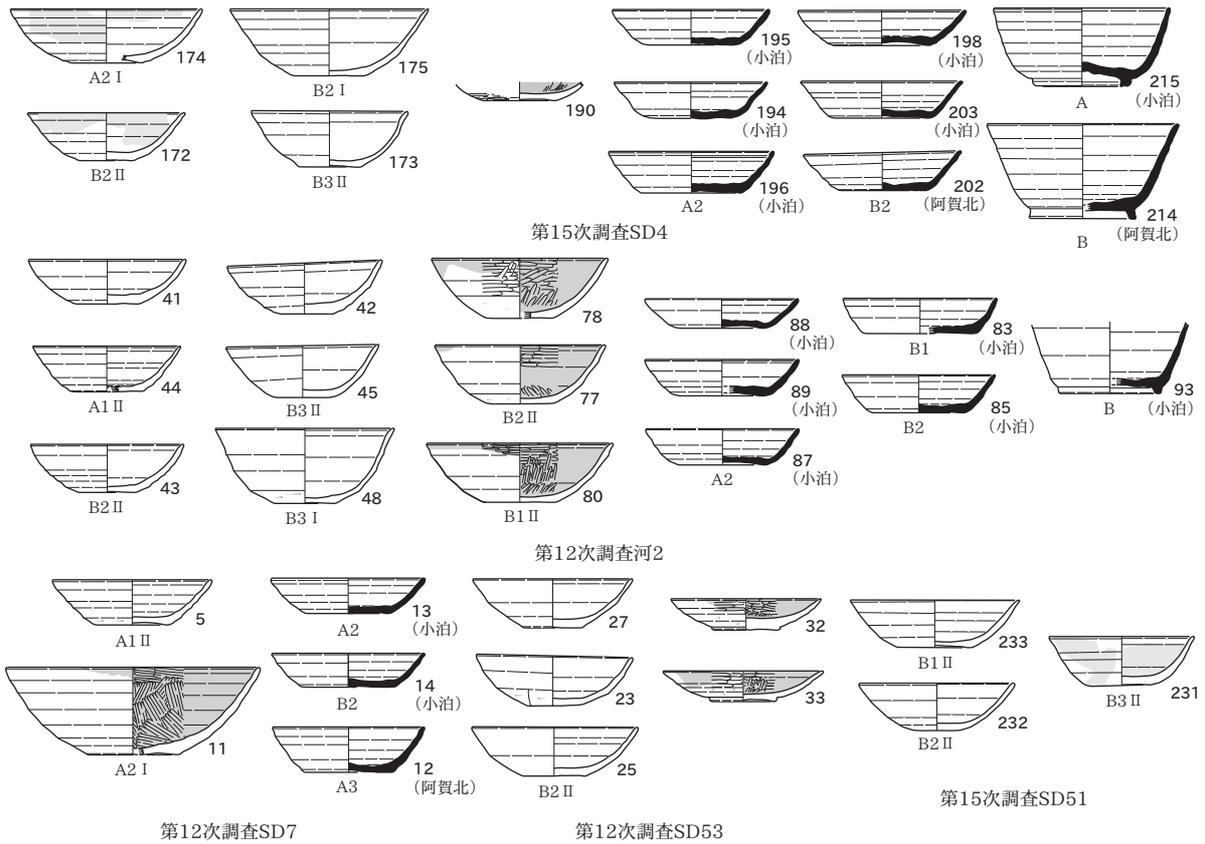
第 15 次調査 SD4 出土土器との器種組成の比較では、須恵器食膳具の組成が有台杯の比率を除けば概ね共通する(別表 6・第 24 図)。土師器・黒色土器食膳具は、土師器無台碗が第 12 次調査旧河道 2 出土土器に 3 類が大・小法量ともに多く見られる(第 22 図)のに対して、第 15 次調査 SD4 出土土器は 3 類が少なく、代わりに 2 類が大・小 2 法量とも確実に存在する(第 24 図)。黒色土器は、無台碗の組成率で大きく異なる(別表 6)。

次に型式的に検討すると、須恵器食膳具は、底径指数が小さい 2 類が主体である(第 23 図)点は共通するが、第 12 次調査旧河道 2 出土土器のほうが口径 12cm 前後と一回り小さく、法量は第 15 次調査 SD4 出土土器よりも後出するとした第 12 次調査 SD7 出土土器に近い(第 23 図)。黒色土器無台碗は比較検討する状況にないが、土師器無台碗は、小法量が口径 12cm 前後と概ね共通するものの、大法量は第 15 次調査 SD4 の無台碗が口径 15cm を超えるのに対して、第 12 次調査旧河道 2 のものは口径 14cm と一回り小さい(第 22 図)。

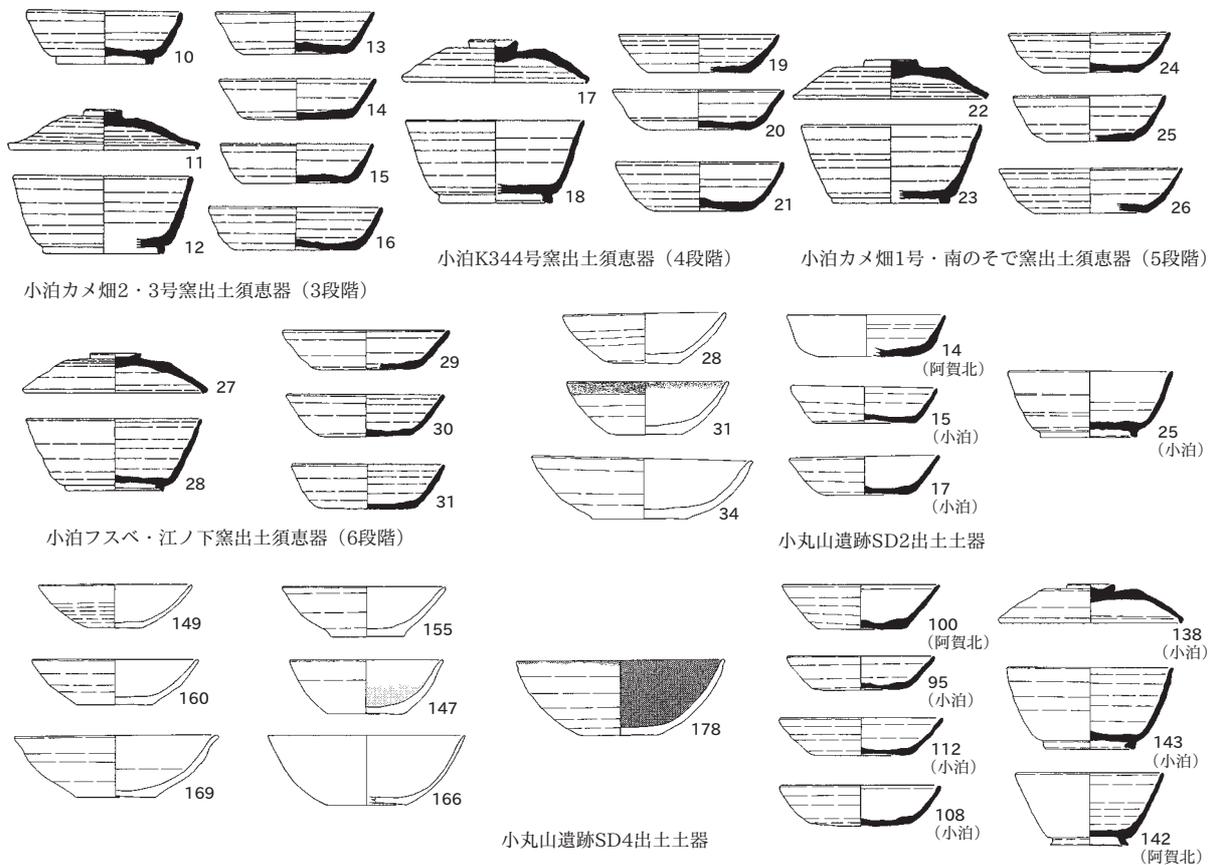
以上を整理すれば、第 15 次調査 SD4 出土土器は須恵器有台杯が定量存在し、須恵器食膳具と大法量の土師器無台碗がより大形(第 22 図)で、土師器無台碗が浅身器形主体であるのに対し、第 12 次調査旧河道 2 のものは小形で土師器無台碗に 3 類が多いといった差異が抽出できる。よって、後者に口径 11cm 台の土師器無台碗があることも勘案すれば、第 15 次調査 SD4 出土土器が相対的に古く位置付けられる。第 12 次調査旧河道 2 出土土器は、第 12 次調査 SD7 出土土器よりも須恵器無台杯にやや古相を示すもの(第 23 図 83・85・89)があることから、後者に若干先行すると判断できよう。

C 群は、須恵器食膳具の型式的特徴を把握できず、土師器・黒色土器食膳具の組成も異なるため、土師器無台碗の検討によって時期を判断せざるをえない。第 12 次調査 SD53 の土師器無台碗は、小法量のみでほぼ B2 II 類に限定される。口径は 12.5cm 前後と A・B 群のものよりも大きい(第 22・24 図)。黒色土器有台皿は、第 12・15 次調査では本遺構でのみまとまって出土している。第 15 次調査 SD51 の土師器無台碗は、小法量のみで構成される点は第 12 次調査 SD53 のものと同様だが、1～3 類があり器高指数にばらつきが見られる(第 22・24 図)。食膳具が土師器のみで構成され、大法量がなく口径 11cm 台の 3 類が含まれることを考慮すれば、検討資料の中では新しい時期に位置付けられる。

以上を整理すれば、第 12 次調査 SD53 出土土器は、土師器無台碗に大法量が欠如するものの、小法量が浅身器形で口径値が大きいことから、第 15 次調査 SD4 出土土器に並行する時期と判断できるが、器高指数の低い大振りの土師器碗がかならずしも古くならない〔渡邊ほか 2001〕との指摘もあり、黒色土器有台皿が伴うことも含め位置付けが難しい。ここでは第 15 次調査 SD4 出土土器と概ね同時期としておく。第 15 次調査 SD51 出土土器は、土師器無台碗の組成と法量から第 12 次調査旧河道 2 出土土器に後続し、第 12 次調査 SD7 出土土器に並行するかやや後続する時期に位置付けられよう。



第24図 中谷内遺跡遺構出土古代土器食膳具組成図 (S=1/6)



出典：小泊窯出土資料 10～31〔笹澤 2012〕 小丸山遺跡出土資料〔小池・本間 1995〕

第25図 中谷内遺跡出土古代土器食膳具対比資料 (S=1/6)

2) 編年及び年代的位置付け

1) の検討で、遺跡内での時間的な序列は、第12次調査SD53出土土器の位置付けに問題を残すが、第15次調査SD4(第12次調査SD53)出土土器→第12次調査旧河道2出土土器→第12次調査SD7・第15次調査SD51出土土器と仮定できた。次に、周辺遺跡や小泊窯跡群出土須恵器と対比して並行関係を整理し、春日編年〔春日1999・2005・2006・2010〕を基軸に編年・年代的な位置付けを整理する。

比較検討資料には、春日編年VI1、VI2・3期の基準資料の1つである新潟市小丸山遺跡〔小池・本間1995〕SD2・4出土土器とカメ畑窯跡群出土須恵器〔坂井・鶴間・春日1991〕(第25図)を用いた。小丸山遺跡とカメ畑窯跡群出土土器を比較資料とした理由は、前者に浅身の須恵器有台杯が存在せず、中谷内遺跡同様に資料の上限が抑えられることと、小泊窯群製品の型式的な位置付けを明らかにするためである。

小丸山遺跡SD2の食膳具は、土師器無台碗が大小2法量で構成され、1類主体で大法量にのみ3類が存在する。小法量で口径13cm前後、大法量で口径16cm以上と大形である。須恵器食膳具は、小泊窯群産主体でやや扁平な深身の有台杯(第25図25)や杯形の阿賀北産無台杯(第24図14)が組成する。小泊窯群産須恵器は概ね筆者の小泊窯編年〔笹澤2011〕3段階のカメ畑2・3号窯と4段階のK344号窯出土須恵器(第25図)に、阿賀北産須恵器無台杯は馬上3号窯〔戸根1986〕や五輪敷沢窯出土須恵器に対応すると考えられる。

小丸山遺跡SD4の食膳具は、土師器無台碗小法量が口径12cm～13cm前後、大法量が口径14cm～16cmで、小法量に口径11cm台の小形の無台碗も存在する。大・小法量ともに器高指数28前後の浅身器形の2類が多く、3類が少ない。須恵器食膳具は、小泊窯群産で口径13cm以下の深身の有台杯と浅身器形で薄手丸底の須恵器無台杯、阿賀北産の碗形無台杯(第25図100)が組成し、小泊窯群産須恵器は6段階の江ノ下窯(第25図)に、阿賀北産須恵器無台杯は狼沢2号窯〔中川・土井ほか1973〕または道婦窯〔小林2004〕に対応する。

中谷内遺跡の抽出資料と小丸山遺跡の資料を対比すれば、小丸山遺跡SD2の食膳具は組成と法量・器形から中谷内遺跡第15次調査SD4出土資料に先行し、春日編年に対比すればV2期～VI1期に位置付けられる。これは、中谷内遺跡SD51出土須恵器の大半が、小泊窯跡群4段階のK344号窯出土須恵器に対応すると考えられることと、在地須恵器窯出土須恵器の位置付けからも大きく矛盾しない。小丸山遺跡SD4出土資料は、土師器無台碗が浅身器形の2類主体に3類が少量伴う組成であり、春日編年VI2・3期に位置付けられる新発田市坂ノ沢C遺跡13号土坑〔渡邊2001〕と法量・組成ともに共通する。中谷内遺跡抽出資料との対比では、小丸山遺跡SD4の食膳具は、土師器碗の組成と型式的特徴、須恵器食膳具の窯出土資料との対比から、中谷内遺跡第12次調査SD7・第15次調査SD51出土資料と並行関係にあると捉えられる。

以上の検討から、小丸山遺跡SD2出土資料→中谷内遺跡第12次調査SD53・第15次調査SD4出土資料→中谷内遺跡第12次調査旧河道2出土資料→小丸山遺跡SD2・中谷内遺跡第12次調査SD7・第15次調査SD51出土資料の変遷が導出され、中谷内遺跡の編年的位置付けは、第15次調査SD4出土資料が春日編年VI1期に、第12次調査旧河道2出土資料が春日編年VI2・3期前半に、第12次調査SD7・第15次調査SD51出土資料が春日編年VI2・3期後半に概ね対応するとしておく。歴年代観は、釈迦堂遺跡の成果〔江口2000、春日2010〕と照合すれば、9世紀第3四半期～第4四半期を前後する時期に比定できようか。

第2節 中谷内遺跡の遺構について

第12・15・16次調査では、人間が生活するうえで基本となる衣食住のうち、住居に直接関わる遺構は、第16次調査の掘立柱建物以外、明確に検出出来なかった。一方、食に関する部分では、水田の用水路かと推測される溝や、畑の畝間と考えられる畝状小溝を各調査地点で検出した。ここでは、自然科学分析の見解も合わせて、生産に関わると推測される遺構について調査年次ごとに検討する。

第12次調査では、南東から北西方向に流れる旧河道2条と、旧河道に直交すると推測される溝が5条検出さ

れた。このうち、旧河道2は河幅と位置関係(図版7)から、第2次調査〔立木ほか1999〕の旧河道に接続すると考えられる。図版3に、旧地形図を基に復元した旧河道が遺跡の範囲内に3条示されている〔立木ほか1999〕が、これらの流路とは一致せず、時代が古代であることを勘案すれば、古くに埋没して痕跡をとどめなかった旧河道と捉えられよう。

第V章のプラント・オパール分析結果によれば、旧河道2の1・2層から11,000個/g以上の高い密度で稲のプラント・オパールを検出している。これが旧河道に流れ込んだものと仮定すれば、周辺に水田が造られて稲が栽培されていた可能性があり、直交するように作られている溝の一部は、用排水路であった可能性があろう。

第15次調査では、多数の溝を検出している(図版17・20～23)。大きく、南北方向と東西方向に走る溝に区分でき、南北方向に走る溝は、調査区北半(SD4・7・44～46)と南半(SD70・71・91～93)に分かれて、集中して構築されている。両溝群は、長軸方向が異なるものの、方位を合わせて近接して掘り込まれている点で共通し、密集して構築されているのは特定の使用目的によって掘り返された結果であろう。また、東西溝のうち、南半の南北溝に概ね直交するもの(SD1・2・58・66・104・105)が幾つかあり、直交する溝同士が水田の区画に関わる溝で、用排水路の役目を果たしていた可能性も考えられよう。SD1・2・71から3,500個/g以上の稲のプラント・オパールが検出されていることから、調査区周辺での水稲農耕の可能性を想定できよう。

これらとは別に、8G・5F・6Fグリッドに一定の間隔を置いて構築されている小溝群(SD78～82 図版22)は、溝幅や深さから畝状小溝群と考えられる。プラント・オパールの含有量はSD78の試料で2,000個/g以下と低密度であるが、第V章で述べているように畑稲作(陸稲栽培)が行われていた可能性は十分考えられる。

第16次調査では、2・3区で畝状小溝と推定される小溝群を検出している(図版32・36・40)。

2区では、南西から北東方向に走る小溝がほぼ等間隔で7条構築されており、配置状況と溝の大きさから畝状小溝群としてよいと考えられる。5mほど東に直交して掘られているSD3は、畝状小溝群を区画する溝の可能性があろう。

3区では、SB1と重複して小溝群を検出した。切り合いによる両者の構築順序は不明であるが、小溝群を完掘した後にSB1の柱穴を検出できた例もあり、小溝群が新しい可能性が高い。2区ほど密集せず、間隔もまばらであるが、畝状小溝群となる可能性を指摘しておく。

第3節 ま と め

平成14(2002)年から始まった県営満日地区ほ場整備事業に伴う本発掘調査は、今回の中谷内・内野両遺跡の報告をもって完了する。調査範囲が限られており、遺跡の細部にまで立ち入って検討できる情報は得られなかったが、隣接する沖ノ羽遺跡などの調査成果も絡めて、現状での遺跡の評価を提示しておく。

A 中谷内遺跡について

中谷内遺跡は、各調査区の遺構の分布状況と標高の検討から、南東から北西方向に走る幅50～70mほどの沖積微高地上に遺跡が立地することが明らかとなった(図版10～13・19～23・34～39)。遺跡内には旧河道が数条あり、河道によってさらに微高地が南北に区分(図版7)されている。こうした状況は、馬の背状に分断された微高地が、集落を形成する際の地形上の制約となっていることを示している。遺構検出面の標高と遺構の構築状況を見てみると、すべての調査区で掘立柱建物やピット、井戸など居住に関する遺構は標高2.9m～3m前後に、食糧生産に関係すると見られる遺構は標高2.8m以下に構築されていることが判明した。すなわち、より高所を居住の場とし、水利に有利な低所を生産の場として、地形の制約をうまく生かしながら生活していたことが明らかとなった。ただし、出土土器の時期から、集落の存続期間は9世紀後半から10世紀初頭と短期間であり、絶えず水害の危険が伴う低地で集落を維持することの困難さをも示している。こうした存続期間の短さ

と居住空間の狭さを反映してか、住居施設の検出は少なく、第9次調査〔北村・菊池ほか2004〕と第16次調査で桁行3間以下の小形の掘立柱建物を2棟検出したに過ぎない。高所ではピットが多く存在し、第2次調査〔立木ほか1999〕・第6次調査〔渡邊ほか2002〕では旧河道などから大量の須恵器・土師器とともに墨書土器・京都系緑釉陶器なども出土していることから、土器の出土量に見合った数の住居施設が存在したことは疑いないが、地形的な制約からも大規模な集落域の存在を想定することは困難である。

一方、中谷内遺跡南西側に隣接する沖ノ羽遺跡は、遅くとも春日編年IV 1期（8世紀中頃）には集落が成立し、断続的に15世紀前半まで継続する長期継続型の集落で、遺跡範囲も非常に広い〔細野ほか2002、立木・澤野ほか2005・2008、遠藤・澤野ほか2014〕。古代では、掘立柱建物や井戸など住居に関連する遺構が多く、土師器・須恵器のほか金属器模倣土器や施釉陶器、緑釉陶器香炉、水瓶など多種多様な土器が存在するなど、基幹集落の様相を呈する。住居に関連する遺構は、すべて標高3.7m以上に構築されており、中谷内遺跡よりも高所に存在する。このことから、沖ノ羽遺跡の居住域は広範囲の安定した地盤を選定して設定されており、立地条件の違いが建物（遺構）の密度や遺物組成の違いに反映されていることがみとめられる。

以上から、中谷内遺跡の集落は、沖ノ羽遺跡と比較して生活条件的に不安定な場所に選定されていることが理解でき、階層的な意味も含めて集落の違いが反映されているものと考えられる。おそらく、中谷内遺跡は、沖ノ羽遺跡の集落再編と新たな耕作地開拓〔坂井1989〕によって9世紀後半に集落が成立したが、9世紀後半は自然災害が多発したこと〔江口2000、加藤2013〕もあって、立地条件が強く影響して短期間で廃絶し、以後周辺では近世の新田開発までほとんど土地利用がなかったものと考えられる。

B 内野遺跡について

第8・9次調査区は、遺跡範囲の北西端に当たる。1999年に実施した第2・3次調査は、遺跡範囲の南東端に当たり、古代と中世の遺構・遺物が出土している〔立木・高野ほか2002〕。古代の時期は中谷内遺跡とほぼ重なり、短期間のみ遺跡が存続したことが判明している。第8・9次調査においても、古代の遺跡の存続期間に既往の調査との大きな違いはないが、削平等のため遺構がほとんど検出できず、遺物量も少なかったため、不明な点も多く評価しづらい。ここでは、古代の内野遺跡が中谷内遺跡同様に、沖ノ羽遺跡の周縁に散在する集落であったことのみ指摘しておく。

中世以降については、第2・3次調査では中世の掘立柱建物群を2か所で検出している。建物の周辺には多数の井戸が構築されており、当時の集落景観をある程度推測できる情報が得られたが、第8・9次調査では、上記した削平による地形の改変のために、遺構の時期比定をするにも困難な場合が多かった。限られた情報に頼るしかないが、改変を受けていることを考慮したにしても、遺物量の少なさや、削平を受けても下部は残存する井戸等の大形の遺構もほとんどない状況は、第2・3次調査とは様相が異なり、第8・9次調査区周辺は、少なくとも中世段階では居住域として使用されていなかった可能性が高いと考えられる。

第8・9次調査地では、基盤層上面で沖ノ羽遺跡付近よりも高く、4.2～4.3m程度の標高がある。図版2からも南東から北西に延びる自然堤防状の畑地が読み取れ、平成8年に行われた分布調査では、今回調査地南東側で多数の遺物が採集されている。内野遺跡の範囲は今回の満日地区ほ場整備対象地域から外れているため、試掘確認調査が行われておらず、詳細な時期や状況は不明といわざるを得ないが、今回調査地南東側隣接地に古代・中世の集落域が存在する可能性が高い。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳－2002年度確認調査の概要－』 巻町教育委員会
 相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳Ⅱ－2003年度確認調査の概要－』 巻町教育委員会
 朝岡政康・諫山えりか 2003 『東園遺跡 卸売市場建設に伴う市道東8-273建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 甘粕 健・小野 昭^{ほか} 1993 『越後山谷古墳』 巻町教育委員会・新潟大学考古学研究会
 甘粕 健・川村浩司^{ほか} 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ 1991年測量調査報告書』 新潟市教育委員会
 甘粕 健・古川知明^{ほか} 1981 『大沢遺跡B'・B地区の調査概報』 巻町・潟東村教育委員会
 荒川隆史・加藤 学^{ほか} 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 和泉A遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 荒川隆史^{ほか} 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第153集 一般国道49号安田バイパス関係発掘調査報告書 大坪遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- イ 家田順一郎 1981 『曾根遺跡Ⅰ』 豊浦町教育委員会
 家田順一郎 1982 『曾根遺跡Ⅱ』 豊浦町教育委員会
 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡（小丸山遺跡緊急発掘調査報告書）』 横越村教育委員会
 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 諫山えりか 2009 『中田遺跡 第2次調査－市道荻川新津線道路改良事業に伴う中田遺跡第2次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
 石川智紀^{ほか} 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第58集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ（A地区）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 今井さやか^{ほか} 2007 『日水遺跡 第3次調査－鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- ウ 植田 真・遠竹陽一郎^{ほか} 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新潟市教育委員会
 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- エ 江口友子 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第100集 釈迦堂遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 遠藤恭雄 2004 『新潟県豊栄市下前川原遺跡発掘調査報告書 下前川原遺跡』 豊栄市教育委員会
 遠藤恭雄・澤野慶子^{ほか} 2014 『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査－県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- オ 大矢雅彦・加藤泰彦 1984 『阿賀野川水害地形分類図』 建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所
- カ 春日真実 1994 「第Ⅳ章 4. B古墳時代後期の遺物」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第60集 北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区（本文編）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 春日真実^{ほか} 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第76集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 春日真実 1997 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
 春日真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
 春日真実 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について－「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に－」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
 春日真実 2006 「新潟市釈迦堂遺跡出土土器について」『陶磁器の社会史』吉岡康暢先生古希記念論集刊行会
 春日真実 2010 「貞観五年の地震痕跡再考」『三面川流域の考古学』第8号 三面川流域を考える会
 加藤 学 2013 「貞観五年越中・越後地震に関する一考察」『研究紀要』第7号 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 金子拓男 1987 「古代における信濃川・阿賀野川の河口と流路について」『研究集録』第15号 新潟県立新潟江南高等学校

- 金子拓男ほか 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』 黒埼町教育委員会
- 鴨井幸彦・田中里志・安井 賢 2006 「新潟平野における砂丘列の形成年代と発達史」『第四紀研究』第45巻 第2号
日本第四紀学会
- 川上貞雄 1982 『中の山遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄・遠藤孝司 1983 『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1991 『発久遺跡発掘調査報告書』 笹神村教育委員会
- 川上貞雄 1993 『横越村文化財調査報告2 山ノ家遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会
- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡Ⅰ 遺構編』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996a 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996b 『荒木前遺跡第2次調査 新潟県中蒲原郡亀田町・荒木前遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1997a 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1997b 『曾根遺跡Ⅲ 天王小学校改築に伴う発掘調査報告書』 新潟県豊浦町教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編 第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 川村 尚 2005 『小泊窯跡群Ⅰ』 佐渡市教育委員会
- キ 北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 北村 淳・菊池康一郎ほか 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 木村宗文 1989 「資料解説 古代越後国と蒲原郡」『新津市史』資料編 第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 木村宗文 1993 「初期荘園の成立」『新津市史』通史編 上巻 新津市史編さん委員会
- コ 小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間桂吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池義人ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第59集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡 寺道上遺跡』
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林 弘 2004 「資料編 第Ⅱ章(32) 道婦窯」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修
- サ 酒井和男 1980 『三王山遺跡』 亀田町教育委員会
- 酒井和男 2000a 「小丸山遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男 2000b 「山ノ家遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男・廣野耕造 2002 「新潟砂丘における居住の初源」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1989 「第Ⅶ章 まとめ 2 奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 新新バイパス
関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第118集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤正史 1999 「第2節 窯業」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
- 笹澤正史 2004 「第Ⅳ章 須恵器生産の概要」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
- 笹澤正史 2011 「第Ⅶ章総括」『七社遺跡発掘調査報告書』 新発田市教育委員会
- 笹澤正史 2012 「第Ⅴ章まとめ 2 遺物の時期的な位置付けと特徴」『空毛遺跡発掘調査報告書』 新発田市教育委員会
- 佐藤友子ほか 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第187集 一般国道7号万代橋下流橋関係発掘調査報告書 近世新潟町跡(広小路掘地点)』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之ほか 1980 『鳥屋遺跡Ⅰ』 豊栄市教育委員会
- タ 田嶋明人 1983 「奈良平安時代の建物グループと集落遺跡 加賀・能登の掘立柱建物群を中心とした覚書」『北陸の考古学』 石川県考古学研究会
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 田中一廣・丹下昌之ほか 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- チ 地学団体研究会・新版地学事典編集委員会 1996 『新版 地学事典』 平凡社

- ツ 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 立木宏明・高野裕子ほか 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 立木宏明・澤野慶子ほか 2004a 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 立木宏明・澤野慶子ほか 2004b 『山王浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 立木宏明・澤野慶子ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
 立木宏明・澤野慶子・八藤後智人ほか 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査－県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
 立木宏明・八藤後智人ほか 2009 『萱免遺跡 第2次調査－宅地造成に伴う萱免遺跡第2次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- テ 寺村光晴 1960 「越後六地山遺跡」『上代文化』30 国学院大学考古学会
- ト 戸根与八郎 1986 「付編二 生産遺跡 真木山窯址群」『新潟県史』通史編1 原始・古代 新潟県
 土橋由理子 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第166集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XⅧ 馬見坂遺跡 正尺A遺跡 正尺C遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 土橋由理子 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第200集 一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 大蔵遺跡 西郷遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 中川成夫・倉田芳郎 1956 『新津田家七本松須恵器窯跡発掘調査報告書』 北方文化博物館
 中川成夫・土井義雄ほか 1973 『狼沢窯址群の調査』 新潟県笹神村教育委員会
 長澤展生ほか 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 中野三義 1976 「中蒲原郡の荘園・保」『かみくひむし』第21号 かみくひむしの会
 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小屋村曾和弥生式六地山遺跡」『NHK』Vol.3 長岡市立科学博物館友の会
- ニ 新潟古砂丘グループ 1974 「新潟砂丘と人類遺跡－新潟砂丘の形成史Ⅰ－」『第四紀研究』13(2) 日本第四紀学会
 新潟市国際文化財部歴史文化課 2007 『新・新潟市史双書2 新潟市の遺跡』 新潟市
 新潟市史編さん原始古代中世史会 1994 『新潟市史』資料編1 原始 古代 中世 新潟市
- ハ 橋本博文 2014 「新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳をめぐって」『平成25年度 新潟市遺跡発掘調査速報会資料集』 新潟市文化財センター
- ヒ 廣野耕造 1996 『石動遺跡 平成7年度発掘調査概報』 新潟市教育委員会
- フ 藤塚 明・小池邦明・渡邊朋和 1982 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』 新潟市教育委員会
 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査のてびき』 文化庁文化財部記念物課
- ホ 星野信明ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第80集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B地区)』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- マ 前山精明 1994a 「新谷遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
 前山精明 1994b 「御井戸遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
 前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡－縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査－』 巻町教育委員会
 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡Ⅱ－2003年度確認調査の概要－』 巻町教育委員会
 前山精明・相田泰臣 2005 『御井戸遺跡Ⅲ－2004年度確認調査の概要－』 巻町教育委員会
- ヨ 横山勝栄・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』 新潟県教育委員会
 吉岡康暢ほか 1967 「北陸」『日本の考古学』Ⅵ 河出書房
 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
 米沢 康 1965 「大化前代における越の史的位罫」『信濃』17-1 信濃史学会
 米沢 康 1980 「大宝二年の越中国四郡分割をめぐって」『信濃』32-6 信濃史学会
- ワ 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 渡邊朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 渡邊朋和 1994 『八幡山遺跡発掘調査報告書－平成5年度範囲確認調査－』 新津市教育委員会
 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入遺跡A地点』 新津市教育委員会

- 渡邊朋和ほか 1998 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ（分析・考察編）』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1999 「第4章 第4節 第3項 製鉄」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
- 渡邊朋和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書－第11・12・13・14次調査－』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・相田泰臣 2013 『国史跡古津八幡山遺跡保存整備事業報告書－2000年の時を超えよみがえる弥生の丘』 新潟市教育委員会
- 渡辺ますみ 1991 『荒木前遺跡』 亀田町教育委員会
- 渡辺ますみ 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』 黒埼町教育委員会
- 渡辺ますみ・奈良貴史 2012 『四十石遺跡 第2次調査－（仮称）新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- 渡辺美穂子 2001 『坂ノ沢C遺跡Ⅱ（平安時代編）』 新発田市教育委員会

第Ⅵ章 自然科学分析参考文献

- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法』 角川書店 p.248-262
- 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 p.60
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤修司 1985 『木造の構造』 文永堂出版 p.290
- 島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣出版 p.296
- 杉山真二・藤原宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－」『考古学と自然科学』19 p.69-84
- 杉山真二 2000 「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』 同成社 p.189-213
- 只見川第四紀研究グループ 1966a 「只見川・阿賀野川流域の第四系の編年－とくに沼沢浮石層の層位学的諸問題について－」『第四紀 第四紀総合研究連絡誌』No.8 第四紀総研事務局
- 只見川第四紀研究グループ 1966b 「福島県野沢盆地の浮石質砂層の基底部より産出した木材の¹⁴C年代－日本の第四紀層の¹⁴C年代XXVI－」『地球科学』82 地学団体研究会
- Talma, A.S. and Vogel, J.C. 1993 「A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates」『Radiocarbon』35-2 p.317-322
- 中村 純 1967 『花粉分析』 古今書院 p.82-110
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 p.21-30
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 p.91
- 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考古学と自然科学』9 p.15-29
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水田址の探査－」『考古学と自然科学』17 p.73-85
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 1981 「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』51 p.562-569
- 町田 洋・新井房夫 1992 『火山灰アトラス』 東京大学出版会 276p
- 山田昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史－」『植生史研究特別1号』 植生史研究会 p.242

別表 1 中谷内遺跡 遺構計測表

第 12 次調査

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	備考
							上端		下端		深度		平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
8・10・15	1区	SK9	5F-8H11・16	平安	Ⅶ	N-52°-W	0.88	0.80	0.42	0.40	0.16	2.54	円形	皿形	1	×		
8・10・15	1区	SK12	5F-7H4	平安	Ⅶ	N-28°-W	0.63	0.58	0.41	0.33	0.18	2.74	楕円形	皿形	2	○	46	
8・12・15	1区	SK20	5G-1A10	平安	Ⅶ	N-65°-W	0.48	0.46	0.22	0.20	0.10	2.86	円形	半円形	1	○	46	
8・13・15・16	2区	SK101	5G-1D23	平安	Ⅶ	N-55°-W	0.86	-	-	-	0.42	2.60	円形	台形状	3	○		>河2
8・12・13・15	2区	SK114	5G-1D22	平安	Ⅶ	N-14°-E	0.54	0.48	0.29	0.27	0.18	2.78	楕円形	半円形	1	○	46	>Pit110
8・10・15	1区	SD1	5F-8G18・19・23・24	平安	Ⅶ	N-34°-W	-	1.30	-	0.95	0.10	2.62	-	皿形	1	○		
8・10・15	1区	SD7	5F-6H21・22、7H2・3・7・8・12・13	平安	Ⅶ	N-32°-W	-	2.60	-	2.20	0.28	2.60	-	皿形	2	○	46・47・54	
8・10・15	1区	SD8	5F-8H21・22	平安	Ⅶ	N-34°-E	-	-	-	-	0.22	2.44	-	台形状	1	○		
8・11・15	1区	SD11	5F-5I8・9	平安	Ⅶ	N-63°-W	-	0.70	-	0.25	0.37	2.50	-	台形状	2	○	47	
8・12・13・15	2区	SD53	5G-1C14・15・19・20、1D16	平安	Ⅶ	N-30°-E	-	2.95	-	1.55	0.10	2.85	-	皿形	1	○	47	
8・11・16	1区	河1	5F-6H5・10、6I1・2・6・7	平安	Ⅶ	N-70°-W	-	2.12	-	0.95	0.48	2.19	-	台形状	4	○	48	
8・13・15・16	2区	河2	5G-1D22～24、2D3～5・10、2E1・6・7・11・12	平安	Ⅶ	N-0°-S	-	10.20	-	1.10	0.41	2.72	-	台形状	4	○	48～52・54	<SK101
8・12・13	2区	Pit33	5G-1C13	平安	Ⅶ	N-13°-E	0.27	0.25	0.14	0.13	0.19	2.76	円形	半円形	1	○		
8・12・13	2区	Pit35	5G-1D22	平安	Ⅶ	N-73°-W	0.27	0.23	0.07	0.06	0.24	2.75	円形	U字状	1	○		
8・13	2区	Pit36	5G-1D23	平安	Ⅶ	N-43°-W	0.21	0.18	0.07	0.03	0.09	2.85	円形	U字状	1	○		
8・13	2区	Pit45	5G-2E13	平安	Ⅶ	N-60°-W	(0.21)	-	(0.09)	-	0.19	2.86	-	U字状	1	○		
8・13・16	2区	Pit49	5G-2E18・19	平安	Ⅶ	N-61°-W	(0.33)	-	(0.20)	-	0.09	3.01	-	半円形	2	○		
8・13	2区	Pit65	5G-3F2	平安	Ⅶ	N-36°-E	0.24	0.22	0.11	0.10	0.15	2.94	円形	半円形	1	○		
8・13	2区	Pit97	5G-2E20	平安	Ⅶ	N-61°-W	(0.18)	-	(0.07)	-	0.17	2.88	-	U字状	1	○		
8・13・15・16	2区	Pit100	5G-1D23	平安	Ⅶ	N-55°-W	(0.16)	-	(0.08)	-	0.08	2.87	-	U字状	1	○		
8・11	1区	Pit109	5F-5I22	平安	Ⅶ	N-16°-E	0.28	0.25	0.20	0.18	0.60	2.00	円形	U字状	1	○		
8・12・13・15	2区	Pit110	5G-1D22	平安	Ⅶ	N-35°-W	-	-	0.15	0.11	0.15	2.82	-	U字状	1	○	48	<SK114
8・13	2区	Pit112	5G-1D22	平安	Ⅶ	N-55°-E	0.12	0.10	0.07	0.06	0.04	2.95	楕円形	U字状	1	○		

第 15 次調査

図版 No.	調査区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	碟		備考
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	
							長軸	短軸	長軸	短軸										
17・20・26		SK8	8G-1H18・19	平安	Ⅶ b	N-60°-W	-	-	-	-	0.16	2.86	-	皿形	2	○	55		>SD9	
17・20・26		SK19	8G-1H15	平安	Ⅶ	N-58°-W	0.88	0.55	0.74	0.45	0.13	2.84	楕円形	皿形	1	○	55		>SK20	
17・20・26		SK20	8G-1H15	平安	Ⅶ	N-35°-E	0.66	0.41	0.55	0.30	0.12	2.84	楕円形	皿形	1	×			>SK21 <SK19	
17・20・26		SK21	8G-1H15	平安	Ⅶ	N-32°-E	-	0.59	0.50	0.45	0.11	2.84	楕円形	皿形	1	○			<SK20	
17・20・26		SK24	8G-1H14・19	平安	Ⅶ	N-38°-W	0.77	-	0.29	0.25	0.33	2.63	楕円形	台形状	3	○			<SD3	
17・22・26		SK87	8G-6F4・9	平安	Ⅶ a	N-29°-E	0.49	-	0.24	-	0.35	2.75	-	台形状	5	○			>SD80、Pit92	
17・23・27		SK103	8G-7F1	平安	Ⅶ a	N-62°-W	-	0.74	-	0.48	0.30	2.75	-	台形状	3	○	55			
17・23・27		SK106	8G-8E12	平安	Ⅶ	N-29°-E	0.95	-	0.69	-	0.25	2.55	-	皿形	2	○				
17・23・27		SK111	8G-8E21	平安以降	Ⅶ	N-30°-E	0.55	-	0.35	-	0.32	2.45	-	台形状	3	○	55			
17・19・27		SX5	7G-8J25、9J4・5・10、7H-9A1・6	中世以降	V	N-47°-E	-	-	-	-	0.53	2.75	不定形	皿形	3	○	55			
17・20・24		SX25	8G-1H25、2H4・5・9	平安	Ⅶ	N-68°-W	-	-	-	-	0.15	2.84	-	皿形	2	○	55		<SD1・44	
17・23・25・27		SX112	8G-9D9・10・13・14・18・19・22・23・24	平安以降	Ⅶ	N-50°-W	-	-	-	-	0.22	2.49	-	皿形	3	○				
17・23・27		SX114	8G-9D5・9・10	平安以降	Ⅶ	N-58°-W	-	0.62	-	0.53	0.06	2.63	-	皿形	1	○		1	1 <SD107	
17		SX115	8G-8D18・19	平安以降	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	56			
17・20・24・28		SD1	8G-1H25、1I16・21	平安以降	Ⅶ	N-60°-E	-	0.43	-	0.34	0.30	2.77	-	台形状	3	○	56		>SX25、SD4・7	
17・20・26・28		SD2	8G-1H20・25、1I11・12・16・17	平安以降	Ⅶ	N-55°-E	-	0.63	-	0.25	0.38	2.70	-	皿形	5	○	56		>SD4・7	
17・20・24・26・28		SD3	8G-1H9・13・14・15・19・20	平安	Ⅶ	N-44°-W	-	0.50	-	0.25	0.28	2.82	-	台形状	2	○	56	1	7 >SK24 <SD22	

図版 No.	調査区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	礫		備考	
							上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
							長軸	短軸	長軸	短軸										
17・20・24・28		SD4	7G-10I22, 8G-1H15・20・25, 112・6・7・11・12・16・21, 2H5・10	平安	VII b	N・9°・E	-	2.00	-	0.66	0.25	2.71	-	皿形	3	○	57~59・66	13	128	<SD1・2
17・20・24・28		SD7	7G-10I18・22・23, 8G-112・3・7・11・12・16・17・21	平安	VII	N・17°・E	-	0.48	-	0.20	0.22	2.70	-	台形状	2	○	60	4	155	>SD4・15 <SD1・2
17・20・24・28		SD9	8G-1H13・18	平安	VII	N・29°・W	-	0.44	-	0.18	0.18	2.85	-	皿形	2	○	60			<SK8・Pit26
17・20・28		SD15	7G-10I23	平安	VII	N・59°・W	-	0.25	-	0.15	0.08	2.90	-	皿形	1	○				<SD7
17・20・24		SD22	8G-1H13・14・19	平安	VII	N・40°・W	-	0.55	-	0.25	0.16	2.85	-	皿形	2	○	60	2	30	>SD3
17・20・24		SD44	8G-2H4・9	平安	VII	N・40°・W	-	0.81	-	0.21	0.18	2.77	-	皿形	2	○		1	6	>SX25, SD45
17・20・24・28		SD45	8G-2H9・14	平安	VII	N・21°・W	-	0.96	-	0.71	0.12	2.82	-	皿形	1	×				<SD44
17・20・24・28		SD46	8G-2H8・9・14	平安	VII	N・11°・W	-	0.34	-	0.20	0.12	2.86	-	皿形	1	○				
17・20・21・29		SD50	8G-3H4・5・8・9・14	平安以降	VII	N・20°・E	-	1.40	-	0.78	0.45	2.66	-	台形状	3	○	60			
17・21・24・29		SD51	8G-3G13・14・17・18・19・20・24・25, 3H16	平安以降	VII	N・59°・W	-	2.39	-	0.80	0.39	2.60	-	皿形	3	○	60・61・67			<SD63
17・21・22・29		SD55	8G-4G21・22	平安以降	VII	N・86°・E	-	0.78	-	0.38	0.21	2.81	-	台形状	4	○				
17・22・25・29		SD58	8G-5F10, 5G1・2・6・7	平安以降	VII	N・65°・E	-	0.60	-	0.38	0.18	2.82	-	箱形	3	○	61			
17・22・29		SD62	8G-5G17・18	平安以降	VII	N・25°・E	-	0.46	-	0.28	0.35	2.85	-	台形状	4	○				>SD72
17・21・29		SD63	8G-3G12・13・17・18	平安	VII	N・31°・E	-	-	-	-	0.28	2.77	-	台形状	2	×				>SD51
17・21・24		SD64	8G-4G4	平安	VII a	N・42°・W	-	0.67	-	0.45	0.16	2.84	-	皿形	2	○	61			
17・22・29		SD65	8G-5G11・12・16・17	平安	VII a	N・50°・E	-	0.60	-	0.31	0.29	2.71	-	半円形	3	○				>SD72
17・22・25・30		SD66	8G-5F19・20・22・23・24・25, 6F1・2・3	平安	VII a	N・60°・E	-	0.58	-	0.30	0.27	2.69	-	箱形	3	○	61			>SD67・78・79・80・81・82
17・22・25		SD67	8G-5F19・20・24・25	古墳~平安	VII a	N・75°・W	-	2.44	-	2.09	0.21	2.88	-	皿形	2	○				>SD66・78
17・23・25・30		SD70	8G-7E9・10・14・15・20, 8F1	平安	VII a	N・23°・W	-	1.40	-	0.46	0.40	2.62	-	皿形	3	○	61			>SD104
17・23・25・30		SD71	8G-7E14・19・20・25, 8E5・10, 8F1・6	古墳~平安	VII	N・24°・W	-	0.70	-	0.36	0.24	2.71	-	皿形	3	○	61			
17・22・29		SD72	8G-5G12・17・18	平安	VII	N・36°・W	-	0.62	-	0.40	0.37	2.60	-	台形状	3	○				<SD62・65
17・22・29		SD76	8G-5G11	平安	VII a	N・55°・E	-	0.44	-	0.22	0.25	3.08	-	台形状	2	○				
17・22・25・30		SD78	8G-5F24, 6F4	平安	VII a	N・28°・W	-	0.30	-	0.18	0.28	2.83	-	台形状	2	○				畝状小溝 >SD67 <SD66
17・22・26・30		SD79	8G-5F23・24, 6F3・4	古墳~平安	VII a	N・32°・W	-	0.32	-	0.17	0.35	2.74	-	台形状	2	○	61・62			畝状小溝 <SD66
17・22・26・30		SD80	8G-5F23, 6F3・4・8・9	古墳~平安	VII a	N・30°・W	-	0.54	-	0.35	0.36	2.78	-	箱形	3	○	62	1	6	畝状小溝 <SK87, SD66
17・22・30・31		SD81	8G-5F22, 6F2・3・8	平安	VII	N・26°・W	-	0.35	-	0.15	0.18	2.74	-	箱形	2	○	62			畝状小溝 <SD66
17・22・30		SD82	8G-5F22, 6F2・7・8・13	平安	VII	N・25°・W	-	0.29	-	0.16	0.15	2.79	-	台形状	2	○				畝状小溝 <SD66
17・23・25・30		SD93	8G-7E14・19・24・25, 8E4・5・10	平安	VII a	N・20°・W	-	0.58	-	0.45	0.20	2.71	-	皿形	3	○	62	1	1	
17・23・25・31		SD94	8G-7E18・19・24, 8E4	平安	VII	N・20°・W	-	0.49	-	0.43	0.19	2.65	-	皿形	3	○				
17・23・25・31		SD95	8G-7E18・23・24, 8E3・4・5・9・10	平安	VII	N・28°・W	-	1.50	-	1.14	0.14	2.67	-	皿形	2	○				
17・23・30		SD100	8G-6F16・17・22	平安	VII a	N・33°・W	-	0.40	-	0.29	0.25	2.75	-	半円形	2	○	62			
17・23・25・30		SD104	8G-7E10, 7F6	平安	VII a	N・78°・E	-	0.81	-	0.65	0.34	2.72	-	皿形	3	○	62			<SD70
17・23・31		SD105	8G-8E11・12・16	平安以降	VII	N・70°・E	-	0.74	-	0.32	0.04	2.70	-	皿形	1	○	62			
17・23・31		SD107	8G-8D24・25, 9D4・5・9・10	平安以降	VII	N・67°・E	-	1.95	-	1.80	0.14	2.56	-	皿形	2	○	62・66			>SX114
17・23		SD108	8G-8D19・24・25, 9D5, 9E1	平安以降	VII	N・35°・W	-	0.78	-	0.59	0.07	2.62	-	皿形	2	○	63			
17・23・31		SD109	8G-8D18・23	平安以降	VII	N・17°・E	-	-	-	-	0.05	2.66	-	皿形	1	×				
17・23・27		SD113	8G-9D5・10	平安以降	VII	N・41°・W	-	0.18	-	0.11	0.06	2.61	-	皿形	1	×				
17・20・28		Pit6	8G-11I2・17	平安	VII	N・68°・W	0.44	0.27	0.20	0.16	0.25	2.67	-	楕円形	1	○				>SD7
17・20		Pit10	8G-113	平安	VII	N・10°・E	0.28	0.25	0.15	0.13	0.09	-	円形	1	×					
17・20		Pit11	8G-113	平安	VII	N・23°・W	0.26	0.25	0.10	0.07	0.17	-	円形	1	×					
17・20		Pit12	7G-10I23, 8G-113	平安	VII	N・57°・E	0.26	0.21	0.15	0.11	0.20	-	円形	1	×					
17・20・28		Pit13	7G-10I23	平安	VII	N・55°・W	0.35	-	0.20	-	0.31	2.65	-	楕円形	1	○				
17・20・28		Pit14	7G-10I23	平安	VII	N・30°・E	0.50	0.37	0.27	0.15	0.18	2.78	-	楕円形	1	○				
17・20		Pit16	7G-10I23	平安	VII	N・16°・E	0.25	0.23	0.15	0.11	0.19	-	円形	1	×					
17・20・26		Pit18	8G-1H15	平安	VII	N・58°・W	0.30	-	0.21	-	0.06	-	-	皿形	1	×				
17・20		Pit26	8G-1H13・18	平安	VII	N・55°・E	0.40	0.33	0.20	0.15	0.14	-	楕円形	1	×					
17・20・26		Pit27	8G-1H15	平安	VII	N・34°・E	0.23	0.17	0.14	0.10	0.10	-	楕円形	1	×					
17・20・26		Pit28	8G-1H14	平安	VII	N・45°・W	-	0.20	0.09	-	0.20	2.76	-	円形	2	×				>SK24, SD3

図版 No.	調査区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	礫		備考	
							上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
							長軸	短軸	長軸	短軸										
17・20		Pit29	8G-1I6	平安	Ⅶ	N-29°-W	0.25	-	0.05	0.04	0.19	-	-	U字状	1	○				
17・20		Pit30	8G-1H20	平安	Ⅶ	N-30°-W	0.32	-	0.22	-	0.11	-	-	皿形	1	×				
17・20		Pit31	8G-1H14・19	平安	Ⅶ	N-46°-W	0.38	-	0.15	0.12	0.20	-	-	U字状	1	×				
17・20		Pit32	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-57°-W	0.36	-	0.20	-	0.17	-	-	台形状	1	×				
17・20		Pit33	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-58°-W	0.29	-	0.15	-	0.22	-	-	U字状	1	×				
17・20		Pit34	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-12°-W	0.35	0.30	0.23	0.20	0.14	-	円形	皿形	1	○				
17・20		Pit35	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-42°-W	-	0.35	-	-	0.13	-	-	皿形	1	×				
17・20		Pit36	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-62°-W	0.33	-	-	0.14	0.14	-	-	皿形	1	×				
17・20・26		Pit37	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-42°-W	0.25	0.22	0.17	0.12	0.29	-	円形	U字状	1	×				
17・20		Pit38	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-8°-W	0.25	0.24	0.20	0.17	0.17	-	円形	箱形	1	×				
17・20		Pit39	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-66°-E	0.40	0.38	0.34	0.30	0.27	-	円形	台形状	1	×				
17・20・26		Pit40	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-84°-E	0.25	0.22	0.13	0.12	0.30	-	円形	U字状	2	○				
17・20・26		Pit41	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-17°-W	0.25	-	0.17	0.14	0.13	-	-	半円形	1	×				
17・20・26		Pit42	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-14°-W	0.24	0.23	0.14	0.13	0.24	-	円形	U字状	1	×				
17・20・26		Pit47	8G-1H19	平安	Ⅶ	N-73°-E	0.20	0.15	0.06	0.04	0.09	-	楕円形	V字状	1	×				
17・20		Pit48	8G-1H20	平安	Ⅶ	N-53°-W	0.30	-	0.19	-	0.10	-	-	皿形	1	○				
17・20		Pit49	8G-1H20	平安	Ⅶ	N-39°-E	-	0.10	-	0.07	0.12	-	-	皿形	1	○				
17・19		Pit52	7G-10I10・15	平安	Ⅶ	N-75°-W	0.45	0.41	0.16	0.15	0.16	-	円形	皿形	1	○				
17・20		Pit53	8G-1I2	平安	Ⅶ	N-28°-E	0.30	-	0.15	-	0.42	-	-	U字状	1	×				
17・20		Pit54	8G-1I16・21	平安	Ⅶ	N-9°-W	-	0.44	0.30	0.21	-	-	-	-	1	×				
17・21		Pit56	8G-3H2	平安	Ⅶ	N-59°-W	-	0.23	0.19	0.17	0.12	-	楕円形	箱形	2	×				
17・21		Pit57	8G-3H2	平安	Ⅶ	N-58°-W	-	-	-	-	0.15	-	楕円形	箱形	2	×				
17・22・25		Pit59	8G-4G21	平安	Ⅶ	-	-	-	-	0.14	3.02	-	-	台形状	1	×			>SD55	
17・20		Pit60	8G-2H14	平安	Ⅶ	N-30°-E	0.38	-	-	0.13	0.19	-	-	皿形	1	×				
17・20		Pit61	8G-2H14	平安	Ⅶ	N-14°-E	0.20	-	-	0.10	0.13	-	-	皿形	2	×				
17・22		Pit68	8G-6F1	平安	Ⅶ	N-67°-E	-	0.24	-	0.18	0.21	-	-	台形状	1	×				
17・21		Pit69	8G-4G4	平安	Ⅶ	N-84°-E	0.27	0.26	0.17	0.14	0.17	-	円形	台形状	1	○				
17・22		Pit74	8G-5F19・24	平安	Ⅶ	N-60°-E	0.30	0.29	0.17	0.15	0.08	-	円形	皿形	2	×				
17・22		Pit75	8G-5G11	平安	Ⅶ	N-61°-W	-	0.47	0.23	0.17	0.65	-	楕円形	U字状	3	○				
17・22・31		Pit77	8G-5F19・20	平安	Ⅶ	N-38°-W	0.52	0.45	-	0.36	0.51	2.20	不整形	箱形	4	○	67	1	1	
17・22・26		Pit83	8G-6F3・8	平安	Ⅶ	N-35°-W	0.32	-	-	0.18	0.14	-	-	箱形	2	×				
17・22・31		Pit84	8G-6F3・8	平安	Ⅶ	N-17°-W	0.55	-	0.20	0.16	0.20	-	楕円形	皿形	1	○				
17・22		Pit85	8G-6F13	平安	Ⅶ	N-56°-E	-	0.25	0.15	0.10	0.20	-	-	箱形	2	○				
17・22		Pit86	8G-6F4	平安	Ⅶ	N-7°-E	0.33	-	-	-	0.20	-	-	台形状	3	○	63			
17・22・26		Pit88	8G-6F4	平安	Ⅶ	N-45°-W	0.21	0.18	0.08	0.08	0.11	-	円形	皿形	1	○				
17・22・31		Pit89	8G-6F3・8	平安	Ⅶ	N-32°-W	0.38	0.36	0.16	0.13	0.37	2.43	円形	台形状	2	○	67			
17・22		Pit90	8G-5F23、6F3・4	平安	Ⅶ	N-35°-W	0.66	-	0.43	-	0.29	-	楕円形	半円形	2	○	63		>SD79	
17・22		Pit91	8G-6F3	平安	Ⅶ	N-25°-E	0.27	0.27	0.13	0.10	0.24	-	円形	台形状	2	○				
17・22・26		Pit92	8G-6F4	平安	Ⅶa	N-28°-E	0.43	-	-	0.23	0.38	2.74	-	台形状	2	○	63		<SK87 >SD79	
17・22		Pit97	8G-6F12・13	平安	Ⅶ	N-40°-E	0.42	0.35	0.19	0.13	0.26	-	円形	U字状	2	○	63			
17・23		Pit98	8G-6F17	平安	Ⅶ	N-60°-W	-	0.31	-	0.10	0.23	-	-	台形状	2	○				
17・23		Pit99	8G-6F17・22	平安	Ⅶ	N-31°-E	0.43	-	0.20	0.18	0.28	-	-	U字状	2	○				
17・23		Pit101	8G-6F21・22	平安	Ⅶ	N-16°-E	0.43	0.41	0.33	0.30	0.17	-	-	台形状	2	○				
17・23		Pit102	8G-6F21・22	平安	Ⅶ	N-50°-W	0.36	0.32	0.24	0.22	0.20	-	円形	台形状	2	○	63			
17・22		Pit110	8G-6F8・13	平安	Ⅶ	N-74°-E	-	-	-	-	0.15	-	-	皿形	1	○				
17・23		Pit116	8G-9D5	平安	Ⅶ	N-30°-E	0.34	-	0.28	-	0.05	-	-	皿形	1	×				

第 16 次調査

図版 No.	調査区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	礫		備考	
							上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
							長軸	短軸	長軸	短軸										
32・34・35	1	SK6	10I-3C1	平安	VII	N-27°-E	0.60	0.50	0.50	0.30	0.08	3.26	楕円形	皿形	1	○				
32・34・35	1	SD1	10I-5A18・23	平安	VII d	N-40°-W	(1.60)	1.00	-	0.60	0.36	2.78	-	台形状	3	○				
32・34・35	1	Pit2	10I-3C1	平安	VII	N-46°-W	0.30	(0.20)	0.20	(0.10)	0.30	3.37	楕円形	台形状	2	×				
32・34	1	Pit3	10I-2B25、2C21	平安	VII	N-69°-E	0.20	0.20	(0.20)	0.10	0.14	-	楕円形	U字状	1	×				
32・34・35	1	Pit4	10I-3B5	平安	VII	N-41°-E	0.34	0.30	0.10	0.10	0.28	3.08	楕円形	台形状	3	×				
32・34	1	Pit5	10I-2C21、3C1	平安	VII	N-88°-E	0.20	(0.10)	0.10	(0.10)	0.17	-	楕円形	台形状	2	×				
32・34	1	Pit7	10I-4B12	平安	VII	N-30°-E	0.40	(0.20)	0.20	(0.10)	0.18	-	楕円形	皿形	1	○				
32・34	1	Pit8	10I-4B3	平安	VII	N-30°-E	0.40	(0.20)	0.20	(0.10)	0.20	-	楕円形	皿形	1	×				
32・36・37	2	SD1	5I-4D16・21・22	平安以降	VII a	N-66°-W	(1.50)	0.60	-	0.30	0.72	3.42	-	階段状	4	×			<SD2	
32・36・37	2	SD2	5I-4D16・17・22	中世以降	V	N-64°-W	(1.50)	1.00	-	0.60	0.80	2.56	-	階段状	9	×			>SD1	
32・36・37	2	SD3	5I-6B25、6C21	平安	VII b	N-47°-W	(1.70)	0.60	-	0.30	0.26	3.12	-	台形状	3	×				
32・36・37	2	SD4	5I-7B8	平安	VII	N-40°-E	(0.70)	0.20	(0.70)	0.10	0.12	3.20	-	台形状	2	×			畝状小溝	
32・36・37	2	SD5	5I-7B8・13	平安	VII	N-54°-E	(1.10)	0.20	(1.00)	0.10	0.14	3.20	-	台形状	2	×			畝状小溝	
32・36・37	2	SD6	5I-7B8・13	平安	VII	N-43°-E	(1.30)	0.20	(1.20)	0.10	0.14	3.20	-	台形状	2	×			畝状小溝	
32・36・37	2	SD7	5I-7B13	平安	VII	N-60°-E	0.80	0.20	0.60	0.10	0.02	3.22	-	皿形	1	×			畝状小溝	
32・36・37	2	SD8	5I-7B14・18・19	平安	VII	N-48°-E	2.10	0.30	1.90	0.20	0.04	3.24	-	皿形	1	×			畝状小溝	
32・36・37	2	SD9	5I-7B14・19	平安	VII	N-50°-E	1.60	0.30	1.50	0.20	0.02	3.24	-	皿形	1	×			畝状小溝	
32・36・37	2	SD10	5I-7B19	平安	VII	N-26°-E	0.30	0.20	0.20	0.10	0.04	3.20	-	皿形	1	×			畝状小溝	
32・36・37	2	SD11	5I-7B19・20・24	平安	VII	N-54°-E	3.30	0.40	3.10	0.20	0.02	3.20	-	皿形	1	×			畝状小溝	
32・36・37	2	SD12	5I-7B9	平安	VII	N-30°-E	(1.00)	0.10	(0.10)	0.10	0.10	3.22	-	台形状	1	×				
32・36・38	2	河1	5I-7B22・23、8A15・20、8B2・3・6・7・11・12・16	平安	VII	N-58°-W	-	7.40	-	3.62	1.24	1.96	-	皿形	9	○	68			
32・39・41	3	SE23	4G-6D17・22	平安	VII b	N-62°-W	0.80	0.70	0.50	0.50	0.30	2.64	楕円形	半円形	2	×			>SD20	
32・39・41	3	SK4	4G-7C9	平安	VII b	N-35°-E	0.80	(0.30)	0.50	(0.30)	0.32	2.66	楕円形	台形状	2	○	68		<SD11	
32・39・40・41	3	SK30	4G-7C10・15、7D6・11	平安	VII b	N-73°-E	2.20	1.40	2.00	1.20	0.28	2.70	楕円形	皿形	2	○			<SD8・11	
32・39・42	3	SD1	4G-8C3	平安	VII b	N-43°-W	(0.60)	0.50	(0.50)	0.20	0.16	2.86	-	皿形	1	○				
32・39・42	3	SD2	4G-7C15	平安	VII b	N-77°-W	(0.80)	0.40	(0.70)	0.30	0.10	2.96	-	皿形	1	○				
32・39・40・42・43	3	SD3	4G-7D1・2	平安	VII b	N-68°-W	2.80	1.00	2.50	0.60	0.42	2.58	-	半円形	2	○	68		<SD21	
32・39・41・42	3	SD5	4G-7C5・10	平安	VII b	N-15°-W	(2.50)	0.90	-	0.50	0.34	2.66	-	台形状	2	○			<SD6・11・22	
32・39・41	3	SD6	4G-7C4・5・10	平安	VII b	N-76°-W	(1.20)	0.50	(1.10)	0.30	0.16	2.82	-	皿形	1	○			>SD5	
32・39・40・42・43	3	SD8	4G-6C25、7C5、7D1・6	平安	VII b	N-15°-W	(4.10)	0.60	(4.00)	0.30	0.12	2.82	-	皿形	1	○	68		>SK30	
32・39・41・42	3	SD11	4G-7C9・10、7D6・11	平安	VII b	N-60°-W	(4.30)	0.60	-	0.30	0.22	2.98	-	台形状	1	○	68		>SK4・30、SD5	
32・39・42	3	SD20	4G-6D17・22、7D2	平安	VII b	N-29°-W	(2.10)	1.70	-	0.40	0.14	2.80	-	皿形	1	×			<SE23	
32・39・42	3	SD21	4G-7D1・2	平安	VII b	N-80°-E	(2.40)	0.40	(2.30)	0.20	0.10	2.90	-	皿形	1	○			>SD3	
32・39・41	3	SD22	4G-7C5	平安	VII b	N-60°-W	(0.30)	0.40	(0.30)	0.20	0.22	3.70	-	台形状	1	×			>SD5	
32・39・42	3	SD29	4G-8C8	平安	VII b	N-66°-W	(0.50)	0.20	(0.40)	0.10	0.14	2.90	-	台形状	2	×				
40・42	3	SD42	4G-7C24・25、8C4	平安	VII	N-38°-W	(1.80)	0.60	-	0.20	0.22	2.68	-	台形状	2	○				
32・39	3	Pit7	4G-6D23	平安	VII b	N-60°-W	0.40	0.30	0.20	0.10	0.22	-	楕円形	半円形	1	○				
32・39・42	3	Pit9	4G-7C10	平安	VII b	N-58°-W	0.30	(0.20)	0.20	(0.10)	0.22	2.68	楕円形	半円形	1	○	68			
32・39	3	Pit10	4G-7C10	平安	VII b	N-25°-E	0.20	0.20	0.10	0.10	0.26	-	楕円形	階段状	2	○			SB1	
32・39・40・43	3	Pit12	4G-7C5・10	平安	VII b	N-25°-E	0.80	0.60	0.20	0.20	0.32	2.48	楕円形	台形状	2	○			SB1	
32・39	3	Pit14	4G-7D1・2	平安	VII b	N-80°-E	0.30	0.30	0.20	0.20	0.16	-	楕円形	台形状	1	○	68			
32・39・40・43	3	Pit15	4G-7C5・10、7D1・6	平安	VII b	N-9°-E	0.60	0.40	0.30	0.20	0.40	2.52	楕円形	階段状	1	×			SB1	
32・39・40・43	3	Pit16	4G-7D1・2・6・7	平安	VII b	N-58°-E	0.70	0.50	0.20	0.20	0.32	2.60	楕円形	U字状	1	×			SB1	
32・39・40	3	Pit17	4G-6D22	平安	VII b	N-12°-W	0.50	0.40	0.20	0.20	0.34	-	楕円形	階段状	1	×				
32・39・42	3	Pit18	4G-6D22	平安	VII b	N-21°-W	0.40	0.30	0.30	0.20	0.18	2.76	楕円形	台形状	1	×				
32・39	3	Pit19	4G-6D17	平安	VII b	N-29°-W	0.40	0.40	0.20	0.10	0.30	-	楕円形	U字状	1	×				
32・39・40・43	3	Pit24	4G-7C5、7D1	平安	VII b	N-64°-W	0.30	0.30	0.20	0.10	0.16	2.64	楕円形	半円形	1	×			SB1	
32・39	3	Pit25	4G-7C5・10	平安	VII b	N-89°-W	(0.30)	(0.20)	(0.20)	(0.10)	0.26	-	-	半円形	1	○	69			

図版 No.	調査区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	磔		備考
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	
							長軸	短軸	長軸	短軸										
32・39・43	3	Pit26	4G-7D1・2	平安	VII b	N・25°・E	0.50	0.40	0.40	0.30	0.30	2.48	楕円形	半円形	2	×				SB1
32・39・40	3	Pit27	4G-7D6	平安	VII b	N・15°・W	0.40	0.30	0.10	0.10	0.24	—	楕円形	階段状	1	×				SB1
32・39	3	Pit28	4G-8C8	平安	VII b	N・25°・E	(0.20)	0.20	(0.10)	0.10	0.18	—	楕円形	U字状	1	○				
32・39	3	Pit31	4G-7C10	平安	VII b	N・23°・W	0.40	0.40	0.20	0.30	0.34	—	楕円形	台形状	2	×				
32・39・40	3	Pit32	4G-7D6	平安	VII b	N・87°・E	0.60	0.40	0.30	0.20	0.54	—	楕円形	階段状	3	○	69			
32・39	3	Pit33	4G-7D1	平安	VII b	N・75°・E	0.20	0.20	0.10	0.10	0.20	—	楕円形	U字状	1	×				
40・44	3	Pit34	4G-8C8・13	平安	VII	N・24°・E	0.60	(0.50)	0.30	0.30	0.42	2.86	楕円形	階段状	3	○				SA1
40・44	3	Pit35	4G-8C13	平安	VII	N・84°・E	0.60	0.50	0.10	0.10	0.30	2.58	楕円形	階段状	4	○				SA2
40・44	3	Pit36	4G-8C4	平安	VII	N・88°・W	0.50	0.40	0.10	0.10	0.34	2.52	楕円形	台形状	2	○	69			SA2
40	3	Pit37	4G-8C17	平安	VII	N・63°・W	0.70	(0.50)	0.40	(0.30)	0.38	—	楕円形	台形状	4	×				
40・43・44	3	Pit38	4G-8C3・4	平安	VII	N・35°・W	0.60	0.50	0.30	0.20	0.34	2.54	楕円形	階段状	4	×				SA1
40・43	3	Pit39	4G-8C3・4	平安	VII	N・77°・W	(0.50)	0.40	(0.30)	0.20	0.34	2.54	楕円形	台形状	4	○				SB2
40	3	Pit43	4G-6C25、7C5、6D21、7D1	平安	VII	N・62°・W	0.70	(0.30)	0.50	(0.20)	0.27	—	楕円形	台形状	4	○				
40	3	Pit44	4G-7C19・20・24・25	平安	VII	N・53°・W	0.50	0.40	0.40	0.20	0.26	—	楕円形	半円形	3	×				
40	3	Pit45	4G-7C20	平安	VII	N・60°・E	0.50	0.40	0.30	0.20	0.34	—	楕円形	U字状	3	○				
40	3	Pit46	4G-7C20	平安	VII	N・28°・E	0.50	(0.30)	0.30	(0.20)	0.33	—	楕円形	台形状	3	×				
40・43	3	Pit47	4G-8C9	平安	VII	N・77°・W	0.50	0.40	0.30	0.20	0.38	2.50	楕円形	台形状	—	○				SB2
40・44	3	Pit48	4G-8C8・13	平安	VII	N・84°・W	0.30	0.30	0.20	0.20	0.26	2.62	楕円形	U字状	2	×				
40	3	Pit49	4G-8C8	平安	VII	N・80°・W	(0.20)	0.20	(0.20)	0.20	0.21	—	楕円形	半円形	3	×				
40・43	3	Pit50	4G-8C8	平安	VII	N・48°・W	0.40	0.30	0.10	0.10	0.42	2.48	楕円形	皿形	3	×				SB2
40・43・44	3	Pit51	4G-8C8	平安	VII	N・64°・E	0.40	0.40	0.20	0.20	0.22	2.66	楕円形	台形状	3	×				SA2
40・44	3	Pit52	4G-8C8	平安	VII	N・22°・E	0.30	0.30	0.20	0.20	0.32	2.56	楕円形	半円形	3	×				
40・44	3	Pit53	4G-8C12・17	平安	VII	N・28°・E	0.60	(0.20)	0.20	(0.10)	0.39	—	楕円形	台形状	3	○				SA1
40	3	Pit54	4G-7C5	平安	VII	N・30°・E	0.40	(0.20)	0.30	(0.10)	0.33	—	楕円形	半円形	4	×				
40	3	Pit55	4G-8C3・4	平安	VII	N・98°・E	0.40	(0.20)	0.30	(0.20)	0.12	—	楕円形	—	1	○				
32・39	3	Pit56	4G-7C9・10	平安	VII b	N・48°・E	0.30	0.30	0.20	0.10	—	—	楕円形	U字状	—	○				
32・39・43	3	SB1	4G-7C5・10、7D1・2・6・7	平安	VII b	N・1°・W	2.78	2.14	—	—	—	—	2間×2間	—	—	○				総柱建物。Pit10・12・15・16・24・26・27
40・43	3	SB2	4G-8C3・4・8・9	平安	VII	N・11°・W	(1.78)	(1.62)	—	—	—	—	1間×1間以上	—	—	○				Pit39・47・50
40・44	3	SA1	4G-8C3・4・8・12・17	平安	VII	N・45°・W	(5.52)	—	—	—	—	—	2間以上	—	—	○				Pit34・38・53
40・44	3	SA2	4G-8C3・4・8・13	平安	VII	N・32°・W	(3.88)	—	—	—	—	—	2間以上	—	—	○	69			Pit35・36・51

別表 2 中谷内遺跡 第12・15・16次調査 土器・陶器観察表

凡 例

1. 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
2. 器 種 第三章に記した。
3. 器高指数 器高/口径×100
4. 底径指数 底径/口径×100
5. 法 量 口径・底径・器高値を示す。括弧付の数値は遺存率の低いものの推定値である。
6. 胎 土 土器の胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「赤」は赤色粒子、「白」は白色凝灰岩、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。
7. 色 調 『新版標準土色帳』[小山・竹原 1967]を用いて色調を記した。
8. 焼 成 酸化炎焼成・還元炎焼成の区別を記した。須恵器で酸化炎焼成としたものは褐色あるいは橙色の色調で軟質なものを表す。白色・灰白色のものは含めていない。
9. 手 法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」「ヘラ切り」はいずれもロクロまたは回転台を用いた切り離し手法を示し、観察可能なものは回転方向も合わせて記した。底部調整は砂粒の動き等から判断した。
10. 遺 存 率 口縁部残存率法〔宇野 1992〕を用いて 分数表示で口径(底径)に対する残存割合を記した。

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考		
			区	遺構名					グリッド	口径	底径							器高	外面	内面	底部	回転方向	口縁部	底部	外面		内面	
46	1	12次	1	SK12	5F-7H4	1	土師器	長甕	C	24.0		(12.7)			石・長・雲・赤		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ				5/36				
46	2	12次	1	SK12	5F-7H4	1	土師器	長甕				(14.7)			長・チ・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	平行タタキ	ハケメ、平行当具痕								
46	3	12次	1	SK20	5G-1A10	1	土師器	無台碗	B1Ⅱ	10.2	4.5	3.2	31	44	長・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		9/36	21/36				
46	4	12次	2	SK114	5G-1D22	1	土師器	鍋	A	39.0		(5.5)			石・長・雲・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ				4/36				
46	5	12次	1	SD7	5F-7H8		土師器	無台碗	A1Ⅱ	12.5	5.5	3.6	29	44	長・チ・赤・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	糸切り	左	19/36	36/36				
46	6	12次	1	SD7	5F-7H7・8・13 5F-7H7・12	Ⅶ	土師器	長甕				(11.0)			石・長・雲・チ・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	平行タタキ	当具痕→ハケメ								
46	7	12次	1	SD7	5F-7H2・3		土師器	小甕	B	14.0		(3.7)			石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			16/36					
46	8	12次	1	SD7	5F-7H8・13	2	土師器	小甕			10.0	(5.9)			長・海		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ケズリ			27/36	スス			
46	9	12次	1	SD7	5F-7H7・8		土師器	小甕			7.0	(4.2)			石・長・赤・海		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		17/36				
46	10	12次	1	SD7	5F-7H2・3 5F-7H3	Ⅶ	土師器	鍋	A	38.0		(6.3)			石・長・雲・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ	カキメ				6/36				
46	11	12次	1	SD7	5F-7H2・3		黒色土器	無台碗	A2Ⅰ	20.0	7.3	7.0	35	37	石・長・雲・チ・赤・海		外面 灰白 (10YR8/2) 内面 黒褐色 (10YR3/1)	酸化	ロクロナデ→ケズリ→ミガキ	ロクロナデ→糸切り→ケズリ	糸切り→ケズリ		4/36	10/36				
46	12	12次	1	SD7	5F-7H2・3・8	2	須恵器	無台杯	A3	12.0	7.0	3.6	30	58	石・長	阿賀北	灰白 (5Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	5/36	28/36			小泊類似、道場窯?	
46	13	12次	1	SD7	5F-7H1~3 5F-7H1	Ⅰ Ⅶ	須恵器	無台杯	A2	12.0	6.4	2.8	23	53	長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	9/36	36/36				
46	14	12次	1	SD7	5F-7H3		須恵器	無台杯	B2	12.0	7.4	2.7	23	62	長	小泊	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	26/36	20/36				
46	15	12次	1	SD7	5F-7H2・3	1	須恵器	無台杯	A2	12.0	7.5	2.8	23	63	長	小泊	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	21/36	31/36				
46	16	12次	1	SD7	5F-7H2・8		須恵器	無台杯	B2	12.0	6.6	2.9	24	55	長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	18/36	8/36				
46	17	12次	1	SD7	5F-7H3		須恵器	無台杯	B2	12.4	6.8	3.1	25	55	石・長	阿賀北	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			11/36	13/36			小泊類似
46	18	12次	1	SD7	5F-7H2 5F-7H7	Ⅶ	須恵器	短頸壺	B	12.0		(2.9)			長	阿賀北	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36				
47	19	12次	1	SD7	5F-7H8		須恵器	甕	B	48.0		(8.2)			長	小泊	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36		自然釉	口縁部自然釉	
47	20	12次	1	SD11	5F-5I8		土師器	鍋	A	36.0		(6.3)			石・長		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	カキメ	ロクロナデ				4/36				
47	21	12次	1	SD11	5F-5I8		須恵器	無台杯	A2	12.4	7.4	3.2	26	60	長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	12/36	21/36			底外面墨痕	
47	22	12次	2	SD53	5G-1C20		土師器	無台碗	AⅡ	13.0		(3.3)			石・長・チ・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36				
47	23	12次	2	SD53	5G-1C20		土師器	無台碗	B2Ⅱ	12.3	4.2	4.1	33	34	石・長・チ・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	8/36	36/36				
47	24	12次	2	SD53	5G-1C20 5G-1C15	Ⅶ	土師器	無台碗	BⅡ	14.0		(3.7)			石・長・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36				
47	25	12次	2	SD53	5G-1C20		土師器	無台碗	B2Ⅱ	13.0	5.0	3.9	30	38	石・長・チ・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	22/36	36/36				
47	26	12次	2	SD53	5G-1D16		土師器	無台碗	BⅡ	13.4		(3.2)			石・長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36				
47	27	12次	2	SD53	5G-1C20		土師器	無台碗	B2Ⅱ	12.5	4.5	3.9	31	36	石・長		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	5/36	23/36				
47	28	12次	2	SD53	5G-1C20	1	土師器	無台碗			5.0	(2.0)			石・長・雲・チ・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左		36/36				
47	29	12次	2	SD53	5G-1C20 5G-1D16	Ⅶ	土師器	長甕				(5.2)			石・長・チ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	タタキ	無文の当具痕								
47	30	12次	2	SD53	5G-1C20		土師器	小甕				(5.9)			石・長・チ・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								
47	31	12次	2	SD53	5G-1C20 5G-1C15	Ⅶ	土師器	鍋	A	(43.2)		(6.7)			石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ	カキメ				2/36		スス		

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考		
			区	遺構名	グリッド					口径	底径	器高							外面		内 面		口縁部	底部	外面	内面			
																			ケズリ→ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ						回転方向	底面
47	32	12次	2	SD53	5G-1C20		黒色土器	有台皿		11.6	5.3	2.5	22	46	石・長・チ・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ケズリ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ		ミガキ			14/36	36/36			
47	33	12次	2	SD53	5G-1C20		黒色土器	有台皿		12.6	5.2	2.4	19	41	石・長・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ→ケズリ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ		ミガキ			10/36	36/36			
47	34	12次	2	SD53	5G-1C20		黒色土器	有台皿		(12.6)		(2.0)			石・長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ					1/36				
47	35	12次	2	SD53	5G-1C20		須志器	無台杯	B1	13.0	8.5	3.1	24	65	石・長	小泊	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右			11/36	20/36			
47	36	12次	2	SD53	5G-1C20		須志器	長頸瓶	A	13.0		(5.7)			長	小泊	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					12/36				
48	37	12次	2	Pit110	5G-1D22 5G-1D22		土師器	鍋	A	46.0		(8.7)			石・長・チ・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ、平行タタキ	カキメ					4/36				
48	38	12次	1	河1	5F-6I1 5F-6H15、616		須志器	無台杯	B2	12.0	7.0	2.9	24	58	石・長	阿賀北	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左			8/36	19/36			底外面墨書「山手」、小泊類似
48	39	12次	1	河1	5F-6I1		須志器	無台杯			7.0	(1.5)			長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り				8/36				底外面墨書「真カ」
48	40	12次	2	河2	5G-2D3		土師器	無台碗	AII	13.0		(3.1)			石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					6/36				
48	41	12次	2	河2	5G-2D3		土師器	無台碗	B1II	12.3	5.0	3.6	29	41	石・長・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			12/36	36/36			
48	42	12次	2	河2	5G-2D5		土師器	無台碗	B3II	12.2	4.6	4.3	35	38	石・長・チ・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			25/36	36/36			
48	43	12次	2	河2	5G-2D4・5		土師器	無台碗	B2II	12.0	4.5	3.8	32	38	石・長・チ・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			11/36	29/36			
48	44	12次	2	河2	5G-2D4		土師器	無台碗	B1II	11.6	5.6	3.6	31	48	長・チ・白		灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36	11/36			
48	45	12次	2	河2	5G-2D4・5 5G-2D5		土師器	無台碗	B3II	12.0	4.5	4.2	35	38	石・長・チ・赤		灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			36/36	36/36			
48	46	12次	2	河2	5G-2D4		土師器	無台碗	BII	12.0		(3.6)			石・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					9/36				
48	47	12次	2	河2	5G-2D4		土師器	無台碗	B I	16.0		(4.7)			長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ					4/36				
48	48	12次	2	河2	5G-2D4		土師器	無台碗	B3 I	14.0	4.7	6.0	43	34	石・長・チ・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り→ケズリ				19/36	23/36			
48	49	12次	2	河2	5G-2D4・5、 2E1		土師器	無台碗	B2II	13.0	5.2	4.1	32	40	石・長・チ・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				7/36	7/36			
48	50	12次	2	河2	5G-2D4・5		土師器	無台碗	BII	12.0		(4.0)			石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					8/36				
48	51	12次	2	河2	5G-2D4 5G-2D5		土師器	無台碗			4.4	(3.6)			チ		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ	糸切り	右			32/36				
48	52	12次	2	河2	5G-2D4・10		土師器	長甕	A	19.0		(3.3)			石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ					5/36				
48	53	12次	2	河2	5G-2E6		土師器	長甕	A	20.0		(3.7)			石・長・チ・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36				
48	54	12次	2	河2	5G-2E6		土師器	長甕	A	19.0		(5.8)			石・長・チ・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ					4/36				
48	55	12次	2	河2	5G-1D24 5G-2D4 5G-1D16		土師器	長甕				(10.3)			石・長		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	平行タタキ	扇状当具痕									
49	56	12次	2	河2	5G-2D4		土師器	小甕	A	15.0		(2.3)			石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36				
49	57	12次	2	河2	5G-2D4・5		土師器	小甕	B	13.0		(5.1)			石・長・チ・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					11/36				
49	58	12次	2	河2	5G-2E6		土師器	小甕	C	(13.0)		(1.7)			石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36				
49	59	12次	2	河2	5G-2D4		土師器	小甕	B	11.0		(4.5)			石・長・チ・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					9/36				
49	60	12次	2	河2	5G-2D10		土師器	小甕	B	(13.0)		(2.5)			石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36				炭化物
49	61	12次	2	河2	5G-2E6		土師器	小甕	A	13.0		(2.2)			石・長		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36				
49	62	12次	2	河2	5G-2D10		土師器	小甕	C	13.0		(1.9)			石・長		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36				
49	63	12次	2	河2	5G-2E6		土師器	小甕	A	10.0		(4.3)			石・長・チ・海		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36				
49	64	12次	2	河2	5G-2E6		土師器	小甕		5.6		(2.4)			石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					17/36				
49	65	12次	2	河2	5G-2D4		土師器	小甕		6.5		(2.9)			石・長・チ・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			13/36				
49	66	12次	2	河2	5G-2D5		土師器	鍋	B	(34.0)		(3.8)			石・長・雲・チ・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36				
49	67	12次	2	河2	5G-2D4		土師器	鍋	A	(38.0)		(3.3)			石・長・雲・赤・角		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ					2/36				
49	68	12次	2	河2	5G-2D10		土師器	鍋	A	(38.0)		(6.5)			石・長・雲・チ・赤・白		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ					2/36				
49	69	12次	2	河2	5G-2D4・5・10		土師器	鍋	B	33.0		(10.2)			石・長・雲・チ・赤・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ、平行タタキ	カキメ					12/36				No.73と同一個体?
49	70	12次	2	河2	5G-2D4		土師器	鍋	A	(36.0)		(6.7)			石・長・チ・赤		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	カキメ	カキメ					1/36				
50	71	12次	2	河2	5G-2D3		土師器	鍋	A	(34.0)		(4.3)			石・長・雲・チ・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36				
50	72	12次	2	河2	5G-2E12		土師器	鍋	A	(36.0)		(6.6)			石・長・チ・赤・白		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ					3/36				

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考	
			区	遺構名	グリッド					口径	底径	器高							外面		内面	底部	回転方向	口縁部	底部	外面		内面
																			カキメ、平行タタキ	ロクロナデ								
50	73	12次	2	河2	5G-2D5・10・2E6	1	土師器	鍋	B	37.0		(9.4)		石・長・雲・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ、平行タタキ	ロクロナデ			5/36				No.69と同一個体?		
50	74	12次	2	河2	5G-2D4・5・10	1	土師器	鍋	A	38.0		(9.5)		石・長・雲・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ、ハケメ			9/36						
50	75	12次	2	河2	5G-2E6	1	土師器	鍋	A	(38.0)		(4.3)		石・長・雲・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	カキメ	ロクロナデ			2/36						
50	76	12次	2	河2	5G-2D4	2	土師器	鍋	A	(38.0)		(4.5)		石・長・雲・赤・白・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ			2/36						
50	77	12次	2	河2	5G-2D4	3	黒色土器	無台碗	B2II	13.4	5.2	4.7	35	39	石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ケズリ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ	糸切り→ケズリ		8/36	31/36			底外面ヘラ記号「J」	
50	78	12次	2	河2	5G-2D4	3	黒色土器	無台碗	B2II	13.8	5.5	4.8	35	40	石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ→ケズリ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ	糸切り→ケズリ		13/36	15/36				
50	79	12次	2	河2	5G-2D4	1	黒色土器	無台碗	BII	14.0		(4.0)			石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ			11/36					
50	80	12次	2	河2	5G-2D4	1	黒色土器	無台碗	B2II	14.5	5.5	4.7	32	38	石・長・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ	糸切り→ケズリ		4/36	19/36				
50	81	12次	2	河2	5G-2D4	1・2	黒色土器	無台碗	BII	14.0		(3.7)			石・長		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ			4/36					
51	82	12次	2	河2	5G-2D5 5G-1C13・ 5G-1D22	Ⅶ	須恵器	無台杯	A2	12.5	8.0	3.5	28	64	石・長・白	阿賀北?	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7/36	9/36				
51	83	12次	2	河2	5G-2D4	3	須恵器	無台杯	B1	12.0	9.0	2.8	23	75	石・長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36	9/36				
51	84	12次	2	河2	5G-2D4	2	須恵器	無台杯	A2	13.0		(2.4)			石・長	小泊	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					
51	85	12次	2	河2	5G-2D4	2	須恵器	無台杯	B2	12.0	7.4	3.0	25	62	石・長・白	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		13/36	18/36				
51	86	12次	2	河2	5G-2E6	1	須恵器	無台杯	A2	(13.0)	(8.0)	2.8			石・長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		3/36	2/36				
51	87	12次	2	河2	5G-2E6	2	須恵器	無台杯	A2	12.0	7.0	2.9	24	58	石・長	小泊	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		1/36	20/36				
51	88	12次	2	河2	5G-2D4	3	須恵器	無台杯	A2	12.0	6.5	2.3	19	54	石・長	小泊	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	8/36	22/36				
51	89	12次	2	河2	5G-2E12		須恵器	無台杯	A2	12.0	7.0	2.9	24	58	石・長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7/36	9/36				
51	90	12次	2	河2	5G-2D4	2	須恵器	無台杯	B2	13.0		(2.5)			石・長・白	小泊	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36					
51	91	12次	2	河2	5G-2E6 5G-1C20	Ⅶ	須恵器	無台杯	B2	12.0		(2.8)			石・長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36					
51	92	12次	2	河2	5G-2E6	1	須恵器	無台杯			7.4	(2.4)			石・長・赤・海	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	20/36				底外面墨書	
51	93	12次	2	河2	5G-2D4・2E6	1	須恵器	有台杯	B?		7.8	(5.7)			石・長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		27/36					
51	94	12次	2	河2	5G-2D4 5G-2D10	1 1・2	須恵器	長頸瓶	A	13.0		(1.0)			長	小泊	灰 (7.5Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36					
51	95	12次	2	河2	5G-2D3	2	須恵器	長頸瓶	A	(10.0)		(4.6)			石・長	小泊	暗灰 (N3/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36					
51	96	12次	2	河2	5G-1D24		須恵器	長頸瓶	B		6.5	(9.1)			石・長	阿賀北	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	32/36	自然釉			水瓶の可能性あり	
51	97	12次	2	河2	5G-2E6・12	2	須恵器	長頸瓶	B			(7.4)			石・長	小泊	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ								
51	98	12次	2	河2	5G-2D4	1	須恵器	長頸瓶	A			(8.5)			長・赤・海	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ								
52	99	12次	2	河2	5G-2E6	1・2	須恵器	甕				(42.4)			長		灰 (5Y5/1)	還元	平行タタキ	同心円・平行当具痕								
52	100	12次	1	—	5F-4J16	Ⅶ	土師器	無台碗	B2II	12.8	5.4	3.2	25	42	石・長・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	27/36			底外面ヘラ記号「X」	
52	101	12次	1	—	5F-8G20	Ⅶ	土師器	無台碗	B3II	12.0	4.0	4.8	40	33	石・長・雲・角		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36				
52	102	12次	1	—	5F-4I20	Ⅶ	土師器	鍋	A	(40.0)		(8.8)			石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	カキメ→ケズリ	カキメ			1/36		スス			
53	103	12次	1	—	5G-2A3	Ⅶ	須恵器	無台杯	B1	13.0	9.0	3.5	27	69	長	小泊	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		16/36	17/36				
53	104	12次	1	—	5F-6I1	Ⅶ	須恵器	無台杯	A2	12.8	8.0	3.3	26	63	長	小泊	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7/36	10/36				
53	105	12次	1	—	5G-1A10・19	Ⅶ	須恵器	無台杯	A1	13.5	9.0	3.5	26	67	石・長	阿賀北	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	12/36	21/36				
53	106	12次	1	—	5F-6H20	Ⅶ	須恵器	無台杯	A2	11.5	6.8	3.0	26	59	長	小泊	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	23/36	36/36				
53	107	12次	1	—	5F-6H15・20	Ⅶ	須恵器	無台杯	A2	11.8	7.6	2.8	24	64	長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	11/36				
53	108	12次	1	—	5G-1A14	Ⅶ	須恵器	無台杯	B2	12.5	8.0	3.3	26	64	長	小泊	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		14/36	18/36				
53	109	12次	1	—	5F-4I20	Ⅶ	須恵器	無台杯	A2	12.0	7.0	3.0	25	58	長	小泊	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	19/36				
53	110	12次	1	—	5F-6H10	Ⅶ	須恵器	無台杯	B2	12.0	7.6	2.9	24	63	長	小泊	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		15/36	18/36				
53	111	12次	1	—	5F-4J16	Ⅶ	須恵器	無台杯	B2	12.4	7.5	3.1	25	60	長	小泊	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		11/36	13/36				
53	112	12次	1	—	5F-8H1	Ⅶ	須恵器	杯蓋		15.0		2.4	16		石・長・白	小泊	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ			12/36					
53	113	12次	1	—	5F-4I25	Ⅶ	須恵器	長頸瓶	A	9.4		(5.5)			石・長	小泊	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			12/36					

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考		
			区	遺構名	グリッド					口径	底径	器高							外 面		内 面		口縁部	底部	外面	内面			
																			ケズリ	ヘラ切り	ケズリ	ヘラ切り						底部	回転方向
53	114	12次	1	-	5F-4I25、3J18	Ⅶ	須恵器	長頸瓶	A		9.0	(5.6)			石・長・白	小泊	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り			20/36					
53	115	12次	1	-	5G-1A5	Ⅶ	須恵器	短頸壺	A	11.5		(5.6)			石・長	小泊	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ				5/36		自然軸			
53	116	12次	2	-	5G-1C20	Ⅶ	土師器	鍋	A	38.0		(7.0)			石・長・チ・赤・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ				4/36					
53	117	12次	2	-	5G-1D16	Ⅶ	土師器	鍋	A	(38.0)		(5.7)			石・長・雲・チ・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	カキメ	カキメ				3/36					
53	118	12次	2	-	5G-1D22	Ⅶ	黒色土器	無台碗	B2Ⅱ	15.4	6.2	5.5	36	40	石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ→ケズリ→ミガキ	ロクロナデ	糸切り→ケズリ			9/36	18/36				
53	119	12次	2	-	5G-1D22	Ⅶ	須恵器	無台杯	B3	12.0	6.5	3.5	29	54	石・長	新津	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	2/36	23/36					
53	120	12次	2	-	5G-2F22	Ⅶ	須恵器	無台杯	B2	12.0	7.5	3.2	27	63	石・長	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	9/36	17/36					
54	121	満目確認調査	575T				黒褐シルト	土師器	無台碗		5.4	(1.8)			長・チ		黄灰 (2.5Y4/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			8/36					
54	122	満目確認調査	575T				黒褐シルト	黒色土器	無台碗		6.4	(2.3)			石・長・チ・白		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ→ミガキ	糸切り→ケズリ→ミガキ			21/36					
54	123	満目確認調査	575T				黒褐シルト	土師器	小囊		5.9	(6.1)			長・雲・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36					
54	124	満目確認調査	577T	河			青灰砂	土師器	無台碗	B2Ⅱ	13.0	4.6	4.3	33	35	長・チ	土師器	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			6/36	18/36			
54	125	満目確認調査	577T	河			青灰砂	土師器	無台碗	BⅡ	13.7		(4.1)			長・白		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			6/36				
54	126	満目確認調査	577T	河			青灰砂	土師器	無台碗	B1Ⅱ	11.2	5.0	3.4	30	45	長・チ・白		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36			内面剥離	
54	127	満目確認調査	577T	河			青灰砂	土師器	無台碗	B2Ⅱ	12.4	4.7	3.7	30	38	長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			6/36	34/36		内面剥離	
54	128	満目確認調査	577T	河			青灰砂	土師器	無台碗	B2Ⅰ	14.4	5.4	5.1	35	38	長・チ・白		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36			底外面ヘラ記号「X」	
54	129	満目確認調査	577T	河			青灰砂	土師器	鍋	A	(40.0)		(5.6)		石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ				2/36					
54	130	満目確認調査	577T	河			青灰砂	黒色土器	無台碗	B2Ⅱ	15.2	6.2	5.6	37	41	長・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ	糸切り→ケズリ			5/36	21/36			
54	131	満目確認調査	577T	河			青灰砂	須恵器	無台杯	A2	12.2	6.8	3.0	25	56	石・長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り			3/36	18/36			底外面墨書
54	132	満目確認調査	577T	河			青灰砂	須恵器	無台杯	A2	12.2		(2.5)			長・白	小泊	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				8/36				
55	138	15次		SK8	8G-1H19		土師器	無台碗	BⅠ	15.2		(3.0)			石・長・雲・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36		スス	スス		
55	139	15次		SK8	8G-1H19	Ⅶ	土師器	無台碗			5.4	(1.9)			石・長・チ		にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り？ケズリ			23/36		スス			
55	140	15次		SK8	8G-1H19		須恵器	無台杯	B2	12.1	7.6	2.9	24	63	長・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	23/36	36/36					
55	141	15次		SK19	8G-1H15		土師器	小囊	A	(11.0)		(4.3)			石・長・角		淡橙 (5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36		炭化物、スス	炭化物		
55	142	15次		SK19	8G-1H15 8G-1H19	Ⅶ	須恵器	無台杯	A2	12.6	7.0	3.3	26	56	石・長・チ・白	阿賀北	灰 (7.5Y6/1)	酸化還元半々	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			5/36	16/36				
55	143	15次		SK103	8G-7F1		土師器	無台碗	B3Ⅱ	12.3	4.9	4.6	37	40	石・長・角		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	32/36	36/36	スス	スス			
55	144	15次		SK111	8G-8F21		土師器	小囊	B	(10.8)		(3.4)			石・長・角		淡橙 (5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36				風化著しい	
55	145	15次		SX5	7G-9J4 7G-10I24	Ⅶ	須恵器	囊				(6.8)			石・長・チ・白	阿賀北	オリブ灰 (5GY5/1)	還元	平行タタキ、ヘラナデ	平行当具痕									
55	146	15次		SX25	8G-2H4		須恵器	無台杯	B2	12.4	7.2	2.9	23	58	石・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	3/36	17/36					
55	147	15次		SX25	8G-2H4		須恵器	無台杯	A2	12.6	7.6	3.0	24	60	長・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			8/36	9/36				
55	148	15次		SX25	8G-2H4		須恵器	無台杯	A	12.4		(2.3)			石・長・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36					
55	149	15次		SX25	8G-2H4		須恵器	囊	B			(21.8)			石・長・白	阿賀北	灰 (N5/0)	還元	平行タタキ→カキメ	同心円当具痕									
56	150	15次		SX115	8G-8D19 8G-8D24		土師器	小囊	B	14.0		(8.0)			石・角		灰白 (10YR8/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36		口縁部スス付着	スス付着		
56	151	15次		SX115	8G-8D19		土師器	小囊	B	(12.0)		(4.3)			石・長		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ				3/36		スス	炭化物		
56	152	15次		SD1	8G-1I21		土師器	無台碗	B1Ⅱ	12.6	5.8	4.0	32	46	石・長・海		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ロクロミガキ	ロクロナデ→ロクロミガキ	不明			1/36	26/36			全面ロクロミガキ調整 SD4 接合	

図版No.	報告No.	調査年度	出土位置			層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考	
			区	遺構名	グリッド					口径	底径	器高							外面		内面		口縁部	底部	外面	内面		
																			回転方向	底面	回転方向	底面						
56	153	15次	SD1	8G-1I21		土師器	小甕	B	(14.4)		(4.3)			石・長・雲		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36		スス		炭化物		
56	154	15次	SD1	8G-1H25		土師器	小甕	B	(13.6)		(1.8)			石・長・角		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36				炭化物		
56	155	15次	SD1	8G-1H25		土師器	小甕	A	(13.6)		(1.3)			石・長		灰白 (2.5Y8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36						
56	156	15次	SD1	8G-1I21		須志器	無台杯	A2	12.6	7.6	3.4	27	60	石・長	小泊	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		10/36	11/36					
56	157	15次	SD1	8G-1I21 8G-1I25		須志器	無台杯	A2	12.0	6.7	2.8	23	56	石・長・海	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	35/36	36/36					
56	158	15次	SD2	8G-1I16		土師器	無台碗			5.6	(1.4)			石・長・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		11/36					
56	159	15次	SD2	8G-1I16	5	黒色土器	無台碗			7.1	(1.4)			石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ→ケズリ→ヘラミガキ	ロクロナデ→ヘラミガキ	ケズリ			5/36					
56	160	15次	SD2	8G-1I16		土師器	長甕	A	(20.2)		(28.5)			石・赤・角		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	カキメ→平行タタキ	ハケメ、カキメ、平行当具痕			3/36						
56	161	15次	SD2	8G-1H25		土師器	鍋	A	(40.0)		(4.8)			石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36						
56	162	15次	SD2	8G-1I16	1	須志器	無台杯	B2	12.1	6.8	3.1	26	56	石・長	小泊	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	16/36	24/36				SD4 接合	
56	163	15次	SD2	8G-1I16		須志器	無台杯	A2	12.8		(2.5)			長・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36						
56	164	15次	SD2	8G-1I16		須志器	無台杯	B2	12.6		(3.4)			長・チ	小泊	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			9/36					SD4 接合	
56	165	15次	SD3	8G-1H14		土師器	無台碗	B1	15.2		(4.8)			石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36		スス	スス			
56	166	15次	SD3	8G-1H20		土師器	無台碗				(2.5)			石・長・角		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36						
56	167	15次	SD3	8G-1H14 8G-1H19・20	1 VII	土師器	無台碗			5.0	(2.4)			石・長・角・海		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		15/36					
56	168	15次	SD3	8G-1H14		土師器	小甕			7.4	(2.6)			石・長・角		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			9/36	スス				
56	169	15次	SD3	8G-1H20	1 VII	須志器	無台杯	B2	12.4	6.7	3.2	26	54	長	小泊	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	左		10/36	21/36				SD4 接合	
56	170	15次	SD3	8G-1H20	1	須志器	無台杯	A2	12.4		(2.6)			白	小泊	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36						
56	171	15次	SD3	8G-1H20		須志器	甕				(3.5)			石・長	新津	灰 (N4/0)	還元	平行タタキ→カキメ	同心円当具痕									
57	172	15次	SD4	8G-1I7	1・VII	土師器	無台碗	B2II	12.2	4.4	3.8	31	36	石・長・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		5/36	20/36					
57	173	15次	SD4	8G-1H25		土師器	無台碗	B3II	12.3	4.8	4.5	37	39	雲・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		13/36	36/36					
57	174	15次	SD4	8G-1H25		土師器	無台碗	A2 I	15.0	5.4	4.3	29	36	石・長		橙 (2.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		6/36	9/36	スス、コゲ	スス、コゲ			
57	175	15次	SD4	8G-1I21	1	土師器	無台碗	B2 I	15.5	5.5	5.3	34	35	石・長・雲		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	1/36	36/36				風化著しい	
57	176	15次	SD4	8G-1I2	1	土師器	無台碗	B II	(11.6)		(3.6)			石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		スス	スス			
57	177	15次	SD4	8G-2H5	1	土師器	無台碗	B II	(14.0)		(2.3)			長・海		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36						
57	178	15次	SD4	8G-1I11		土師器	無台碗			6.0	(1.4)			石・長・海		淡橙 (5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右							
57	179	15次	SD4	8G-1I7	VII	土師器	無台碗			5.0	(0.9)			石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		11/36					
57	180	15次	SD4	8G-1I11		土師器	長甕	B	(22.0)		(5.2)			石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ			3/36		スス				
57	181	15次	SD4	8G-1I16	1	土師器	長甕	B	21.6		(13.1)			石・長・白		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ			4/36		スス				
57	182	15次	SD4	8G-1I7 8G-1I11・16	VII	土師器	長甕				(10.4)			石・長・角		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	平行タタキ	平行当具痕									
57	183	15次	SD4	8G-1I11	2	土師器	長甕	B	(21.0)		(8.5)			石・長・チ・角		明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36						
57	184	15次	SD4	8G-1I2		土師器	長甕	B	21.0		(8.0)			石・長・角		灰白 (2.5Y8/1)	酸化	カキメ	カキメ			6/36						
57	185	15次	SD4	8G-1I21 8G-1H25		土師器	小甕	B	(13.2)		(7.0)			石・長・海		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ			14/36				炭化物、スス	炭化物	
57	186	15次	SD4	8G-1I11		土師器	小甕	B	(13.8)		(3.0)			石・長・角		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36				炭化物、スス	炭化物	
57	187	15次	SD4	8G-1I21	1	土師器	小甕	B	14.0		(6.8)			石・長・角・海		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ			7/36				コゲ、スス	口縁部コゲ、スス	
57	188	15次	SD4	8G-1I21・1H25 8G-2H5	VII	土師器	小甕			6.4	(3.8)			石・長・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36		スス、コゲ	炭化物？		
57	189	15次	SD4	8G-2H5	1	土師器	小甕			6.2	(2.7)			石・長・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36	スス				
57	190	15次	SD4	8G-1I7	1	黒色土器	無台碗			5.3	(1.3)			石・長		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ→ケズリ→ヘラミガキ	ロクロナデ→ヘラミガキ	ケズリ			13/36	スス				
57	191	15次	SD4	8G-1I21	1	土師器	鍋	A	(40.0)		(3.3)			雲・白・角		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ			2/36						

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考		
			区	遺構名	グリッド					口径	底径	器高							外 面		内 面		底部	回転方向	口縁部	底部		外面	内面
																			カキメ、平行タタキ	カキメ、平行当具痕	カキメ、平行タタキ	カキメ→同心円当具痕							
58	192	15次		SD4	8G-117 8G-112	1 Ⅶ	土師器	鍋	A	40.4		(10.3)			石・長・角		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	カキメ、平行タタキ	カキメ、平行当具痕			8/36		スス				
58	193	15次		SD4	8G-2H5	2	土師器	鍋	A	39.9		(14.3)			石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	カキメ、平行タタキ	カキメ→同心円当具痕			10/36		スス				
58	194	15次		SD4	8G-1I11		須恵器	無台杯	A2	12.0	6.4	2.9	24	53	石・長・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		3/36	15/36			底外面墨書		
58	195	15次		SD4	8G-1H25		須恵器	無台杯	A2	12.2	6.8	2.9	24	56	石・長・海	小泊	明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	9/36			底外面墨書		
58	196	15次		SD4	8G-1I21 8G-1H19・20	1 Ⅶ	須恵器	無台杯	A2	12.9	7.9	3.3	26	61	長・白	小泊	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	9/36	35/36					
58	197	15次		SD4	8G-1I16	1	須恵器	無台杯	A2	12.7	7.4	3.0	24	58	石・長	小泊	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	34/36	36/36					
58	198	15次		SD4	8G-1I21	1	須恵器	無台杯	B2	13.1	7.6	2.8	21	58	長・赤・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	21/36	36/36					
58	199	15次		SD4	8G-1I21	2	須恵器	無台杯	A2	12.0	6.0	3.2	27	50	石・長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	11/36	11/36					
58	200	15次		SD4	8G-1I11		須恵器	無台杯	A2	12.3	6.9	3.1	25	56	長	小泊	青灰 (5BG6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	27/36	35/36					
58	201	15次		SD4	8G-1I16	1	須恵器	無台杯	B2	12.2	7.6	3.0	25	62	長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	30/36	36/36					
58	202	15次		SD4	8G-2I1 8G-1I21	1	須恵器	無台杯	B2	12.4	6.8	3.1	25	55	石・長	阿賀北	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	32/36	36/36			SD1 接合		
59	203	15次		SD4	8G-1I11		須恵器	無台杯	B2	12.6	7.5	3.0	24	60	長・白	小泊	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	2/36	22/36					
59	204	15次		SD4	8G-1I7 8G-1I2	Ⅶ	須恵器	無台杯	B2	12.0	7.0	3.0	25	58	長・白	小泊	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	7/36	21/36	タール?	タール?			
59	205	15次		SD4	8G-1I21	1	須恵器	無台杯	B2	12.6	7.8	3.0	24	62	長	小泊	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	17/36	19/36					
59	206	15次		SD4	8G-1I7	1	須恵器	無台杯	A2	13.0	7.5	3.0	23	58	石・長	小泊	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7/36	13/36					
59	207	15次		SD4	8G-1I11		須恵器	無台杯	A	(12.4)	(7.0)	3.0			長・白	小泊	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	12/36					
59	208	15次		SD4	8G-2H5	1	須恵器	無台杯	A	11.4		(3.0)			長・海	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36						
59	209	15次		SD4	8G-1H25		須恵器	無台杯	A	12.6		(2.4)			石・長・海	小泊	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			10/36						
59	210	15次		SD4	8G-1I16	1	須恵器	無台杯	A2	13.0		(2.9)			石・長	小泊	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36						
59	211	15次		SD4	8G-1H25	1	須恵器	無台杯			5.8	(1.1)			長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				18/36					
59	212	15次		SD4	8G-1I12		須恵器	無台杯	A	11.5		(3.5)			長	阿賀北	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36						
59	213	15次		SD4	8G-1I7 8G-1I11	Ⅶ	須恵器	杯蓋		(14.6)		(1.8)			石・長・白	小泊	灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ			3/36						
59	214	15次		SD4	8G-1I11 8G-1I16	1	須恵器	有台杯	B	15.0	8.3	7.5	50	55	石・長	阿賀北	灰白 (5Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7/36	13/36			小泊類似		
59	215	15次		SD4	8G-1I11	2	須恵器	有台杯	A	13.6	7.3	6.3	46	54	石・長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		12/36	20/36					
59	216	15次		SD4	8G-2H5 8G-1I16・1H25	2 Ⅶ	須恵器	有台杯	B	14.0	7.0	6.8	49	50	石・長・白	小泊	青灰 (5PB6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	32/36	36/36					
59	217	15次		SD4	8G-1I16	1	須恵器	長頸瓶	A		9.6	(11.0)			石・長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ、カキメ、ケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り			36/36					
59	218	15次		SD4	8G-1H25		須恵器	長頸瓶	B			(4.9)			石・長	小泊	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ									
59	219	15次		SD4	8G-1I16 8G-1H13・18・21 8G-1I11	1 Ⅶ	須恵器	横瓶		11.2		25.5			石・長	新津	紫灰 (5RP5/1)	還元	平行タタキ→カキメ	同心円当具痕、ハケメ			12/36						
60	220	15次		SD7	8G-1I12		須恵器	無台杯	B2	12.6	7.6	2.8	22	60	石・長・海	小泊	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		10/36	18/36					
60	221	15次		SD7	8G-1I7		土師器	鍋	A			(6.5)			石・長・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ					スス				
60	222	15次		SD9	8G-1H18 8G-1I19	Ⅶ	須恵器	無台杯	B2	12.0	7.0	3.2	27	58	石・長	阿賀北	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	7/36	31/36			小泊類似		
60	223	15次		SD22	8G-1H13		土師器	無台碗	B2 I	16.0	5.4	4.6	29	34	石・長・角		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		10/36	18/36					
60	224	15次		SD22	8G-1H14		土師器	無台碗	B	(17.0)		(3.0)			石		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36						
60	225	15次		SD22	8G-1H13・14		土師器	小甕	A	(10.8)		(10.9)			石・長・角・海		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		スス	炭化物			
60	226	15次		SD50	8G-3H14		土師器	無台碗	B1 II	13.2	5.8	3.9	30	44	赤・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	20/36	36/36					
60	227	15次		SD50	8G-3H9	1	土師器	無台碗	B1 II	12.4	6.0	4.1	33	48	長・雲・角		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	10/36	21/36					
60	228	15次		SD50	8G-3H9		土師器	無台碗	B	(10.8)		(2.2)			石・長・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36						
60	229	15次		SD50	8G-3H9		須恵器	無台杯	B2	12.2		(3.0)			長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			8.5/36						
60	230	15次		SD50	8G-3H9		須恵器	甕	B			(9.1)			石・長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	平行タタキ	同心円当具痕									
60	231	15次		SD51	8G-3G25		土師器	無台碗	B3 II	11.4	5.2	4.0	35	46	石・長		灰白 (10YR8/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	29/36					

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	種別	器種	分類	法量 (cm)				器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考	
			区	遺構名	グリッド					口径	底径	器高	31							33	手 法				口縁部	底部	外面		内面
																					外面	内面	底部	回転方向					
60	232	15次	SD51	8G-3G20		土師器	無台碗	B2II	12.2	4.0	3.8	31	33	石・長・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36						
60	233	15次	SD51	8G-3G25		土師器	無台碗	B1II	13.3	5.9	3.8	29	44	石・長・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		11/36	36/36			器面剥落			
60	234	15次	SD51	8G-8G25		土師器	長囊	B	20.8		(18.0)			石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ→平行タタキ→ハケメ	同心円当具痕→ハケメ			24/36		スス					
61	235	15次	SD51	8G-3G25		土師器	小囊			6.2	(4.9)			石・長・角		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右		31/36	スス					
61	236	15次	SD51	8G-3G20		黒色土器	無台碗	B2II	16.2	6.8	6.1	38	42	石・長		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ→ケズリ→ヘラミガキ	ロクロナデ→ヘラミガキ	ケズリ	左	6/36	36/36						
61	237	15次	SD51	8G-3G25		須恵器	無台杯	B2	11.4		(2.7)			石・長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6.5/36							
61	238	15次	SD51	8G-3G24		須恵器	無台杯	A	(11.2)		(2.4)			石・長	小泊?	灰白 (2.5Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36							
61	239	15次	SD51	8G-3G19		須恵器	長頸瓶	A		11.6	(18.4)			石・長	阿賀北	灰白 (N5/0)	還元	ロクロナデ→底部ケズリ	ロクロナデ	不明			36/36						
61	240	15次	SD58	8G-6F3		須恵器	無台杯	A3	11.2	6.0	3.2	29	54	石・長・海	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	10/36			SD80 接合			
61	241	15次	SD64	8G-4G4		土師器	小囊			6.0	(1.7)			石・長・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36	スス、コゲ					
61	242	15次	SD66	8G-6F2		土師器	長囊	A			(2.1)			石・長・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					スス					
61	243	15次	SD70	8G-7E10		土師器	小囊	B	(13.6)		(1.9)			石・長		淡赤橙 (2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		炭化物	炭化物				
61	244	15次	SD70	8G-7E15		土師器	長囊	A	(22.6)		(2.5)			石・長・角		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		スス					
61	245	15次	SD70	8G-7E14		土師器	小囊				(1.8)			石・長・角		灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		10/36							
61	246	15次	SD70	8G-7E14		須恵器	無台杯			7.6	(1.2)			石・長	阿賀北	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		8/36							
61	247	15次	SD71	8G-7E14	4	土師器	小囊	C	(14.2)		(1.5)			石・長		淡赤橙 (2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36							
61	248	15次	SD71	8G-7E14 8G-7E24	VI	黒色土器	杯		(18.5)		(4.4)			石・長・雲		灰白 (10YR8/2)	酸化	ヘラミガキ	ヘラミガキ				2/36						
61	249	15次	SD71	8G-7E19		土師器	長囊	A			(2.4)			石・長		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、カキメ										
61	250	15次	SD71	8G-7E14		土師器	鍋	A			(5.2)			石・長・角		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	カキメ	カキメ?										
61	251	15次	SD76	8G-5G11		土師器	長囊	A			(3.8)			石・長・雲・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ										
61	252	15次	SD79	8G-6F4		土師器	無台碗	A1II	12.7	6.0	3.2	25	47	石・長		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	24/36	スス	スス				
61	253	15次	SD79	8G-6F4		須恵器	長頸瓶	A	(11.2)		(1.7)			石・長	阿賀北	黒 (N2/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36							
61	254	15次	SD79	8G-6F4		土師器	長囊	A	20.0		(6.0)			石・長		橙 (5YR7/8)	酸化	ハケメ	ロクロナデ			6/36							
61	255	15次	SD79	8G-6F4		土師器	鍋	A			(6.6)			石・長・角		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	カキメ	ロクロナデ					スス	黒班?				
61	256	15次	SD79	8G-6F4 8G-6F3	VII	須恵器	無台杯	A2	11.8	6.7	3.3	28	57	石・長	小泊	青灰 (5B6/1)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	20/36	21/36						
61	257	15次	SD79	8G-5F24 8G-6F4	VII	須恵器	無台杯	B2	12.6	7.7	2.7	21	61	石・長	小泊	明オリブ灰 (2.5GY7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	21/36	36/36						
61	258	15次	SD79	8G-6F4		須恵器	無台杯			7.0	(0.8)			白	小泊	灰白 (10Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5/36				底外面墨書			
62	259	15次	SD79	8G-6F4		須恵器	無台杯	A2	12.6	7.3	3.6	29	58	石・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	17/36	23/36			底外面墨書			
62	260	15次	SD80	8G-6F3		須恵器	無台杯	B2	12.6	7.6	3.1	25	60	石・長・海	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	15/36						
62	261	15次	SD80	8G-6F3	1	須恵器	無台杯	B	(12.6)		(2.2)			石・長	小泊	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36							
62	262	15次	SD81	8G-6F8		土師器	長囊	A	(20.0)		(4.3)			石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/4)		ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ			5/36		コゲ	コゲ				
62	263	15次	SD81	8G-6F8		土師器	小囊	C	(12.0)		(4.7)			石・長・角		橙 (2.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36				器面剥落著しい			
62	264	15次	SD81	8G-6F3 8G-5F23・6F3	2 VII	須恵器	無台杯	A2	11.8	7.0	2.9	25	59	石・長	小泊	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	5/36	26/36						
62	265	15次	SD81	8G-6F8		須恵器	無台杯	A	(12.0)	6.8	3.3			石・長・海	小泊	青灰 (5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		2/36	5/36						
62	266	15次	SD81	8G-5F22		須恵器	杯蓋		13.8		2.6			石・長	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		2.5/36				墨痕			
62	267	15次	SD93	8G-7E24		土師器	無台碗	B3I	14.1	6.5	5.9	42	46	石・長・雲		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ→ロクロナデ→ヘラミガキ	ロクロナデ→ヘラミガキ			6/36	36/36						
62	268	15次	SD93	8G-7E24		土師器	小囊	C	13.0		(5.0)			石・長		灰白 (2.5Y7/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36		コゲ	炭化物				
62	269	15次	SD93	8G-7E24		土師器	長囊	A	(20.0)		(9.0)			石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ			3/36		コゲ、スス		外面ヘラ記号「×」			
62	270	15次	SD93	8G-7E24		土師器	長囊				(6.1)			石・長・角		淡橙 (5YR8/3)	酸化	平行タタキ	同心円当具痕→ハケメ										
62	271	15次	SD93	8G-7E24		須恵器	無台杯	B	12.0		(2.8)			長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			18/36							
62	272	15次	SD93	8G-7E24		須恵器	無台杯			7.0				石・長・白	小泊	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		33/36			底外面墨書			
62	273	15次	SD100	8G-6F2		須恵器	無台杯	B	12.4		(3.3)			石・長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36				底外面墨書			
62	274	15次	SD104	8G-7E10		須恵器	無台杯			(7.2)	(0.7)			長・白	小泊	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			3/36			底外面墨書			

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考		
			区	遺構名	グリッド					口径	底径	器高							外 面		内 面		口縁部	底部	回転方向	外面		内面	
																			外面	内面	底部	回転方向							口縁部
62	275	15 次		SD105	8G-8E12 8G-8E3・7・12 8G-7E15	VI VII	須恵器	甕	A	(36.4)		(7.0)		石・長	新津	灰白 (N7/0)	還元	平行タタキ→カキメ	同心円当具痕→ハケメ					5/36					
62	276	15 次		SD107	8G-9D5		土師器	無台碗	B	10.3		(2.6)		石・長		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36					
62	277	15 次		SD107	8G-8D25 8G-8D25・9D5	VI	土師器	長甕	A	20.0		(5.0)		石・長・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ					8/36			SK117 接合		
62	278	15 次		SD107	8G-9D5 8G-9E1		土師器	長甕	B	21.0		(1.5)		石・長・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					6/36	スス				
63	279	15 次		SD108	8G-9D5		土師器	長甕	A	(19.6)		(6.0)		石・長・角		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ					3/36					
63	280	15 次		SD108	8G-9D5		土師器	小甕			5.0	(5.1)		石・長・角		橙 (2.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			36/36	スス				
63	281	15 次		SD108	8G-9D5		土師器	鍋	A	(40.8)		(6.2)		石・長・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→ナデ?					1/36					
63	282	15 次		Pit86	8G-6F4		須恵器	無台杯	A2	12.6	7.6	3.5	28	60	長・海	小泊	青灰 (10BG6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り				6.5/36				
63	283	15 次		Pit86	8G-6F4		須恵器	無台杯			6.6	(0.6)		白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り				7/36			底外面墨書		
63	284	15 次		Pit86	8G-6F4		須恵器	無台杯						石・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り							底外面墨書		
63	285	15 次		Pit90	8G-6F3		須恵器	無台杯			7.5	(0.8)		石・長・白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り					10/36			底外面墨書	
63	286	15 次		Pit92	8G-6F4		土師器	小甕	A	(12.4)		(2.2)		石・長		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36	スス	炭化物			
63	287	15 次		Pit92	8G-6F4		土師器	鍋	A			(7.8)		石・長・角		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ→カキメケズリ?	ロクロナデ							スス?	コゲ?		
63	288	15 次		Pit97	8G-6F13		須恵器	無台杯			8.6	(0.4)		石・長・白	小泊	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り					6/36			底外面墨書	
63	289	15 次		Pit102	8G-6F22		須恵器	無台杯	A	(13.0)		(2.3)		石・長	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					5.5/36					
63	290	15 次		-	8G-6F4	VII	土師器	無台碗	A1II	13.2	5.6	4.0	30	42	長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		7/36	33/36			器面剥落著しい	
63	291	15 次		-	8G-1H13	VII	土師器	無台碗	B2II	12.2	3.8	4.1	34	31	石・長・海		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		11/36	36/36	スス			
63	292	15 次		-	8G-6F3	VII	土師器	無台碗	B2II	12.6	4.4	3.4	27	35	石・長・海		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		15/36	20/36				
63	293	15 次		-	8G-1I11	VII	土師器	無台碗	B2II	13.4	4.8	4.1	31	36	石・長・角・海		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		2/36	8/36				
63	294	15 次		-	8G-9D9	VII	土師器	無台碗	B	(11.4)		(2.6)		石・長		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36					
63	295	15 次		-	8G-5F24	VII	土師器	無台碗	B	14.5		(3.5)		石・長・雲		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ→ヘラミガキ					10/36			スス		
63	296	15 次		-	8G-3H3	VII	土師器	無台碗	B	(16.0)		(4.4)		石・長		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ロクロミガキ	ロクロナデ→ヘラミガキ?					5.5/36			器面剥落著しい		
63	297	15 次		-	8G-9D5・9	VI	土師器	無台碗			5.0	(2.2)		石・長		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				24/36					
63	298	15 次		-	8G-3G25 8G-4G8	VII	土師器	長甕	A	20.0		(6.5)		石・長・角		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ					7/36					
64	299	15 次		-	8G-1I16	VII	土師器	長甕	B	(17.0)		(10.2)		石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ					3/36	スス?				
64	300	15 次		-	7G-10I19	VII	土師器	長甕	A	(21.4)		(7.2)		石・長・雲		淡橙 (5YR8/3)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ					5/36				風化著しい	
64	301	15 次		-	8G-1H20	VII	土師器	長甕	C	(20.0)		(10.0)		石・長・角		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ					3/36			コゲ, スス		
64	302	15 次		-	8G-6F4	VII	土師器	長甕	B	(20.2)		(7.1)		石・長		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ?					4/36				器面剥落著しい	
64	303	15 次		-	8G-7E1	VII	土師器	長甕	A	(18.0)		(3.4)		石・長・角		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36					
64	304	15 次		-	8G-1H13 8G-1H19	VII	土師器	長甕	B	(21.0)		(8.1)		石・長・角・海		明褐色 (7.5YR7/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ					6/36		コゲ	コゲ		
64	305	15 次		-	8G-6F17	VII	土師器	長甕	A	(20.2)		(3.8)		石・長		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2.5/36					
64	306	15 次		-	8G-7E5 8G-7E15	VII	土師器	長甕	B	(20.2)		(7.0)		石・長・角		淡橙 (5YR8/4)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ					2/36				風化著しい	
64	307	15 次		-	8G-5F15	VII	土師器	長甕				(8.1)		石・長・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	平行タタキ	同心円当具痕→ヘラナデ										
64	308	15 次		-	8G-1I7	VII	土師器	小甕	A	13.2		(4.1)		石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					6/36			炭化物		
64	309	15 次		-	8G-6F2	VII	土師器	小甕	A	(12.0)		(4.0)		石・長		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36	スス				
64	310	15 次		-	8G-6F4	VII	土師器	小甕	B	(15.2)		(2.8)		石・長		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36		スス, コゲ	炭化物		
64	311	15 次		-	8G-1H20	VII	土師器	小甕	A	(12.3)		(5.5)		石・長・角		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					8/36		スス	炭化物		
64	312	15 次		-	8G-3G25	VII	土師器	小甕			6.6	(4.8)		石・長・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						25/36	スス	コゲ		
64	313	15 次		-	8G-2H9	VII	土師器	小甕			(5.6)	(2.9)		石・長・角		灰白 (2.5Y7/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			18/36					
64	314	15 次		-	8G-6F17	VII	土師器	小甕			4.4	(2.5)		石・長・角・海		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			36/36					
64	315	15 次		-	8G-3H2	VII	土師器	無頸壺		5.2		(3.0)		石・長		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					7/36					

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考			
			区	遺構名	グリッド					口径	底径	器高							手 法				口縁部	底部	外面	内面				
																			外面	内面	底部	回転方向								
64	316	15次	-		8G-7E15	VII	土師器	無頸壺			3.4	(4.0)			石・長		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					8/36					
64	317	15次	-		8G-1H14	VII	土師器	鍋	A	(37.0)		(5.4)			石・長・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ					4/36					
65	318	15次	-		8G-1H14・19	VII	土師器	鍋	A	(30.8)		(9.1)			石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ→平行タタキ	カキメ→ハケメ					4/36		スス、コゲ、黒斑			
65	319	15次	-		8G-6F21	VII	土師器	鍋	B	(33.6)		(7.1)			石・長・角		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ→ハケメ、カキメ	ロクロナデ→カキメ					2.5/36		スス、コゲ	スス、コゲ		
65	320	15次	-		8G-6F17	VII	土師器	鍋	A	(41.4)		(10.7)			石・長・角		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	カキメ→平行タタキ→ハラケズリ	カキメ→平行当具痕					4/36		スス			
65	321	15次	-		8G-1H20	VII	黒色土器	無台碗	B	(13.2)		(2.7)			石・長・角		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ→ヨコハラミガキ	ロクロナデ→ヨコハラミガキ					3.5/36					
65	322	15次	-		8G-1I2・7	VII	黒色土器	無台碗	B	(15.4)		(3.3)			石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ハラミガキ	ロクロナデ→ハラミガキ					4/36					
65	323	15次	-		8G-1I7	VII	黒色土器	無台碗	B	(12.8)		(4.0)			石・長		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ→ハラミガキ	ロクロナデ→ハラミガキ					2/36					
65	324	15次	-		8G-8E2	VII	黒色土器	無台碗			5.4	(1.6)			石・長・角		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ハラミガキ?						7/36				
65	325	15次	-		7G-9I23	VII	黒色土器	無台碗			2.8	(0.6)			石・長		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ケズリ	ハラミガキ?						6/36				
65	326	15次	-		8G-5F19	VII	須恵器	無台杯	B2	12.6	6.8	3.2	25	54	石・長	阿賀北	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	左	11.5/36	21/36					小泊類似	
65	327	15次	-		8G-5F24	VII	須恵器	無台杯	A2	12.4	6.8	3.0	24	55	石・長	阿賀北	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		7/36	9/36					小泊類似	
65	328	15次	-		8G-1H20, 1I21	VII	須恵器	無台杯	B2	12.4	7.4	2.8	23	60	石・長・海		灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	右	15.5/36	27/36						
65	329	15次	-		8G-7E24	VI	須恵器	無台杯	A2	13.0	7.0	3.3	25	54	石・長・白	小泊	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	左	6/36	31/36					底外面墨書	
65	330	15次	-		8G-5F10	VII	須恵器	無台杯			7.0	(0.8)			白	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り					4/36			底外面墨書	
65	331	15次	-		8G-8E12	VII	須恵器	無台杯	A1	10.8	8.2	3.1	29	76	長・海	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		1/36	8/36						
65	332	15次	-		8G-6F12	VII	須恵器	無台杯	A2	12.0	7.5	3.3	28	63	長・海	小泊	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		9/36	5/36						
65	333	15次	-		8G-1I7	VII	須恵器	無台杯	A2	12.0	7.0	3.2	27	58	長・海	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		13/36	16/36						
66	334	15次	-		8G-1H15・19	VII	須恵器	無台杯	A1	13.0	8.6	3.0	23	66	長	小泊	青灰 (10B6G/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		12/36	17/36						
66	335	15次	-		8G-3G24	VII	須恵器	無台杯	A2	12.4	7.8	3.2	26	63	石・長	小泊?	灰白 (2.5Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		6/36	36/36						
66	336	15次	-		8G-1H20	VII	須恵器	無台杯	A1	12.6	8.6	2.9	23	68	石・長	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		6/36	10/36						
66	337	15次	-		7G-10I14	VII	須恵器	無台杯	A2	11.8	6.6	2.8	24	56	長・海	小泊	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		10.5/36	20/36						
66	338	15次	-		8G-5G11・17	VII	須恵器	無台杯	A	12.8		(2.8)			長	小泊	青灰 (5B6G/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					8/36					
66	339	15次	-		8G-6F12・17・21 表探	VII	須恵器	杯蓋		14.0		3.5	25		長	小泊	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ					17/36					
66	340	15次	-		8G-6F12・17	VII	須恵器	杯蓋		15.0		(2.9)			石・長	小泊	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					14/36					
66	341	15次	-		7G-10I19	VII	須恵器	杯蓋		14.0		(1.9)			石・海	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					7/36					
66	342	15次	-		8G-4G8、 3G25	VII	須恵器	有台杯	A	12.4	7.0	5.8	47	56	石・長・海	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36	17/36				
66	343	15次	-		8G-1H15	VII	須恵器	有台杯		(11.4)		(3.9)			石・長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36					
66	344	15次	-		8G-8E4	VII	須恵器	有台杯			6.4	(1.8)			石・長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り				10/36					
66	345	15次	-		8G-1H15・20	VII	須恵器	有台杯			6.0	(1.3)			石・長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り				16/36					
66	346	15次	-		8G-8D25	VI	須恵器	長頸瓶	A			(4.4)			石・長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ										
66	347	15次	-		7G-9I23、 10I23	VII	須恵器	長頸瓶	A		7.6	(10.0)			石・長	小泊	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り?				36/36					
66	348	15次	-		8G-6F4	VII	須恵器	横瓶		10.8		(3.4)			石・長	小泊?	灰白 (N8/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					11/36					
66	349	15次	-		8G-9D14	VII	須恵器	横瓶		(15.6)		(4.7)			石・長	阿賀北?	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ→平行タタキ	ロクロナデ					4/36					
66	350	15次	-		7G-9I10	VII	須恵器	甕	A			(6.1)			石・長	阿賀北	青灰 (5B6/1)	還元	平行タタキ→カキメ	同心円当具痕										
68	359	16次	1	-	10I-5A14	VII	土師器	無台碗	B	(11.2)		(2.6)			石・長・角		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36					
68	360	16次	1	-	10I-3B10	VII	土師器	長甕	C	(21.0)		(2.3)			石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2.5/36					
68	361	16次	1	-	10I-4B2	VII	須恵器	無台杯	A1	11.6	8.0	3.2	28	69	長	小泊	青灰 (5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		2/36	8/36						
68	362	16次	1	-	10I-4B12	VII	須恵器	無台杯	A2	12.0	6.8	3.1	26	57	長・海	小泊	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り		6/36	10/36		鉄分				
68	363	16次	1	-	10I-3B5	VII	須恵器	無台杯			8.8	(1.0)			長	新津	灰白 (10YR8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り				8/36					
68	364	16次	1	-	10I-5A14	VII	須恵器	杯蓋		(11.8)		(1.7)			石・長・海		灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36					
68	365	16次	1	-	10I-5A19	VII	須恵器	甕				(5.1)			石・長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	平行タタキ	同心円当具痕										肩部小破片

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考	
			区	遺構名	グリッド					口径	底径	器高							外面	内面	底部	回転方向	口縁部	底部	外面	内面		
																												口縁部
68	366	16次	2	河1	5I-8B16	1	須恵器	無台杯		7.0	(1.1)			長	小泊	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		8/36					
68	367	16次	2	河1	5I-8B11	9	須恵器	甕						石・長	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	格子タタキ	同心円当具痕									
68	368	16次	2	-	5I-3D19	VII	土師器	無台碗	B	(10.0)	(1.8)			長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36					
68	369	16次	2	-	5I-9A14	VII	須恵器	無台杯	B3	11.8	7.2	3.5	30	61	長	新津か阿賀北	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5.5/36	9/36				
68	370	16次	3	SK4 SD5	4G-7C9 4G-7C5		土師器	鍋	A	(38.0)	(11.3)			石・長	阿賀北?	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	カキメ→平行タタキ	カキメ, ハケメ				4.5/36		スス			
68	371	16次	3	SD3	4G-7D2		土師器	無台碗	B2 I	15.4	5.8	4.6	30	38	石・長		にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36	口縁部ススか炭化物	口縁部ススか炭化物		
68	372	16次	3	SD8 SD11	4G-7D8 4G-7C10		土師器	無台碗	B	(11.8)	(1.8)			石・長		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36					
68	373	16次	3	Pit9	4G-7C10		土師器	長甕	B	(24.0)	(2.7)			石・長・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36					
68	374	16次	3	Pit14	4G-7D1		土師器	小甕		6.0	(2.4)			石・長	阿賀北?	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		6/36					
69	375	16次	3	Pit25	4G-7C5		土師器	長甕	A	20.6	(5.5)			石・長	阿賀北?	明褐灰 (7.5YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ→ハケメ				6/36		コゲ	断面コゲ		
69	376	16次	3	Pit32	4G-7D6		須恵器	無台杯	B	(13.0)	(1.5)			石	小泊	灰白 (N8/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36					
69	377	16次	3	Pit36	4G-8C4	1	土師器	無台碗	B2 II	12.8	4.6	3.9	30	36	石・長・角・海		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	30/36	36/36			柱の切取後に埋納	
69	378	16次	3	-	4G-7D2	VII	土師器	長甕	B	(20.0)	(8.4)			石・長	阿賀北?	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ→カキメ				3/36					
69	379	16次	3	-	4G-7C5	VII	土師器	長甕	B	(18.8)	(5.5)			石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ→カキメ	ロクロナデ→カキメ				4.5/36					
69	380	16次	3	-	4G-8C4	VII	土師器	小甕		5.4	(1.9)			石・長・角		橙 (2.5YR7/8)	酸化	ロクロナデ→底部ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36	スス?		風化著しい		
69	381	16次	3	-	4G-5D25	VII	黒色土器	皿		(12.0)	(2.2)			石		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ→ハケメ→ヨコヘラミガキ	ロクロナデ→ヨコヘラミガキ				2.5/36			施釉陶器模倣皿?		
69	382	16次	3	-	4G-7C25 4G-8C4	VII	須恵器	無台杯	B2	13.0	7.8	3.2	25	60	石・長	阿賀北	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左?	19.5/36	19/36			小泊類似	
69	383	16次	3	-	4G-7D1 4G-7D6	VII	須恵器	無台杯	B	12.6	(2.9)			石・長	阿賀北	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				8/36				小泊類似	
69	384	16次	3	-	4G-7C25	VII	須恵器	無台杯	B	13.0	(2.5)			長	小泊	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36					
69	385	16次	3	-	4G-7C24	VII	須恵器	無台杯		7.0	(0.7)			石・長・海	小泊	明青灰 (5BG7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左?		10/36					
69	386	16次	3	-	4G-7D2	VII	須恵器	杯蓋		14.0	(1.8)			長・海	小泊	青灰 (10BG6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			8/36					
69	387	16次	3	-	4G-7D2	VII	須恵器	長頸瓶	A	(9.6)	(4.6)			石・長・海	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ→下半格子タタキ	ロクロナデ	不明				3.5/36				
69	388	16次	4	-	Aトレンチ	表土	珠洲焼	甕		(5.6)				長・海		青灰 (5B6/1)	還元	縹杉状タタキ	無文の当具痕									

別表3 中谷内遺跡 第12次調査 製鉄関連遺物観察表

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	種別	器種	重量 (g)	備考			
			区	遺構名	グリッド						法量 (mm)		
											長さ	幅	厚さ
54	137	12次	1	SD7	5F-7H2	羽口	48.0	52.0	-	36.5			

別表5 中谷内遺跡 第15次調査 木製品観察表

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	器種	樹種	法量 (mm)			木取り	備考
			区	遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ		
67	357	15次		Pit77	8G-5F19	柱根	コナラ属コナラ節	151.0	143.0	188.0	芯持	樹種同定	
67	358	15次		Pit89	8G-6F8	柱根	クリ	97.0	79.0	37.0	柁目	樹種同定	

別表4 中谷内遺跡 第12・15次調査 石製品観察表

図版No.	報告No.	調査年次	出土位置			層位	器種	石材	法量 (mm)			重量 (g)	備考
			区	遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ		
54	133	12次	1	-	5F-3J20	VII	叩石	角四石安山岩	90.0	60.0	48.0	330.0	
54	134	12次	1	SD7	5F-7H3		叩石	安山岩	88.0	52.0	48.0	313.0	
54	135	12次	2	河2	5G-2D4	1	磨石	不明	42.0	47.0	38.0	97.0	
54	136	12次	1	-	5F-7H21	II	軽石製石製品	軽石	10.0	21.0	4.0	0.5	
66	351	15次		SD107	8G-8D25	1	磨石	デイサイト	48.0	34.0	25.0	47.0	
66	352	15次		SD4	8G-2H5	1	磨石	デイサイト	114.0	26.0	29.0	114.0	
66	353	15次		SD4	8G-1I21	1	台石	デイサイト	118.0	82.0	55.0	569.5	
67	354	15次		SD51	8G-3G19 8G-7E10	2 VII	台石	安山岩	171.0	111.0	74.0	214.0	
67	355	15次		-	8G-9D9	VI	磨石	デイサイト	33.0	26.0	19.5	15.5	
67	356	15次		-	8G-6F4	VII	台石	流紋岩	136.0	84.0	61.0	747.0	

別表6 中谷内遺跡 第12次調査 遺構出土古代土器器種構成率

1 平安時代の遺構から出土した土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法〔宇野 1992, 春日 1994〕とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は/36を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

遺構名	種別	土 師 器		食 膳 具			須 恵 器			煮 炊 具			貯 蔵 具			合 計												
		無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 甕	小 甕	鍋	甕	長頸瓶	短頸壺		長胴壺											
1区 SK12	計測法																											
	口縁値									0.33	100.00%						0.33	100.00%										
	口縁数(点)									7	100.00%						7	100.00%										
	底残値																											
	総点数(点)	2	2.46%							76	93.84%	3	3.70%				81	100.00%										
1区 SK20	口縁値									0.42	100.00%						0.42	100.00%										
	口縁数(点)	5	100.00%							5	100.00%						5	100.00%										
	底残値									0.56	100.00%						0.56	100.00%										
	底残数(点)	4	100.00%							4	100.00%						4	100.00%										
	総重量(g)	30	90.91%							2	6.06%	1	3.03%				33	100.00%										
2区 SK101	口縁値									83	87.38%						83	100.00%										
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底残数(点)																											
	総重量(g)									2	100.00%						2	100.00%										
2区 SK114	口縁値									10	100.00%						10	100.00%										
	口縁数(点)																											
	底残値												0.14	100.00%			0.14	100.00%										
	底残数(点)												1	100.00%			1	100.00%										
	総重量(g)	4	15.38%		20	76.94%							1	3.84%	1	3.84%		26	100.00%									
1区 SD1	口縁値									2	1.83%						2	1.83%										
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底残数(点)																											
	総重量(g)	1	100.00%															1	100.00%									
1区 SD7	口縁値									2	100.00%						2	100.00%										
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底残数(点)																											
	総重量(g)	239	29.09%		0.14	1.70%				3.17	38.51%			0.19	2.30%	1.17	14.21%	0.31	3.76%	0.14	1.70%	0.22	2.67%		0.06	0.72%	8.23	100.00%
1区 SD8	口縁値									37	35.28%						37	35.28%										
	口縁数(点)									33	31.42%						33	31.42%										
	底残値									3.47	35.72%						3.47	35.72%										
	底残数(点)									3	2.85%						3	2.85%										
	総重量(g)	347	35.72%		0.39	4.01%				3.58	36.83%	1.00	10.28%	0.39	4.01%	0.89	9.15%								1	0.95%	9.72	100.00%
1区 SD11	口縁値									13	31.74%						13	31.74%										
	口縁数(点)									141	33.89%						141	33.89%										
	底残値									141	33.89%						141	33.89%										
	底残数(点)									14	3.35%						14	3.35%										
	総重量(g)	529	12.39%		247	5.75%				376	8.76%	70	1.63%	182	4.24%	1,456	33.94%	641	14.94%	254	5.92%	508	11.84%	18	0.41%	8	0.18%	4,289
2区 SD53	口縁値																											
	口縁数(点)																											
	底残値									0.08	100.00%						0.08	100.00%										
	底残数(点)									1	100.00%						1	100.00%										
	総重量(g)									1	100.00%						1	100.00%										
1区 河1	口縁値									5.0	100.00%						5.0	100.00%										
	口縁数(点)																											
	底残値									0.08	100.00%						0.08	100.00%										
	底残数(点)									1	100.00%						1	100.00%										
	総重量(g)									1	100.00%						1	100.00%										
2区 河2	口縁値									0.08	11.42%						0.08	11.42%										
	口縁数(点)									1	16.66%						1	16.66%										
	底残値									0.61	100.00%						0.61	100.00%										
	底残数(点)									1	100.00%						1	100.00%										
	総重量(g)	2	20.00%							1	10.00%						3	30.00%									10	100.00%
2区 河2	口縁値									8	3.65%						8	3.65%										
	口縁数(点)									222	60.18%						222	60.18%										
	底残値									22	59.48%						22	59.48%										
	底残数(点)									3.78	59.17%						3.78	59.17%										
	総重量(g)	87	53.41%		0.05	0.78%				8	53.35%						8	53.35%										
2区 河2	口縁値									87	53.41%						87	53.41%										
	口縁数(点)									12	1.06%						12	1.06%										
	底残値									0.53	53.00%						0.53	53.00%										
	底残数(点)									8	61.55%						8	61.55%										
	総重量(g)	445	39.48%							445	39.48%						445	39.48%										
2区 河2	口縁値									0.53	53.00%						0.53	53.00%										
	口縁数(点)									8	61.55%						8	61.55%										
	底残値									0.56	30.45%						0.56	30.45%										
	底残数(点)									2	33.34%						2	33.34%										
	総重量(g)	26	46.45%		2	3.57%				26	46.45%						26	46.45%										
2区 河2	口縁値									30	7.48%						30	7.48%										
	口縁数(点)									10.61	55.70%						10.61	55.70%										
	底残値									153	55.25%						153	55.25%										
	底残数(点)									14.22	62.23%						14.22	62.23%										
	総重量(g)	65	60.21%		1	0.92%				65	60.21%						65	60.21%										
2区 河2	口縁値									665	43.03%						665	43.03%										
	口縁数(点)									2,038	15.69%						2,038	15.69%										
	底残値																											
	底残数(点)																											
	総重量(g)	1	100.00%							1	100.00%						1	100.00%										
2区 Ph33	口縁値									1	100.00%						1	100.00%										
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底残数(点)																											
	総重量(g)	1	100.00%							1	100.00%						1	100.00%										

遺構名	種別 計測法	食 膳 具										煮 炊 具			貯 蔵 具			合 計
		土 師 器		黒 色 土 器			須 恵 器			土 師 器			須 恵 器					
		無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 甕	小 甕	鍋	甕	長頸瓶	短頸甕	長胴甕		
2区 Pit35	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)				1 50.00%		1 50.00%											2 100.00%
	総点数(点)	4 66.68%			1 16.66%		1 16.66%											6 100.00%
2区 Pit36	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									1 100.00%								1 100.00%
2区 Pit45	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									1 100.00%								1 100.00%
2区 Pit49	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									1 100.00%								1 100.00%
2区 Pit65	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	1 100.00%																1 100.00%
2区 Pit97	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									1 100.00%								1 100.00%
2区 Pit100	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	3 42.87%								3 42.85%			1 14.28%					7 100.00%
2区 Pit109	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	1 50.00%																2 100.00%
2区 Pit110	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)																	
2区 Pit112	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)				7 100.00%													7 100.00%
2区 Pit112	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)				8 100.00%													8 100.00%

別表 7 中谷内遺跡 第15次調査 遺構出土古代土器器種構成率

1 平安時代の遺構から出土した土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法〔宇野 1992、春日 1994〕とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は¹/₃₆を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

遺構名	種別	土 師 器		食 膳 具			須 恵 器			煮 炊 具			貯 蔵 具			合 計		
		無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 甕	小 甕	鍋	甕	長頸瓶	短頸壺		横瓶	
SK8	口縁値	0.19	22.90%				0.64	77.10%									0.83	100.00%
	口縁数(点)	3	50.00%				3	50.00%									6	100.00%
	底残値	0.53	30.28%				1.22	69.72%									1.75	100.00%
	底部数(点)	2	33.33%				4	66.67%									6	100.00%
	総点数(点)	9	52.96%				4	23.52%		4	23.52%						17	100.00%
	総重量(g)	59	27.06%				106	48.62%		53	24.32%						218	100.00%
SK19	口縁値									0.06	100.00%						0.06	100.00%
	口縁数(点)									1	100.00%						1	100.00%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	1	20.00%				1	20.00%		1	20.00%	2	40.00%				5	100.00%
	総重量(g)	1	1.86%				3	5.55%		39	72.22%	11	20.37%				54	100.00%
SK21	口縁値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)										1	100.00%					1	100.00%
	総重量(g)										17	100.00%					17	100.00%
SK24	口縁値						0.03	100.00%									0.03	100.00%
	口縁数(点)						1	100.00%									1	100.00%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)						1	50.00%		1	50.00%						2	100.00%
	総重量(g)						4	26.67%		11	73.33%						15	100.00%
SK87	口縁値	0.03	21.43%				0.08	57.14%		0.03	21.43%						0.14	100.00%
	口縁数(点)	1	25.00%				2	50.00%		1	25.00%						4	100.00%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	2	33.34%				2	33.33%		2	33.33%						6	100.00%
	総重量(g)	2	11.11%				4	22.22%		12	66.67%						18	100.00%
SK103	口縁値	0.47	100.00%														0.47	100.00%
	口縁数(点)	6	100.00%														6	100.00%
	底残値	0.72	83.72%							0.14	16.28%						0.86	100.00%
	底部数(点)	5	83.34%							1	16.66%						6	100.00%
	総点数(点)	20	95.24%							1	4.76%						21	100.00%
	総重量(g)	138	92.00%							12	8.00%						150	100.00%
SK106	口縁値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)												1	100.00%			1	100.00%
	総重量(g)												26	100.00%			26	100.00%
SK111	口縁値								0.03	27.28%	0.08	72.72%					0.11	100.00%
	口縁数(点)								1	33.33%	2	66.67%					3	100.00%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)								1	10.00%	6	60.00%	3	30.00%			10	100.00%
	総重量(g)								1	1.82%	38	69.09%	16	29.09%			55	100.00%
SX5	口縁値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)													1	100.00%		1	100.00%
	総重量(g)													85	100.00%		85	100.00%
SX25	口縁値	0.06	13.34%				0.36	80.00%		0.03	6.66%						0.45	100.00%
	口縁数(点)	2	33.34%				3	50.00%		1	16.66%						6	100.00%
	底残値	0.25	22.53%				0.86	77.47%									1.11	100.00%
	底部数(点)	1	33.33%				2	66.67%									3	100.00%
	総点数(点)	5	10.64%				4	8.51%		12	25.53%	7	14.90%	19	40.42%		47	100.00%
	総重量(g)	16	1.16%				66	4.76%		183	13.20%	13	0.93%	1108	79.95%		1,386	100.00%
SX112	口縁値						0.22	100.00%									0.22	100.00%
	口縁数(点)						1	100.00%									1	100.00%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	4	57.15%				2	28.57%					1	14.28%			7	100.00%
	総重量(g)	5	18.52%				9	33.33%					13	48.15%			27	100.00%
SX114	口縁値	0.06	100.00%														0.06	100.00%
	口縁数(点)	1	100.00%														1	100.00%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	4	100.00%														4	100.00%
	総重量(g)	11	100.00%														11	100.00%

選構名	種別	食 膳 具															煮 炊 具			貯 蔵 具			合 計
		土 師 器		黒 色 土 器					須 恵 器			土 師 器			須 恵 器								
		無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 費	小 費	鍋	費	長頸瓶	短頸密	横瓶							
SX115	口残値																			0.06	100.00%		
	口縁数(点)																			1	100.00%		
	底残値																						
	底部数(点)																						
	総点数(点)	5	23.80%				1	4.77%				1	4.77%	14	66.66%						21	100.00%	
総重量(g)	12	19.68%				1	1.65%				3	4.91%	45	73.78%							61	100.00%	
SD1	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値	0.17	7.55%																				
	底部数(点)	1	11.11%																				
	総点数(点)	10	20.00%																				
SD2	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値	0.53	24.10%																				
	底部数(点)	3	30.00%	1	10.00%																		
	総点数(点)	36	40.45%	3	3.37%																		
SD3	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値	0.19	18.10%																				
	底部数(点)	1	20.00%																				
	総点数(点)	36	32.73%	1	0.91%																		
SD4	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値	7.44	29.48%	0.56	2.22%																		
	底部数(点)	28	32.95%	3	3.53%																		
	総点数(点)	264	37.88%	6	0.86%																		
SD7	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値	0.89	45.18%																				
	底部数(点)	6	46.16%																				
	総点数(点)	57	39.05%	1	0.68%																		
SD9	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	総点数(点)																						
SD15	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	総点数(点)																						
SD22	口残値	0.67	88.17%																				
	口縁数(点)	8	66.67%																				
	底残値			0.03	100.00%																		
	底部数(点)			1	100.00%																		
	総点数(点)	15	35.71%																				
SD44	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値	0.22	100.00%																				
	底部数(点)	1	100.00%																				
	総点数(点)	10	37.03%																				
SD46	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	総点数(点)																						
SD50	口残値	0.81	78.65%																				
	口縁数(点)	11	84.62%																				
	底残値	1.72	100.00%																				
	底部数(点)	5	100.00%																				
	総点数(点)	22	81.50%																				
SD51	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値	2.72	52.42%																				
	底部数(点)	8	57.15%																				
	総点数(点)	54	18.56%	7	2.40%																		

遺構名	種別	食 膳 具															煮 炊 具			貯 蔵 具			合 計
		土 師 器		黒 色 土 器					須 恵 器			土 師 器			須 恵 器								
		無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 巻	小 巻	鍋	巻	長頸瓶	短頸壺	横瓶							
SD55	計測法	0.03	33.33%				0.06	66.67%										0.09	100.00%				
	口残値	1	50.00%				1	50.00%										2	100.00%				
	口縁数(点)																						
	底残値																						
	総点数(点)	3	33.34%				3	33.33%				3	33.33%					9	100.00%				
総重量(g)	1	9.10%				7	63.63%				3	27.27%						11	100.00%				
SD58	口残値	0.03	50.00%											0.03	50.00%			0.06	100.00%				
	口縁数(点)	1	50.00%											1	50.00%			2	100.00%				
	底残値						0.28	100.00%										0.28	100.00%				
	底部数(点)						2	100.00%										2	100.00%				
	総点数(点)	2	28.58%				3	42.86%						1	14.28%			7	100.00%				
総重量(g)	3	10.72%				17	60.71%						1	3.57%			28	100.00%					
SD62	口残値																						
	口縁数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)	1	50.00%				1	50.00%										2	100.00%				
	総重量(g)	2	66.67%				1	33.33%										3	100.00%				
SD64	口残値						0.06	100.00%										0.06	100.00%				
	口縁数(点)						2	100.00%										2	100.00%				
	底残値						0.19	15.97%						1.00	84.03%			1.19	100.00%				
	底部数(点)						1	50.00%						1	50.00%			2	100.00%				
	総重量(g)						3	60.00%						2	40.00%			5	100.00%				
SD65	口残値						9	10.47%						77	89.53%			86	100.00%				
	口縁数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	総重量(g)								1	25.00%				3	75.00%			4	100.00%				
SD66	口残値	0.22	30.56%				0.39	54.17%			0.08	11.11%	0.03	4.16%				0.72	100.00%				
	口縁数(点)	5	35.72%				7	50.00%			1	7.14%	1	7.14%				14	100.00%				
	底残値	0.19	32.75%				0.39	67.25%										0.58	100.00%				
	底部数(点)	1	33.33%				2	66.67%										3	100.00%				
	総重量(g)	19	25.34%				12	16.00%			2	2.67%	33	44.00%	7	9.33%	1	1.33%	75	100.00%			
SD67	口残値	0.08	15.10%				0.42	79.24%						0.03	5.66%			0.53	100.00%				
	口縁数(点)	1	9.10%				8	72.72%						2	18.18%			11	100.00%				
	底残値						0.67	100.00%										0.67	100.00%				
	底部数(点)						5	100.00%										5	100.00%				
	総重量(g)	21	40.39%		1	1.93%	17	32.69%			8	15.38%	5	9.61%				52	100.00%				
SD70	口残値	31	17.72%		4	2.28%	50	28.58%						0.06	50.00%	0.06	50.00%	0.12	100.00%				
	口縁数(点)													2	66.67%	1	33.33%	3	100.00%				
	底残値						0.28	43.75%						0.36	56.25%			0.64	100.00%				
	底部数(点)						1	50.00%						1	50.00%			2	100.00%				
	総重量(g)	14	29.17%				4	8.34%			22	45.83%	7	14.58%			1	2.08%	48	100.00%			
SD71	口残値	0.11	23.40%		0.03	6.38%	0.11	23.40%			0.08	17.04%	0.11	23.40%	0.03	6.38%		0.47	100.00%				
	口縁数(点)	2	20.00%		1	10.00%	2	20.00%			3	30.00%	1	10.00%	1	10.00%		10	100.00%				
	底残値																						
	底部数(点)																						
	総重量(g)	14	26.93%		1	1.92%	5	9.62%			27	51.93%	1	1.92%	1	1.92%	3	5.76%	52	100.00%			
SD72	口残値	36	11.77%		6	1.97%	20	6.54%			187	61.11%	5	1.63%	30	9.80%	22	7.18%	306	100.00%			
	口縁数(点)						0.06	100.00%										0.06	100.00%				
	底残値						2	100.00%										2	100.00%				
	底部数(点)																						
	総重量(g)	2	14.28%				4	28.58%			8	57.14%						14	100.00%				
SD76	口残値	6	6.75%				0.14	70.00%			0.06	30.00%						0.20	100.00%				
	口縁数(点)						4	66.67%			2	33.33%						6	100.00%				
	底残値																						
	底部数(点)																						
	総重量(g)	2	25.00%				4	50.00%			2	25.00%						8	100.00%				
SD78	口残値	0.06	100.00%															0.06	100.00%				
	口縁数(点)	2	100.00%															2	100.00%				
	底残値																						
	底部数(点)						4	100.00%										4	100.00%				
	総重量(g)	8	66.67%				4	33.33%										12	100.00%				
SD79	口残値	0.47	42.34%				0.58	52.26%							0.06	5.40%		1.11	100.00%				
	口縁数(点)	7	38.88%				9	50.02%							1	5.55%		18	100.00%				
	底残値	0.67	27.34%				1.78	72.66%									1	5.55%	2.45	100.00%			
	底部数(点)	3	37.50%				5	62.50%										8	100.00%				
	総重量(g)	24	47.07%		1	1.96%	24	47.07%			10	19.60%			1	1.96%		51	100.00%				
総重量(g)	112	24.66%		2	0.44%	190	41.87%			97	21.36%			46	10.13%		454	100.00%					

遺構名	種別	食器														煮炊具			貯蔵具			合計
		土 師 器		黒色土器					須恵器		土 師 器			須恵器								
		無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	杯蓋	長 甕	小 甕	鍋	甕	長頸瓶	短頸壺	横瓶						
SD80	口残値	0.08	11.60%				0.61	88.40%											0.69	100.00%		
	口縁数(点)	2	20.00%				8	80.00%											10	100.00%		
	底残値						0.56	100.00%											0.56	100.00%		
	底部数(点)						3	100.00%											3	100.00%		
	総点数(点)	10	20.00%				12	24.00%											50	100.00%		
SD81	総重量(g)	17	5.72%				63	21.21%				16	32.00%	11	22.00%	1	2.00%		297	100.00%		
	口残値	0.08	14.82%				0.17	31.49%				0.06	11.11%	0.14	25.92%	0.06	11.11%	0.03	5.55%	0.54	100.00%	
	口縁数(点)	3	25.00%				3	25.00%				2	16.67%	2	16.67%	1	8.33%	1	8.33%	12	100.00%	
	底残値						0.47	81.04%							0.11	18.96%				0.58	100.00%	
	底部数(点)	2	66.67%				2	66.67%							1	33.33%				3	100.00%	
SD82	総点数(点)	11	23.92%				4	8.70%				2	4.35%	27	58.69%	1	2.17%	1	2.17%	46	100.00%	
	総重量(g)	34	8.08%				35	8.32%				38	9.02%	278	66.03%	24	5.70%	12	2.85%	421	100.00%	
	口残値																					
	口縁数(点)																					
	底残値																					
SD93	底部数(点)	8	66.66%									2	16.67%	2	16.67%					12	100.00%	
	総重量(g)	13	52.00%									8	32.00%	4	16.00%					25	100.00%	
	口残値	0.17	17.53%				0.69	71.14%				0.08	8.24%	0.03	3.09%					0.97	100.00%	
	口縁数(点)	2	9.10%				18	81.82%				1	4.54%	1	4.54%					22	100.00%	
	底残値	0.44	38.94%				0.69	61.06%												1.13	100.00%	
SD94	底部数(点)	1	9.10%				10	90.90%												11	100.00%	
	総点数(点)	8	11.11%				35	48.62%				20	27.78%	6	8.33%			3	4.16%	72	100.00%	
	総重量(g)	46	10.60%				103	23.74%				262	60.36%	10	2.30%			13	3.00%	434	100.00%	
	口残値																					
	口縁数(点)																					
SD95	底残値																					
	底部数(点)																					
	総点数(点)	3	100.00%																	3	100.00%	
	総重量(g)	5	100.00%																	5	100.00%	
	口残値						0.14	100.00%												0.14	100.00%	
SD100	口縁数(点)						1	100.00%												1	100.00%	
	底残値																					
	底部数(点)						2	16.66%				2	16.66%	3	25.00%					12	100.00%	
	総点数(点)	5	41.68%				12	25.54%				5	10.63%	10	21.27%					47	100.00%	
	総重量(g)	20	42.56%																	0.03	100.00%	
SD104	口残値						0.03	100.00%												1	100.00%	
	口縁数(点)						1	100.00%												0.25	100.00%	
	底残値						0.25	100.00%												1	100.00%	
	底部数(点)						1	100.00%							2	40.00%				5	100.00%	
	総重量(g)						3	60.00%							3	33.33%				9	100.00%	
SD105	総重量(g)						6	66.67%												0.06	100.00%	
	口残値														0.03	50.00%				0.06	100.00%	
	口縁数(点)														1	50.00%				2	100.00%	
	底残値	0.14	100.00%																	0.14	100.00%	
	底部数(点)	1	100.00%																	1	100.00%	
SD107	総重量(g)						2	9.52%							2	9.52%			12	57.15%		
	口残値	0.14	50.01%				5	1.47%							3	0.88%			274	80.11%		
	口縁数(点)	2	40.00%				0.03	10.71%				0.03	10.71%	0.08	28.57%				4	19.04%		
	底残値						1	20.00%				1	20.00%	1	20.00%					54	15.78%	
	総重量(g)	6	1.76%				5	1.47%												342	100.00%	
SD108	口残値	0.06	50.00%				0.03	10.71%				0.03	10.71%	0.08	28.57%					0.28	100.00%	
	口縁数(点)	1	33.34%				1	20.00%				1	20.00%	1	20.00%					5	100.00%	
	底残値						0.08	100.00%												0.08	100.00%	
	底部数(点)						1	100.00%												1	100.00%	
	総重量(g)	16	45.72%				2	5.71%				14	40.00%	3	8.57%					35	100.00%	
Pit6	総重量(g)	25	13.02%				5	2.60%				150	78.13%	12	6.25%					192	100.00%	
	口残値	0.06	50.00%								0.06	50.00%								0.12	100.00%	
	口縁数(点)	1	33.34%								1	33.33%			1	33.33%				3	100.00%	
	底残値													1.00	100.00%					1.00	100.00%	
	底部数(点)													2	100.00%					2	100.00%	
Pit13	総重量(g)	3	20.00%								5	33.33%	6	40.00%	1	6.67%				15	100.00%	
	口残値	7	4.03%								78	44.82%	67	38.50%	22	12.65%				174	100.00%	
	口縁数(点)																					
	底残値																					
	底部数(点)																					

遺構名	種別 計測法	食器具							煮炊具			貯蔵具			合計			
		土 師 器		黒色土器		須恵器			土 師 器			貯 蔵 具						
		無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 甕	小 甕	鍋	甕	長頸瓶		短頸甕	横瓶	
Pit88	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									1	100.00%						1	100.00%
Pit89	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									1	100.00%						1	100.00%
Pit90	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	1	14.28%							6	85.72%						7	100.00%
Pit91	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	1	2.32%							42	97.68%						43	100.00%
Pit92	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值					0.50	100.00%										0.50	100.00%
	底部数(点)					1	100.00%										1	100.00%
	総点数(点)					1	11.11%			2	22.23%	3	33.33%	3	33.33%		9	100.00%
Pit97	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)					0.25	100.00%										0.25	100.00%
	総点数(点)					1	50.00%			1	50.00%						2	100.00%
Pit98	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值					0.42	100.00%										0.42	100.00%
	底部数(点)					2	100.00%										2	100.00%
	総点数(点)					2	100.00%			7	5.47%	9	7.03%	87	67.96%		128	100.00%
Pit99	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									1	100.00%						1	100.00%
Pit101	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									3	100.00%						3	100.00%
Pit102	口残值					0.11	100.00%										0.11	100.00%
	口縁数(点)					1	100.00%										1	100.00%
	底残值																	
	底部数(点)					1	50.00%			1	50.00%						2	100.00%
	総点数(点)					8	66.67%			4	33.33%						12	100.00%
Pit110	口残值																	
	口縁数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									1	100.00%						1	100.00%
	総重量(g)								14	100.00%							14	100.00%

別表 8 中谷内遺跡 第16次調査 遺構出土古代土器器種構成率

1 平安時代の遺構から出土した土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。
 2 土器の計測法は口縁数法（宇野 1992, 春日 1994）とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は/36を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

遺構名	種別	土 師 器						黒 色 土 器			須 恵 器			煮 炊 具			須 恵 器			合 計
		無台碗	有台碗	無台皿	無台碗	有台碗	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 甕	小 甕	鍋	甕	長頸瓶	短頸壺	横 瓶				
1区 SK6	口縁値																			
	口縁数(点)																			
	底残値																			
	底点数(点)																			
	総点数(点)																			
1区 SD1	口縁値																			
	口縁数(点)																			
	底残値	0.30	100.00%																	0.05
	底点数(点)	2	100.00%																	1
	総点数(点)	27	96.43%																	28
1区 Pit7	口縁値																			
	口縁数(点)																			
	底残値																			
	底点数(点)																			
	総点数(点)																			
1区 河	口縁値	0.08	50.00%																	0.08
	口縁数(点)	2	66.67%																	1
	底残値																			
	底点数(点)																			
	総点数(点)	8	38.10%																	21
2区 河1	口縁値	0.03	37.50%																	0.05
	口縁数(点)	1	50.00%																	1
	底残値																			
	底点数(点)																			
	総点数(点)	5	17.86%																	19
3区 SK4	口縁値	0.05	31.25%																	0.05
	口縁数(点)	1	50.00%																	1
	底残値																			
	底点数(点)																			
	総点数(点)	3	33.33%																	4
3区 SK30	口縁値																			
	口縁数(点)																			
	底残値																			
	底点数(点)																			
	総点数(点)	1	14.28%																	4
3区 SD1	口縁値																			
	口縁数(点)																			
	底残値	0.08	24.25%																	0.08
	底点数(点)	1	33.33%																	1
	総点数(点)	1	12.50%																	3
3区 SD2	口縁値																			
	口縁数(点)																			
	底残値																			
	底点数(点)																			
	総点数(点)																			
3区 SD3	口縁値	0.25	100.00%																	0.25
	口縁数(点)	3	100.00%																	3
	底残値	0.80	83.34%																	0.16
	底点数(点)	1	50.00%																	1
	総点数(点)	5	31.25%																	3
3区 SD5	口縁値																			
	口縁数(点)																			
	底残値	0.05	27.78%																	0.05
	底点数(点)	1	25.00%																	2
	総点数(点)	3	11.11%																	16
3区 SD6	口縁値	0.08	50.00%																	0.05
	口縁数(点)	1	33.34%																	1
	底残値	0.14	100.00%																	0.08
	底点数(点)	1	100.00%																	1
	総点数(点)	5	21.73%																	23

遺構名	種別	食 膳 具														煮 炊 具			須 惠 器			合 計
		土 師 器				黒 色 土 器				須 惠 器			土 師 器			須 惠 器						
		無台碗	有台碗	無台皿	無台碗	有台碗	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 羹	小 羹	鍋	羹	長頸瓶	短頸密	樽 瓶						
3区 SD8	計測法	0.05	45.46%		0.03	27.27%	0.03	27.27%											0.11	100.00%		
	口残値	1	33.34%		1	33.33%	1	33.33%											3	100.00%		
	口縁数(点)																					
	底残値																					
	底部数(点)	3	18.75%		1	6.25%	1	6.25%											16	100.00%		
3区 SD11	口残値	7	11.67%		1	1.67%	1	1.67%											60	100.00%		
	口縁数(点)	0.05	100.00%																0.05	100.00%		
	口残値	1	100.00%																1	100.00%		
	口縁数(点)																		0.03	100.00%		
	底部数(点)	4	15.38%		1	3.85%	1	3.85%											26	100.00%		
3区 SD21	口残値	3	2.26%		6	4.52%	6	4.52%											133	100.00%		
	口縁数(点)																		0.05	100.00%		
	口残値																		1	100.00%		
	口縁数(点)																					
	底部数(点)	1	33.33%																3	100.00%		
3区 SD42	口残値																		15	100.00%		
	口縁数(点)																		0.08	100.00%		
	口残値																		1	100.00%		
	口縁数(点)																		0.05	100.00%		
	底部数(点)	2	28.58%																7	100.00%		
3区 Pit7	口残値	6	8.83%																68	100.00%		
	口縁数(点)																		0.03	100.00%		
	口残値																		1	100.00%		
	口縁数(点)																					
	底部数(点)																		1	100.00%		
3区 Pit9	口残値																		1	100.00%		
	口縁数(点)																		1	100.00%		
	口残値																		0.11	100.00%		
	口縁数(点)																		1	100.00%		
	底部数(点)	2	40.00%																5	100.00%		
3区 Pit10	口残値	2	5.00%																40	100.00%		
	口縁数(点)																		3	100.00%		
	口残値																		1	100.00%		
	口縁数(点)																		1	100.00%		
	底部数(点)	1	50.00%																2	100.00%		
3区 Pit12	口残値	2	18.18%																11	100.00%		
	口縁数(点)																					
	口残値																					
	口縁数(点)																					
	底部数(点)																		2	100.00%		
3区 Pit14	口残値																		45	100.00%		
	口縁数(点)																					
	口残値																					
	口縁数(点)																					
	底部数(点)																		2	100.00%		
3区 Pit25	口残値																		45	100.00%		
	口縁数(点)																					
	口残値																					
	口縁数(点)																					
	底部数(点)																		0.31	100.00%		
3区 Pit28	口残値																		1	100.00%		
	口縁数(点)																		1	100.00%		
	口残値																		3	100.00%		
	口縁数(点)																		1	100.00%		
	底部数(点)																		4	100.00%		
3区 Pit32	口残値																		93	100.00%		
	口縁数(点)																		0.19	100.00%		
	口残値																		2	100.00%		
	口縁数(点)																					
	底部数(点)																		7	100.00%		
3区 Pit34	口残値	1	9.09%																11	100.00%		
	口縁数(点)	3	1.51%																199	100.00%		
	口残値																					
	口縁数(点)																					
	底部数(点)	1	100.00%																1	100.00%		
3区 Pit34	口残値	4	100.00%																4	100.00%		
	口縁数(点)																					
	口残値																					
	口縁数(点)																					
	底部数(点)	1	16.66%																6	100.00%		
3区 Pit34	口残値	3	30.00%																10	100.00%		
	口縁数(点)																					
	口残値																					
	口縁数(点)																					
	底部数(点)																		1	100.00%		
3区 Pit34	口残値																		4	100.00%		
	口縁数(点)																					
	口残値																					
	口縁数(点)																					
	底部数(点)																		1	100.00%		

遺構名	種別	査 閲 具														合 計		
		土 師 器			黒 色 土 器			須 恵 器			煮 炊 具			須 恵 器 貯 蔵 具				
		無台碗	有台碗	無台皿	無台碗	有台碗	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 費	小 費	鍋	甕	長頸瓶	短頸密		横 瓶	
3区 Pit35	計測法																	
	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)								1	100.00%								
	総重量(g)								63	100.00%								
		0.89	100.00%															
3区 Pit36	口残値																	
	口縁数(点)	10	100.00%															
	底残値	1.00	100.00%															
	底部数(点)	1	100.00%															
	総点数(点)	14	100.00%															
	総重量(g)	121	100.00%															
		0.03	100.00%															
3区 Pit39	口残値																	
	口縁数(点)	1	100.00%															
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	2	100.00%															
	総重量(g)	1	100.00%															
3区 Pit43	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									1	100.00%							
	総重量(g)								5	100.00%								
3区 Pit45	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)	1	50.00%							1	50.00%							
	総重量(g)	1	12.50%						7	87.50%								
3区 Pit47	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)									2	100.00%							
	総重量(g)								23	100.00%								
3区 Pit53	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)									0.05	100.00%							
	総点数(点)	1	50.00%							1	50.00%							
	総重量(g)	1	25.00%						3	75.00%								
3区 Pit55	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	総点数(点)													1	100.00%			
	総重量(g)												14	100.00%				

別表 9 内野遺跡 遺構計測表
第 8 次調査

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面 座標 (m)	形態		覆土	遺物の 有無	遺物図版頁	備考
							上端		下端		深度		平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
70・71・73・78		SE1	90-9I24	近世	I b	N-58°-W	(0.85)	—	(0.39)	—	1.36	3.52	—	台形状	4	○		
70・71・72・79		SK9	90-8G6	中世以降	III	N-58°-E	0.60	(0.58)	0.35	0.23	0.23	4.07	円形	皿形	3	×		
70・71・72・78		SK19	90-7F24・25	中世以降	III	N-31°-E	1.59	0.97	1.10	0.48	0.25	4.02	不整形	皿形	4	○	>SD22	
70・71・72・79		SK48	90-7F24・25、8F4・5	中世以降	III	N-52°-E	0.53	—	0.43	0.25	0.14	4.11	円形	皿形	2	×		
70・71・72・78		SK63	90-7E15	中世以降	III	N-41°-E	0.63	(0.56)	0.39	0.33	0.22	4.05	楕円形	台形状	2	×	<SD64	
70・71・72・78		SK79	90-7E8・9	中世以降	III	N-61°-W	(0.80)	—	(0.41)	—	0.20	4.12	—	皿形	2	×	>SD78	
70・71・72・78		SK80	90-7E2	中世以降	III	N-62°-W	(0.74)	—	(0.42)	—	0.20	4.19	—	皿形	2	×		
70・71・72・78		SK99	90-7E10	中世以降	III	N-68°-W	0.93	0.66	0.71	0.50	0.16	4.04	楕円形	皿形	2	○	82	
70・71・72・77・79		SX52	90-7F17・18・22・23・24	中世以降	III	N-39°-E	—	2.85	—	2.45	0.22	4.07	—	皿形	2	×		
70・71・72・79		SD8	90-8F5・8G1・6・7	中世以降	III	N-41°-W	—	0.78	—	0.67	0.13	4.18	—	皿形	2	○		
						N-60°-W	(0.98)	—	0.48	—	—	—	—	—	×			
70・71・72・78・79		SD22	90-7F23・24、8F3・4	中世以降	III	N-39°-E	—	0.39	—	0.30	0.12	4.18	—	皿形	2	×	<SK19	
70・71・72・79		SD28	90-8G1	中世以降	III	N-24°-W	—	0.20	—	0.12	0.09	4.16	—	皿形	2	×		
70・71・73・80		SD39	90-8G14	中世以降	III	N-7°-E	—	0.28	—	0.17	0.13	4.11	—	半円形	1	×		
70・71・72・80		SD41	90-8G8・13	中世以降	III	N-23°-E	—	0.44	—	0.30	0.14	4.10	—	皿形	2	×		
70・71・72・79		SD57	90-7E20、7F11・16	中世以降	III	N-26°-E	—	0.60	—	0.36	0.16	4.10	—	皿形	1	×		
70・71・72・78		SD64	90-7E15	中世以降	III	N-43°-E	—	0.69	—	0.47	0.19	4.08	—	皿形	2	×	>SK63	
70・71・72・78		SD68	90-7E14・15	中世以降	III	N-43°-E	—	0.46	—	0.35	0.18	4.08	—	皿形	1	×		
70・71・72・79		SD78	90-7E8・9	中世以降	III	N-3°-W	—	0.37	—	0.18	0.10	4.17	—	台形状	2	×	<SK79	
70・71・73		Pit2	90-8G14	中世以降	III	N-40°-E	0.23	0.21	0.08	0.05	0.15	—	円形	台形状	1	×		
70・71・72		Pit3	90-8G12	中世以降	III	N-50°-E	0.26	0.20	0.11	0.09	0.16	—	楕円形	半円形	1	×		
70・71・73		Pit4	90-8G15	中世以降	III	N-72°-E	0.46	0.39	0.26	0.19	0.12	—	楕円形	皿形	1	×		
70・71・73		Pit5	90-8G14・15	中世以降	III	N-65°-W	—	0.31	0.18	0.08	0.16	—	楕円形	台形状	1	×		
70・71・72		Pit6	90-8G7	中世以降	III	N-35°-E	0.30	0.26	0.13	0.11	0.13	—	楕円形	U字状	1	×		
70・71・72		Pit7	90-8G7	中世以降	III	N-87°-E	0.23	0.19	0.06	0.06	0.10	—	楕円形	半円形	1	×		
70・71・72・79		Pit10	90-8G6	中世以降	III	N-54°-E	0.35	0.30	0.20	0.14	0.13	4.15	円形	半円形	2	×		
70・71・73		Pit11	90-8G14	中世以降	III	N-25°-E	0.35	—	0.10	0.07	0.18	—	円形	皿形	1	×		
70・71・73		Pit12	90-8G15	中世以降	III	N-7°-W	0.27	—	0.16	—	0.07	—	円形	皿形	1	×		
70・71・73		Pit13	90-8G14	中世以降	III	N-66°-W	0.24	0.20	0.11	0.10	0.10	—	楕円形	半円形	1	×		
70・71・72		Pit15	90-8F4	中世以降	III	N-59°-W	(0.29)	—	(0.17)	—	0.08	—	—	皿形	1	×		
70・71・72		Pit16	90-8F4	中世以降	III	N-20°-W	0.18	0.15	0.08	0.07	0.05	—	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit17	90-8F4	中世以降	III	N-20°-W	0.24	0.19	0.10	0.06	0.08	—	楕円形	V字状	1	×		
70・71・72		Pit18	90-8F4	中世以降	III	N-28°-W	0.30	0.27	0.12	0.10	0.26	—	円形	U字状	1	×		
70・71・72		Pit20	90-7F24	中世以降	III	N-7°-W	0.23	0.18	0.13	0.09	0.07	—	楕円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit21	90-7F24	中世以降	III	N-40°-W	0.27	0.22	0.16	0.13	0.04	—	楕円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit23	90-8G6	中世以降	III	N-5°-W	0.28	0.24	0.14	0.13	0.37	—	円形	U字状	2	×		
70・71・72		Pit24	90-8G7	中世以降	III	N-31°-E	0.32	—	(0.13)	0.10	0.08	—	楕円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit25	90-8G7	中世以降	III	N-35°-E	(0.31)	—	—	—	0.14	—	—	半円形	1	×		
70・71・72・79		Pit26	90-7F24・25、8F4・5	中世以降	III	N-51°-E	0.39	0.25	0.14	0.12	0.13	4.12	楕円形	半円形	2	×		
70・71・72・79		Pit29	90-8G1	中世以降	III	N-60°-W	0.35	—	0.25	—	0.07	4.15	—	皿形	2	×		
70・71・72・79		Pit30	90-8G1	中世以降	III	N-60°-W	(0.21)	—	(0.07)	—	0.10	4.15	—	半円形	1	×		
70・71・72		Pit31	90-8F5	中世以降	III	N-5°-W	0.37	—	0.25	0.23	0.15	—	円形	皿形	3	×		
70・71・72		Pit32	90-8F5	中世以降	III	N-30°-W	0.25	0.21	0.14	0.10	0.24	—	円形	U字状	1	×		
70・71・72		Pit33	90-8F5	中世以降	III	N-4°-W	(0.32)	—	—	—	0.16	—	楕円形	台形状	1	×		
70・71・72		Pit34	90-8F5	中世以降	III	N-55°-E	0.33	0.30	0.15	0.11	0.37	—	円形	U字状	2	×		
70・71・72		Pit35	90-8F4	中世以降	III	N-60°-E	0.24	0.15	0.13	0.07	0.12	—	楕円形	U字状	1	×		
70・71・72		Pit36	90-8F4	中世以降	III	N-61°-W	0.27	0.24	0.06	0.05	0.11	—	円形	半円形	1	×		

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	備考	
							上端		下端			深度	平面					断面
							長軸	短軸	長軸	短軸								
70・71・72		Pit37	90-7F23	中世以降	Ⅲ	N-64°-W	0.20	0.19	0.06	0.05	0.10	-	円形	台形状	1	×		
70・71・73		Pit38	90-8G14	中世以降	Ⅲ	N-68°-E	-	(0.20)	0.08	0.05	0.09	-	-	半円形	1	×		
70・71・72		Pit40	90-8G13・14	中世以降	Ⅲ	N-28°-E	-	(0.21)	-	(0.13)	0.13	-	-	U形状	1	×		
70・71・72		Pit42	90-8G7	近世	Ⅱ	N-60°-W	-	(0.35)	-	(0.24)	0.12	-	-	台形状	2	×		
70・71・72		Pit43	90-8G7	中世以降	Ⅲ	N-63°-W	0.21	0.19	0.12	0.11	0.09	-	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit44	90-8G1・6	中世以降	Ⅲ	N-20°-W	0.34	-	0.23	0.08	0.11	-	-	皿形	1	×		
70・71・72		Pit45	90-8F5、8G1	中世以降	Ⅲ	N-80°-E	0.38	0.35	0.28	0.22	0.08	-	円形	台形状	2	×		
70・71・72		Pit46	90-8F5	中世以降	Ⅲ	N-29°-E	0.24	-	0.12	0.11	0.13	-	円形	半円形	2	×		
70・71・72		Pit47	90-7F25	中世以降	Ⅲ	N-33°-E	-	(0.19)	-	(0.08)	0.13	-	楕円形	U形状	1	×		
70・71・72		Pit49	90-7F24	中世以降	Ⅲ	N-52°-E	(0.36)	-	0.15	0.13	0.13	-	-	皿形	1	×		
70・71・72		Pit50	90-7F23・24	中世以降	Ⅲ	N-16°-E	0.38	-	0.21	0.16	0.09	-	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit51	90-7F23・24	中世以降	Ⅲ	N-11°-E	0.30	0.26	0.16	0.11	0.09	-	楕円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit55	90-7F17	中世以降	Ⅲ	N-30°-E	0.43	0.27	0.24	0.11	0.08	-	楕円形	半円形	1	×		
70・71・72		Pit56	90-7F16	中世以降	Ⅲ	N-67°-W	0.34	0.32	0.13	0.09	0.17	-	円形	台形状	2	×		
70・71・72		Pit58	90-7F11	中世以降	Ⅲ	N-60°-W	0.23	0.13	0.15	0.07	0.09	-	楕円形	皿形	1	×		
70・71・72・79		Pit59	90-7E15・20、7F11・16	中世以降	Ⅲ	N-86°-E	0.41	0.30	0.18	0.13	0.16	4.10	楕円形	半円形	1	×		
70・71・72・79		Pit60	90-7F11	中世以降	Ⅲ	N-61°-W	(0.41)	-	(0.27)	-	0.19	4.08	-	台形状	1	×		
70・71・72		Pit61	90-7F11	中世以降	Ⅲ	N-61°-W	(0.26)	-	(0.14)	-	0.14	-	-	半円形	1	×		
70・71・72		Pit62	90-7E15、7F11	中世以降	Ⅲ	N-86°-W	0.24	0.21	0.16	0.14	0.06	-	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit65	90-7E15・20	中世以降	Ⅲ	N-30°-E	-	0.28	0.23	0.19	0.07	-	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit66	90-7E15・20	中世以降	Ⅲ	N-45°-E	0.24	0.20	0.16	0.10	0.08	-	楕円形	半円形	1	×		
70・71・72		Pit67	90-7E15	中世以降	Ⅲ	N-74°-W	-	0.22	0.15	0.11	0.08	-	楕円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit69	90-7F17	中世以降	Ⅲ	N-59°-W	-	0.20	-	0.19	0.17	-	-	半円形	1	×		
70・71・72		Pit70	90-7F17	中世以降	Ⅲ	N-59°-W	-	0.18	-	0.15	0.17	-	-	半円形	1	×		
70・71・72		Pit71	90-7F17	中世以降	Ⅲ	N-86°-W	0.30	0.24	0.22	0.16	0.12	-	楕円形	半円形	2	×		
70・71・72		Pit72	90-7F17	中世以降	Ⅲ	N-60°-W	(0.34)	-	(0.12)	-	0.16	-	-	U形状	2	×		
70・71・72		Pit73	90-7F11	中世以降	Ⅲ	N-31°-E	-	-	-	0.20	0.20	-	-	半円形	1	×		
70・71・72		Pit74	90-7F16	中世以降	Ⅲ	N-25°-W	0.18	0.16	0.10	0.08	0.13	-	円形	半円形	1	×		
70・71・72		Pit75	90-7E13	中世以降	Ⅲ	N-64°-W	(0.21)	-	(0.11)	-	0.12	-	-	台形状	1	×		
70・71・72		Pit76	90-7E8・13	中世以降	Ⅲ	N-64°-W	(0.30)	-	(0.17)	-	0.12	-	-	台形状	1	×		
70・71・72		Pit77	90-7E8・9	中世以降	Ⅲ	N-58°-E	0.39	0.31	0.20	0.15	0.11	-	楕円形	皿形	2	×		
70・71・72		Pit81	90-7D5	中世以降	Ⅲ	N-57°-W	0.21	0.19	0.04	0.04	0.21	-	円形	V形状	1	×		
70・71・72		Pit82	90-6D25、7D5	中世以降	Ⅲ	N-40°-E	0.21	0.18	0.09	0.05	0.13	-	楕円形	半円形	1	×		
70・71・72		Pit83	90-6D25	中世以降	Ⅲ	N-33°-E	0.22	-	0.08	0.07	0.09	-	円形	U形状	1	×		
70・71・72		Pit84	90-6D24	中世以降	Ⅲ	N-3°-E	-	0.19	0.06	0.05	0.11	-	円形	V形状	1	×		
70・71・72		Pit85	90-7E7	中世以降	Ⅲ	N-29°-E	0.19	0.17	0.08	0.06	0.10	-	円形	U形状	1	×		
70・71・72		Pit86	90-7E2・7	中世以降	Ⅲ	N-2°-W	0.22	0.20	0.07	0.06	0.06	-	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit87	90-7E2	中世以降	Ⅲ	N-25°-E	0.23	0.23	0.11	0.09	0.07	-	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit88	90-7E1	中世以降	Ⅲ	N-32°-E	0.28	0.27	0.09	0.07	0.14	-	円形	U形状	1	×		
70・71・72		Pit89	90-6E21	中世以降	Ⅲ	N-60°-W	0.35	0.31	0.13	0.11	0.10	-	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit90	90-8G6	中世以降	Ⅲ	N-56°-E	0.14	0.13	0.06	0.04	0.07	-	円形	半円形	1	×		
70・71・72		Pit91	90-7E2	中世以降	Ⅲ	N-62°-W	-	-	-	(0.14)	0.18	-	-	半円形	1	×		
70・71・72		Pit92	90-7E2	中世以降	Ⅲ	N-60°-W	(0.46)	-	(0.36)	-	0.16	-	-	皿形	2	×		
70・71・72		Pit93	90-6D18	中世以降	Ⅲ	N-28°-E	0.23	0.22	0.07	0.06	0.30	-	円形	U形状	1	×		
70・71・72		Pit94	90-7E1	中世以降	Ⅲ	N-60°-W	(0.17)	-	(0.09)	-	0.15	-	-	U形状	1	×		
70・71・72		Pit95	90-7F11	中世以降	Ⅲ	N-63°-W	(0.21)	-	(0.12)	-	0.10	-	-	半円形	1	×		
70・71・72		Pit96	90-8G8	中世以降	Ⅲ	N-87°-E	0.33	0.31	0.15	0.12	0.15	-	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit97	90-8G2	中世以降	Ⅲ	N-80°-E	0.36	0.24	0.22	0.12	0.17	-	楕円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit98	90-7F12	近世	Ⅱ	N-61°-W	(0.30)	-	(0.10)	-	0.18	-	-	V形状	1	×		
70・71・72		Pit100	90-7F18	中世以降	Ⅲ	N-86°-E	0.27	-	0.11	0.10	0.07	-	楕円形	皿形	1	×		

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	備考
							上端		下端		深度		平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
70・71・72		Pit101	90-7F18	中世以降	Ⅲ	N-25°-W	0.25	0.22	0.09	0.07	0.14	-	円形	U字状	1	×		
70・71・72		Pit102	90-7F18	中世以降	Ⅲ	N-62°-W	0.19	0.15	0.08	0.08	0.18	-	楕円形	U字状	2	×		
70・71・72		Pit103	90-7F18	中世以降	Ⅲ	N-61°-W	(0.21)	-	(0.13)	-	0.13	-	円形	半円形	1	×		
70・71・72		Pit104	90-7F25	中世以降	Ⅲ	N-66°-E	(0.15)	(0.15)	(0.09)	0.06	0.08	-	円形	半円形	1	×		
70・71・72		Pit105	90-7F25	中世以降	Ⅲ	N-62°-E	0.18	0.15	0.08	0.07	0.08	-	円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit106	90-7F25	中世以降	Ⅲ	N-60°-W	(0.29)	-	(0.24)	-	0.07	-	-	皿形	2	×		
70・71・72		Pit107	90-7F24・25	中世以降	Ⅲ	N-39°-E	(0.25)	-	0.10	0.09	0.17	-	-	U字状	3	×		
70・71・72		Pit108	90-8G7	中世以降	Ⅲ	N-81°-W	(0.40)	0.31	(0.23)	0.15	0.09	-	楕円形	皿形	1	×		
70・71・72		Pit109	90-7F19・24	中世以降	Ⅲ	N-30°-E	-	(0.28)	-	(0.12)	0.12	-	-	皿形	1	×		
70・71・72		Pit110	90-7F24	中世以降	Ⅲ	N-10°-E	-	(0.15)	-	0.08	0.18	-	楕円形	U字状	1	×		
70・71・72		Pit111	90-7F11	中世以降	Ⅲ	N-5°-W	0.21	0.18	0.11	0.09	0.14	-	円形	箱形	1	×		

第9次調査

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	備考
							上端		下端		深度		平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
75・78		SE113	10P-2E23	中世以降	Ⅲ	N-87°-E	(1.1)	(0.8)	(0.5)	(0.5)	0.38	3.46	方形	台形状	3	○		
75・78		SE124	10P-3G22・23、4G2・3	中世以降	Ⅲ	N-88°-E	1.2	1.1	0.6	0.5	0.48	3.60	楕円形	台形状	2	○		>河1
74・79		SK128	10P-1A5	中世以降	Ⅲ	N-25°-E	0.6	(0.2)	0.4	(0.1)	0.22	3.90	楕円形	皿形	1	×		
74・79		SX125	10P-1B10・15	中世以降	Ⅲ	N-54°-E	0.7	0.6	0.4	0.3	0.24	4.08	不整形	皿形	2	○		
76・80・81		SD112	10P-5I10・15	中世以降	Ⅲ	N-6°-W	(2.0)	1.2	-	0.4	0.24	4.52	-	台形状	5	○	82	
75・80・81		SD115	10P-4G4・9	中世以降	Ⅲ	N-12°-W	(2.1)	0.5	-	0.3	0.06	4.72	-	皿形	1	×		畝状小溝
75・77・80・81		SD116	10P-4G5・10・19	中世以降	Ⅲ	N-15°-W	(2.5)	0.4	-	0.2	0.12	4.24	-	台形状	1	×		畝状小溝
75・77・80		SD117	10P-4G10・19	中世以降	Ⅲ	N-5°-W	(1.8)	0.4	-	0.3	0.10	4.30	-	箱形	1	×		畝状小溝
75・80		SD118	10P-4H6・11・12	中世以降	Ⅲ	N-12°-W	(2.2)	0.4	(2.1)	0.3	0.22	4.08	-	台形状	2	○	82	畝状小溝
75・80・81		SD120	10P-2D15・20、2E11・16・21	中世以降	Ⅲ	N-2°-W	(1.1)	-	-	-	0.34	3.88	-	台形状	3	○		
76・80		SD122	10P-5I2・3・8、4I22	中世以降	Ⅲ	N-12°-W	(2.5)	0.4	-	0.2	0.10	4.26	-	皿形	1	×		
76・81		SD123	10P-5J6・11	中世以降	Ⅲ	N-2°-W	(2.0)	-	-	-	0.12	4.62	-	台形状	2	×		
74		Pit119	10P-2D14	中世以降	Ⅲ	N-65°-W	0.3	0.3	0.1	0.1	0.72	-	楕円形	U字状	2	×		
75・80		Pit121	10P-2D15	中世以降	Ⅲ	N-75°-E	0.6	(0.5)	0.3	0.2	0.30	3.96	楕円形	U字状	2	×		
74・80		Pit126	10P-1B15、1C11	中世以降	Ⅲ	N-84°-E	0.6	0.5	0.1	0.1	0.26	4.06	楕円形	台形状	3	○		
75		Pit127	10P-3G22	中世以降	Ⅲ	N-70°-E	0.3	(0.2)	0.2	(0.1)	0.16	-	楕円形	台形状	1	×		
75・78・81		河1	10P-2E22、3E3・4他	近世	Ⅱ	N-30°-E	-	-	-	-	0.7	5.04	-	台形状	5	○	82	>SE113
76・81		河2	10P-5J17・18他	近世	Ⅱ	N-17°-E	-	-	-	-	0.22	4.38	-	皿形	5	○		

別表 10 内野遺跡 第 8・9 次調査 土器・陶器観察表

凡 例

- 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
- 器 種 第三章に記した。
- 器高指数 器高/口径×100
- 底径指数 底径/口径×100
- 法 量 口径・底径・器高値を示す。括弧付の数値は遺存率の低いものの推定値である。
- 胎 土 土器の胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「焼」は焼土粒、「白」は白色凝灰岩、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。
- 色 調 『新版標準土色帳』[小山・竹原 1967] を用いて色調を記した。
- 焼 成 酸化炎焼成・還元炎焼成の区別を記した。須恵器で酸化炎焼成としたものは褐色あるいは橙色の色調で軟質なものを表す。白色・灰白色のものは含めていない。
- 手 法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」「ヘラ切り」はいずれもロクロまたは回転台を用いた切り離し手法を示し、観察可能なものは回転方向も合わせて記した。底部調整は砂粒の動き等から判断した。
- 遺 存 率 口径部残存率法 [宇野 1992] を用いて分数表示で遺存割合を記した。

図版 No.	報告 No.	調査 年次	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土	産地	色調	焼成	手 法				残存率		付着物		備 考
			区	遺構名					グリッド	口径	底径							器高	外面	内面	底部	回転方向	口径部	底部	外面	
82	1	8 次	-	9O-7E2	II	須恵器	無台杯	B2	12.2	7.4	2.7	22	61	長	新津	灰白 (7.5Y8/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		5/36	9/36	スス?		転用?
82	2	8 次	-	9O-8F5	I	須恵器	有台杯	A?		8.8	(0.9)			長	新津	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切			9/36			
82	3	8 次	-	9O-8H21	I	須恵器	甕	B	(17.6)		(3.8)			石・長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3.5/36				
82	4	8 次	-	9O-6D25	II	珠洲焼	壺T種				(3.5)			石・長	珠洲	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ→ 平行タタキ	ロクロナデ→ 当具痕							
82	5	8 次	-	9O-7F24	II	珠洲焼	甕				5.1			長・海	珠洲	灰 (N6/0)	還元	平行タタキ	無文当具痕							
82	6	9 次	SD112	10P-5I15		須恵器	横瓶				(1.2)			石・長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	平行タタキ	同心円当具痕							
82	7	9 次	SD118	10P-4H11		須恵器	無台杯			7.6	(1.0)			長	小泊	青灰 (5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切		8/36				
82	8	9 次	河 1	10P-3E4	4	土師器	無台碗			6.0	(2.1)			石・長・海		明褐灰 (7.5YR7/2)	酸化	ロクロナデ	風化のため不明	糸切	右		9/36			
82	9	9 次	河 1	10P-3E4	4	須恵器	長頸瓶	A			(1.9)			石・長	小泊	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ→ ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切						
82	10	9 次	河 1	10P-3F12	下	須恵器	甕				(2.7)			石・長	新津?	灰白 (N7/0)	還元	平行タタキ	同心円当具痕							
82	11	9 次	-	10P-4I21	II	土師器	小甕	B	(12.0)		(2.2)			石・長		淡橙 (5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36				
82	12	9 次	-	10P-1C11	II b	土師器	小甕			7.4	(10.1)			石・長		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ→ カキメ	ロクロナデ	不明			30/36	スス	アク?	阿賀北の須恵器・土師器の胎土に類似
82	13	9 次	-	10P-1C11	II b	土師器	長甕	A	(21.4)		(7.7)			石・長・白?		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ カキメ	ロクロナデ→ カキメ			4.5/36				
82	14	9 次	-	10P-1B15	II b	土師器	長甕	B	(22.4)		(6.2)			長・チ・角		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ カキメ	ロクロナデ			5/36		スス		
82	15	9 次	-	10P-1C11	II・II b	土師器	長甕			3.0	(6.1)			石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	平行タタキ	当具痕、ハケメ			36/36		スス?		
82	16	9 次	-	10P-1C11	II b・II c	土師器	鍋	A			(6.5)			石・長		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ→ カキメ	ロクロナデ							
82	17	9 次	-	10P-1B9 10P-1C11	I I・II b・II	須恵器	無台杯	A1	11.4	7.8	3.1	27	68	長・海	小泊	青灰 (5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	左	15/36	33/36			
82	18	9 次	-	10P-1B9 10P-1B10 10P-1C11	I・II b	須恵器	杯蓋		(15.6)		(2.2)			石・長・海	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ→ 頂部ケズリ	ロクロナデ	ヘラ切	左	5/36				
82	19	9 次	-	10P-1C11	I	須恵器	無台杯	B1	11.8	8.2	3.0	25	69	長・海	小泊	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切		8/36	8/36			
82	20	9 次	-	10P-1C11	I	須恵器	無台杯	B	(13.6)		(3.7)			長・海	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36				
82	21	9 次	-	10P-1C11	I	須恵器	無台杯			8.0	(2.6)			長・海	小泊	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切		6/36				
82	22	9 次	-	10P-1C17	I	須恵器	無台杯			7.6	(1.3)			長	小泊	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	左	7/36				

別表 11 内野遺跡 第 8・9 次調査 石製品観察表

図版 No.	報告 No.	調査 年次	出土位置		層位	器種	石材	法量 (mm)			重量 (g)	備 考
			区	遺構名				グリッド	長さ	幅		
82	23	8 次	SK99	9O-7E10		磨石	花崗岩	89.0	89.0	28.0	34.0	叩石として使用後磨石に転用か

別表 12 内野遺跡 第8次調査 遺構出土古代土器器種構成率

1 遺構から出土した古代土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法〔宇野 1992、春日 1994〕とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は¹/₃₆を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

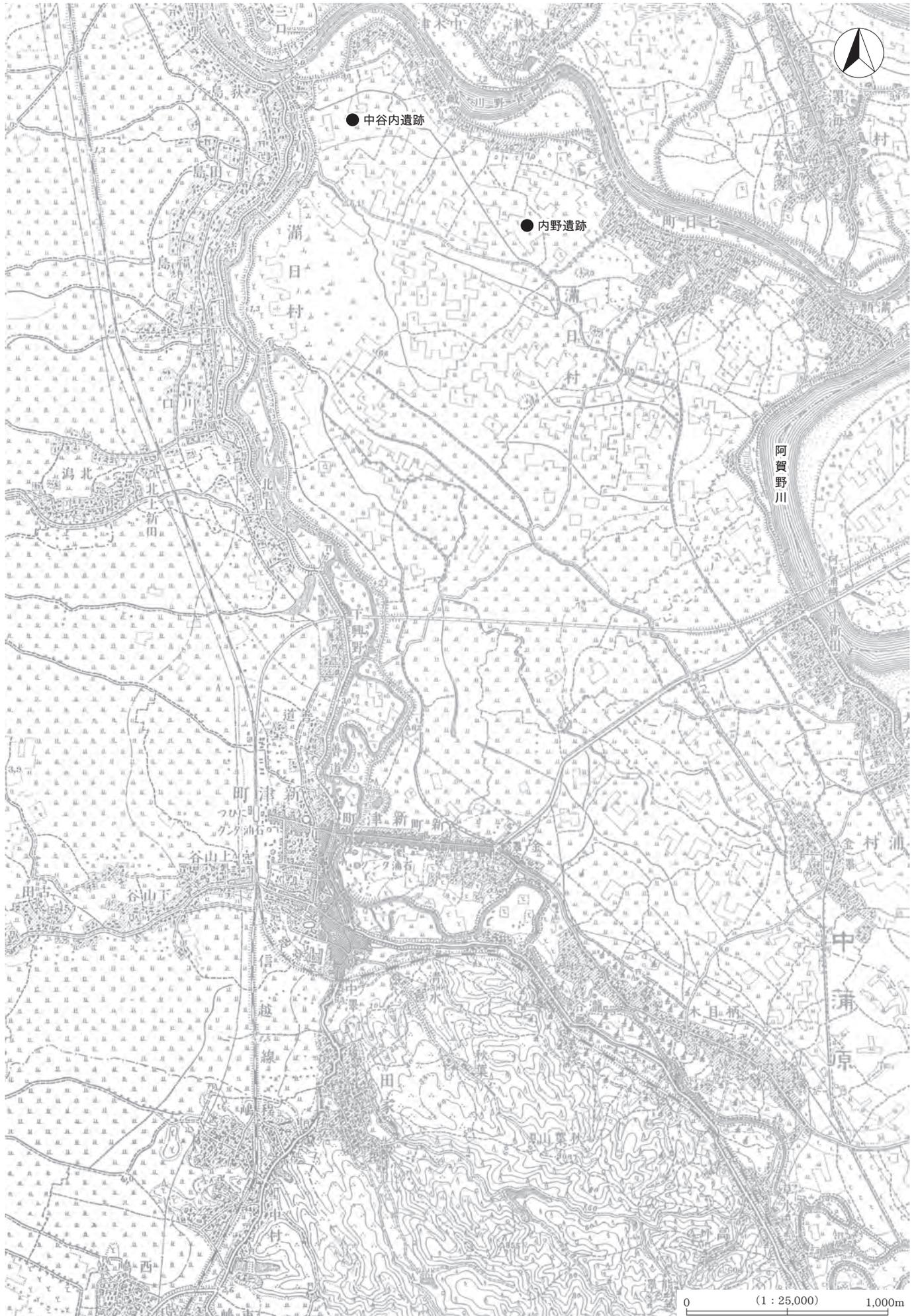
遺構名	種別 計測法	食 膳 具						煮 炊 具			貯 蔵 具			合 計		
		土 師 器		黒 色 土 器		須 恵 器		土 師 器			須 恵 器					
		無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 甕	小 甕	鍋	甕	長頸瓶	短頸壺	横 瓶
SE1	口縁値															
	口縁数(点)															
	底残値															
	底部数(点)															
	総点数(点)	3	100.00%													3
総重量(g)	2	100.00%													2	

別表 13 内野遺跡 第9次調査 遺構出土古代土器器種構成率

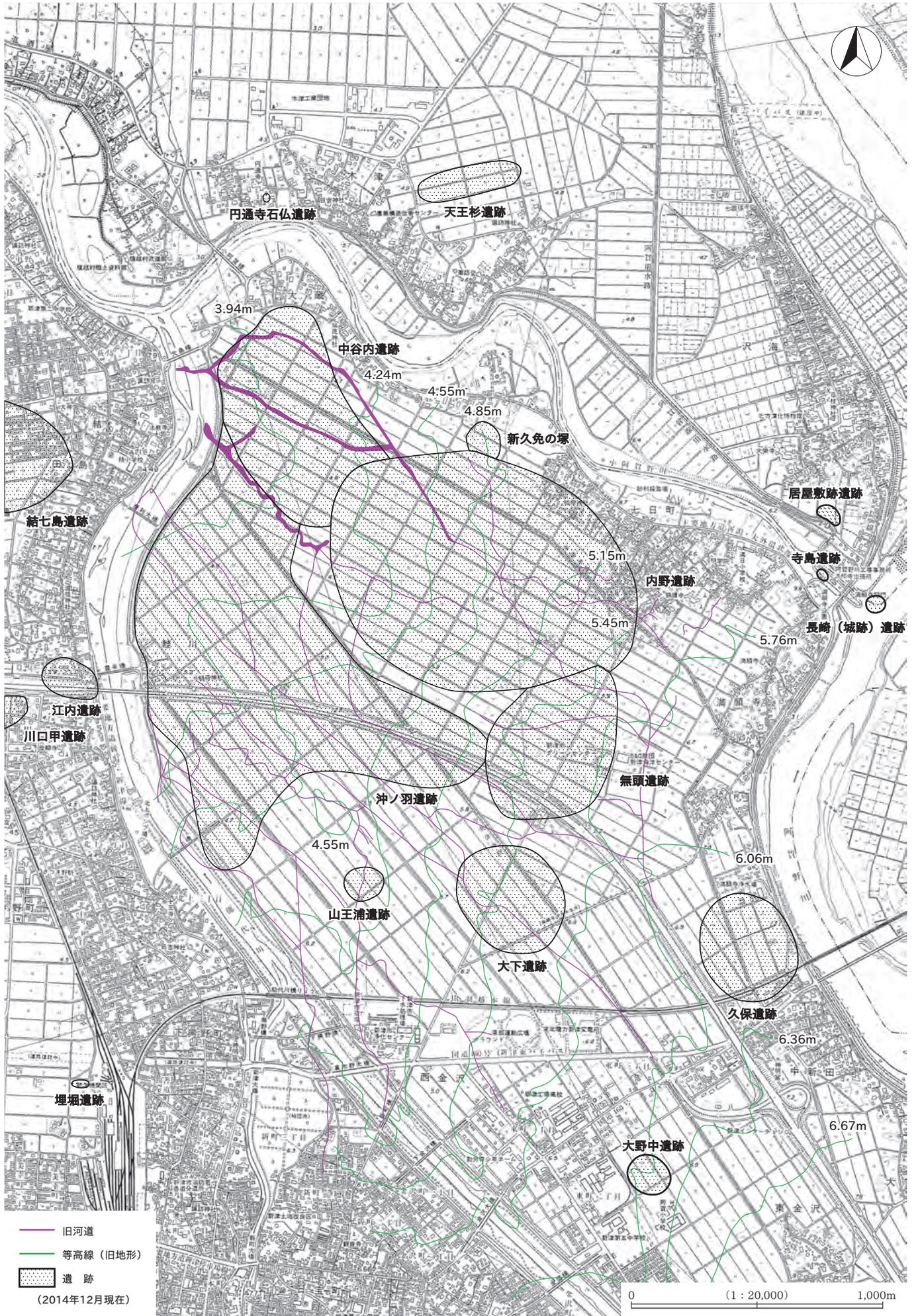
1 遺構から出土した古代土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法〔宇野 1992、春日 1994〕とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は¹/₃₆を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

遺構名	種別 計測法	食 膳 具						煮 炊 具			貯 蔵 具			合 計		
		土 師 器		黒 色 土 器		須 恵 器		土 師 器			須 恵 器					
		無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	長 甕	小 甕	鍋	甕	長頸瓶	短頸壺	横 瓶
SE113	口縁値															
	口縁数(点)															
	底残値															
	底部数(点)															
	総点数(点)									1	100.00%					
総重量(g)									13	100.00%						13
SE124	口縁値															
	口縁数(点)															
	底残値															
	底部数(点)															
	総点数(点)									1	100.00%					
総重量(g)									8	100.00%						8
SX125	口縁値										0.05	50.00%	0.05	50.00%		
	口縁数(点)									1	50.00%	1	50.00%			
	底残値															
	底部数(点)															
	総点数(点)	1	7.15%				5	35.71%		4	28.57%	3	21.42%	1	7.15%	14
総重量(g)	1	1.45%				6	8.69%		46	66.66%	4	5.80%	12	17.40%	69	
SD112	口縁値															
	口縁数(点)															
	底残値															
	底部数(点)															
	総点数(点)	5	83.34%										1	16.66%		6
総重量(g)	4	11.77%										30	88.23%		34	
SD117	口縁値															
	口縁数(点)															
	底残値															
	底部数(点)															
	総点数(点)	6	54.54%							2	18.18%	1	9.10%	2	18.18%	11
総重量(g)	2	4.87%							24	58.53%	5	12.20%	10	24.40%	41	
SD118	口縁値															
	口縁数(点)															
	底残値						0.16	100.00%								0.16
	底部数(点)						1	100.00%								1
	総点数(点)	1	50.00%				1	50.00%								2
総重量(g)	2	14.28%				12	85.72%								14	
SD120	口縁値											0.05	100.00%			
	口縁数(点)										1	100.00%				
	底残値															
	底部数(点)															
	総点数(点)									1	50.00%		1	50.00%		2
総重量(g)									1	4.16%		23	95.84%		24	
Pit126	口縁値															
	口縁数(点)															
	底残値															
	底部数(点)															
	総点数(点)							1	10.00%							
総重量(g)							1	2.08%								48
河 1	口縁値															
	口縁数(点)															
	底残値	0.33	80.48%													0.41
	底部数(点)	2	66.67%													3
	総点数(点)	12	31.57%					1	2.64%	13	34.21%	9	23.68%	2	5.26%	1
総重量(g)	22	8.56%					6	2.33%	75	29.18%	33	12.85%	79	30.73%	42	16.35%

圖 版







(新津町外二ヶ村開田耕作地整理組合 1922)
 (新津町東部整理組合 1940)
 [小池ほか 1994] から作成

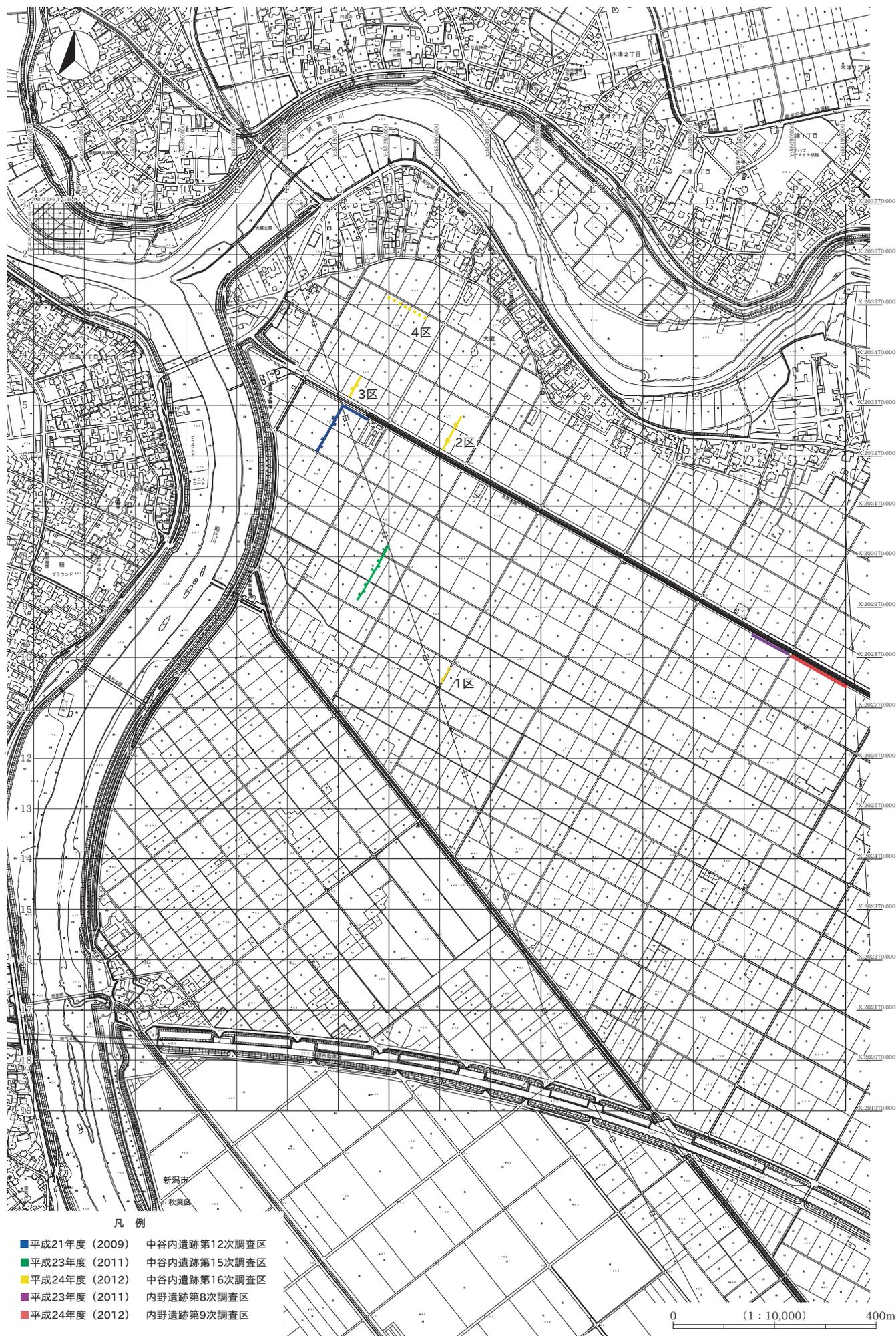


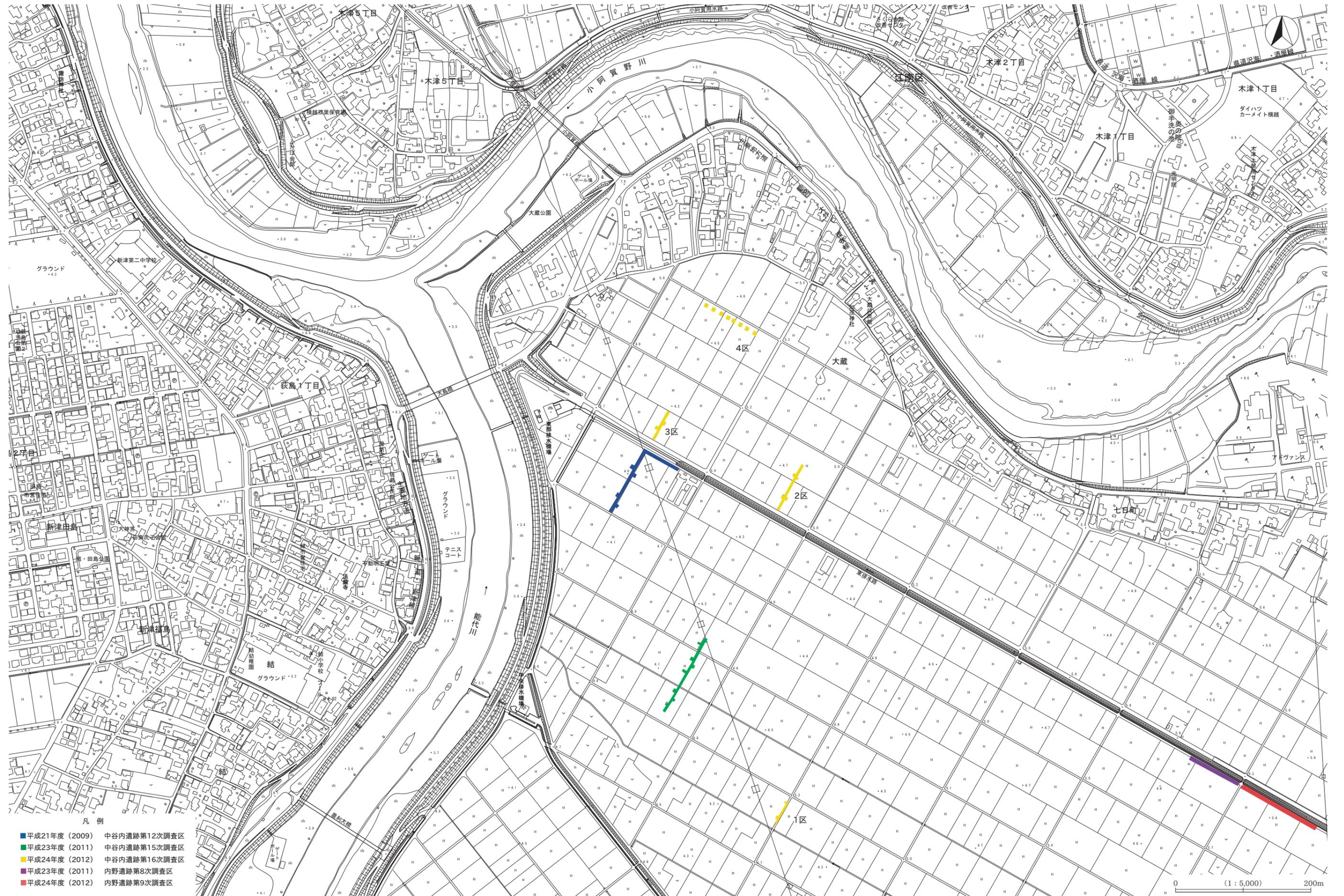
凡 例

- 遺構、遺物が検出されたトレンチ
- 遺構、遺物が検出されなかったトレンチ
- 圃場範囲

0 (1 : 12,500) 500m

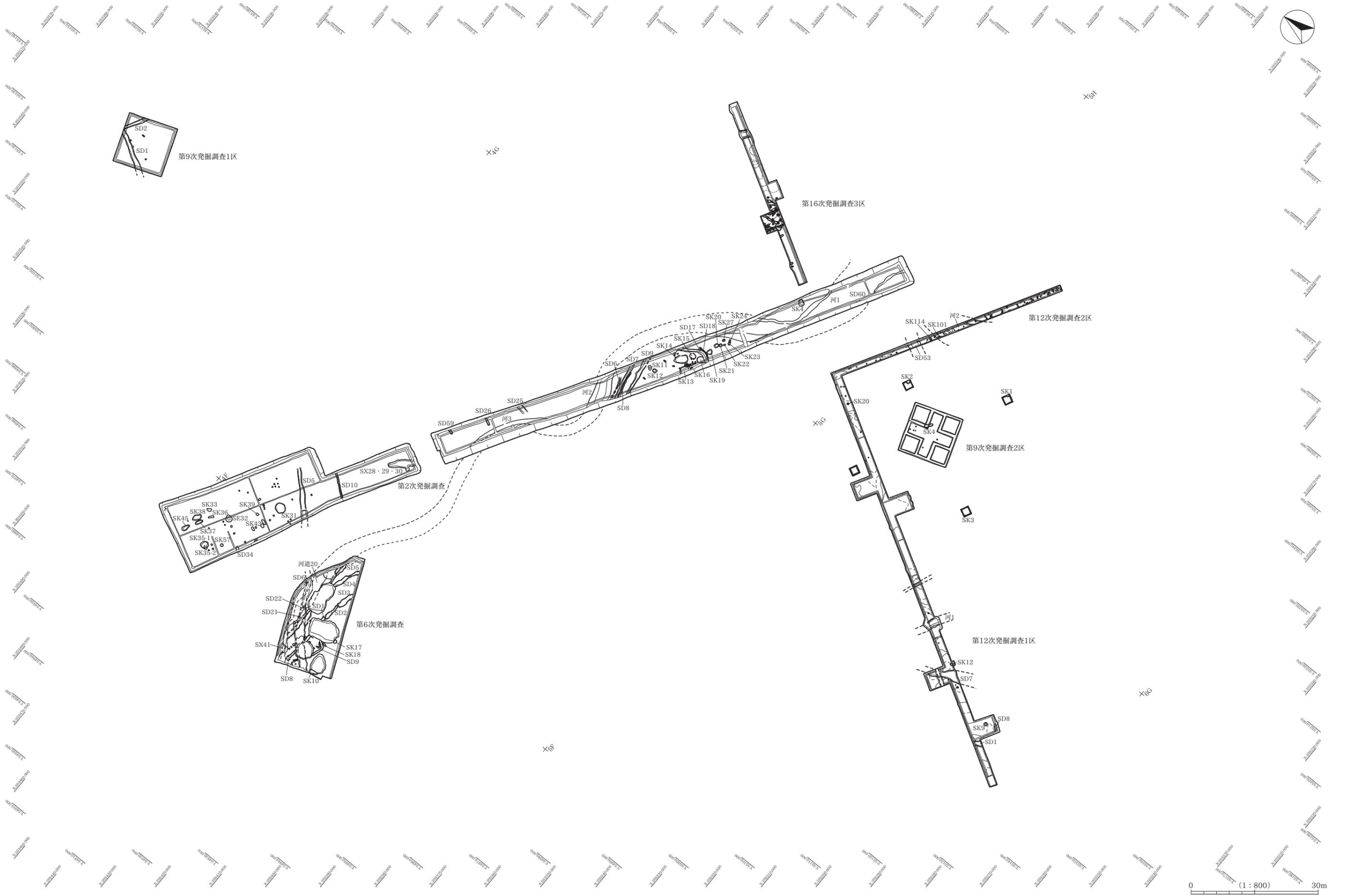
満日地区圃場整備に伴う試掘調査データをもとに作成

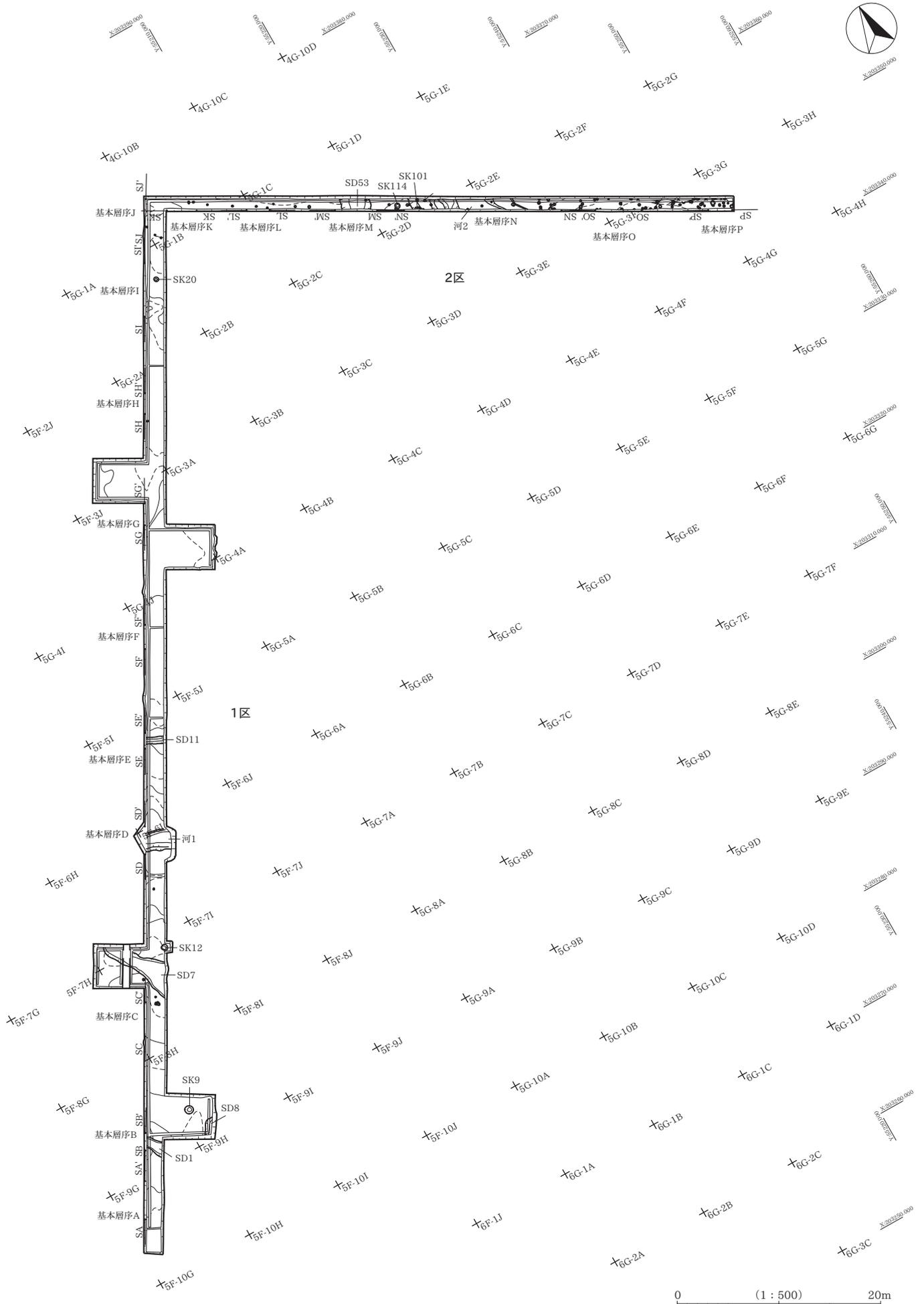


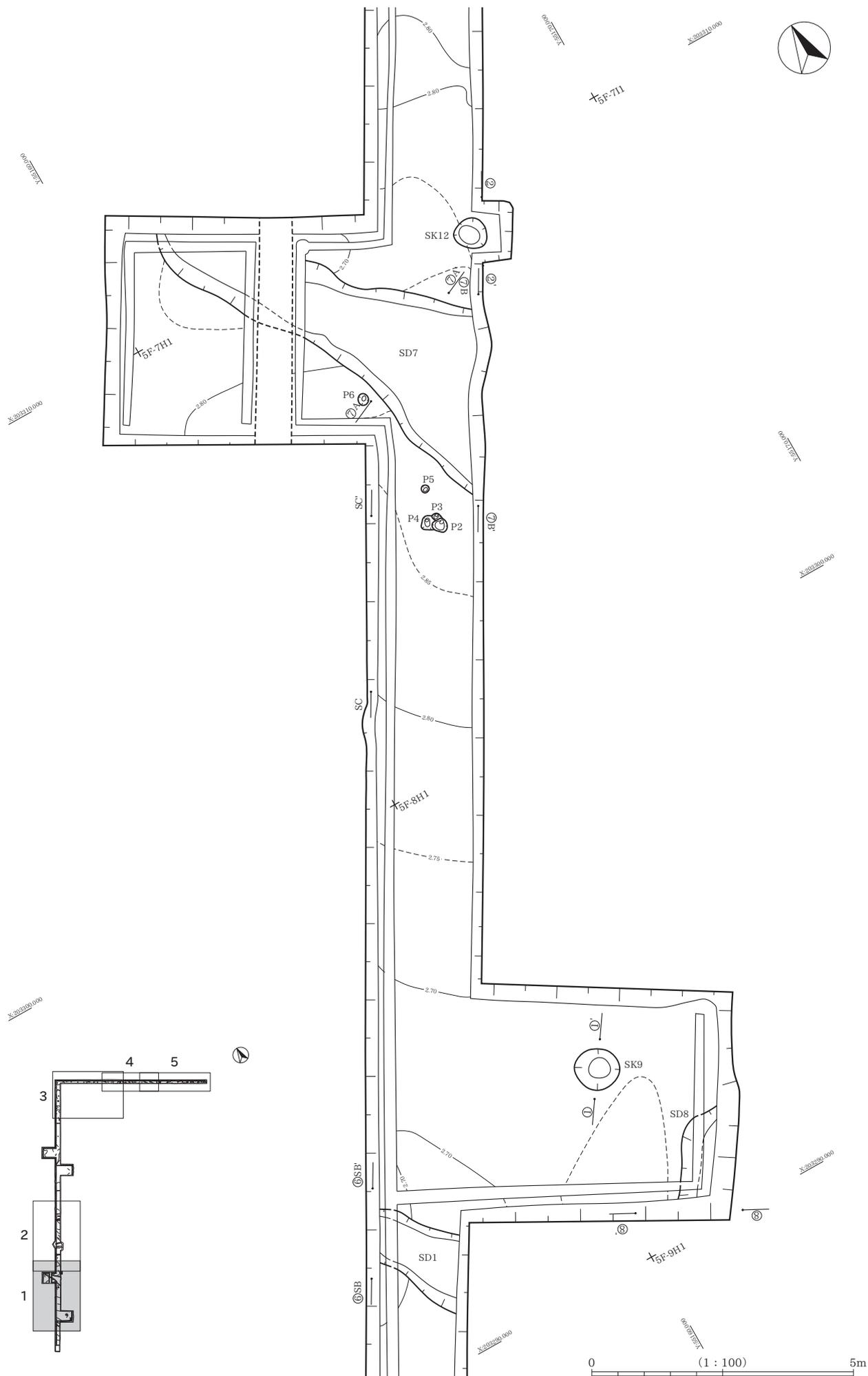


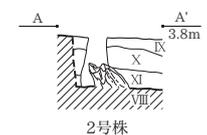
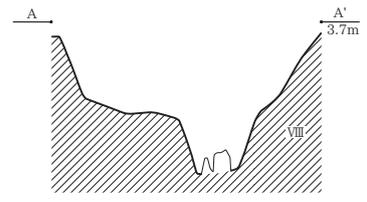
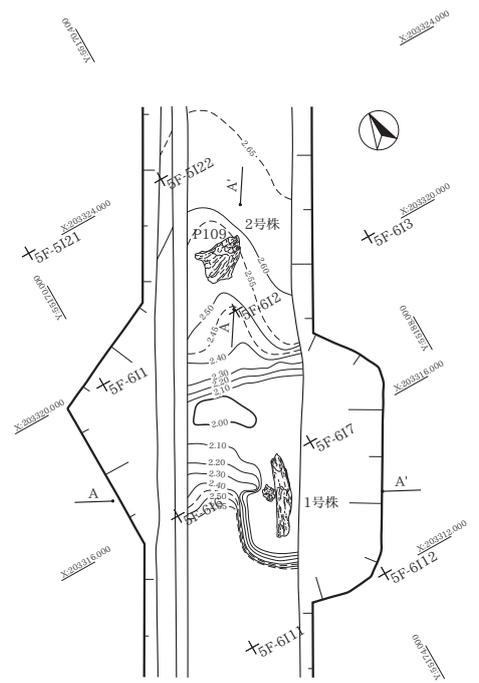
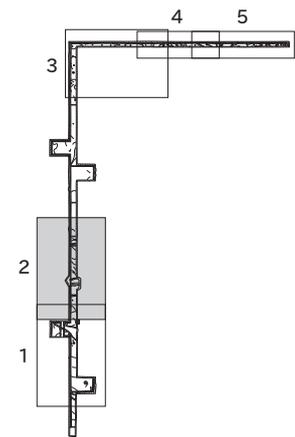
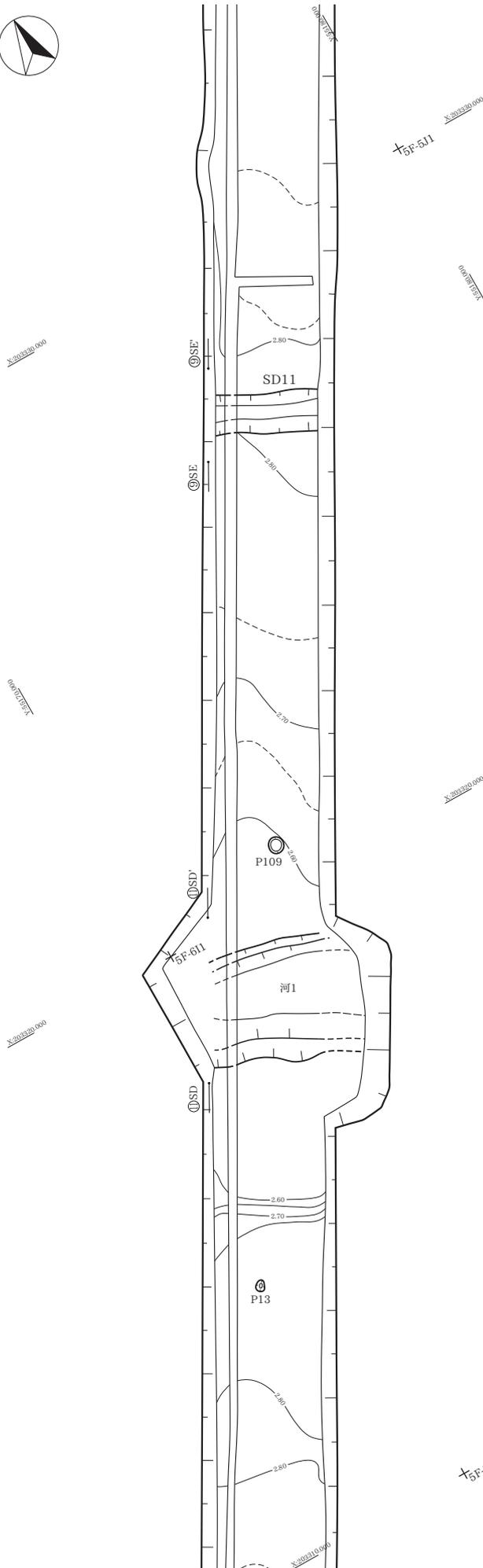
- 凡例
- 平成21年度 (2009) 中谷内遺跡第12次調査区
 - 平成23年度 (2011) 中谷内遺跡第15次調査区
 - 平成24年度 (2012) 中谷内遺跡第16次調査区
 - 平成23年度 (2011) 内野遺跡第8次調査区
 - 平成24年度 (2012) 内野遺跡第9次調査区

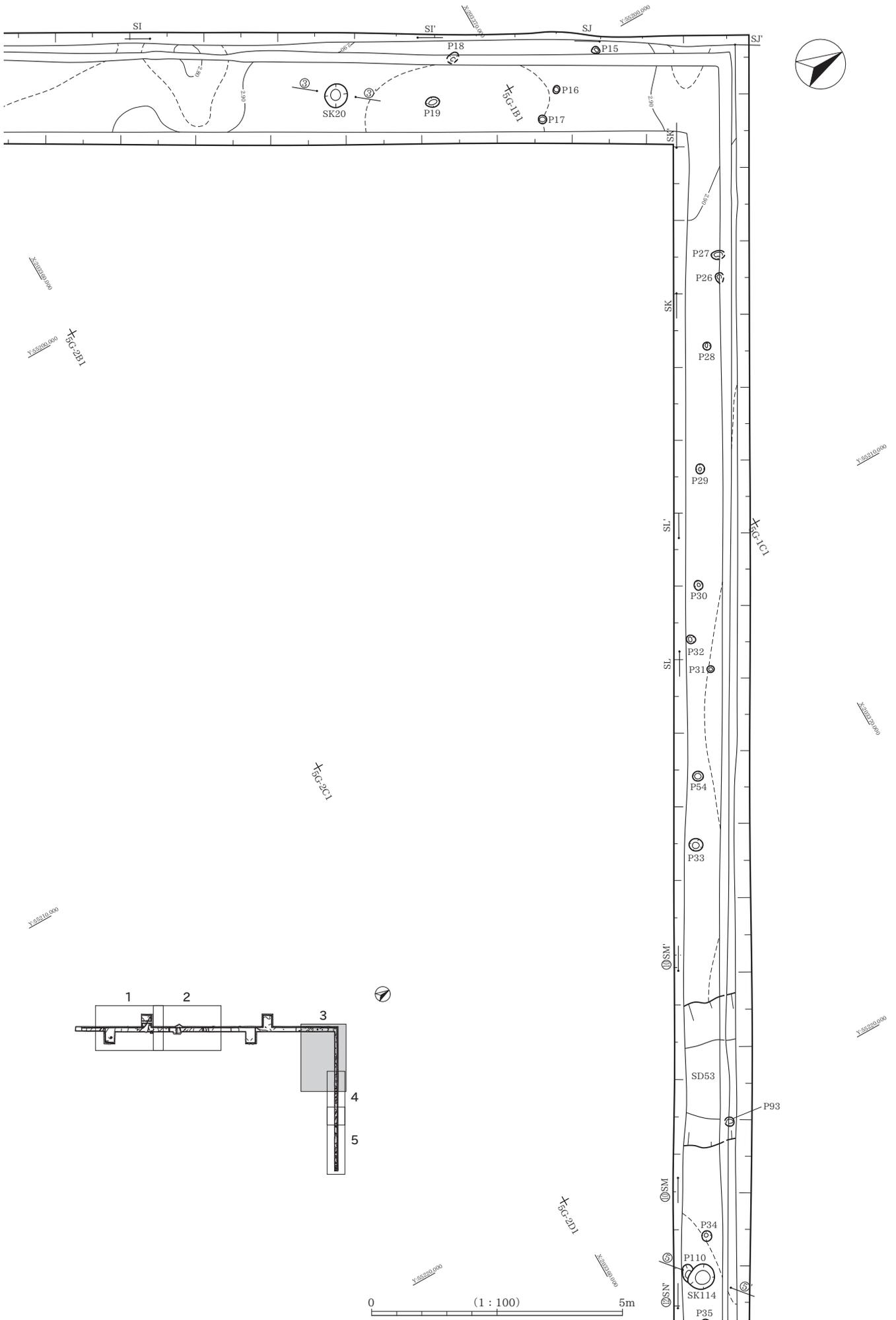
0 (1:5,000) 200m







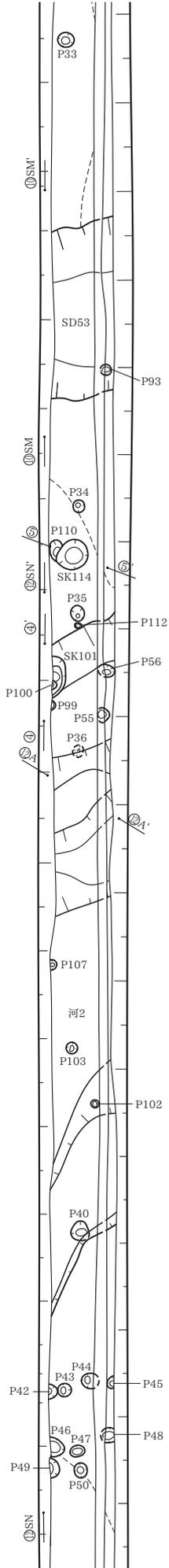






Y.55201.000

Y.55201.000
15G-2D1



Y.55201.000
Y.55201.000

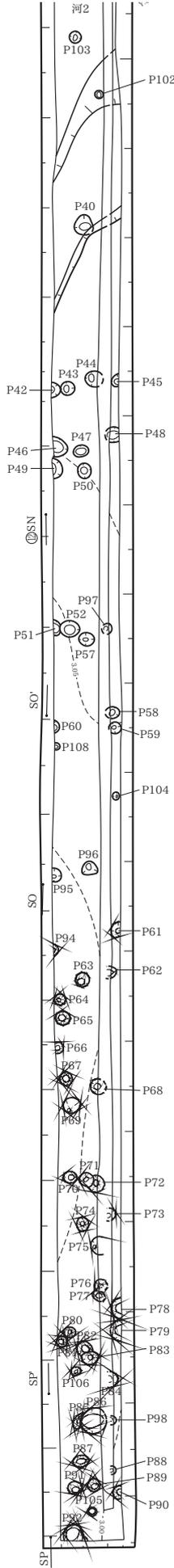
Y.55201.000

Y.55201.000
15G-3F1

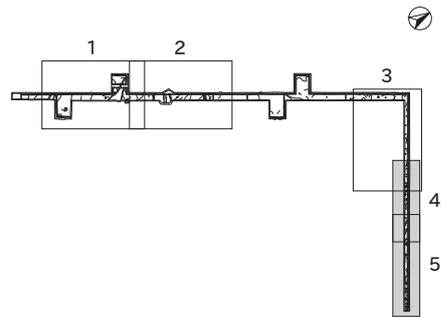
Y.55201.000
15G-2E1

Y.55201.000

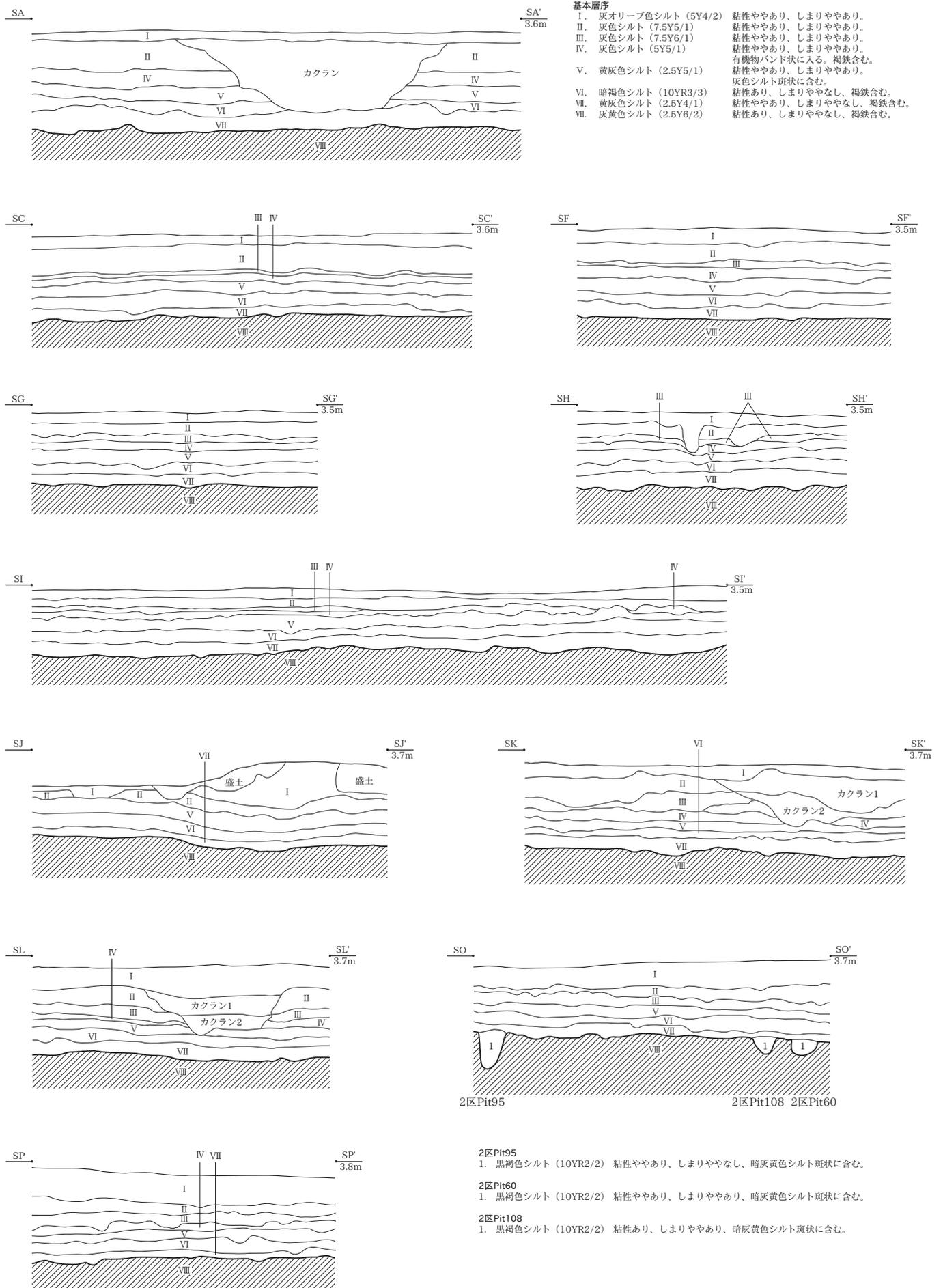
Y.55201.000

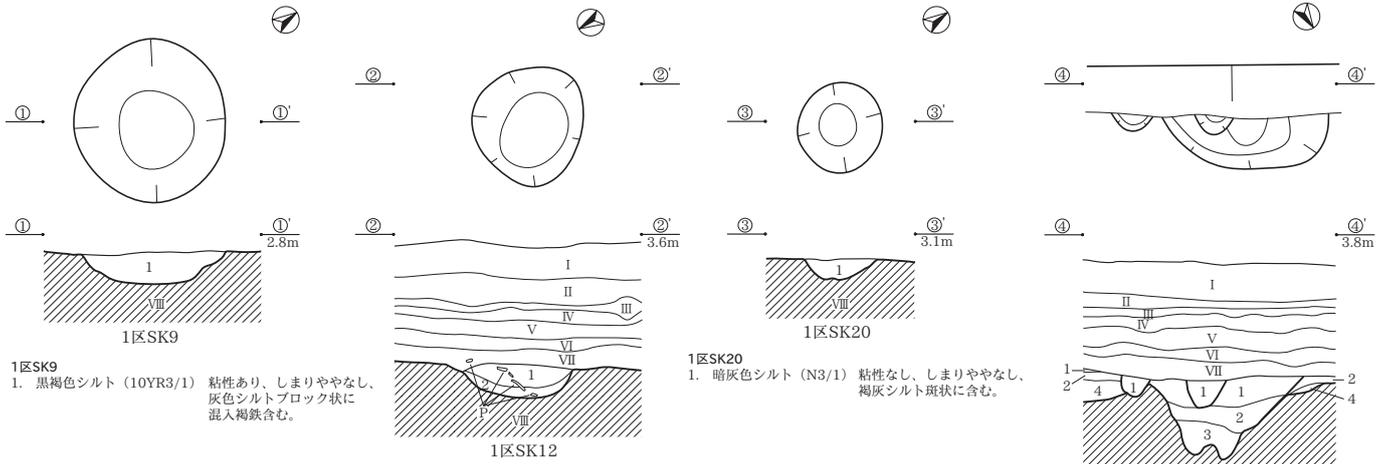


Y.55201.000



0 (1 : 100) 5m



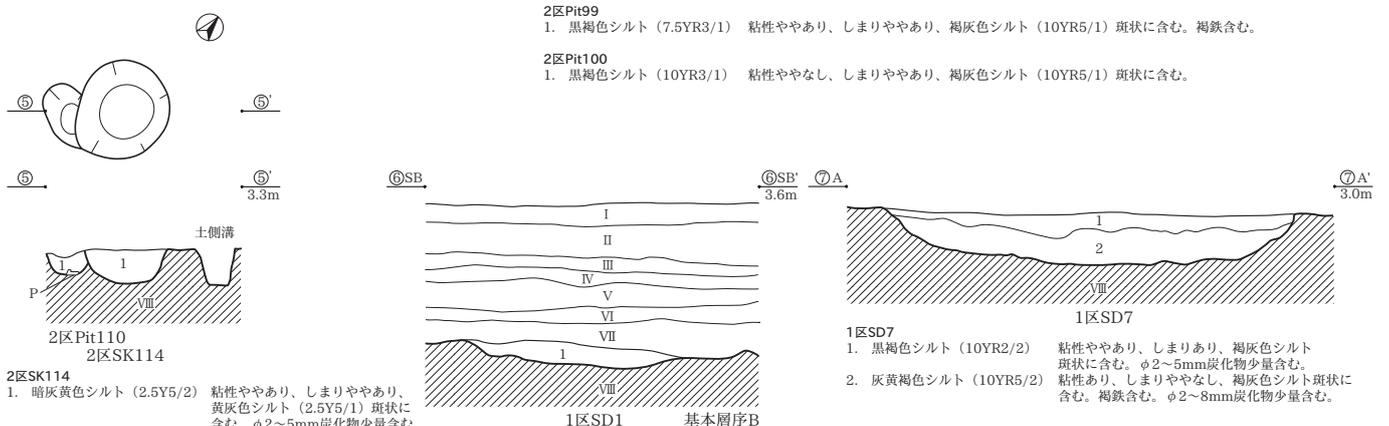


1区SK9
1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりややなし、灰色シルトブロック状に混入褐鉄含む。

1区SK12
1. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややなし、しまりややなし、灰色シルト斑状に含む。
2. 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性ややあり、しまりややなし、黄灰色シルト斑状に含む。

1区SK20
1. 暗灰色シルト (N3/1) 粘性なし、しまりややなし、褐灰色シルト斑状に含む。

2区SK101
1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、黒褐色シルト (7.5YR3/1) 斑状に含む。φ2~5mm炭化物少量含む。
2. 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややなし、しまりややなし、黄灰色シルト (2.5Y5/1) 斑状に含む。
3. 灰色砂質シルト (7.5Y5/1) 粘性ややなし、しまりややなし、オリブ黒色シルト (10Y3/1) 層状にφ2~3mm炭化物少量含む。

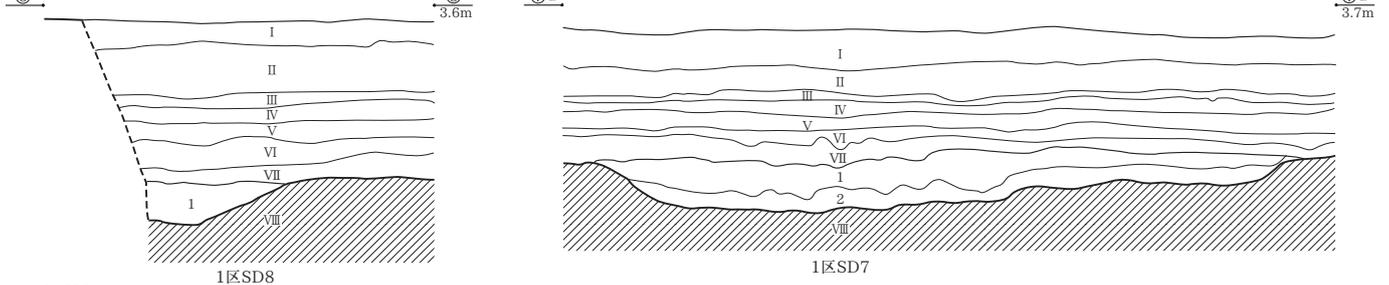


2区Pit99
1. 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり、褐灰色シルト (10YR5/1) 斑状に含む。褐鉄含む。

2区Pit100
1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややなし、しまりややあり、褐灰色シルト (10YR5/1) 斑状に含む。

1区SD1
1. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりややなし、Ⅶ層灰色シルトブロック状に含む。褐鉄含む。

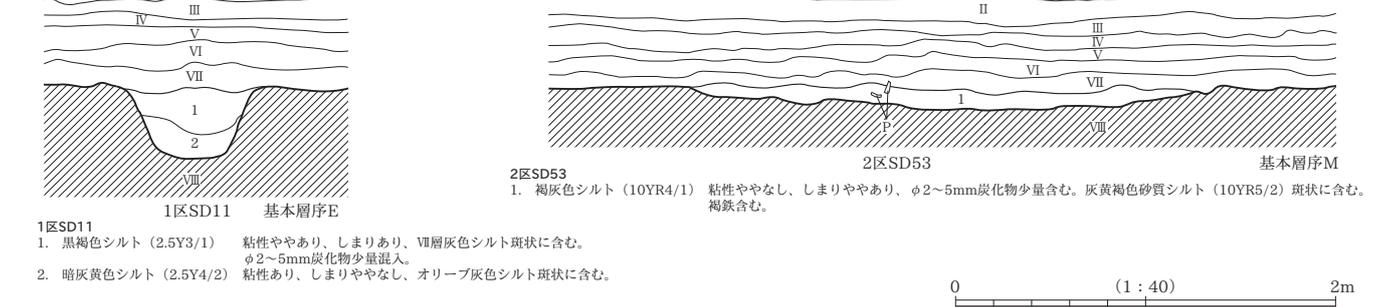
1区SD7
1. 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性ややあり、しまりあり、褐灰色シルト斑状に含む。φ2~5mm炭化物少量含む。
2. 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりややなし、褐灰色シルト斑状に含む。褐鉄含む。φ2~8mm炭化物少量含む。



1区SD8
1. 黒色粘土層 (7.5YR2/1) 粘性あり、しまりややなし、褐鉄含む。φ2~3mm炭化物少量含む。

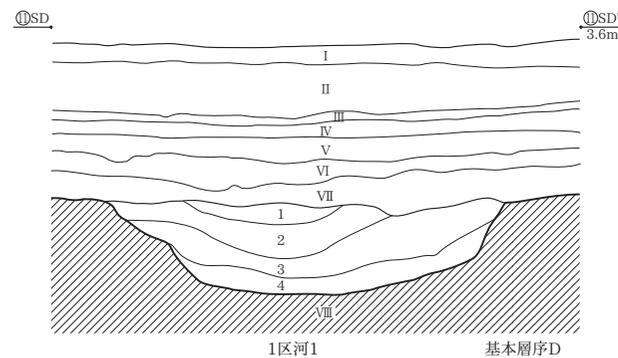
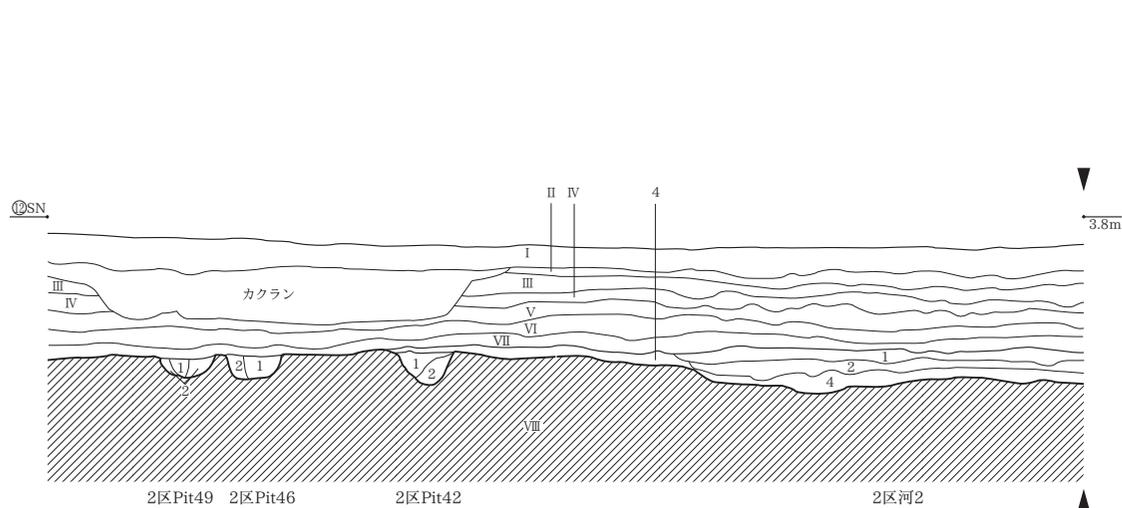
1区SD11
1. 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性ややあり、しまりあり、Ⅶ層灰色シルト斑状に含む。φ2~5mm炭化物少量混入。
2. 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりややなし、オリブ灰色シルト斑状に含む。

2区SD53
1. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややなし、しまりややあり、φ2~5mm炭化物少量含む、灰黄褐色砂質シルト (10YR5/2) 斑状に含む。褐鉄含む。

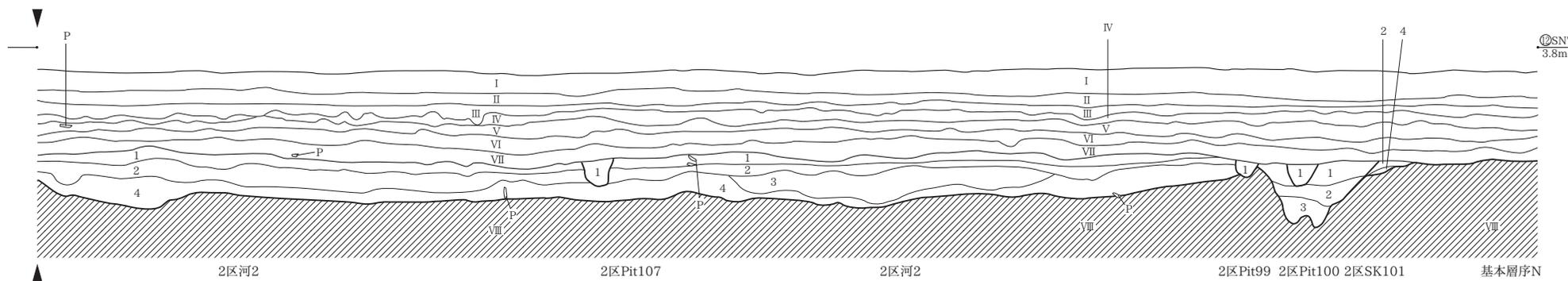


1区SD11
1. 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性ややあり、しまりあり、Ⅶ層灰色シルト斑状に含む。φ2~5mm炭化物少量混入。
2. 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりややなし、オリブ灰色シルト斑状に含む。

2区SD53
1. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややなし、しまりややあり、φ2~5mm炭化物少量含む、灰黄褐色砂質シルト (10YR5/2) 斑状に含む。褐鉄含む。



- 1区河1
- 1. 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性ややあり、しまりややなし、褐鉄含む。
 - 2. 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり、3層灰色シルト斑状に含む。φ2~3mm炭化物少量含む。
 - 3. 灰色シルト (10Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、φ5~8mm炭化物少量混入。2層灰色シルト斑状に含む。植物根含む。
 - 4. 緑灰色シルト (7.5GY5/1) 粘性ややなし、しまりややあり、2層灰色シルト斑状に含む。植物根含む。



2区河2

- 1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり、褐色シルト・暗灰色シルト斑状に含む。φ2~3mm炭化物少量含む。
- 2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、灰黄色シルト斑状に含む。φ2~10mm炭化物中量含む。
- 3. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、灰黄色シルト斑状に含む。φ2~10mm炭化物多量混入。一部ベルト状に含む。
- 4. 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややなし、しまりややあり、褐灰色シルト (3層、10YR4/1) 斑状に含む。φ2~3mm炭化物少量含む。

2区Pit107

- 1. 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり、暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) 斑状に含む。

2区Pit42

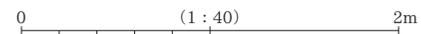
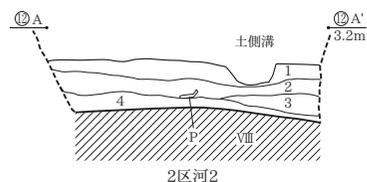
- 1. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややなし、暗灰色シルト (N3/) 斑状に含む。
- 2. 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややなし、しまりややあり、褐灰色シルト (10YR4/1) 斑状に含む。植物根含む。

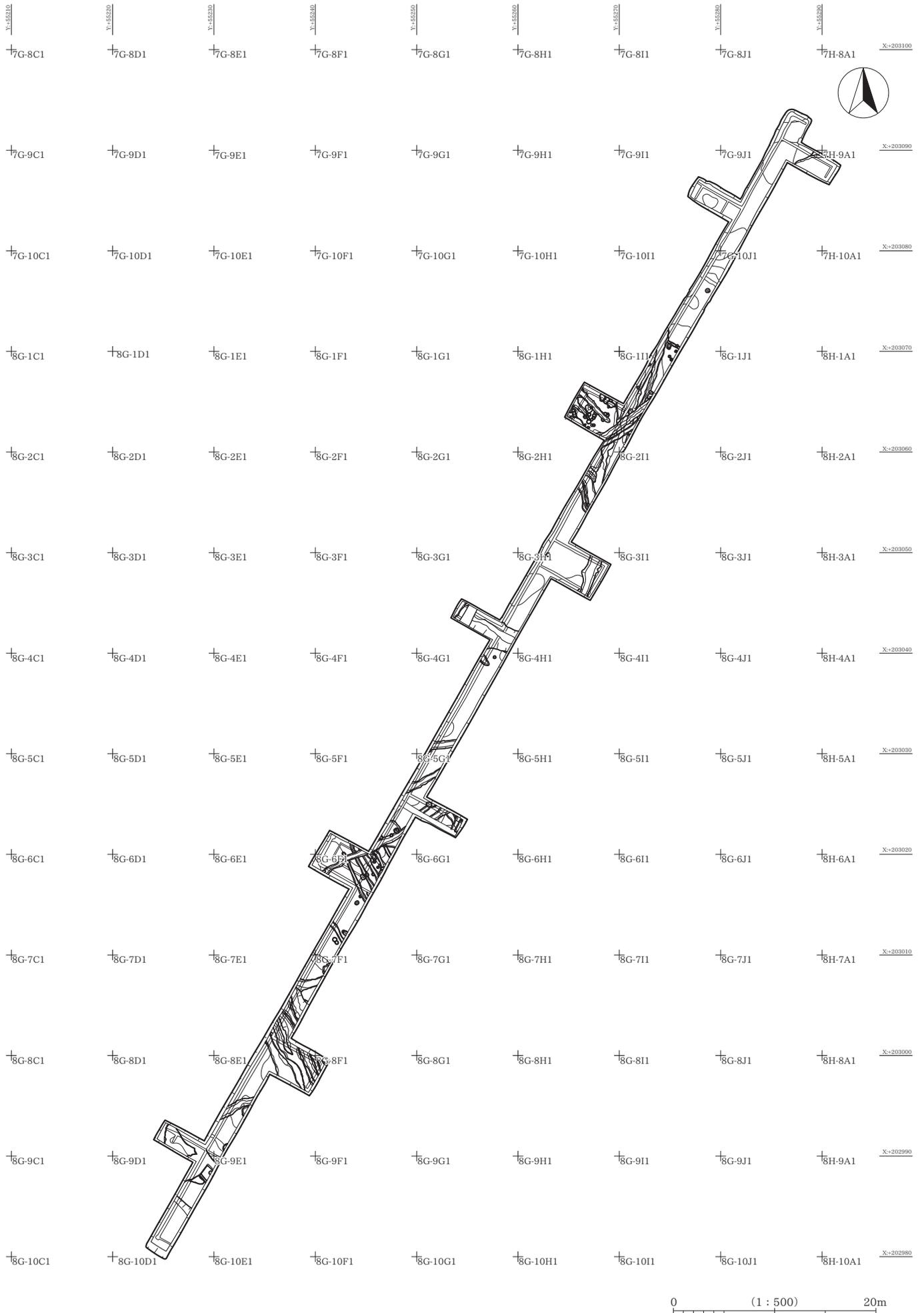
2区Pit46

- 1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややなし、しまりややなし、暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) 斑状に含む。
- 2. 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややなし、しまりややあり、黒褐色シルト (10YR3/1) 斑状に含む。

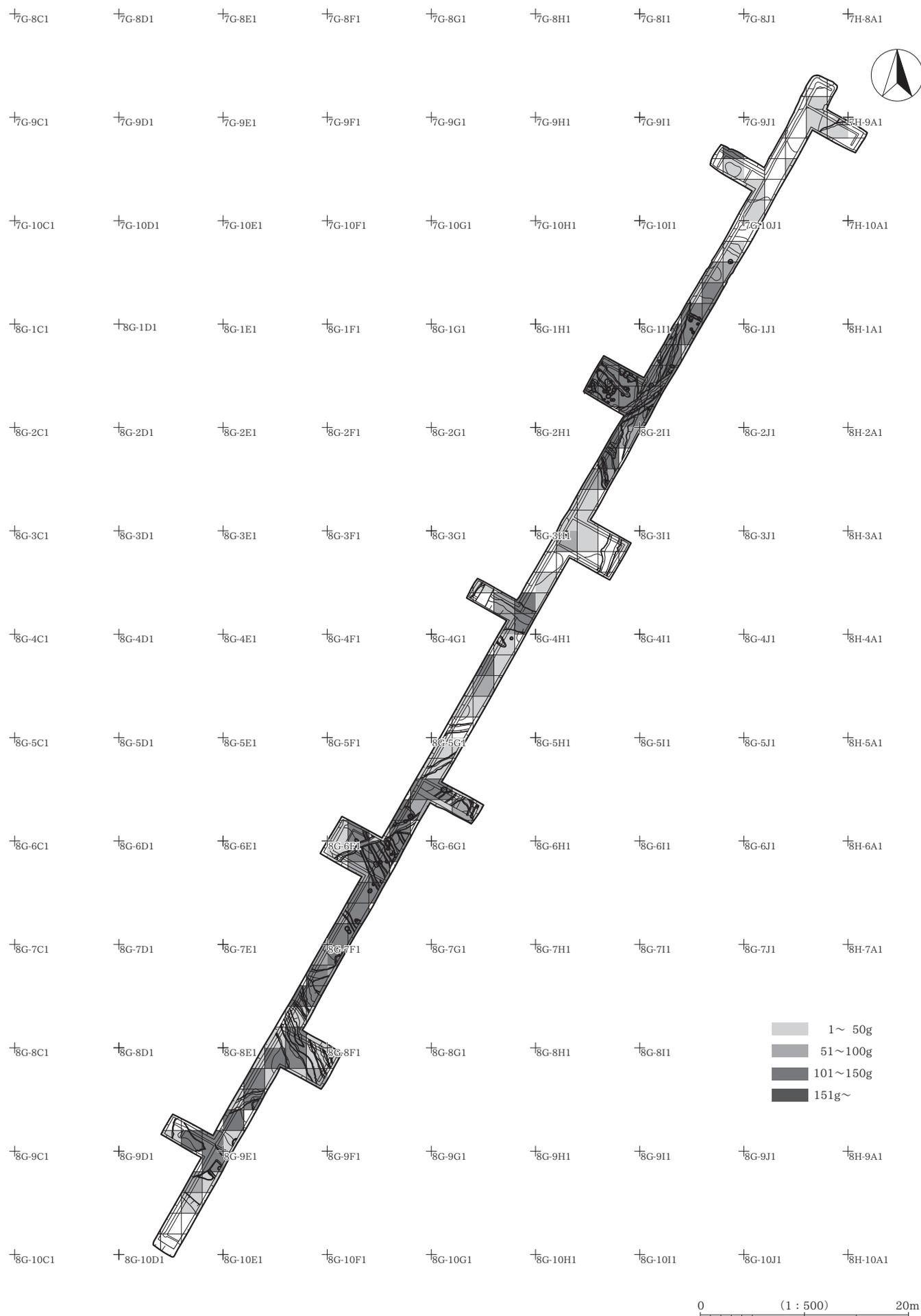
2区Pit49

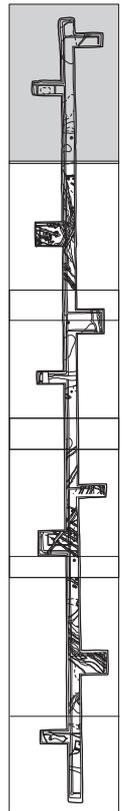
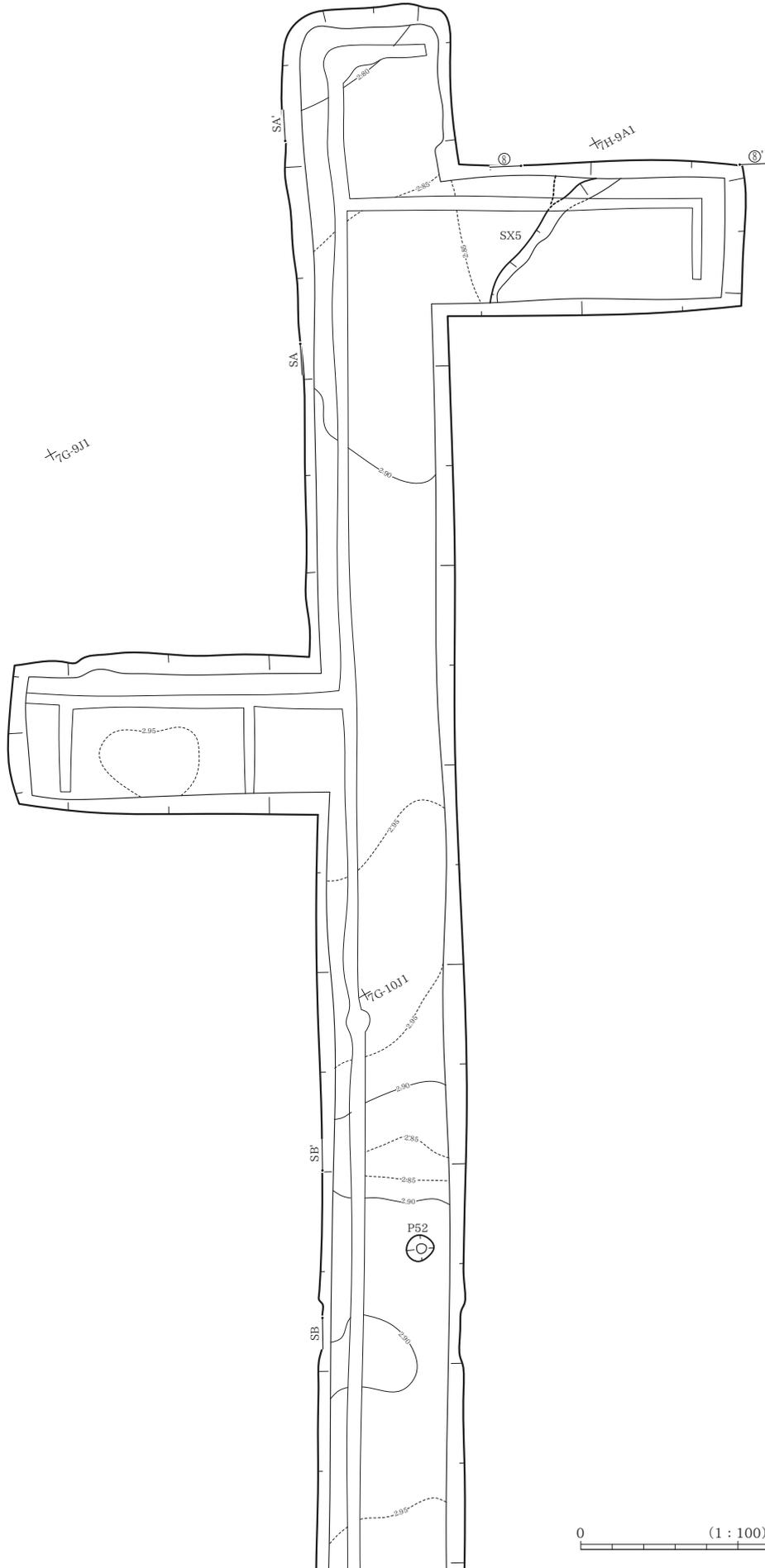
- 1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややなし、しまりややあり、暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) 斑状に含む。
- 2. 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややなし、しまりややあり、黒褐色シルト (10YR3/1) 斑状に含む。



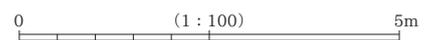


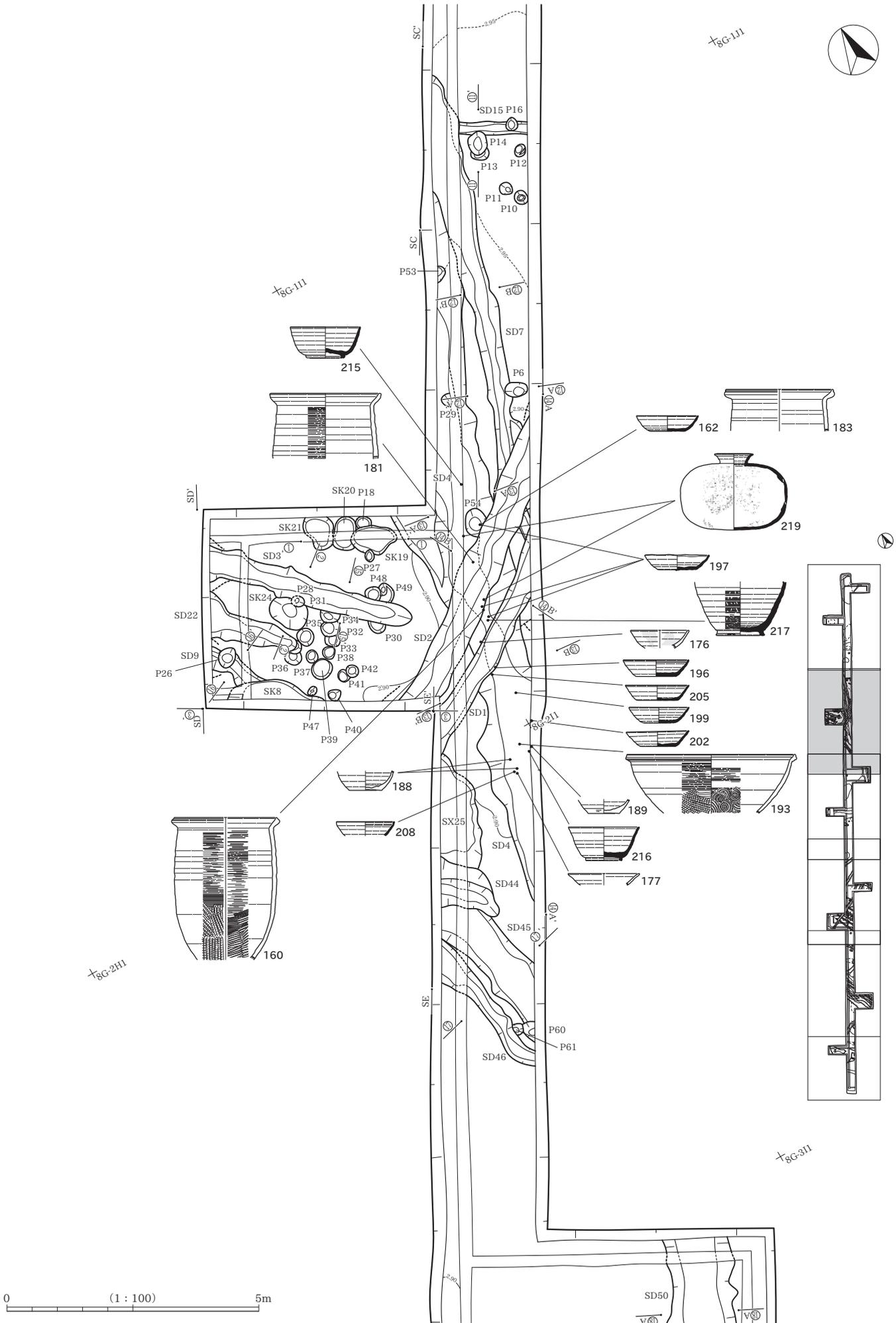
0 (1 : 500) 20m

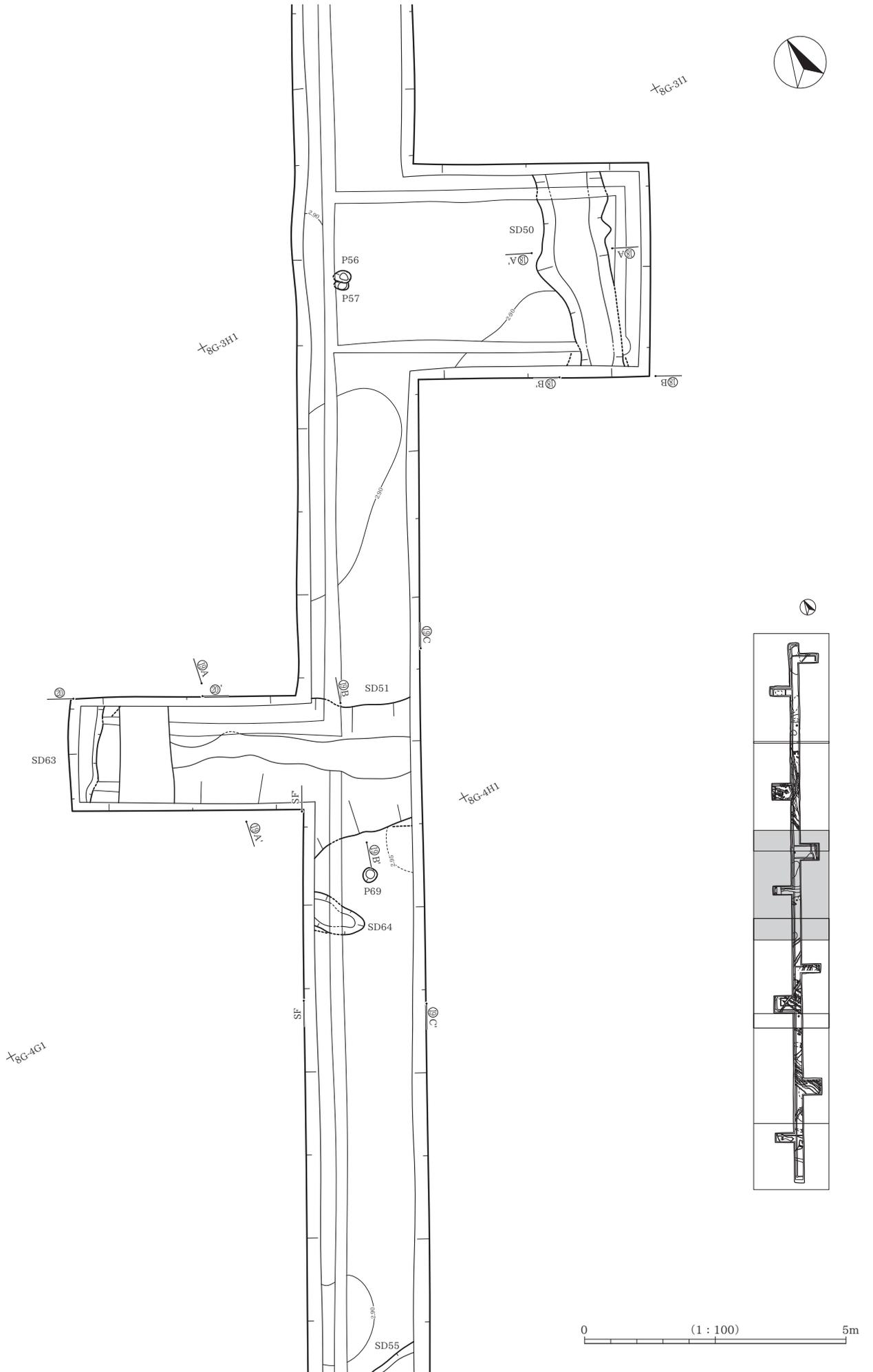


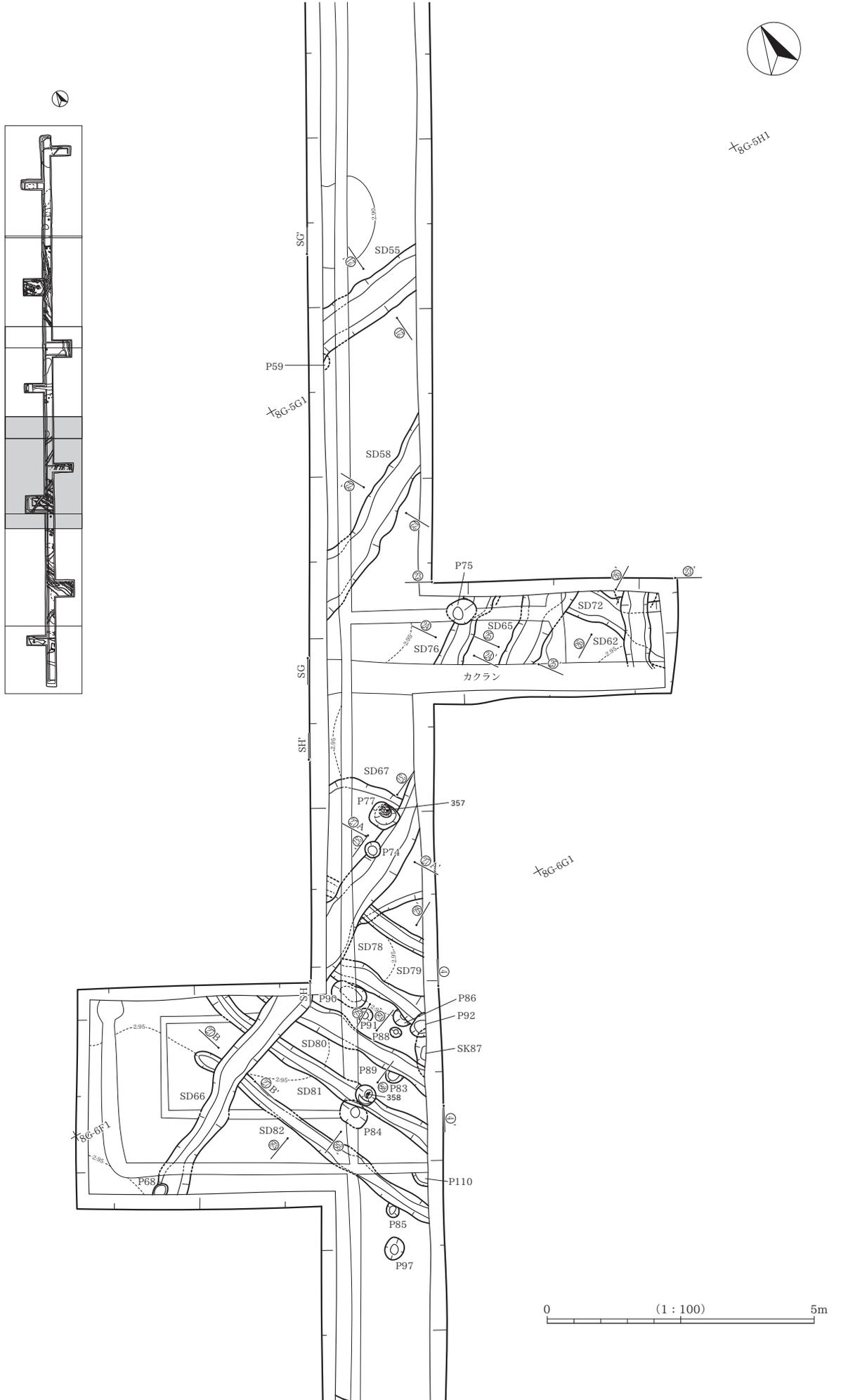


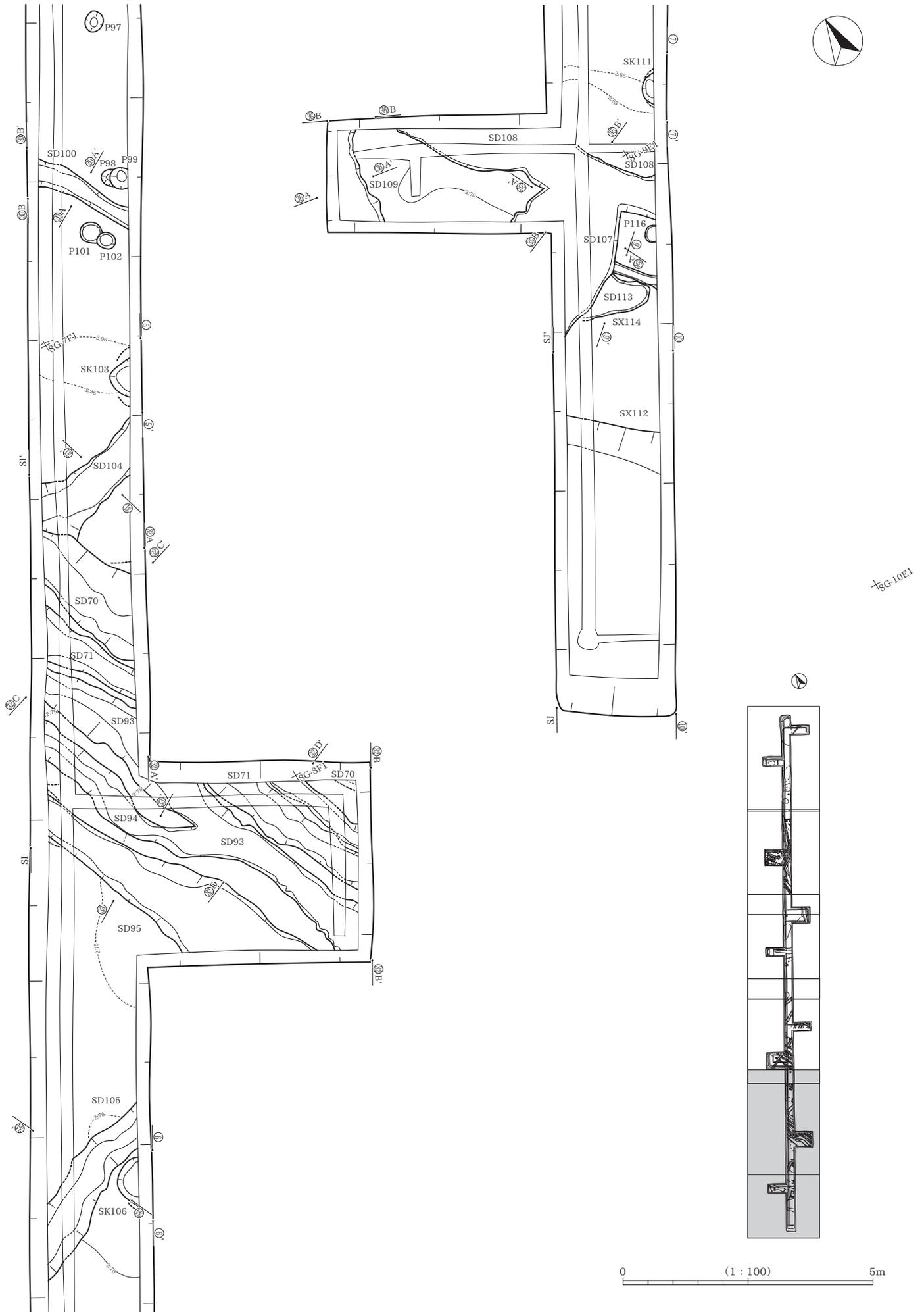
SG-1011

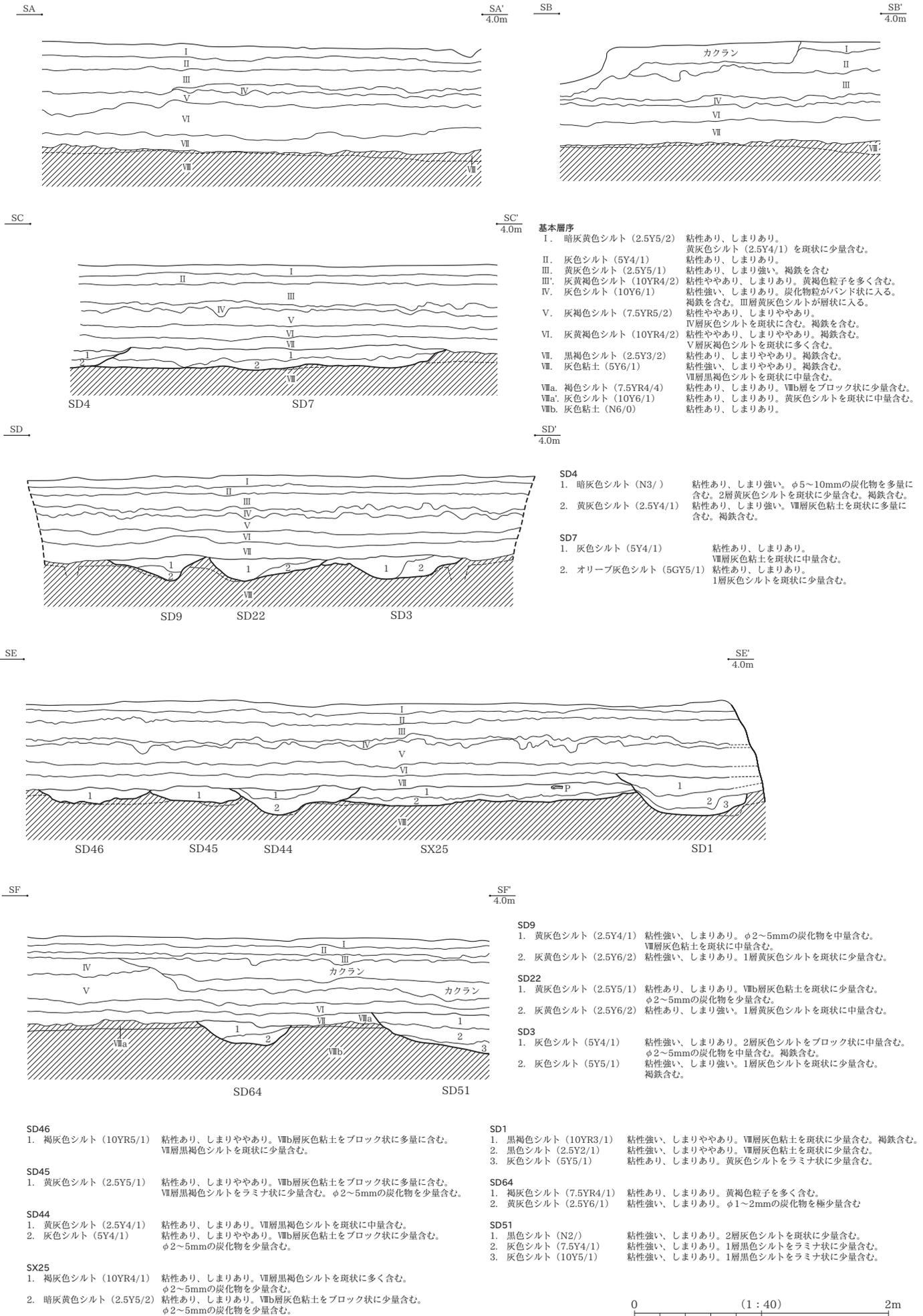


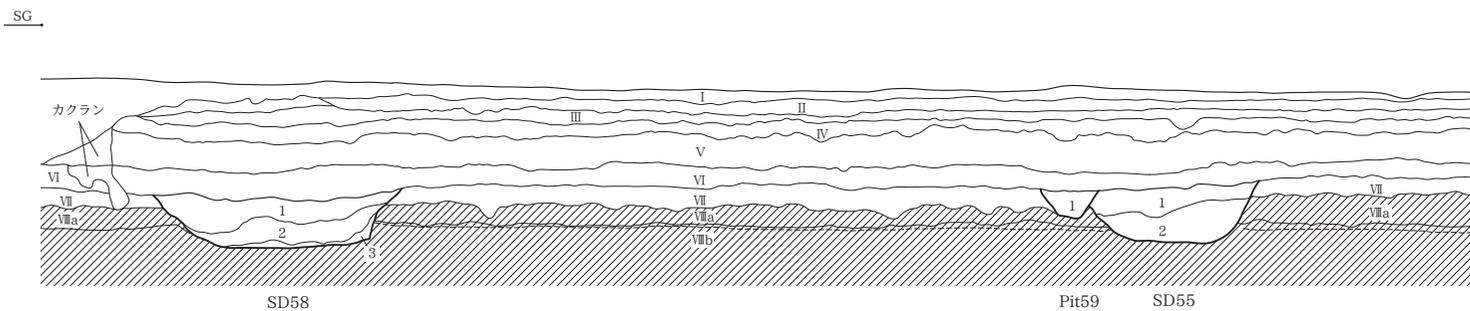




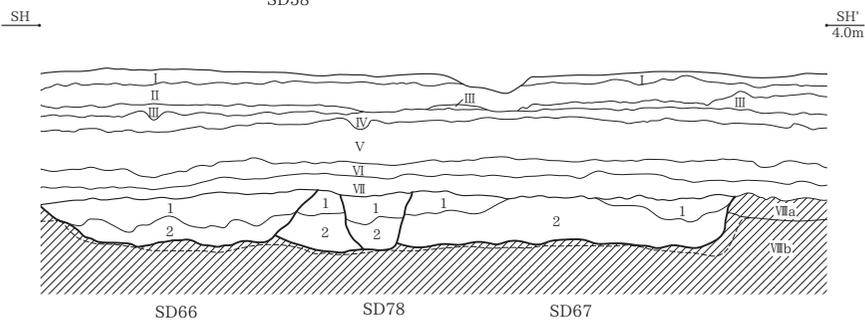




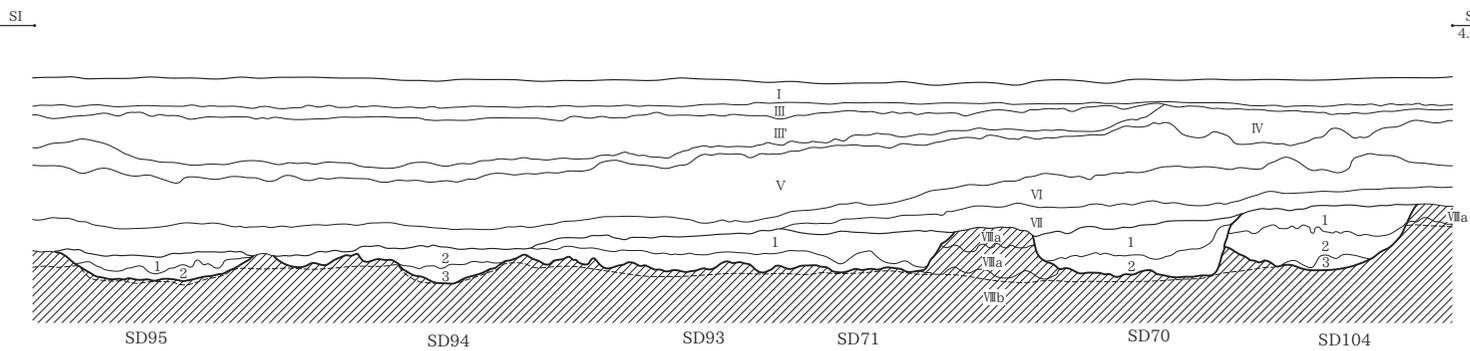




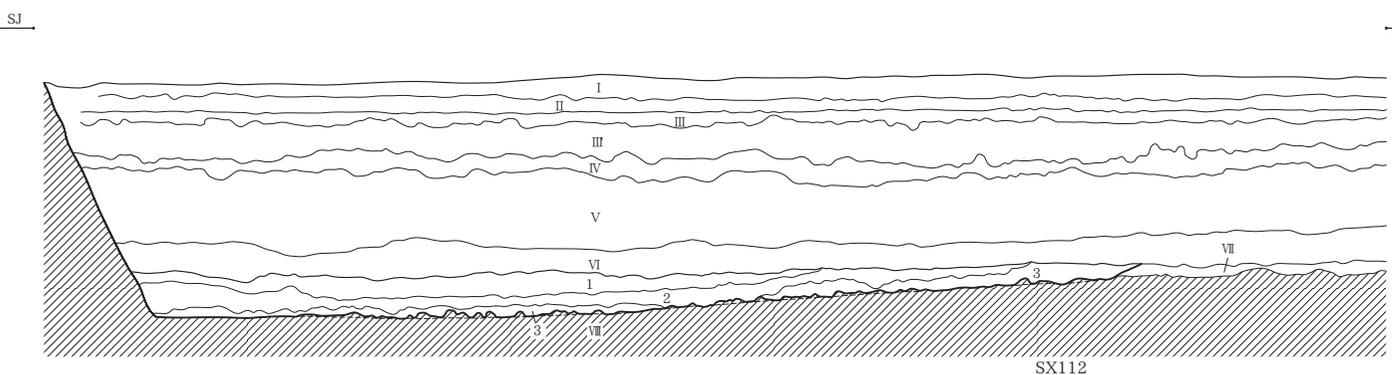
- SD58**
1. 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性ややあり、しまりあり。VIIb層灰褐色粘土をブロック状に中量含む。
 2. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。1層黒褐色シルトを斑状に少量含む。
 3. 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。VIIb層灰褐色粘土をブロック状に中量含む。
- Pit59**
1. オリーブ黒色シルト (7.5Y3/1) 粘性ややあり、しまり強い。VIIa層黄褐色シルトを斑状に少量含む。



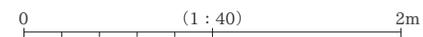
- SD55**
1. 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり、しまりあり。褐鉄含む
 2. 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりややあり。1層黒褐色シルトをラミナ状に中量含む。
- SD66**
1. 暗灰色シルト (N3/) 粘性あり、しまり強い。2層灰色シルトをラミナ状に多量に含む。
 2. 灰色シルト (5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり。1層暗灰色シルトを斑状に中量含む。
- SD67**
1. 暗褐色シルト (7.5YR3/3) 粘性あり、しまりややあり。黒褐色シルトをブロック状に多く含む。
 2. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。黄灰色シルト (2.5Y6/1) を同量含む。
- SD78**
2. 褐色シルト (7.5YR4/4) 粘性ややあり、しまりあり。φ1~2mmの炭化物を少量含む。

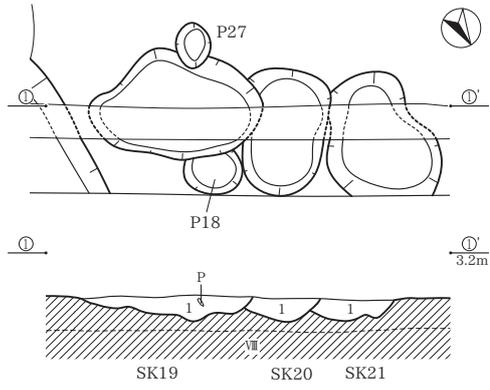


- SD95**
1. 黒褐色シルト (7.5YR3/2) 粘性ややあり、しまり強い。褐鉄を多く含む。VIIb層灰褐色シルトを斑状に少量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
 2. 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性あり、しまり強い。黄灰色シルト (2.5Y4/1) をラミナ状に中量含む。
- SD93・SD94・SD70・SD71**
1. 黒褐色シルト (7.5YR3/2) 粘性ややあり、しまり強い。褐鉄を多く含む。VIIb層灰褐色シルトを少量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
 2. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。VIIb層灰褐色シルトを斑状に少量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
 3. 褐色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。VIIb層灰褐色シルトをラミナ状に多く含む。

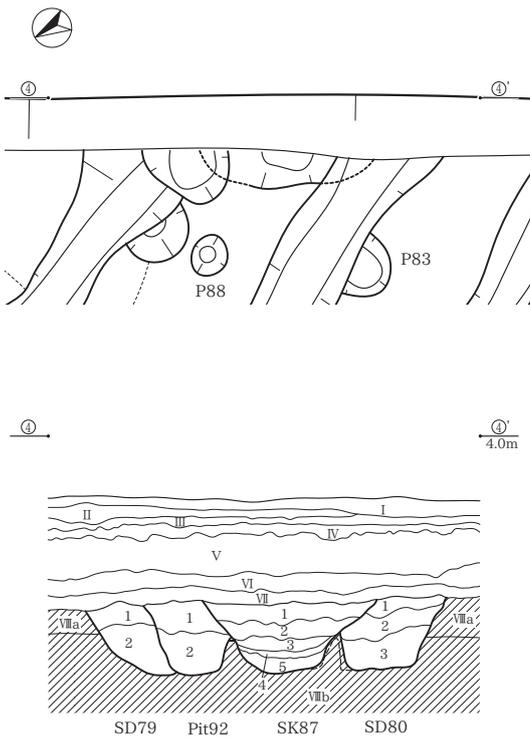
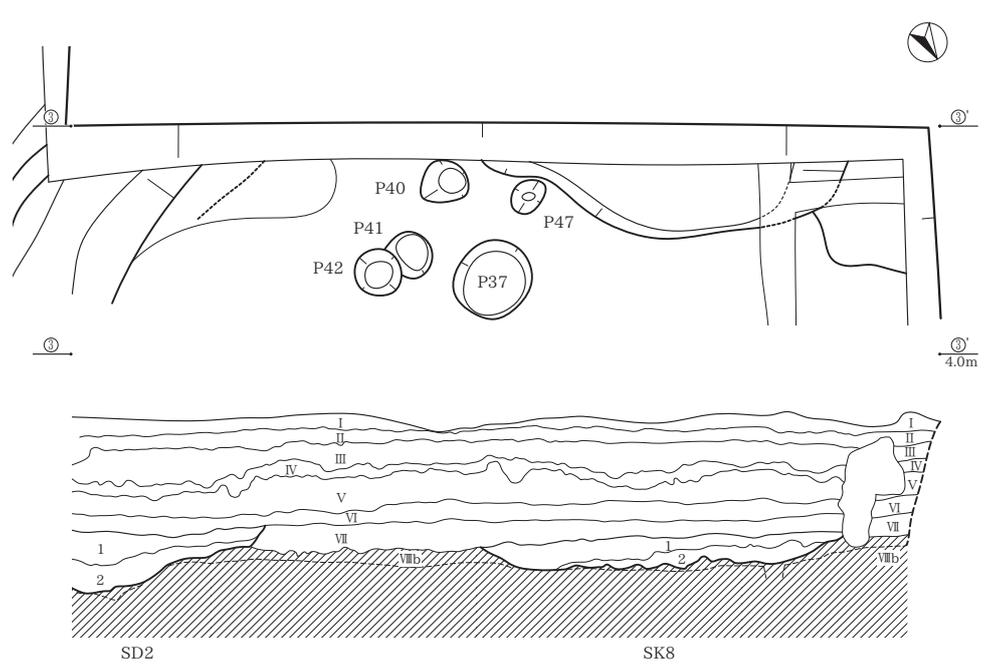
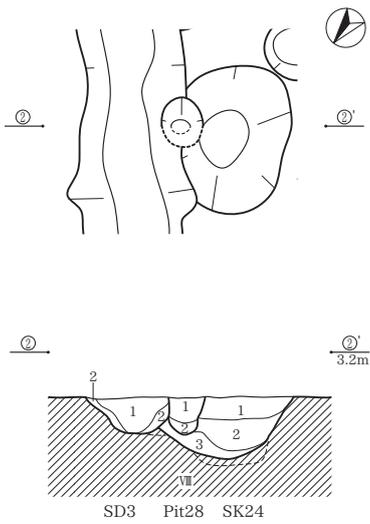


- SD104**
1. 褐色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまり強い。2層灰色シルトをブロック状に中量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
 2. 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまり強い。1層褐色シルトを斑状に少量含む。
 3. 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性あり、しまりあり。褐色シルトを少量含む。
- SX112**
1. 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性ややあり、しまりあり。灰色粒子を少量含む。φ1~2mmの炭化物を多く含む。
 2. 暗緑灰色シルト (7.5GY3/1) 粘性強い、しまりあり。φ1~2mmの炭化物を少量含む。
 3. 褐色シルト (10YR5/1) 粘性強い、しまりあり。2層暗緑灰色シルトをブロック状に多く含む。

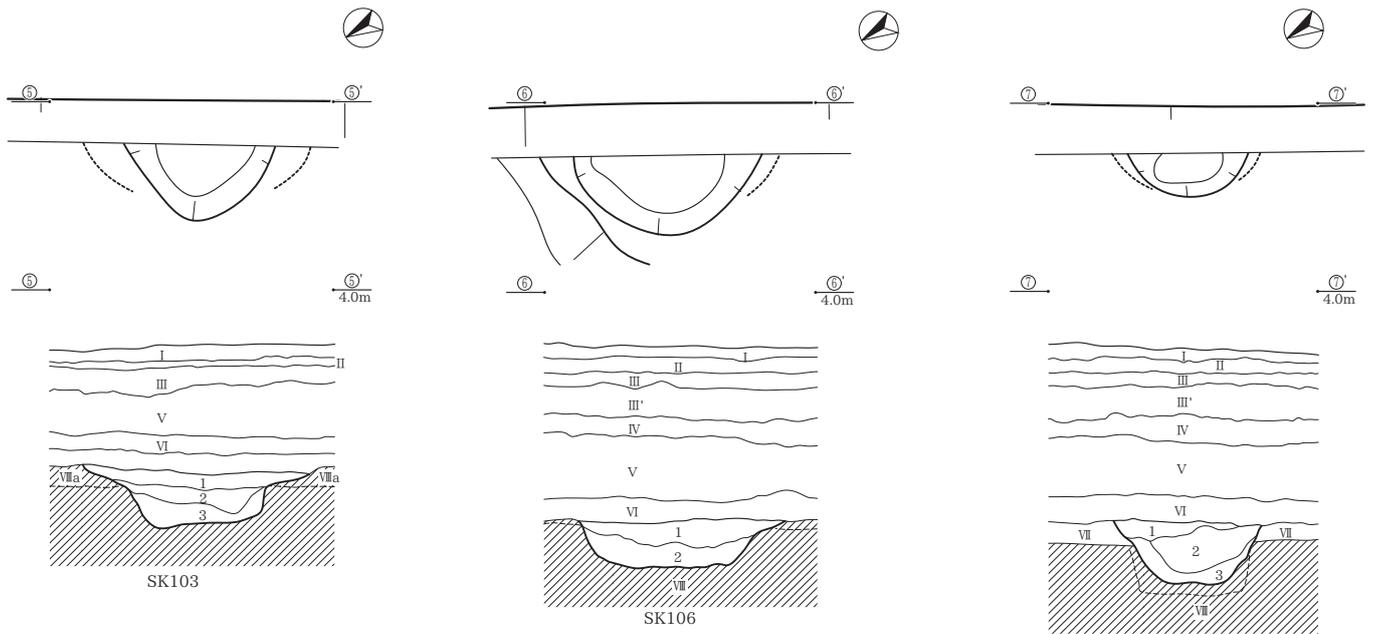




- SK19**
1. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性強い、しまりあり。Ⅶ層灰色粘土を斑状に多量に含む。φ1~10mmの炭化物を中量含む。
- SK20**
1. オリーブ黒色シルト (5Y3/2) 粘性強い、しまりややあり。Ⅶ層灰色粘土を斑状に中量含む。φ1~8mmの炭化物を少量含む。
- SK21**
1. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりややあり。Ⅶ層灰色粘土を層状に多量に含む。φ1~2mmの炭化物を少量含む。
- SD3**
1. 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。2層灰色シルトをブロック状に中量含む。φ2~5mmの炭化物を中量含む。褐鉄含む。
2. 灰色シルト (5Y5/1) 粘性強い、しまり強い。1層灰色シルトを斑状に少量含む。褐鉄含む。
- Pit28**
1. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり。Ⅶ層灰色粘土をブロック状に中量含む。φ5~8mmの炭化物を少量含む。褐鉄含む。
2. 灰色シルト (10Y6/1) 粘性あり、しまりあり。1層灰色シルトを斑状に少量含む。
- SK24**
1. 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。φ2~5mmの炭化物を少量含む。褐鉄含む。Ⅶ層灰色粘土をブロック状に中量含む。
2. 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 粘性あり、しまり強い。1層灰色シルトを斑状に少量含む。
3. オリーブ灰色シルト (5GY5/1) 粘性強い、しまりあり。1層灰色シルトを斑状に少量含む。



- SD2**
1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性強い、しまりややあり。黒褐色シルトを斑状に多量に含む。
2. 黒色シルト (2.5Y2/1) 性強い、しまりややあり。黄灰色シルトを斑状に少量含む。φ2~3mmの炭化物を少量含む。
3. 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性強い、しまりあり。2層黒色シルトを斑状に中量含む。
4. 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性強い、しまりややあり。黄灰色シルトを斑状に少量含む。
5. オリーブ黒色シルト (5Y3/2) 粘性強い、しまりややあり。黄灰色シルトを斑状に多量に含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
- SK8**
1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。Ⅶb層灰色粘土を斑状に少量含む。φ2~8mmの炭化物を中量含む。
2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。Ⅶb層灰色粘土を斑状に中量含む。φ2~8mmの炭化物を少量含む。
- SD79**
1. 褐色シルト (7.5YR4/4) 粘性ややあり、しまりあり。φ2~3mmの炭化物を少量含む。暗褐色土をブロック状に多く含む。
2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。φ3~4mmの炭化物を少量含む。灰色シルト (5Y5/1) をブロック状に多く含む。
- Pit92**
1. 褐色シルト (7.5YR4/3) 粘性ややあり、しまりあり。φ3~4mmの炭化物を多く含む。
2. 褐灰色シルト (7.5YR5/1) 粘性強い、しまりあり。灰色シルトをブロック状に多く含む。φ2~3mmの炭化物を少量含む。
- SK87セクション**
1. 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性ややあり、しまりあり。φ3~4mmの炭化物を少量含む。黄褐色粒子を多く含む。
2. 褐灰色シルト (7.5YR4/1) 粘性あり、しまりあり。φ3~5mmの炭化物を多く含む。黄褐色土をブロック状に少量含む。
3. 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり。φ1~2mmの炭化物を少量含む。灰色シルトをブロック状に少量含む。
4. 灰色シルト (7.5Y5/1) 粘性強い、しまりあり。炭化物が層状に入る。灰色砂をブロック状に少量含む。
5. 灰色シルト (7.5Y5/1) 粘性強い、しまりあり。φ1~2mmの炭化物を少量含む。灰色砂をブロック状に少量含む。
- SD80**
1. 黒褐色シルト (7.5YR3/2) 粘性ややあり、しまりややあり。黄褐色粒子を多く含む。
2. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり。φ1~2mmの炭化物を少量含む。
3. 暗黄褐色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。φ1~2mmの炭化物を多く含む。



SK103

- 1. 黒褐色シルト (10YR2/3) 粘性ややあり、しまり強い。VIIa層の褐色シルトを斑状に中量含む。2層褐色灰色シルトを斑状に少量含む。褐鉄含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
- 2. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり。3層灰色シルトをラミナ状に中量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
- 3. 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。2層褐色灰色シルトを斑状に少量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。

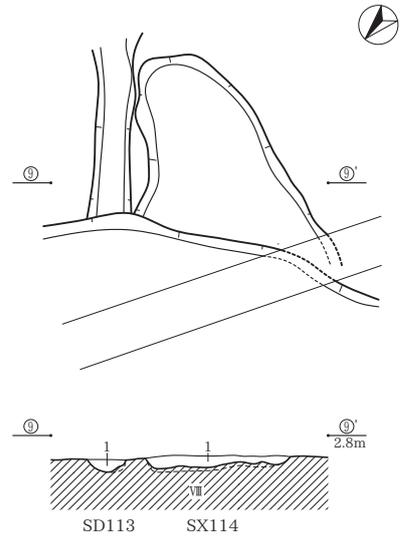
SK106

- 1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強い、しまりあり。φ2~5mmの炭化物を少量含む。2層オリーブ灰色シルトをラミナ状に多く含む。
- 2. オリーブ灰色シルト (5GY5/1) 粘性あり、しまりあり。1層黒褐色シルトをラミナ状に少量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。

SK111

- 1. 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。褐色粒子を少量含む。
- 2. 灰色シルト (N4/0) 粘性強い、しまりややあり。φ1~4mmの炭化物を多く含む。
- 3. 緑灰色シルト (7.5GY5/1) 粘性あり、しまりあり。φ1mm以下の炭化物を極少量含む。黒灰色シルトを斑状に含む。

SK111

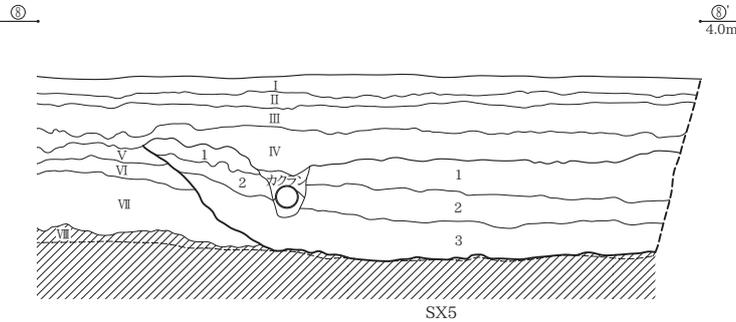


SD113

- 1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。φ2~3mmの炭化物を少量含む。

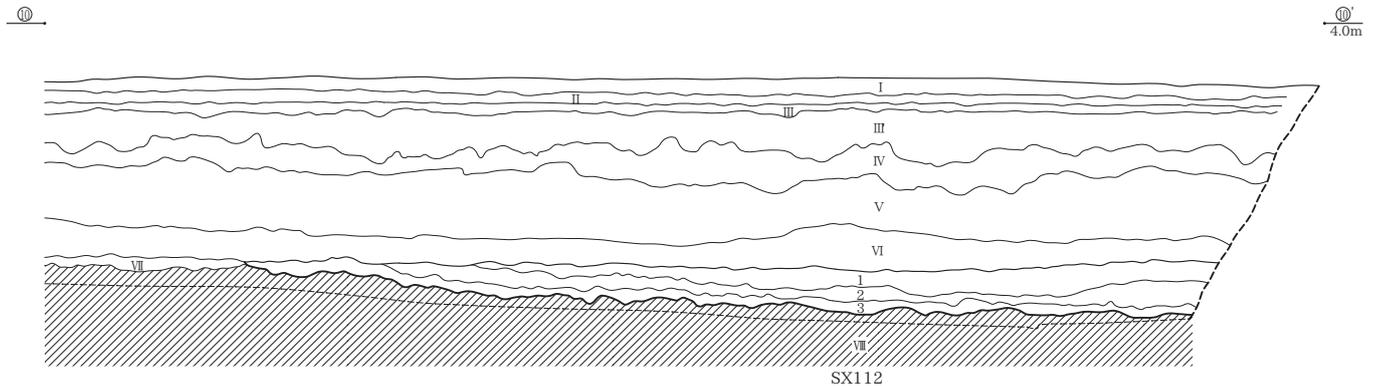
SX114

- 1. 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり。φ2~3mmの炭化物を少量含む。



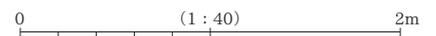
SX5

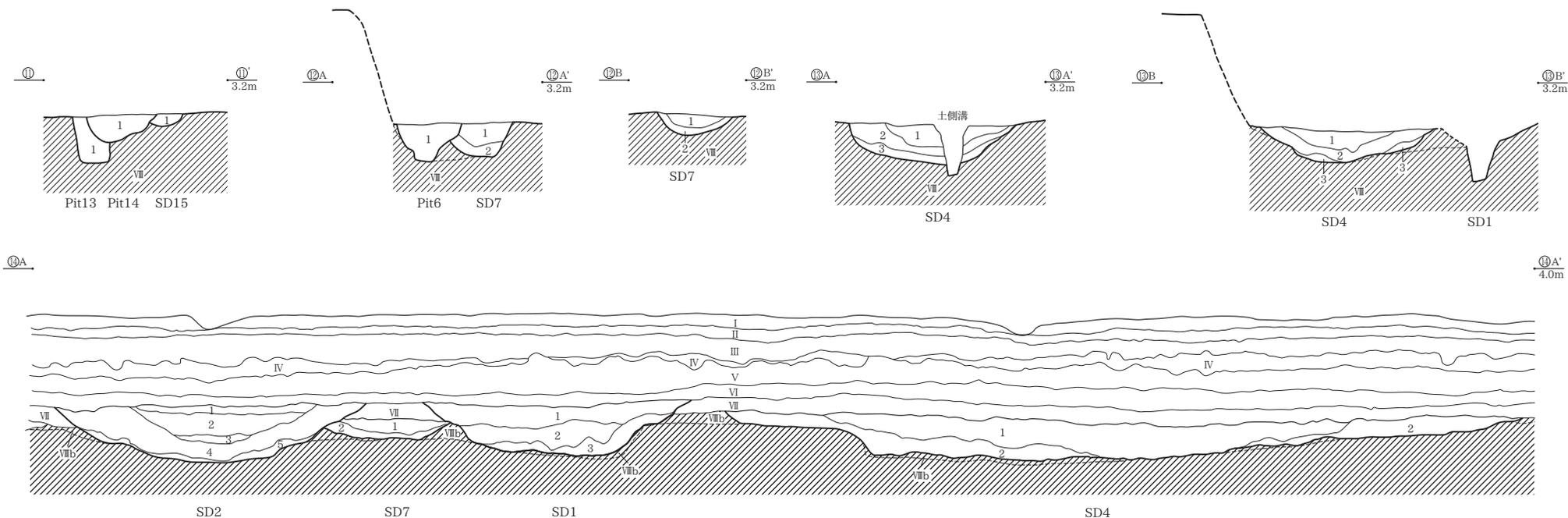
- 1. 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物が層状に入る。褐鉄含む。
- 2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。1層褐灰色シルトを層状に少量含む。φ2~3mmの炭化物少量含む。褐鉄含む。
- 3. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性強い、しまりややあり。VII層灰色粘土を斑状に少量含む。褐鉄含む。



SX112

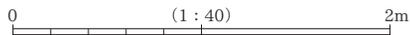
- 1. 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性ややあり、しまりあり。灰色粒子を少量含む。φ1~2mmの炭化物を多く含む。
- 2. 暗緑灰色シルト (7.5GY3/1) 粘性強い、しまりあり。φ1~2mmの炭化物を少量含む。
- 3. 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性強い、しまりあり。2層暗緑灰色シルトをブロック状に多く含む。

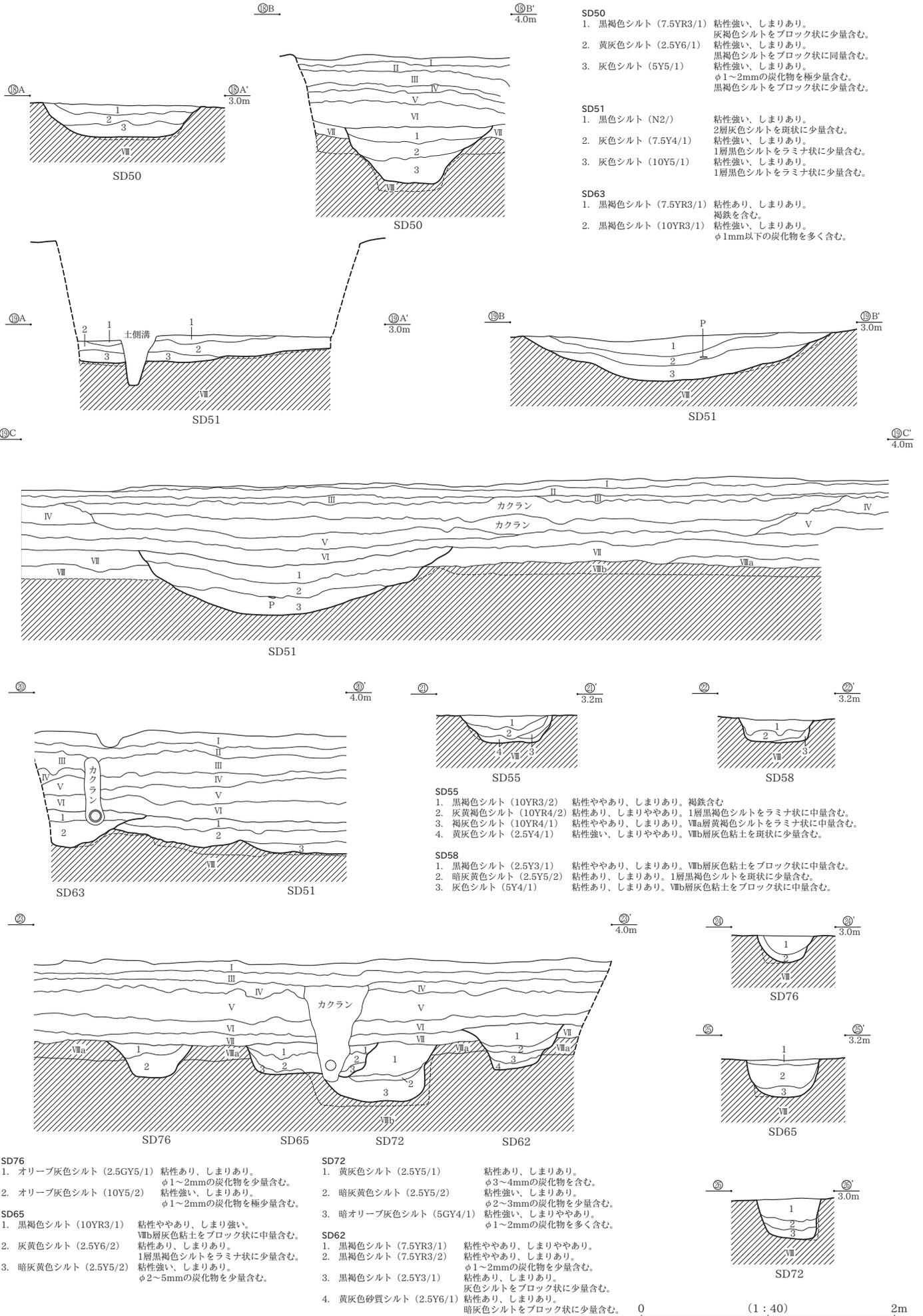


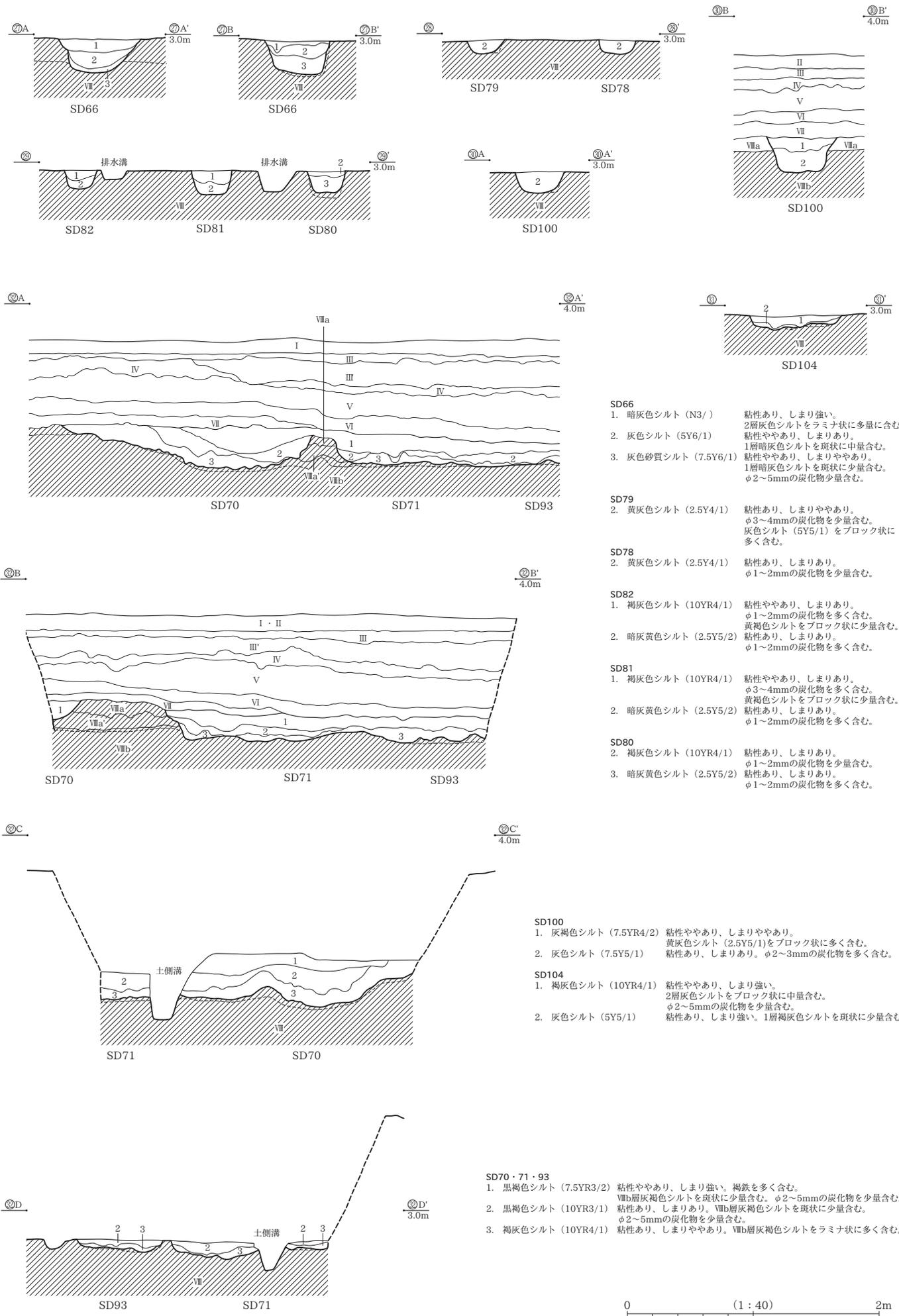


- Pit13**
 1. 灰色シルト (7.5Y5/1) 粘性強い、しまりあり。黄灰色シルトを斑状に少量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
- Pit14**
 1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性強い、しまりややあり。黄灰色シルトを斑状に少量含む。
- SD15**
 1. 灰色シルト (5Y5/1) 粘性強い、しまりあり。黄灰色シルトを斑状に少量含む。
- Pit6**
 1. オリーブ黒色シルト (7.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり。Ⅶ層灰色粘土をブロック状に中量含む。φ2~5mmの炭化物を中量含む。
- SD7**
 1. 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。Ⅶ層灰色粘土を斑状に中量含む。
 2. オリーブ灰色シルト (5GY5/1) 粘性あり、しまりあり。1層灰色シルトを斑状に少量含む。
- SD4**
 1. 暗灰色シルト (N3/) 粘性あり、しまり強い。φ5~10mmの炭化物を多量に含む。2層黄灰色シルトを斑状に少量含む。褐鉄含む。
 2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまり強い。Ⅶ層灰色粘土を斑状に多量に含む。褐鉄含む。
 3. 緑灰色シルト (7.5GY5/1) 粘性あり、しまり強い。2層黄灰色シルトを斑状に少量含む。

- SD1**
 1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強い、しまりややあり。Ⅶ層灰色粘土を斑状に少量含む。褐鉄含む。
 2. 黒色シルト (2.5Y2/1) 粘性強い、しまりややあり。Ⅶ層灰色粘土を斑状に少量含む。
 3. 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。黄灰色シルトをラミナ状に少量含む。
- SD2**
 1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性強い、しまりややあり。黒褐色シルトを斑状に多量に含む。
 2. 黒色シルト (2.5Y2/1) 粘性強い、しまりややあり。黄灰色シルトを斑状に少量含む。φ2~3mmの炭化物を少量含む。
 3. 褐色シルト (10YR5/1) 粘性強い、しまりあり。2層黒色シルトを斑状に中量含む。
 4. 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性強い、しまりややあり。黄灰色シルトを斑状に少量含む。
 5. オリーブ黒色シルト (5Y3/2) 粘性強い、しまりややあり。黄灰色シルトを斑状に多量に含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
- SD3**
 1. 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。2層灰色シルトをブロック状に中量含む。φ2~5mmの炭化物を中量含む。褐鉄含む。
 2. 灰色シルト (5Y5/1) 粘性強い、しまり強い。1層灰色シルトを斑状に少量含む。褐鉄含む。
- SD9**
 1. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。φ2~5mmの炭化物を中量含む。Ⅶ層灰色粘土を斑状に中量含む。
- SD46**
 1. 褐色灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。Ⅶb層灰色粘土をブロック状に多量に含む。Ⅶ層黒褐色シルトを斑状に少量含む。
- SD45**
 1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり。Ⅶb層灰色粘土をブロック状に多量に含む。Ⅶ層黒褐色シルトをラミナ状に少量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。

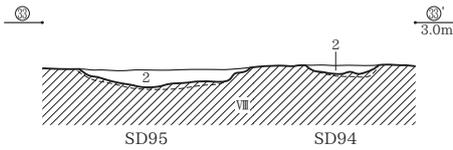






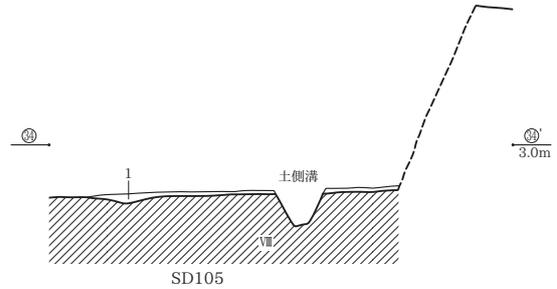
- SD66**
- | | |
|----------------------|---|
| 1. 暗灰色シルト (N3/) | 粘性あり、しまり強い。
2層灰色シルトをラミナ状に多量に含む。 |
| 2. 灰色シルト (5Y6/1) | 粘性ややあり、しまりあり。
1層暗灰色シルトを斑状に中量含む。 |
| 3. 灰色砂質シルト (7.5Y6/1) | 粘性ややあり、しまりややあり。
1層暗灰色シルトを斑状に少量含む。
φ2~5mmの炭化物少量含む。 |
- SD79**
- | | |
|---------------------|---|
| 2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | 粘性あり、しまりややあり。
φ3~4mmの炭化物を少量含む。
灰色シルト (5Y5/1) をブロック状に多く含む。 |
|---------------------|---|
- SD78**
- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | 粘性あり、しまりあり。
φ1~2mmの炭化物を少量含む。 |
|---------------------|---------------------------------|
- SD82**
- | | |
|----------------------|---|
| 1. 褐灰色シルト (10YR4/1) | 粘性ややあり、しまりあり。
φ1~2mmの炭化物を多く含む。
黄褐色シルトをブロック状に少量含む。 |
| 2. 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) | 粘性あり、しまりあり。
φ1~2mmの炭化物を多く含む。 |
- SD81**
- | | |
|----------------------|---|
| 1. 褐灰色シルト (10YR4/1) | 粘性ややあり、しまりあり。
φ3~4mmの炭化物を多く含む。
黄褐色シルトをブロック状に少量含む。 |
| 2. 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) | 粘性あり、しまりあり。
φ1~2mmの炭化物を多く含む。 |
- SD80**
- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| 2. 褐灰色シルト (10YR4/1) | 粘性あり、しまりあり。
φ1~2mmの炭化物を少量含む。 |
| 3. 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) | 粘性あり、しまりあり。
φ1~2mmの炭化物を多く含む。 |
- SD100**
- | | |
|----------------------|--|
| 1. 灰褐色シルト (7.5YR4/2) | 粘性ややあり、しまりややあり。
黄灰色シルト (2.5Y5/1) をブロック状に多く含む。 |
| 2. 灰色シルト (7.5Y5/1) | 粘性あり、しまりあり。
φ2~3mmの炭化物を多く含む。 |
- SD104**
- | | |
|---------------------|--|
| 1. 褐灰色シルト (10YR4/1) | 粘性ややあり、しまり強い。
2層灰色シルトをブロック状に中量含む。
φ2~5mmの炭化物を少量含む。 |
| 2. 灰色シルト (5Y5/1) | 粘性あり、しまり強い。
1層褐灰色シルトを斑状に少量含む。 |
- SD70・71・93**
- | | |
|----------------------|--|
| 1. 黒褐色シルト (7.5YR3/2) | 粘性ややあり、しまり強い。褐鉄を多く含む。
VIIb層灰褐色シルトを少量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。 |
| 2. 黒褐色シルト (10YR3/1) | 粘性あり、しまりあり。VIIb層灰褐色シルトを少量含む。
φ2~5mmの炭化物を少量含む。 |
| 3. 褐灰色シルト (10YR4/1) | 粘性あり、しまりややあり。VIIb層灰褐色シルトをラミナ状に多く含む。 |

0 (1:40) 2m

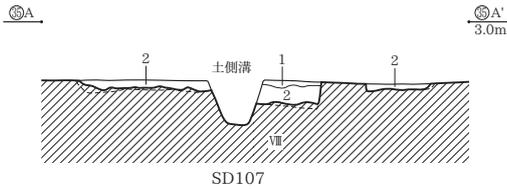


SD95
 2. 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性あり、しまり強い。
 黄灰色シルト (2.5Y4/1)をラミナ状に中量含む。

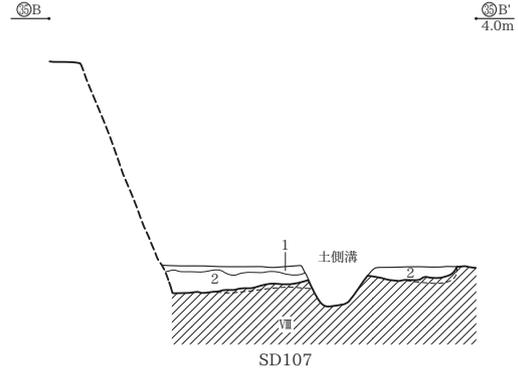
SD94
 2. 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性あり、しまり強い。
 黄灰色シルト (2.5Y4/1)をラミナ状に中量含む。



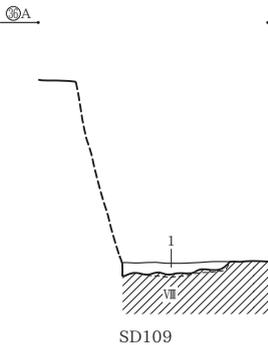
SD105
 1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強い、しまりあり。
 VIIb層灰褐色シルトをラミナ状に中量含む。



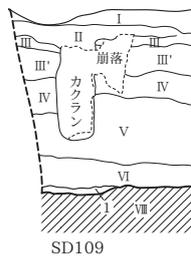
SD107
 1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。褐鉄を多く含む。
 2. 暗緑灰色シルト (10GY4/1) 粘性強い、しまりあり。
 黒褐色シルト (2.5Y3/1)をブロック状に同量含む。
 φ2~3mmの炭化物を少量含む。



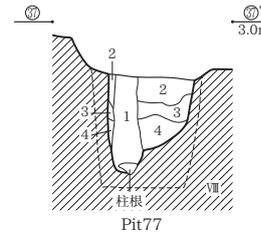
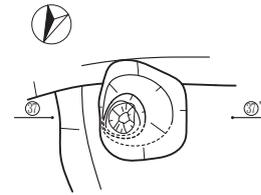
SD107



SD109
 1. 暗緑灰色シルト (10GY4/1) 粘性強い、しまりややあり。青灰色シルトをブロック状に含む。

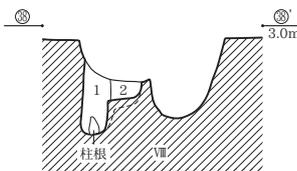
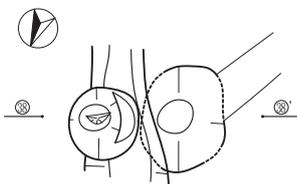


SD109



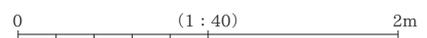
Pit77

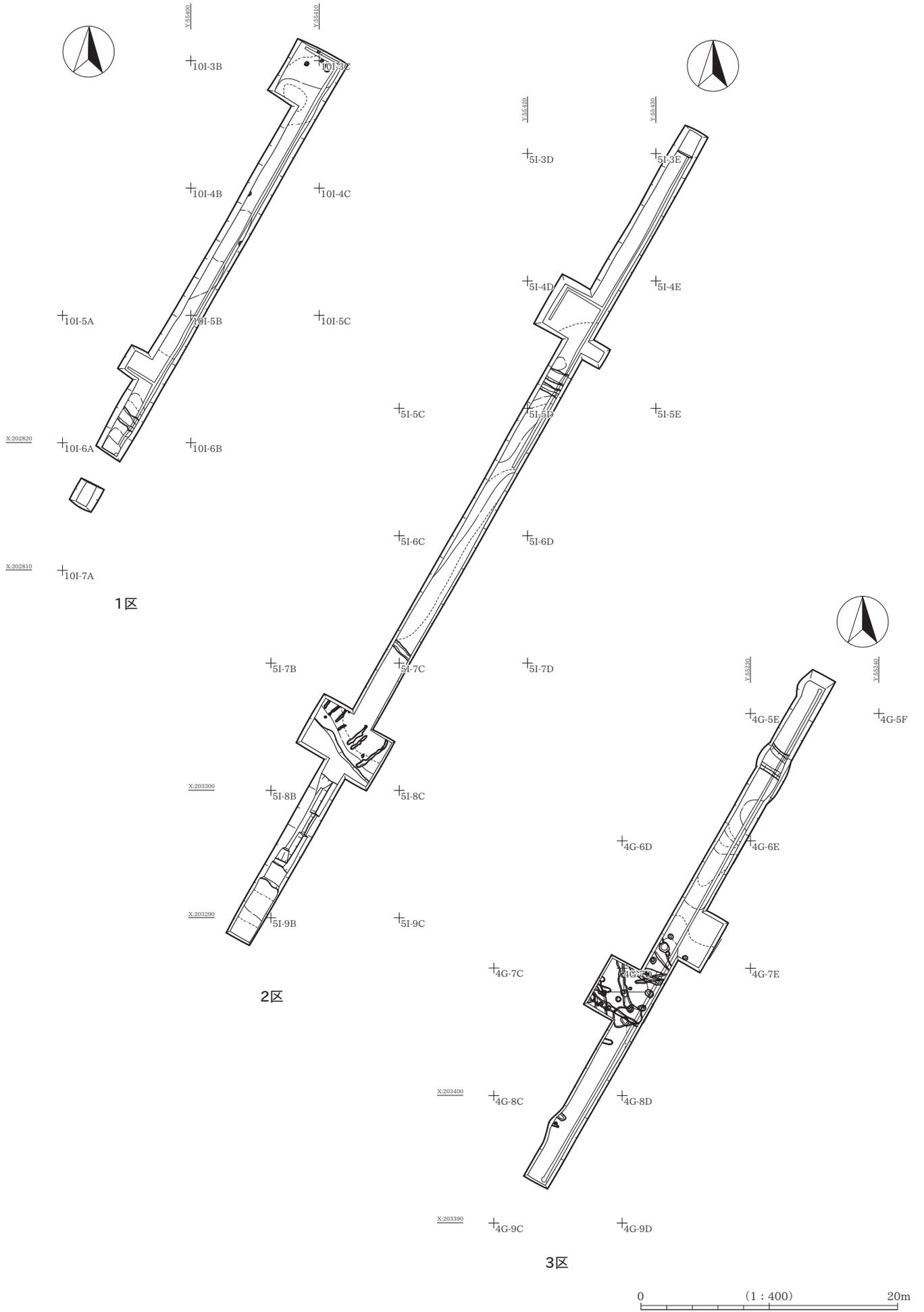
Pit77
 1. 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強い、しまりなし。φ1~2mmの炭化物を極少量含む。
 2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりややあり。φ3~4mmの炭化物を多く含む。
 灰色シルト (7.5Y5/1)をブロック状に多く含む。
 3. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。灰色砂をブロック状に多く含む。
 4. 緑灰色シルト (7.5GY5/1) 粘性ややあり、しまりあり。φ1~2mmの炭化物を極少量含む。

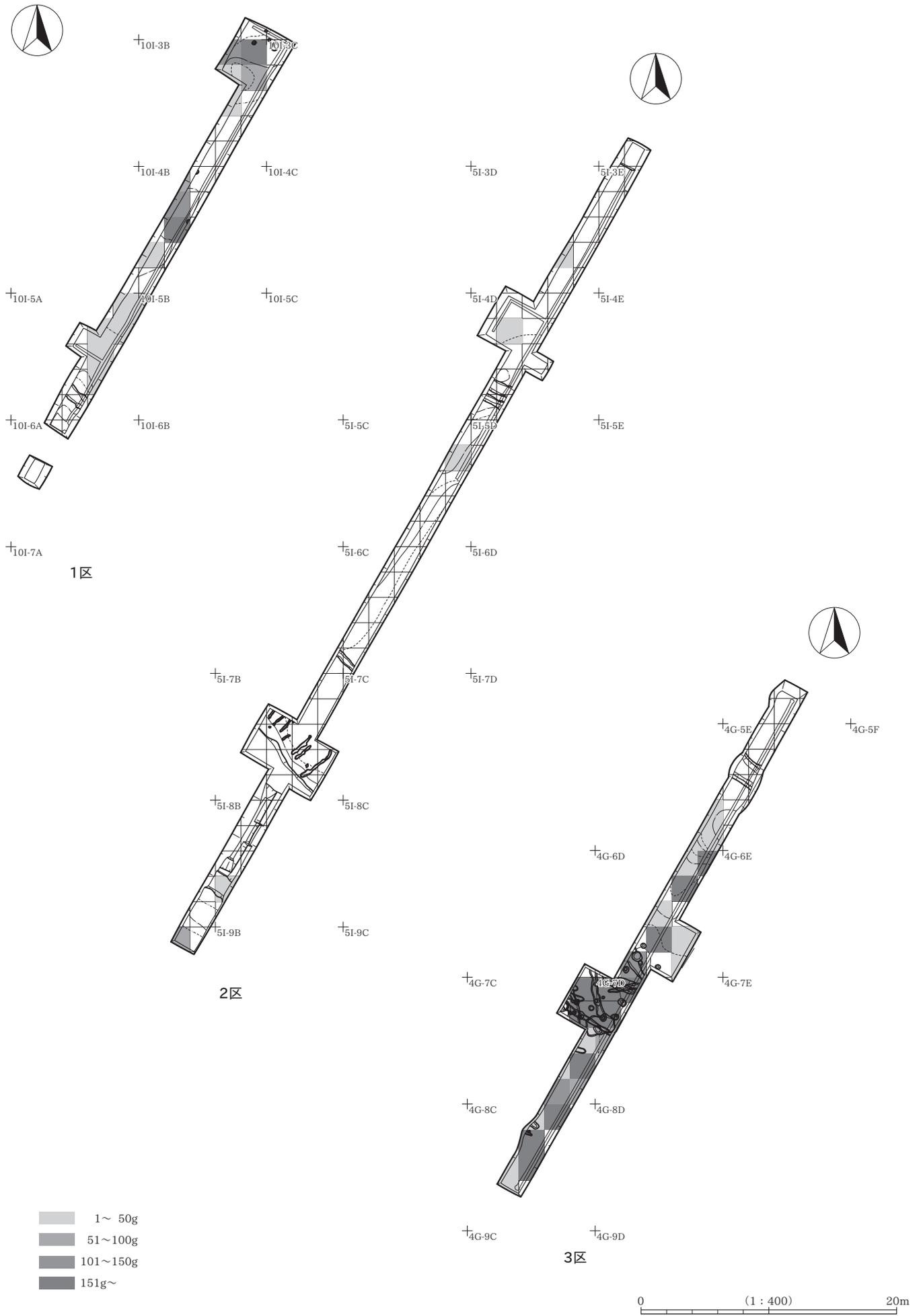


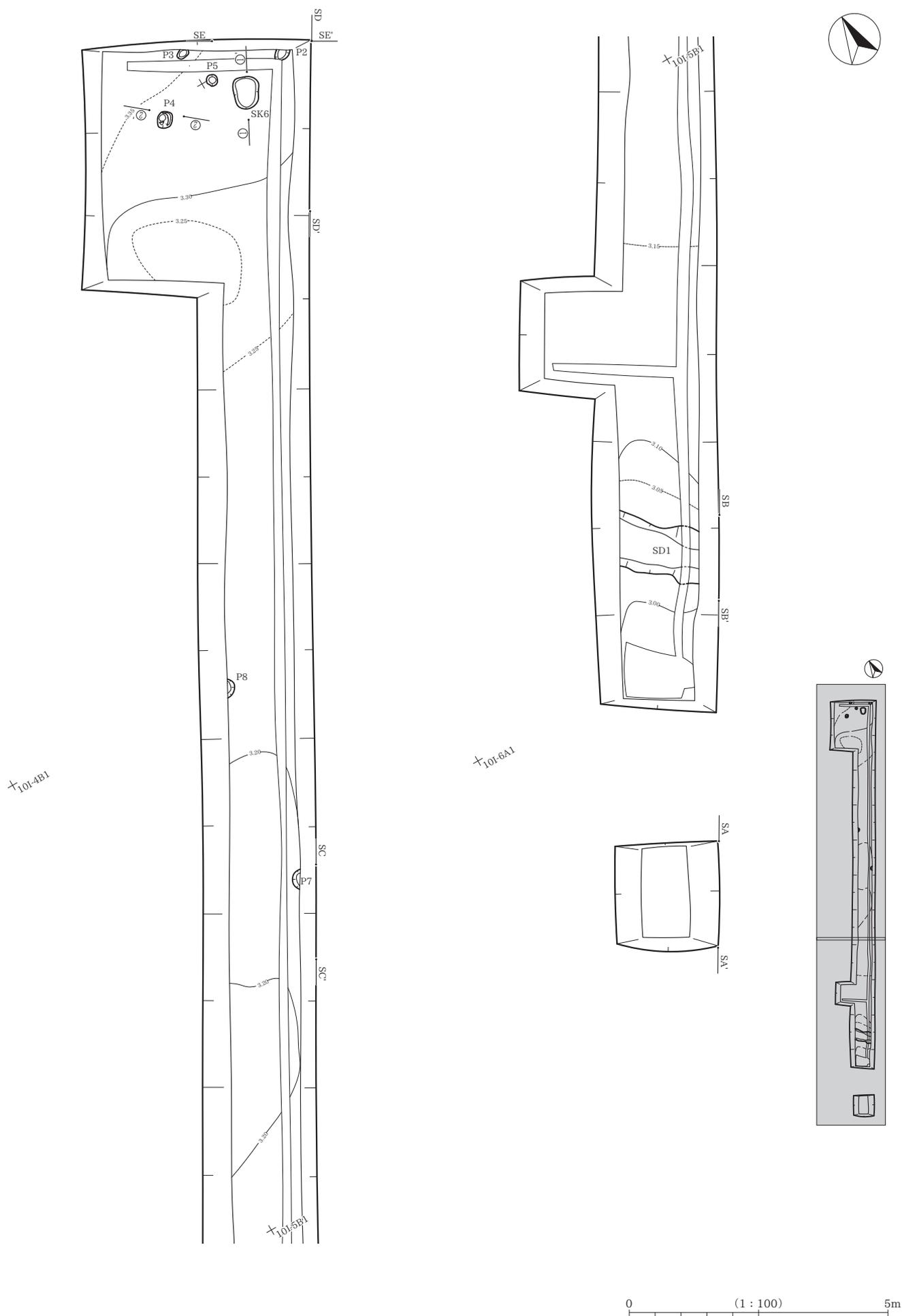
Pit89 SD81 Pit84

Pit89
 1. 黄灰色砂質シルト (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりややあり。
 φ1~2mmの炭化物を少量含む。
 2. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。
 φ3~4mmの炭化物を多く含む。

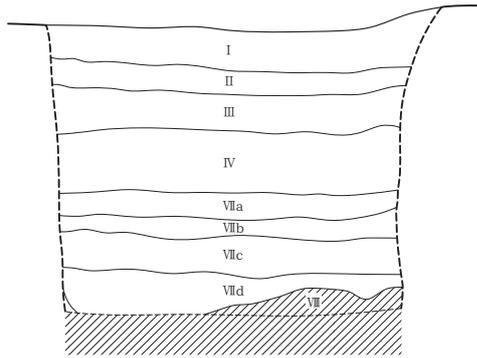








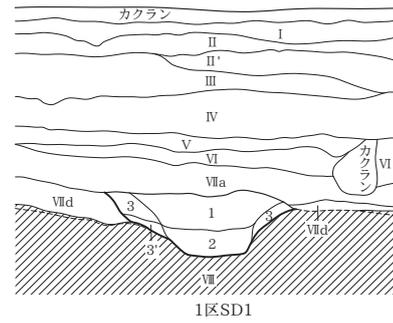
SA' 4.5m



1区基本層序

- | | |
|------------------------|-----------------------------------|
| I. 灰黄褐色シルト (10YR6/1) | 粘性あり、しまり弱い。 |
| II. 灰色シルト (10YR6/1) | 粘性あり、しまり強い。 |
| II'. 灰色シルト (10YR6/1) | 粘性あり、しまり弱い。 |
| III. 褐灰色シルト (10YR6/1) | 粘性あり、しまり弱い。灰色粘土 (10YR6/1) ブロック含む。 |
| IV. 灰色シルト (10YR6/1) | 粘性あり、しまり弱い。鉄分を多く含む。 |
| V. 灰白色粘土 (N7/0) | 粘性強い、しまり強い。鉄分を含む。 |
| VI. 灰色粘土 (N6/0) | 粘性強い、しまり強い。 |
| VIIa. 灰色粘土 (N5/0) | 粘性強い、しまり強い。 |
| VIIb. 灰白色粘土 (N7/0) | 粘性強い、しまり強い。 |
| VIIc. 灰色粘土 (N4/0) | 粘性強い、しまり強い。 |
| VII d. 灰色粘土 (N7/0) | 粘性強い、しまり強い。 |
| VIII. 青灰色シルト (10BG6/1) | 粘性あり、しまり弱い。 |

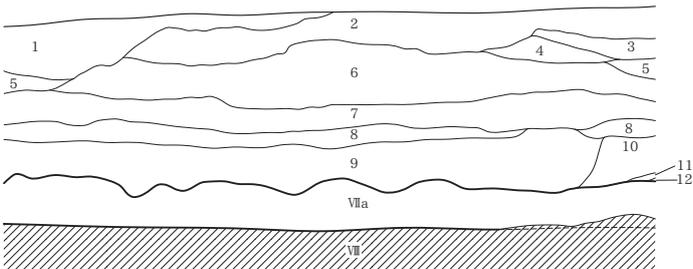
SB' 4.5m



1区SD1

1. 青灰色粘土 (5PB5/1) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。
2. 暗青灰色粘土 (5PB4/1) 粘性強い、しまり強い。地山ブロック含む。
3. 灰色粘土 (N6/0) 粘性強い、しまり強い。地山ブロック含む。
- 3'. 灰白色シルト (N7/0) 粘性強い、しまり強い。地山ブロック含む。

SC' 4.5m

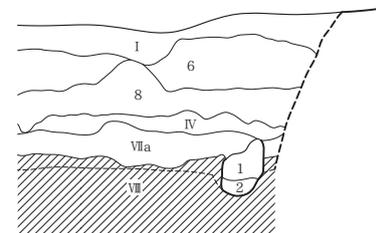


1区河

1区河

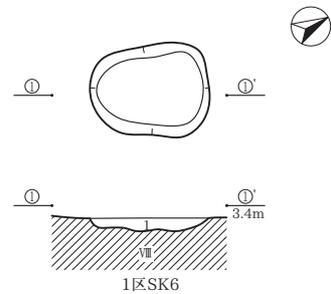
1. 灰色粘土 (N4/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。白色粘土ブロック含む。
2. 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり。炭化物粒子多く含む。
3. にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり。炭化物粒子多く含む。
4. にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり。炭化物粒子多く含む。
5. にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性強い、しまり強い。
6. にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性強い、しまり強い。炭化物粒子多く含む。
7. にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり。
8. にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性強い、しまり強い。炭化物粒子多く含む。
9. 黒褐色シルト (5YR3/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物粒子大量に含む。
10. 明オリーブ灰色シルト (2.5GY7/1) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。
11. 灰色シルト (N6/0) 粘性強い、しまり強い。
12. 灰色シルト (N6/0) 粘性強い、しまり強い。鉄分多く含む。

SE' 4.5m



1区Pit2

1. 灰色粘土 (N4/0) 粘性強い、しまり強い。鉄分多く含む。
2. 明オリーブ灰色シルト (5GY7/1) 粘性あり、しまり弱い。鉄分含む。

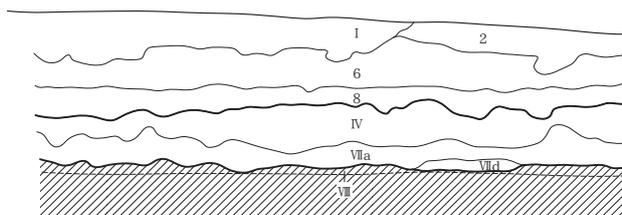


1区SK6

1区SK6

1. 灰色粘土 (N6/0) 粘性強い、しまり強い。白色粘土ブロック混入。φ5mmの炭化物を多量に含む。

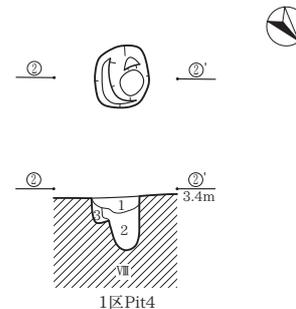
SD' 4.5m



1区河

1区河

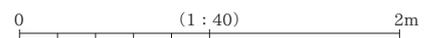
1. 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり。炭化物粒子多く含む。炭化物粒子=鉄分?
2. 灰黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性強い、しまり強い。炭化物粒子含む。
6. にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性強い、しまり強い。炭化物粒子含む。
8. にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性強い、しまり強い。炭化物粒子含む。

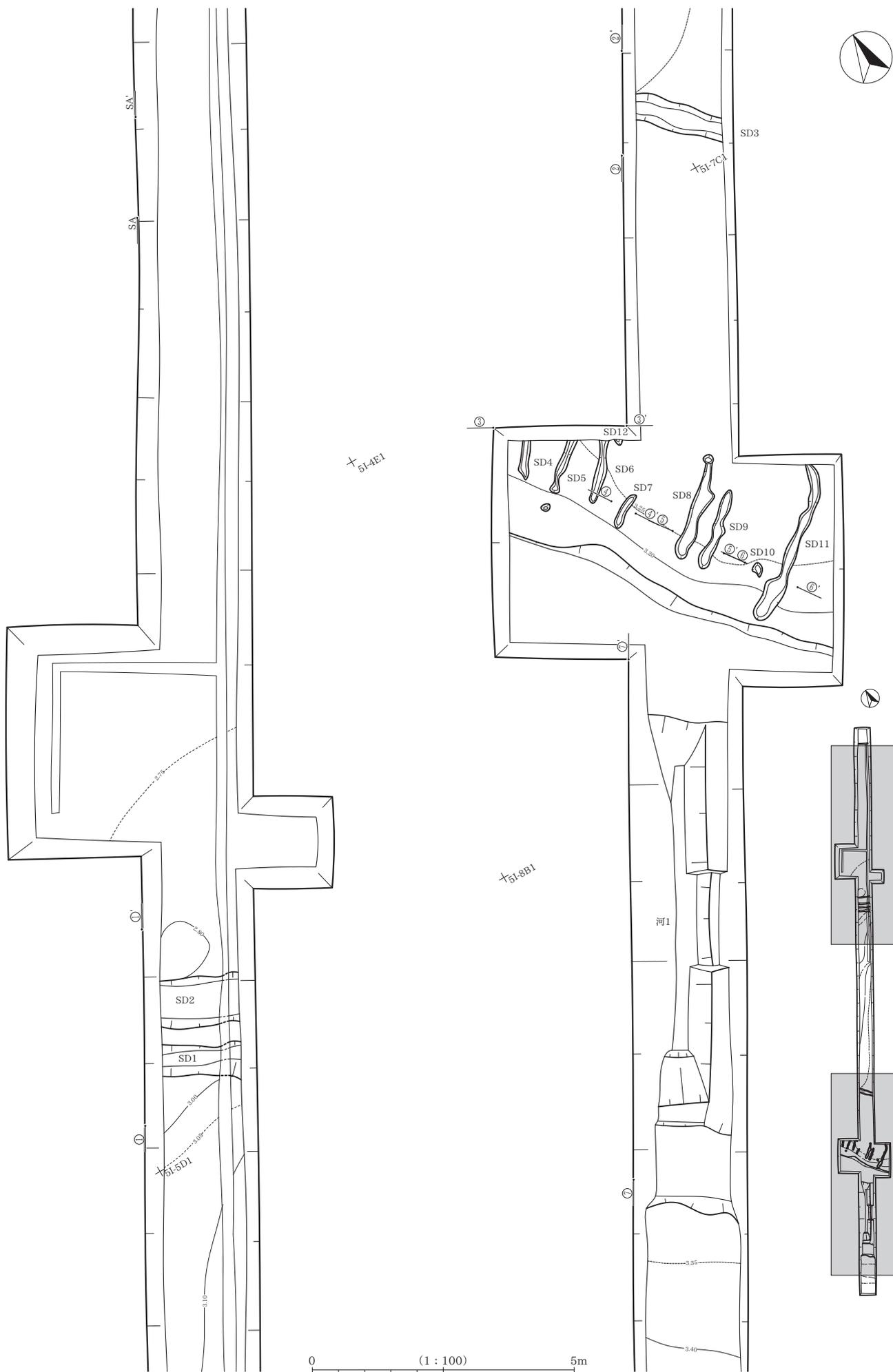


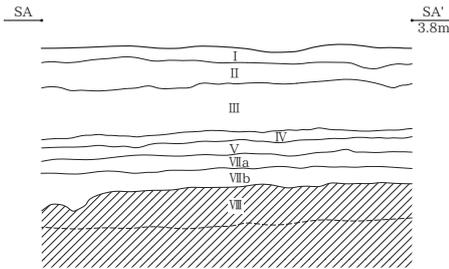
1区Pit4

1区Pit4

1. 灰色粘土 (N5/0) 粘性強い、しまり強い。φ5mmの炭化物粒子・鉄分含む。
2. 灰色粘土 (N4/0) 粘性強い、しまり強い。φ5mm~10mmの炭化物粒子を多く含む。
3. 灰色シルト (N6/0) 粘性強い、しまり強い。鉄分を多量に含む。地山ブロック粒子含む。

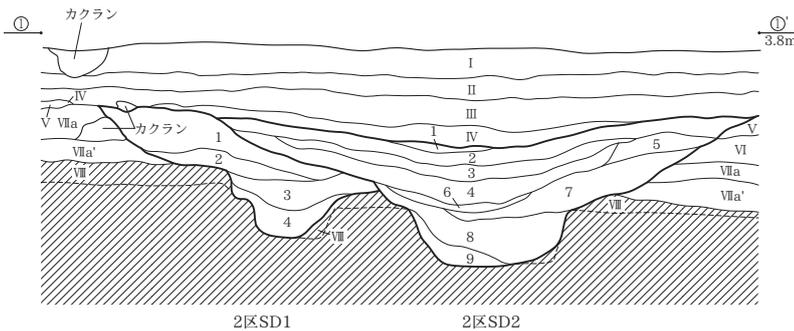






2区基本層序

- I. 明オリーブ灰色シルト (2.5GY7/1) 粘性あり、しまりあり。表土。
- II. 青灰色シルト (5B6/1) 粘性弱い、しまり強い。
- III. オリーブ灰色シルト (5GY5/1) 粘性弱い、しまり強い。
- IV. 青灰色シルト (5B6/1) 粘性強い、しまり強い。5mm程の炭粒多量に含む。(2003中谷内の黒バンドIV層か)
- V. 灰白色シルト (5Y7/2) 粘性強い、しまり強い。
- VIIa. 灰粘土 (N4/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。鉄分混入。古代の遺物包含層。
- VIIb. 灰粘土 (N5/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。鉄分混入。
- VIII. 青灰色シルト (5B6/1) 粘性強い、しまり強い。

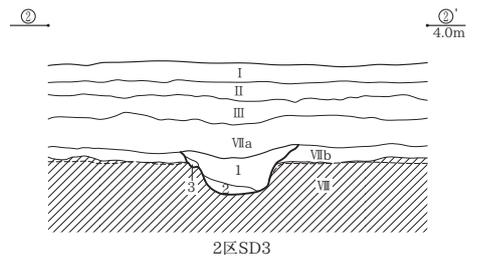


2区SD1

- 1. 灰シルト (N6/0) 粘性強い。しまり強い。鉄分混入。
- 2. 灰シルト (N5/0) 粘性強い。しまり強い。
- 3. 灰粘土 (N5/0) 粘性非常に強い。しまり非常に強い。鉄分・地山ブロック含む。
- 4. 灰粘土 (N5/0) 粘性非常に強い。しまり非常に強い。灰オリーブ色シルト (7.5Y6/2) ブロック含む。

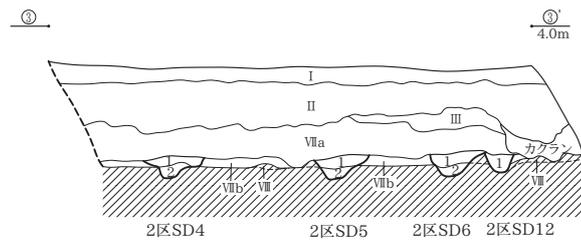
2区SD2

- 1. 灰白色粘土 (N7/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。
- 2. 灰白色粘土 (N6/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。
- 3. 灰白色シルト (2.5GY8/1) 粘性強い、しまり強い。
- 4. 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。10mm程の炭粒混入。
- 5. 灰オリーブ色粘土 (7.5Y5/2) 粘性強い、しまり強い。
- 6. 灰白色粘土 (N8/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。炭粒含む。
- 7. 灰粘土 (N5/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。
- 8. 灰粘土 (N4/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。明オリーブ灰色シルト (2.5GY7/1) ブロック含む (霜降り状)。
- 9. 灰粘土 (N4/0) 粘性強い。しまり強い。明オリーブ灰色シルト (2.5GY7/1) ブロック混入。



2区SD3

- 1. 褐灰色シルト (7.5YR4/1) 粘性強い、しまり強い。鉄分混入。
- 2. 淡黄色シルト (2.5Y8/3) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。灰白色シルト (N7/0) ブロック混入。
- 3. 灰シルト (N6/0) 粘性強い、しまり強い。淡黄色シルト (2.5Y8/3) ブロック混入。



2区SD4

- 1. 灰粘土 (N5/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。灰黄色シルト (2.5Y7/2) ブロック混入。
- 2. 灰白色シルト (N7/0) 粘性あり、しまりあり。にぶい黄橙シルト (10YR6/4) ブロック混入。

2区SD5

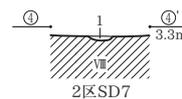
- 1. 灰粘土 (N5/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。灰黄色シルト (2.5Y7/2) ブロック混入。
- 2. 灰白色シルト (N7/0) 粘性あり、しまりあり。にぶい黄橙シルト (10YR6/4) ブロック混入。

2区SD6

- 1. 灰粘土 (N5/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。灰黄色シルト (2.5Y7/2) ブロック混入。
- 2. 灰白色シルト (N7/0) 粘性あり、しまりあり。にぶい黄橙シルト (10YR6/4) ブロック混入。

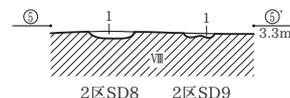
2区SD12

- 1. 灰粘土 (N5/0) 粘性非常に強い、しまり非常に強い。灰黄色シルト (2.5Y7/2) ブロック混入。



2区SD7

- 1. 灰黄色粘土 (2.5Y7/2) 粘性強い、しまり強い。ブロック混入灰シルト (N6/0)

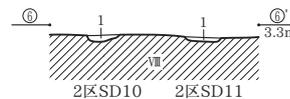


2区SD8

- 1. 灰黄色粘土 (2.5Y7/2) 粘性強い、しまり強い。ブロック混入灰シルト (N6/0)

2区SD9

- 1. 灰黄色粘土 (2.5Y7/2) 粘性強い、しまり強い。ブロック混入灰シルト (N6/0)

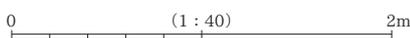


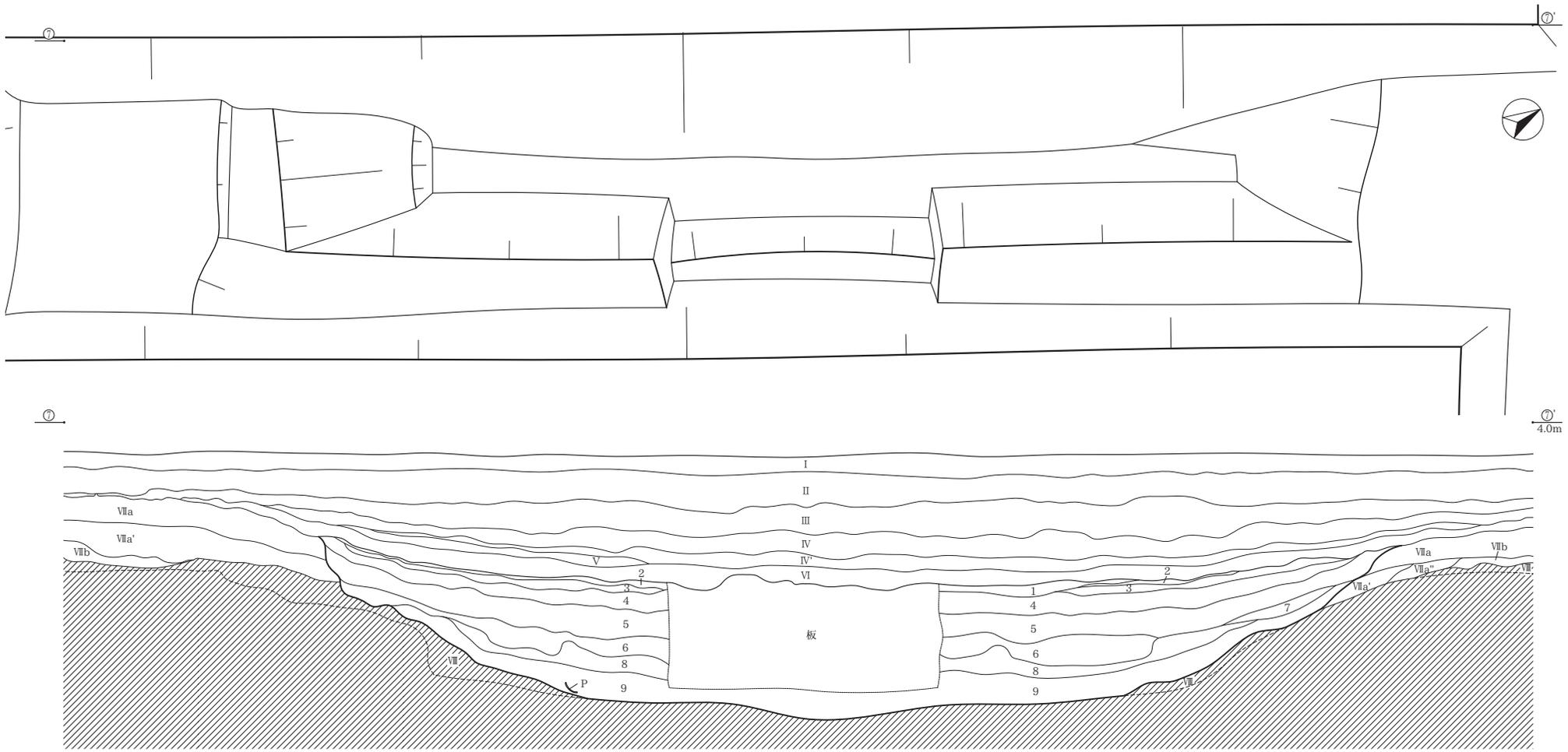
2区SD10

- 1. 灰黄色粘土 (2.5Y7/2) 粘性強い、しまり強い。ブロック混入灰シルト (N6/0)

2区SD11

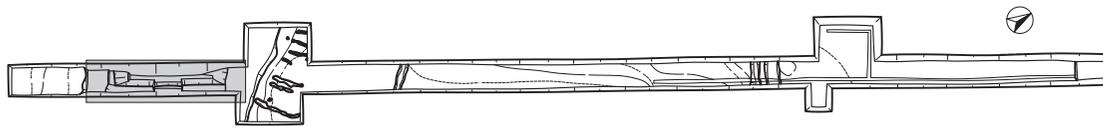
- 1. 灰黄色粘土 (2.5Y7/2) 粘性強い、しまり強い。ブロック混入灰シルト (N6/0)





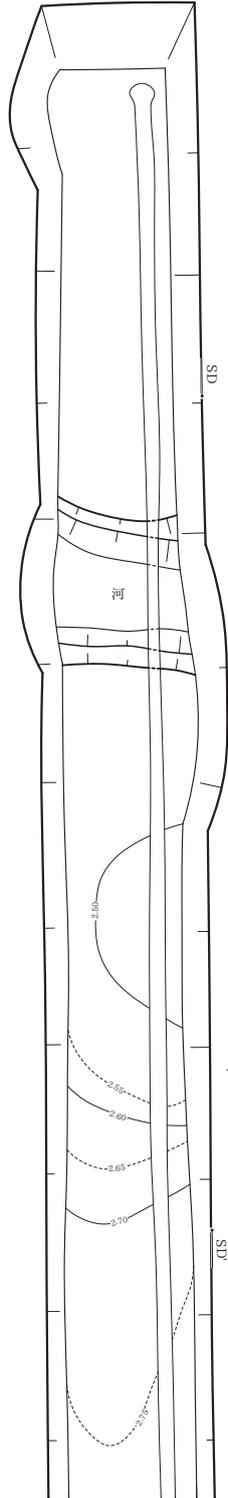
- | | | |
|---------|----------------------|---|
| I. | 明オリブ灰色シルト (2.5GY7/1) | 粘性あり、しまりあり。表土。 |
| II. | 青灰色シルト (5B6/1) | 粘性弱い、しまり強い。 |
| III. | オリブ灰色シルト (5GY5/1) | 粘性強い、しまり強い。 |
| IV. | 青灰色シルト (5B6/1) | 粘性強い、しまり強い。5mm程の炭粒を多量に含む。(中谷内第9次調査の黒バンドIV層) |
| IV'. | 明オリブ灰色シルト (2.5GY7/1) | 粘性強い、しまり強い。 |
| V. | 灰白色シルト (5Y7/2) | 粘性強い、しまり強い。 |
| VI. | 灰色粘土 (N6/0) | 粘性強い、しまり強い。10mm程の炭化粒・炭化帯混入。 |
| VIIa. | 灰色粘土 (N4/0) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。鉄分混入。古代の遺物包含層。 |
| VIIa'. | 灰色粘土 (N6/0) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。鉄分混入。 |
| VIIa''. | 灰色粘土 (N5/0) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。地山ブロック含む。 |
| VIIb. | 灰色シルト (N6/0) | 粘性強い、しまり強い。地山ブロック混入。漸移層。 |
| VII. | 灰白色シルト (5Y8/2) | 粘性強い、しまり強い。地山。 |

- 2区河1
- | | | |
|----|-------------------|---|
| 1. | 黄灰色シルト (2.5Y5/1) | 粘性強い、しまり強い。 |
| 2. | 灰白色シルト (2.5GY8/1) | 粘性弱い、砂分多い。 |
| 3. | 灰色粘土 (N6/0) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。 |
| 4. | 暗灰色粘土 (N3/0) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。5mm程の炭化物粒混入。 |
| 5. | 灰色シルト (N5/0) | 粘性強い、しまり強い。 |
| 6. | 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | 粘性強い、しまり強い。オリブ灰色粘土ブロック混入。 |
| 7. | 灰色粘土 (N5/0) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。 |
| 8. | 灰色シルト (N5/0) | 粘性強い、しまり強い。5mm程の炭粒を含む。 |
| 9. | 灰色粘土 (N4/0) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。5mm程の炭粒を含む。上部に未分解植物層2~3cm厚で存在。 |



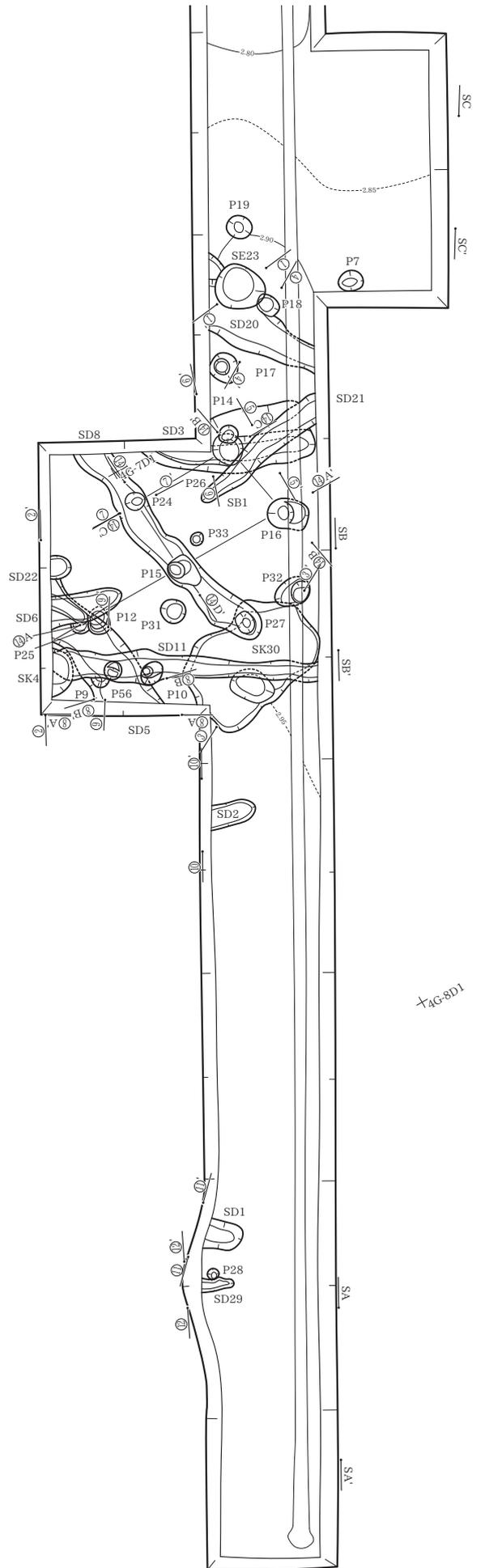
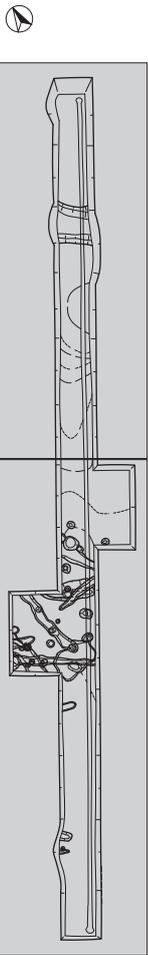
0 (1:500) 10m

0 (1:40) 1m



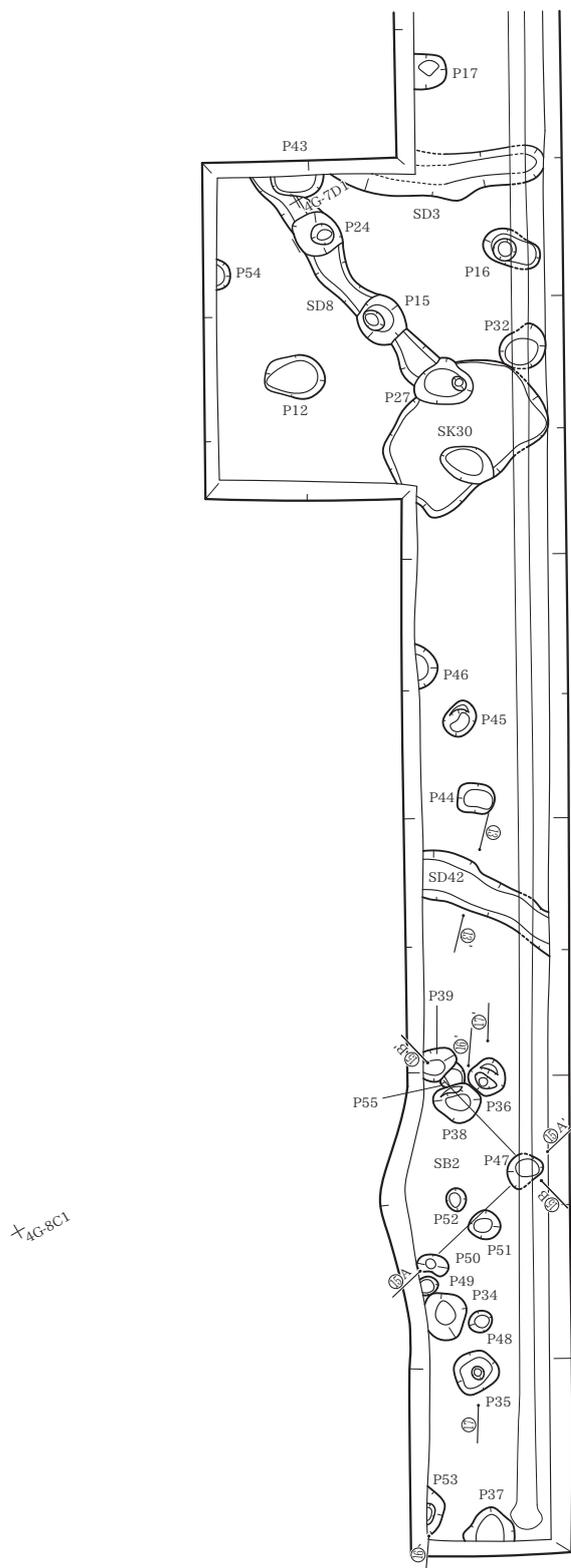
4G-5E1

4G-6E1

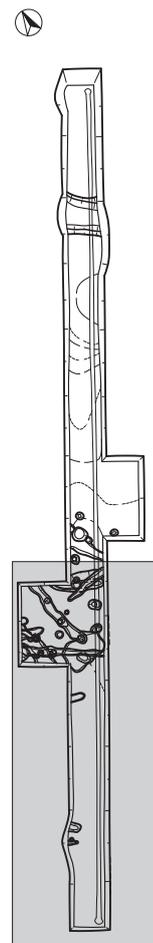


4G-8D1

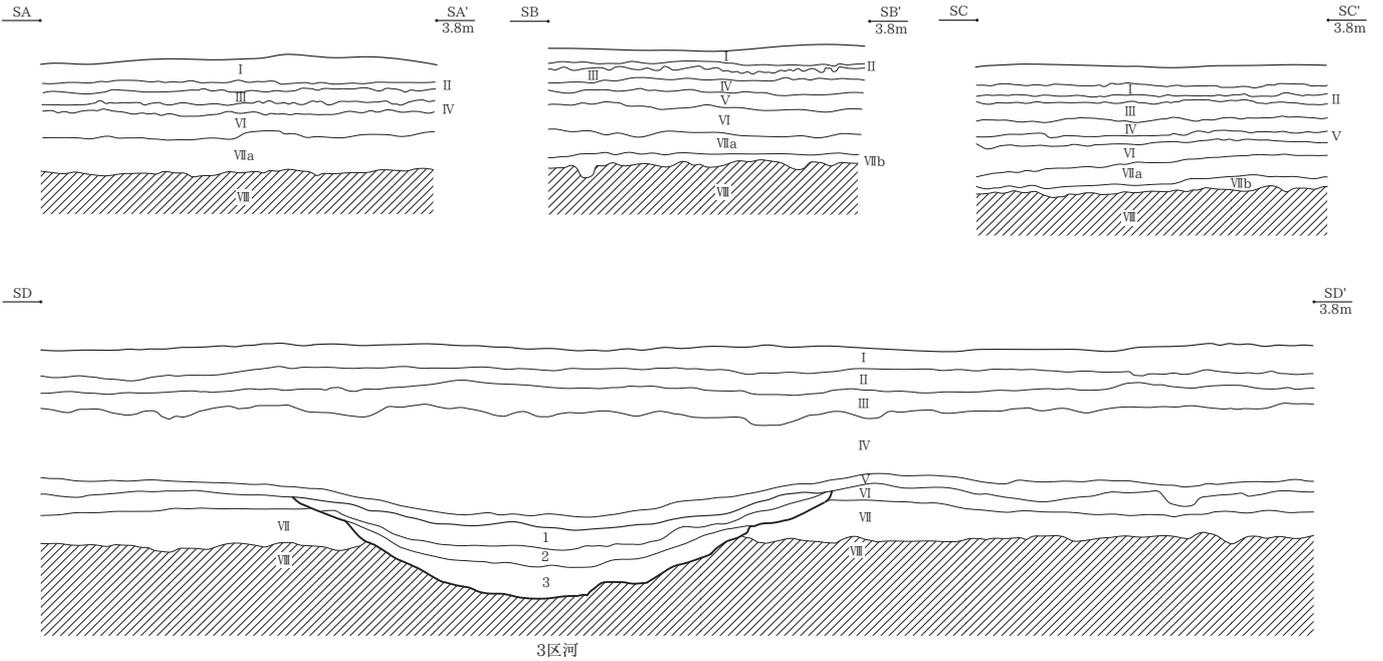
0 (1 : 100) 5m



4G-8D1



0 (1 : 100) 5m

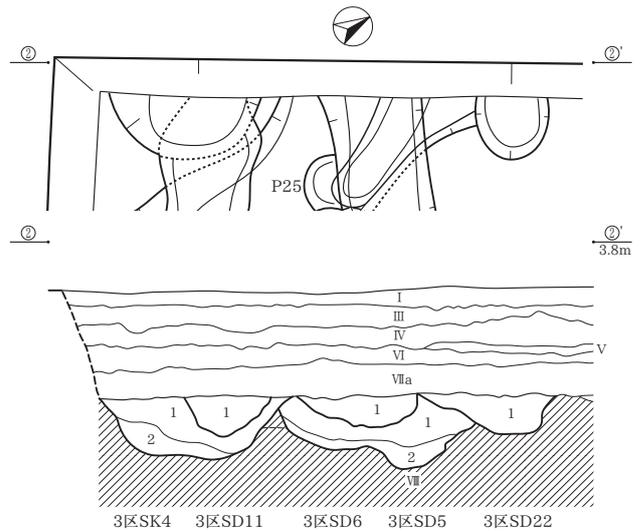
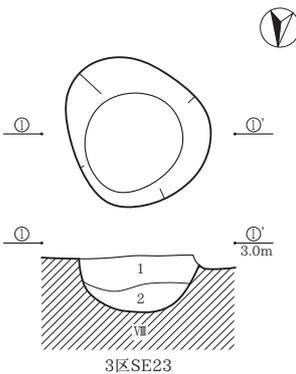


3区基本層序

- I. 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまり強い。褐鉄含む。
- II. 灰オリーブ色シルト (5Y6/2) 粘性あり、しまりあり。
- III. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまり強い。
- IV. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまり強い。黒褐色シルトをバンド状に中量含む。
- V. 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。
- VI. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。灰色シルトを斑状に中量含む。
- VIIa. 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性あり、しまりあり。下部VII層暗灰黄色シルトを斑状に中量含む。
- VIIb. 褐灰色シルト (7.5YR4/1) 粘性あり、しまりあり。VII層暗灰黄色シルトを斑状に中量含む。
- VIII. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性強い、しまりあり。

3区河

- 1. 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強い、しまりややあり。灰白色粘土を層状に中量含む。黒色炭化物を層状に含む。
 - 2. 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。灰白色粘土をブロック状に中量含む。
 - 3. 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。VII層オリーブ灰色粘土をブロック状に少量含む。
- VII層 (低地部)
オリーブ灰色粘土 (2.5GY5/1) 粘性強い、しまりあり。VII層暗灰色粘土を斑状に少量含む。



3区SE23

- 1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性強い、しまりあり。黒褐色シルトを斑状に中量含む。
- 2. 灰色シルト (10Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。III層黄灰色シルトを斑状に中量含む。

3区SK4

- 1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。VIIb層黒褐色シルトをラミナ状に少量含む。φ2~5mm炭化物を少量含む。
- 2. 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性強い、しまりあり。暗灰色シルトを斑状に少量含む。

3区SD11

- 1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。VIIb層黒褐色シルトをラミナ状に少量含む。φ2~5mm炭化物を少量含む。

3区SD6

- 1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。VIIb層黒褐色シルトをブロック状に中量含む。φ2~3mm炭化物を少量含む。

3区SD5

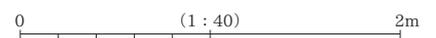
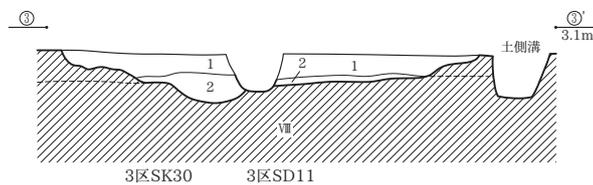
- 1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性強い、しまりあり。暗灰色シルトを斑状・層状に少量含む。
- 2. 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性あり、しまりややあり。暗灰色シルトを斑状に少量含む。

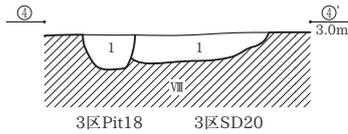
3区SD22

- 1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。暗灰色シルトを斑状に中量含む。

3区SK30

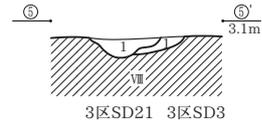
- 1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりあり。暗灰色シルトを斑状に少量含む。
- 2. 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性強い、しまりあり。暗灰色シルトを斑状に少量含む。





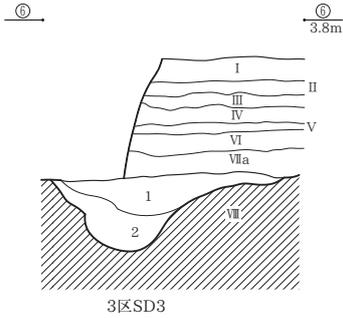
3区Pit18
1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりややあり。

3区SD20
1. 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性強い、しまりややあり。暗灰色シルトを斑状に少量含む。

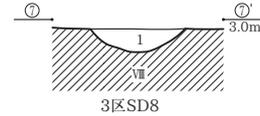


3区SD21
1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまり強い。暗灰色シルトを斑状に中量含む。φ2~8mmの炭化物を中量含む。

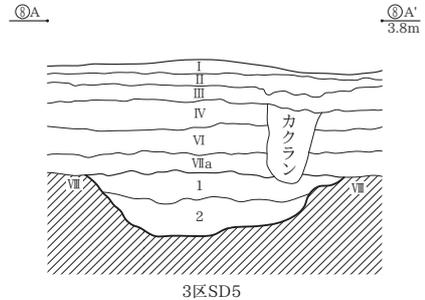
3区SD3
1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまり強い。



3区SD3
1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。VII層黒褐色シルトをブロック状・斑状に中量含む。φ2~5mm炭化物を少量含む。
2. 暗灰黄色シルト (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。暗灰色シルトを層状に少量含む。φ2~3mm炭化物を少量含む。



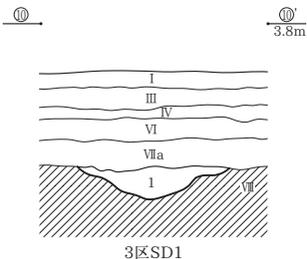
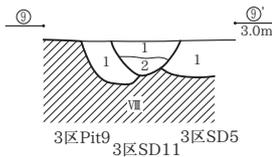
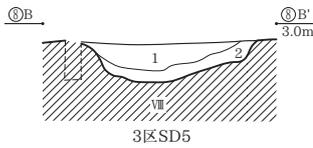
3区SD8
1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。VII層黒褐色シルトを斑状に少量、VIII層暗灰黄色シルトをブロック状に中量含む。



3区SD5
1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性強い、しまりあり。暗灰色シルトを斑状・層状に少量含む。
2. 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性あり、しまりややあり。暗灰色シルトを斑状に少量含む。

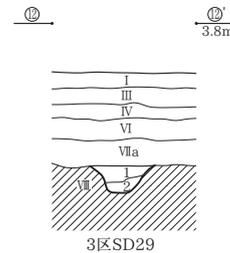
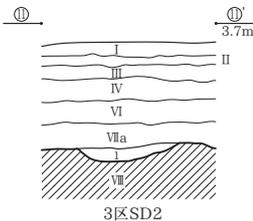
3区SD11
1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。暗灰色シルトを斑状に中量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
2. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性強い、しまりあり。暗灰色シルトを斑状に少量含む。

3区Pit9
1. 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。φ2~3mmの炭化物を少量含む。



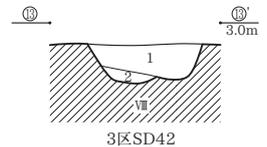
3区SD1
1. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり。VII層暗灰黄色シルトを斑状に少量含む。φ2~8mm炭化物を少量含む。

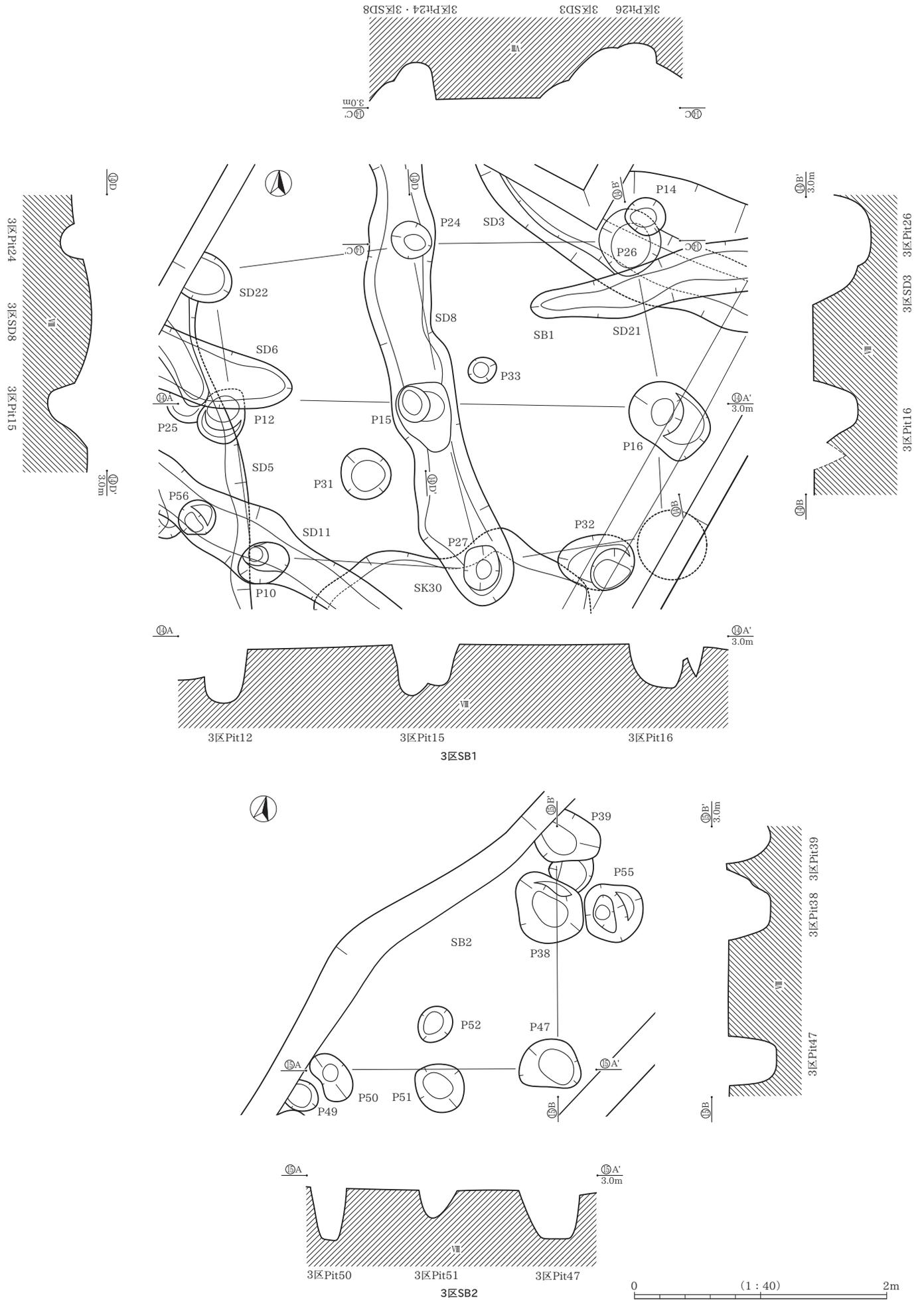
3区SD2
1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりややあり。VIIb層黒褐色シルトを斑状に少量含む。φ2~8mm炭化物を少量含む。

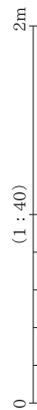
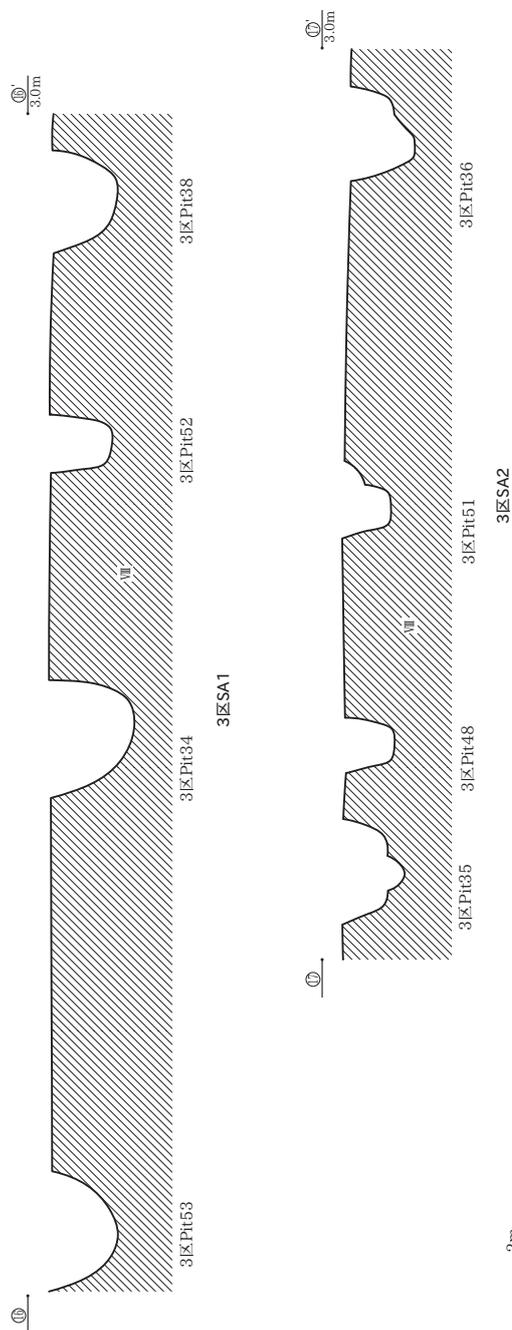
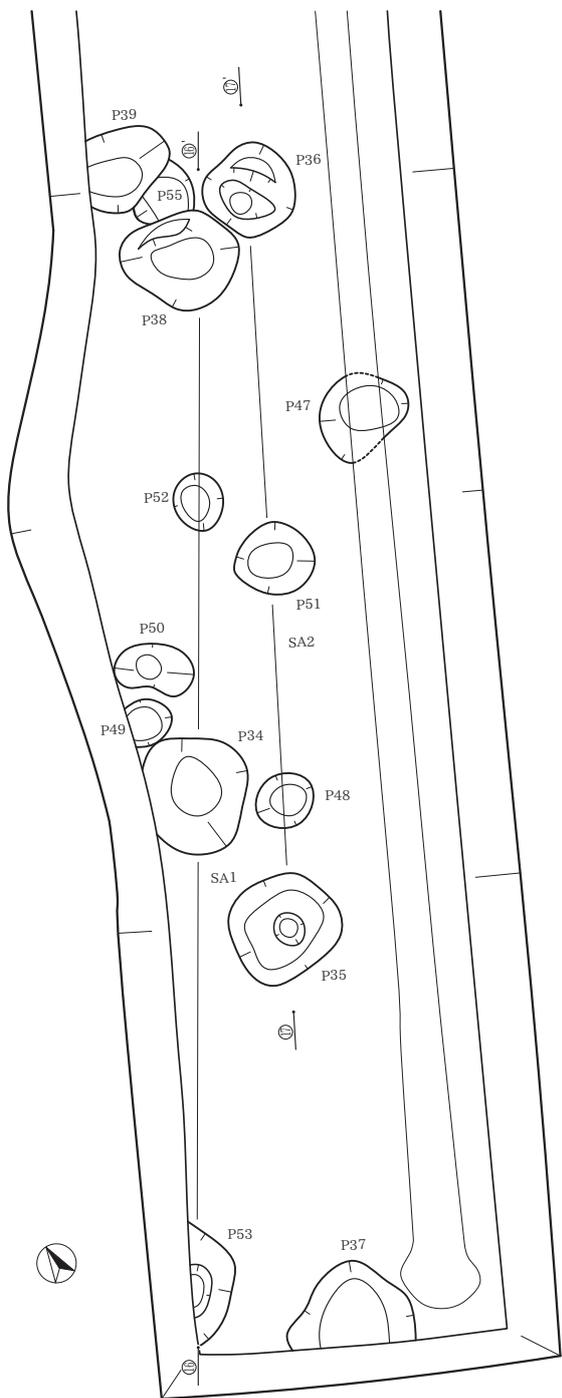


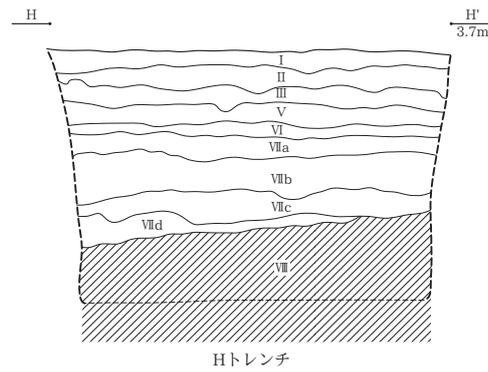
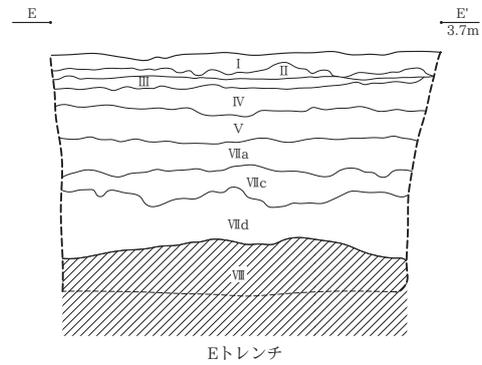
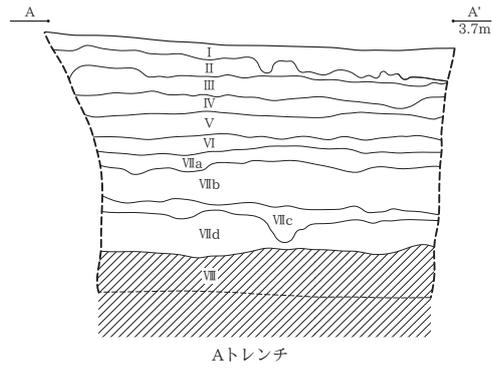
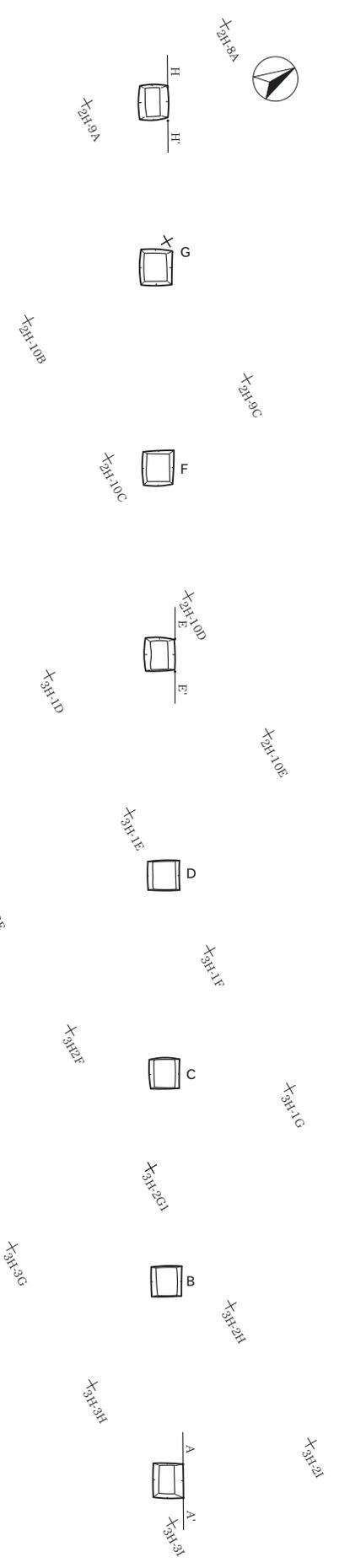
3区SD29
1. 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性あり、しまり強い。VII層黒褐色シルトをブロック状に少量含む。褐鉄含む。
2. にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) 粘性強い、しまりあり。VII層黒褐色シルトをブロック状に少量含む。褐鉄含む。

3区SD42
1. 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性あり、しまりあり。
2. 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。



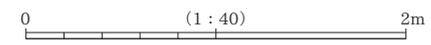
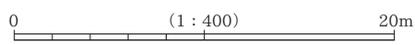


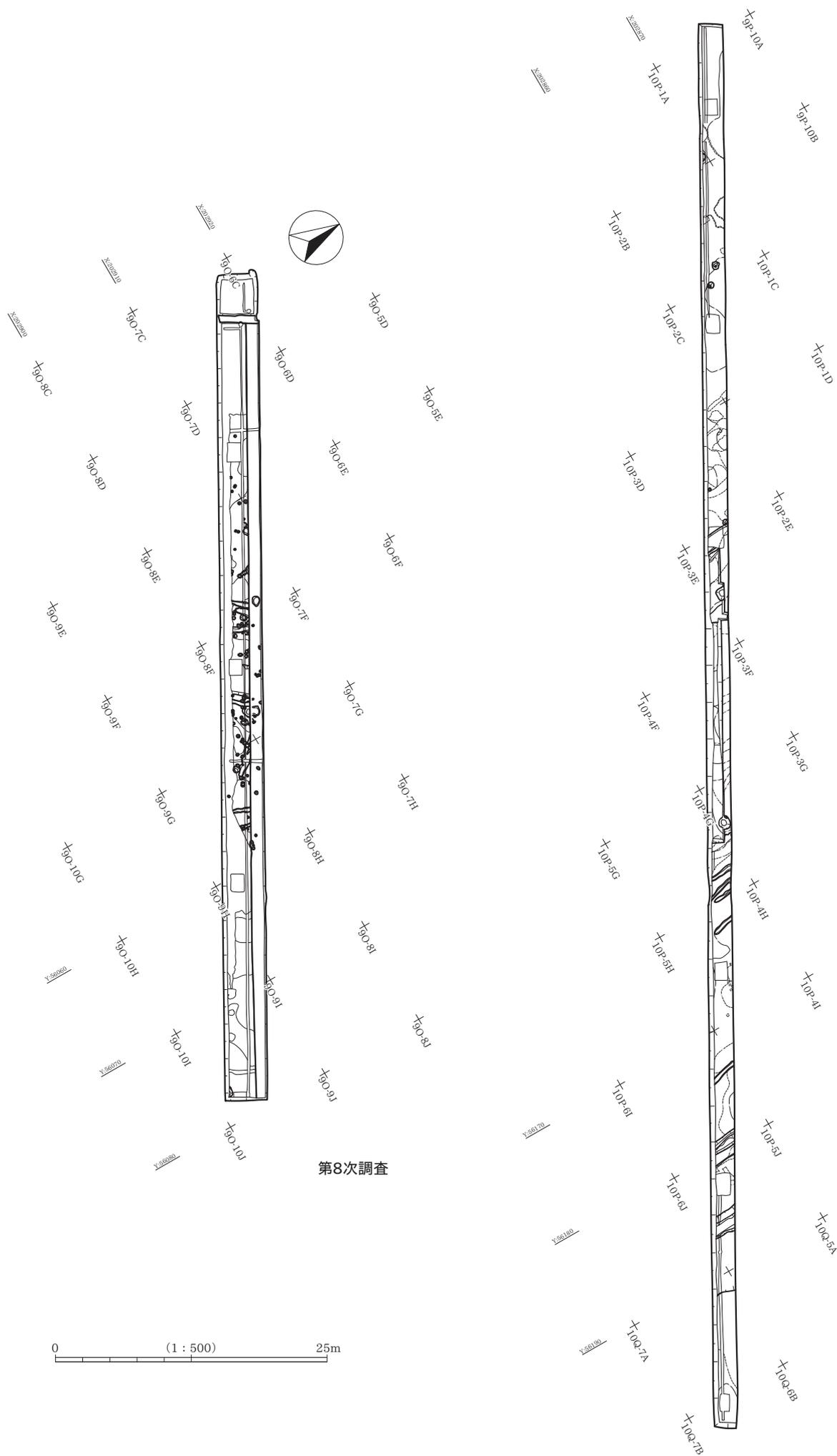


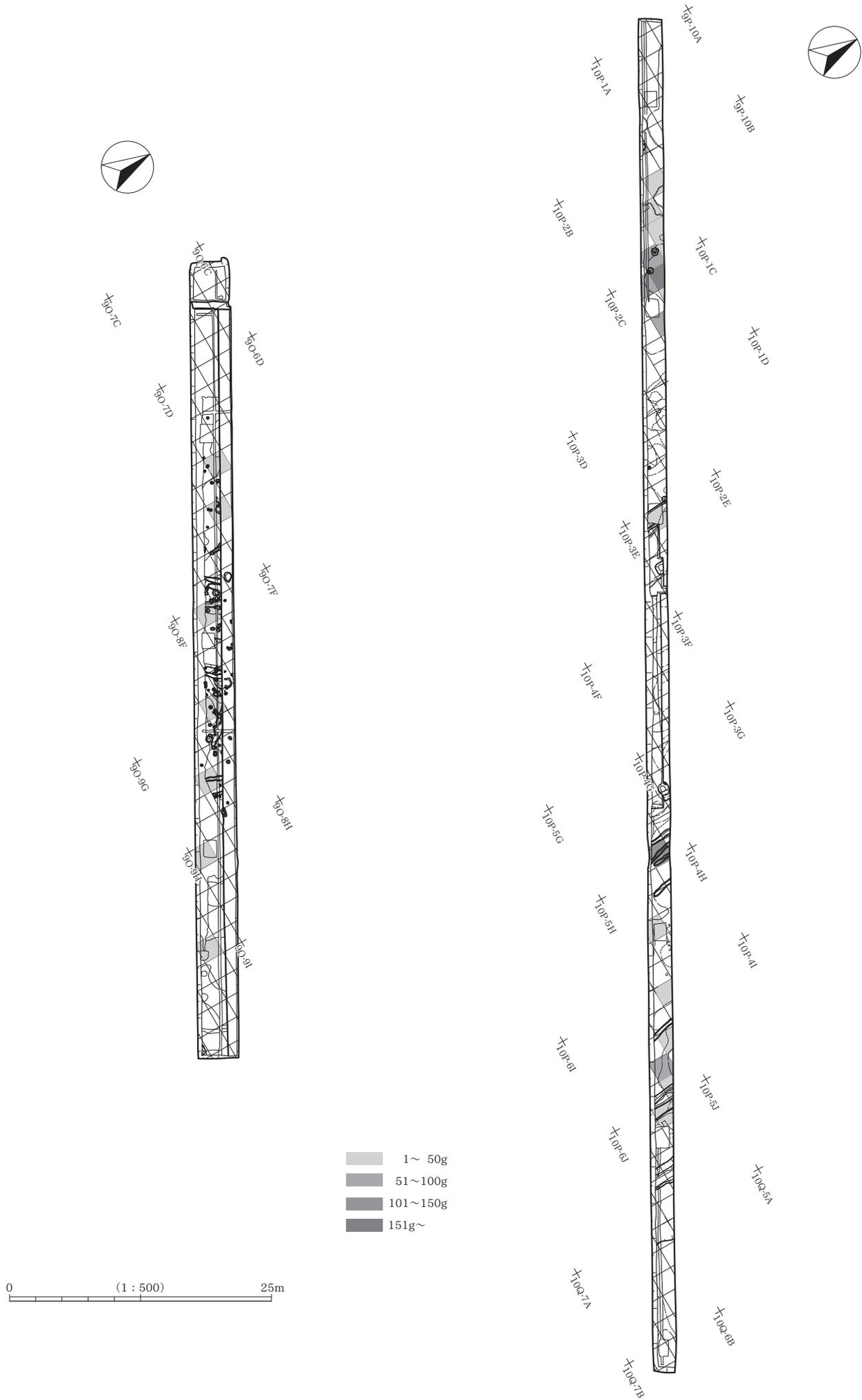


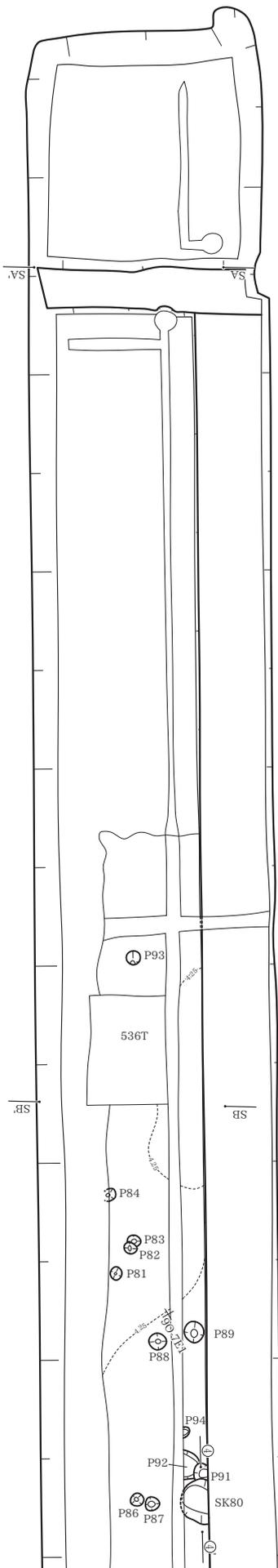
4区基本層序

- | | |
|--------------------------|---|
| I. 灰黄色シルト (2.5Y7/2) | 粘性弱い、しまり弱い。表土。 |
| II. 青灰色粘土 (5B5/1) | 粘性強い、しまり強い。床土。 |
| III. 灰白色粘土 (2.5Y7/1) | 粘性強い、しまり強い。 |
| IV. 灰色シルト (N6/0) | 粘性強い、しまり弱い。鉄分・黒色粒が帯状に混入。(中谷内9次の黒バンドIV層) |
| V. 明青灰色粘土 (10BG7/1) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。 |
| VI. 暗青灰色粘土 (5B4/1) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。 |
| VII. 青灰色粘土 (5B6/1) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。包含層相当層。 |
| VIII. 青灰色粘土 (5B6/1) | 粘性非常に強い、しまり非常に強い。包含層相当層。 |
| IX. オリーブ灰色シルト (2.5GY6/1) | 粘性強い、しまり弱い。未分解植物多く含む。 |
| X. 青灰色細砂 (5B6/1) | 粘性なし、しまりなし。 |
| XI. 青灰色シルト (5B6/1) | 粘性強い、しまり弱い。未分解植物多く含む。 |



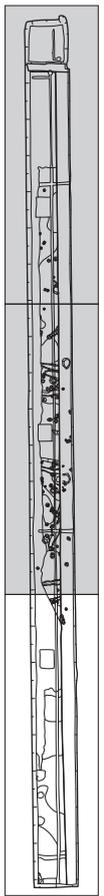
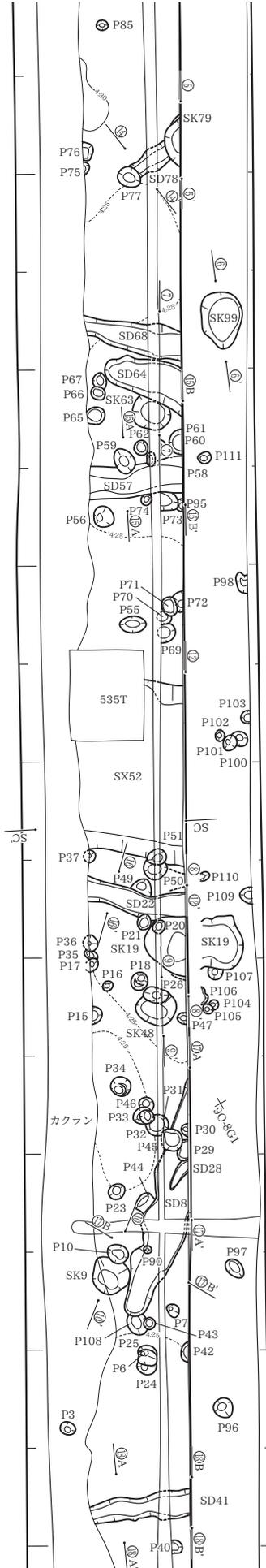


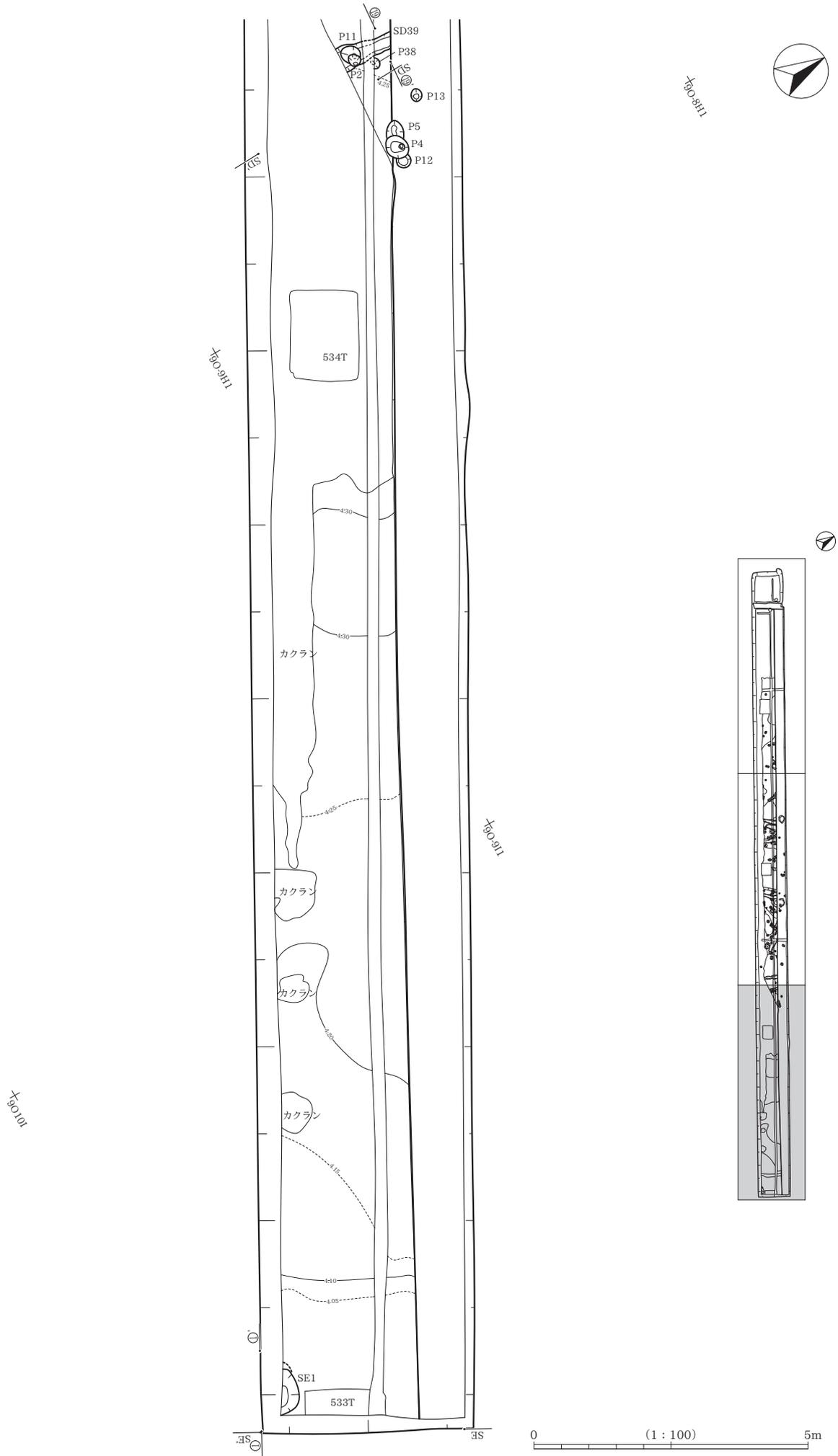


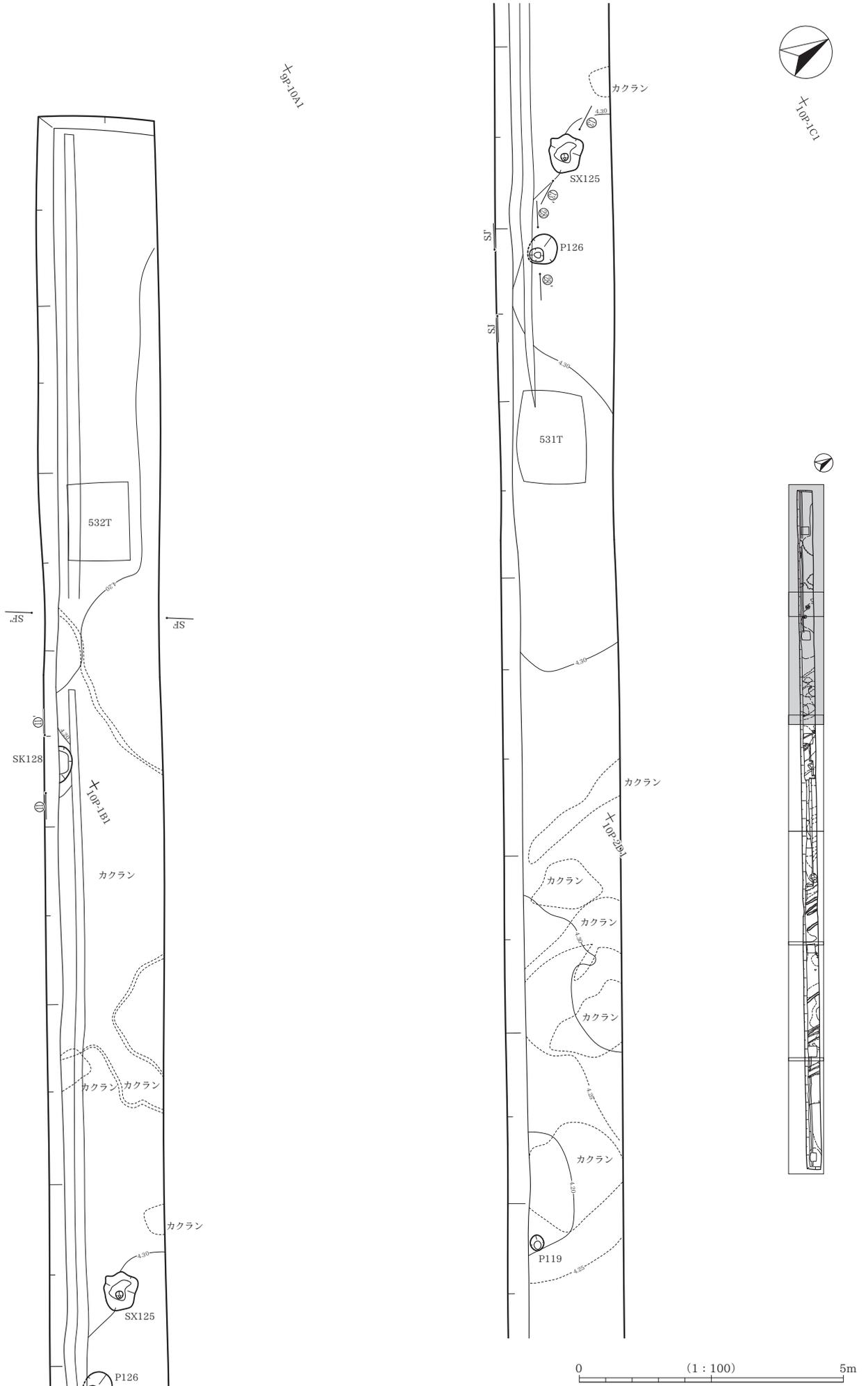


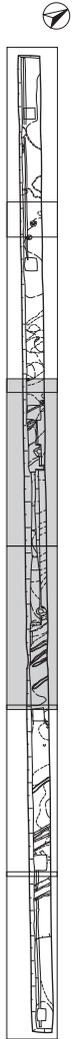
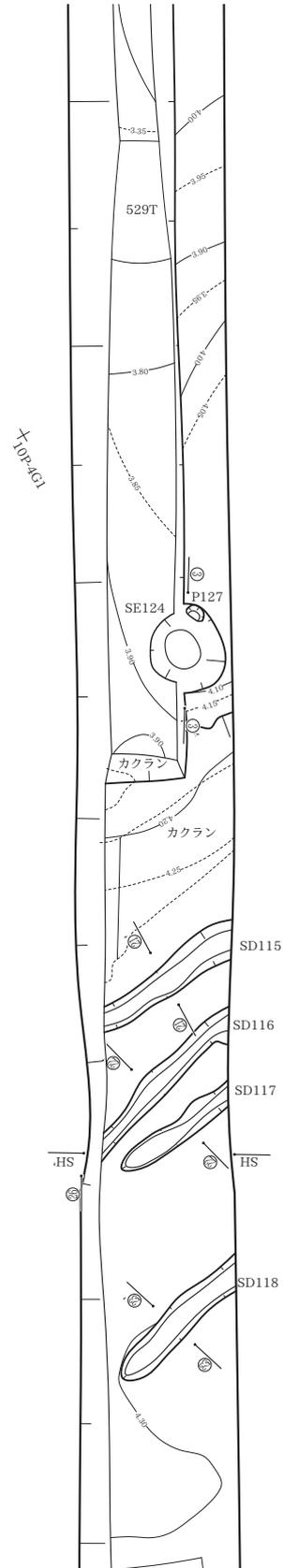
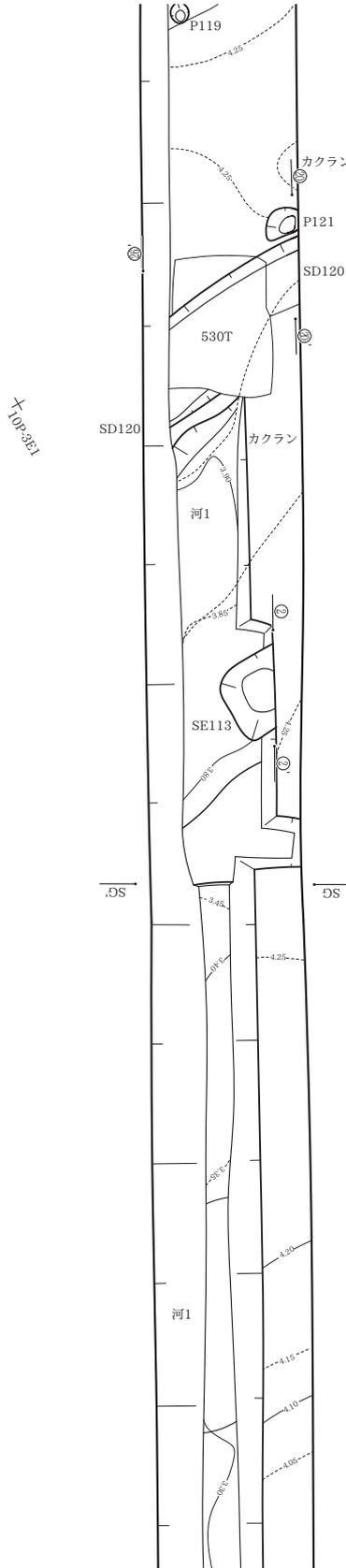
190-891

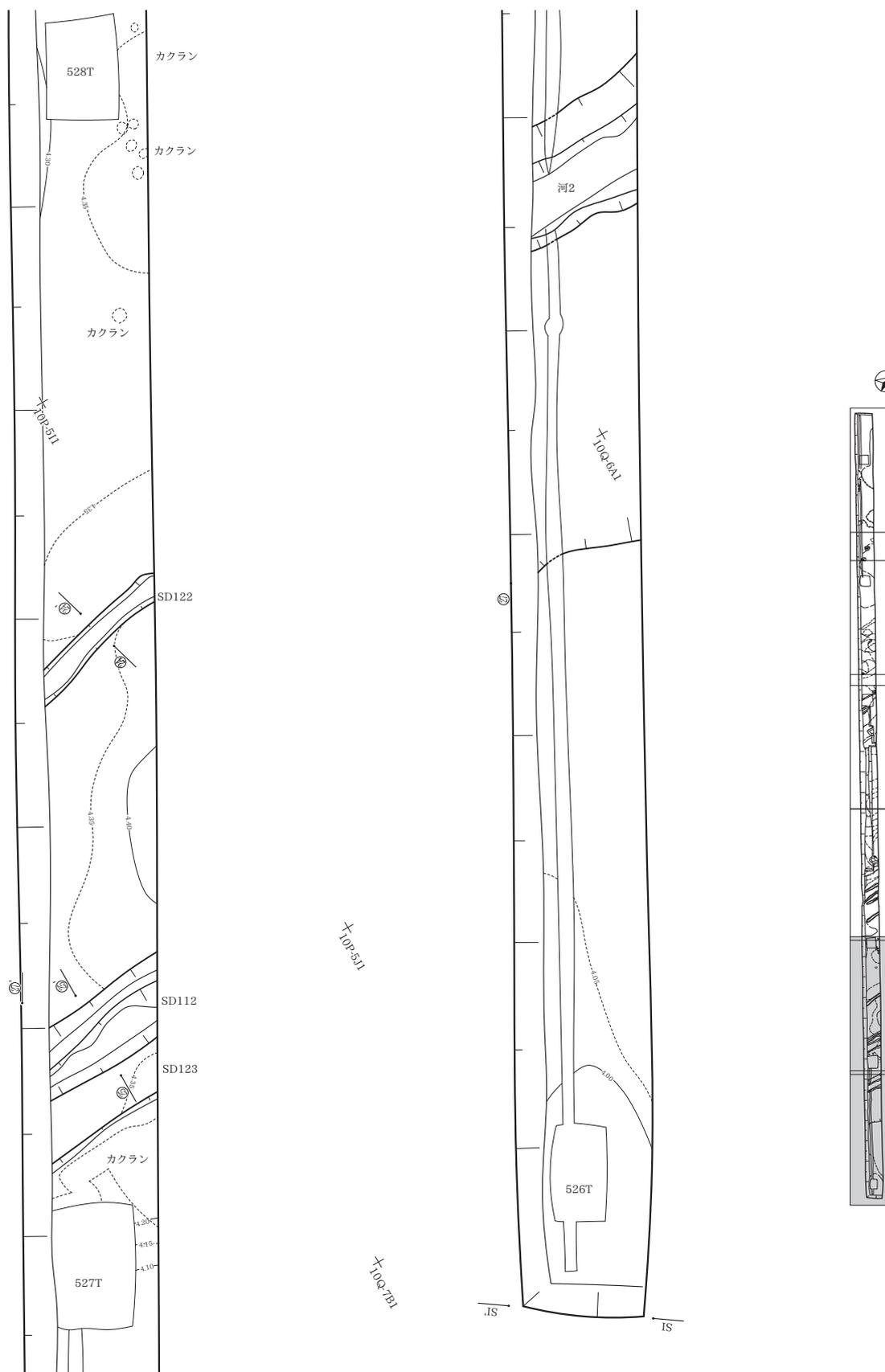
190-891

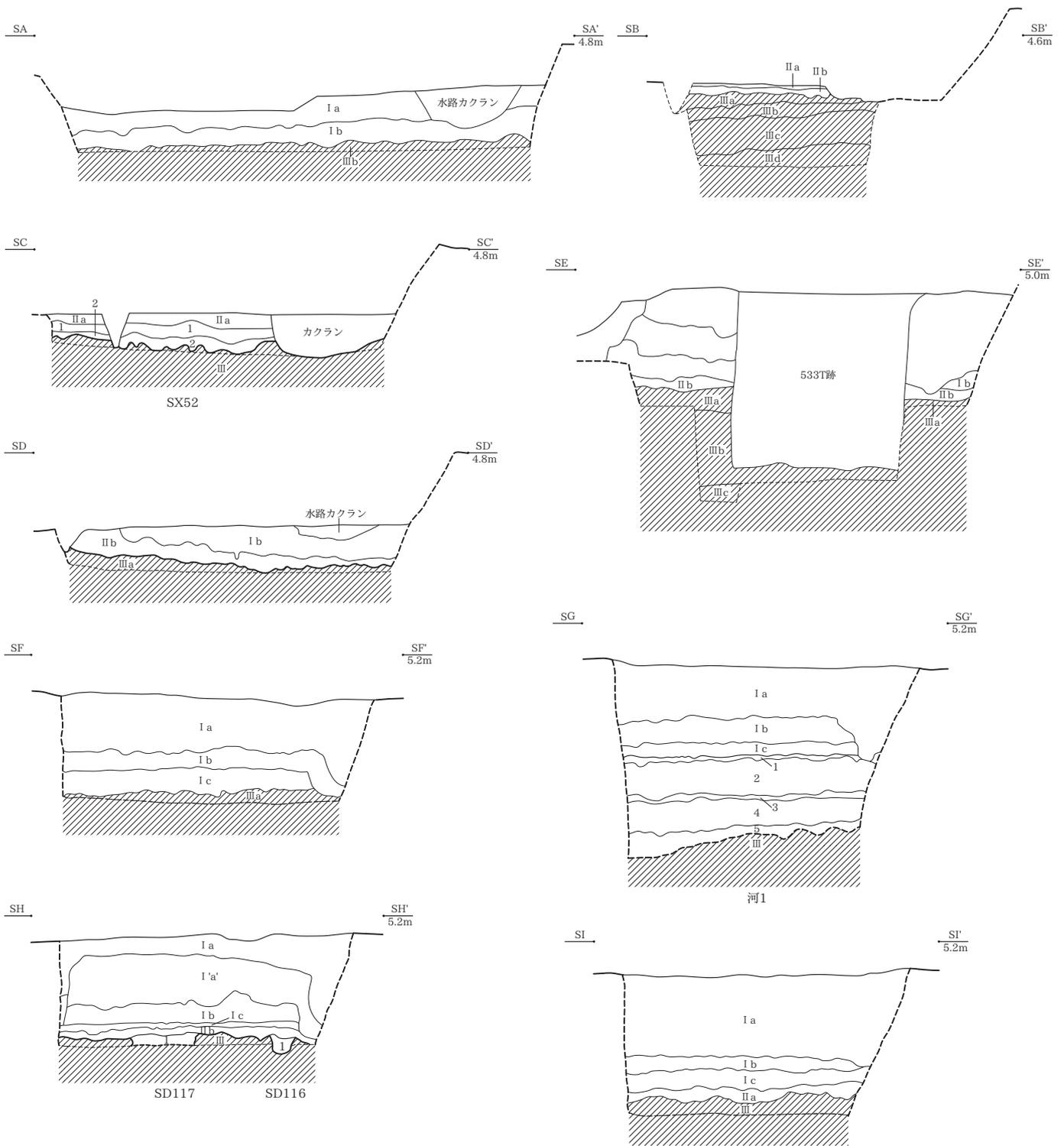












基本層序

- I a. 盛土・カクラン層を一括した。
- I a'. 黄灰色シルト (2.5Y5/1)
- I a". 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2)
- I b. 黄灰色シルト (2.5Y4/1)
- I b'. 灰色シルト (5Y5/1)
- I c. 褐色シルト (10YR5/1)
- II a. 黒褐色シルト (10YR3/1)
- II b. 暗褐色砂質シルト (10YR3/3)
- III a. 黄褐色砂質シルト (2.5Y5/3)
- III b. 灰黄褐色砂質シルト (10YR4/2)
- III c. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2)
- III d. 黄灰色砂質シルト (2.5Y5/1)

粘性ややなし、しまりあり。にぶい黄色砂質シルト (2.5Y6/3) 層状に中量含む。
 粘性ややなし、しまりあり。I b層灰色シルトをブロック状に中量含む。
 河2上層で部分的にI aとI bまたはI cの間に入る。洪水堆積層か
 粘性強い、しまりあり。近世以降の水田耕作土。灰色シルト・黒褐色シルトブロック状に少量含む。
 褐鉄少量含む。
 粘性あり、しまりあり。にぶい黄色砂質シルト (2.5Y6/3) ラミナ状に中量含む。
 粘性あり、しまり強い。近世以降の水田床土。灰色シルトブロック状に少量含む。褐鉄少量含む。
 粘性ややなし、しまりあり。古代・中世遺構の包含層。II b層暗褐色砂質シルト斑状に中量含む。
 粘性ややなし、しまりあり。II a層～III層漸移層
 粘性ややなし、しまりややなし。II a層黒褐色シルト斑状に少量含む。褐鉄少量含む。上部は遺構確認面。
 粘性なし、しまりあり。II a層黒褐色シルト斑状に少量含む。褐鉄少量含む。
 粘性ややあり、しまりあり。III b層灰黄褐色砂質シルト斑状に少量含む。褐鉄少量含む。
 粘性ややなし、しまりややなし。III c層暗灰黄色シルト斑状に少量含む。褐鉄少量含む。

SX52

1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。黄褐色シルトをブロック状に少量含む。
2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。黒褐色粒子を多く含む。灰色シルトをブロック状に少量含む。

SD116

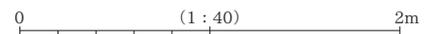
1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。III層黄褐色シルトを層状に中量含む。

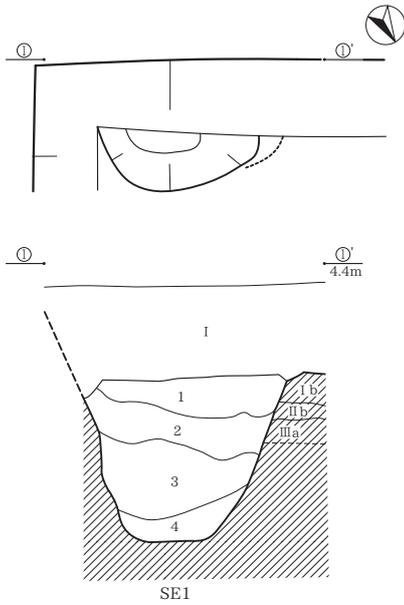
SD117

1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまり強い。黄灰色シルトを層状に中量含む。

河1

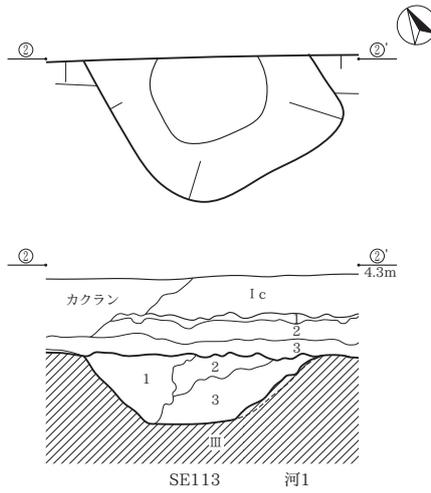
1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまり強い。I c層褐色シルトを斑状に少量含む。
2. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。φ2~5mm炭化物を少量含む。
3. 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。2層黄灰色シルトを層状に少量含む。
4. 褐色シルト (10YR4/1) 粘性強い、しまりややあり。φ2~3mm炭化物少量含む。
5. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強い、しまりあり。III a層黄褐色シルトを斑状に少量含む。





SE1

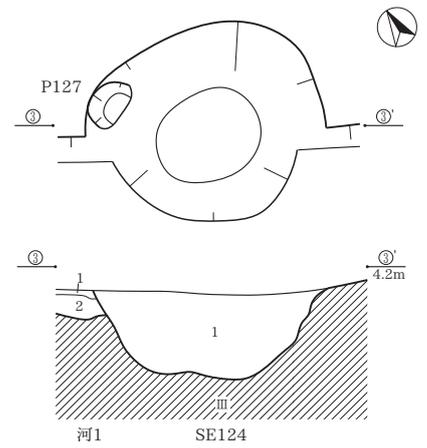
- SE1
 1. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。3層黒色シルトをブロック状に多量に含む。
 2. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。3層黒色シルトを斑状に多量に含む。
 3. 黒色シルト (10YR2/1) 粘性あり、しまりややあり。2層暗灰黄色シルトをブロック状に中量含む。
 4. 黒褐色シルト (10YR2/3) 粘性ややあり、しまりややあり。



SE113 河1

SE113

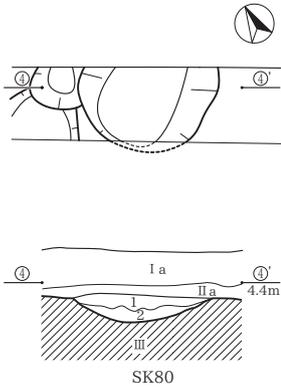
- SE113
 1. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。Ⅲ層黄灰色シルトを斑状に少量含む。黄灰砂を層状に少量含む。
 2. 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性ややあり、しまりあり。1層黄灰色シルトをラミナ状に少量含む。φ2~5mm炭化物少量含む。
 3. 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性ややあり、しまりあり。1層黄灰色シルトをブロック状に中量含む。



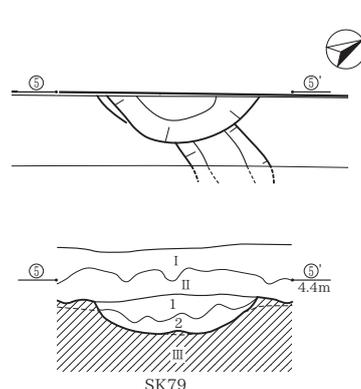
SE124 河1

SE124

- SE124
 1. 黄灰色粘土層 (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトをブロック状に中量、河1の2層褐色シルトをブロック状に少量含む。



SK80



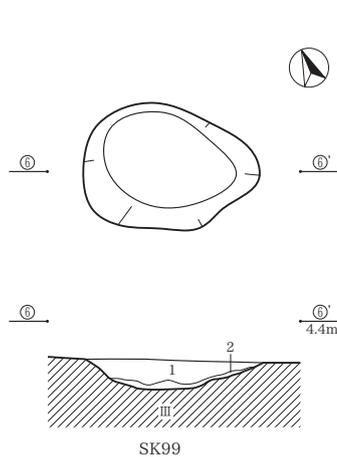
SK79

SK80

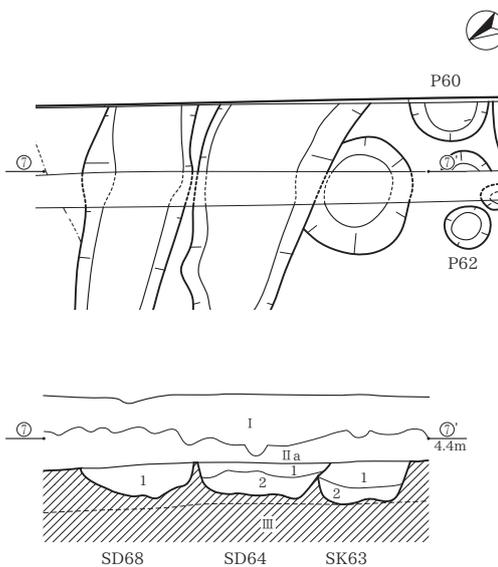
- SK80
 1. 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり。2層灰黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。
 2. 灰黄褐色砂質シルト (10YR4/2) 粘性なし、しまりあり。1層暗褐色シルトを斑状に少量含む。

SK79

- SK79
 1. 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり、しまり強い。黄灰色粒子を少量含む。
 2. 褐色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり。灰色砂質シルトをブロック状に多く含む。



SK99



SD68

SD64

SK63

SK99

- SK99
 1. 暗灰色シルト (N3/0) 粘性強い、しまりややあり。黄褐色シルトをブロック状に少量含む。
 2. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性強い、しまりあり。

SK63

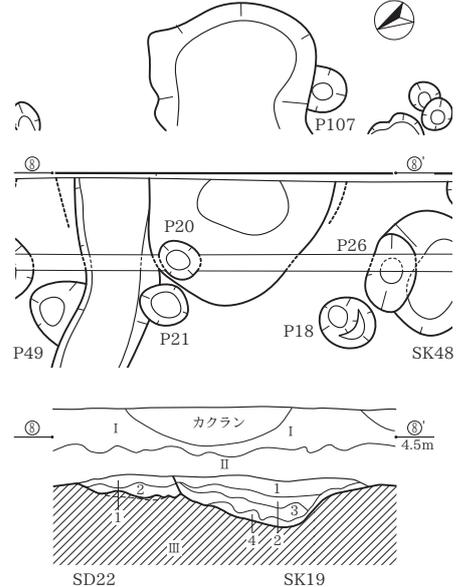
- SK63
 1. オリーブ黒色シルト (5Y3/2) 粘性あり、しまりあり。黄灰色砂をブロック状に多く含む。
 2. 灰オリーブ砂質シルト (5Y4/2) 粘性あり、しまりややあり。鉄分を多く含む。

SD64

- SD64
 1. 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性強い、しまりややあり。黄灰色砂質シルトをブロック状に含む。
 2. 暗灰黄色砂質シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。暗灰色シルトをブロック状に少量含む。

SD68

- SD68
 1. 暗灰黄色砂質シルト (2.5Y4/2) 粘性強い、しまりややあり。灰色砂をブロック状に含む。



SD22

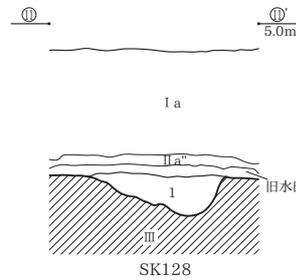
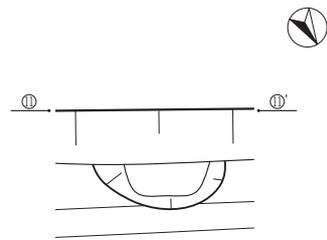
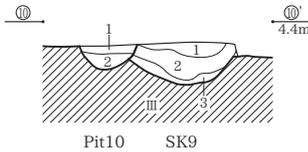
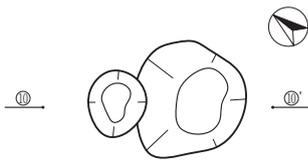
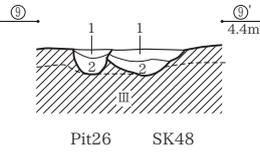
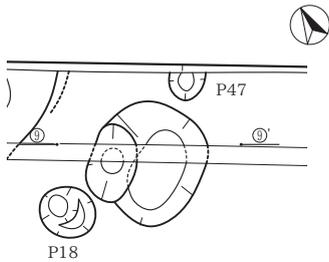
SK19

SK19

- SK19
 1. 黒褐色シルト (7.5YR2/2) 粘性あり、しまり強い。
 2. 黒色シルト (10YR2/1) 粘性あり、しまりあり。Ⅲa層黄灰色シルトを斑状に少量含む。
 3. にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり。1層黒褐色シルト・2層黒色シルト・Ⅲa層黄灰色シルトを斑状に中量含む。
 4. 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性ややあり、しまりややあり。1層黒褐色シルト・2層黒色シルトを斑状に少量含む。

SD22

- SD22
 1. 黒褐色シルト (5YR2/1) 粘性ややあり、しまり強い。Ⅲa層黄灰色シルトを斑状に少量含む。
 2. 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。1層黒褐色シルトを斑状に中量含む。



SK48
 1. 黄褐色砂質シルト (2.5Y5/4) 粘性あり、しまりややあり。黒褐色シルトをブロック状に多く含む。
 2. 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性あり、しまりあり。黄褐色シルトをブロック状に中量含む。

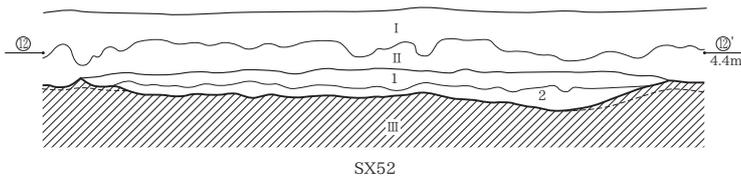
Pit26
 1. 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり、しまりあり。黄褐色シルトをブロック状に少量含む。
 2. 灰黄色砂質シルト (2.5Y6/2) 粘性あり、しまりあり。黒褐色シルトをブロック状に少量含む。

SK9
 1. 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性あり、しまりあり。にぶい黄褐色シルトを斑状に少量含む。
 2. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。IIIa層灰黄色シルトを斑状に少量含む。
 3. 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまりあり。2層黒褐色シルト・IIIa層灰黄色シルトを斑状に少量含む。

Pit10
 1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまり強い。IIIa層灰黄色シルトをブロック状に中量含む。
 2. 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまり強い。IIIa層灰黄色シルトをブロック状に中量含む。

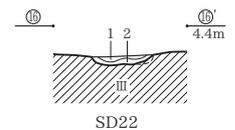
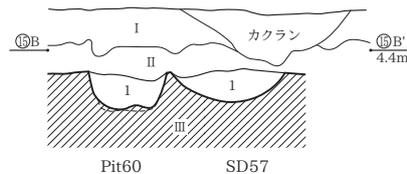
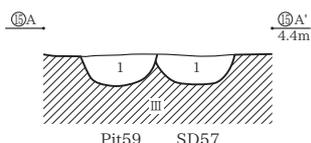
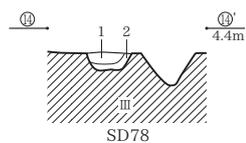
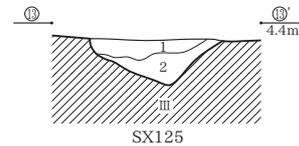
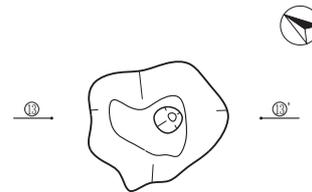
I a. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりあり。灰色シルトをブロック状に中量含む。
 ※III層 (黄褐色シルト) とI a層の混じり層。
旧水田覆土 にぶい黄褐色シルト (2.5Y6/3) 粘性なし、しまりややあり。
 I層灰色シルトを斑状に少量含む。

SK128
 1. 黄灰色砂質シルト (2.5Y5/1) 粘性なし、しまりややあり。III層黄褐色シルトを斑状に少量含む。



SX52
 1. 黒色シルト (10YR2/1) 粘性あり、しまりあり。黄褐色シルトをブロック状に少量含む。
 2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。黒褐色粒子を多く含む。灰色シルトをブロック状に少量含む。

SX125
 1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性なし、しまり強い。黄灰色シルトを斑状に少量含む。φ2~3mmの炭化物を少量含む。
 2. 灰オリーブ色シルト (5Y6/2) 粘性なし、しまりあり。1層暗灰黄色シルトを斑状に少量含む。



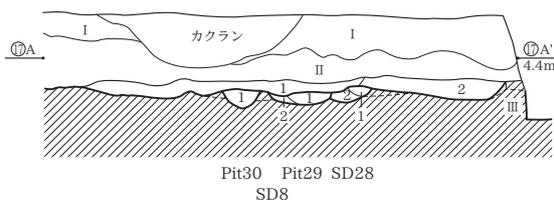
SD78
 1. 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりあり。黄灰色粒子を多く含む。
 2. 黄灰色砂質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。灰色砂をブロック状に少量含む。

SD57
 1. 暗灰黄色砂質シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりややあり。黄灰色砂をブロック状に多く含む。

Pit59
 1. 暗灰黄色砂質シルト (2.5Y4/2) 粘性強い、しまりあり。灰色砂をブロック状に多く含む。

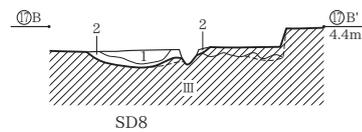
Pit60
 1. 灰色シルト (10Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。黄褐色シルトをブロック状に少量含む。

SD22
 1. 黒褐色シルト (5YR2/1) 粘性ややあり、しまり強い。IIIa層灰黄色シルトを斑状に少量含む。
 2. 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。1層黒褐色シルトを斑状に中量含む。



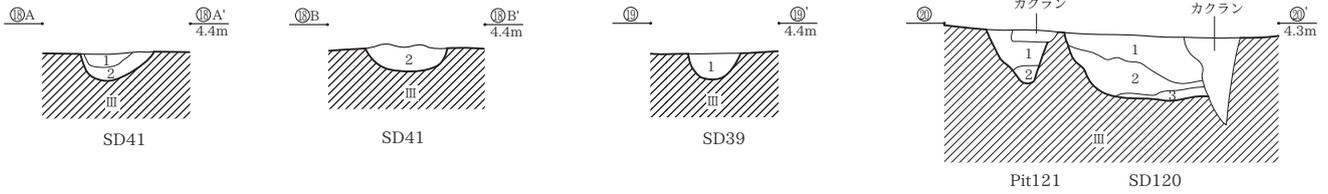
SD8
 1. 黒褐色シルト (2.5Y2/1) 粘性ややあり、しまりあり。黄褐色粒子を少量含む。
 2. 灰黄色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。黄褐色粒子を多く含む。

SD28
 1. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 2. 黄褐色シルト (2.5Y5/4) 粘性ややあり、しまりあり。暗灰色シルトをブロック状に少量含む。



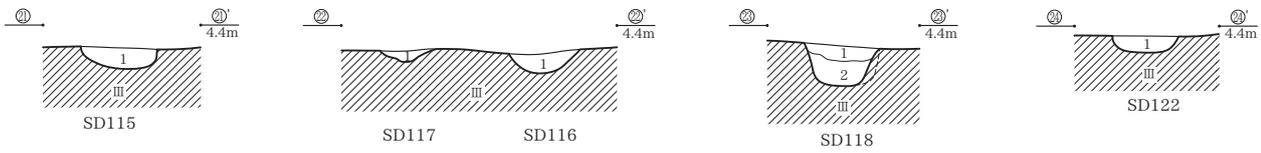
Pit29
 1. 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性あり、しまりあり。黒褐色シルトをブロック状に多く含む。
 2. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。

Pit30
 1. 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりあり。



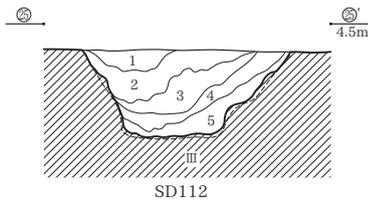
- SD41**
 1. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。黄褐色砂質シルトを多く含む。
 2. 暗灰黄色砂質シルト (2.5Y5/2) 粘性強い、しまりあり。黒灰色シルトをブロック状に少量含む。
- SD39**
 1. 褐灰色砂質シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり。黄灰色シルトをブロック状に多く含む。

- SD120**
 1. 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトを層状に少量含む。
 2. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性なし、しまりあり。1層黒褐色シルトを斑状に中量含む。
 3. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりあり。4層にぶい黄色砂質シルトを層状に少量含む。
 4. にぶい黄色砂質シルト (2.5Y6/3) 粘性ややあり、しまりあり。
- Pit121**
 1. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり。2層灰黄色シルトを斑状に中量含む。
 2. 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性ややあり、しまりあり。1層褐灰色シルトを斑状に中量含む。

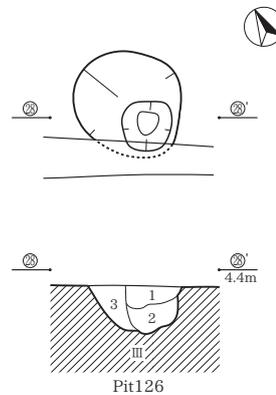


- SD115**
 1. 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性ややあり、しまり強い。黄灰色シルトを層状に少量含む。
- SD116**
 1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトを層状に中量含む。
- SD117**
 1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまり強い。黄灰色シルトを層状に中量含む。

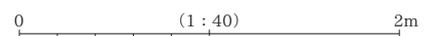
- SD118**
 1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトを層状に中量含む。
 2. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりあり。1層黄灰色シルトを斑状に中量含む。
- SD122**
 1. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややなし、しまりややなし。Ⅲ層灰黄色シルト斑状に少量含む。

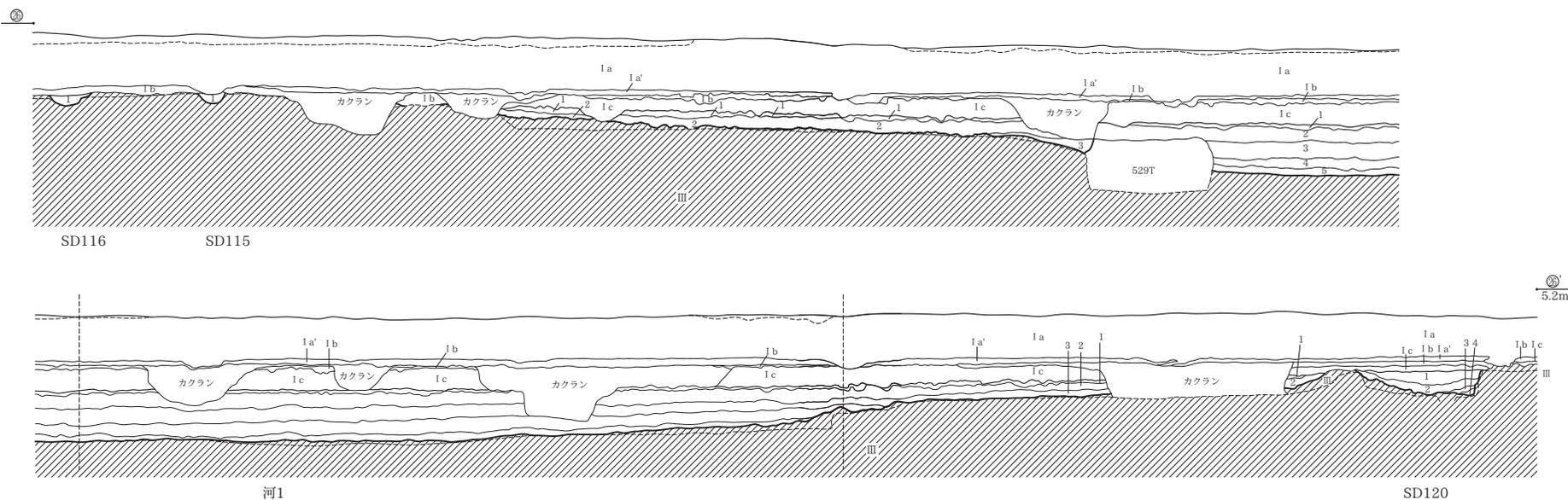


- SD112**
 1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまり強い。2層暗灰黄色シルトを斑状に少量含む。
 2. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。1層黒褐色シルトをブロック状に多量含む。
 3. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。1層黒褐色シルトをブロック状に中量含む。
 4. 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。3層黄灰色シルトをブロック状に少量含む。
 5. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまり強い。4層灰色シルトを斑状に少量含む。



- Pit126**
 1. 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性なし、しまり強い。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
 2. 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性なし、しまり強い。Ⅲ層黄褐色シルトを斑状に中量含む。φ2~5mmの炭化物を少量含む。
 3. 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性なし、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトを斑状に中量含む。φ5~10mmの炭化物を少量含む。





SD116

1. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトを層状に中量含む。

SD115

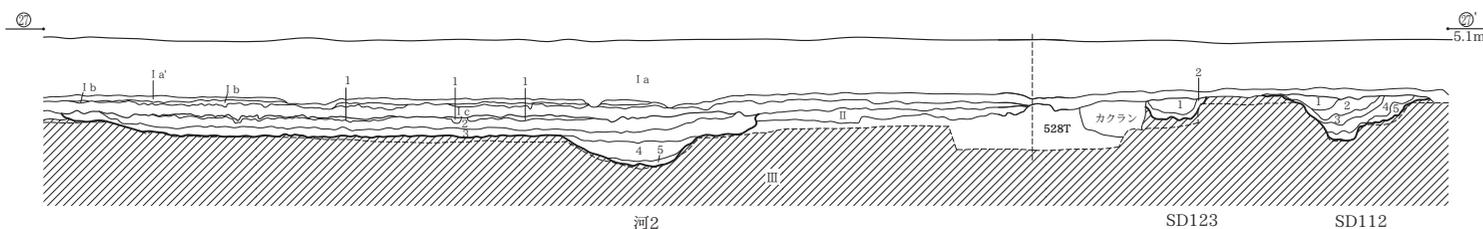
1. 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性ややあり、しまり強い。黄灰色シルトを層状に少量含む。

河1

1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまり強い。Ic層褐灰色シルトを斑状に少量含む。
2. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。φ2~5mm炭化物を少量含む。
3. 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。2層黄灰色シルトを層状に少量含む。
4. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性強い、しまりややあり。φ2~3mm炭化物少量含む。
5. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強い、しまりあり。Ⅲa層灰黄シルトを斑状に少量含む。

SD120

1. 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトを層状に少量含む。
2. 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性なし、しまりあり。1層黒褐色シルトを斑状に中量含む。
3. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりあり。4層にぶい黄色砂質シルトを層状に少量含む。
4. にぶい黄色砂質シルト (2.5Y6/3) 粘性ややあり、しまりあり。



SD123

1. 黒色シルト (10YR2/1) 粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトを斑状に少量含む。
2. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトを斑状に中量含む。1層黒色シルトを斑状に少量含む。

SD112

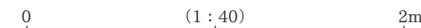
1. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまり強い。2層暗灰黄色シルトを斑状に少量含む。
2. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。1層黒褐色シルトをブロック状に中量含む。
3. 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。1層黒褐色シルトをブロック状に中量含む。
4. 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。3層黄灰色シルトをブロック状に少量含む。
5. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまり強い。4層灰色シルトを斑状に少量含む。

河2

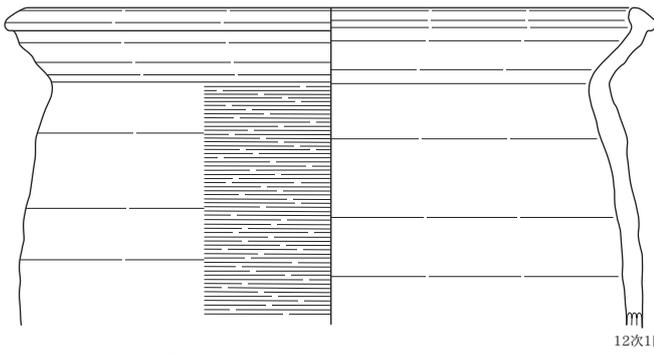
1. 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまり強い。Ic層灰色シルトを斑状に少量含む。
2. 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまり強い。3層黄灰色シルトを斑状に中量含む。
3. 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。Ⅲ層黄褐色シルトを斑状に少量含む。
4. 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性強い、しまりあり。Ⅲ層黄褐色シルトを斑状に少量含む。
5. 黄灰色粘土 (2.5Y5/1) 粘性強い、しまりややあり。黒褐色粘性土を斑状に少量含む。

Ia': 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。にぶい黄色砂質シルト (2.5Y6/3) を層状に中量含む。

Ib': 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) をラマナ状に中量含む。



12次1区 SK12 (1・2)



1
12次1区 SK12



2
12次1区 SK12

12次1区 SK20 (3)



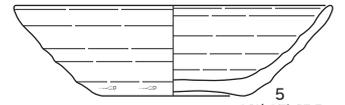
3
12次1区 SK20

12次2区 SK114 (4)

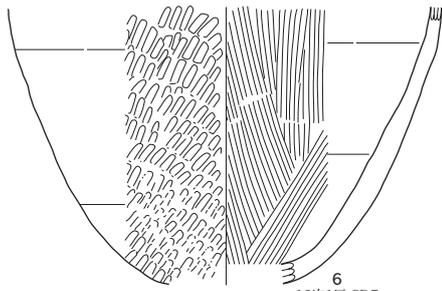
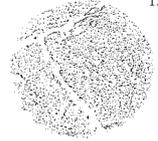


4
12次2区 SK114

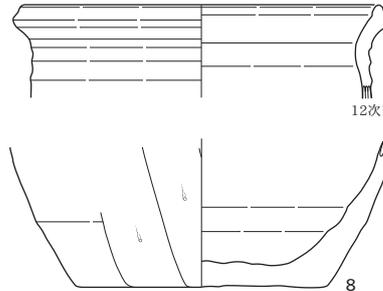
12次1区 SD7 (5~18)



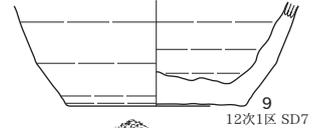
5
12次1区 SD7



6
12次1区 SD7



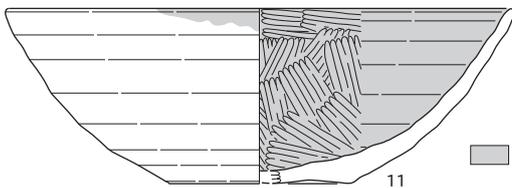
7
12次1区 SD7



9
12次1区 SD7



10
12次1区 SD7



11
12次1区 SD7

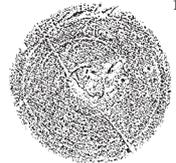
■ 黑色処理



12
12次1区 SD7



13
12次1区 SD7



14
12次1区 SD7



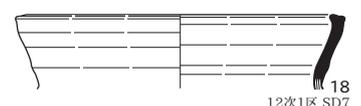
15
12次1区 SD7



16
12次1区 SD7



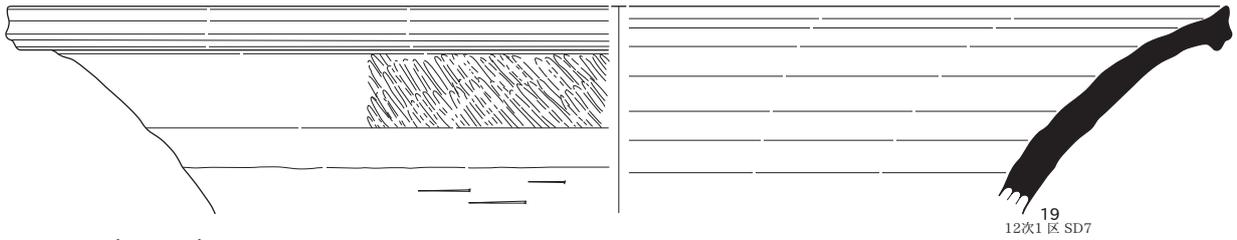
17
12次1区 SD7



18
12次1区 SD7

0 (1:3) 10cm

12次1区 SD7 (19)



19
12次1区 SD7

12次1区 SD11 (20・21)



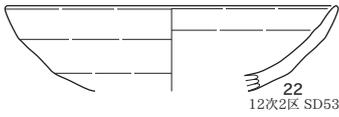
20
12次1区 SD11



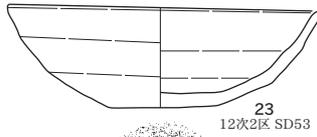
21
12次1区 SD11



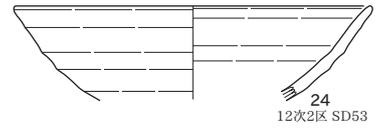
12次2区 SD53 (22~36)



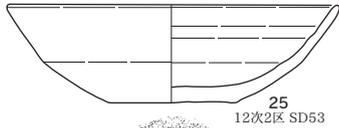
22
12次2区 SD53



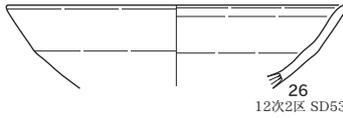
23
12次2区 SD53



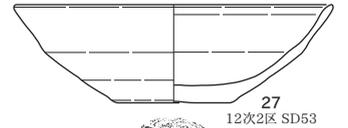
24
12次2区 SD53



25
12次2区 SD53



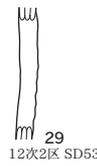
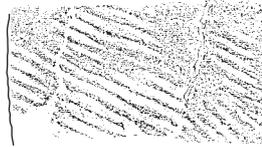
26
12次2区 SD53



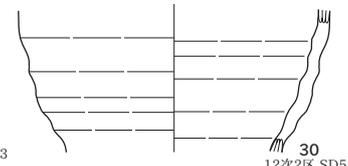
27
12次2区 SD53



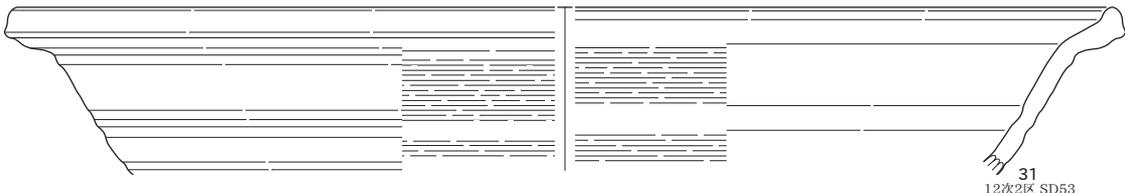
28
12次2区 SD53



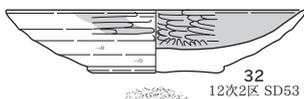
29
12次2区 SD53



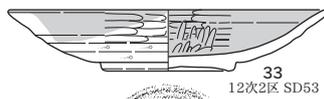
30
12次2区 SD53



31
12次2区 SD53



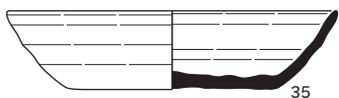
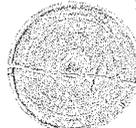
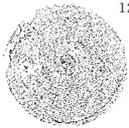
32
12次2区 SD53



33
12次2区 SD53



34
12次2区 SD53

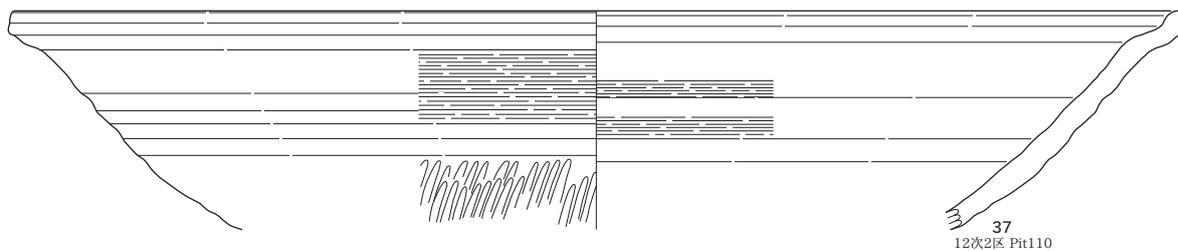


35
12次2区 SD53

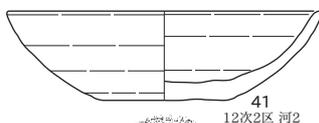
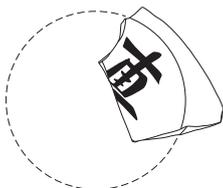
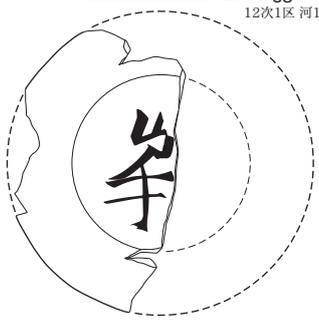
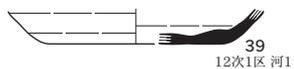
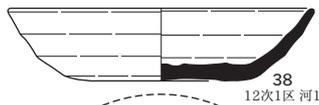


36
12次2区 SD53

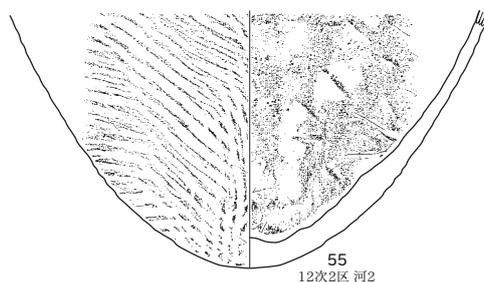
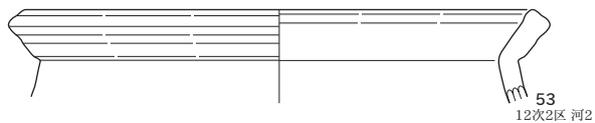
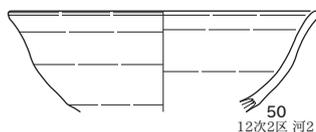
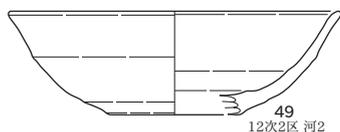
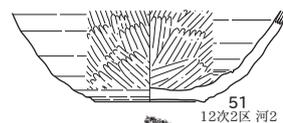
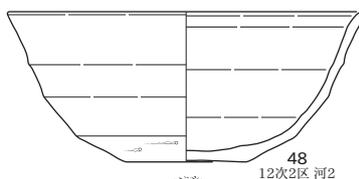
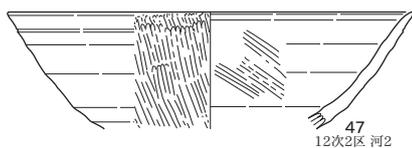
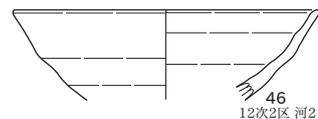
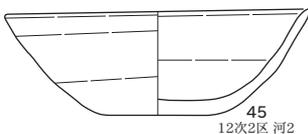
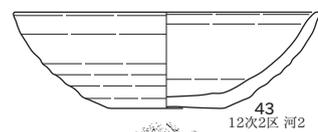
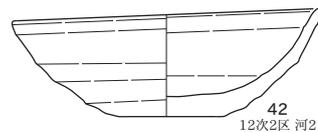
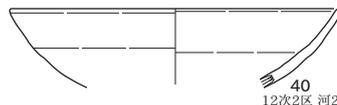
12次2区 Pit110 (37)



12次1区 河1 (38・39)

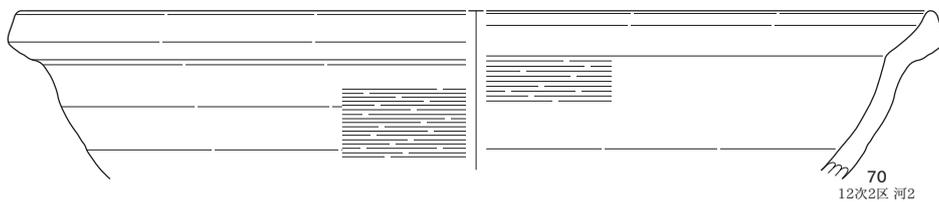
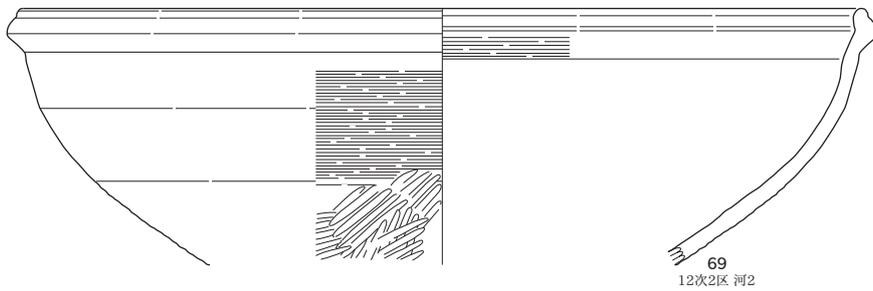
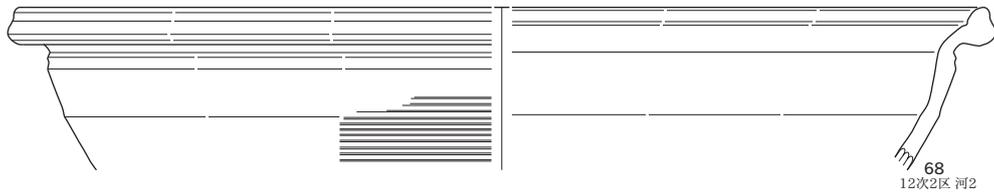
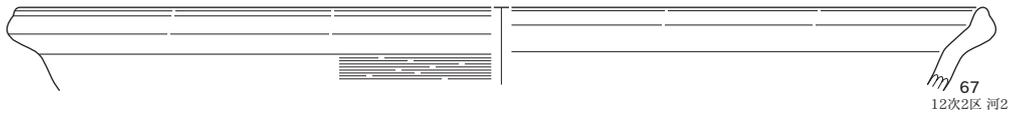
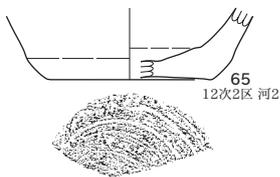
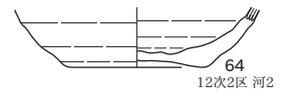
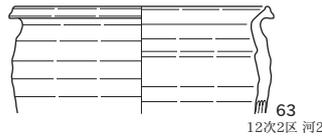
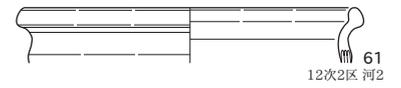
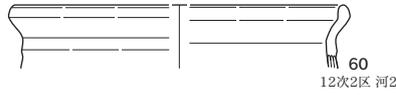
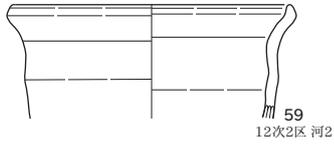
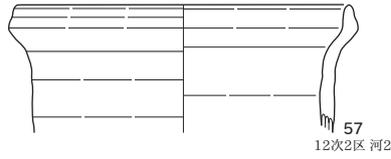
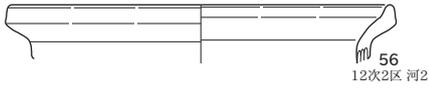


12次2区 河2 (40~55)

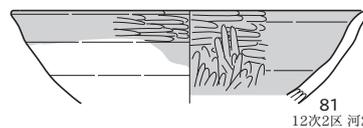
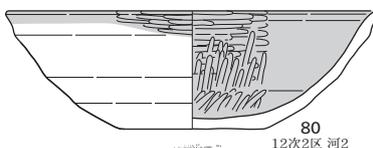
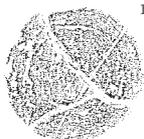
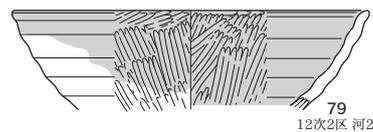
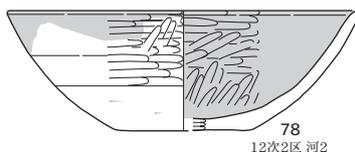
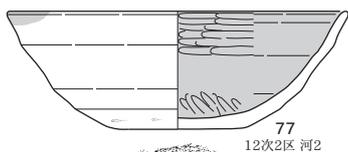
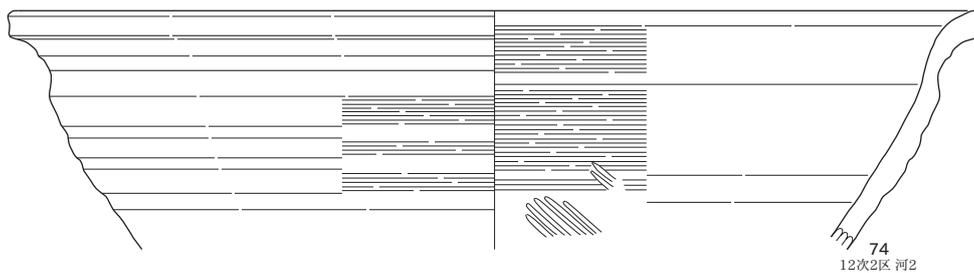
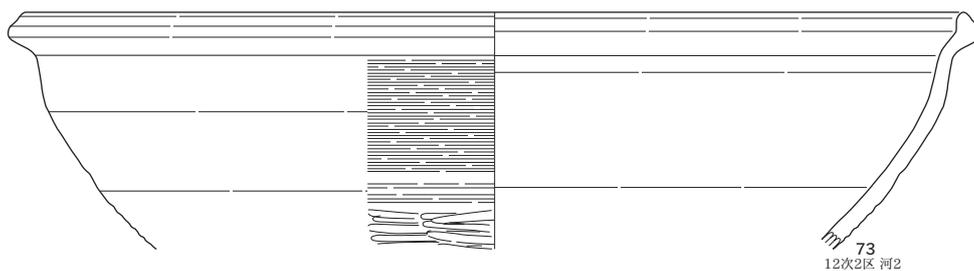
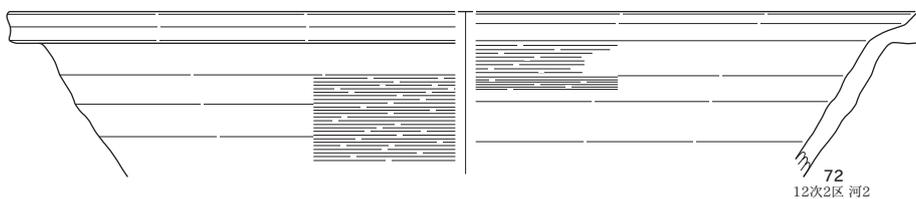
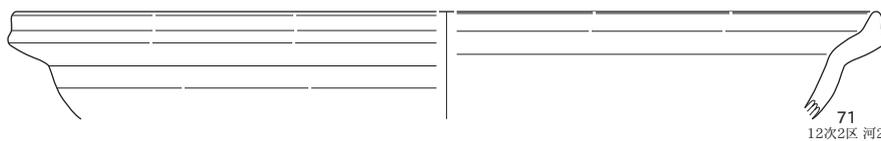


0 (1:3) 10cm

12次2区 河2 (56~70)



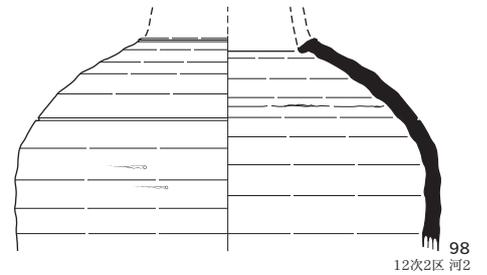
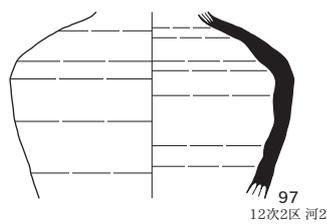
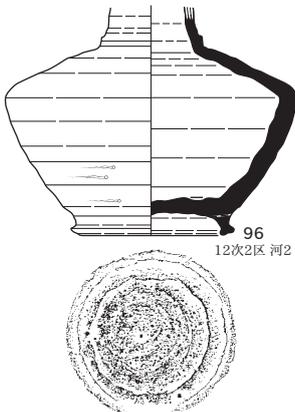
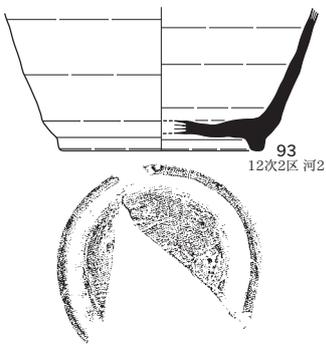
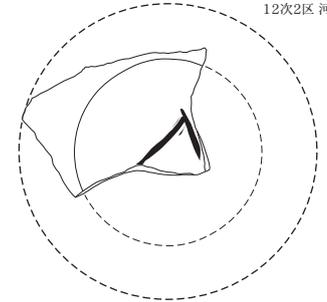
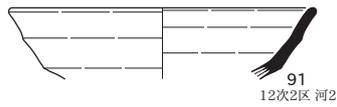
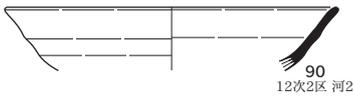
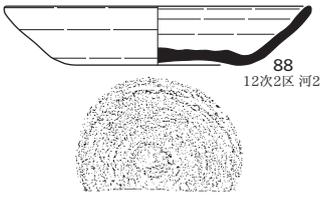
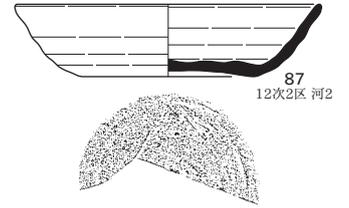
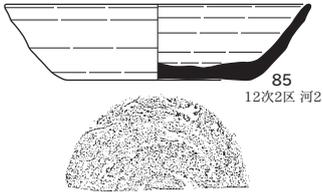
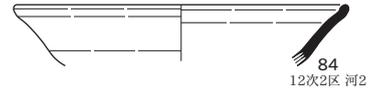
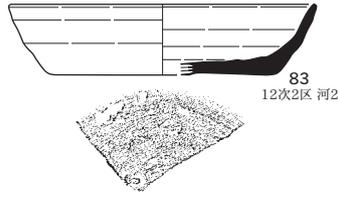
12次2区 河2 (71~81)



■ 黑色処理



12次2区 河2 (82~98)

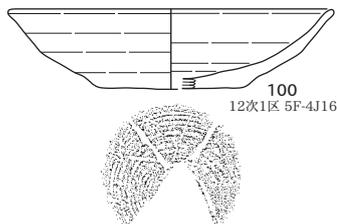


12次2区 河2 (99)

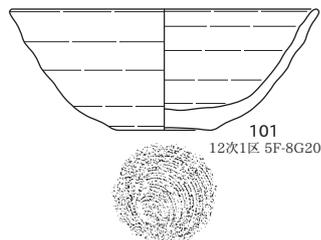


99
12次2区 河2

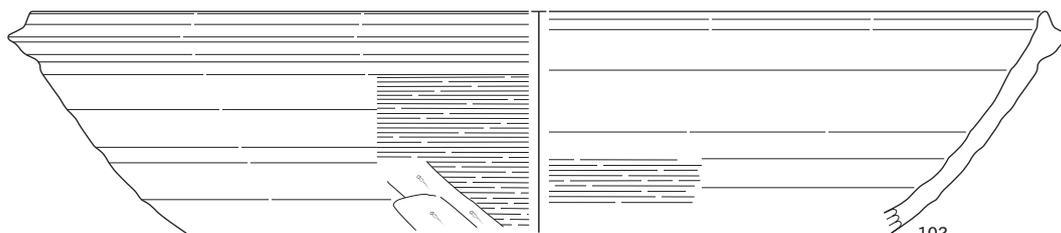
12次1区 包含層 (100~102)



100
12次1区 5F-4J16

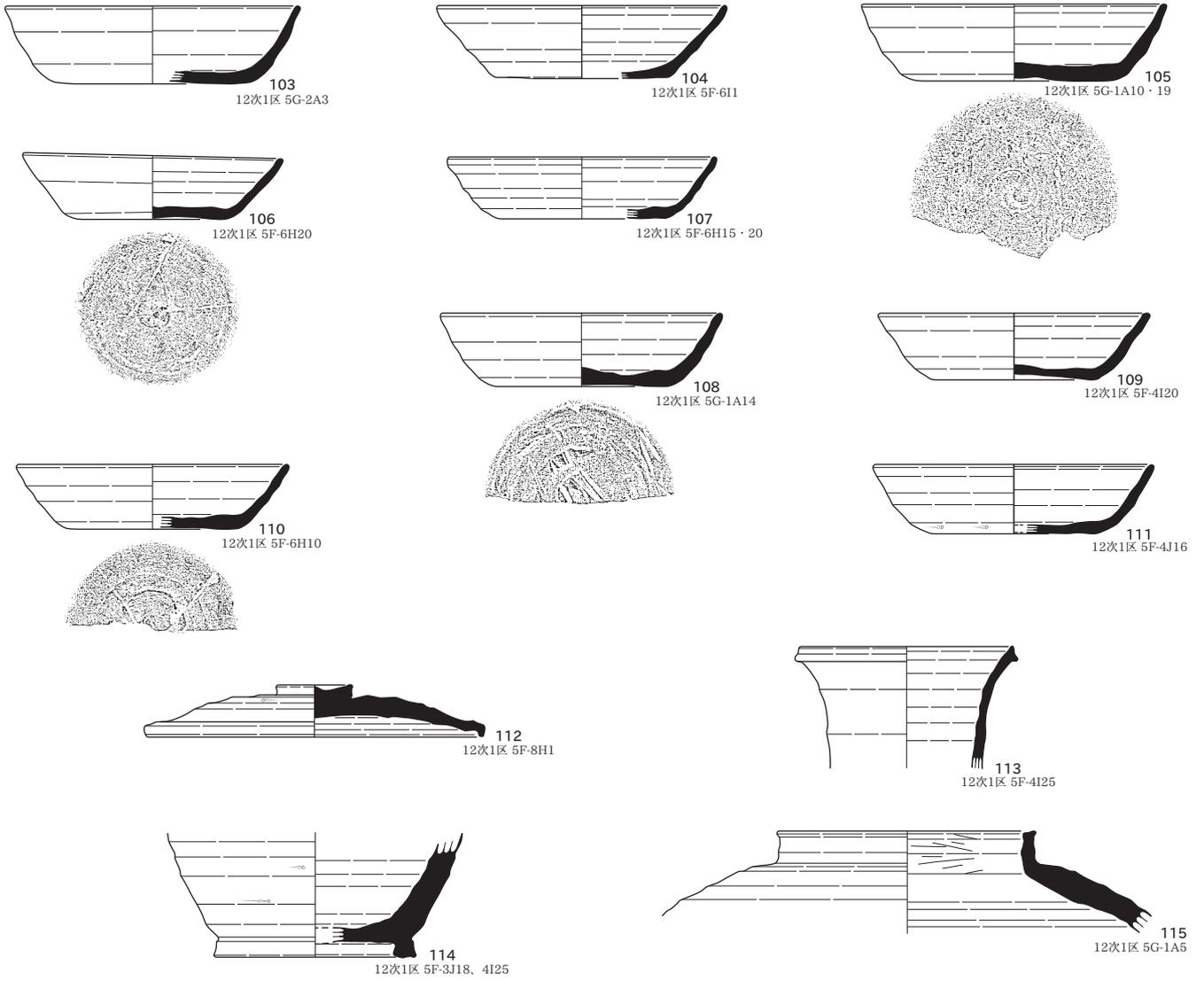


101
12次1区 5F-8G20

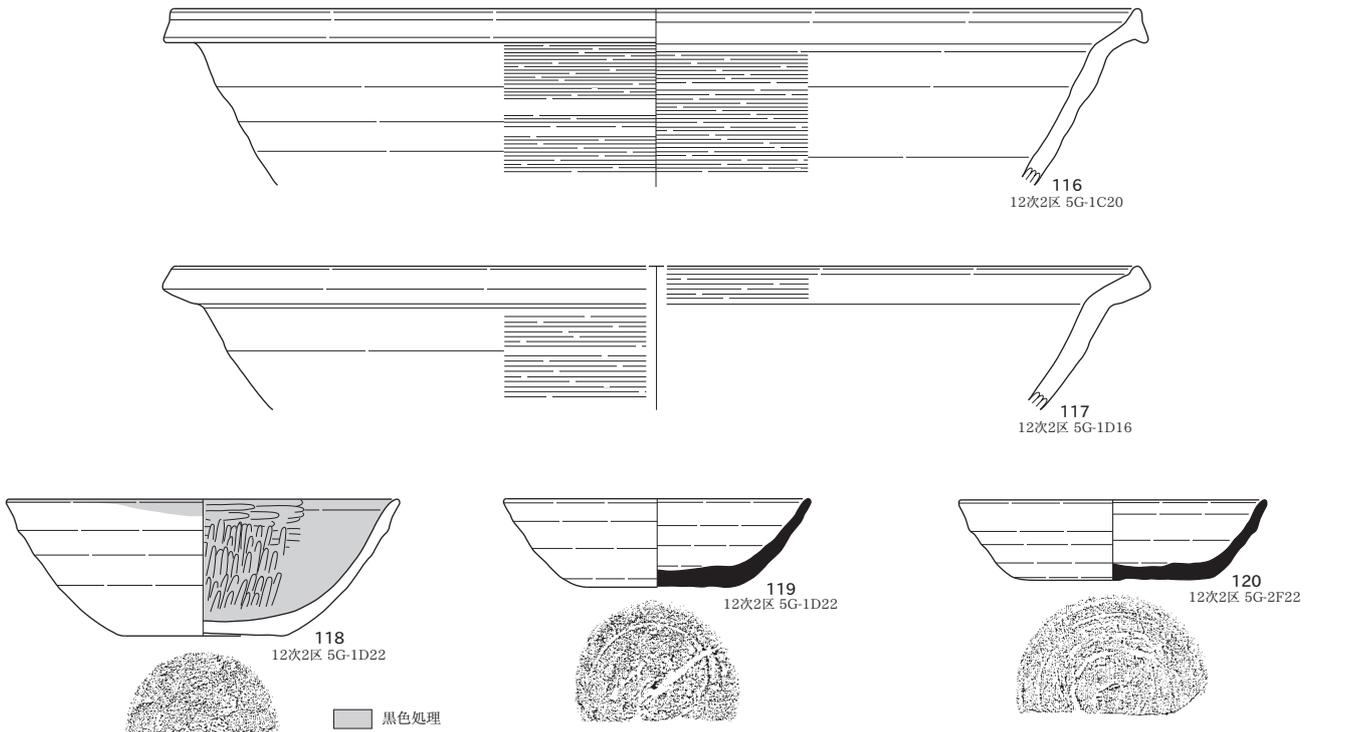


102
12次1区 5F-4I20

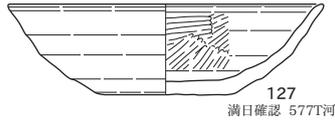
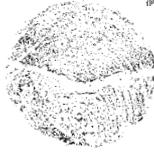
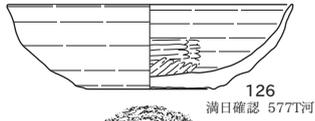
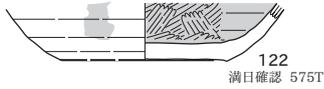
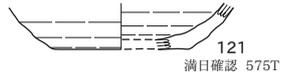
12次1区 包含層 (103~115)



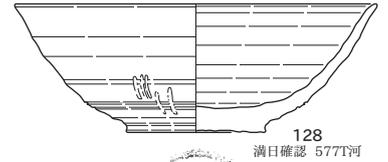
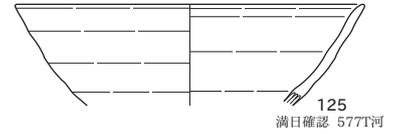
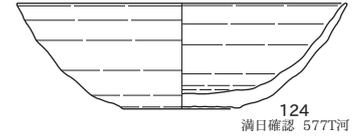
12次2区 包含層 (116~120)



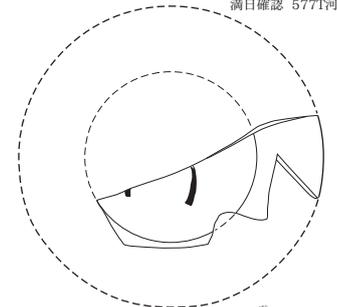
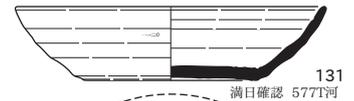
満日確認調査 575T (121~123)



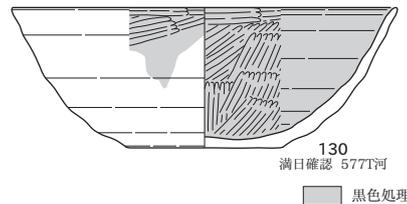
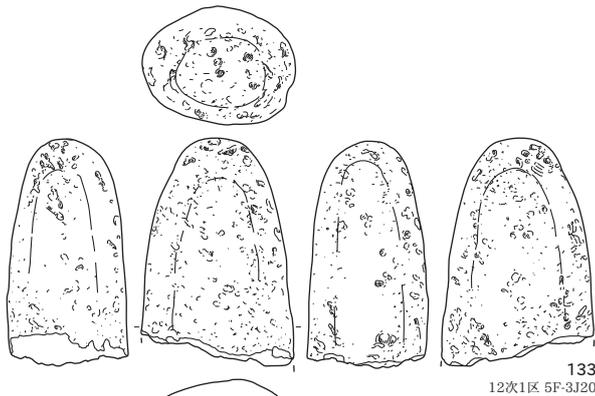
満日確認調査 577T 河 (124~132)



129
満日確認 577T河

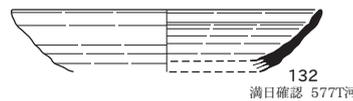


12次1区 包含層 (133)



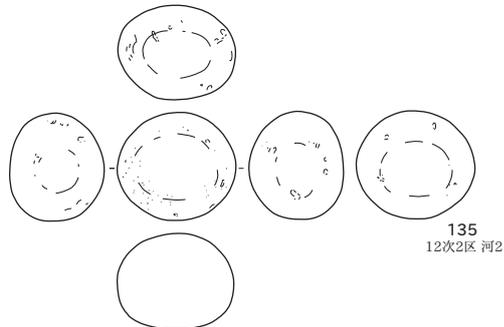
130
満日確認 577T河

■ 黒色処理



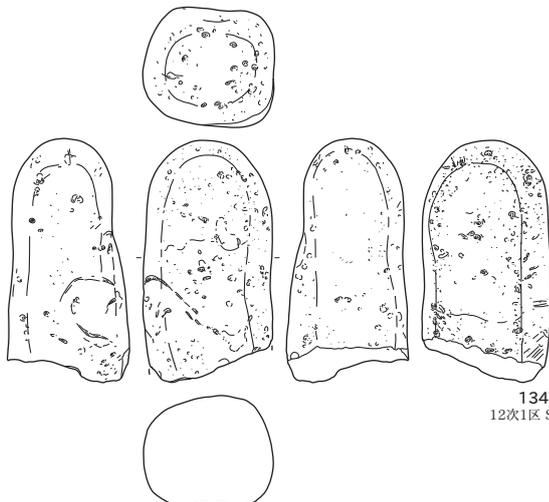
132
満日確認 577T河

12次2区 河2 (135)



135
12次2区 河2

12次1区 SD7 (134・137)

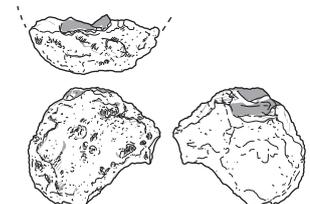


134
12次1区 SD7

12次1区 表土 (136)

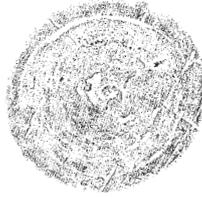
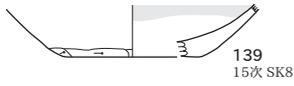
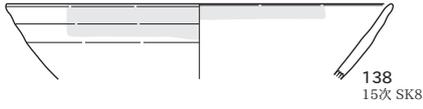


136
12次1区 5F-7H21

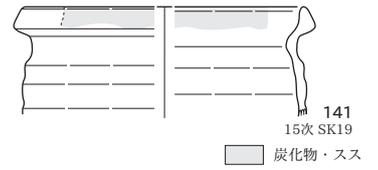


137
12次1区 SD7

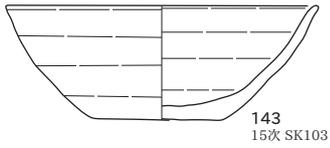
15次 SK8 (138~140)



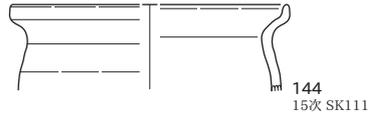
15次 SK19 (141・142)



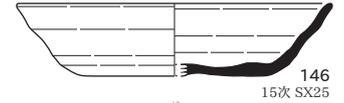
15次 SK103 (143)



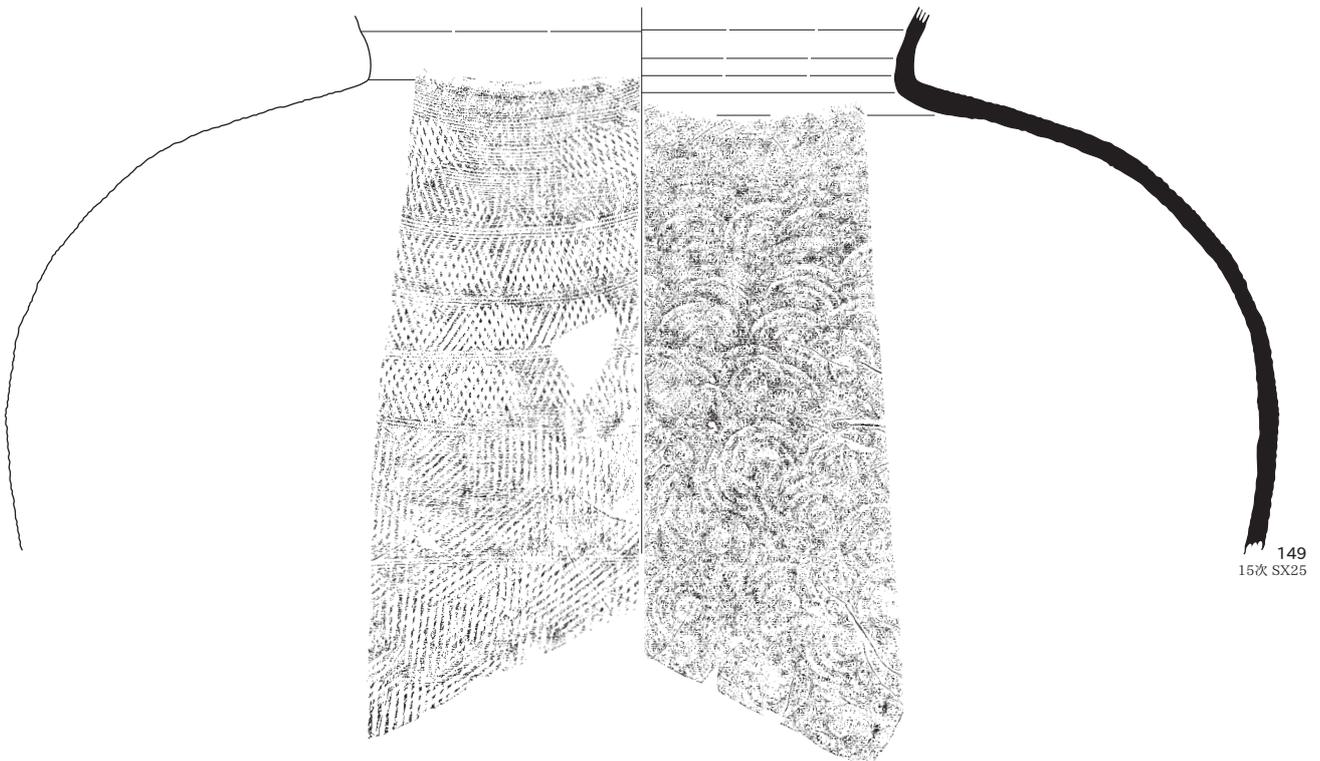
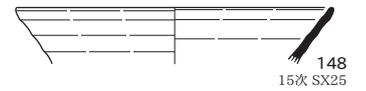
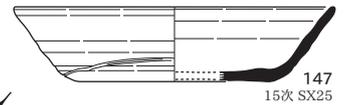
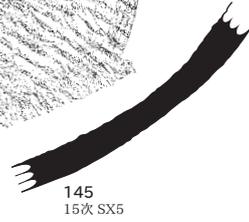
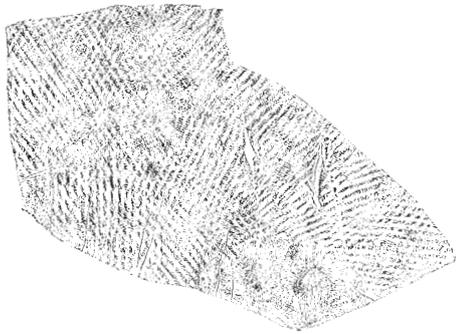
15次 SK111 (144)



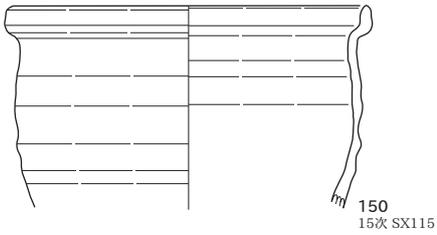
15次 SX25 (146~149)



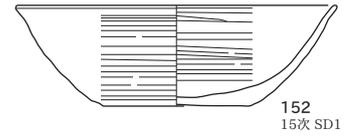
15次 SX5 (145)



15次 SX115 (150・151)



15次 SD1 (152~157)



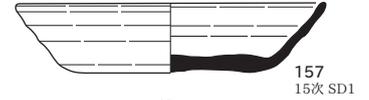
152
15次 SD1



153
15次 SD1



155
15次 SD1



157
15次 SD1



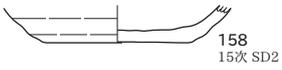
154
15次 SD1



156
15次 SD1



15次 SD2 (158~164)



158
15次 SD2



161
15次 SD2



159
15次 SD2

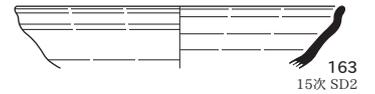
■ 黒色処理



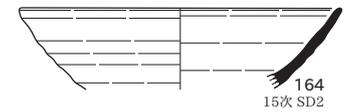
160
15次 SD2



162
15次 SD2



163
15次 SD2

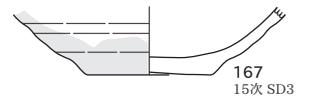


164
15次 SD2

15次 SD3 (165~171)



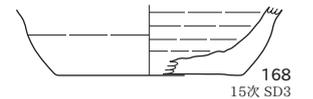
165
15次 SD3



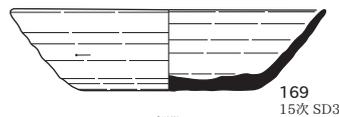
167
15次 SD3



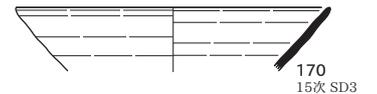
166
15次 SD3



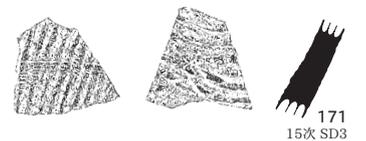
168
15次 SD3



169
15次 SD3



170
15次 SD3

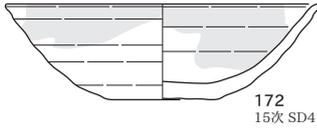


171
15次 SD3

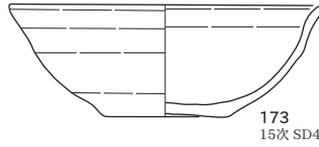
■ 炭化物・スス

0 (1:3) 10cm

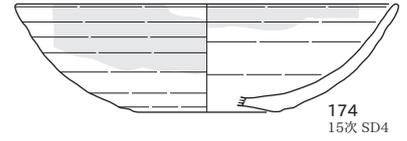
15次 SD4 (172~191)



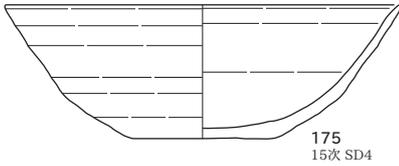
172
15次 SD4



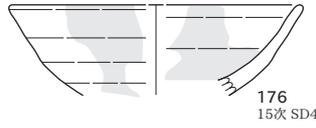
173
15次 SD4



174
15次 SD4



175
15次 SD4

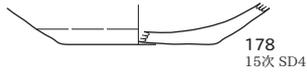


176
15次 SD4



177
15次 SD4

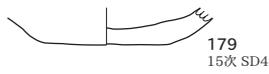
■ 炭化物・スス



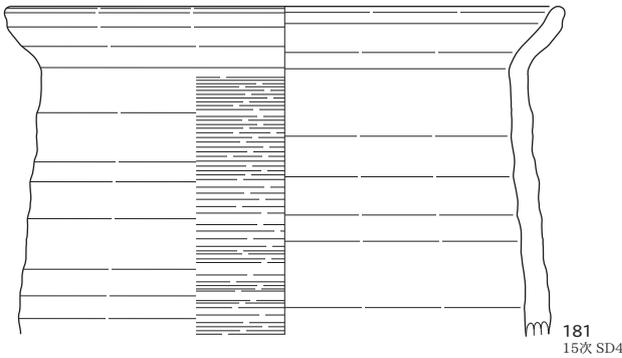
178
15次 SD4



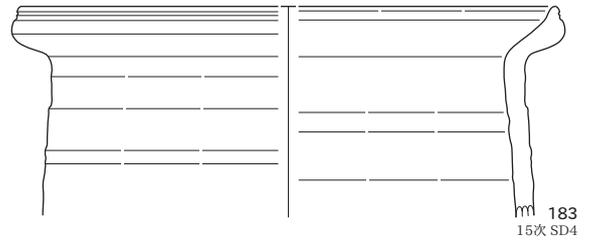
180
15次 SD4



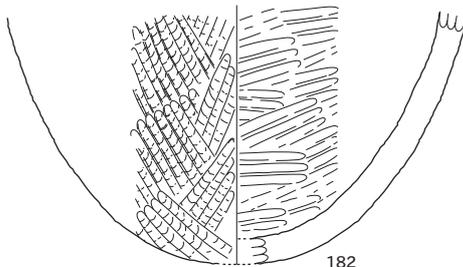
179
15次 SD4



181
15次 SD4



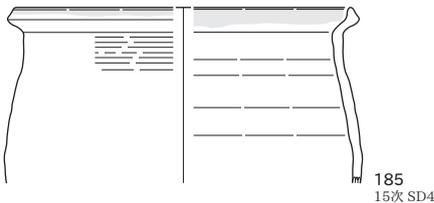
183
15次 SD4



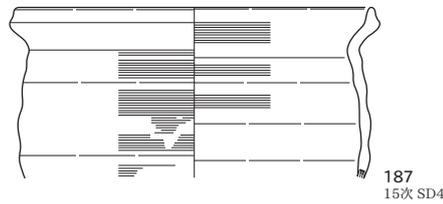
182
15次 SD4



184
15次 SD4



185
15次 SD4



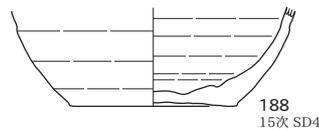
187
15次 SD4



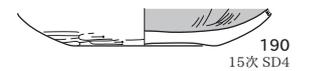
189
15次 SD4



186
15次 SD4



188
15次 SD4

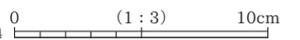


190
15次 SD4

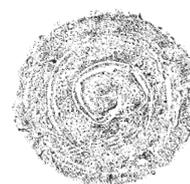
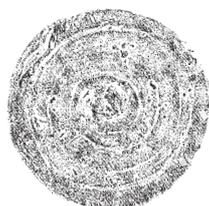
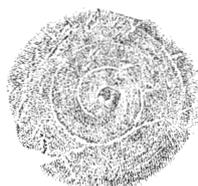
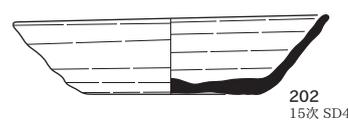
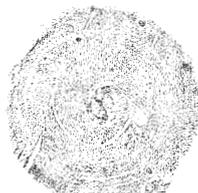
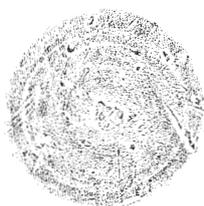
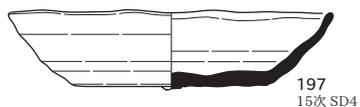
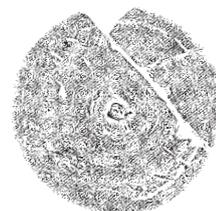
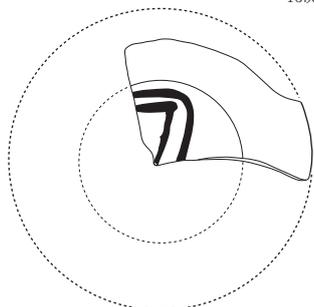
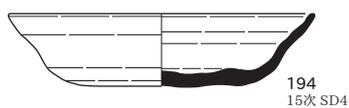
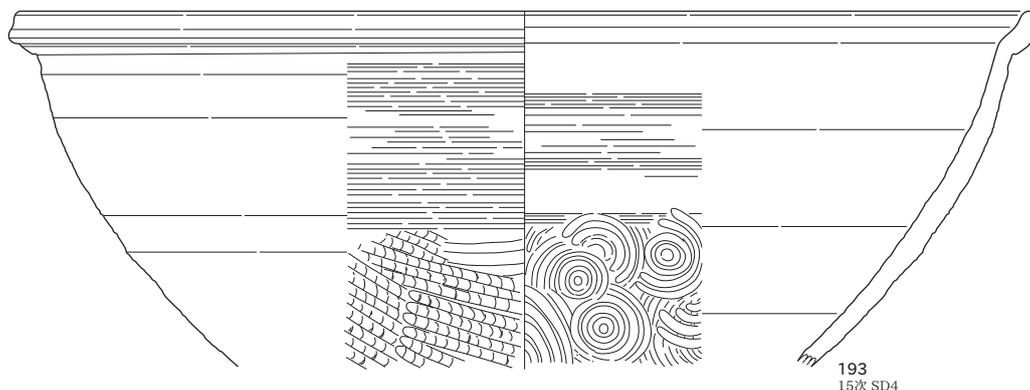
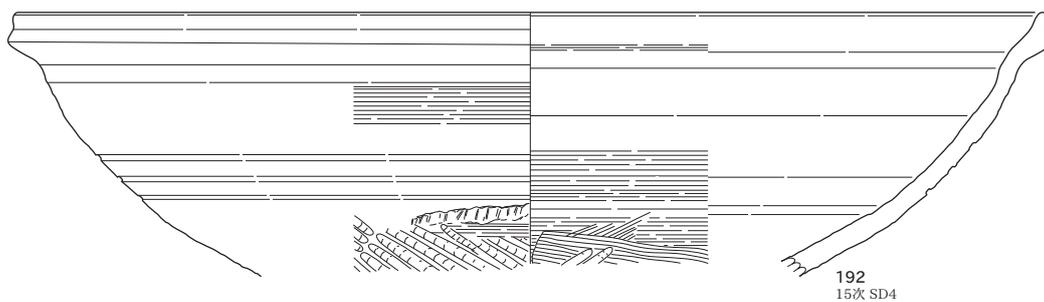
■ 黒色処理



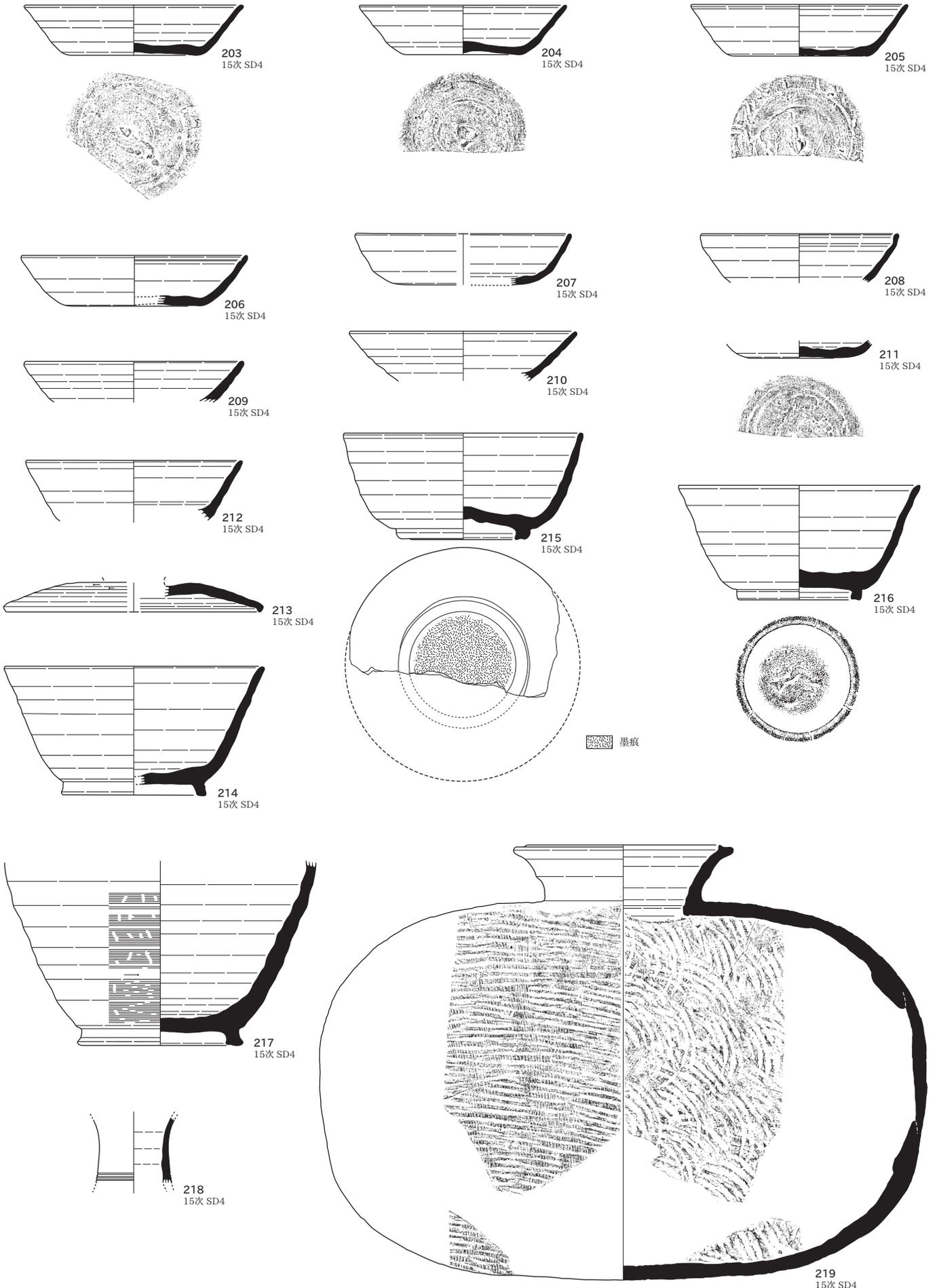
191
15次 SD4



15次 SD4 (192~202)



15次 SD4 (203~219)



203
15次 SD4

204
15次 SD4

205
15次 SD4

206
15次 SD4

207
15次 SD4

208
15次 SD4

209
15次 SD4

210
15次 SD4

211
15次 SD4

212
15次 SD4

215
15次 SD4

216
15次 SD4

213
15次 SD4

214
15次 SD4

217
15次 SD4

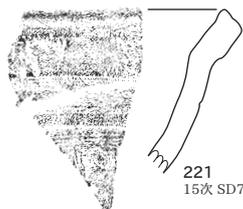
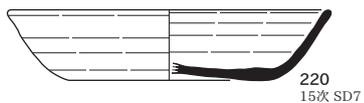
218
15次 SD4

219
15次 SD4

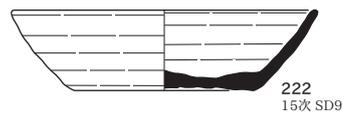
墨痕

0 (1:3) 10cm

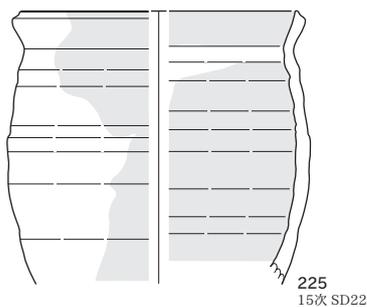
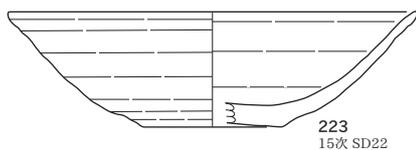
15次 SD7 (220・221)



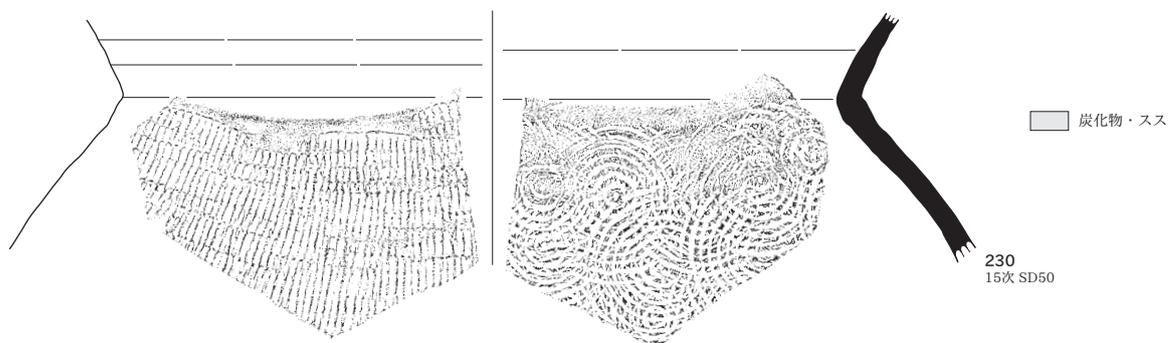
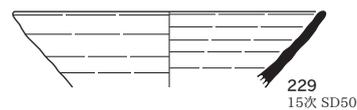
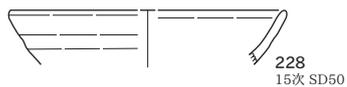
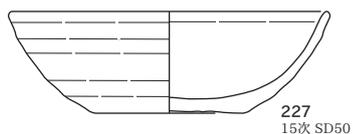
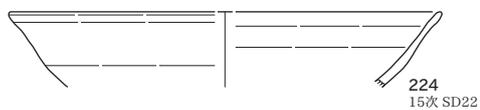
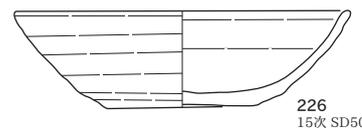
15次 SD9 (222)



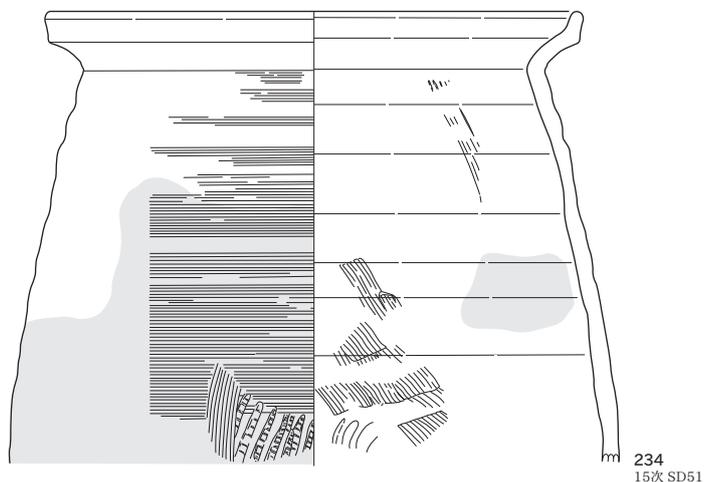
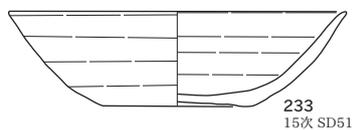
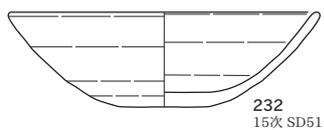
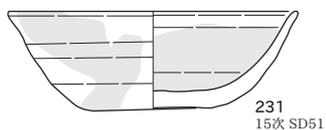
15次 SD22 (223~225)



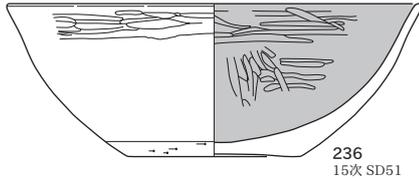
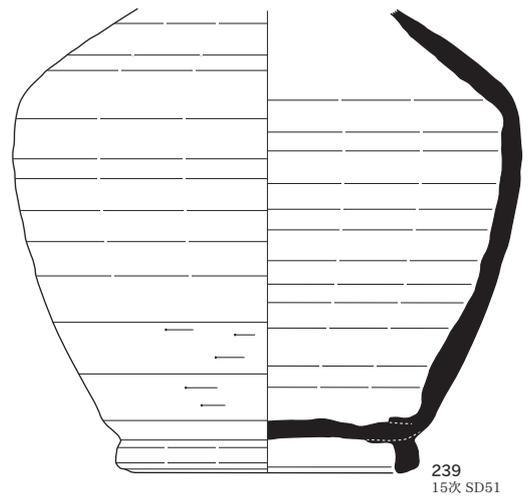
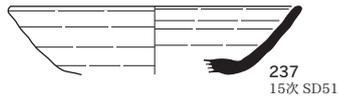
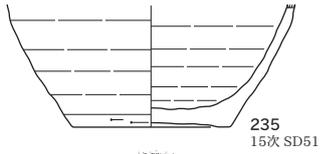
15次 SD50 (226~230)



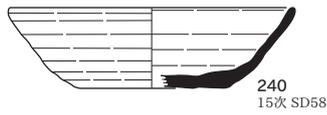
15次 SD51 (231~234)



15次 SD51 (235~239)



15次 SD58 (240)



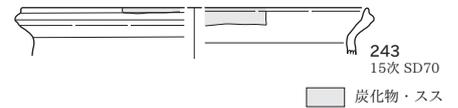
15次 SD64 (241)



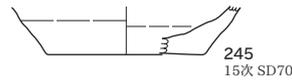
15次 SD66 (242)



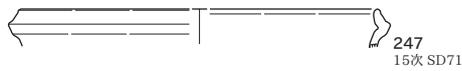
15次 SD70 (243~246)



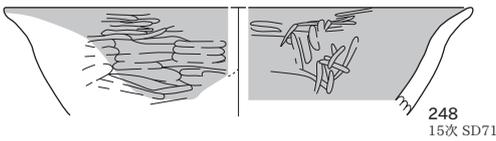
炭化物・スス



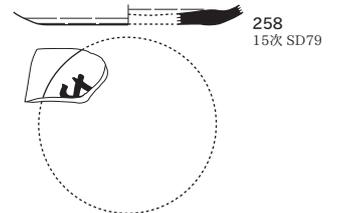
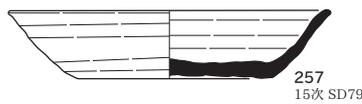
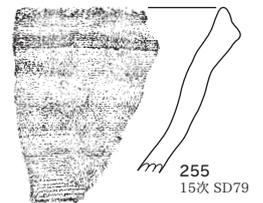
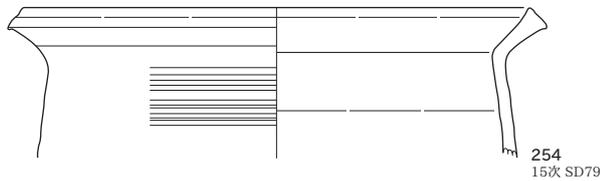
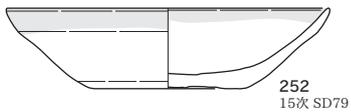
15次 SD71 (247~250)



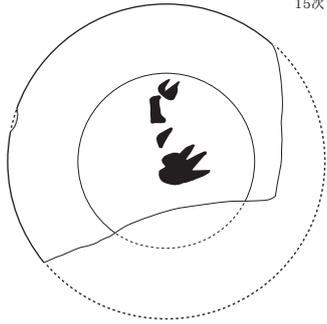
15次 SD76 (251)



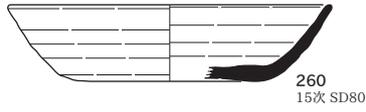
15次 SD79 (252~258)



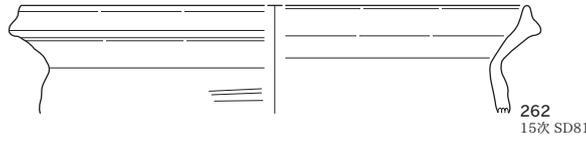
15次 SD79 (259)



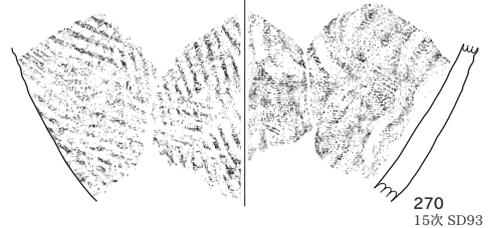
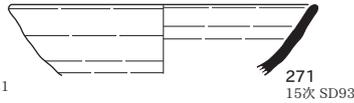
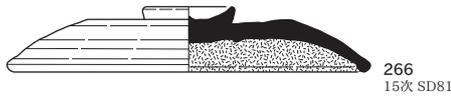
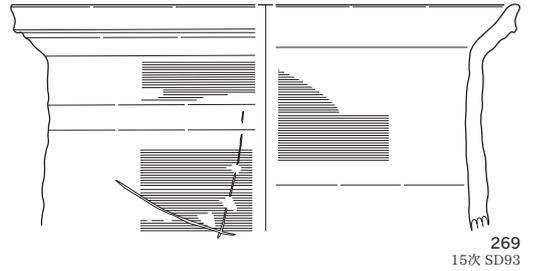
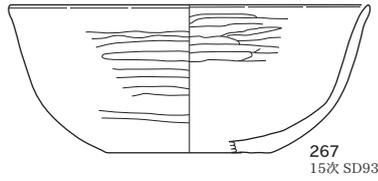
15次 SD80 (260・261)



15次 SD81 (262~266)

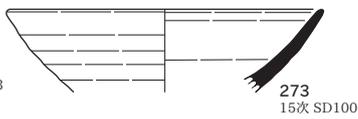
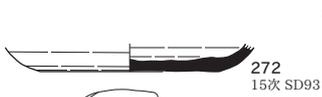


15次 SD93 (267~272)

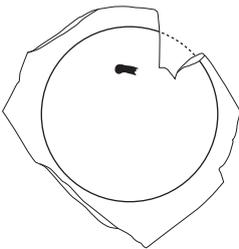
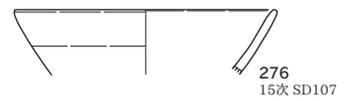


墨痕

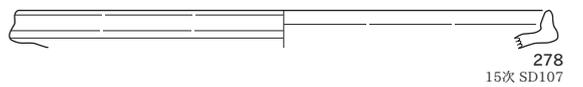
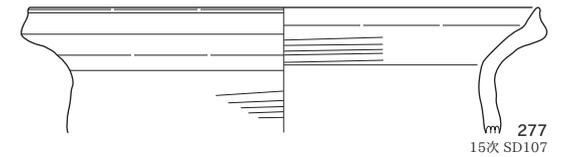
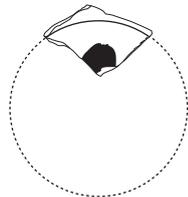
15次 SD100 (273)



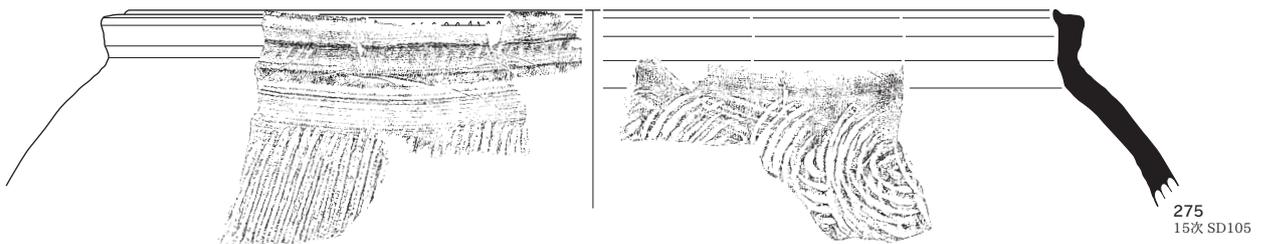
15次 SD107 (276~278)



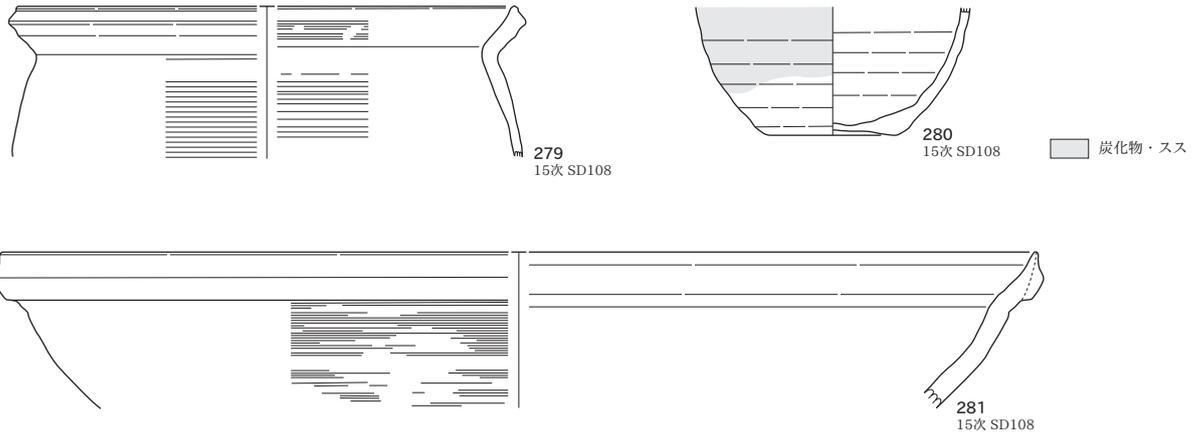
15次 SD104 (274)



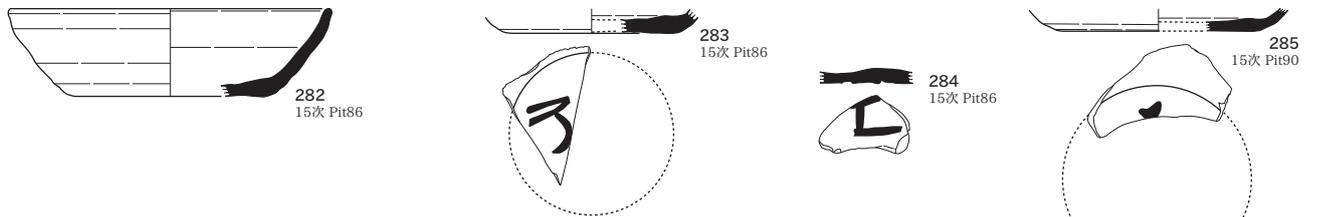
15次 SD105 (275)



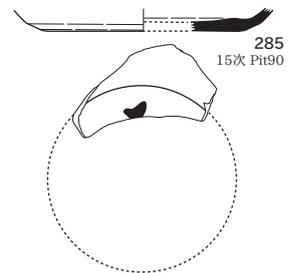
15次 SD108 (279~281)



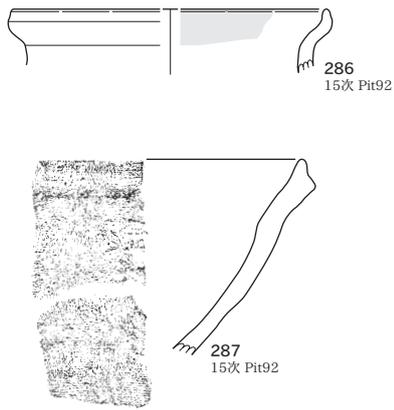
15次 Pit86 (282~284)



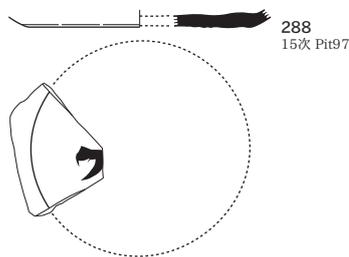
15次 Pit90 (285)



15次 Pit92 (286・287)



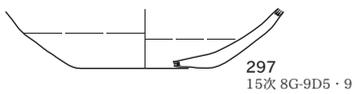
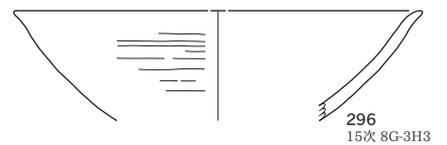
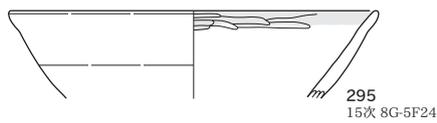
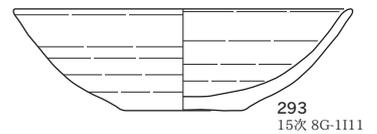
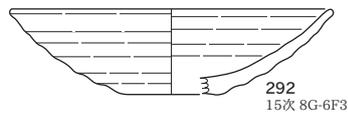
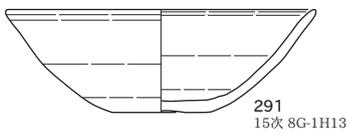
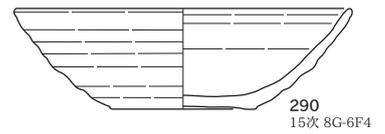
15次 Pit97 (288)



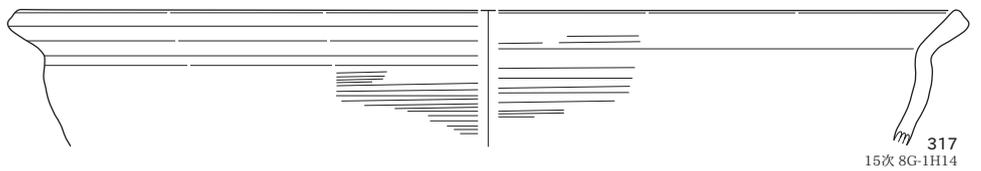
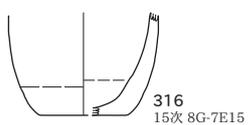
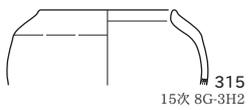
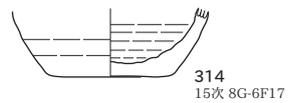
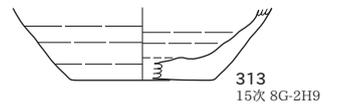
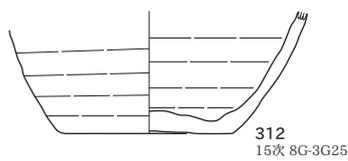
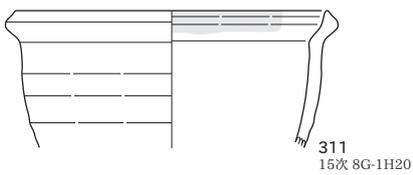
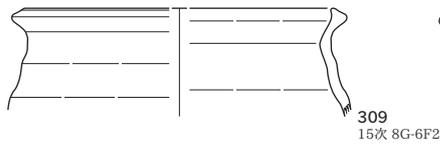
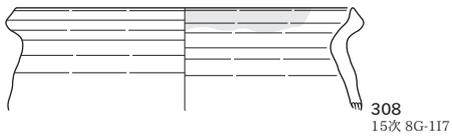
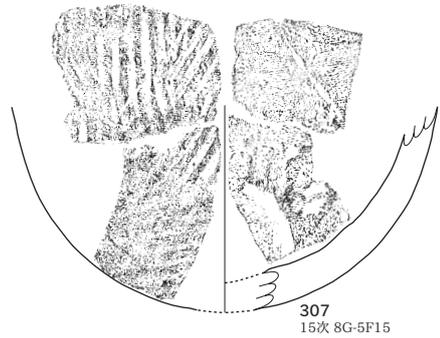
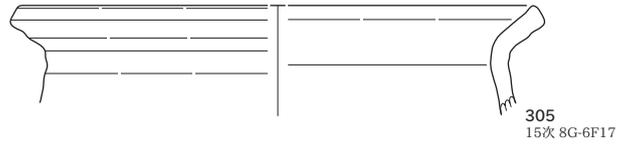
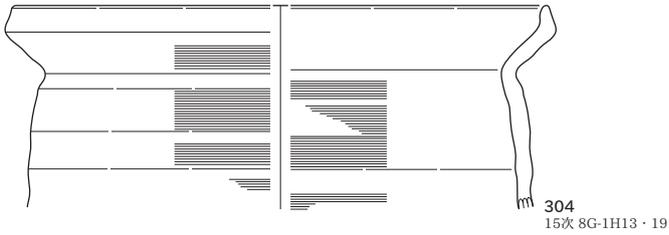
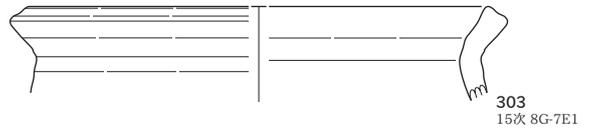
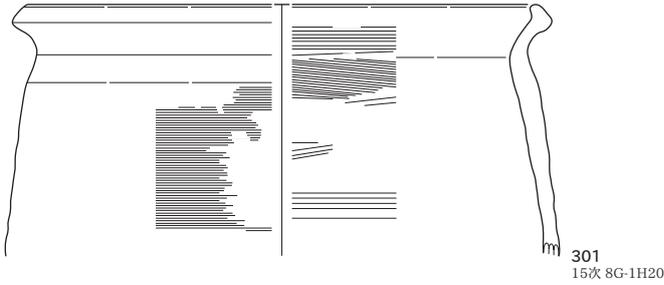
15次 Pit102 (289)



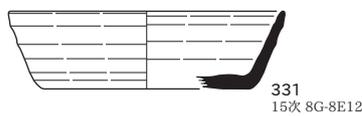
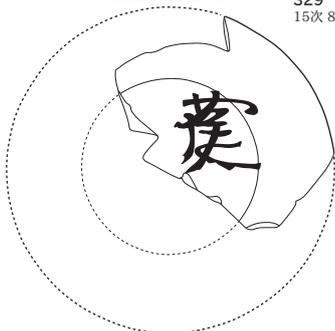
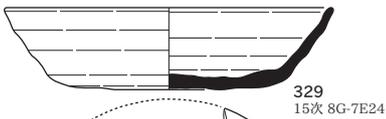
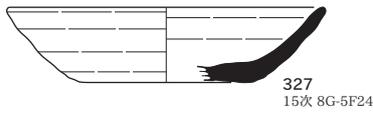
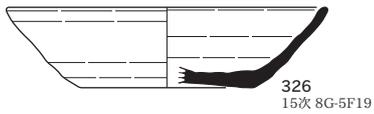
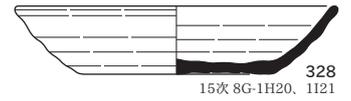
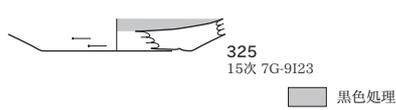
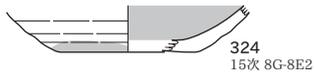
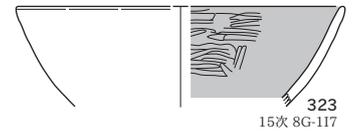
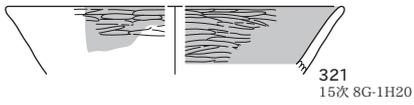
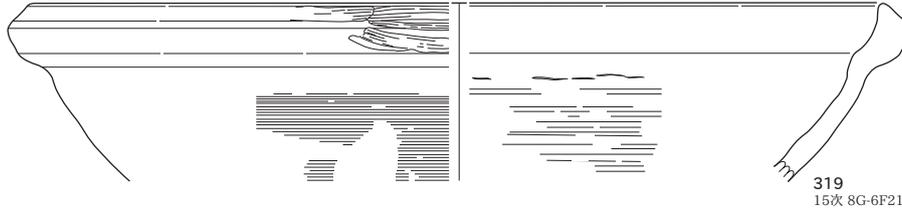
15次 包含層 (290~298)



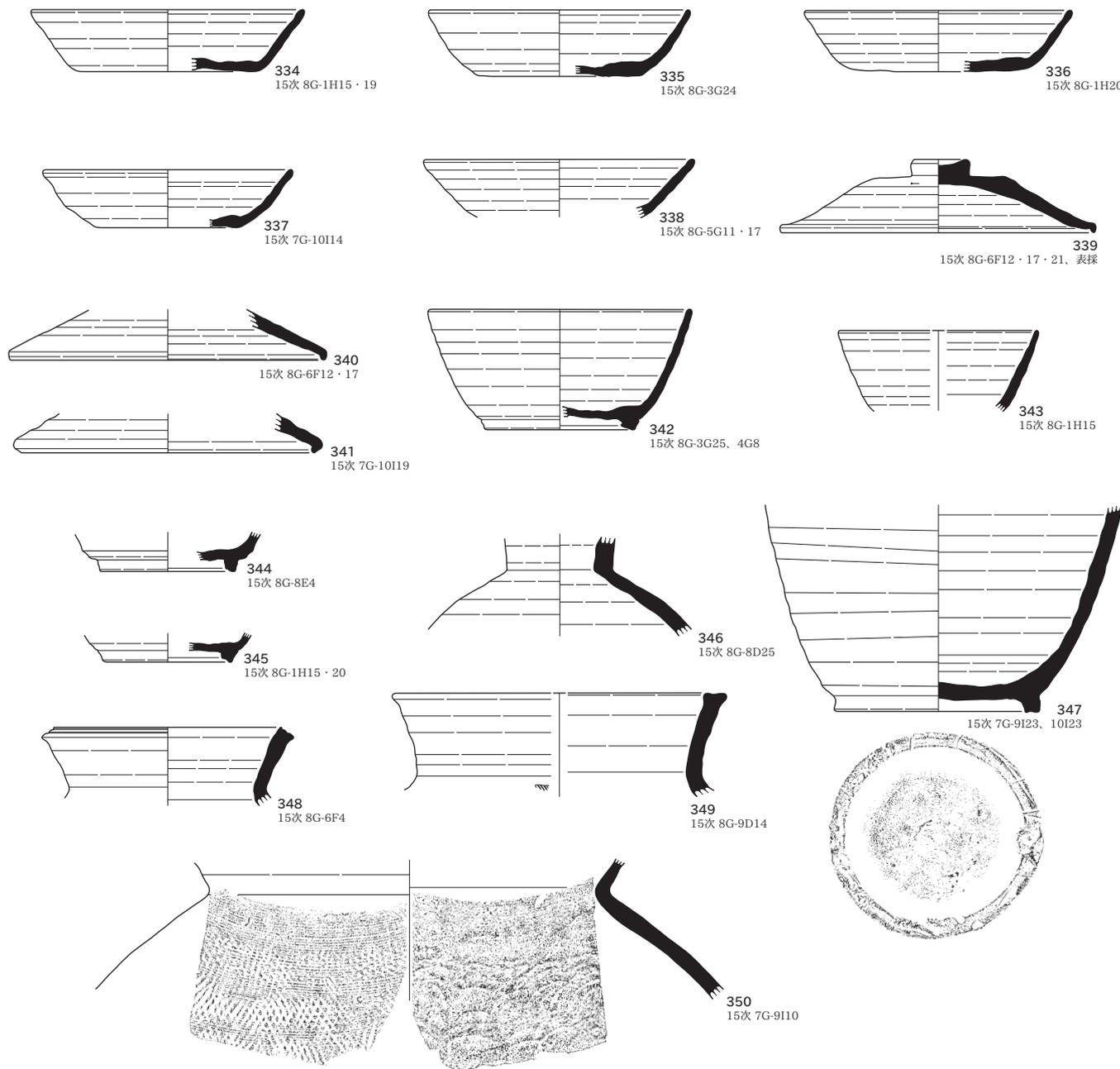
15次 包含層 (299~317)



15 次 包含層 (318~333)

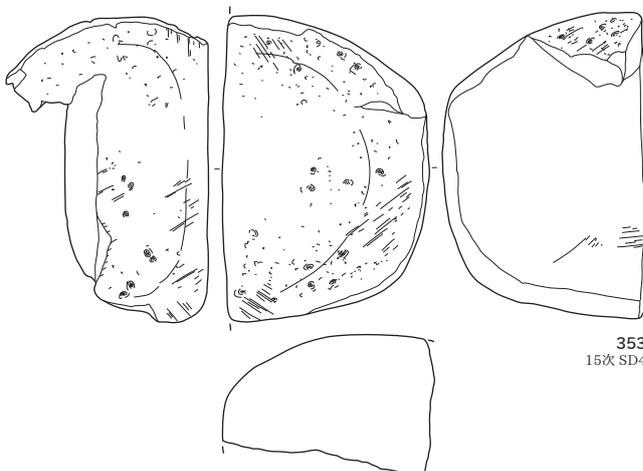
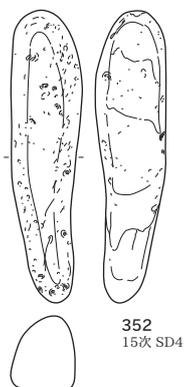
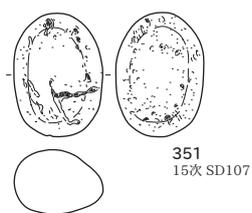


15次 包含層 (334~350)



15次 SD4 (352・353)

15次 SD107 (351)

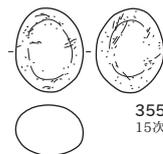


15次 SD51 (354)

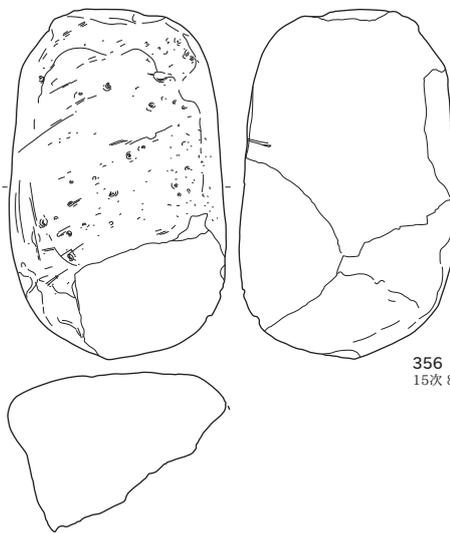
15次 包含層 (355・356)



354
15次 SD51 8G-3G19、7E10

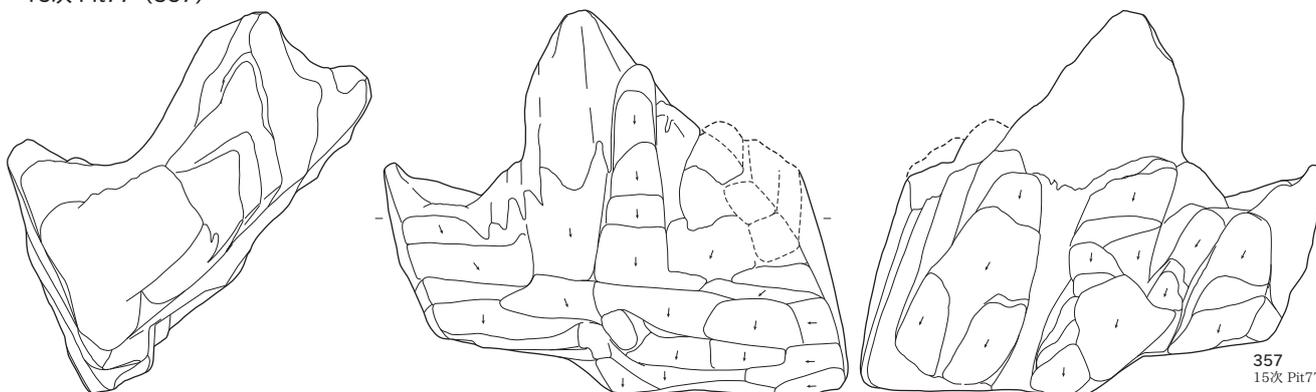


355
15次 8G-9D9

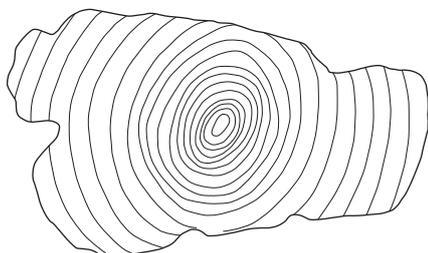
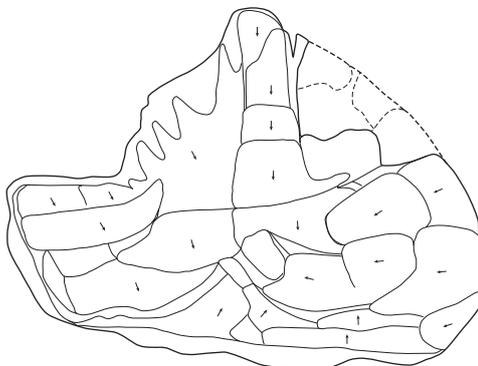


356
15次 8G-6F4

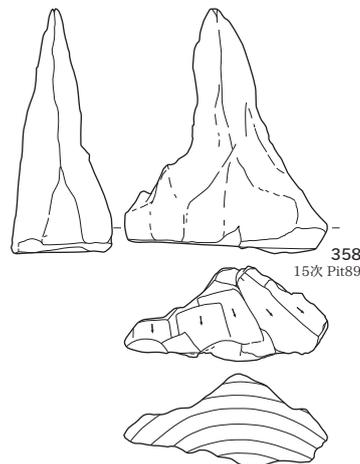
15次 Pit77 (357)



357
15次 Pit77



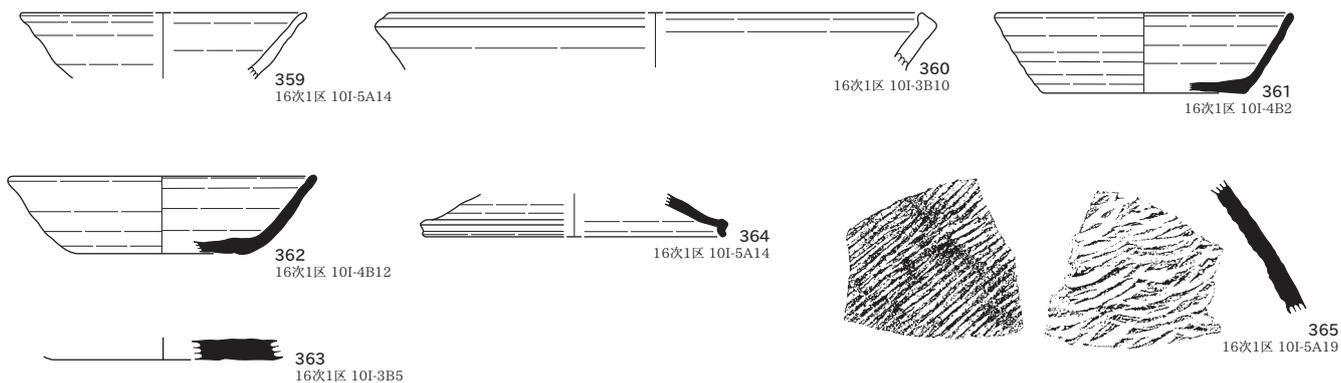
15次 Pit89 (358)



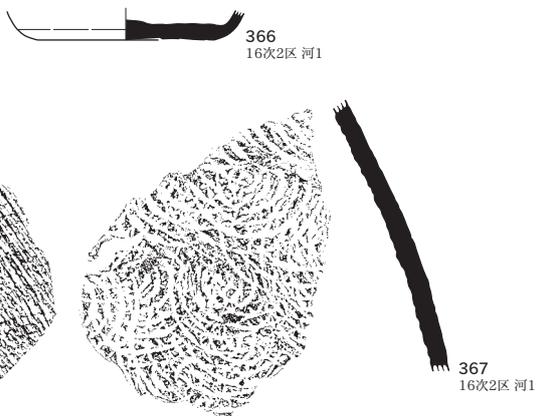
358
15次 Pit89

0 (1:3) 10cm

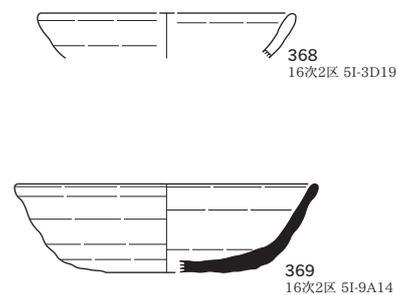
16次1区 包含層 (359~365)



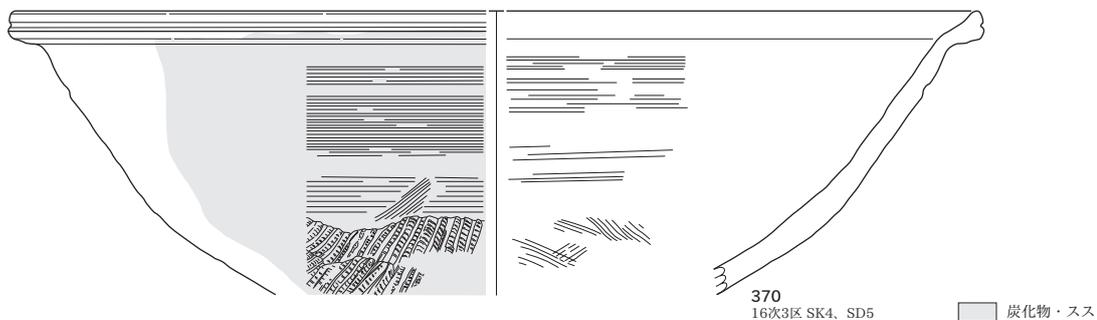
16次2区 河1 (366・367)



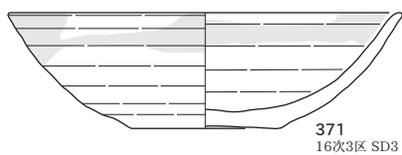
16次2区 包含層 (368・369)



16次3区 SK4 (370)



16次3区 SD3 (371)



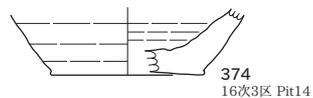
16次3区 Pit9 (373)



16次3区 SD8・11 (372)



16次3区 Pit14 (374)



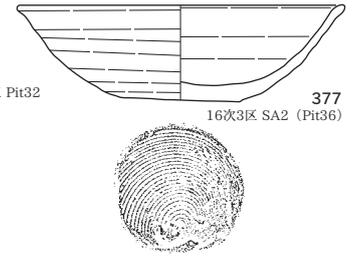
16次3区 Pit25 (375)



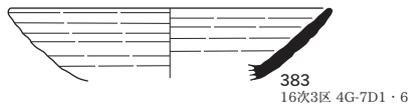
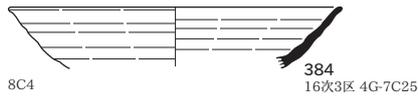
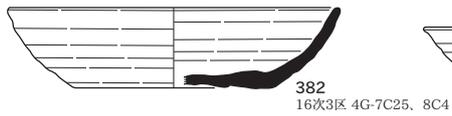
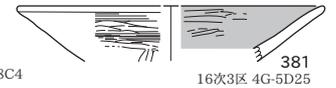
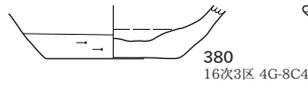
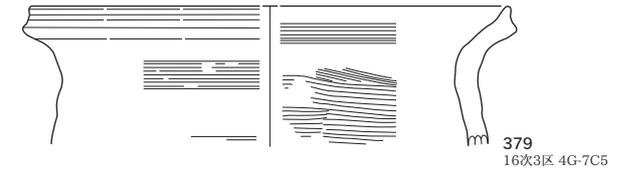
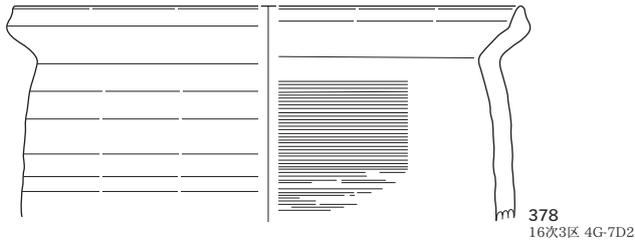
16次3区 Pit32 (376)



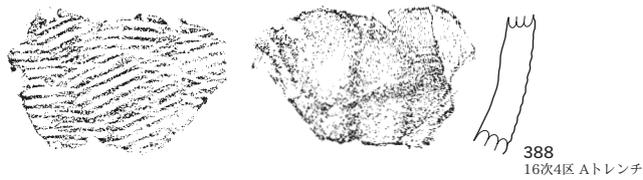
16次3区 Pit36 (377)



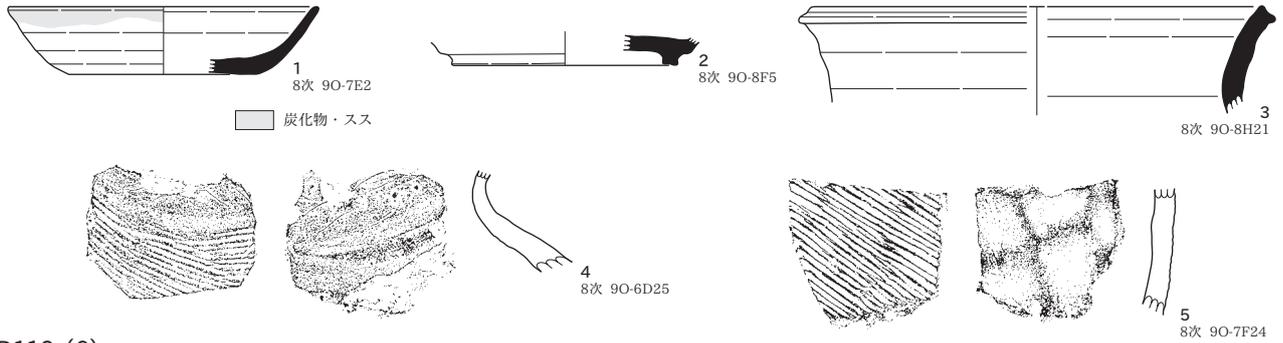
16次3区 包含層 (378~387)



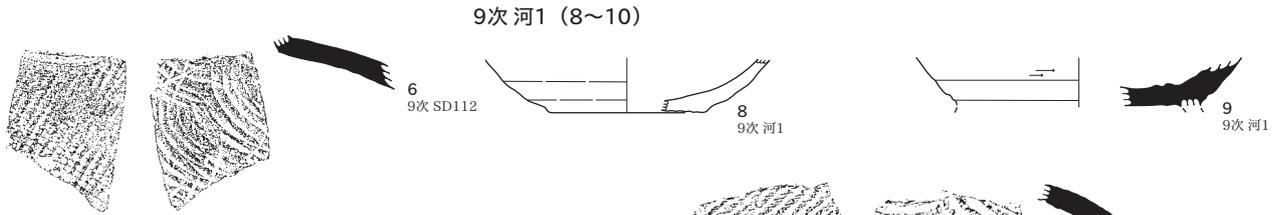
16次4区 A トレンチ表土 (388)



8次 包含層 (1~5)



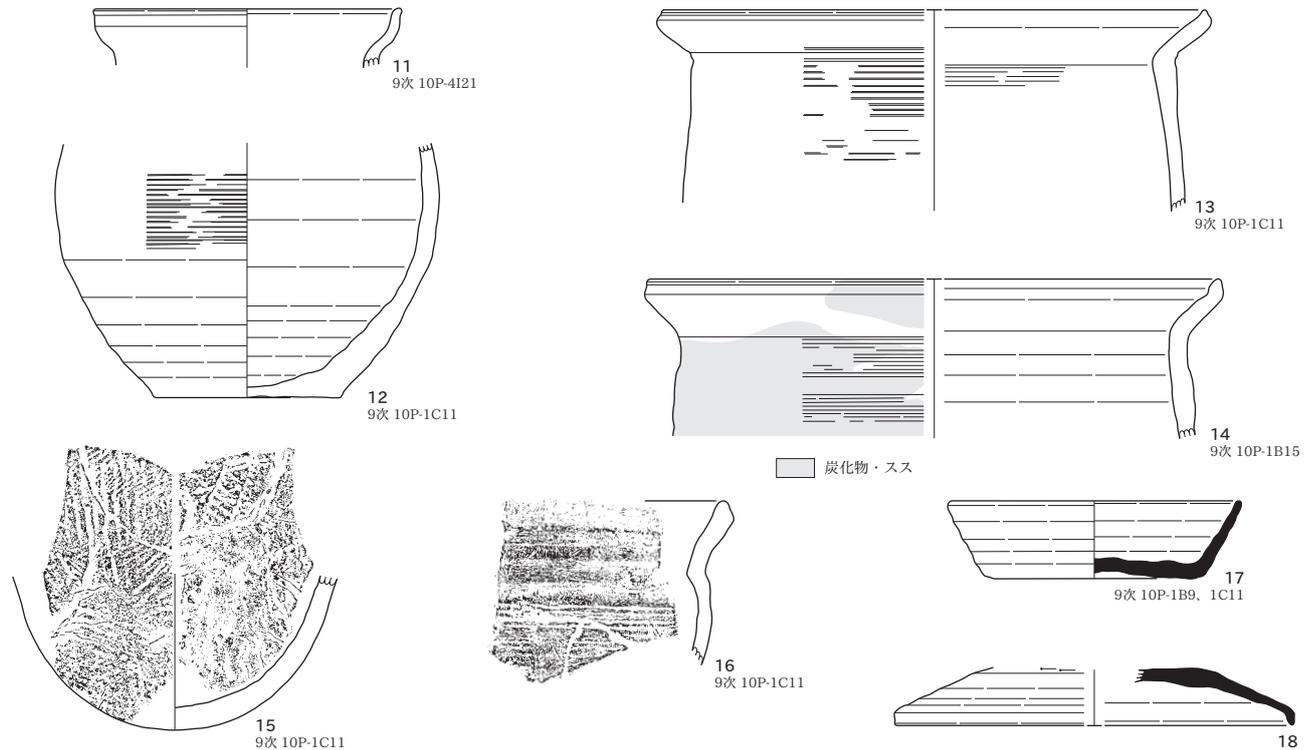
9次 SD112 (6)



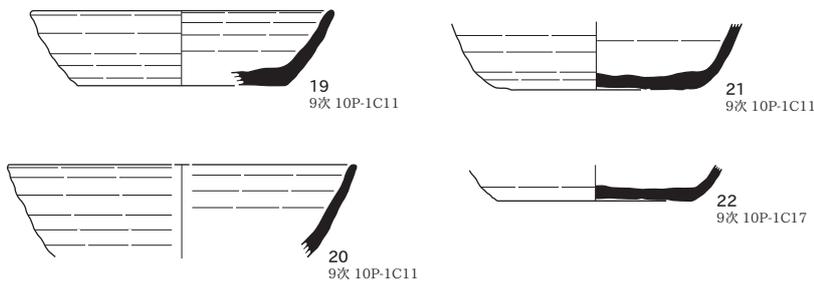
9次 SD118 (7)



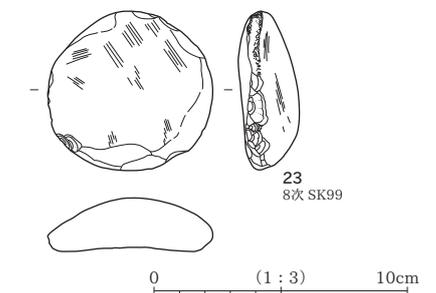
9次 包含層 (11~18)



9次 客土 (I 層) (19~22)



8次 SK99 (23)





中谷内遺跡周辺空中写真（北から）



中谷内遺跡周辺空中写真（北から） 平成 15 年 9 月 14 日 シン技術コンサル撮影



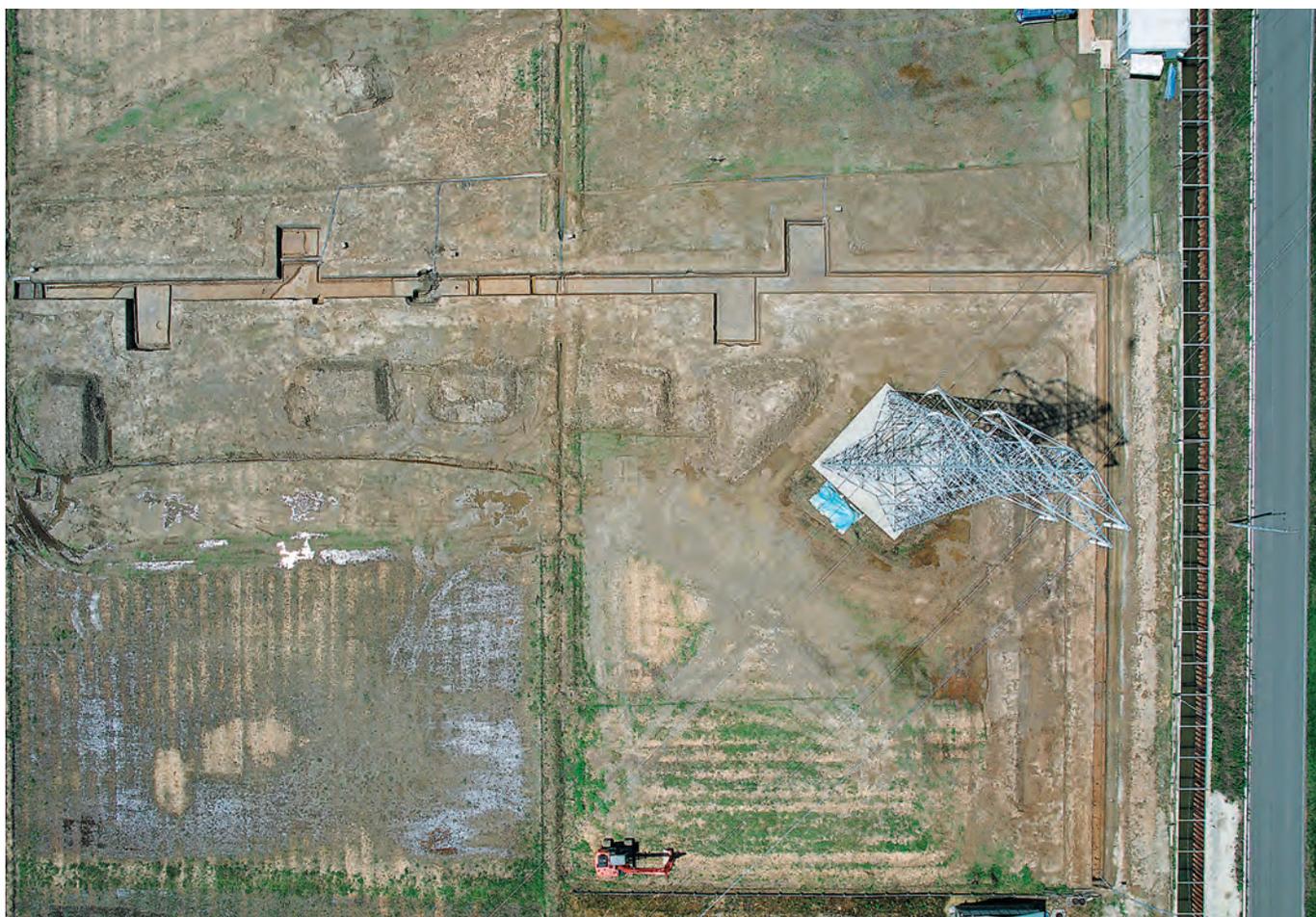
1・2区 空中写真（北から）



1・2区 空中写真（南西から）



1・2区 空中写真（北西から）



1・2区 空中写真（全景）



1 区 着手前現況 (北東から)



1 区 着手前現況 (南西から)



2 区 着手前現況 (北西から)



2 区 着手前現況 (南東から)



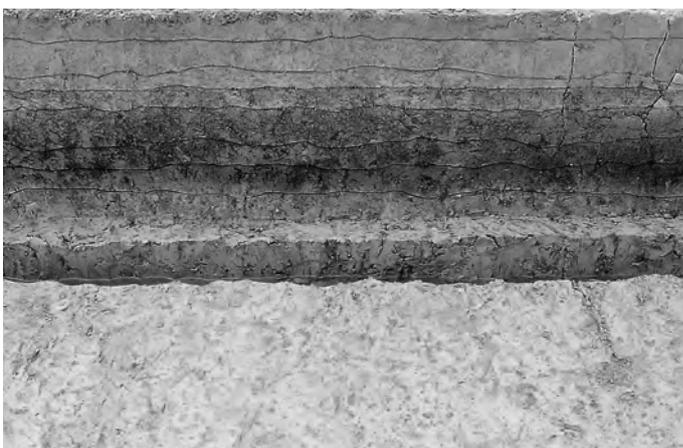
1 区 基本層序 SA-SA' (南東から)



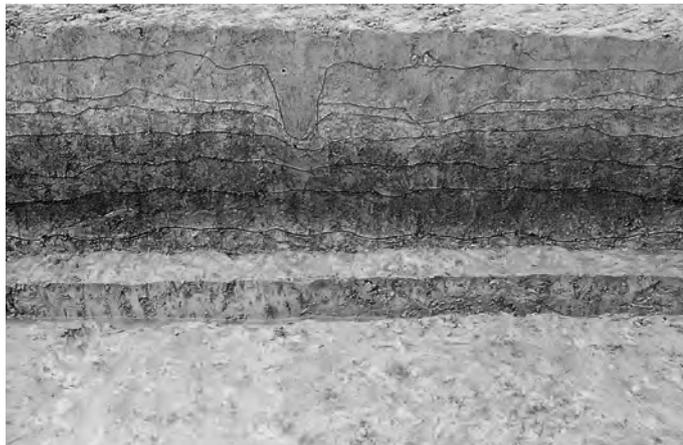
1 区 基本層序 SC-SC' (南東から)



1 区 基本層序 SF-SF' (南東から)



1 区 基本層序 SG-SG' (南東から)



1区 基本層序 SH-SH' (南東から)



1区 基本層序 SI-SI' (南東から)



1区 基本層序 SI'-SI'' (南東から)



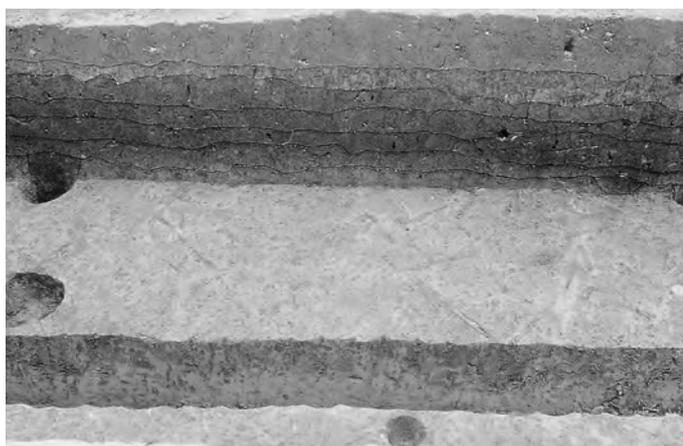
1区 基本層序 SJ-SJ' (南東から)



2区 基本層序 SK-SK' (北東から)



2区 基本層序 SL-SL' (北東から)



2区 基本層序 SO-SO' (北東から)



2区 基本層序 SP-SP' (北東から)



1 区 SK9 土層断面 (南東から)



1 区 SK9 完掘状況 (南東から)



1 区 SK12 土層断面 (北西から)



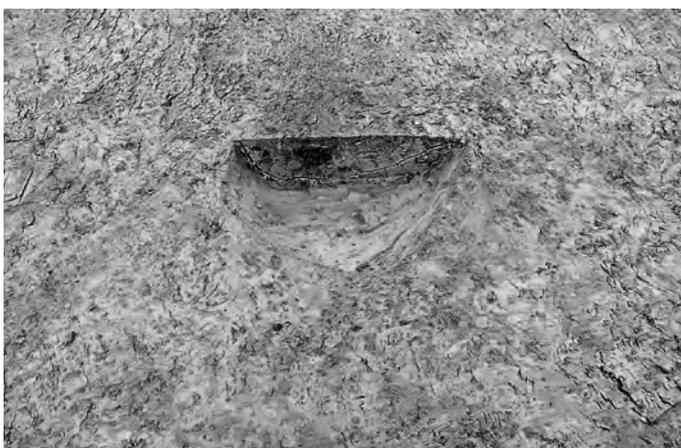
1 区 SK12 遺物出土状況 (北西から)



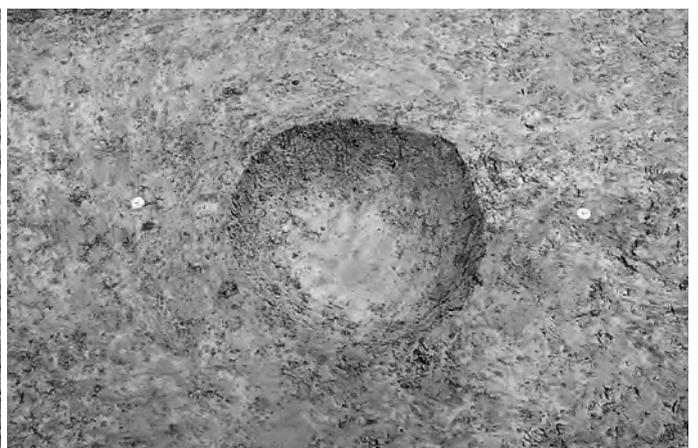
1 区 SK12 遺物出土状況 (北西から)



1 区 SK12 完掘状況 (北西から)



1 区 SK20 土層断面 (南東から)



1 区 SK20 完掘状況 (南東から)



2区 SK101、Pit99・100 完掘状況（北東から）



2区 SK114、Pit110 土層断面（南から）



2区 SK114、Pit110 完掘状況（南から）



1区 基本層序 SB-SB'、SD1 完掘状況（南東から）



1区 SD7 土層断面（南東から）



1区 SD7 土層断面（北西から）



1区 SD7 完掘状況（南東から）



1区 SD8 完掘状況（北東から）



1 区 SD11 完掘状況 (南東から)



1 区 SD53 完掘状況 (北東から)



1 区 基本層序 SD-SD'、河 1 完掘状況 (南東から)



2 区 河 2 土層断面 (南から)



2 区 河 2 土層断面 (北東から)



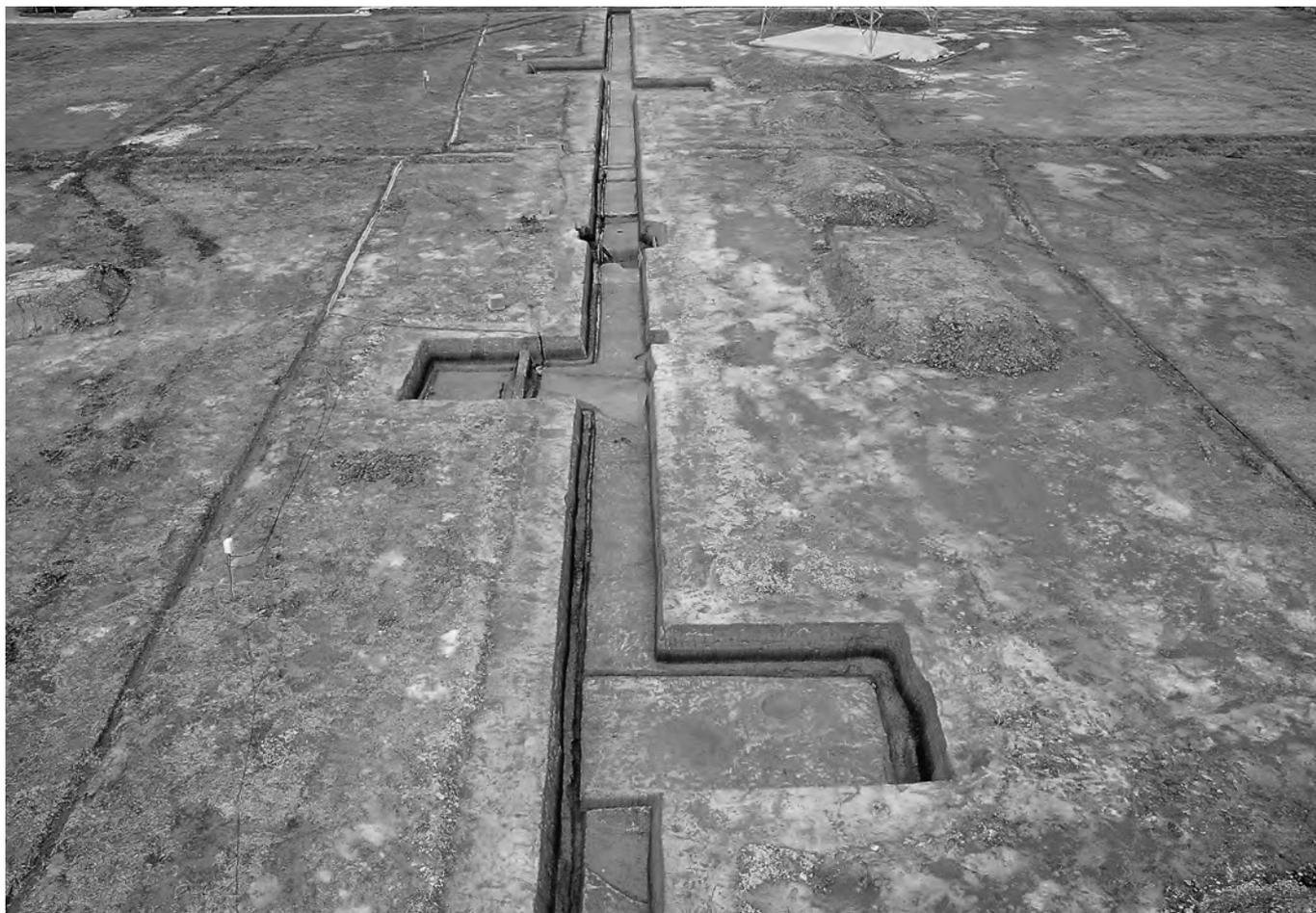
2 区 河 2 遺物出土状況 (西から)



2 区 河 2 完掘状況 (南西から)



1 区 完掘状況 (北東から)



1区 完掘状況（南西から）



2区 完掘状況（南東から）



1区 完掘状況（南西から）



1区 完掘状況（北東から）



2区 完掘状況（北西から）



2区 完掘状況（北西から）



2区 完掘状況（北東から）



1区 河1付近木（1・2号株）出土状況（西から）



1区 河1付近木（1号株）出土状況（南から）



1区 河1付近木（1号株）出土状況（北西から）



空中写真（南から）



空中写真（北西から）



SD66 付近空中写真（北西から）



SX112 付近空中写真（北西から）



着手前現況 (北東から)



着手前現況 (南東から)



基本層序 SA-SA' (南東から)



基本層序 SB-SB' (南東から)



基本層序 SC-SC' (南東から)



基本層序 SD-SD' (南東から)



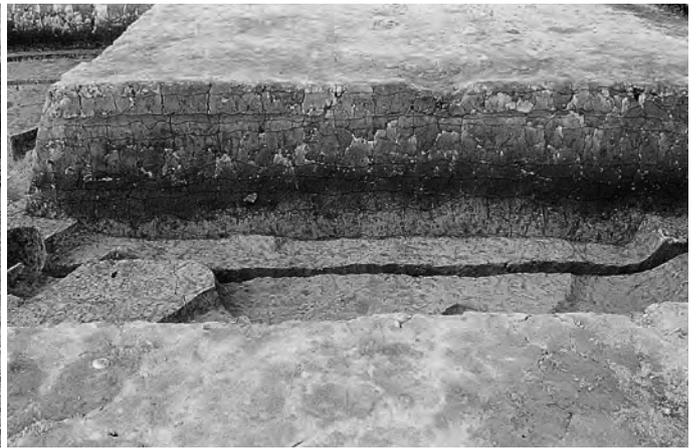
基本層序 SE-SE' (南東から)



基本層序 SF-SF' (南東から)



基本層序 SG-SG' (南東から)



基本層序 SH-SH' (南東から)



基本層序 SI-SI' (南東から)



基本層序 SJ-SJ' (南東から)



南東壁土層断面 SA-SA' (北西から)



南東壁土層断面 SB-SB' (北西から)



SK8 土層断面・完掘状況 (北東から)



SK19 土層断面 (北東から)



SK19 完掘状況（北東から）



SK20 土層断面（北東から）



SK20 完掘状況（北東から）



SK21 土層断面（北東から）



SK21 完掘状況（北東から）



SD3、Pit28、SK24 土層断面（北西から）



SD3、Pit28、SK24 完掘状況（北西から）



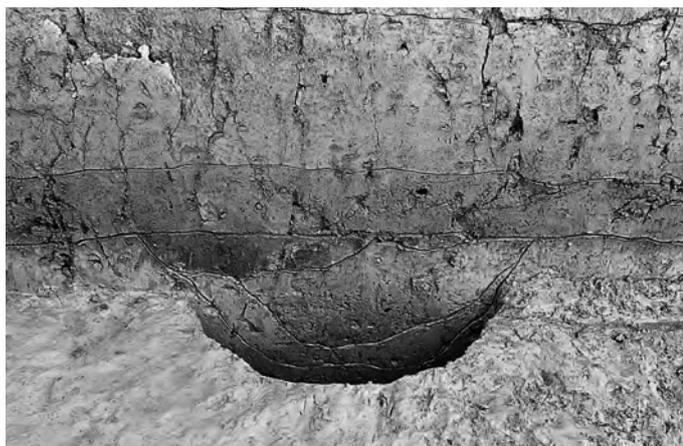
Pit92、SK87、SD80 土層断面・完掘状況（北西から）



SK103 土層断面・完掘状況（北西から）



SK106 土層断面・完掘状況（北西から）



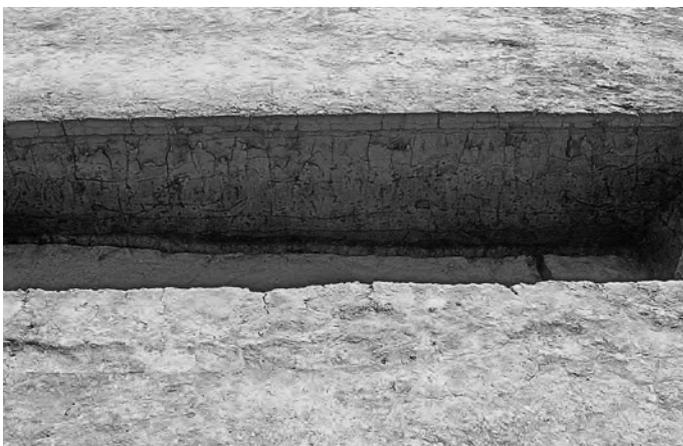
SK111 土層断面・完掘状況（北西から）



SX5 土層断面・完掘状況（南西から）



SX25 土層断面・完掘状況（南東から）



SX112 土層断面（北西から）



SX112 完掘状況（南東から）



SD113、SX114 土層断面（北西から）



SD113、SX114 完掘状況（北西から）



SD1 (A) 土層断面（南西から）



SD2 (A) 土層断面（南西から）



SD1 (B)・SD2 (B) 土層断面（南西から）



SD1 (C)・SD2 (C) 土層断面（北西から）



SD1・SD2 完掘状況（南西から）



SD3 土層断面（北西から）



SD3 土層断面・完掘状況（南東から）



SD4 (A) 土層断面 (北から)



SD4 (B) 土層断面 (北から)



SD4 (C) 土層断面 (北西から)



SD4 遺物出土状況 (北から)



SD4 完掘状況 (北東から)



SD7 (A)、Pit6 土層断面 (北東から)



SD7 (B) 土層断面 (北東から)



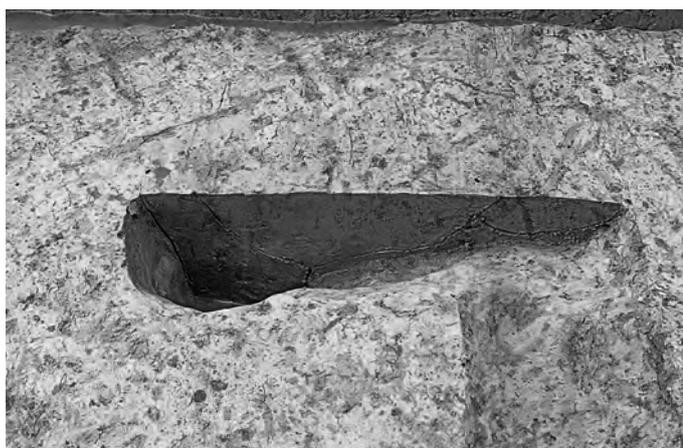
SD7 完掘状況 (北から)



SD9 土層断面 (南から)



SD9 土層断面・完掘状況 (南から)



SD15、Pit13・Pit14 土層断面 (南東から)



SD15、Pit13・Pit14・Pit16 完掘状況 (南東から)



SD22 土層断面・完掘状況 (南東から)



SD44 土層断面・完掘状況 (南東から)



SD45・SD46 土層断面 (南から)



SD45・SD46 完掘状況 (南から)



SD50 (A) 土層断面 (北東から)



SD50 (B) 土層断面 (北東から)



SD50 完掘状況 (北東から)



SD51 (A) 土層断面 (北西から)



SD51 (B) 土層断面 (北西から)



SD51 (C) 土層断面・完掘状況 (北から)



SD51 完掘状況 (南東から)



SD55 土層断面 (東から)



SD55 完掘状況（東から）



SD58 土層断面（東から）



SD58 完掘状況（東から）



SD65 (A) 土層断面（南西から）



SD65 (B) 土層断面・完掘状況（南西から）



SD66 (A) 土層断面（西から）



SD66 (B) 土層断面（西から）



SD66 完掘状況（西から）



SD66 完掘状況 (西から)



SD67 完掘状況 (南東から)



SD93 (A)・SD70 (A)・SD71 (A) 土層断面 (南から)



SD93 (B)・SD71 (B)・SD70 (B) 土層断面 (南東から)



SD95・SD94 土層断面 (南東から)



SD94・SD93・SD71・SD70 完掘状況 (南東から)



SD94・SD93・SD71・SD70 完掘状況 (南東から)



SD95 完掘状況 (南東から)



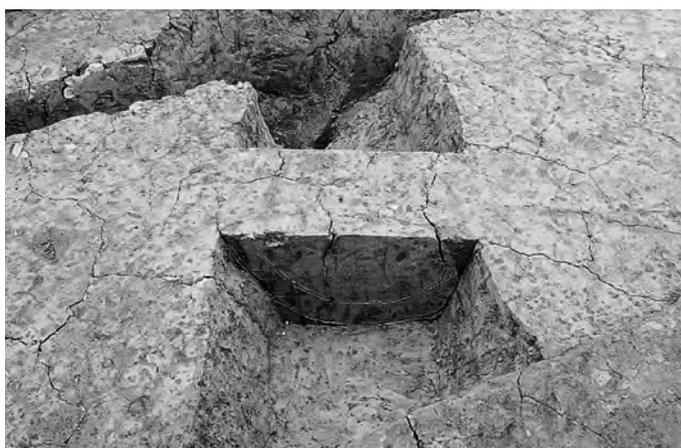
SD72 (A) 土層断面 (南東から)



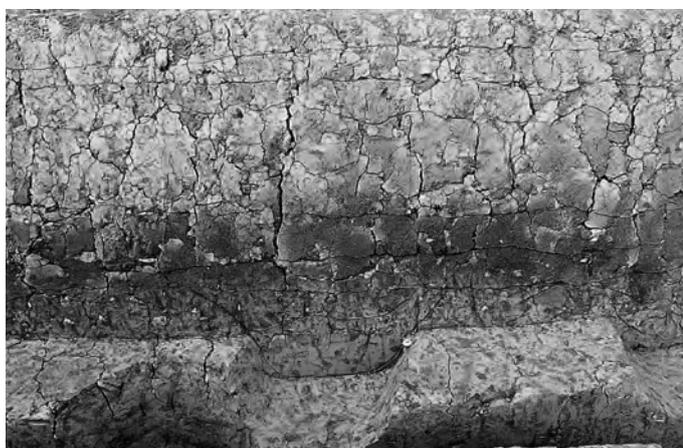
SD72 (B) 土層断面 (南西から)



SD72 完掘状況 (南東から)



SD76 (A) 土層断面 (南西から)



SD76 (B) 土層断面 (南西から)



SD76 完掘状況 (南西から)



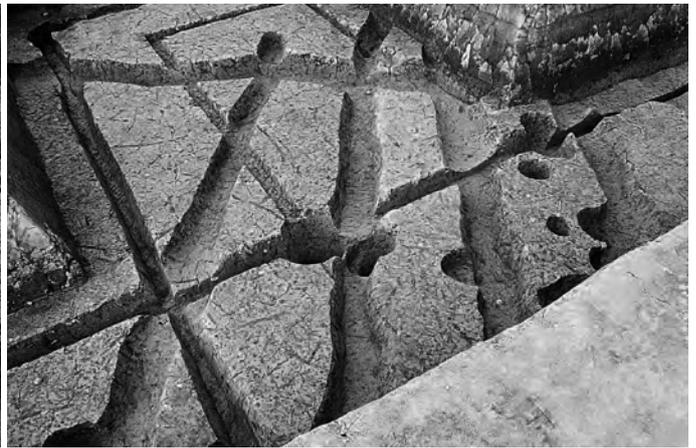
SD79・SD78 土層断面 (南東から)



SD79・SD78 完掘状況 (南東から)



SD82・SD81・SD80 土層断面（南東から）



SD82・SD81・SD80 完掘状況（南東から）



SD100 (A) 土層断面（南東から）



SD100 (B) 土層断面（南東から）



SD100 完掘状況（南東から）



SD104 土層断面（東から）



SD104 完掘状況（東から）



SD105 土層断面（北東から）



SD105 完掘状況（北東から）



SD107 (A) 土層断面（東から）



SD107 (B) 土層断面（南から）



SD107・SD108 完掘状況（南東から）



SD109 (A) 土層断面（南西から）



SD109 (B) 土層断面・完掘状況（南西から）



SD113、SX114 土層断面（北西から）



SD113、SX114 完掘状況（北西から）



1 区 空中写真（北西から）



1 区 完掘状況（北東から）



2 区 完掘状況（南西から）



2 区 畝状遺構周辺（北西から）



3区 SB1 空中写真(上層 南東から)



3区 4G-7C・8C 完掘状況(下層 北東から)



1区 着手前現況 (北東から)



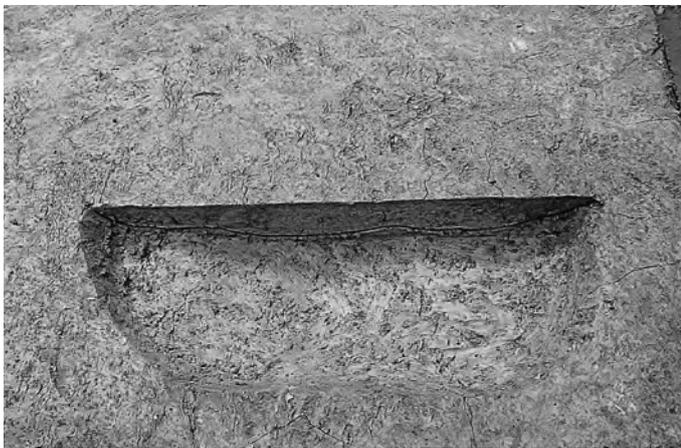
1区 着手前現況 (南西から)



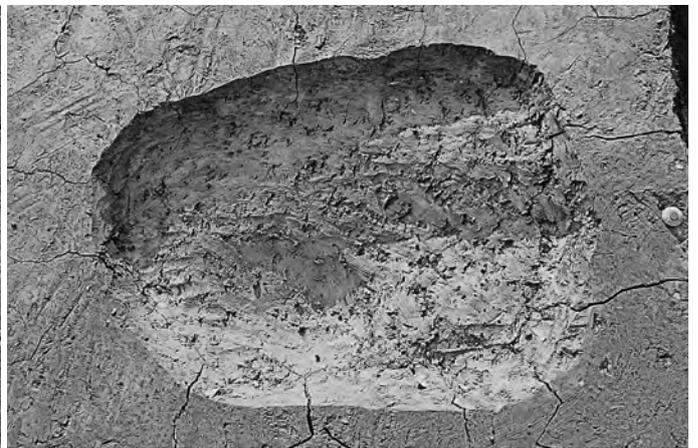
1区 基本層序 SD-SD' (北西から)



1区 SD1 土層断面 (北西から)



1区 SK6 土層断面 (南東から)



1区 SK6 完掘状況 (南東から)



1区 Pit4 土層断面 (北東から)



1区 Pit4 完掘状況 (北東から)



2区 着手前現況 (南西から)



2区 着手前現況 (北東から)



2区 基本層序 SA-SA' (南東から)



2区 畝状遺構土層断面 (南西から)



2区 畝状遺構完掘状況 (南西から)



2区 SD3 土層断面 (南東から)



2区 SD1・SD2 土層断面 (南東から)



2区 河1 土層断面 (南東から)



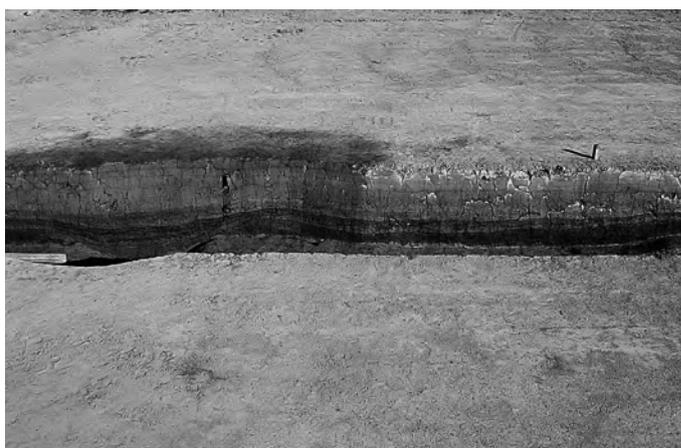
3 区 基本層序 SA-SA' (西から)



3 区 基本層序 SB-SB' (北西から)



3 区 基本層序 SC-SC' (北西から)



3 区 基本層序 SD-SD' (北西から)



3 区 SE23 土層断面 (北から)



3 区 SE23 完掘状況 (北から)



3 区 SK4、SD11 土層断面・完掘状況 (南東から)



3 区 SK30 土層断面 (南から)



3区 SK30 完掘状況(南から)



3区 SD1 土層断面・完掘状況(南東から)



3区 SD2 土層断面・完掘状況(南東から)



3区 SD3 土層断面(南東から)



3区 SD3 完掘状況(南東から)



3区 SD5(A) 土層断面(北から)



3区 SD5(B) 土層断面(北東から)



3区 SD5(C)・SD6・SD22 土層断面(南東から)



3区 SD5 完掘状況 (北から)



3区 SD6 土層断面・完掘状況 (南東から)



3区 SD8 土層断面 (南から)



3区 SD8 完掘状況 (南から)



3区 Pit9、SD11 土層断面 (南東から)



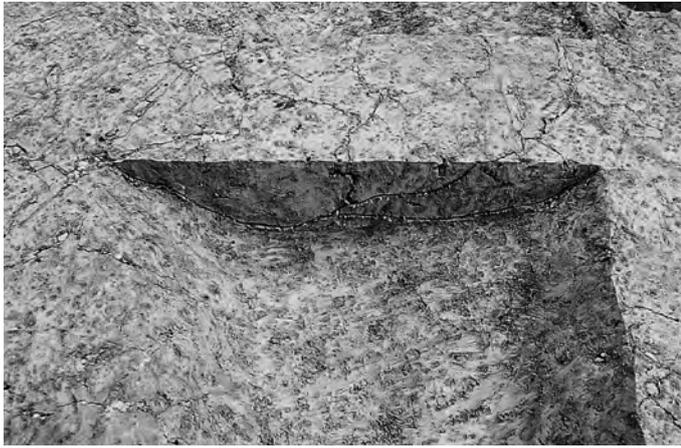
3区 SD11 完掘状況 (南東から)



3区 SD20、Pit18 土層断面 (北から)



3区 SD20 完掘状況 (北から)



3区 SD21 土層断面（北西から）



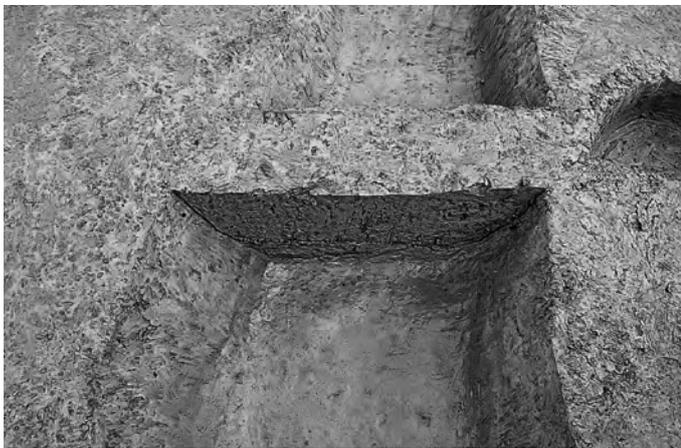
3区 SD21 完掘状況（西から）



3区 SD22 土層断面・完掘状況（南東から）



3区 SD29 土層断面・完掘状況（南東から）



3区 SD42 土層断面（北西から）



3区 SD42 完掘状況（北西から）



3区 SB1 完掘状況（北から）



3区 完掘状況（北東から）



4 区 完掘状況 (南東から)



4 区 着手前現況 (南東から)



4 区 基本層序 SA-SA' (北東から)



4 区 基本層序 SE-SE' (北東から)



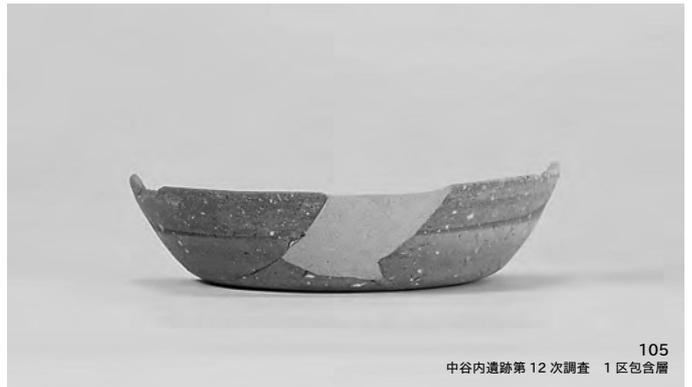
4 区 基本層序 SH-SH' (北東から)



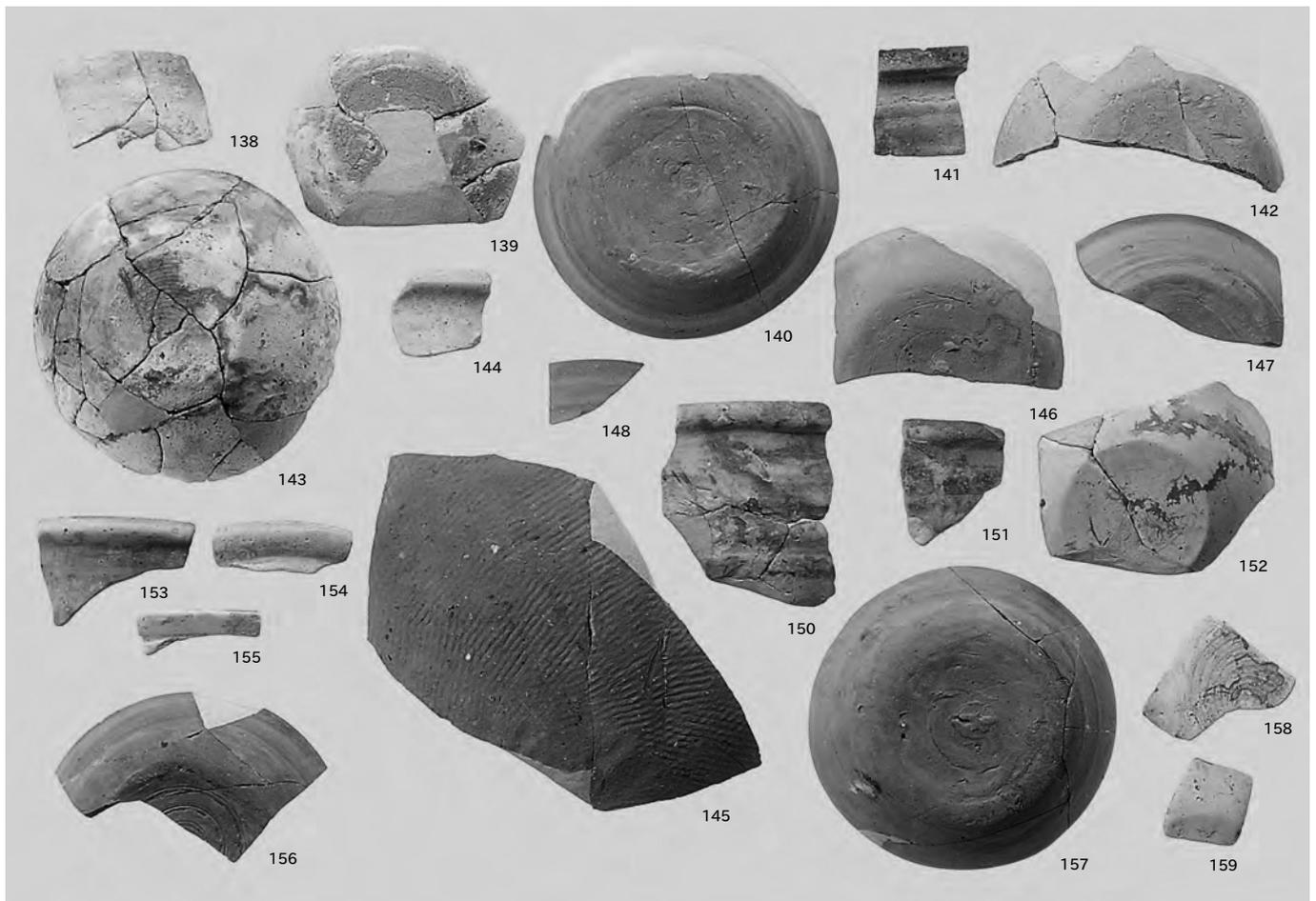
中谷内遺跡第 12 次調査 出土土器



中谷内遺跡第 15 次調査 出土土器



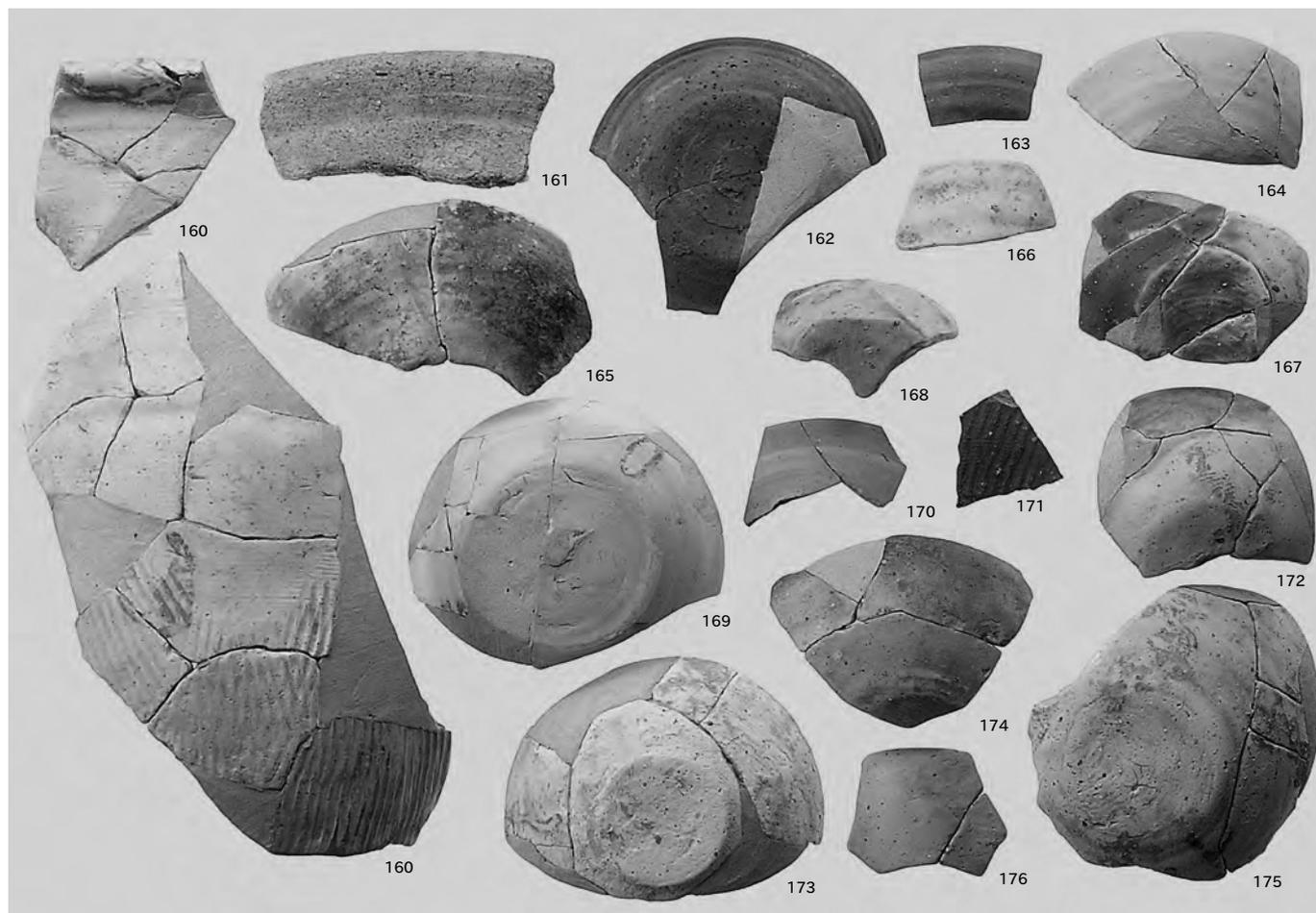




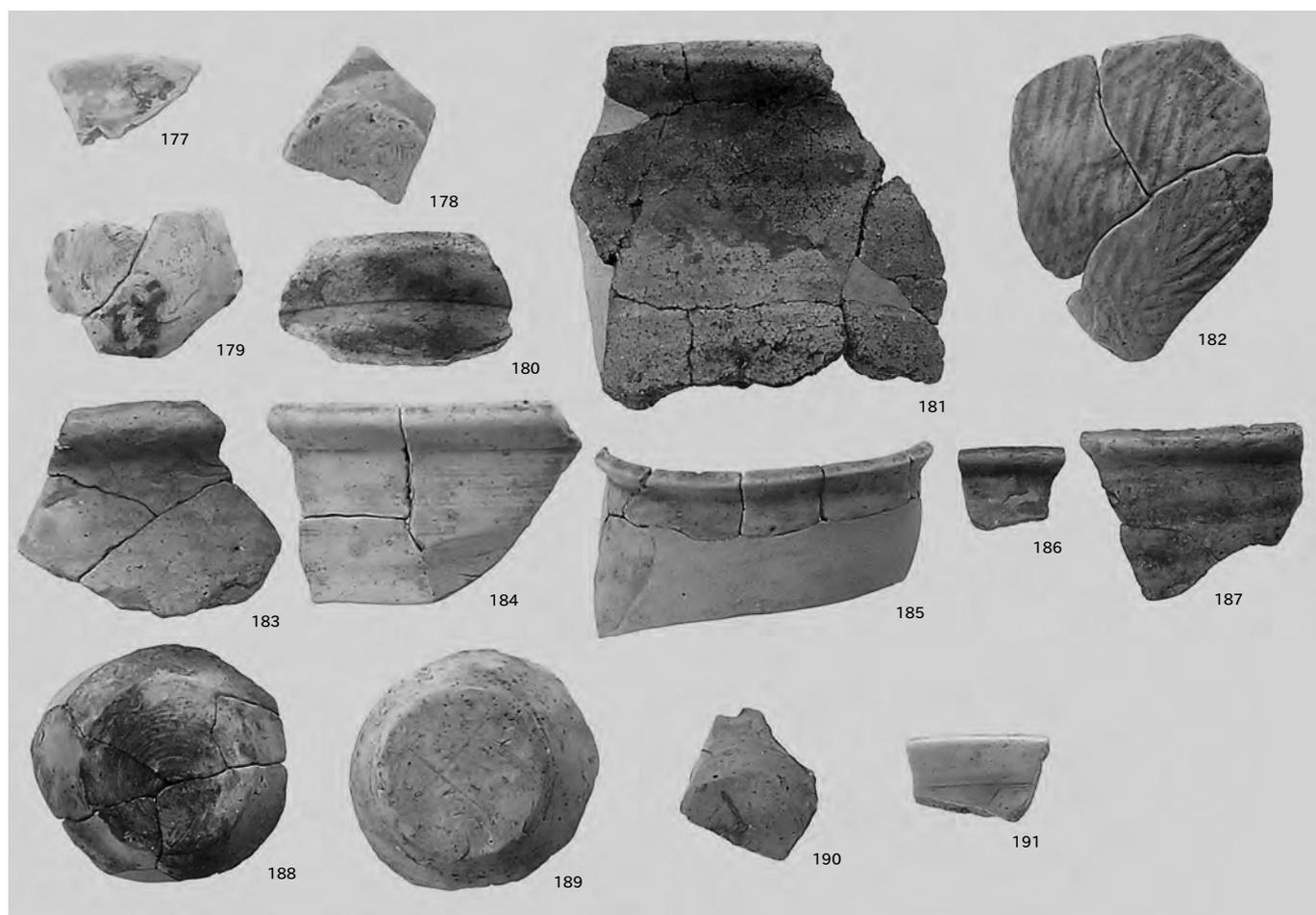
中谷内遺跡第15次調査 SK8 (138 ~ 140)・SK19 (141・142)・SK103 (143)・SK111 (144)・SX5 (145)・SX25 (146 ~ 148)・SX115 (150・151)・SD1 (152 ~ 157)・SD2 (158・159)



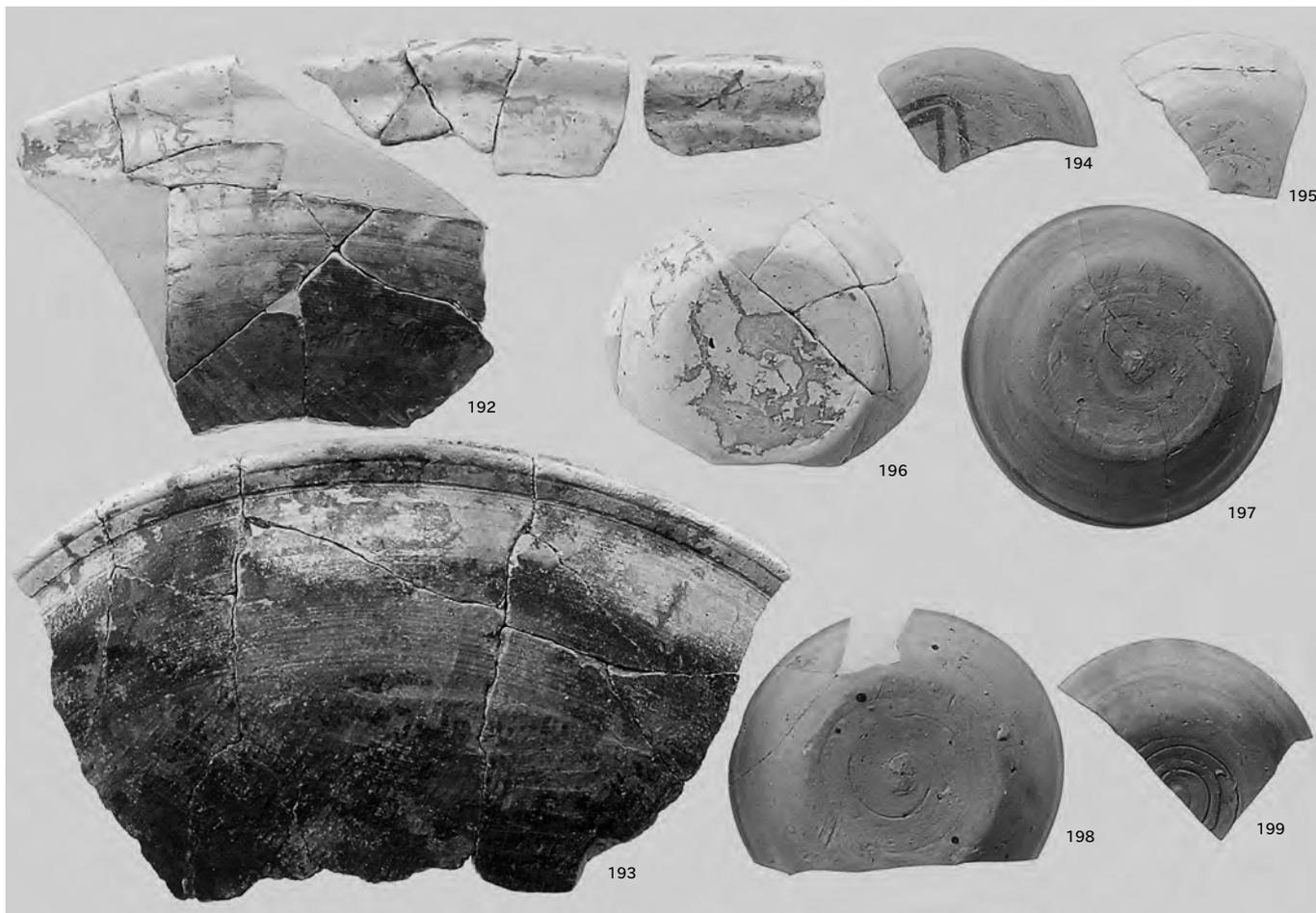
中谷内遺跡第15次調査 SX25 (149)



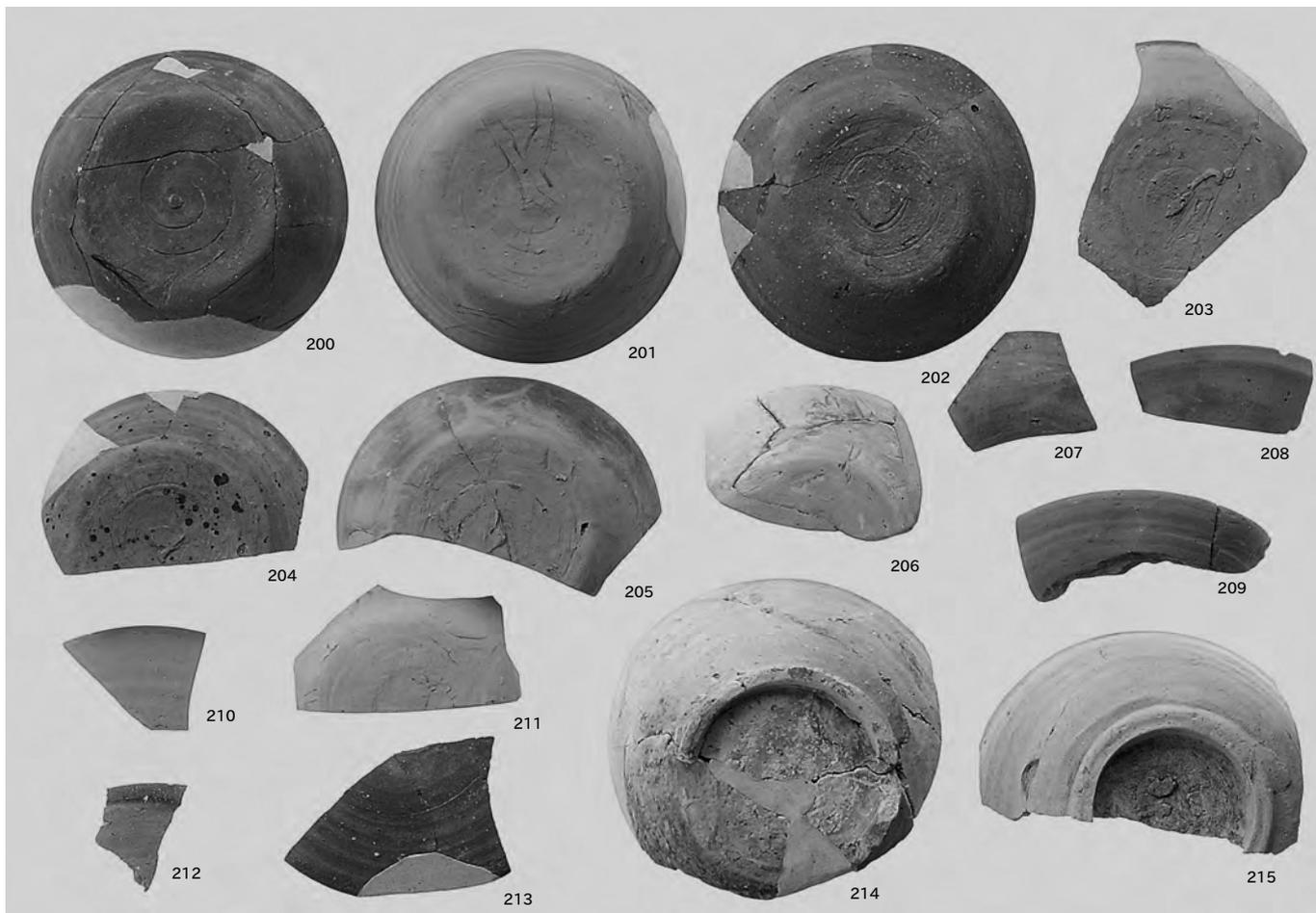
中谷内遺跡第 15 次調査 SD2 (160 ~ 164) · SD3 (165 ~ 171) · SD4 (172 ~ 176)



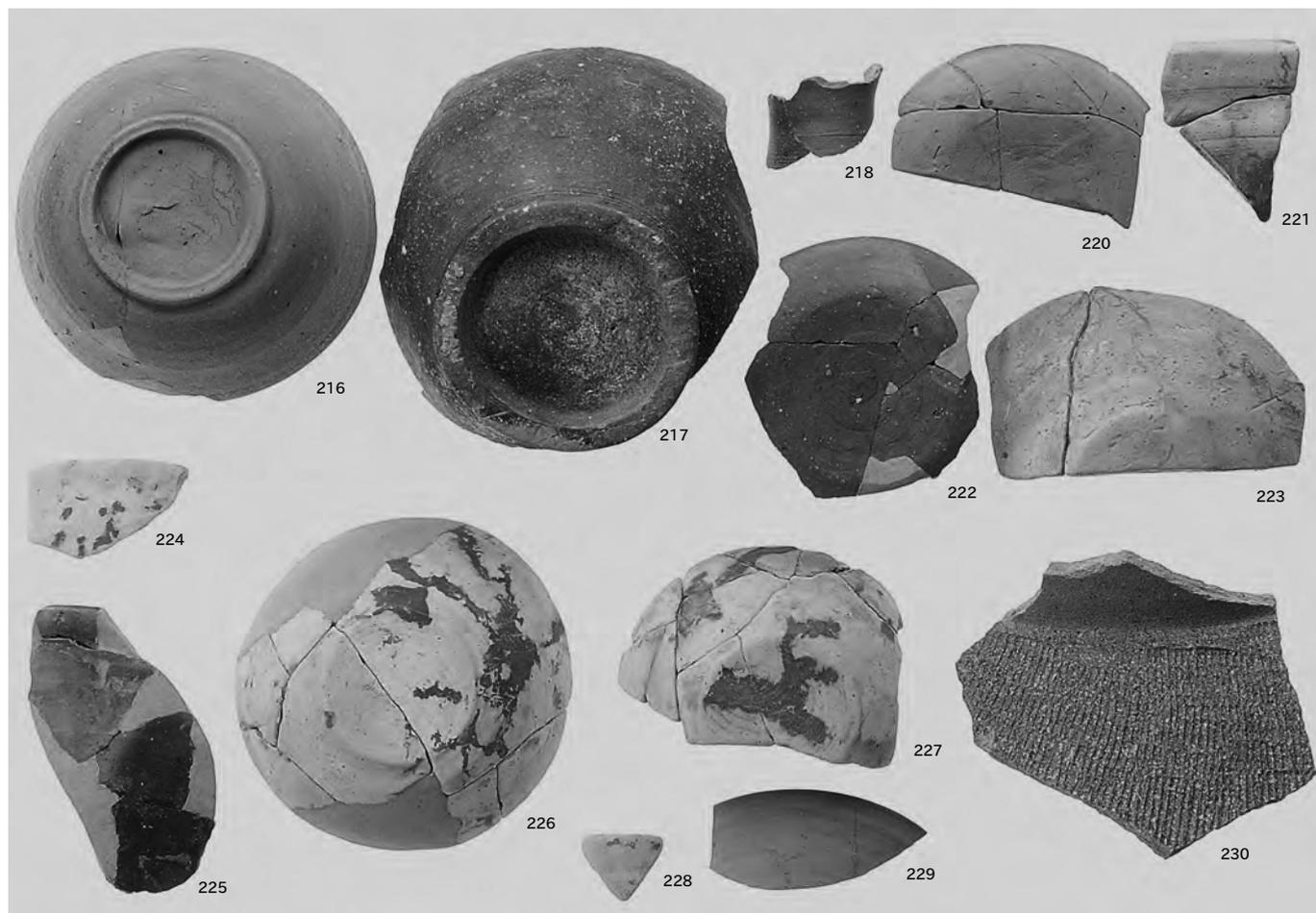
中谷内遺跡第 15 次調査 SD4 (177 ~ 191)



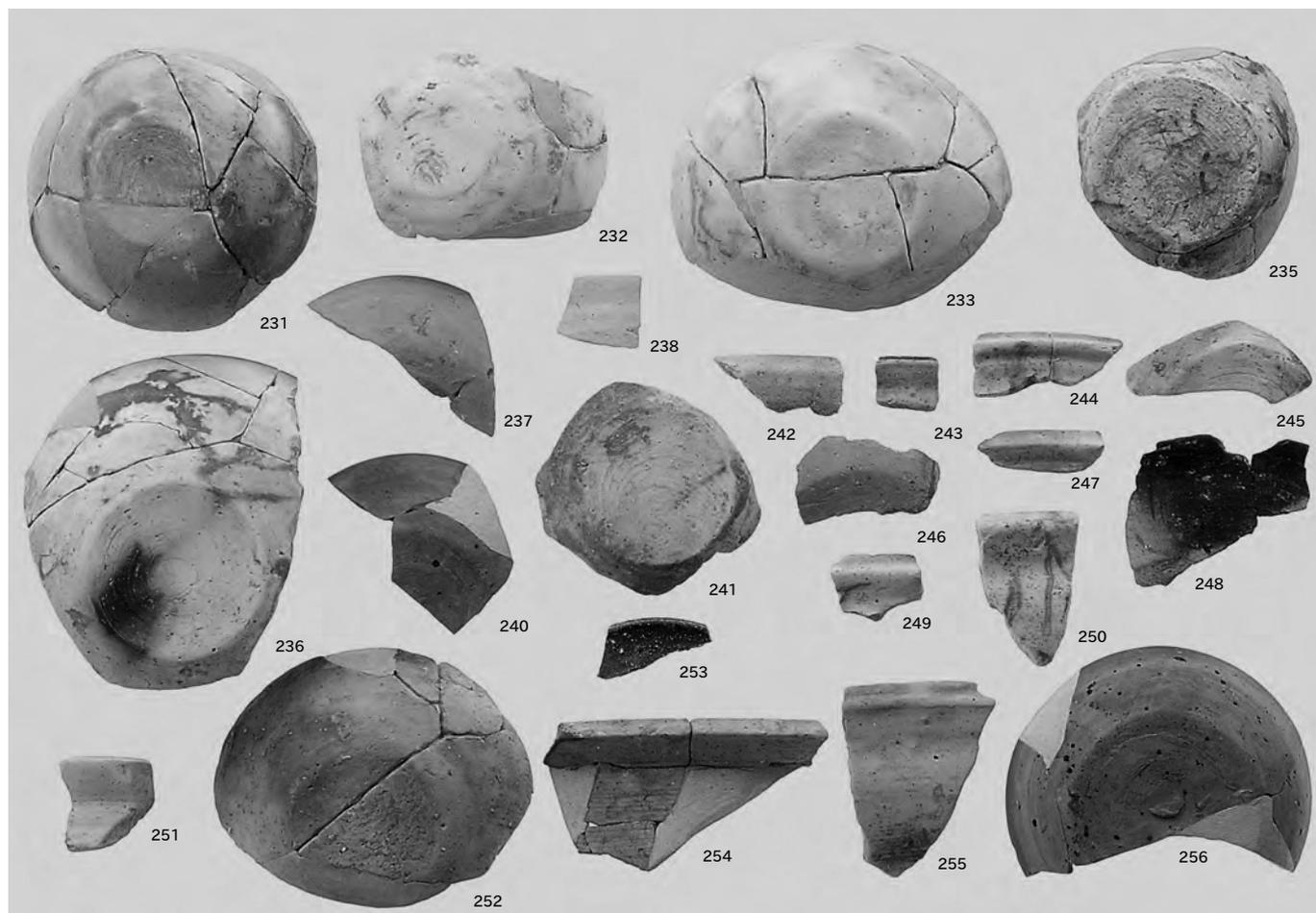
中谷内遺跡第 15 次調査 SD4 (192 ~ 199)



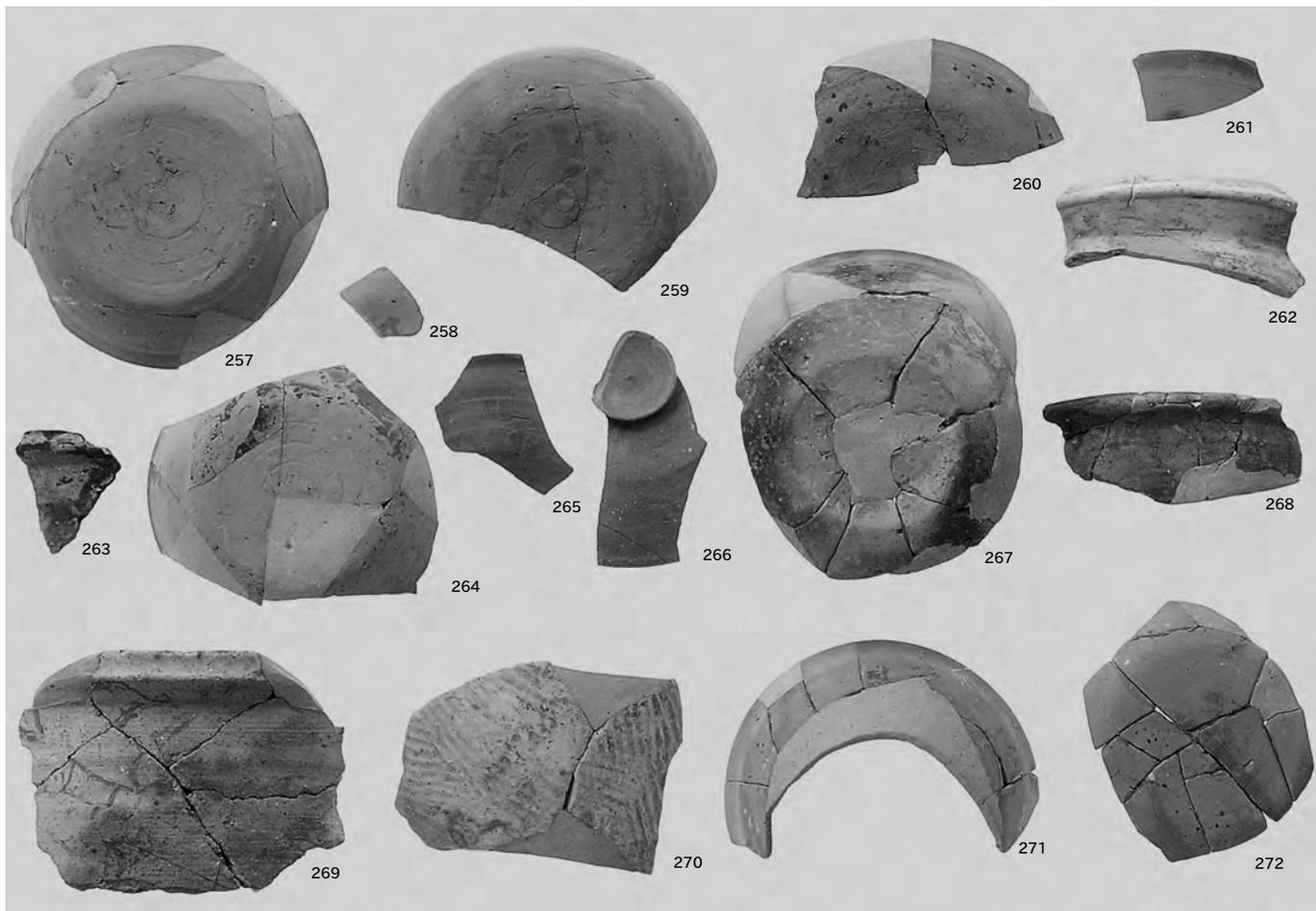
中谷内遺跡第 15 次調査 SD4 (200 ~ 215)



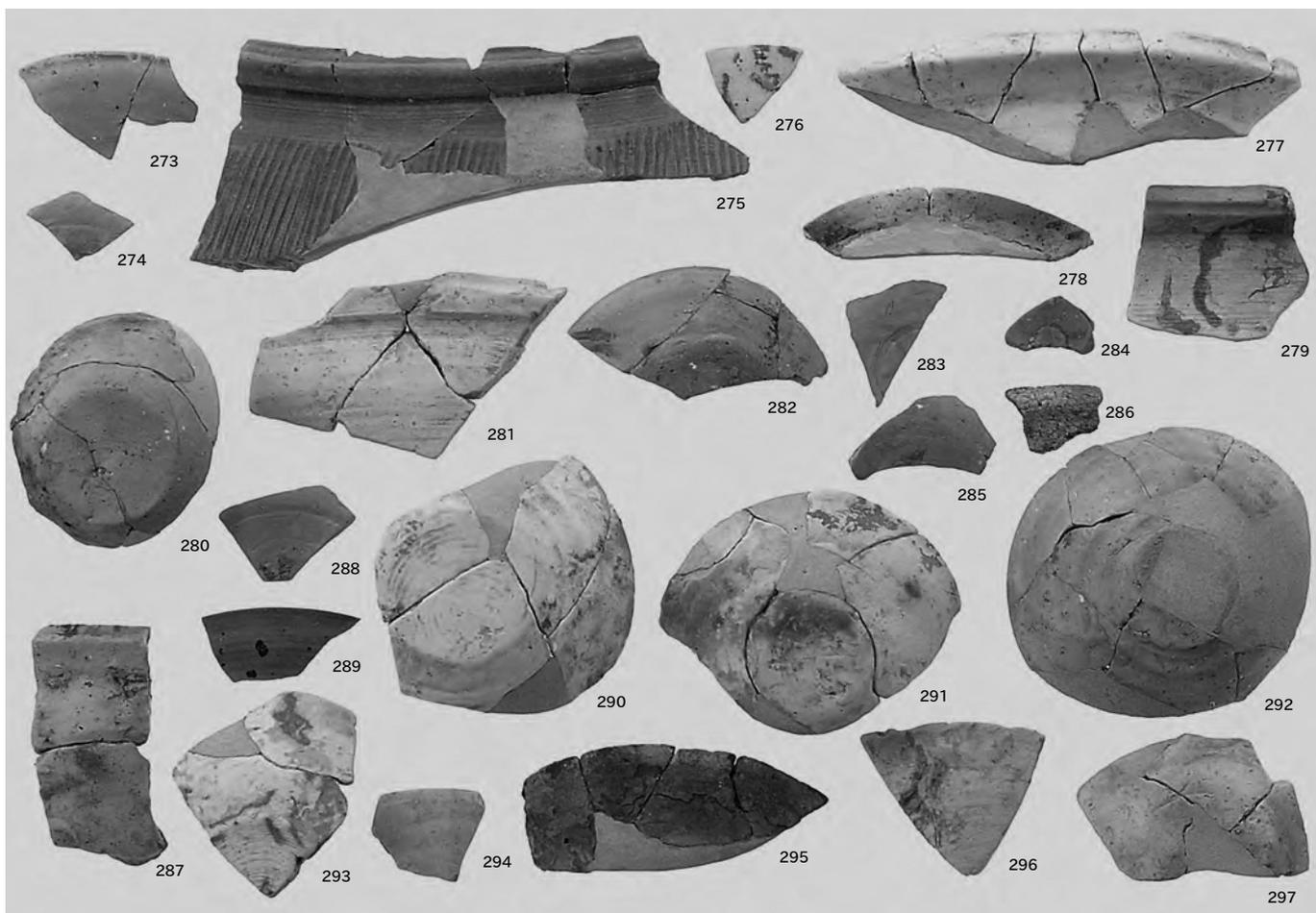
中谷内遺跡第 15 次調査 SD4 (216 ~ 218) · SD7 (220 · 221) · SD9 (222) · SD22 (223 ~ 225) · SD50 (226 ~ 230)



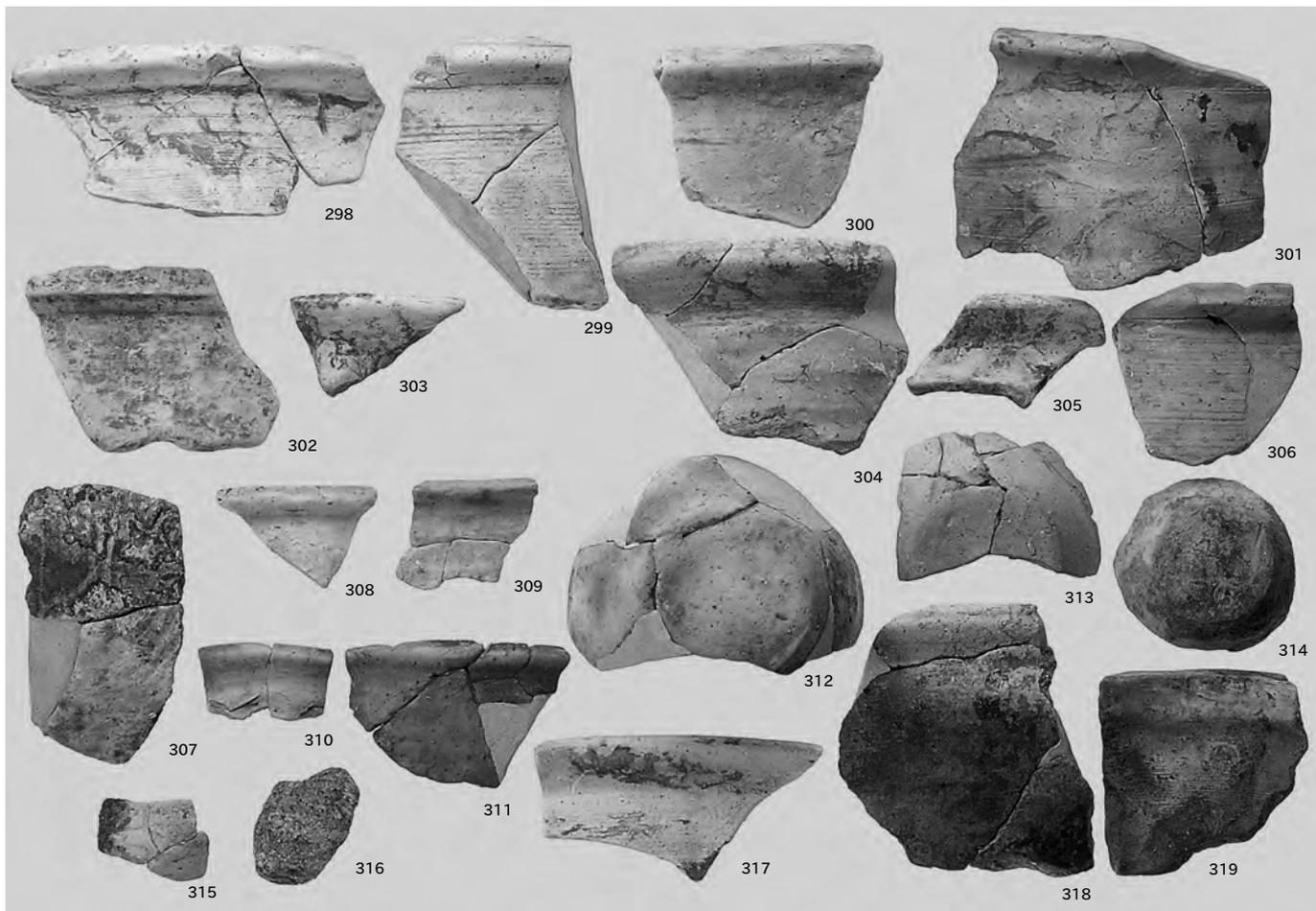
中谷内遺跡第 15 次調査 SD51 (231 ~ 233 · 235 ~ 238) · SD58 (240) · SD64 (241) · SD66 (242) · SD70 (243 ~ 246) · D71 (247 ~ 250) · SD76 (251) · SD79 (252 ~ 256)



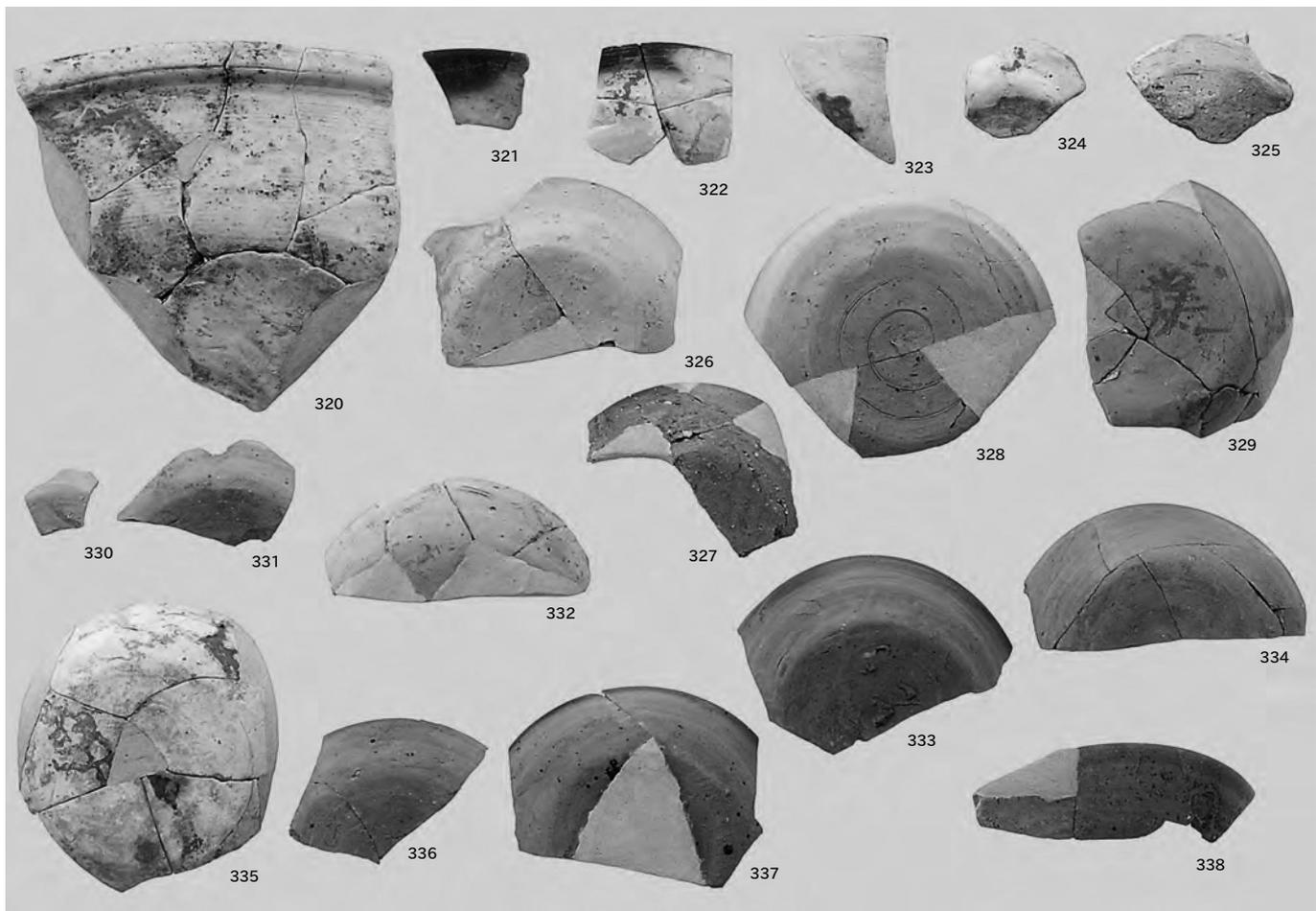
中谷内遺跡第 15 次調査 SD79 (257 ~ 259) · SD80 (260 · 261) · SD81 (262 ~ 266) · SD93 (267 ~ 272)



中谷内遺跡第 15 次調査 SD100 (273) · SD104 (274) · SD105 (275) · SD107 (276 ~ 278) · SD108 (279 ~ 281)、Pit86 (282 ~ 284) · Pit90 (285) · Pit92 (286 · 287) · Pit97 (288) · Pit102 (289)、包含層 (290 ~ 297)



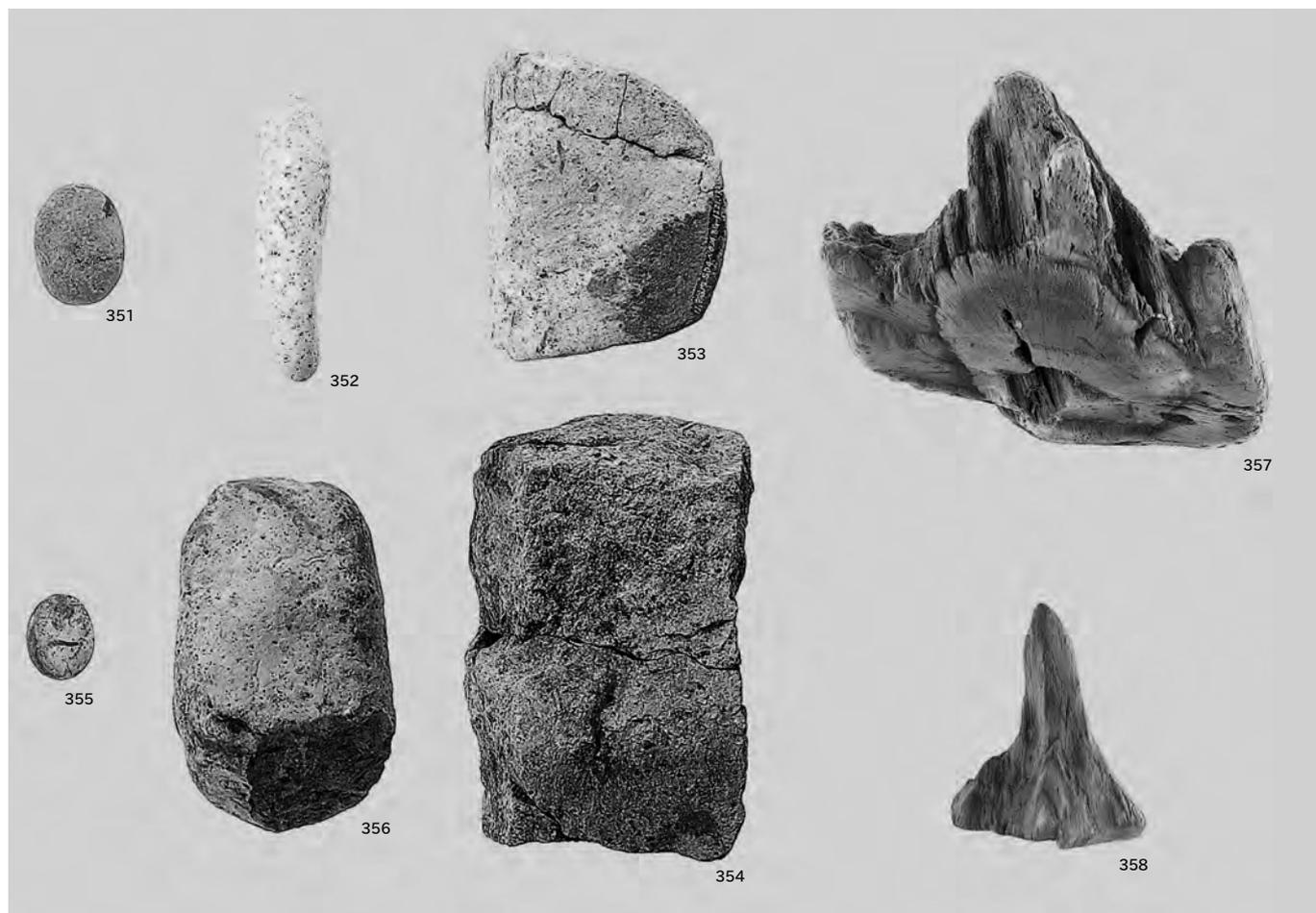
中谷内遺跡第 15 次調査 包含層 (298 ~ 319)



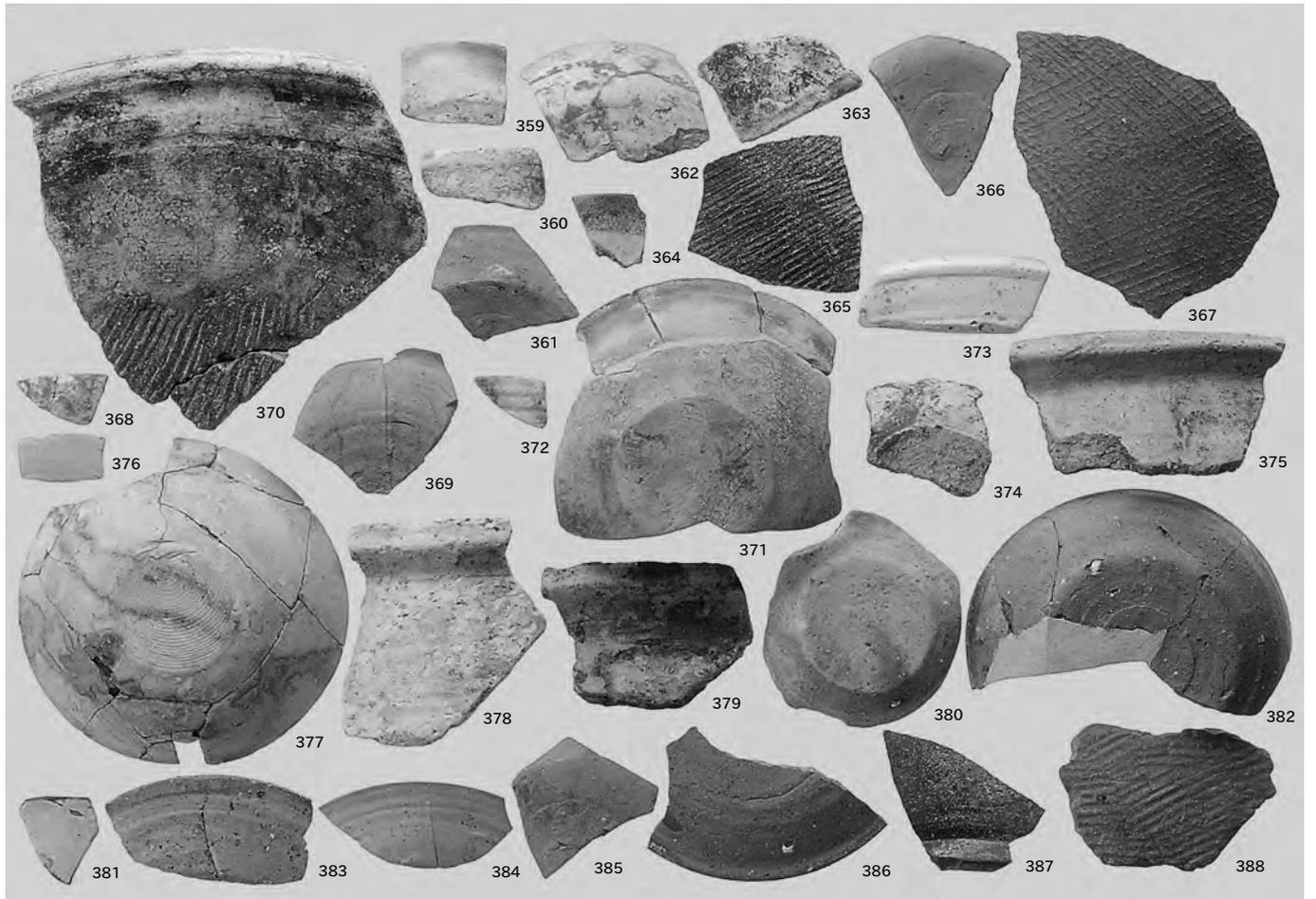
中谷内遺跡第 15 次調査 包含層 (320 ~ 338)



中谷内遺跡第 15 次調査 包含層 (339 ~ 350)



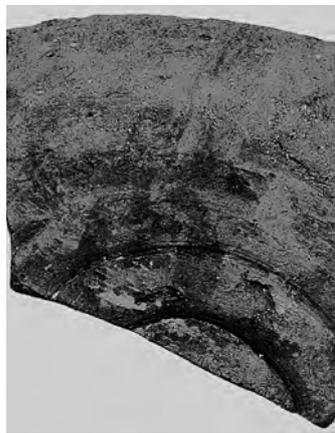
中谷内遺跡第 15 次調査 石製品 SD107 (351)・SD4 (352・353)・SD51 (354)、包含層 (355・356)、木製品 Pit77 (357)・Pit89 (358)



中谷内遺跡第16次調査 1区 包含層 (359～365)、2区 河1 (366・367)、包含層 (368・369)、3区 SK4 (370)、SD3 (371)・SD8・11 (372)、Pit9 (373)・Pit14 (374)・Pit25 (375)・Pit32 (376)・Pit36 (377)、包含層 (378～387)、4区 A トレンチ表土 (388)



墨書 1
(報 38)



墨書 2
(報 39)



墨書 3
(報 92)



墨書 5
(報 194)



墨書 8
(報 259)



墨書 15
(報 329)



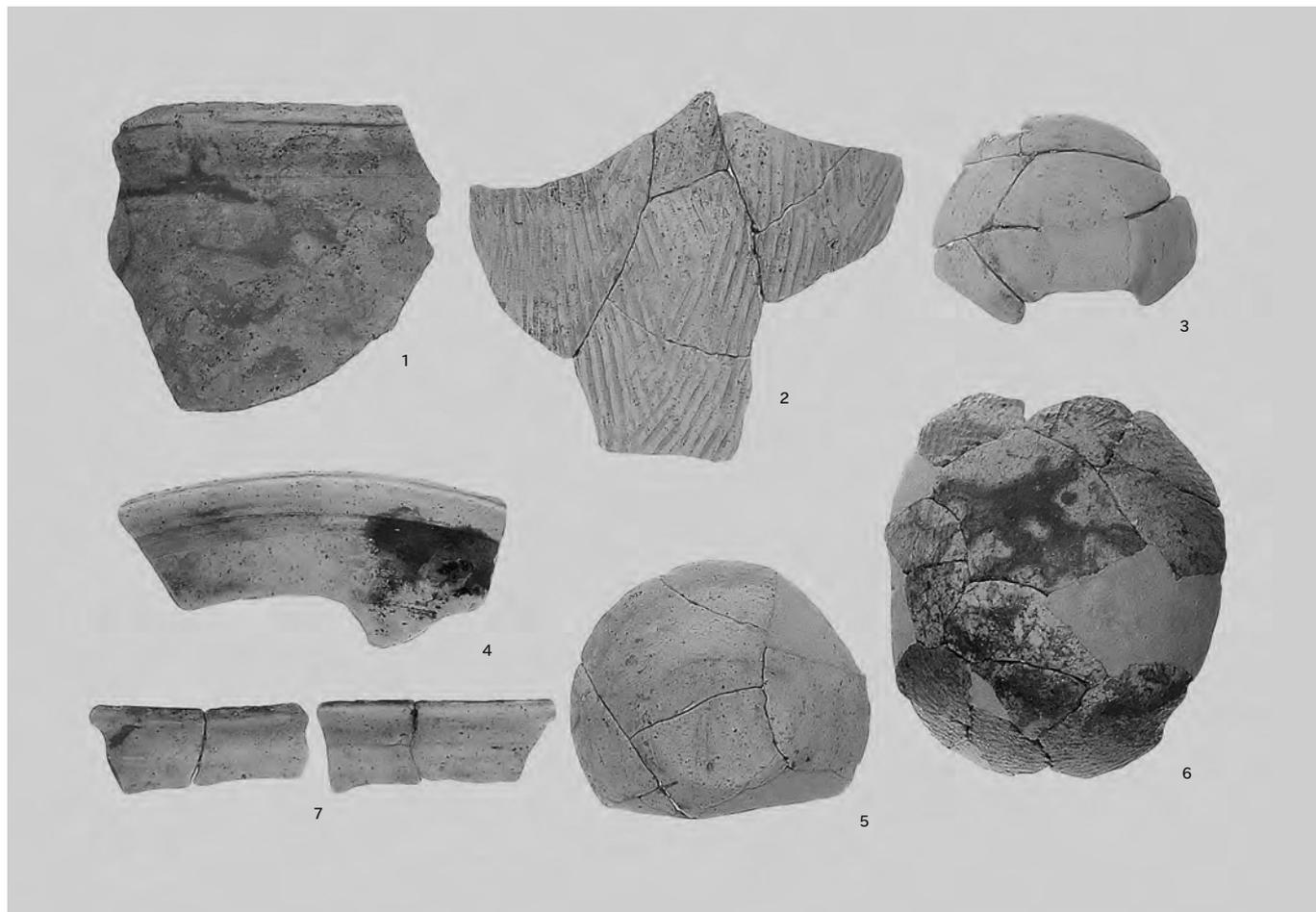
墨書 11
(報 283)



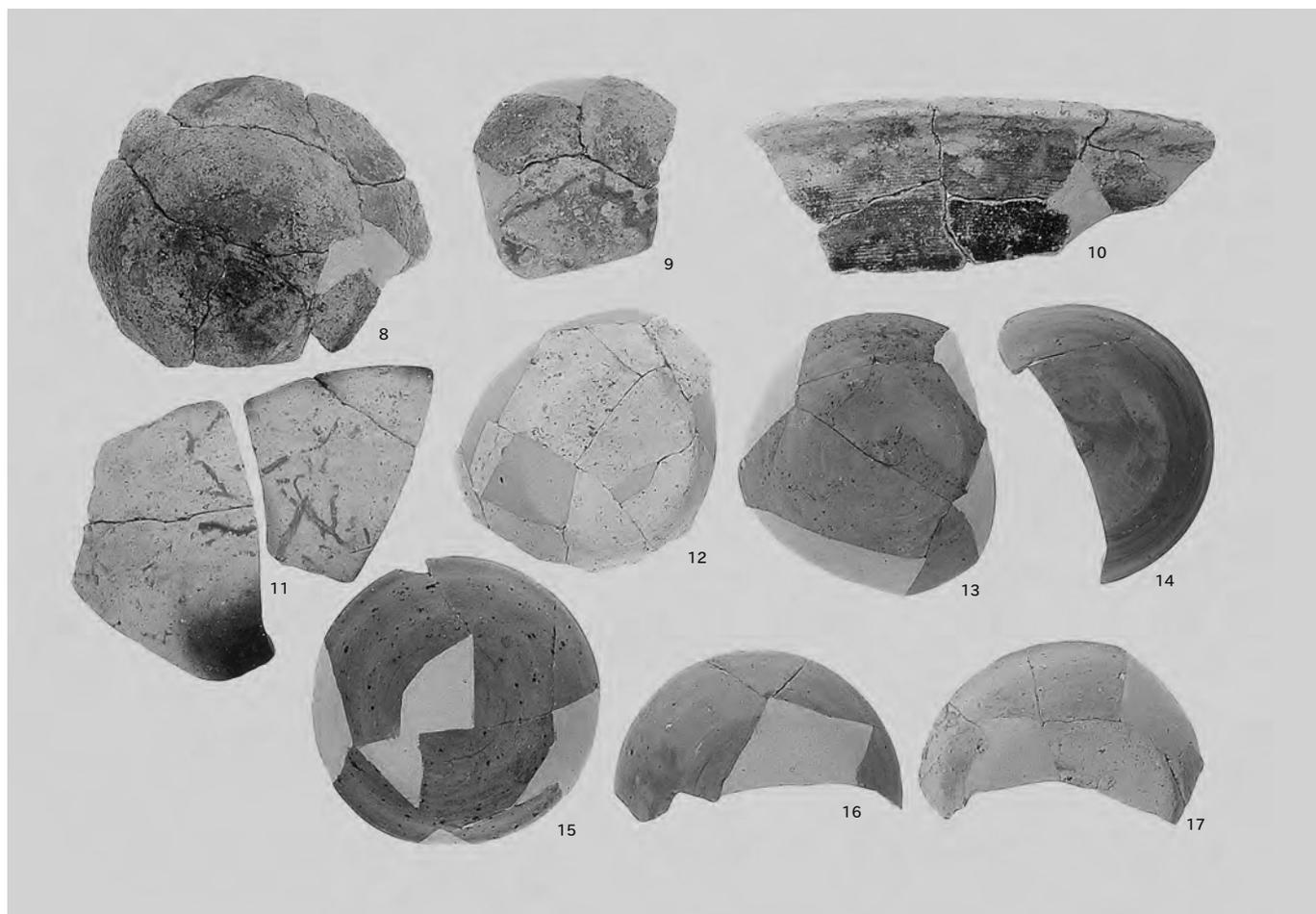
墨書 12
(報 284)



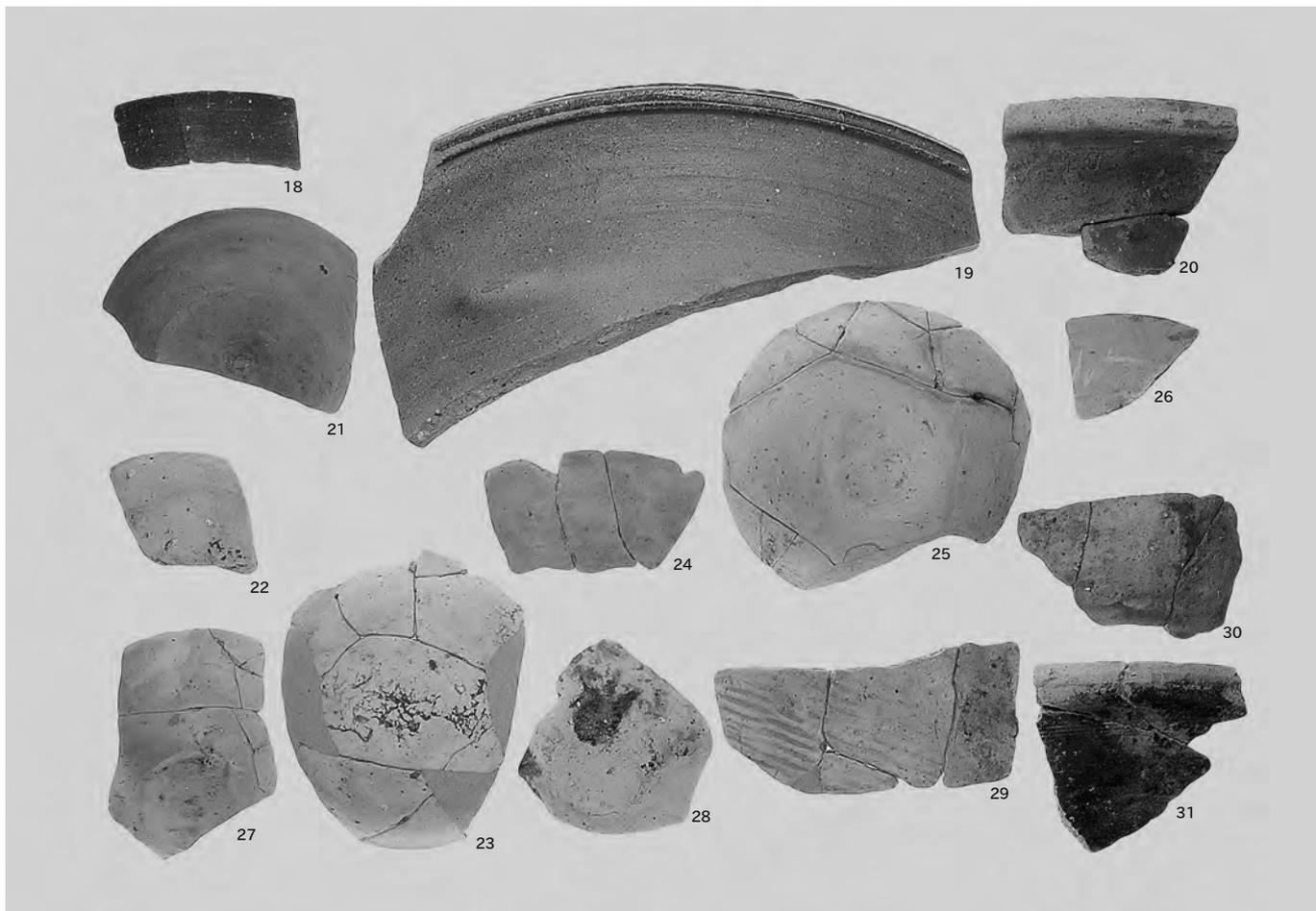
内野遺跡第8次調査 包含層 (1～5)、石製品SK99 (23)
 内野遺跡第9次調査 SD112 (6)・SD118 (7)、河1 (8～10)、包含層 (11～18)、客土 (I層) (19～22)



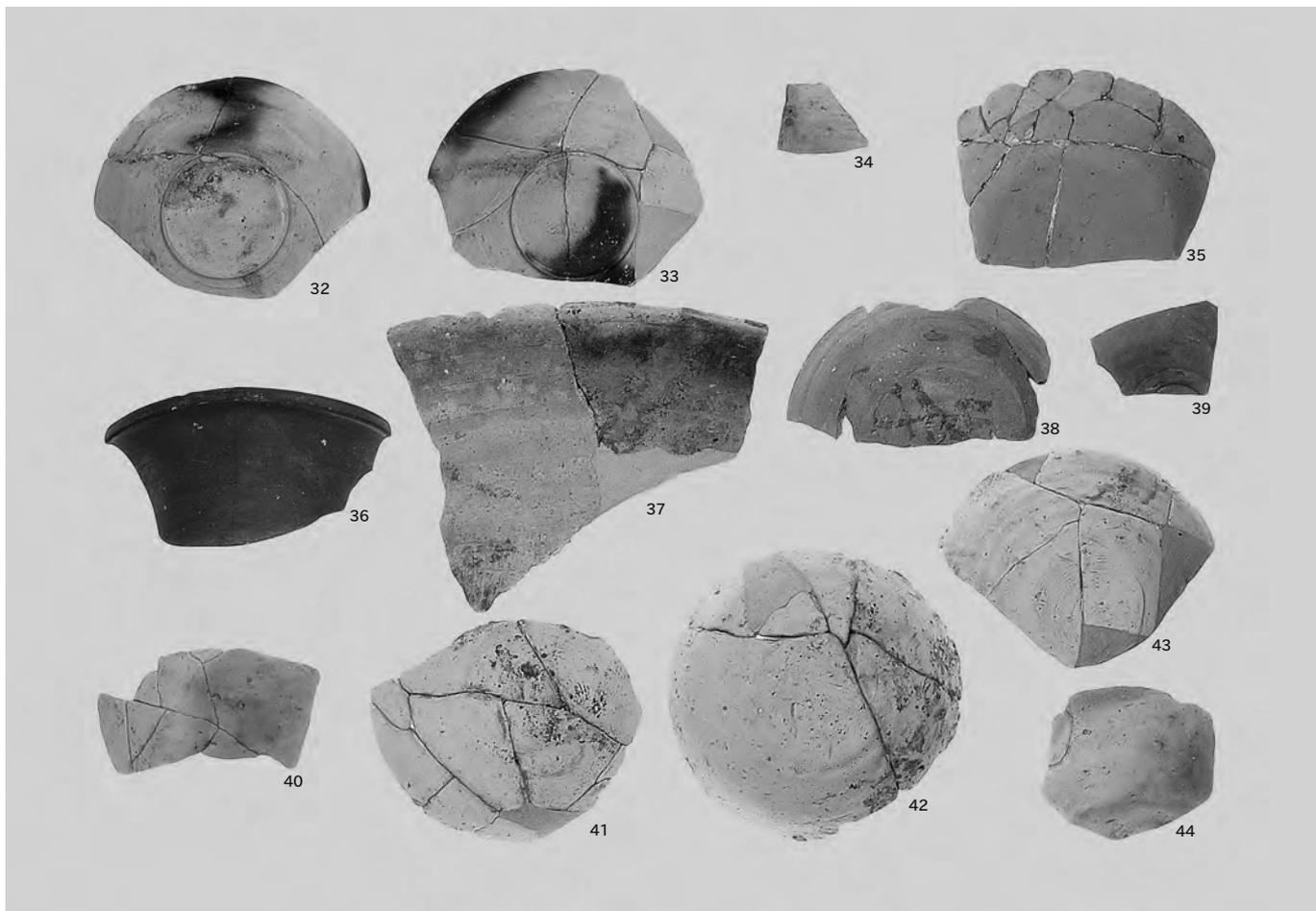
中谷内遺跡第12次調査 1区 SK12 (1・2)・SK20 (3)、2区 SK114 (4)、1区 SD7 (5～7)



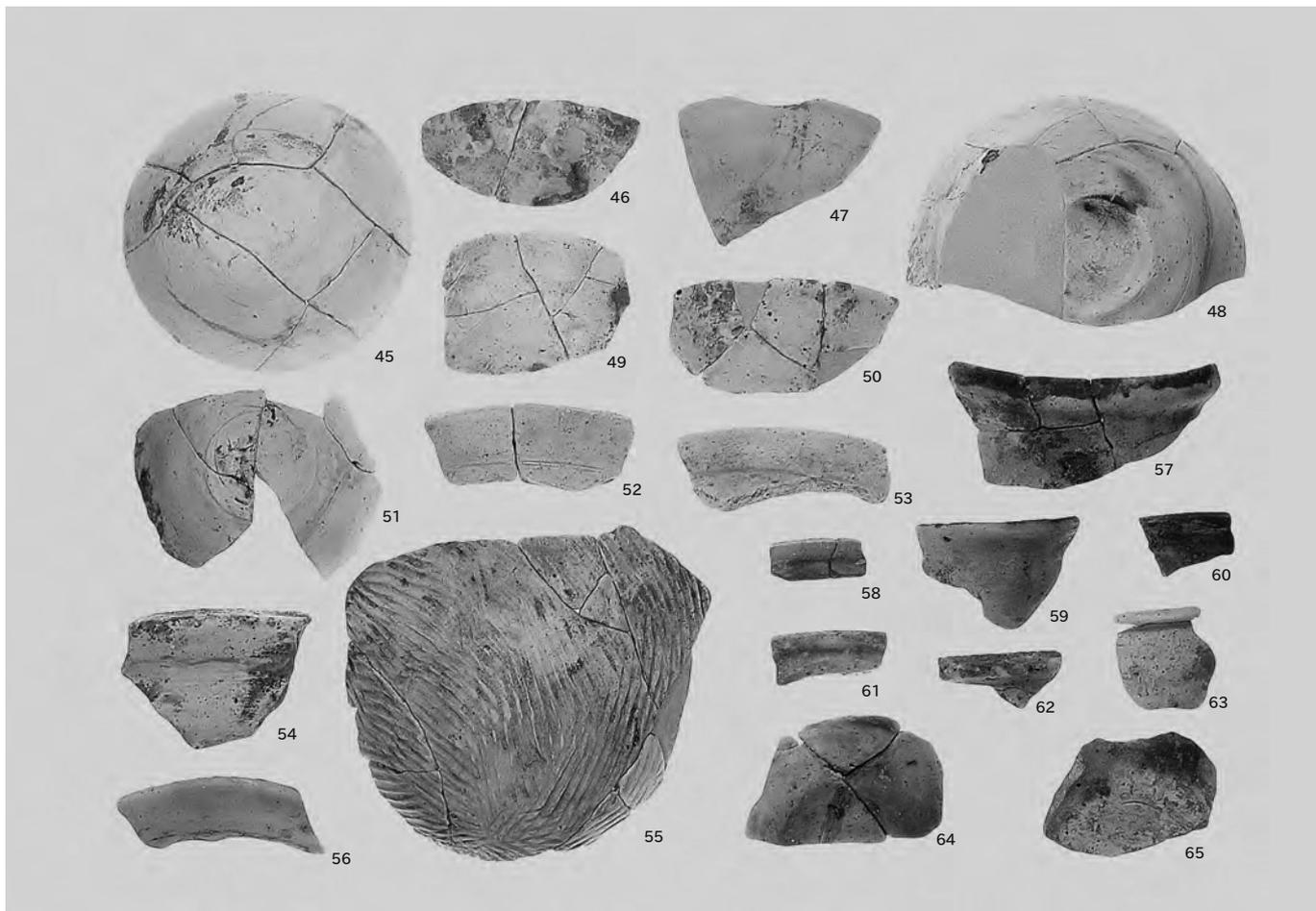
中谷内遺跡第12次調査 1区 SD7 (8～17)



中谷内遺跡第12次調査 1区 SD7 (18・19)・SD11 (20・21)、2区 SD53 (22～31)



中谷内遺跡第12次調査 2区 SD53 (32～36)、Pit110 (37)、1区河1 (38・39)、2区河2 (40～44)



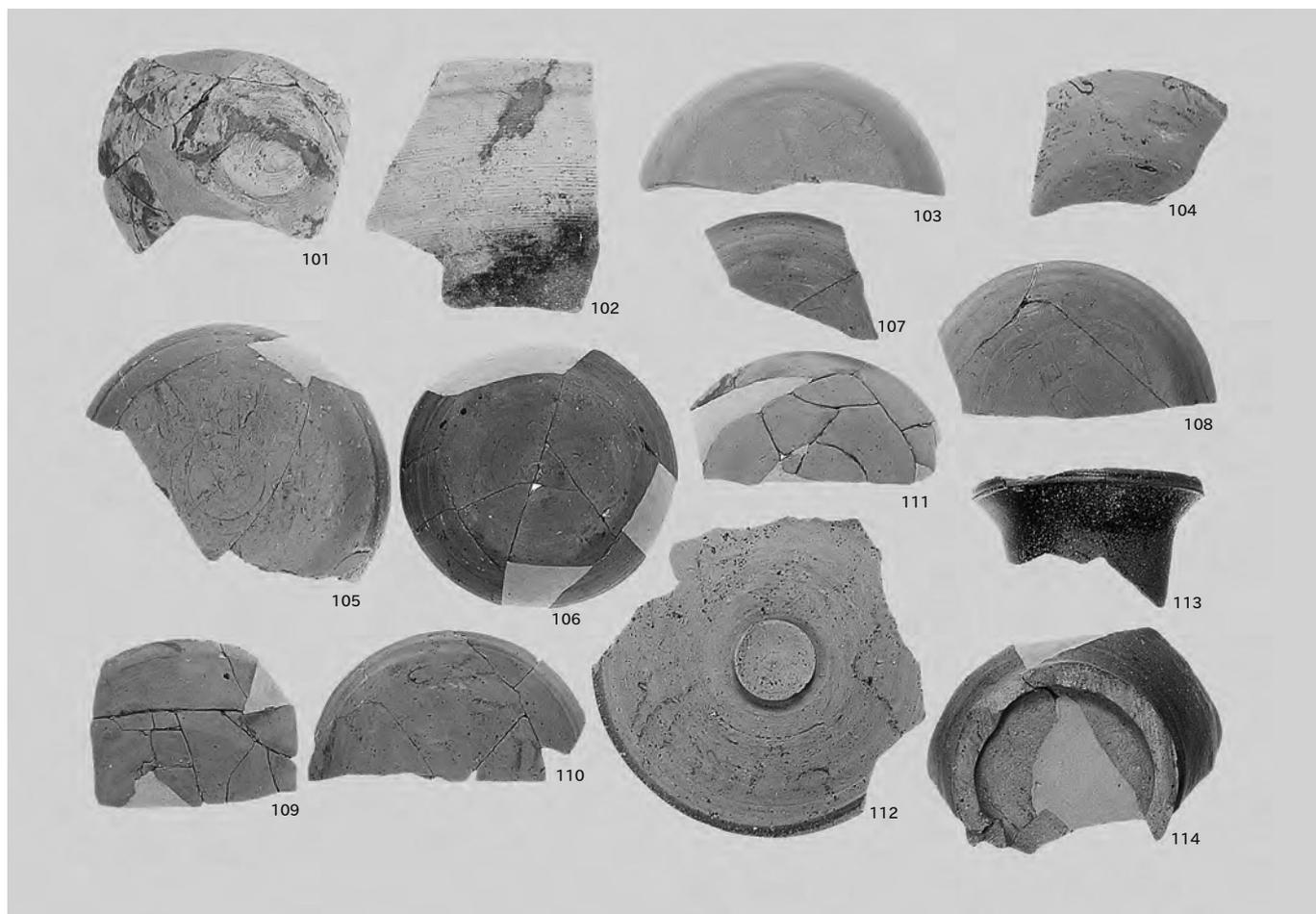
中谷内遺跡第12次調査 2区河2 (45～65)



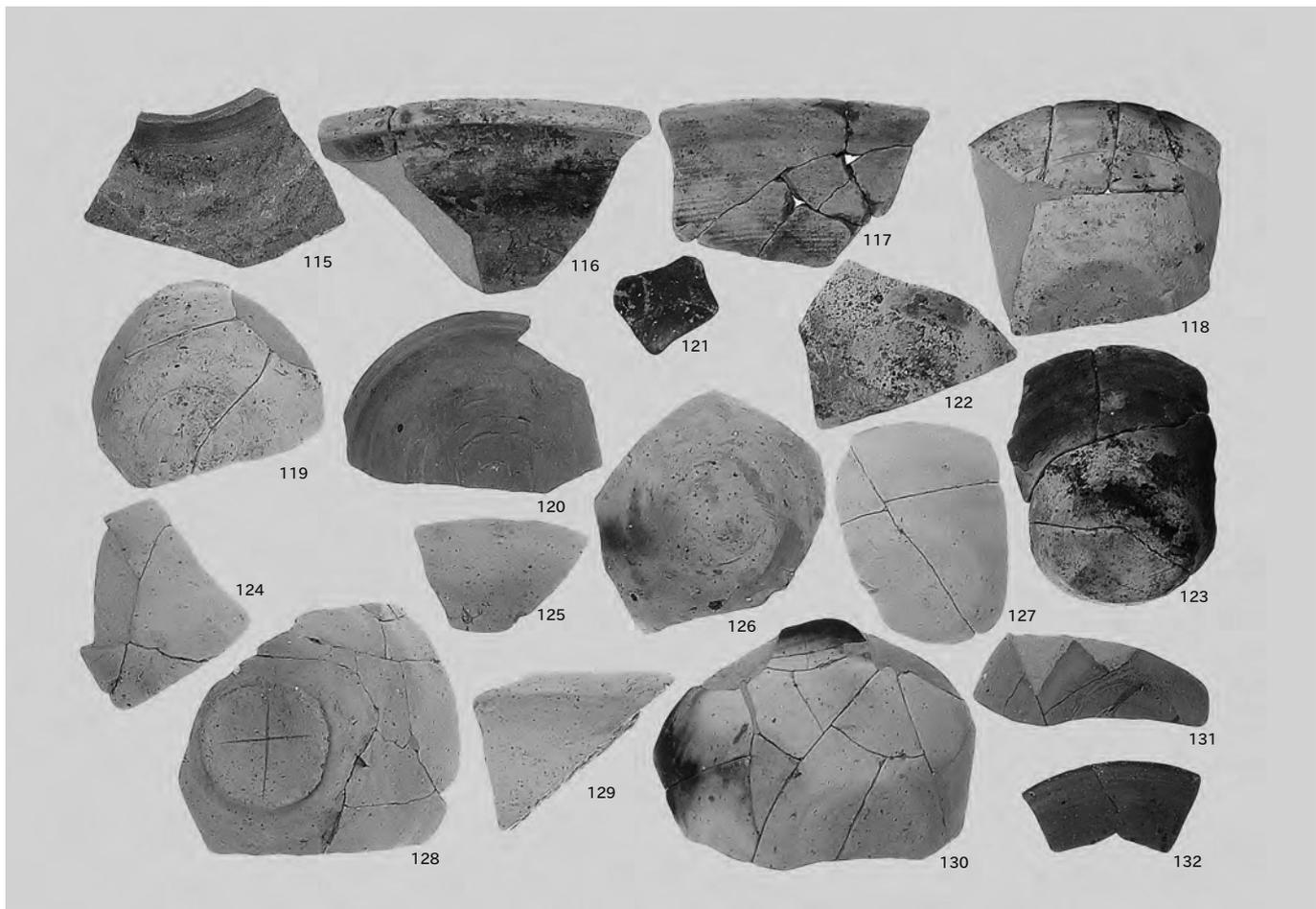
中谷内遺跡第12次調査 2区河2 (66～81)



中谷内遺跡第 12 次調査 2 区河 2 (82 ~ 98)、1 区包含層 (100)



中谷内遺跡第 12 次調査 1 区包含層 (101 ~ 114)



中谷内遺跡第 12 次調査 1 区包含層 (115)、2 区包含層 (116 ~ 120)、確認調査 575T (121 ~ 123)、577T 河 (124 ~ 132)



中谷内遺跡第 12 次調査 2 区河 2 (99)、石製品 (133 ~ 136)、製鉄関連遺物 (137)



内野遺跡第8次調査 空中写真（北西から）



内野遺跡第9次調査 空中写真（北西から）



内野遺跡全景 空中写真（第8・9次調査合成写真）



内野遺跡第8次調査 空中写真（南西から）



内野遺跡第9次調査 空中写真（北から）



第8次調査地 着手前現況（北西から）



第8次調査地 着手前現況（南東から）



基本層序 SA-SA'（北西から）



基本層序 SB-SB'（西から）



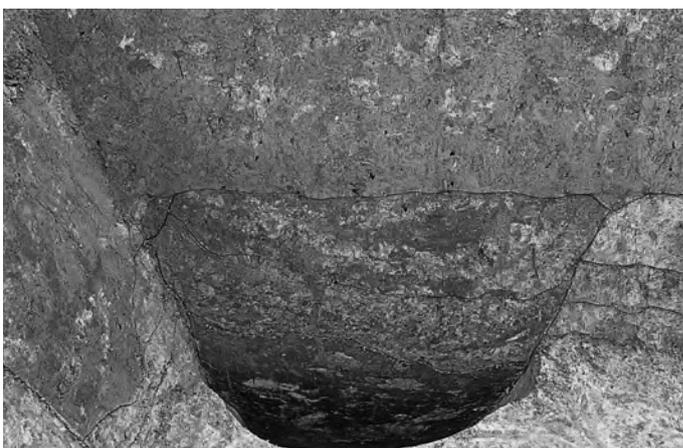
基本層序 SC-SC'（北西から）



基本層序 SD-SD'（北西から）



基本層序 SE-SE'（北西から）



SE1 土層断面・完掘状況（北東から）



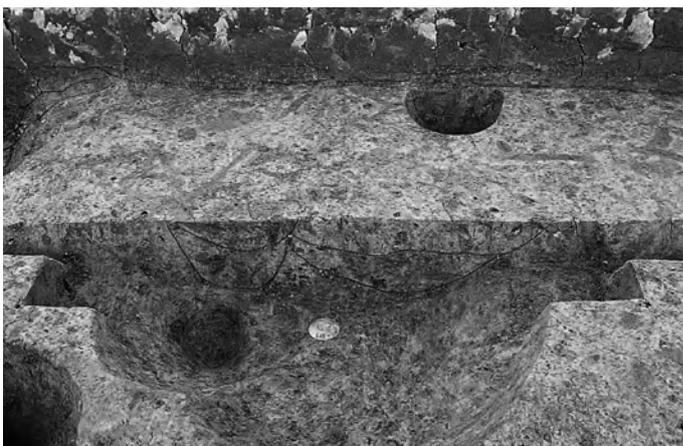
SK9、Pit10 土層断面（南西から）



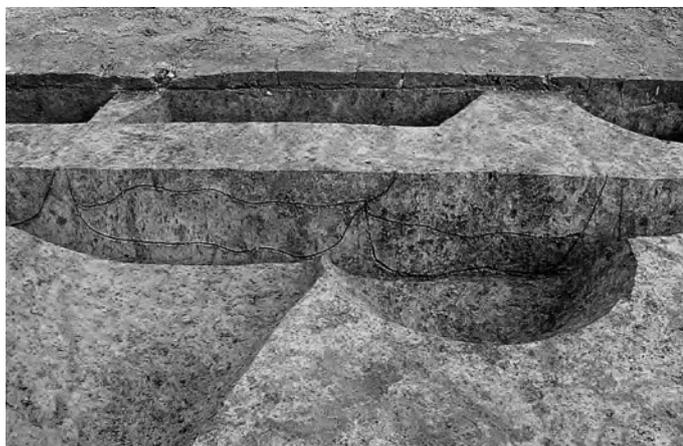
SK9、Pit10 完掘状況（南西から）



SK19 土層断面・完掘状況、SD22 (B) 土層断面（南西から）



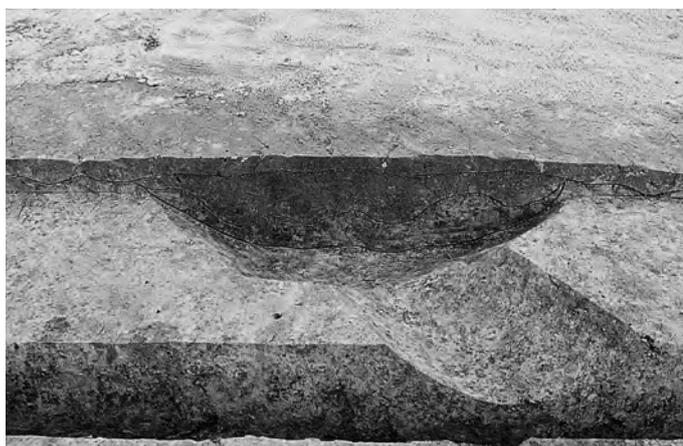
SK48、Pit26 土層断面（南西から）



SD64、SK63 土層断面（南西から）



SK63 完掘状況（南西から）



SK79 土層断面・完掘状況（南西から）



SK80 土層断面（南西から）



SK80 完掘状況（南西から）



SK99 土層断面（南西から）



SK99 完掘状況（南西から）



SX52 (B) 土層断面・完掘状況（南西から）



SD8 (A) 土層断面（南東から）



SD8 (B)・SD28 土層断面（南西から）



SD8・SD28 完掘状況（南東から）



SD22 (A) 土層断面（南西から）



SD22 完掘状況 (南西から)



SD39 土層断面 (南から)



SD39 完掘状況 (南から)



SD41 (A) 土層断面 (南西から)



SD41 (B) 土層断面 (南西から)



SD41 完掘状況 (南西から)



SD57、Pit59 土層断面 (南西から)



SD57 完掘状況 (南西から)



SD64 土層断面・完掘状況（南西から）



SD68 土層断面（南西から）



SD68 完掘状況（南西から）



SD78 土層断面（南から）



SD78 完掘状況（南から）



完掘状況（南東から）



完掘状況（南東から）



完掘状況（北西から）



第9次調査地 着手前現況 (南東から)



第9次調査地 着手前状況 (北西から)



基本層序 SF-SF' (北西から)



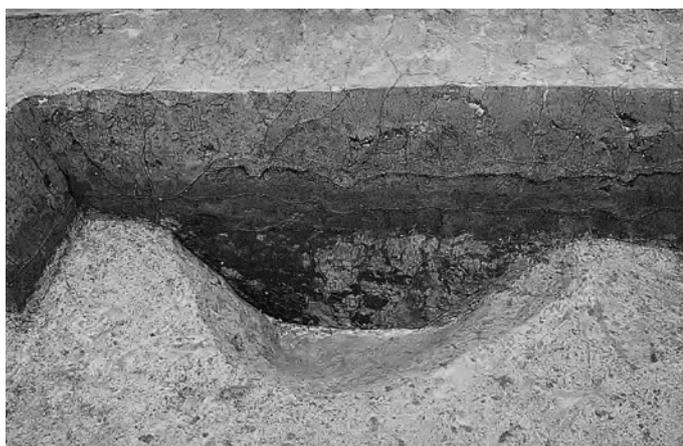
基本層序 SG-SG' (北西から)



基本層序 SH-SH' (北西から)



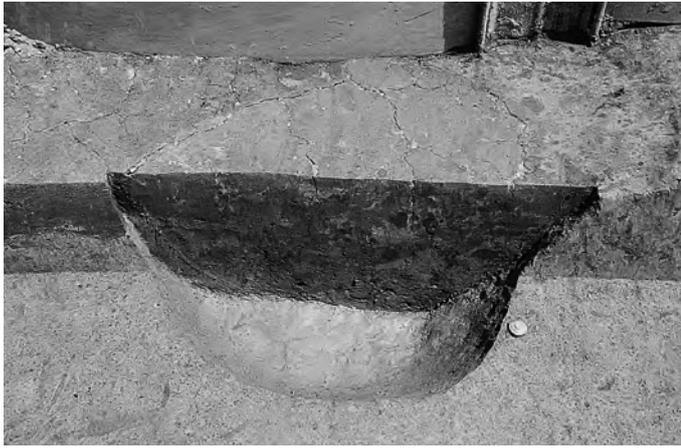
基本層序 SI-SI' (北西から)



SE113 土層断面 (南西から)



SE113 完掘状況 (南西から)



SE124 土層断面 (南西から)



SE124 完掘状況 (南西から)



SK128 土層断面・完掘状況 (北から)



SX125 土層断面 (南西から)



SX125 完掘状況 (南西から)



SD112 土層断面 (北から)



SD112 完掘状況 (北から)



SD115 土層断面 (南から)



SD115 完掘状況 (南から)



SD116・SD117 土層断面 (北東から)



SD116・SD117 完掘状況 (北東から)



SD118 土層断面 (北東から)



SD120 土層断面 (南西から)



SD120 完掘状況 (南西から)



SD122 土層断面 (北から)



SD122 完掘状況 (北から)



SD123 土層断面・完掘状況（北から）



河1 土層断面（北東から）



河1 土層断面・完掘状況（北から）



河2 最深部土層断面（北東から）



河2 最深部完掘状況（北西から）



完掘状況（南東から）



河1 付近完掘状況（南西から）



完掘状況（北西から）

報告書抄録

ふりがな	なかやちいせきよん だいじゅうに・じゅうご・じゅうろくじちようさ うちのいせきに だいはち・くじちようさ							
書名	中谷内遺跡Ⅳ 第12・15・16次調査 内野遺跡Ⅱ 第8・9次調査							
副書名	県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う中谷内遺跡第3・5・6次、内野遺跡第3・4次発掘調査報告書							
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	遠藤恭雄・笹澤正史・相澤 央・株式会社火山灰考古学研究所							
編集機関	新潟市文化スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	2015年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかやち 中谷内遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 あきはくのだいぞうあざ 秋葉区大蔵字 かしらなし 無頭345番 地他	15105	200	37° 49' 51"	139° 07' 37"	第12次 20090617～20090831	399.53	県営ほ場整備事業に伴う本発掘調査
				37° 49' 41"	139° 07' 39"	第15次 20110714～20110930	420.5	
				37° 49' 34"	139° 07' 45"	第16次 20120629～20121106	487.47	
うちの 内野遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 あきはくのかまち 秋葉区七日町 あざしんくめん 字新久免1310 番地2他	15105	201	37° 49' 36"	139° 08' 11"	第8次 20111024～20111216	206.72	県営ほ場整備事業に伴う本発掘調査
				37° 49' 34"	139° 08' 15"	第9次 20120629～20120817	286.87	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
中谷内遺跡	集落遺跡	古代		井戸・土坑・性格不明遺構・溝・畝状小溝・小土坑・柱穴・掘立柱建物・柱穴列・旧河道		土師器・黒色土器・須恵器・珠洲焼・羽口・石製品・木製品		
内野遺跡	遺物包含地	古代・中世以降		井戸・土坑・性格不明遺構・溝・小土坑・柱穴・旧河道		土師器・須恵器・珠洲焼・石製品		
要約	<p>中谷内・内野両遺跡は、小阿賀野川と能代川に挟まれた沖積平野の微高地に立地する。現標高は、3.5～4.0mである。中谷内遺跡は、数次の発掘調査の結果、古墳時代後期頃と平安時代前期の短期間のみ遺跡が存在したことが判明した。平安時代以降は、地層の堆積状況から、近世の新田開発までほとんど土地利用がなかったようである。平安時代の中谷内遺跡は、馬の背状の微高地に小規模な集落が形成されたようで、存続期間等から、大規模集落と推測される沖ノ羽遺跡の周縁に存在した集落であったと考えられる。</p> <p>内野遺跡は、既往の調査では、遺跡範囲の南東端で中世の集落跡が見つかったが、削平等による地形の改変が作用したこともあり、遺構・遺物ともに見るべきものは少なかった。今回の調査地が遺跡範囲の北西端にあって、検出できた遺構がわずかであったことは、遺跡の縁辺であることを示すものと捉えられよう。</p>							

中谷内遺跡Ⅳ 第12・15・16次調査 内野遺跡Ⅱ 第8・9次調査

— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う中谷内遺跡第3・5・6次、内野遺跡第3・4次発掘調査報告書 —

2015年9月29日印刷
2015年9月30日発行

編集 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ハイングラフ
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025 (233) 0321